クルアーン

英語合成訳の日本語訳

Zia H. Shah, MD

序文

この翻訳は、栄光あるクルアーンを読み続けて過ごした生涯の実りであり、あえてこれを試みる勇気も、その長い親しみから生まれたものです。

アイザック・ニュートンと同じように、わたしもまた巨人たちの肩の上に立っていると感じています。わたしは、オンラインで読むことのできる八十を超える現行の英語訳クルアーンの長所に学びました。そして、本文を訳すにあたって、広く知られ、広く読まれているほかの翻訳者たち―三人だけ名を挙げれば、M・A・S・アブデル・ハリーム、ムハンマド・アサド、ムハンマド・マーマデューク・ピクソール―以上に自由な扱いをしてはいないと、良心にかけて申し上げることができます。

節をまとめて段落とする区切り方については、ごくわずかな例外を除いて、ほぼ全面的にM・A・S・アブデル・ハリームに従いました。

この翻訳の強みの一つは、現代のアメリカ英語で書かれていることです。古い訳に見られる「thee」や「thou」といった語は、どれほど由緒あるものであっても、今では読者と本文との間に立ちはだかっています。わたしはその代わりに、読者が―とりわけ若い読者が―実際に使っている、平明で生きた言葉でクルアーンに語らせようと努めました。包み隠さずお伝えするために、一つ告白もしておかなければなりません。わたしの母語はウルドゥー語であり、生涯をかけてかなりのアラビア語の語彙を身につけましたが、アラビア語文法についての知識は限られています。もっとも、この限界は、数えきれないほどの英語訳とウルドゥー語訳を参照したことによって、十分に補われていると考えています。

もう一つの強みは、クルアーンの理解に、生涯にわたる科学の学びを持ち込んでいることです。真正で本物の科学的洞察のどれ一つとして、すべてを知っておられる神にとって秘密であったことはなく、その御言葉そのものが、さまざまな形でその事実を映し出しています。とはいえ、わたしは翻訳そのものの中に科学を無理に押し込もうとはしませんでした。その代わりに、脚注の注釈として、短い考察をこれからも書き加えていくつもりです。

この翻訳が皆さまにとって少しでも顔の見えるものとなるように、わたしの写真を添えました。数多くのよく知られた翻訳と並べて、これを読んでみようと思っていただければ幸いです。

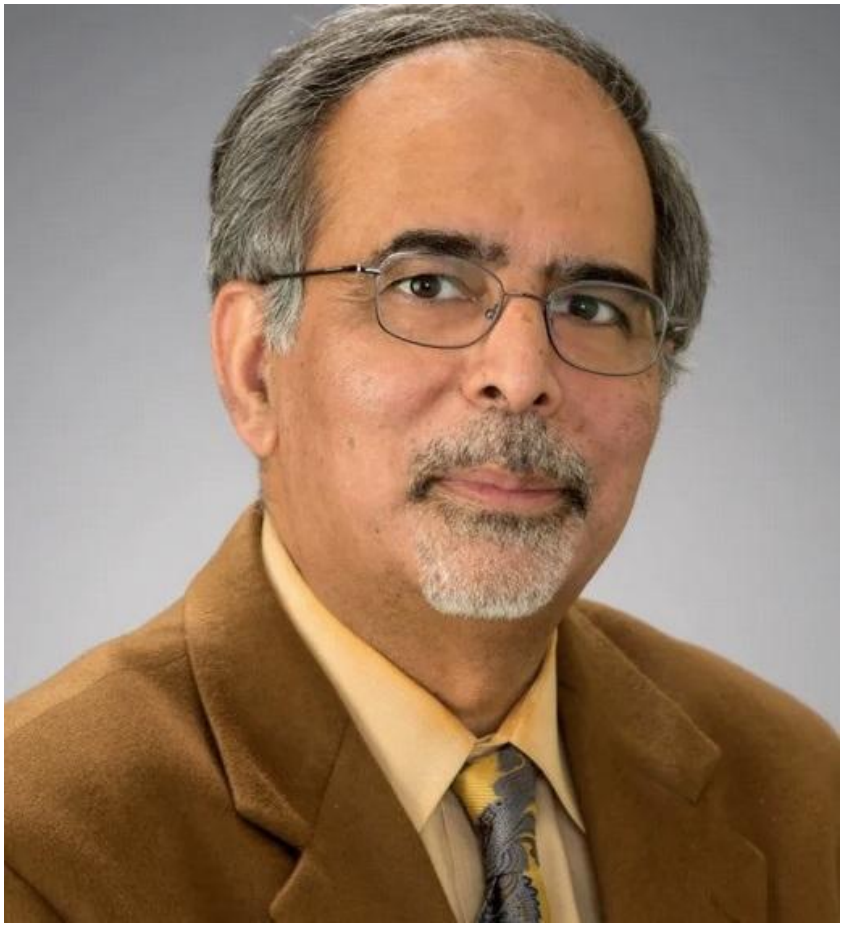
この翻訳は、近いうちに、広く使われているほかの32の言語に翻訳される予定です。スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、オランダ語、ロシア語、ポーランド語、ウクライナ語、チェコ語、ギリシャ語、スウェーデン語、ノルウェー語、デンマーク語、フィンランド語、ルーマニア語、ハンガリー語、トルコ語、ヘブライ語、ペルシア語（ファールシー）、ウルドゥー語、ヒンディー語、ベンガル語、パンジャーブ語、中国語（簡体字と繁体字）、日本語、韓国語、イン

ドネシア語、マレー語、ベトナム語、タイ語、そしてフィリピノ語（タガログ語）です。

英語訳はわたし自身の手によるものであり、ほかのすべての翻訳は、わたしの英語訳を AI の助けを借りて翻訳したものです。ですから、疑問のあるときはいつでも、アラビア語の原典か、わたしの英語訳に当たってください。

英語訳はほぼ毎日、ほかの翻訳は毎月、更新し改善していきます。インシャーアッラー。

また、Word ファイルを使ってこの翻訳に手を入れ、神の伝言を学び続けるために、ご自身の注釈を書き加えることもできます。



Zia H Shah MD：ニューヨーク州北部で診療に携わる呼吸器内科医・睡眠障害専門医

目次

目次

序文 2
目次 5
1. 開端 (Al-Fātiḥa) 9
2. 雌牛 (Al-Baqara) 10
3. イムラーン家 (Āl ʻImrān) 38
4. 女性 (Al-Nisāʾ) 54
5. 食卓 (Al-Māʾida) 71
6. 家畜 (Al-Anʿām) 84
7. 高壁 (Al-Aʿrāf) 99
8. 戦利品 (Al-Anfāl) 115
9. 悔悟 (Al-Tawba) 122
10. ユーヌス (Yūnus) 134
11. フード (Hūd) 143
12. ユースフ (Yūsuf) 153
13. 雷 (Al-Raʿd) 162
14. イブラーヒーム (Ibrāhīm) 167
15. ヒジュル (Al-Ḥijr) 172
16. 蜜蜂 (Al-Naḥl) 176
17. 夜の旅 (Al-Isrāʾ) 185
18. 洞窟 (Al-Kahf) 193
19. マルヤム (Maryam) 201
20. ター・ハー (Ṭā Hā) 206
21. 預言者たち (Al-Anbiyāʾ) 213
22. 巡礼 (Al-Ḥajj) 220
23. 信者たち (Al-Muʾminūn) 226
24. 光 (Al-Nūr) 232
25. 識別 (Al-Furqān) 238
26. 詩人たち (Al-Shuʿarāʾ) 243
27. 蟻 (Al-Naml) 250

28. 物語 (Al-Qaṣaṣ) 256
29. 蜘蛛 (Al-ʻAnkabūt) 263
30. ローマ人 (Al-Rūm) 268
31. ルクマーン (Luqmān) 272
32. 平伏 (Al-Sajda) 275
33. 部族連合 (Al-Aḥzāb) 277
34. サバア (Sabaʾ) 283
35. 創造者 (Fāṭir) 288
36. ヤー・スィーン (Yā Sīn) 292
37. 整列する者たち (Al-Ṣāffāt) 296
38. サード (Ṣād) 301
39. 群れ (Al-Zumar) 305
40. 赦す御方 (Ghāfir) 311
41. 解明 (Fuṣṣilat) 317
42. 協議 (Al-Shūrā) 321
43. 金の飾り (Al-Zukhruf) 325
44. 煙 (Al-Dukhān) 330
45. ひざまずく者たち (Al-Jāthiya) 332
46. 砂丘 (Al-Aḥqāf) 335
47. ムハンマド (Muḥammad) 339
48. 勝利 (Al-Fatḥ) 342
49. 部屋 (Al-Ḥujurāt) 345
50. カーフ (Qāf) 347
51. まき散らす風 (Al-Dhāriyāt) 349
52. 山 (Al-Ṭūr) 352
53. 星 (Al-Najm) 354
54. 月 (Al-Qamar) 357
55. 慈悲あまねき御方 (Al-Raḥmān) 359
56. 出来事 (Al-Wāqiʿa) 362
57. 鉄 (Al-Ḥadīd) 365
58. 訴える女 (Al-Mujādila) 368

59. 召集 (Al-Ḥashr) 371
60. 試される女 (Al-Mumtaḥana) 374
61. 隊列 (Al-Ṣaff) 376
62. 集会 (Al-Jumuʿa) 378
63. 偽信者たち (Al-Munāfiqūn) 379
64. 互いの損得 (Al-Taghābun) 380
65. 離婚 (Al-Ṭalāq) 382
66. 禁止 (Al-Taḥrīm) 384
67. 王権 (Al-Mulk) 386
68. 筆 (Al-Qalam) 388
69. 必ず訪れる時 (Al-Ḥāqqa) 390
70. 昇り行く道 (Al-Maʿārij) 392
71. ヌーフ (Nūḥ) 394
72. ジン (Al-Jinn) 396
73. 衣に包まる者 (Al-Muzzammil) 398
74. 外衣に包まる者 (Al-Muddaththir) 400
75. 復活 (Al-Qiyāma) 402
76. 人間 (Al-Insān) 403
77. 送り出されるもの (Al-Mursalāt) 405
78. 知らせ (Al-Nabaʾ) 407
79. 引き抜くものたち (Al-Nāziʿāt) 409
80. 顔をしかめた (ʿAbasa) 411
81. 包み隠す (Al-Takwīr) 412
82. 裂ける (Al-Infiṭār) 413
83. 量りをごまかす者たち (Al-Muṭaffifīn) 414
84. 割れる (Al-Inshiqāq) 415
85. 星座 (Al-Burūj) 416
86. 夜に訪れるもの (Al-Ṭāriq) 417
87. 至高の御方 (Al-Aʿlā) 418
88. 覆い尽くす出来事 (Al-Ghāshiya) 419
89. 夜明け (Al-Fajr) 420

90. 町 (Al-Balad) 421
91. 太陽 (Al-Shams) 422
92. 夜 (Al-Layl) 423
93. 朝の輝き (Al-Ḍuḥā) 424
94. 胸を開く (Al-Sharḥ) 425
95. いちじく (Al-Tīn) 426
96. 付着するもの (Al-ʿAlaq) 427
97. 栄光の夜 (Al-Qadr) 428
98. 明らかな証拠 (Al-Bayyina) 429
99. 地震 (Al-Zalzala) 430
100. 駆ける馬 (Al-ʿĀdiyāt) 431
101. 打ち砕く災い (Al-Qāriʿa) 432
102. 多さの競い合い (Al-Takāthur) 433
103. 傾く日 (Al-ʿAṣr) 434
104. 中傷する者 (Al-Humaza) 435
105. 象 (Al-Fīl) 436
106. クライシュ (Quraysh) 437
107. ささやかな親切 (Al-Māʿūn) 438
108. 豊かさ (Al-Kawthar) 439
109. 真理を否定する者たち (Al-Kāfirūn) 440
110. 助け (Al-Naṣr) 441
111. なつめやしの繊維 (Al-Masad) 442
112. 純正な信仰 (Al-Ikhlāṣ) 443
113. 黎明 (Al-Falaq) 444
114. 人々 (Al-Nās) 445

1. 開端 (Al-Fātiḥa)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。すべての讃美はアッラーのもの。かれは万有の主、慈悲あまねく慈愛深き御方、審判の日の主宰者である。わたしたちはあなただけを崇め、あなただけに助けを求める。わたしたちをまっすぐな道に導いてください。あなたが恵みを授けた人々の道に—怒りを受けた者たちの道でもなく、迷った者たちの道でもなく。 (1-7)

2. 雌牛 (Al-Baqara)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ミーム。 (1)

これは疑いの余地のない啓典であり、アッラーを畏れる者たちへの導きである。かれらは目に見えないものを信じ、礼拝を守り、われらが授けたものの中から施す者たちである。また（預言者よ）あなたに下されたものと、あなた以前に下されたものを信じ、来世を固く信じる者たちである。これらの者こそ主からの導きの上に立つ者であり、これらの者こそ成功する者である。信仰を拒む者たちにとっては、あなたが警告しても警告しなくても同じことで、かれらは信じない。アッラーはかれらの心と聴覚に封をされ、その目には覆いがかかっている。かれらを待つのは重大な懲罰である。 (2-7)

人々の中には「わたしたちはアッラーと最後の日を信じる」と言いながら、実は少しも信者ではない者がいる。かれらはアッラーと信仰する者たちを欺こうとするが、欺いているのは自分自身にほかならない—しかもそれに気づいていない。かれらの心には病があり、アッラーはその病を重くされた。偽りを言い続けたために、痛ましい懲罰がかれらを待っている。「地上に腐敗を広めてはならない」と言われると、かれらは「わたしたちは物事を正しているだけだ」と言う。まことにかれらこそ腐敗を広める者であるが、それに気づいていない。「ほかの人々が信じたように信じなさい」と言われると、「愚か者たちが信じるように信じろというのか」と言う。まことにかれらこそ愚か者であるが、それを知らない。信仰する者たちに会えば「わたしたちは信じる」と言い、悪い仲間たちだけになると「わたしたちはあなたがたと共にいる。ただからかっていただけだ」と言う。アッラーはそのあざけりをかれら自身に返し、反逆の中をやみくもにさまようままにされる。これらの者は導きと引き換えに迷いを買った者たちである。その商いは何の利益ももたらさず、かれらは道を見いだせなかった。かれらのたとえは、火をともした人のようである。火がその周りを照らし出すと、アッラーはかれらの光を取り去り、幾重もの暗闇の中に置き去りにされ、かれらは何も見えなくなる—聞こえず、物言えず、見えず、もはや引き返すことができない。あるいは、暗闇と雷鳴と稲妻をはらんで空から来る嵐の雲のようである。かれらは死を恐れ、雷鳴を防ごうと指を耳に差し込む—だがアッラーは否定する者たちを四方から取り囲んでおられる。稲妻はかれらの視力を奪い去らんばかりである。光るたびにかれらはその中を歩み、暗くなると立ち止

まる。アッラーがお望みなら、かれらの聴覚も視覚も取り去ることができた。アッラーは万事に全能である。 (8-20)

人々よ、あなたがたと、あなたがた以前の者たちを創られた主を崇めなさい。そうすれば、あなたがたは主を畏れる者となるであろう―かれはあなたがたのために大地を休み場とし、空を天蓋とし、空から水を降らせ、それによってあなたがたの糧として果実を実らせた御方である。だから、よく知りながらアッラーに同位者を並べてはならない。もしあなたがたが、われらのしもべに下したものについて疑っているのなら、それに似た一章を持って来なさい。そしてアッラー以外のあなたがたの証人を呼びなさい。あなたがたが真実を語っているのなら。もしそれができなければ―決してできはしないが―人間と石を燃料とする業火から身を守りなさい。それは真理を否定する者たちのために用意されている。 (21-24)

信仰して善行に励む者たちに吉報を伝えなさい。かれらには川が下を流れる楽園がある。そこで果実を糧として与えられるたびに、かれらは「これは以前わたしたちに与えられたものだ」と言う。それに似たものが与えられるからである。そこには清らかな伴侶たちがいて、かれらは永遠にそこに住む。[1] (25)

アッラーは、蚊であれ、それを超えるものであれ、たとえに引くことを恥じられない。信仰する者たちはそれが主からの真理であることを知るが、否定する者たちは「アッラーはこのようなたとえで何を言おうとされるのか」と尋ねる。かれはそれによって多くの者を迷うにまかせ、またそれによって多くの者を導かれる―そして、かたくなに背く者のほかは、それによって迷うにまかせられることはない。それは、固く結ばれた後でアッラーの契約を破り、アッラーが結べと命じられたものを断ち切り、地上に腐敗を広める者たちである。かれらこそ損失者である。あなたがたはどうしてアッラーを否定できるのか。あなたがたは命のないものであったのに、かれが命を与えられた。それからかれはあなたがたを死なせ、さらにまた生き返らせ、そしてあなたがたはかれのもとに帰される。かれこそは、地上にあるすべてのものをあなたがたのために創られた御方である。それからかれは天に向かい、それを七つの天に整えられた。かれはすべてのことを知り尽くしておられる。 (26-29)

（預言者よ）あなたの主が天使たちに「わたしは地上に代理者を置く」と言われたとき、かれらは言った。「あなたはそこに、腐敗を広め、血を流す者を置かれるの

[1] この節は、楽園がある意味で物質的なものであり、わたしたちの今の世界に似ていて、単に霊的なものだけではないことを強く示唆しています。

ですか。わたしたちはあなたを讃えて栄光をたたえ、あなたの聖なることを唱えておりますのに。」かれは言われた。「わたしはあなたがたの知らないことを知っている。」そしてかれはアーダムにすべての名を教えられた。それからそれらを天使たちの前に示して言われた。「あなたがたが真実を語っているのなら、これらの名をわたしに告げなさい。」かれらは言った。「あなたに栄光あれ。あなたが教えてくださったこと以外、わたしたちには何の知識もありません。まことにあなたこそ全知にして英知に満ちた御方です。」かれは言われた。「アーダムよ、それらの名をかれらに告げなさい。」かれがそれらの名を告げると、かれは言われた。「わたしは天と地の隠されたことを知り、あなたがたが現すことも、隠してきたことも知っていると、言わなかったか。」 (30-33)

また、われらが天使たちに「アーダムにひれ伏しなさい」と言ったとき、かれらはひれ伏した—イブリースだけは別であった。かれは拒み、高慢になり、否定する者の一人となった。われらは言った。「アーダムよ、あなたとあなたの妻は楽園に住み、どこでも望むままに心ゆくまで食べなさい。だがこの木に近づいてはならない。さもないと、あなたがた二人は不正を行う者となる。」ところが悪魔は二人をそこからつまずかせ、二人がいた境遇から追い出した。われらは言った。「下りて行きなさい。あなたがたは互いに敵である。地上には、しばらくの間あなたがたの住みかと糧がある。」それからアーダムは主から言葉を授かり、主はかれを慈悲をもって顧みられた。まことにかれは悔悟をよく受け入れる、慈愛深い御方である。われらは言った。「あなたがたはみなここから下りて行きなさい。やがてわたしからあなたがたに導きが届いたとき、わたしの導きに従う者には恐れもなく、悲しむこともない。だが否定し、われらのしるしを偽りとする者たちは業火の住人であり、そこにとどまり続ける。」 (34-39)

イスラエルの子孫よ、わたしがあなたがたに授けた恵みを思い起こしなさい。わたしとの契約を果たしなさい。そうすればわたしもあなたがたとの契約を果たす。そしてわたしだけを畏れ敬いなさい。あなたがたのもとにすでにあるものを確証するものとしてわたしが下したものを信じ、それを否定する最初の者となってはならない。わたしのしるしをわずかな値で売ってはならない。わたしだけを畏れなさい。真理に偽りの衣を着せてはならない。知りながら真理を隠してはならない。礼拝を守り、定めの喜捨をし、身をかがめる者たちと共に身をかがめなさい。あなたがたは啓典を読誦していながら、人には正しい行いを勧め、自分自身のことは忘れるのか。あなたがたは理性を働かせないのか。忍耐と礼拝によって助けを求めなさい—

まことにそれは重いことである。ただし謙虚な者たちにとっては別である。かれらは、やがて主に会うこと、そして主のもとに帰ることを知っている。 (40-46)

イスラエルの子孫よ、わたしがあなたがたに授けた恵みと、わたしがあなたがたをほかのすべての民よりも優遇したことを思い起こしなさい。そして、だれも他人のために何の役にも立てず、だれの執り成しも受け入れられず、身代金も取られず、だれも助けられることのない日から身を守りなさい。また思い起こしなさい。われらはあなたがたをフィルアウンの一族から救い出した。かれらはあなたがたを恐ろしい苦しみに遭わせ、あなたがたの男児を殺し、女を生かしておいた―そこには主からの大きな試練があった。またわれらはあなたがたのために海を分けて、あなたがたを救い、あなたがたが見ている前でフィルアウンの一族を溺れさせた。またわれらはムーサーに四十夜を約束したが、かれのいない間に、あなたがたは子牛を崇め、不正を行う者となった。それでもなおその後、われらはあなたがたを赦した。あなたがたが感謝するように。 (47-52)

また思い起こしなさい。われらはムーサーに啓典と識別を授けた。あなたがたが導かれるように。またムーサーがその民に言ったとき。「わが民よ、あなたがたは子牛を崇めて自分自身に不正を行った。だからあなたがたの創造主に悔い改めて帰り、自分自身を殺しなさい。それがあなたがたの創造主の御目に、あなたがたにとってより良いことである。」するとかれは慈悲をもってあなたがたを顧みられた。まことにかれは悔悟をよく受け入れる、慈愛深い御方である。またあなたがたが「ムーサーよ、わたしたちはアッラーをはっきりと見るまでは、あなたを信じない」と言ったとき、あなたがたが見ている前で雷があなたがたを襲った。それからわれらは、あなたがたの死後にあなたがたをよみがえらせた。あなたがたが感謝するように。またわれらは雲であなたがたに陰をつくり、マンナとうずらを下した。「われらが授けた良いものを食べなさい。」かれらはわれらに不正を行ったのではなく、ただ自分自身に不正を行っただけである。 (53-57)

またわれらがこう言ったとき。「この町に入り、どこでも望むままに心ゆくまで食べなさい。謙虚に身をかがめて門を入り、『わたしたちの重荷を除いてください』と言いなさい。そうすればわれらはあなたがたの罪を赦し、善を行う者にはさらに多くを与える。」ところが不正を行う者たちは、授けられた言葉を別の言葉にすり替えた。そこでわれらは、かれらがかたくなに背き続けたために、不正を行う者たちの上に天から災いを下した。 (58-59)

またムーサーがその民のために水を求めて祈ったとき、われらは言った。「あなたの杖で岩を打ちなさい。」するとそこから十二の泉がわき出て、それぞれの部族は自分の水飲み場を知った。「アッラーの糧から食べ、飲みなさい。地上を腐敗を広めながら歩き回ってはならない。」またあなたがたがこう言ったとき。「ムーサーよ、わたしたちは一種類の食べ物だけでは耐えられない。だからわたしたちのために、あなたの主に祈って、大地が生み出すもの―青菜やきゅうり、にんにく、レンズ豆、玉ねぎを出してもらいなさい。」かれは言った。「あなたがたは、良いものを劣ったものと取り替えようというのか。どこかの町に下りて行きなさい。そこにはあなたがたの求めるものがあるだろう。」こうしてかれらには屈辱と惨めさが刻みつけられ、かれらはアッラーの怒りを身に招いた。それは、かれらがアッラーのしるしを否定し続け、正当な理由もなく預言者たちを殺したからである。それは、かれらが逆らい、掟を越え続けたからである。 (60-61)

まことに信仰する者たち、ユダヤ教徒、キリスト教徒、サービア教徒―だれであれアッラーと最後の日を信じ、善を行う者―かれらには主のもとに報奨がある。かれらには恐れもなく、悲しむこともない。[2] (62)

またわれらがあなたがたと契約を結び、あなたがたの上に山をそびえさせたとき。「われらが授けたものをしっかりと守り、そこにあることを心にとどめなさい。そうすればあなたがたはアッラーを畏れる者となるであろう。」ところがその後、あなたがたは背き去った。もしアッラーの恩恵と慈悲があなたがたの上になかったなら、あなたがたは必ず損失者となっていたであろう。あなたがたは、自分たちの中で安息日のことで掟を破った者たちをよく知っている。われらはかれらに「卑しめられた猿になれ」と言った。こうしてわれらはそれを、その時代の者たちと後に来る者たちへの見せしめの懲罰とし、アッラーを畏れる者たちへの訓戒とした。 (63-66)

またムーサーがその民に「アッラーはあなたがたに一頭の雌牛をほふるよう命じておられる」と言ったとき、かれらは言った。「あなたはわたしたちをからかうのか。」かれは言った。「わたしがそのような無知な者とならないよう、アッラーに加護を求める。」かれらは言った。「わたしたちのためにあなたの主に祈って、それがどんな牛かを明らかにしてもらいなさい。」かれは言った。「かれは言われる。それは老いてもおらず若くもなく、その中ほどの年頃の雌牛である。さあ、命じら

[2] この重要な節は、イスラームにおける多元主義について多くを物語っています。

れたとおりにしなさい。」かれらは言った。「わたしたちのためにあなたの主に祈って、それが何色かを明らかにしてもらいなさい。」かれは言った。「かれは言われる。それは黄色の雌牛で、色鮮やかで、見る者を喜ばせるものである。」かれらは言った。「わたしたちのためにあなたの主に祈って、それがどんな牛かを明らかにしてもらいなさい。わたしたちには牛はみな同じに見える。アッラーがお望みなら、わたしたちは必ず導かれるであろう。」かれは言った。「かれは言われる。それは土を耕すことにも畑に水をやることにも使われたことのない、健やかで傷のない雌牛である。」かれらは言った。「今こそあなたは真実を持って来た。」こうしてかれらはそれをほふったが、危うくそうしないところであった。また思い起こしなさい。あなたがたは一人の人を殺し、それについて互いに言い争った—アッラーはあなたがたが隠していたことを明るみに出そうとされた—そこでわれらは言った。「その一部でかれを打ちなさい。」このようにアッラーは死者をよみがえらせ、あなたがたにそのしるしを示される。あなたがたが理性を働かせるように。ところがこれほどのことの後で、あなたがたの心はかたくなになり、岩のように、いや、それ以上に硬くなった—岩の中には、そこから川がわき出るものもあり、割れて水が出るものもあり、アッラーを畏れて転がり落ちるものもあるのだから。アッラーはあなたがたの行うことを見過ごされはしない。 (67-74)

（信仰する者たちよ）あなたがたは、かれらがあなたがたを信じることを望むのか。かれらの一部はアッラーの言葉を聞き、それを理解した後で、知りながらそれをゆがめていたというのに。かれらは信仰する者たちに会えば「わたしたちは信じる」と言うが、仲間同士だけになるとこう言う。「アッラーがあなたがたに明かされたことをかれらに話して、主の御前でそれを根拠に言い立てられてもよいのか。あなたがたには分別がないのか。」かれらは、アッラーがかれらの隠すことも表すことも知っておられることを知らないのか。かれらの中には文字を知らない者たちがいて、啓典については空しい願望のほかは何も知らず、ただ憶測しているだけである。だから災いあれ、自分の手で啓典を書いておきながら「これはアッラーからのものだ」と言い、それをわずかな値で売ろうとする者たちに。かれらの手が書いたもののために、かれらに災いあれ。かれらが稼ぐもののために、かれらに災いあれ。かれらは「業火がわたしたちに触れるのは、数えられたわずかな日々だけだ」と言う。言え、「あなたがたはアッラーから約束を取りつけたのか—アッラーは決して約束を破られない—それとも、知りもしないことをアッラーについて語っているのか。」そうではない。悪を稼ぎ、自分の罪に取り囲まれた者—これらの者は業火の住人で

あり、そこにとどまり続ける。一方、信仰して善行に励む者たち--これらの者は楽園の住人であり、そこにとどまり続ける。 (75-82)

またわれらがイスラエルの子孫と契約を結んだとき。「アッラーのほかは何ものも崇めてはならない。両親と近親、孤児と貧しい者に良くしなさい。人々には優しく語りなさい。礼拝を守り、定めの喜捨をしなさい。」ところがあなたがたは、わずかな者を除いて背き去り、今もなお背を向けている。またわれらがあなたがたと契約を結んだとき。「互いの血を流してはならない。互いを住まいから追い出してはならない。」あなたがたはそれを認め、自らその証人となった。それなのに、あなたがたは互いに殺し合い、自分たちの民の一部をその住まいから追い出し、罪と敵意のうちにかれらに対して結託している--しかもかれらが捕虜としてあなたがたのもとに来ると、身代金を払って取り戻す。かれらを追い出すこと自体が、あなたがたに禁じられていたのに。それではあなたがたは、啓典の一部を信じ、ほかの部分を否定するのか。あなたがたのうちでこのようにする者への報いは、現世の生活での屈辱よりほかに何があろう。そして復活の日には、かれらは最も厳しい懲罰に引き渡される。アッラーはあなたがたの行うことを見過ごされはしない。これらの者は、来世と引き換えに現世の生活を買った者たちである。かれらの懲罰は軽くされず、助けられることもない。 (83-86)

われらはムーサーに啓典を授け、かれの後に次々と使徒たちを遣わした。またマルヤムの子イーサーに明らかな証拠を授け、聖霊によってかれを強めた。それなのに、使徒があなたがた自身の望まないものを携えて来るたびに、あなたがたは高慢になり--ある者たちを嘘つきと呼び、ある者たちを殺したではないか。かれらは「わたしたちの心は覆われている」と言う。いや、アッラーはその否定のゆえにかれらを呪われた。かれらが信じることはまことに少ない。そして、かれらのもとにあるものを確証する啓典がアッラーからかれらに届いたとき--以前には、真理を否定する者たちに対する勝利を祈り求めていたのに--かれらが見覚えのあるものが届いたとき、かれらはそれを否定した。だからアッラーの呪いは否定する者たちの上にある。かれらが自分の魂を売って得たものは何と惨めなことか。アッラーがそのしもべのうちお望みの者に恩恵を下されることをねたんで、アッラーが下されたものを否定するとは。こうしてかれらは怒りの上に怒りを招いた。真理を否定する者たちには屈辱の懲罰がある。「アッラーが下されたものを信じなさい」と言われると、かれらは「わたしたちは自分たちに下されたものを信じる」と言い、その後に来たものを否定する。それはかれらのもとにあるものを確証する真理であるのに。言え、

「あなたがたが信者であったのなら、なぜ以前アッラーの預言者たちを殺したのか。」ムーサーは明らかな証拠を携えてあなたがたのもとに来た。それなのにかれのいない間に、あなたがたは子牛を崇め、不正を行う者となった。 (87-92)

またわれらがあなたがたと契約を結び、あなたがたの上に山をそびえさせたとき。「われらが授けたものをしっかりと守り、聞きなさい。」かれらは言った。「わたしたちは聞き、そして背く。」―その否定のために、かれらの心には子牛への愛着が染み込まされた。言え、「あなたがたが信者であるというなら、あなたがたの信仰が命じることは何と悪いことか。」言え、「もしアッラーのもとにある終の住まいが、ほかのすべての人々を除いてあなたがただけのものであるなら、死を願いなさい―あなたがたが真実を語っているのなら。」だがかれらは、自分の手が先に送ったもののために、決してそれを願いはしない。アッラーは不正を行う者たちをよく知っておられる。あなたは必ず、かれらがすべての人々の中で最も生に貪欲であることを見いだすであろう―アッラーに同位者を並べる者たちよりもなお。かれらの一人ひとりは千年の命を与えられたいと願う。だが長寿を与えられても、それがかれを懲罰から遠ざけることはない。アッラーはかれらの行うことをすべて見ておられる。 (93-96)

言え、「ジブリールの敵である者はだれであれ―アッラーのお許しによってそれをあなたの心に下したのはかれであり、それは以前にあったものを確証し、信者たちへの導きであり吉報である―アッラーとその天使たち、その使徒たち、ジブリールとミーカールの敵である者はだれであれ―まことにアッラーは真理を否定する者たちの敵である。」われらはあなたに明らかなしるしを下した。かたくなに背く者のほかは、それを否定しない。かれらは契約を結ぶたびに、その一部の者がそれを投げ捨てるではないか。いや、かれらの多くは信じていない。 (97-100)

そして、かれらのもとにあるものを確証する使徒がアッラーからかれらに来たとき、啓典を授けられた者たちの一部は、まるで何も知らないかのようにアッラーの啓典を背後に投げ捨て、スライマーンの治世に悪魔たちが唱えていたものに従った。スライマーンは真理を否定しなかった。否定したのは悪魔たちであり、かれらは人々に魔術と、バービルの二人の天使ハールートとマールートに下されたものを教えた。だがこの二人は、まず「わたしたちは試練にすぎない。だから真理を否定してはならない」と言わずには、だれにも教えなかった。人々はこの二人から、夫と妻の仲を裂く術を学んだ―もっとも、アッラーのお許しがなければ、それによってだれも

害することはできなかった―またかれらは、自分に害を与えるだけで何の益ももたらさないものを学んだ。それを買った者には来世で何の分け前もないことを、よく知りながら。かれらが自分の魂を売って得たものは、まことに何と惨めなことか。かれらがそれを知っていたなら。もしかれらが信仰し、アッラーを畏れていたなら、アッラーからの報奨のほうがはるかに良かったであろう。かれらがそれを知っていたなら。 (101-103)

信仰する者たちよ、預言者に向かって「わたしたちに気を配ってください」と言わず、「わたしたちを見守ってください」と言い、よく聞きなさい―真理を否定する者たちには痛ましい懲罰が待っている。啓典の民のうち真理を否定する者たちも、多神教徒たちも、あなたがたの主から何か良いものがあなたがたに下されることを望まない。だがアッラーは、お望みの者を選んで慈悲を授けられる。アッラーは限りない恩恵の持ち主である。われらはどのしるしを取り消し、あるいは忘れさせても、それより優れたもの、またはそれと同様のものをもたらす。あなたは、アッラーが万事に全能であることを知らないのか。天と地の大権がアッラーのものであり、アッラーのほかにあなたがたには守護者も援助者もないことを知らないのか。それともあなたがたは、以前ムーサーが問われたように、あなたがたの使徒に問いただしたいのか。信仰を否定と取り替える者は、確かに正しい道から迷い出たのである。啓典の民の多くは、真理がかれらに明らかになった後でも、心の中のねたみから、あなたがたを信仰の後に再び否定する者に戻したいと望んでいる。だがアッラーがその命令をもたらされるまで、赦し、見逃しなさい。アッラーは万事に全能である。礼拝を守り、定めの喜捨をしなさい。あなたがたが自分の魂のために先に送るどんな善も、アッラーのもとで見いだすであろう。アッラーはあなたがたの行うことをすべて見ておられる。 (104-110)

かれらは「ユダヤ教徒かキリスト教徒でなければ、だれも楽園に入れない」と言う。それはかれらの空しい願望である。言え、「あなたがたが真実を語っているのなら、証拠を出しなさい。」そうではない。自分のすべてをアッラーに委ねて帰依し、善を行う者には、主のもとに報奨がある。かれらには恐れもなく、悲しむこともない。ユダヤ教徒は「キリスト教徒には何のよりどころもない」と言い、キリスト教徒は「ユダヤ教徒には何のよりどころもない」と言う。どちらも啓典を読誦しているのに。知識のない者たちも、かれらと同じことを言う。アッラーは復活の日に、かれらが意見を異にしていたことについて、かれらの間を裁かれる。 (111-113)

アッラーを崇める場所でその御名が唱えられることを禁じ、それらを荒れ果てさせようと努める者よりも不正な者がだれかあろうか。このような者たちは、恐れを抱いてでなければそこに入るべきではない。かれらには現世で屈辱があり、来世では重大な懲罰がある。東も西もアッラーのものである。あなたがたがどこを向いても、そこにアッラーの御顔がある。アッラーはすべてを包み、すべてを知っておられる。(114-115)

かれらは「アッラーは子をもうけられた」と言う。かれに栄光あれ。いや、天と地にあるすべてのものはかれのものであり、すべてはかれに従順である。かれは天と地を創り出された御方である。かれが何かを定められるとき、ただそれに「あれ」と言われるだけで、それはある。知識のない者たちは「なぜアッラーはわたしたちに語りかけず、わたしたちにしるしが来ないのか」と言う。かれら以前の者たちも、ちょうど同じような言葉を口にした。かれらの心は似通っている。われらは、固く信じる人々のためにしるしを明らかにした。（預言者よ）われらはあなたを、真理を携え、吉報を伝える者、警告する者として遣わした。あなたが烈火の住人について問われることはない。ユダヤ教徒もキリスト教徒も、あなたがかれらの教えに従うまでは、決してあなたに満足しない。言え、「アッラーの導きこそ真の導きである。」もしあなたに知識が届いた後で、かれらの欲望に従うなら、あなたにはアッラーに対する守護者も援助者もない。われらが啓典を授けた者たちで、それをしかるべく読誦する者たち―かれらこそそれを信じる。それを否定する者たち―かれらこそ損失者である。(116-121)

イスラエルの子孫よ、わたしがあなたがたに授けた恵みと、わたしがあなたがたをほかのすべての民よりも優遇したことを思い起こしなさい。そして、だれも他人のために何の役にも立てず、身代金も受け入れられず、執り成しも役に立たず、だれも助けられることのない日から身を守りなさい。またイブラーヒームがその主からいくつかの言葉で試され、かれがそれを果たしたとき、かれは言われた。「わたしはあなたを人々の導師とする。」イブラーヒームは尋ねた。「わたしの子孫の中からもですか。」かれは言われた。「わたしの契約は不正を行う者たちには及ばない。」(122-124)

またわれらがこの館を人々の帰り集う場所とし、安全な聖域としたとき。「イブラーヒームの立ち処を礼拝の場としなさい。」またわれらはイブラーヒームとイスマーイールに命じた。「わたしの館を、巡り歩く者、そこにこもる者、身をかがめひれ伏す者たちのために清めなさい。」またイブラーヒームが言ったとき。「主よ、

ここを安全な町とし、その住民に果実を授けてください—かれらのうちアッラーと最後の日を信じる者たちに。」かれは言われた。「真理を否定する者にも、わたしはしばしの楽しみを与え、それから業火の懲罰に追いやる—何と悪い行き着く先であろう。」 (125-126)

またイブラーヒームとイスマーイールがこの館の礎を築き上げていたとき。「わたしたちの主よ、わたしたちからこれを受け入れてください。まことにあなたは全聴にして全知の御方です。わたしたちの主よ、わたしたちをあなたに帰依する者とし、わたしたちの子孫の中からもあなたに帰依する共同体を興してください。わたしたちに崇拝の儀礼を示し、慈悲をもってわたしたちを顧みてください。まことにあなたは悔悟をよく受け入れる、慈愛深い御方です。わたしたちの主よ、かれらの中に、かれら自身の中から一人の使徒を遣わしてください。かれがあなたのしるしをかれらに読み聞かせ、啓典と英知を教え、かれらを清めるように。まことにあなたは偉力ならびなく、英知に満ちた御方です。」 (127-129)

自分を愚かにする者のほかに、だれがイブラーヒームの教えから背き去るであろうか。われらは現世でかれを選んだ。そして来世でも、かれは必ず正しい者たちの一人である。主がかれに「帰依しなさい」と言われたとき、かれは言った。「わたしは万有の主に帰依しました。」イブラーヒームは同じことを自分の子らに言い残し、ヤアクーブもそうした。「わが子らよ、アッラーはあなたがたのためにこの宗教を選ばれた。だから、かれに帰依した者としてでなければ死んではならない。」 (130-132)

それともあなたがたは、ヤアクーブに死が訪れたとき、その場に居合わせたのか。かれが子らに「わたしが亡くなった後、あなたがたは何を崇めるのか」と言ったとき、かれらは言った。「わたしたちはあなたの神、あなたの父祖イブラーヒーム、イスマーイール、イスハークの神—唯一の神—を崇めます。わたしたちはかれに帰依します。」それはすでに過ぎ去った共同体である。かれらにはかれらが稼いだものがあり、あなたがたにはあなたがたが稼いだものがある。あなたがたは、かれらが行っていたことについて問われることはない。 (133-134)

かれらは「ユダヤ教徒かキリスト教徒になりなさい。そうすれば導かれる」と言う。言え、「いや、純正な信仰の人イブラーヒームの教えである。かれはアッラーに同位者を並べる者ではなかった。」言え、「わたしたちはアッラーを信じ、わたしたちに下されたもの、イブラーヒーム、イスマーイール、イスハーク、ヤアクーブと

諸部族に下されたもの、ムーサーとイーサーに授けられたもの、預言者たちに主から授けられたものを信じる。わたしたちはかれらのだれをも区別しない。わたしたちはかれに帰依する。」もしかれらが、あなたがたが信じるように信じるなら、かれらは確かに導かれている。だが背き去るなら、かれらはただ分裂の中にいるだけである。かれらに対しては、あなたにはアッラーがいれば十分である。かれは全聴にして全知の御方である。わたしたちのものはアッラーの色染めである―アッラーよりも良く染める者がだれかあろうか。わたしたちはかれだけを崇める。 (135-138)

言え、「あなたがたはアッラーについてわたしたちと言い争うのか。かれはわたしたちの主であり、あなたがたの主でもあるのに。わたしたちにはわたしたちの行いがあり、あなたがたにはあなたがたの行いがある。わたしたちはかれにひたすら誠を尽くす。それともあなたがたは、イブラーヒーム、イスマーイール、イスハーク、ヤアクーブと諸部族が、ユダヤ教徒かキリスト教徒であったと言うのか。」言え、「よりよく知っているのはあなたがたか、それともアッラーか。」アッラーから受けた証言を隠す者よりも不正な者がだれかあろうか。アッラーはあなたがたの行うことを見過ごされはしない。それはすでに過ぎ去った共同体である。かれらにはかれらが稼いだものがあり、あなたがたにはあなたがたが稼いだものがある。あなたがたは、かれらが行っていたことについて問われることはない。 (139-141)

人々の中の愚かな者たちは言うであろう。「かれらがこれまで向いていた礼拝の方角から、何がかれらを背かせたのか。」言え、「東も西もアッラーのものである。かれはお望みの者をまっすぐな道に導かれる。」このようにわれらはあなたがたを中道の共同体とした。あなたがたが人々に対する証人となり、使徒があなたがたに対する証人となるように。あなたがこれまで向いていた方角をわれらが定めたのは、ただ使徒に従う者と、きびすを返す者とを見分けるためであった。それは、アッラーが導かれた者たちのほかには、確かにつらいことであった。だがアッラーは、あなたがたの信仰を決して無駄にはされない。まことにアッラーは人々に対して慈しみ深く、慈愛深い御方である。（預言者よ）われらは、あなたが顔を天に向けてあちこち巡らすのを見た。だからわれらは必ず、あなたの気に入る礼拝の方角にあなたを向けさせる。さあ、あなたの顔を聖なるマスジドの方に向けなさい。（信仰する者たちよ）あなたがたはどこにいても、顔をその方に向けなさい。啓典を授けられた者たちは、これが主からの真理であることをよく知っている。アッラーはかれらの行うことを見過ごされはしない。たとえあなたが啓典を授けられた者たちにあらゆるしるしを持って来ても、かれらはあなたの礼拝の方角に従わないし、あなた

もかれらの方角に従うことはない。かれら同士も互いの方角に従わない。もしあなたに知識が届いた後で、かれらの欲望に従うなら、あなたは必ず不正を行う者の一人となる。われらが啓典を授けた者たちは、自分の息子を見分けるようにそれを見分ける。それなのに、かれらの一部は知りながら真理を隠している。真理はあなたの主からのものである。だから決して疑う者の一人となってはならない。だれにでも顔を向ける方角がある。だから善い行いを競い合いなさい。あなたがたがどこにいても、アッラーはあなたがたをみな一緒に集められる。アッラーは万事に全能である。 (142-148)

あなたはどこから出て行くときも、顔を聖なるマスジドの方に向けなさい。それはまことに主からの真理である。アッラーはあなたがたの行うことを見過ごされはしない。またあなたはどこから出て行くときも、顔を聖なるマスジドの方に向けなさい。あなたがたはどこにいても、顔をその方に向けなさい。人々があなたがたに対して言い立てる口実を持たないように―かれらの中の不正を行う者たちは別である。だからかれらを恐れず、わたしを畏れなさい―またわたしがあなたがたへの恵みを全うし、あなたがたが導かれるように。それはちょうど、われらがあなたがたの中に、あなたがた自身の中から一人の使徒を遣わしたのと同じである。かれはわれらのしるしをあなたがたに読み聞かせ、あなたがたを清め、啓典と英知を教え、あなたがたの知らなかったことを教える。だからわたしを念じなさい。そうすればわたしもあなたがたを念じる。わたしに感謝し、恩を忘れてはならない。 (149-152)

信仰する者たちよ、忍耐と礼拝によって助けを求めなさい。アッラーは耐え忍ぶ者たちと共におられる。アッラーの道で殺された者たちを「死んだ者だ」と言ってはならない。いや、かれらは生きている。ただあなたがたがそれに気づかないだけである。われらは必ず、いくらかの恐れと飢え、財産と生命と収穫の損失によってあなたがたを試みる。だが耐え忍ぶ者たちに吉報を伝えなさい―災難に襲われたとき、「まことにわたしたちはアッラーのもの、わたしたちはかれのもとに帰る」と言う者たちに。かれらの上には主からの祝福と慈悲がある。かれらこそ導かれた者である。 (153-157)

サファーとマルワはアッラーの儀礼のしるしの一つである。だからこの館に大巡礼をする者、または小巡礼をする者が、その二つの間を巡り歩いても罪はない。自ら進んで善を行う者には―アッラーはよく報い、すべてを知っておられる。われらが下した明らかな証拠と導きを、啓典の中で人々のために明らかにした後で隠す者た

ち―アッラーはかれらを呪い、呪う者たちもみなかれらを呪う。ただし悔い改め、行いを正し、真理を明らかにする者たちは別である。かれらをわたしは慈悲をもって顧みる。わたしは悔悟をよく受け入れる、慈愛深い者である。真理を否定し、否定したまま死ぬ者たち―かれらの上にはアッラーと天使たちと全人類の呪いがある。かれらは永遠にその中にとどまる。懲罰は軽くされず、猶予も与えられない。 (158-162)

あなたがたの神は唯一の神である。かれのほかに神はなく、慈悲あまねく慈愛深き御方である。まことに天と地の創造の中に、夜と昼の交替の中に、人々に役立つものを載せて海を行く船の中に、アッラーが空から降らせ、それによって死んだ大地を生き返らせ、あらゆる種類の生き物をそこに散らばらせる水の中に、風の移り変わりの中に、天と地の間で仕えさせられている雲の中に―理性を働かせる人々のためのしるしがある。それでも人々の中には、ほかのものをアッラーと同等に置き、アッラーを愛すべきように、それらを愛する者がいる。だが信仰する者たちは、何にもましてアッラーを深く愛する。不正を行う者たちが―やがて懲罰を見るときに分かるように―すべての力がアッラーのものであり、アッラーの懲罰が厳しいことを分かってくれたなら。従われていた者たちが、従っていた者たちとの関わりを否定し、懲罰を目の当たりにし、かれらの間のあらゆるきずなが断ち切られるとき、従っていた者たちは言う。「もう一度機会があったなら、かれらがわたしたちを見捨てたように、わたしたちもかれらを見捨ててやるのに。」このようにアッラーは、かれらの行いを苦い悔恨としてかれらに示される。かれらが業火から出ることは決してない。 (163-167)

人々よ、地上にあるもののうち、許された良いものを食べなさい。悪魔の足跡に従ってはならない。かれはあなたがたの公然の敵である。かれがあなたがたに命じるのは、ただ悪と醜行、そしてアッラーについて知りもしないことを語ることだけである。「アッラーが下されたものに従いなさい」と言われると、かれらは「いや、わたしたちは父祖たちが行っているのを見たものに従う」と言う。何と、かれらの父祖たちが何も理解せず、導かれてもいなかったとしてもか。真理を否定する者たちのたとえは、呼び声と叫び声のほかは何も聞き取れないものに向かって叫ぶ者のようである。聞こえず、物言えず、見えず、かれらは何も理解しない。信仰する者たちよ、われらがあなたがたに授けた良いものを食べ、アッラーに感謝しなさい。あなたがたが崇めるのがかれであるなら。かれがあなたがたに禁じられたのは、死肉、血、豚の肉、そしてアッラー以外の名が唱えられたものだけである。だが、欲

しがるのでもなく、必要を越えるのでもなく、やむをえず迫られた者には罪はない。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (168-173)

アッラーが下された啓典を隠し、それをわずかな値で売る者たち―かれらが腹に呑み込むのは火にほかならない。復活の日、アッラーはかれらに語りかけず、かれらを清めることもされない。かれらには痛ましい懲罰が待っている。かれらは導きと引き換えに迷いを買い、赦しと引き換えに懲罰を買った者たちである。かれらは何と辛抱強く業火に耐えることか。それは、アッラーが真理をもって啓典を下されたからである。啓典について意見を異にする者たちは、確かに深い分裂の中にいる。 (174-176)

正しさとは、あなたがたの顔を東や西に向けることではない。正しい者とは、アッラーと最後の日、天使たち、啓典、預言者たちを信じる者である。またかれを愛するゆえに、その財産を近親、孤児、貧しい者、旅人、乞う者に与え、奴隷の解放のために費やす者である。礼拝を守り、定めの喜捨をする者である。交わした約束を果たす者であり、困窮と逆境のとき、また危難のときに耐え忍ぶ者である。これらの者こそ誠実な者であり、これらの者こそアッラーを畏れる者である。 (177)

信仰する者たちよ、殺人については公正な報復があなたがたに定められた。自由人には自由人、奴隷には奴隷、女には女である。だが加害者がその兄弟から何らかの赦しを受けたなら、請求は公正に行い、支払いは誠意をもって行いなさい。これはあなたがたの主からの軽減であり、慈悲である。この後で掟を越える者には痛ましい懲罰がある。思慮ある者たちよ、公正な報復の中には、あなたがたにとって命がある。あなたがたがアッラーを畏れる者となるように。あなたがたのだれかに死が近づき、財産を残すときには、両親と近親のために公正に遺言することが定められた。これはアッラーを畏れる者たちの務めである。それを聞いた後で変える者があれば、その罪は変えた者たちの上にある。アッラーは全聴にして全知の御方である。だが遺言者が誤り、あるいは不当なことをしたのではないかと案じて、当事者の間を正す者には罪はない。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (178-182)

信仰する者たちよ、あなたがた以前の共同体に定められたように、あなたがたにも断食が定められた。あなたがたがアッラーを畏れる心を深めるように―定められた日数の間である。だがあなたがたのうち病気の者、または旅の途中にある者は、同じ日数をほかの日に断食する。ようやくのことで断食できる者には償いがある。貧しい者一人に食べ物を与えることである。自ら進んでさらに善を行う者には、それ

がその者のためにより良い。だが断食するほうが、あなたがたにとってより良い。あなたがたがそれを知っていたなら。ラマダーンの月は、人々への導きとして、また導きと識別の明らかな証拠として、クルアーンが下された月である。だからあなたがたのうちこの月に居合わせる者は、その間断食しなさい。病気の者、または旅の途中にある者は、同じ日数をほかの日に断食する。アッラーはあなたがたに易しさを望まれ、困難を望まれない。あなたがたがその日数を全うし、導いてくださったことについてアッラーの偉大さをたたえ、感謝するようにと望まれる。わたしのしもべたちがわたしについてあなたに尋ねるとき―わたしはまことに近くにいる。呼び求める者がわたしを呼ぶとき、わたしはその呼びかけに答える。だからかれらもわたしに応え、わたしを信じなさい。かれらが正しく導かれるように。 (183-186)

断食の夜、妻たちのもとに入ることはあなたがたに許されている。かの女たちはあなたがたの衣であり、あなたがたはかの女たちの衣である。アッラーは、あなたがたが自分自身を裏切っていたことを知り、慈悲をもってあなたがたを顧み、赦された。だから今はかの女たちと交わり、アッラーがあなたがたに定められたものを求めなさい。夜明けの白い糸が黒い糸からはっきり見分けられるまで食べ、飲みなさい。それから夜になるまで断食を全うしなさい。マスジドにこもっている間は、かの女たちと交わってはならない。これらはアッラーが定められた境界である。だからそれに近づいてはならない。このようにアッラーは人々にそのしるしを明らかにされる。かれらがアッラーを畏れる者となるように。互いの財産を不当に食い尽くしてはならない。また他人の財産の一部を、知りながら罪深く食い尽くすために、それを裁き手たちへの賄賂に使ってはならない。 (187-188)

（預言者よ）かれらは新月についてあなたに尋ねる。言え、「それは人々が時を数えるため、また巡礼のためのものである。」正しさとは、家に裏から入ることではない。正しい者とは、アッラーを畏れる者である。だから家にはその戸口から入りなさい。そしてアッラーを畏れなさい。あなたがたが成功するように。あなたがたに戦いを仕掛ける者たちと、アッラーの道で戦いなさい。だが限度を越えてはならない。アッラーは限度を越える者を愛されない。かれらに出会ったところで殺し、かれらがあなたがたを追い出したところからかれらを追い出しなさい。迫害は殺害よりも悪い。だが聖なるマスジドでは、かれらがそこであなたがたと戦わない限り、かれらと戦ってはならない。かれらが戦うなら、殺しなさい―これが真理を否定する者たちへの報いである。だがかれらがやめるなら、アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。迫害がなくなり、宗教がアッラーだけのものとなるまで、かれらと

戦いなさい。だがかれらがやめるなら、不正を行う者たちに対するほかは、敵対してはならない。聖なる月には聖なる月を。すべての聖なるものには公正な報復がある。だからだれかがあなたがたを攻めるなら、かれが攻めたのと同じ程度に攻めなさい。だがアッラーを畏れなさい。そしてアッラーは、かれを畏れる者たちと共におられることを知りなさい。アッラーの道のために費やしなさい。自分の手で自らを破滅に投げ込んではならない。善を行いなさい。アッラーは善を行う者を愛される。 (189-195)

大巡礼と小巡礼をアッラーのために全うしなさい。もし妨げられたなら、手の届く範囲の供え物を送りなさい。供え物がその場所に着くまでは、頭を剃ってはならない。あなたがたのうち病気の者、または頭に患いのある者は、断食か施しか犠牲によって償う。あなたがたが再び安全になったとき、大巡礼の前に小巡礼を楽しむ者は、手の届く範囲の供え物をささげなさい。それを得られない者は、大巡礼の間に三日、帰ってから七日、合わせて十日断食する。これは、家族が聖なるマスジドの近くに住んでいない者のためである。アッラーを畏れなさい。そしてアッラーの懲罰が厳しいことを知りなさい。 (196)

大巡礼はよく知られた月々に行われる。その月々に大巡礼を志す者は、巡礼の間、夫婦の交わりも、不正な行いも、言い争いも慎まなければならない。あなたがたがどんな善を行っても、アッラーはそれを知っておられる。旅の糧を携えなさい—だが最良の糧はアッラーを畏れる心である。だから思慮ある者たちよ、わたしを畏れなさい。交易によって主の恵みを求めても、あなたがたに罪はない。アラファートからどっと下って来るときには、聖なる標識のもとでアッラーを念じなさい。かれがあなたがたを導かれたように、かれを念じなさい。これ以前、あなたがたは確かに迷った者たちの中にいたのである。それから人々が下って来るところから下り、アッラーの赦しを請いなさい。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。あなたがたの儀礼を終えたなら、父祖たちを思い出すように、いや、それ以上に熱心にアッラーを念じなさい。人々の中には「わたしたちの主よ、現世であなたの恵みをお与えください」と言う者がいるが、かれらには来世で何の分け前もない。また「わたしたちの主よ、現世でも良いものを、来世でも良いものをお与えください。そして業火の懲罰からお守りください」と言う者もいる。これらの者には、自分が稼いだものの分け前がある。アッラーは清算に速い御方である。 (197-202)

定められた日々の間、アッラーを念じなさい。二日で急いで去る者にも罪はなく、遅れる者にも罪はない―アッラーを畏れている限りは。だからアッラーを畏れなさい。そしてあなたがたはかれのもとに集められることを知りなさい。人々の中には、現世の生活についてのその話があなたを感心させ、自分の心にあることについてアッラーを証人に立てる者がいる―だがかれは最も手ごわい論敵である。背を向けて立ち去ると、かれは地上に腐敗を広め、作物と家畜を滅ぼそうと努める。アッラーは腐敗を愛されない。「アッラーを畏れなさい」と言われると、高慢がかれを罪に駆り立てる。かれには地獄で十分である―何と悪い休み場であろう。また人々の中には、アッラーのご満悦を求めて自分自身を売る者もいる。アッラーはそのしもべたちに慈しみ深い御方である。信仰する者たちよ、アッラーへの服従の中に残らず入りなさい。悪魔の足跡に従ってはならない。かれはあなたがたの公然の敵である。だが明らかな証拠があなたがたに届いた後で足を滑らせるなら、アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方であることを知りなさい。 (203-209)

かれらは、アッラーが雲の陰の中を天使たちと共にかれらのもとに来られ、事が決せられるのを待っているのか。すべての事はアッラーに帰される。イスラエルの子孫に尋ねなさい。われらがどれほど多くの明らかなしるしをかれらに授けたかを。アッラーの恵みが届いた後でそれを変える者には―アッラーの懲罰は厳しい。真理を否定する者たちには現世の生活が魅力あるものに見え、かれらは信仰する者たちをあざ笑う。だがアッラーを畏れる者たちは、復活の日にはかれらの上に立つ。アッラーはお望みの者に計り知れないほど糧を授けられる。人類は一つの共同体であった。それからアッラーは、吉報を伝える者、警告する者として預言者たちを遣わし、かれらと共に真理をもって啓典を下された。人々が意見を異にしていたことについて、その間を裁くためである。ところが、明らかな証拠が届いた後で、互いの対抗心からそれについて意見を異にしたのは、ほかならぬそれを授けられた者たちであった。そこでアッラーは、お許しによって、かれらが意見を異にしていた真理へと信仰する者たちを導かれた。アッラーはお望みの者をまっすぐな道に導かれる。 (210-213)

それともあなたがたは、あなたがた以前に過ぎ去った者たちに降りかかったようなことが、まだ自分に訪れないうちに楽園に入れると思うのか。かれらは困窮と逆境に見舞われ、激しく揺さぶられて、使徒も、かれと共に信仰した者たちも「アッラーの助けはいつ来るのか」と叫んだほどであった。まことにアッラーの助けは近い。（預言者よ）かれらは何を施すべきかをあなたに尋ねる。言え、「あなたがたが施

す良いものは、両親と近親、孤児、貧しい者、旅人のためにしなさい。あなたがたがどんな善を行っても、アッラーはそれをよく知っておられる。」 (214-215)

戦うことがあなたがたに定められた。あなたがたはそれを嫌うけれども。だがあなたがたは、自分にとって良いことを嫌うかもしれず、自分にとって悪いことを好むかもしれない。アッラーは知っておられるが、あなたがたは知らない。かれらは聖なる月に戦うことについてあなたに尋ねる。言え、「その月に戦うことは重大なことである。だが人々をアッラーの道から妨げ、かれを否定し、聖なるマスジドから人々を妨げ、その住民をそこから追い出すことは、アッラーの御目にはさらに重大である。迫害は殺害よりも重大である。」かれらは、もしできるなら、あなたがたを宗教から背かせるまで、あなたがたと戦うことをやめない。あなたがたのうちで自分の宗教から背き、真理を否定したまま死ぬ者―かれらの行いは現世でも来世でも無に帰する。かれらは業火の住人であり、そこにとどまり続ける。まことに信仰する者たち、移住してアッラーの道のために奮闘した者たち―これらの者はアッラーの慈悲を望むことができる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (216-218)

かれらは酒と賭け事についてあなたに尋ねる。言え、「その二つには大きな罪があり、人々にとっていくらかの益もある。だがその罪は益よりも大きい。」またかれらは何を施すべきかをあなたに尋ねる。言え、「余裕のあるものを。」このようにアッラーはあなたがたにそのしるしを明らかにされる。あなたがたが現世と来世について深く考えるように。またかれらは孤児についてあなたに尋ねる。言え、「かれらの事を正しく整えてやるのが最も良い。あなたがたがかれらと暮らしを共にするなら、かれらはあなたがたの兄弟である。」アッラーは腐敗を広める者と正す者とを知り分けておられる。アッラーがお望みなら、あなたがたを困難に陥れることもできた。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。 (219-220)

アッラーに同位者を並べる女たちとは、かの女たちが信仰するまで結婚してはならない。信仰する女奴隷は、そのような女がどれほどあなたがたの気に入っても、それより良い。またあなたがたの女たちを、アッラーに同位者を並べる男たちに、かれらが信仰するまで嫁がせてはならない。信仰する奴隷は、そのような男がどれほどあなたがたの気に入っても、それより良い。かれらは業火へと招く。だがアッラーは、お許しによって楽園と赦しへと招かれる。かれは人々にそのしるしを明らかにされる。かれらが心に留めるように。 (221)

かれらは月経についてあなたに尋ねる。言え、「それは苦痛である。だから月経の間は女たちから遠ざかり、清まるまで近づいてはならない。かの女たちが身を清めたなら、アッラーがあなたがたに定められたとおりに、かの女たちのもとに行きなさい。」まことにアッラーは悔い改めて帰る者たちを愛し、身を清く保つ者たちを愛される。あなたがたの妻はあなたがたの耕地である。だからあなたがたの耕地に望むように赴き、自分自身のために良いことを先に送りなさい。アッラーを畏れ、あなたがたがかれに会うことを知りなさい。そして信者たちに吉報を伝えなさい。(222-223)

あなたがたの誓いによって、アッラーを、善を行い、かれを畏れ、人々の間を和解させることへの妨げとしてはならない。アッラーは全聴にして全知の御方である。アッラーは、あなたがたの誓いの中の不用意な言葉については責められないが、あなたがたの心が稼いだものについては責められる。アッラーはよく赦し、寛容な御方である。妻から遠ざかると誓う者たちには、四か月の待機期間がある。その間に戻るなら、アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。だが離婚を決意するなら、アッラーは全聴にして全知の御方である。離婚された女たちは、月経を三度経るまで自ら待たなければならない。アッラーと最後の日を信じるなら、アッラーがその胎内に創られたものを隠すことは、かの女たちに許されない。その期間中、和解を望むなら、夫たちにはかの女たちを連れ戻すより強い権利がある。女たちには、公正なかたちで、課せられた義務と同様の権利がある。ただし男たちはかの女たちより一段上にある。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。(224-228)

離婚の申し渡しは二度までできる。その後は、妻を礼儀正しくとどめるか、あるいは親切に去らせるかである。あなたがたがかの女たちに与えたものを、何であれ取り戻すことは許されない。ただし二人が、アッラーの定められた境界を守れないと恐れる場合は別である。もしあなたがたが、二人がアッラーの定められた境界を守れないと恐れるなら、かの女が自由を得るために何かを差し出しても、二人のどちらにも罪はない。これらはアッラーが定められた境界である。だからそれを踏み越えてはならない。アッラーの定められた境界を踏み越える者--かれらこそ不正を行う者である。もしかれが三度目にかの女を離婚したなら、その後かの女は、ほかの夫と結婚するまで、かれには許されない。そして後の夫がかの女を離婚したなら、二人がアッラーの定められた境界を守れると思う限り、互いのもとに戻っても二人に罪はない。これらはアッラーが定められた境界であり、かれは知識ある人々のためにそれを明らかにされる。(229-230)

あなたがたが女たちを離婚し、かの女たちが待機期間の終わりに達したなら、礼儀正しくとどめるか、礼儀正しく去らせなさい。かの女たちを苦しめ、害を加えるためにとどめてはならない。そのようにする者は、自分自身に不正を行ったのである。アッラーのしるしをあざけりの種にしてはならない。あなたがたへのアッラーの恵みと、あなたがたを戒めるために下された啓典と英知を思い起こしなさい。アッラーを畏れ、アッラーがすべてのことを知り尽くしておられることを知りなさい。あなたがたが女たちを離婚し、かの女たちが待機期間の終わりに達したなら、双方が公正なかたちで合意している場合、かの女たちが以前の夫と結婚するのを妨げてはならない。これは、あなたがたのうちアッラーと最後の日を信じる者への訓戒である。それがあなたがたにとってより清く、より潔い。アッラーは知っておられるが、あなたがたは知らない。 (231-232)

母親は、授乳を全うしたいと望む者のために、満二年の間その子に乳を与える。父親は、公正なかたちでかの女たちの食べ物と衣服の費用を負担する。だれも、その力に余る重荷を負わされることはない。母親がその子のために苦しめられてはならず、父親もその子のために苦しめられてはならない。相続人にも同じ務めがある。二人が互いに納得し、話し合ったうえで離乳を決めるなら、二人に罪はない。またあなたがたが子を乳母に預けて乳を飲ませたいと望むなら、約束したものを公正なかたちで渡す限り、あなたがたに罪はない。アッラーを畏れ、アッラーがあなたがたの行うことをすべて見ておられることを知りなさい。 (233)

あなたがたのうちで妻を残して死ぬ者があれば、妻たちは四か月と十日の間、自ら待たなければならない。その待機期間の終わりに達したなら、かの女たちが自分自身について公正なかたちで行うことに関して、あなたがたに罪はない。アッラーはあなたがたの行うことによく通じておられる。そのような女たちに結婚の申し込みをほのめかしても、心の中に秘めておいても、あなたがたに罪はない。アッラーは、あなたがたがかの女たちのことを思うであろうことを知っておられる。だが礼儀にかなった言葉を語るのでない限り、ひそかに約束を交わしてはならない。また定めの期間が満ちるまでは、結婚の契りを固めてはならない。アッラーがあなたがたの心の中にあることを知っておられることを知り、かれに用心しなさい。そしてアッラーがよく赦し、寛容な御方であることを知りなさい。 (234-235)

あなたがたがまだ触れておらず、婚資も定めていないうちに女たちを離婚しても、あなたがたに罪はない。だがかの女たちに贈り物をしなさい――富める者はその力に

応じて、貧しい者もその力に応じて―公正なかたちでの贈り物を。これは善を行う者たちの務めである。まだ触れていないが、すでに婚資を定めた後で離婚するなら、定めたものの半分を与えなさい。ただしかの女たちがそれを放棄するか、結婚の契りを手に握る者が放棄する場合は別である。放棄するほうが、アッラーを畏れる心により近い。互いに寛大であることを忘れてはならない。アッラーはあなたがたの行うことをすべて見ておられる。礼拝を、とりわけ中間の礼拝を守りなさい。そしてアッラーの御前に敬虔に従順に立ちなさい。恐れのあるときには、歩きながら、あるいは乗り物に乗ったまま礼拝しなさい。再び安全になったなら、あなたがたの知らなかったことを教えてくださったとおりに、アッラーを念じなさい。 (236-239)

あなたがたのうちで妻を残して死ぬ者は、妻たちのために遺言しなければならない。追い出されることなく一年間扶養されることである。だがかの女たちが自ら出て行くなら、かの女たちが自分自身について公正なかたちで行うことに関して、あなたがたに罪はない。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。離婚された女たちにも、公正なかたちでの贈り物がある。これはアッラーを畏れる者たちの務めである。このようにアッラーはあなたがたにそのしるしを明らかにされる。あなたがたが理性を働かせるように。 (240-242)

あなたは、死を恐れて何千人もで自分たちの住まいを出た者たちのことを考えなかったか。アッラーはかれらに「死ね」と言われ、それからかれらを生き返らせた。まことにアッラーは人々に対して恵み深い御方であるが、人々の多くは感謝しない。アッラーの道で戦いなさい。そしてアッラーが全聴にして全知の御方であることを知りなさい。アッラーに良い貸し付けをする者はだれか。かれはそれを何倍にも増やしてくださる。糧を控えるのも豊かに与えるのもアッラーであり、あなたがたはかれのもとに帰される。 (243-245)

あなたは、ムーサーの後のイスラエルの子孫の長老たちのことを考えなかったか。かれらは自分たちの預言者に言った。「わたしたちのために王を立ててください。そうすればわたしたちはアッラーの道で戦います。」かれは言った。「戦うことがあなたがたに定められても、あなたがたは戦わないのではないか。」かれらは言った。「わたしたちは住まいから、また子どもたちから追われたのに、どうしてアッラーの道で戦わないことがあろうか。」ところが戦うことが定められると、かれらはわずかな者を除いて背き去った。アッラーは不正を行う者たちをよく知っておられる。かれらの預言者はかれらに言った。「アッラーはタールートをあなたがたの

王に立てられた。」かれらは言った。「どうしてかれがわたしたちの上に王権を持てるのか。わたしたちのほうがかれよりも王権にふさわしく、かれは豊かな富も与えられていないのに。」かれは言った。「アッラーはあなたがたの上にかれを選び、知識と体格を豊かに増し加えられた。アッラーはお望みの者にその王権を授けられる。アッラーはすべてを包み、すべてを知っておられる。」かれらの預言者はかれらに言った。「かれの王権のしるしは、あなたがたのもとに聖櫃が来ることである。その中にはあなたがたの主からの安らぎと、ムーサーの家とハールーンの家が残した遺品があり、天使たちがそれを運んで来る。あなたがたが信者であるなら、まことにその中にはあなたがたへのしるしがある。」 (246-248)

タールートが軍勢を率いて出発したとき、かれは言った。「アッラーは一つの川であなたがたを試される。それを飲む者はわたしの仲間ではない。それを味わわない者はわたしの仲間である―手でひとすくいするだけの者は別である。」ところがかれらは、わずかな者を除いてそれを飲んだ。かれと、かれと共に信仰する者たちが川を渡ったとき、かれらは言った。「今日わたしたちには、ジャールートとその軍勢に立ち向かう力がない。」だが、やがてアッラーに会うことを確信していた者たちは言った。「アッラーのお許しによって、少数の部隊が多数の部隊に打ち勝ったことが、どれほどあったことか。アッラーは耐え忍ぶ者たちと共におられる。」かれらがジャールートとその軍勢に向かって進み出たとき、かれらは言った。「わたしたちの主よ、わたしたちに忍耐を注ぎ、足場を固め、真理を否定する民に対してわたしたちを助けてください。」こうしてかれらは、アッラーのお許しによって敵を打ち破り、ダーウードはジャールートを殺した。アッラーはかれに王権と英知を授け、お望みのことを教えられた。もしアッラーが、ある人々をほかの人々によって抑えられなかったなら、大地は必ず腐敗していたであろう。だがアッラーは万有に対して恵み深い御方である。 (249-251)

（預言者よ）これらはアッラーのしるしであり、われらはそれを真理をもってあなたに読み聞かせる。あなたは確かに使徒たちの一人である。これらの使徒たちのうち、われらはある者をほかの者よりも優れたものとした。その中にはアッラーが語りかけられた者もあり、かれが位階を高められた者もある。またマルヤムの子イーサーには明らかな証拠を授け、聖霊によってかれを強めた。アッラーがお望みなら、かれらの後に来た者たちは、明らかな証拠が届いた後で互いに戦うことはなかったであろう。だがかれらは意見を異にし、ある者は信仰し、ある者は否定した。アッ

ラーがお望みなら、かれらは互いに戦わなかったであろう。だがアッラーはお望みのことを行われる。 (252-253)

信仰する者たちよ、取り引きも友情も執り成しもない日が来る前に、われらがあなたがたに授けたものの中から施しなさい。真理を否定する者たちこそ、不正を行う者である。 (254)

アッラー、かれのほかに神はない。永遠に生き、自ら存在して万物を支える御方である。まどろみも眠りもかれをとらえることはない。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはかれのものである。かれのお許しなしに、だれがかれのもとで執り成すことができようか。かれは人々の前にあることも後ろにあることも知っておられる。かれらは、かれがお望みになること以外、その知識の何ものにも及ばない。かれの玉座は天と地に広がり、その二つを守ることはかれを疲れさせない。かれは至高にして偉大な御方である。[3] (255)

宗教に強制はない。正しい導きは迷いからはっきりと区別された。だから偽りの神々を退け、アッラーを信じる者は、決して切れることのない最も堅固な取っ手をつかんだのである。アッラーは全聴にして全知の御方である。アッラーは信仰する者たちの守護者であり、かれらを深い暗闇から光へと連れ出される。だが真理を否定する者たちの守護者は偽りの神々であり、それらはかれらを光から深い暗闇へと連れ出す。かれらは業火の住人であり、そこにとどまり続ける。 (256-257)

あなたは、アッラーが王権を授けられたことをかさに着て、イブラーヒームとその主について言い争った者のことを考えなかったか。イブラーヒームが「わたしの主は、生を与え死を与える御方である」と言ったとき、かれは「わたしも生を与え死を与える」と言った。イブラーヒームは言った。「アッラーは太陽を東から昇らせる。それならあなたは、それを西から昇らせてみなさい。」すると真理を否定したその者は言葉を失った。アッラーは不正を行う者たちを導かれない。 (258)

あるいは、屋根も崩れ落ちて廃墟となった町を通りかかった者のことを。かれは言った。「アッラーは、死んだ後のこの町をどのようにして生き返らせるのだろうか。」そこでアッラーはかれを百年の間死なせ、それからよみがえらせた。かれは言われた。「あなたはどれほどとどまっていたのか。」かれは言った。「一日か、一日の一部分とどまっていました。」かれは言われた。「いや、あなたは百年とど

[3] この節は、聖クルアーンの王冠の節とされています。機会原因論―栄光あるクルアーンと科学

まっていた。あなたの食べ物と飲み物を見なさい。傷んでいない。あなたのろばも見なさい。われらはあなたを人々へのしるしとするために、こうしたのである。また骨を見なさい。われらがどのようにそれを起こし、それに肉を着せるかを。」事がかれに明らかになると、かれは言った。「アッラーが万事に全能であることを、わたしは知りました。」 (259)

またイブラーヒームが言ったとき。「主よ、あなたが死者をどのように生き返らせるのか、わたしにお見せください。」かれは言われた。「あなたは信じないのか。」かれは言った。「いいえ、信じます。ただわたしの心が安らぐためです。」かれは言われた。「四羽の鳥を取り、あなたになつかせなさい。それからそれぞれの丘の上にその一部を置き、それから呼びなさい。鳥たちはあなたのもとに飛んで来る。そしてアッラーが偉力ならびなく、英知に満ちた御方であることを知りなさい。」 (260)

アッラーの道のために財産を費やす者たちのたとえは、七つの穂を出し、それぞれの穂に百粒を実らせる一粒の種のようである。アッラーはお望みの者に何倍にも増やされる。アッラーはすべてを包み、すべてを知っておられる。アッラーの道のために財産を費やし、その後で、施したことを恩に着せたり、傷つける言葉を添えたりしない者たち--かれらには主のもとに報奨がある。かれらには恐れもなく、悲しむこともない。優しい言葉と赦しは、後で人を傷つける施しよりも良い。アッラーは満ち足りた、寛容な御方である。信仰する者たちよ、恩着せがましい態度や傷つける言葉で、あなたがたの施しを無にしてはならない。人に見せるために財産を費やし、アッラーも最後の日も信じない者のように。そのたとえは、土をかぶった滑らかな岩のようである。大雨がそれを打つと、岩はむき出しのまま残される。かれらは自分が稼いだものの何一つ思いどおりにできない。アッラーは真理を否定する民を導かれない。一方、アッラーのご満悦を求め、自分の魂を堅固にするために財産を費やす者たちのたとえは、高台にある園のようである。大雨がそれを打つと二倍の実を結び、大雨が降らなくても小雨で足りる。アッラーはあなたがたの行うことをすべて見ておられる。あなたがたのだれが望むであろうか。なつめやしとぶどうの園を持ち、その下を川が流れ、あらゆる果実がそこに実っているのに--老いが身に迫り、か弱い子どもたちを抱えているときに、火をはらんだつむじ風がそれを襲い、焼き尽くしてしまうことを。このようにアッラーはあなたがたにそのしるしを明らかにされる。あなたがたが深く考えるように。 (261-266)

信仰する者たちよ、あなたがたが稼いだ良いものと、われらがあなたがたのために大地から生じさせたものの中から施しなさい。自分なら目をつぶってでなければ受け取らないような悪いものを選んで施してはならない。アッラーは満ち足りた、あらゆる讃美にふさわしい御方であることを知りなさい。悪魔は貧困であなたがたを脅し、醜行を命じる。だがアッラーは、ご自分からの赦しと恵みをあなたがたに約束される。アッラーはすべてを包み、すべてを知っておられる。かれはお望みの者に英知を授けられる。英知を授けられた者は、豊かな善を授けられたのである。だが思慮ある者たちのほかは、だれも心に留めない。あなたがたが何を施しても、どんな誓願を立てても、アッラーはそれを知っておられる。不正を行う者たちには援助者はない。あなたがたが施しを公にするなら、それは良いことである。だがそれを隠して貧しい者に与えるなら、それはあなたがたにとってより良く、あなたがたの悪い行いのいくらかを償う。アッラーはあなたがたの行うことによく通じておられる。（預言者よ）かれらを導くのはあなたの務めではない。アッラーこそお望みの者を導かれる。あなたがたが施すどんな良いものも、あなたがた自身のためである。ただアッラーの御顔を求めて施す限りは。あなたがたが施すどんな良いものも、あなたがたに十分に報いられ、あなたがたが不当に扱われることはない。アッラーの道のために身を縛られ、地上を旅して回ることのできない貧しい者たちに与えなさい。事情を知らない者は、かれらが慎み深いために、かれらを豊かだと思い込む。あなたはその様子でかれらを見分けられる。かれらはしつこく人に物乞いをしない。あなたがたが施すどんな良いものも、アッラーはそれをよく知っておられる。 (267-273)

夜も昼も、ひそかにも公にも財産を費やす者たちには、主のもとに報奨がある。かれらには恐れもなく、悲しむこともない。利子をむさぼる者たちは、悪魔に触れられて狂わされた者が立ち上がるようにしか立ち上がれない。それはかれらが「商売は利子と同じようなものだ」と言うからである。だがアッラーは商売を許し、利子を禁じられた。主からの訓戒を受けてやめる者は、すでに過ぎたものは自分のものとしてよく、その件はアッラーに委ねられる。だが再びそれに戻る者―これらの者は業火の住人であり、そこにとどまり続ける。アッラーは利子を消し去り、施しを増やされる。アッラーは恩知らずの罪人をだれも愛されない。まことに信仰して善行に励み、礼拝を守り、定めの喜捨をする者たちには、主のもとに報奨がある。かれらには恐れもなく、悲しむこともない。信仰する者たちよ、アッラーを畏れなさい。あなたがたが信者であるなら、利子の残りを放棄しなさい。もしそうしないなら、アッラーとその使徒からの戦いを覚悟しなさい。だが悔い改めるなら、元金は

あなたがたのものである。不当に扱うこともなく、不当に扱われることもない。もし債務者が困窮しているなら、楽になるときまで猶予しなさい。もしその債務を施しとして免じるなら、それがあなたがたにとってより良い。あなたがたがそれを知っていたなら。あなたがたがアッラーのもとに帰される日から身を守りなさい。そのとき、だれもが自分の稼いだものを十分に報いられ、だれも不当に扱われることはない。 (274-281)

信仰する者たちよ、期限を定めて貸し借りをするときには、それを書き留めなさい。書記があなたがたの間で公正に書きなさい。書記は、アッラーが教えられたとおりに書くことを拒んではならない。だからかれは書き、債務を負う者が口述しなさい。その者は主アッラーを畏れ、そこから何も減らしてはならない。もし債務を負う者が思慮に欠けるか、弱いか、あるいは自分で口述できないなら、その後見人が公正に口述しなさい。あなたがたの男たちの中から二人の証人を立てなさい。男二人がいなければ、あなたがたが証人として認める者の中から、男一人と女二人を。二人の女のうち一人が誤っても、もう一人が思い出させることができるように。証人は呼ばれたとき、拒んではならない。小さなことでも大きなことでも、その期限と共に書き留めることを面倒がってはならない。それがアッラーの御目にはより公正であり、証言のためにより確かであり、あなたがたの間に疑いが生じるのを防ぐうえでより適している—ただし、あなたがたの間でその場で受け渡す現物の取り引きは別であり、その場合は書き留めなくても、あなたがたに罪はない。互いに商いをするときには証人を立てなさい。書記にも証人にも害を加えてはならない。もしそうするなら、それはあなたがたの罪深い行いである。アッラーを畏れなさい。あなたがたに教えてくださるのはアッラーである。アッラーはすべてのことを知り尽くしておられる。もしあなたがたが旅の途中にあって書記が見つからないなら、担保を手に受け取ればよい。あなたがたのだれかが他人を信頼して託すなら、信頼された者はその託されたものを果たし、主アッラーを畏れなさい。証言を隠してはならない。それを隠す者は、その心が罪深いのである。アッラーはあなたがたの行うことをすべて知り尽くしておられる。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはアッラーのものである。あなたがたが心にあることを表しても隠しても、アッラーはそれについてあなたがたを清算される。そしてお望みの者を赦し、お望みの者を罰される。アッラーは万事に全能である。 (282-284)

使徒は、主から自分に下されたものを信じる。信者たちもまた同じである。それぞれがアッラーと、その天使たち、その諸啓典、その使徒たちを信じる。「わたした

ちはかれの使徒たちのだれをも区別しない。」またかれらは言う。「わたしたちは聞き、従います。わたしたちの主よ、あなたの赦しをお与えください。旅路の果てはあなたのもとにあります。」アッラーはだれにも、その力に余る重荷を負わせられない。自分が稼いだ善はその者のためになり、自ら招いた悪はその者に降りかかる。「わたしたちの主よ、わたしたちが忘れたり、過ちを犯したりしても、わたしたちを責めないでください。わたしたちの主よ、わたしたち以前の者たちに負わされたような重荷を、わたしたちに負わせないでください。わたしたちの主よ、わたしたちに耐える力のないものを、わたしたちに負わせないでください。わたしたちを大目に見て、赦し、慈悲をおかけください。あなたはわたしたちの守護者です。だから真理を否定する民に対して、わたしたちを助けてください。」 (285-286)

3. イムラーン家 (Āl ʻImrān)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ミーム。アッラー、かれのほかに神はない。永遠に生き、自ら存在して万物を支える御方である。（預言者よ）かれは真理をもってあなたに啓典を下された。それは以前にあったものを確証する。またかれはこれ以前に、人々への導きとして律法と福音を下し、そして識別を下された。アッラーのしるしを否定する者たちには厳しい懲罰がある。アッラーは偉力ならびなく、報復の主である。地にあるものも天にあるものも、何一つアッラーに隠されてはいない。かれこそは、胎内でお望みのままにあなたがたを形づくられる御方である。かれのほかに神はなく、偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。 (1-6)

かれこそは、あなたに啓典を下された御方である。その中には、明瞭で確定した節やしるしがあり―それらは啓典の根幹である―ほかに、解釈の余地のあるものがある。心にゆがみのある者たちは、不和を求め、自分勝手な解釈を押しつけようとして、その中の解釈の余地のある部分を追い求める。だがその真の解釈を知るのは、アッラーと、知識にしっかりと根ざした者たちだけである。かれらは言う。「わたしたちはそれを信じる。そのすべてはわたしたちの主からのものである。」思慮ある者たちのほかは、だれも心に留めない。[4] (7)

「わたしたちの主よ、わたしたちを導かれた後で、わたしたちの心をそらさないでください。あなたのもとから慈悲をお授けください。まことにあなたは惜しみなく与える御方です。わたしたちの主よ、あなたは必ず、疑いの余地のない日に人々を一緒に集められます。アッラーは決して約束をたがえられません。」 (8-9)

真理を否定する者たちには、その財産も子どもたちも、アッラーに対して何の役にも立たない。かれらは業火の燃料である―ちょうどフィルアウンの一族や、それ以前の者たちと同じように。かれらはわれらのしるしを偽りとした。そこでアッラーはその罪のためにかれらを捕らえられた。アッラーの懲罰は厳しい。真理を否定する者たちに言え、「あなたがたは打ち負かされ、地獄に集められる―何と悪い休み

[4] これは、クルアーンの重要な節の一つです。この節は、人それぞれが自分の見方に応じてクルアーンから何を引き出すのかを浮き彫りにしています。この節を読むと、ドイツの名高い哲学者ゲーテの言葉の一つが思い出されます。「わたしたちがクルアーンに近づくたびに、それはいつも改めて反発を覚えさせる。しかし次第に引きつけ、驚かせ、ついには感嘆せずにはいられなくする。」―ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

場であろう。」バドルで相まみえた二つの軍勢の中に、あなたがたへのしるしがあった。一方はアッラーの道のために戦い、もう一方は真理を否定する者たちであったが、かれらはその目で相手を自分たちの二倍に見た。アッラーはお望みの者をその助けによって強められる。まことにその中には、見る目のある者たちへの教訓がある。 (10-13)

人々には、欲望をそそるものへの愛着が魅力あるものにされている。女たち、息子たち、蓄え積まれた金銀の山、選り抜きの馬、家畜、そして耕地である。これらは現世の生活の楽しみである。だがアッラーのもとにこそ、最も良い帰り着く先がある。言え、「これらよりも良いものを、あなたがたに知らせようか。アッラーを畏れる者たちには、主のもとに、川が下を流れる楽園があり、かれらは永遠にそこに住む。また清らかな伴侶たちと、アッラーのご満悦がある。」アッラーはそのしもべたちを見守っておられる—「わたしたちの主よ、わたしたちは信じました。だからわたしたちの罪を赦し、業火の懲罰からお守りください」と言う者たち、耐え忍ぶ者、誠実な者、敬虔な者、アッラーの道のために施す者、そして夜明け前の時刻に赦しを請う者たちを。 (14-17)

アッラーは、かれのほかに神はないことを証言される。天使たちも、知識を備えた者たちも、同じく証言する—かれは公正を保っておられる。かれのほかに神はなく、偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。アッラーの御目における真の宗教は、かれへの帰依である。啓典を授けられた者たちが意見を異にしたのは、知識がかれらに届いた後で、互いにねたみ競い合ったからにほかならない。アッラーのしるしを否定する者には—アッラーは清算に速い御方である。だからもしかれらがあなたと言い争うなら、言え、「わたしは自分のすべてをアッラーに委ねて帰依した。わたしに従う者たちも同じである。」また啓典を授けられた者たちと文字を知らない者たちに言え、「あなたがたは帰依したのか。」もしかれらが帰依するなら、かれらは導かれたのである。だが背き去るなら、あなたの務めはただ伝えることだけである。アッラーはそのしもべたちを見守っておられる。 (18-20)

アッラーのしるしを否定し、正当な理由もなく預言者たちを殺し、人々の中で公正を勧める者たちを殺す者たち—かれらに痛ましい懲罰の知らせを伝えなさい。かれらは、その行いが現世でも来世でも無に帰する者たちであり、かれらには援助者はない。あなたは、啓典の一部を授けられた者たちのことを考えなかったか。かれらは自分たちの間を裁くためにアッラーの啓典へと招かれるが、その一部の者は背を

向けて離れ去る―それはかれらが「業火がわたしたちに触れるのは、数えられたわずかな日々だけだ」と言うからである。かれらがでっち上げたものが、その宗教においてかれらを惑わしたのである。疑いの余地のない日に、われらがかれらを集めるとき、どうなるであろうか。そのとき、だれもが自分の稼いだものを十分に報いられ、だれも不当に扱われることはない。 (21-25)

言え、「アッラーよ、すべての王権の主よ。あなたはお望みの者に王権を授け、お望みの者から王権を取り上げられます。あなたはお望みの者を高め、お望みの者を低くされます。すべての善はあなたの御手にあります。あなたは万事に全能です。あなたは夜を昼の中に入らせ、昼を夜の中に入らせます。あなたは死んだものから生きたものを出し、生きたものから死んだものを出されます。そしてお望みの者に計り知れないほど糧を授けられます。」 (26-27)

信者たちは、信者たちをさしおいて、真理を否定する者たちを盟友としてはならない―そのようにする者は、アッラーとは何の関わりもない―ただし、用心のためにかれらから身を守る場合は別である。アッラーはご自身についてあなたがたに警告される。最後の帰り着く先はアッラーのもとである。言え、「あなたがたが胸の中にあることを隠しても現しても、アッラーはそれを知っておられる。かれは天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものを知っておられる。アッラーは万事に全能である。」だれもが、自分の行った善が目の前に置かれているのを見いだす日、自分の行った悪については、それと自分との間に遠い隔たりがあればよいのにと願う。アッラーはご自身についてあなたがたに警告される。アッラーはそのしもべたちに慈しみ深い御方である。言え、「あなたがたがアッラーを愛するなら、わたしに従いなさい。そうすればアッラーもあなたがたを愛し、あなたがたの罪を赦してくださる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。」言え、「アッラーと使徒に従いなさい。」だがかれらが背き去るなら―アッラーは真理を否定する者たちを愛されない。 (28-32)

アッラーはアーダムとヌーフ、イブラーヒームの一族とイムラーンの一族を、すべての人々の上に選ばれた。かれらは互いに血を引く子孫である。アッラーは全聴にして全知の御方である。イムラーンの妻がこう言ったときを思い起こしなさい。「主よ、わたしはこの胎内にあるものを、あなたへの奉仕にささげるものとして、あなたに誓ってささげます。どうかわたしからお受け入れください。まことにあなたは全聴にして全知の御方です。」ところがかの女を産んだとき、かの女は言った。

「主よ、わたしが産んだのは女の子です」―アッラーはかの女が何を産んだかをよく知っておられた。男は女と同じではない―「わたしはこの子をマルヤムと名づけました。この子とその子孫を、呪われた悪魔から守ってくださるよう、あなたにお委ねします。」主はかの女を快く受け入れ、健やかに育て、その世話をザカリーヤーに委ねられた。ザカリーヤーが聖所にかの女を訪ねるたびに、かの女のもとに糧があるのを見いだした。かれは言った。「マルヤムよ、これはどこからあなたに届いたのか。」かの女は言った。「アッラーのもとからです。アッラーはお望みの者に計り知れないほど糧を授けられます。」その場でザカリーヤーは主に祈った。かれは言った。「主よ、あなたのもとから良い子孫をわたしにお授けください。まことにあなたは祈りを聞き届けられる御方です。」するとかれが聖所で立って礼拝していたとき、天使たちがかれに呼びかけた。「アッラーはあなたにヤヒヤーの吉報を伝えられる。かれはアッラーからの御言葉を確証し、気高く、身を清く保ち、正しい者たちの中の預言者となる。」かれは言った。「主よ、どうしてわたしに息子がありえましょう。すでに老いがわたしに迫り、妻は子を産めない体ですのに。」かれは言われた。「そのとおりである。アッラーはお望みのことを何でも行われる。」かれは言った。「主よ、わたしにしるしをお示しください。」かれは言われた。「あなたのしるしは、三日の間、身ぶりのほかは人々に語りかけないことである。あなたの主を多く念じ、夕べと夜明けにかれを讃えなさい。」 (33-41)

また天使たちが言ったとき。「マルヤムよ、アッラーはあなたを選び、清め、世界のすべての女たちの上にあなたを選ばれた。マルヤムよ、あなたの主に敬虔に従い、ひれ伏し、身をかがめる者たちと共に身をかがめなさい。」（預言者よ）これは、われらがあなたに啓示する、目に見えない世界の知らせの一部である。かれらが、だれがマルヤムの世話を引き受けるかを決めるために葦の筆を投げてくじを引いたとき、あなたはかれらと共にいなかった。かれらが言い争ったときも、あなたはかれらと共にいなかった。 (42-44)

天使たちが言ったとき。「マルヤムよ、アッラーはあなたに、かれからの御言葉の吉報を伝えられる。その名はマスィーフ、マルヤムの子イーサーであり、現世でも来世でも栄誉を受け、アッラーのおそば近くに置かれる者の一人である。かれはゆりかごの中でも、成人してからも人々に語りかけ、正しい者たちの一人となる。」かの女は言った。「主よ、どうしてわたしに息子がありえましょう。どの男もわたしに触れたことがありませんのに。」かれは言われた。「そのとおりである。アッラーはお望みのものを何でも創られる。かれが事を定められるとき、ただそれに

『あれ』と言われるだけで、それはある。」またかれは、啓典と英知、律法と福音をかれに教え、イスラエルの子孫への使徒として遣わされる。かれはこう告げる。「わたしはあなたがたの主からのしるしを携えて、あなたがたのもとに来た。わたしはあなたがたのために粘土で鳥の形を作り、それに息を吹き込む。するとそれはアッラーのお許しによって鳥となる。またわたしはアッラーのお許しによって、目の見えない人と重い皮膚病の人を癒やし、死者を生き返らせる。またあなたがたが何を食べ、何を家に蓄えているかを、あなたがたに告げる。あなたがたが信者であるなら、まことにその中にはあなたがたへのしるしがある。またわたしは、わたし以前にあった律法を確証し、あなたがたに禁じられていたものの一部を許すために来た。わたしはあなたがたの主からのしるしを携えて来た。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。アッラーはわたしの主であり、あなたがたの主でもある。だからかれを崇めなさい。これがまっすぐな道である。」 (45-51)

イーサーはかれらの否定を感じ取ったとき、言った。「アッラーの道において、だれがわたしの助け手となるのか。」弟子たちは言った。「わたしたちがアッラーの助け手です。わたしたちはアッラーを信じます。わたしたちがかれに帰依した者であることを証言してください。わたしたちの主よ、わたしたちはあなたが下されたものを信じ、使徒に従います。だからわたしたちを証言する者たちの中に書き入れてください。」かれらは策謀を巡らし、アッラーもまた策謀を巡らされた。アッラーは最も優れた策謀者である。 (52-54)

アッラーが言われたとき。「イーサーよ、わたしはあなたをわたしのもとに召し、わたしのもとに引き上げ、真理を否定する者たちからあなたを清め、あなたに従う者たちを、復活の日まで、真理を否定する者たちの上に置く。それからあなたがたはみなわたしのもとに帰る。そしてあなたがたが意見を異にしていた事柄について、わたしはあなたがたの間を裁く。真理を否定する者たちについては、わたしは現世でも来世でも厳しく罰し、かれらには援助者はない。」信仰して善行に励む者たちには、かれはその報奨を十分に支払われる。アッラーは不正を行う者たちを愛されない。 (55-57)

（預言者よ）これは、われらがあなたに読み聞かせるしるしと、英知に満ちた訓戒である。アッラーの御目には、イーサーのたとえはアーダムのたとえと同じである。かれは土からかれを創り、それから「あれ」と言われると、かれはあった。これはあなたの主からの真理である。だから疑う者の一人となってはならない。あなたに

知識が届いた後で、このことについてあなたと言い争う者があれば、言え、「さあ、わたしたちの息子たちとあなたがたの息子たち、わたしたちの女たちとあなたがたの女たち、わたしたち自身とあなたがた自身を呼び集めよう。それから心を込めて祈り、偽りを言う者たちの上にアッラーの呪いを求めよう。」これこそ真実の物語である。アッラーのほかに神はない。アッラーはまことに偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。もしかれらが背き去るなら―アッラーは腐敗を広める者たちをよく知っておられる。言え、「啓典の民よ、わたしたちとあなたがたとの間に共通の言葉のもとに来なさい。わたしたちはアッラーのほかは何ものも崇めず、かれに何ものも並べず、わたしたちのだれも、アッラーをさしおいてほかの者を主としない、ということである。」もしかれらが背き去るなら、言え、「わたしたちがアッラーに帰依する者であることを証言しなさい。」 (58-64)

啓典の民よ、なぜあなたがたはイブラーヒームについて言い争うのか。律法も福音も、かれの後になってから下されたというのに。あなたがたは理性を働かせないのか。あなたがたは、いくらか知識のあることについて言い争ってきた―だがなぜ、何の知識もないことについて言い争うのか。アッラーは知っておられるが、あなたがたは知らない。イブラーヒームはユダヤ教徒でもキリスト教徒でもなかった。かれはアッラーに帰依した純正な信仰の人であり、かれに同位者を並べる者ではなかった。イブラーヒームに最も近い人々は、かれに従った者たちと、この預言者と、信仰する者たちである。アッラーは信者たちの守護者である。 (65-68)

啓典の民の一部は、あなたがたを迷わせたいと望んでいる。だがかれらが迷わせているのは自分自身にほかならず、しかもそれに気づいていない。啓典の民よ、あなたがた自身が証人でありながら、なぜアッラーのしるしを否定するのか。啓典の民よ、なぜ知りながら真理に偽りの衣を着せ、真理を隠すのか。啓典の民の一部は言う。「信者たちに下されたものを一日の初めに信じ、その終わりには否定しなさい。そうすればかれらは引き返すかもしれない。そしてあなたがたの宗教に従う者のほかは、だれも信用してはならない。」（預言者よ）言え、「真の導きはアッラーの導きである」―かれらは、あなたがたに授けられたのと同様のものがだれかに授けられること、あるいはあなたがたの主の御前でかれらがあなたがたに言い負かされることを恐れている。言え、「すべての恵みはアッラーの御手にある。かれはお望みの者にそれを授けられる。アッラーはすべてを包み、すべてを知っておられる。かれはお望みの者を選んで慈悲を授けられる。アッラーは偉大な恵みの主である。」 (69-74)

啓典の民の中には、山ほどの黄金を預けても、それをあなたに返す者がいる。またかれらの中には、一枚の金貨を預けても、あなたがそばに立って催促し続けない限り、それを返さない者もいる。それはかれらが「文字を知らない者たちに対しては、わたしたちには何の責めもない」と言うからである—かれらは知りながら、アッラーについて偽りを語っている。そうではない。約束を果たし、アッラーを畏れる者—アッラーはかれを畏れる者たちを愛される。アッラーとの契約と自分の誓いをわずかな値で売る者たちには、来世で何の分け前もない。復活の日、アッラーはかれらに語りかけず、かれらに目を向けることもなく、かれらを清めることもされない。かれらには痛ましい懲罰が待っている。かれらの中には、啓典を読むときに舌をゆがめる一団がいる。それが啓典の一部であるとあなたがたに思わせるためであるが、それは啓典の一部ではない。またかれらは「これはアッラーからのものだ」と言うが、それはアッラーからのものではない—かれらは知りながら、アッラーについて偽りを語っている。 (75-78)

アッラーから啓典と英知と預言者の位を授けられた人間が、人々に向かって「アッラーではなく、わたしのしもべとなりなさい」と言うことはありえない。むしろかれはこう言うであろう。「あなたがたは啓典を教え、またそれを学んでいるのだから、主にひたすら仕える者となりなさい。」またかれが、天使たちや預言者たちを主とするようあなたがたに命じることもない。あなたがたがアッラーに帰依した後で、真理を否定するようかれが命じるであろうか。 (79-80)

アッラーが預言者たちと契約を結ばれたとき。「わたしがあなたがたに啓典と英知を授け、その後あなたがたのもとにあるものを確証する使徒が来たなら、あなたがたは必ずかれを信じ、かれを助けなさい。」かれは言われた。「あなたがたはこれを承認し、このことについてわたしとの固い約束を引き受けるか。」かれらは言った。「わたしたちは承認します。」かれは言われた。「それなら証言しなさい。わたしもあなたがたと共に証人の一人である。」この後で背き去る者—かれらこそ背く者である。かれらはアッラーの宗教以外のものを求めるのか。天と地にあるすべてのものは、進んでであれ、いやいやであれ、かれに帰依しており、かれのもとに帰されるというのに。 (81-83)

言え、「わたしたちはアッラーを信じ、わたしたちに下されたもの、イブラーヒーム、イスマーイール、イスハーク、ヤアクーブと諸部族に下されたもの、ムーサーとイーサーと預言者たちに主から授けられたものを信じる。わたしたちはかれらの

だれをも区別しない。わたしたちはかれに帰依する。」アッラーへの帰依のほかに宗教を求める者は、決してそれを受け入れられず、来世では損失者の一人となる。信仰した後で、また使徒が真実であると証言し、明らかな証拠が届いた後で真理を否定した民を、アッラーがどうして導かれようか。アッラーは不正を行う民を導かれない。かれらへの報いは、アッラーと天使たちと全人類の呪いがかれらの上にあることであり、かれらは永遠にその中にとどまる。その懲罰は軽くされず、猶予も与えられない—ただしその後で悔い改め、行いを正す者たちは別である。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。信仰した後で真理を否定し、さらに否定を深めた者たち—かれらの悔い改めは決して受け入れられない。かれらこそ迷った者である。真理を否定し、否定したまま死ぬ者たち—たとえ大地を満たすほどの黄金を身代金として差し出しても、そのだれからも受け入れられない。かれらには痛ましい懲罰が待っており、援助者もない。あなたがたは、自分の愛するものの中から施さない限り、真の正しさに達することは決してない。あなたがたが何を施しても、アッラーはそれをよく知っておられる。 (84-92)

律法が下される前には、イスラエルが自らに禁じたもののほか、すべての食べ物はイスラエルの子孫に許されていた。言え、「あなたがたが真実を語っているのなら、律法を持って来て読み上げなさい。」この後でアッラーについて偽りをでっち上げる者—かれらこそ不正を行う者である。言え、「アッラーは真実を語られた。だから純正な信仰の人イブラーヒームの宗教に従いなさい。かれはアッラーに同位者を並べる者ではなかった。」人々のために建てられた最初の館は、バッカにあるあの館であり、祝福に満ち、万有への導きである。その中には明らかなしるし—イブラーヒームの立ち処—がある。そこに入る者はだれでも安全である。この館への巡礼は、そこに赴く道を見いだせるすべての人がアッラーに対して負う務めである。否定する者については—アッラーは万有を必要とされない。言え、「啓典の民よ、なぜアッラーのしるしを否定するのか。アッラーはあなたがたの行うことすべての証人であるのに。」言え、「啓典の民よ、あなたがた自身がその真実の証人でありながら、なぜ信仰する者たちをアッラーの道から妨げ、それを曲げようとするのか。アッラーはあなたがたの行うことを見過ごされはしない。」 (93-99)

信仰する者たちよ、もしあなたがたが啓典を授けられた者たちの一部に従うなら、かれらはあなたがたを信仰の後に再び否定する者に戻してしまう。アッラーのしるしがあなたがたに読み聞かされ、その使徒があなたがたの中にいるのに、どうしてあなたがたは真理を否定できようか。アッラーにしっかりとすがる者は、まっすぐ

な道に導かれたのである。信仰する者たちよ、アッラーにふさわしい畏れをもってかれを畏れなさい。そしてかれに帰依した者としてでなければ死んではならない。みな一緒にアッラーの綱にしっかりとすがり、分裂してはならない。あなたがたへのアッラーの恵みを思い起こしなさい。あなたがたが敵同士であったとき、かれはあなたがたの心を結び合わせ、その恵みによってあなたがたは兄弟となった。またあなたがたが火の穴の縁にいたとき、かれはあなたがたをそこから救われた。このようにアッラーはあなたがたにそのしるしを明らかにされる。あなたがたが導かれるように。あなたがたの中に、善へと呼びかけ、正しいことを勧め、悪いことを禁じる一団がなければならない。これらの者こそ成功する者である。明らかな証拠が届いた後で分裂し、意見を異にした者たちのようになってはならない。かれらには重大な懲罰が待っている。その日、ある顔は白くなり、ある顔は黒くなる。顔が黒くなった者たちには言われる。「あなたがたは信仰した後で真理を否定したのか。それなら、否定していたことのゆえに懲罰を味わいなさい。」顔が白くなった者たちは、アッラーの慈悲の中にあり、永遠にそこにとどまる。これらはアッラーのしるしであり、われらはそれを真理をもってあなたに読み聞かせる。アッラーは万有のだれに対しても不正を望まれない。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはアッラーのものであり、すべての事はアッラーに帰される。 (100-109)

あなたがたは、人類のために興された最良の共同体である。あなたがたは正しいことを勧め、悪いことを禁じ、アッラーを信じる。啓典の民も信仰していたなら、かれらにとってより良かったであろう。かれらの中には信者もいるが、大多数は背く者である。かれらは、わずかな痛手のほかはあなたがたに害を加えられない。あなたがたと戦えば、かれらは背を向けて逃げ、その後は助けられることもない。かれらはどこで見いだされても、屈辱を刻みつけられている。ただしアッラーとの結びつきと人々との結びつきを保っている場合は別である。かれらはアッラーの怒りを身に招き、惨めさを刻みつけられた。それは、かれらがアッラーのしるしを否定し、正当な理由もなく預言者たちを殺していたからである。それは、かれらが逆らい、掟を越え続けたからである。かれらがみな同じというわけではない。啓典の民の中にも正しく立つ一団がいて、夜の時を通してアッラーのしるしを読誦し、ひれ伏している。かれらはアッラーと最後の日を信じ、正しいことを勧め、悪いことを禁じ、善い行いに急ぐ。かれらは正しい者たちの中にいる。かれらがどんな善を行っても、その報いを拒まれることはない。アッラーは、かれを畏れる者たちをよく知っておられる。 (110-115)

真理を否定する者たちには、その財産も子どもたちも、アッラーに対して何の役にも立たない。かれらは業火の住人であり、そこにとどまり続ける。かれらが現世の生活で費やすものは、身を切る霜を運ぶ風のようである。それは自分自身に不正を行った民の耕地を襲い、滅ぼしてしまう。アッラーがかれらに不正を行われたのではない。かれらが自分自身に不正を行ったのである。 (116-117)

信仰する者たちよ、あなたがたの仲間以外の者を親密な友としてはならない。かれらはあなたがたを滅ぼすためには労を惜しまず、あなたがたが苦しむことを切に望んでいる。憎しみはすでにかれらの口から現れているが、その胸が隠しているものはさらにひどい。われらはあなたがたにしるしを明らかにした。あなたがたが理性を働かせるなら。あなたがたはかれらを愛しているのに、かれらはあなたがたを愛さない。あなたがたは啓典のすべてを信じているというのに。かれらはあなたがたに会えば「わたしたちは信じる」と言うが、自分たちだけになると、あなたがたへの怒りのあまり指先をかむ。言え、「あなたがたの怒りのうちに死ぬがよい。」アッラーは胸の中にあることをよく知っておられる。あなたがたに何か良いことが起これば、それはかれらを悲しませ、悪いことが起これば、かれらはそれを喜ぶ。だがあなたがたが耐え忍び、アッラーを畏れるなら、かれらの策謀は少しもあなたがたを害さない。アッラーはかれらの行うことをすべて取り囲んでおられる。 (118-120)

（預言者よ）あなたが朝早く家族のもとを出て、信者たちを戦いの持ち場に配置したときを思い起こしなさい—アッラーは全聴にして全知の御方である—そのとき、あなたがたの中の二つの集団が気力を失いかけた。だがアッラーはかれらの守護者であった。信者たちはアッラーにこそ信頼を寄せなさい。あなたがたが取るに足りない少数であったとき、アッラーはすでにバドルであなたがたを助けられた。だからアッラーを畏れなさい。あなたがたが感謝するように。あなたが信者たちに言ったとき。「主が、下された三千の天使であなたがたを加勢してくださることでは、あなたがたには十分ではないのか。」いや、もしあなたがたが耐え忍び、アッラーを畏れるなら、敵がにわかにあなたがたに襲いかかっても、主はしるしを帯びた五千の天使であなたがたを加勢してくださる。アッラーがそれを定められたのは、ただあなたがたへの吉報とし、それによってあなたがたの心を安んじさせるためである—助けは、偉力ならびなく英知に満ちたアッラーのもとからのみ来る—また真理を否定する者たちの一翼を断ち切り、あるいはかれらを卑しめて、望みを失って引き返させるためである。かれが慈悲をもってかれらを顧みられるか、あるいはかれ

らを罰されるかについて、あなたには何の関わりもない。かれらは不正を行う者なのである。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはアッラーのものである。かれはお望みの者を赦し、お望みの者を罰される。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (121-129)

信仰する者たちよ、倍にしまた倍にして利子をむさぼってはならない。アッラーを畏れなさい。あなたがたが成功するように。真理を否定する者たちのために用意された業火から身を守りなさい。アッラーと使徒に従いなさい。あなたがたが慈悲を受けるように。あなたがたの主からの赦しと、天と地ほどに広い楽園に向かって急ぎなさい。それはアッラーを畏れる者たちのために用意されている―かれらは楽なときも苦しいときもかれの道のために施し、怒りを抑え、人々を赦す。アッラーは善を行う者を愛される―またかれらは、醜行を犯したり自分自身に不正を行ったりしたとき、アッラーを念じて自分の罪の赦しを請う―アッラーのほかにだれが罪を赦せようか―そして自分のしたことを、知りながら続けはしない。これらの者への報いは、主からの赦しと、川が下を流れる楽園であり、かれらは永遠にそこに住む。努め励む者たちへの報奨は何とすばらしいことか。 (130-136)

あなたがた以前にも、さまざまな生き方が過ぎ去った。だから地上を旅して、真理を否定した者たちの最後がどうであったかを見なさい。これは人々への明らかな言明であり、アッラーを畏れる者たちへの導きと訓戒である。気力を失ってはならない。悲しんでもならない。あなたがたが信者であるなら、あなたがたこそ優位に立つ。もしあなたがたが傷を負ったとしても、相手の民も同様の傷を負っている。われらはこのような日々を人々の間に代わる代わる巡らせる。アッラーが信仰する者たちを知り、あなたがたの中から証人を取られるためである―アッラーは不正を行う者たちを愛されない―またアッラーが信仰する者たちを清め、真理を否定する者たちを消し去られるためである。それともあなたがたは、アッラーがあなたがたの中の奮闘する者たちを知り、耐え忍ぶ者たちを知ることなしに、楽園に入れると思ったのか。あなたがたは死に出会う前には、それを願っていた。今やあなたがたは、自分の目でそれを見たのである。 (137-143)

ムハンマドは一人の使徒にすぎない。かれ以前にも使徒たちは過ぎ去った。もしかれが死ぬか、殺されるかしたなら、あなたがたはきびすを返すのか。きびすを返す者は、少しもアッラーを害することはない。アッラーは感謝する者たちに報いられる。だれも、アッラーのお許しによって、書き記された定めの時にでなければ死ぬ

ことはできない。現世の報奨を望む者には、われらはその中から与える。来世の報奨を望む者には、われらはその中から与える。われらは感謝する者たちに報いる。どれほど多くの預言者が、多くの敬虔な者たちをかたわらに従えて戦ったことか。かれらは、アッラーの道のために身に降りかかったことにも気力を失わず、弱らず、屈しなかった。アッラーは耐え忍ぶ者たちを愛される。かれらが口にしたのはただこうであった。「わたしたちの主よ、わたしたちの罪と、わたしたちの事における行き過ぎを赦し、足場を固め、真理を否定する民に対してわたしたちを助けてください。」そこでアッラーは、現世の報奨と来世のすばらしい報奨をかれらに授けられた。アッラーは善を行う者を愛される。 (144-148)

信仰する者たちよ、もしあなたがたが真理を否定する者たちに従うなら、かれらはあなたがたにきびすを返させ、あなたがたは損失者となる。いや、アッラーこそあなたがたの守護者であり、最も優れた援助者である。われらは真理を否定する者たちの心に恐怖を投げ込む。かれらが、アッラーが何の権威も下されなかったものをかれに並べたからである。かれらの住みかは業火である―不正を行う者たちの住まいは何と悪いことか。アッラーは確かにあなたがたへの約束を果たされた。あなたがたがお許しによってかれらを打ち破っていたときに―ところがあなたがたは気力を失い、命令について言い争い、あなたがたの切望していたものをかれが見せられた後で背いた。あなたがたの中には現世を望む者もあり、来世を望む者もあった。それからかれは、あなたがたを試みるために、かれらからあなたがたを退かせられた。だが今やかれはあなたがたを赦された。アッラーは信者たちに恵み深い御方である。あなたがたが、だれをも振り返らずに山腹を登っていたときを思い起こしなさい。使徒は後ろからあなたがたを呼んでいた。そこでかれは、悲しみに悲しみを重ねてあなたがたに報いられた。あなたがたが逃したものについても、身に降りかかったことについても、嘆かないようにするためである。アッラーはあなたがたの行うことによく通じておられる。それからその悲しみの後で、かれはあなたがたの上に安らぎを下された―あなたがたの一部を包んだまどろみである。一方、別の一部は自分のことばかりを気にかけ、アッラーについて正しくないこと、無知の時代の考えを抱き、「わたしたちにこの事で何か口を出せることがあるのか」と言った。言え、「事はすべてアッラーのものである。」かれらは、あなたに明かさないことを心の中に隠している。かれらは「もしわたしたちにこの事で口を出せることがあったなら、ここで殺されることはなかった」と言う。言え、「たとえあなたがたが家にとどまっていても、殺されることが定められた者たちは、倒れ伏す場所へと出

て行ったであろう」―それはアッラーが、あなたがたの胸の中にあるものを試し、心の中にあるものを清められるためである。アッラーは胸の中にあることをよく知っておられる。両軍が相まみえた日に、あなたがたの中で背を向けた者たち―かれらが行った何事かのために、悪魔がかれらをつまずかせたのである。だがアッラーは今やかれらを赦された。アッラーはよく赦し、寛容な御方である。 (149-155)

信仰する者たちよ、真理を否定する者たちのようになってはならない。かれらは、地上を旅し、あるいは戦いに出た兄弟たちについて、「かれらがわたしたちのもとにとどまっていたなら、死ぬことも殺されることもなかったのに」と言う―アッラーはそれをかれらの心の中の悔恨の種とされる。生を与え死を与えるのはアッラーである。アッラーはあなたがたの行うことをすべて見ておられる。もしあなたがたがアッラーの道で殺され、あるいは死んでも、アッラーからの赦しと慈悲は、かれらが蓄えるすべてのものよりも確かに良い。あなたがたが死んでも殺されても、あなたがたが集められるのはアッラーのもとである。 (156-158)

（預言者よ）あなたがかれらに優しくしたのは、アッラーからの慈悲によるものであった。もしあなたが荒々しく、心の冷たい人であったなら、かれらはあなたの周りから散り去っていたであろう。だからかれらを赦し、かれらのために赦しを請い、事に当たってはかれらと相談しなさい。そして決心したなら、アッラーに信頼を寄せなさい。アッラーは、かれに信頼を寄せる者たちを愛される。アッラーがあなたがたを助けられるなら、だれもあなたがたに打ち勝つことはできない。だがかれがあなたがたを見捨てられるなら、その後でだれがあなたがたを助けられようか。だから信者たちはアッラーにこそ信頼を寄せなさい。 (159-160)

どの預言者も、戦利品について不正を働くことはありえない。不正を働く者は、復活の日に自分の取ったものを携えて来る。そのとき、だれもが自分の稼いだものを十分に報いられ、だれも不当に扱われることはない。アッラーのご満悦を追い求める者が、アッラーの不興を身に招き、地獄を住みかとする者と同じであろうか。何と悪い行き着く先であろう。かれらはアッラーの御目には異なる位階にある。アッラーはかれらの行うことをすべて見ておられる。 (161-163)

アッラーは確かに信者たちに恵みを施された。かれらの中に、かれら自身の中から一人の使徒を遣わされたのである。かれはアッラーのしるしをかれらに読み聞かせ、かれらを清め、啓典と英知を教える。それ以前、かれらは明らかな迷いの中にいた。あなたがたは敵にその二倍の打撃を与えていたのに、災難があなたがたを襲うと、

どうして「これはどこから来たのか」と言ったのか。言え、「それはあなたがた自身から来たのである。」アッラーは万事に全能である。両軍が相まみえた日にあなたがたに降りかかったことは、アッラーのお許しによるものであり、かれが信者たちを知り、また偽信者たちを知るためであった。かれらは「来なさい。アッラーの道で戦うか、せめて身を守りなさい」と言われると、「戦いになると分かっていたなら、必ずあなたがたに従ったのに」と言った。その日かれらは、信仰よりも否定のほうに近かった。心にないことを口で言っていたのである。アッラーはかれらが隠すことを最もよく知っておられる。 (164-167)

かれらは、自分は家にとどまりながら、兄弟たちについて「かれらがわたしたちの言うことを聞いていたなら、殺されなかったのに」と言った者たちである。言え、「あなたがたが真実を語っているのなら、自分自身から死を追い払ってみなさい。」アッラーの道で殺された者たちを、死んだ者と思ってはならない。いや、かれらは生きており、主の御前で糧を授けられ、アッラーがその恵みから授けられたものを喜んでいる。また、まだかれらに加わらず後に残っている者たちについても、かれらには恐れもなく、悲しむこともないことを喜んでいる—アッラーからの恩恵と恵みを喜び、アッラーが信者たちの報奨を無駄にされないことを喜んでいる。傷を負った後でアッラーと使徒の呼びかけに応えた者たち—その中で善を行い、アッラーを畏れた者たちには大きな報奨がある—人々がかれらに「人々があなたがたに向かって集結した。だからかれらを恐れなさい」と言ったとき、それはかれらの信仰を増すばかりであった。かれらは言った。「わたしたちにはアッラーがいれば十分である。何とすばらしい、すべてを委ねるべき御方であろう。」こうしてかれらは、アッラーからの恩恵と恵みを受けて帰って来た。何の害もかれらに触れず、かれらはアッラーのご満悦を追い求めた。アッラーは偉大な恵みの主である。あなたがたにその盟友たちを恐れさせるのは、悪魔にほかならない。だからかれらを恐れず、わたしを畏れなさい。あなたがたが信者であるなら。 (168-175)

否定へと急ぐ者たちのことで、あなたは悲しんではならない。かれらは少しもアッラーを害することはない。アッラーは、来世でかれらに何の分け前も与えまいと望んでおられる。かれらには重大な懲罰が待っている。信仰と引き換えに否定を買う者たちは、少しもアッラーを害することはない。かれらには痛ましい懲罰が待っている。真理を否定する者たちは、われらがかれらに与える猶予が自分のために良いことだと思ってはならない。われらがかれらに猶予を与えるのは、ただかれらが罪を重ねるためである。かれらには屈辱の懲罰が待っている。アッラーは、悪いもの

を良いものから分けられるまでは、信者たちを今あなたがたのいる状態のままに放っておかれない。またアッラーは、あなたがたに目に見えないことを知らせられはしない。だがアッラーは、その使徒たちの中からお望みの者を選んで、それを啓示される。だからアッラーとその使徒たちを信じなさい。あなたがたが信仰し、アッラーを畏れるなら、あなたがたには大きな報奨がある。アッラーがその恵みから授けられたものを出し惜しむ者たちは、それが自分のために良いことだと思ってはならない。いや、それはかれらにとって悪い。かれらが出し惜しんだものは、復活の日にかれらの首に巻きつけられる。天と地の相続はアッラーのものである。アッラーはあなたがたの行うことによく通じておられる。 (176-180)

アッラーは確かに、「アッラーは貧しく、わたしたちは富んでいる」と言った者たちの言葉を聞かれた。われらはかれらが言ったことと、かれらが正当な理由もなく預言者たちを殺したことを記録し、そして言う。「燃える業火の懲罰を味わいなさい。それはあなたがた自身の手が先に送ったもののためである―アッラーは決してそのしもべたちに不正を行われない。」かれらはこう言う者たちである。「アッラーはわたしたちと契約を結ばれた。火に焼き尽くされる供え物を持って来ない限り、どの使徒も信じてはならない、と。」言え、「わたし以前にも、使徒たちは明らかな証拠と、あなたがたの言うまさにそのものを携えて、あなたがたのもとに来た。あなたがたが真実を語っているのなら、なぜかれらを殺したのか。」（預言者よ）もしかれらがあなたを偽りとするなら、あなた以前の使徒たちも同じように偽りとされた。かれらは明らかな証拠と、書巻と、光を放つ啓典を携えて来たのである。だれもがみな死を味わう。そしてあなたがたが報奨を十分に支払われるのは、復活の日になってからである。業火から遠ざけられ、楽園に入れられる者は、まことに勝利を得たのである。現世の生活は、惑わしの楽しみにすぎない。あなたがたは必ず、財産においても自分の身においても試みられる。またあなたがた以前に啓典を授けられた者たちや、アッラーに同位者を並べる者たちから、心を傷つける多くの言葉を聞くであろう。だがあなたがたが耐え忍び、アッラーを畏れるなら、それこそ固い決意を要する事柄である。 (181-186)

アッラーが、啓典を授けられた者たちと契約を結ばれたとき。「あなたがたはそれを人々に明らかにし、隠してはならない。」ところがかれらはそれを背後に投げ捨て、わずかな値で売った―かれらが買ったものは何と悪いことか。自分のしたことを得意がり、自分のしなかったことでほめられるのを好む者たち―かれらが懲罰を免れると思ってはならない。かれらには痛ましい懲罰が待っている。 (187-188)

天と地の大権はアッラーのものである。アッラーは万事に全能である。天と地の創造の中に、また夜と昼の交替の中に、思慮ある者たちへのしるしがある―かれらは立っていても、座っていても、横になっていてもアッラーを念じ、天と地の創造について深く考える。「わたしたちの主よ、あなたはこれをいたずらに創られたのではありません。あなたに栄光あれ。どうか業火の懲罰からわたしたちをお守りください。」「わたしたちの主よ、あなたが業火に入れられる者は、あなたが確かに辱められた者です。不正を行う者たちには援助者はありません。わたしたちの主よ、わたしたちは、『あなたがたの主を信じなさい』と信仰へと呼びかける者の声を聞き、信じました。わたしたちの主よ、わたしたちの罪を赦し、悪い行いを消し去り、正しい者たちと共に死なせてください。わたしたちの主よ、あなたの使徒たちを通して約束されたものをわたしたちにお与えください。復活の日にわたしたちを辱めないでください。あなたは決して約束をたがえられません。」そこで主はかれらに答えられた。「わたしは、男であれ女であれ、あなたがたのうち働く者の働きを決して無駄にしない―あなたがたは互いに同じ仲間である。移住した者、住まいから追われた者、わたしの道のために害を受けた者、戦い、殺された者―わたしは必ずかれらの悪い行いを消し去り、川が下を流れる楽園に入れる。これはアッラーからの報奨である。アッラーのもとにこそ、最も良い報奨がある。」 (189-195)

（預言者よ）真理を否定する者たちが地上を行き来していることに、あなたは惑わされてはならない。それはつかの間の楽しみであり、その後のかれらの住みかは地獄である―何と悪い休み場であろう。だが主を畏れる者たちには、川が下を流れる楽園があり、かれらは永遠にそこに住む。これはアッラーからのもてなしである。アッラーのもとにあるものは、正しい者たちにとって最も良い。 (196-198)

啓典の民の中にも、アッラーを信じ、あなたがたに下されたものと自分たちに下されたものを信じ、アッラーの御前にへりくだる者たちが確かにいる。かれらはアッラーのしるしをわずかな値で売らない。かれらには主のもとに報奨がある。アッラーは清算に速い御方である。信仰する者たちよ、耐え忍び、忍耐においてほかの者に勝り、堅く立ち、アッラーを畏れなさい。あなたがたが成功するように。 (199-200)

4. 女性 (Al-Nisāʾ)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

人々よ、あなたがたの主を畏れなさい。かれは一つの魂からあなたがたを創り、それからその配偶者を創り、その二人から多くの男と女を広められた。アッラーを畏れなさい。あなたがたはその御名において互いに求め合う。また血縁のきずなを重んじなさい。アッラーは常にあなたがたを見守っておられる。[5] (1)

孤児たちにその財産を渡しなさい。良いものを悪いものと取り替えてはならない。かれらの財産を自分の財産と一緒にして食い尽くしてはならない—それは確かに大きな罪である。もしあなたがたが、孤児の娘たちを公正に扱えないと恐れるなら、あなたがたに良いと思われるほかの女たちと、二人、三人、または四人と結婚しなさい。だがかの女たちの間で公正にできないと恐れるなら、一人だけか、あるいは女奴隷にしなさい。そのほうが、あなたがたが不正に陥るのを防ぐうえでより適している。女たちにはその婚資を心からの贈り物として与えなさい。だがかの女たちが自ら進んでその一部をあなたがたに譲るなら、心安らかにそれを享受しなさい。(2-4)

アッラーがあなたがたの暮らしの支えとされた財産を、思慮に欠ける者たちに渡してはならない。だがそこからかれらを養い、衣服を与え、優しい言葉で語りかけなさい。孤児たちが結婚できる年頃になるまで、かれらを試しなさい。そしてかれらに確かな分別があると認めたなら、その財産をかれらに渡しなさい。かれらが成長する前に、浪費し、急いでそれを食い尽くしてはならない。後見人で富んでいる者は、それに手をつけることを控えなさい。貧しい者は、公正な範囲でそこから取ってもよい。かれらに財産を渡すときには、かれらの立ち会いのもとで証人を立てなさい—もっとも、清算者としてはアッラーで十分である。(5-6)

男たちには、両親と近親が残したものの中に取り分があり、女たちにも、両親と近親が残したものの中に取り分がある。少なくても多くても、定められた取り分である。分配の場にほかの親族や孤児や貧しい者たちが居合わせたなら、そこからいくらかを与え、優しい言葉で語りかけなさい。自分が力のない子孫を後に残すとした

[5] これは、ニカーフ、すなわちムスリムの結婚式の際に必ず読誦される、クルアーンの重要な節です。この節には、導かれた進化についての、控えめながらも実に劇的な示唆が含まれています。エバがアダムのあばら骨から出たとする聖書の記述とは異なり、クルアーンは、最初の配偶者が女性の存在から出たと述べ、進化の初期に有性生殖が初めて現れた時のことを示唆しています。

ら、その行く末を案じるであろう者たちは、他人のためにも同じように案じなさい。アッラーを畏れ、まっすぐな言葉を語りなさい。孤児の財産を不当に食い尽くす者たちは、腹の中に火を呑み込んでいるにほかならない。かれらは燃えさかる炎で焼かれる。 (7-10)

アッラーはあなたがたの子どもたちについて、こう命じられる。男子の取り分は女子二人分に等しい。もし娘だけで二人以上なら、その取り分は故人が残したものの三分の二である。一人だけなら、その取り分は半分である。故人の両親は、故人に子があれば、それぞれが残されたものの六分の一を受ける。子がなく、両親が相続人であれば、母親は三分の一を受ける。故人に兄弟姉妹があれば、母親は六分の一を受ける―これは、故人がした遺贈や債務を果たした後のことである。あなたがたの両親とあなたがたの子どもたち―そのどちらがあなたがたにとってより身近に益をもたらすかを、あなたがたは知らない。これはアッラーからの定めである。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。あなたがたの妻が残したものについては、かの女たちに子がなければ、あなたがたは半分を受ける。子があれば、残したものの四分の一を受ける―かの女たちがした遺贈や債務を果たした後のことである。あなたがたが残したものについては、あなたがたに子がなければ、妻たちは四分の一を受ける。子があれば、残したものの八分の一を受ける―あなたがたがした遺贈や債務を果たした後のことである。もし男であれ女であれ、直系の相続人を残さず、兄弟か姉妹が一人いるなら、その二人はそれぞれ六分の一を受ける。それより多ければ、かれらは三分の一を分け合う―なされた遺贈や債務を果たした後のことであり、だれにも害を与えてはならない。これはアッラーからの命令である。アッラーはすべてを知り、寛容な御方である。これらはアッラーが定められた境界である。アッラーとその使徒に従う者を、かれは川が下を流れる楽園に入れ、その者は永遠にそこに住む。それこそ大いなる勝利である。だがアッラーとその使徒に背き、かれの境界を踏み越える者を、かれは業火に入れ、その者は永遠にそこにとどまる。かれには屈辱の懲罰が待っている。 (11-14)

あなたがたの女たちのうちで醜行を犯す者があれば、あなたがたの中から四人の証人を立てなさい。かれらが証言したなら、死が訪れるか、アッラーがかの女たちのために道を定められるまで、かの女たちを家にとどめておきなさい。あなたがたのうちの二人がそれを犯したなら、二人とも罰しなさい。だが悔い改めて行いを正すなら、そのままにしておきなさい。アッラーは悔悟をよく受け入れる、慈愛深い御方である。アッラーが悔い改めを受け入れられるのは、無知のために悪を行い、そ

の後すぐに悔い改める者たちだけである。これらの者をアッラーは慈悲をもって顧みられる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。だが悪を行い続け、死が訪れてから「今こそわたしは悔い改めます」と言う者の悔い改めは受け入れられない。真理を否定したまま死ぬ者たちの悔い改めも同じである。かれらのためにわれらは痛ましい懲罰を用意した。 (15-18)

信仰する者たちよ、女たちをその意に反して相続することは、あなたがたに許されない。またかの女たちが明白な醜行を犯したのでない限り、与えたものの一部を取り戻すために、かの女たちを締めつけてはならない。優しくかの女たちと共に暮らしなさい。もしかの女たちを嫌うとしても、あなたがたが嫌うものの中に、アッラーが多くの善を置かれていることもある。もしあなたがたが、ある妻を別の妻と取り替えたいと望み、その一人に巨額の財宝を与えていたとしても、そこから何も取り戻してはならない。あなたがたは中傷と明らかな罪によって、それを取り戻すのか。互いに深く交わり、かの女たちがあなたがたから固い契約を取りつけたというのに、どうしてそれを取り戻せようか。 (19-21)

あなたがたの父が結婚した女たちと結婚してはならない—すでに過ぎたことは別である。それは醜行であり、忌まわしいことであり、悪い道であった。あなたがたに結婚が禁じられているのは、あなたがたの母、娘、姉妹、父方のおば、母方のおば、兄弟の娘、姉妹の娘、あなたがたに乳を与えた乳母、同じ乳で育った乳姉妹、妻の母、そしてあなたがたが床を共にした妻の連れ子であなたがたの保護のもとにいる継娘である—ただしその妻とまだ床を共にしていないなら、あなたがたに罪はない——またあなたがた自身の血を引く息子たちの妻である。また二人の姉妹を同時に妻とすることも禁じられている。すでに過ぎたことは別である。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。また、あなたがたの所有する女奴隷を除いて、夫のある女たちも禁じられている。これはあなたがたに対するアッラーの定めである。これら以外はすべてあなたがたに許されている。ただし財産を費やして、みだらな関係ではなく、正しい婚姻によって求める限りである。あなたがたがかの女たちと共に得た喜びに対しては、定められたものを務めとして与えなさい。務めが定まった後で、互いに合意することについては、あなたがたに罪はない。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。 (22-24)

あなたがたのうちで、信仰する自由人の女と結婚する資力のない者は、信仰する女奴隷の中から結婚しなさい。アッラーはあなたがたの信仰を最もよく知っておられ

る。あなたがたは互いに同じ仲間である。だからその家の者の許しを得てかの女たちと結婚し、公正なかたちでその婚資を与えなさい。貞節な女として迎え、みだらな関係を結ぶ者や、ひそかに愛人を持つ者としてではなく。結婚した後でかの女たちが醜行を犯したなら、自由人の女に定められた懲罰の半分を受ける。これは、あなたがたのうち罪に陥ることを恐れる者のためである。だが耐え忍ぶほうが、あなたがたにとってより良い。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。アッラーは、あなたがたに物事を明らかにし、あなたがた以前の者たちの道へと導き、慈悲をもってあなたがたを顧みようと望んでおられる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。アッラーは慈悲をもってあなたがたを顧みようと望んでおられる。だが自分の欲望に従う者たちは、あなたがたが大きく道をそれることを望んでいる。アッラーはあなたがたの重荷を軽くしようと望んでおられる。人間は弱いものとして創られたのである。 (25-28)

信仰する者たちよ、互いの財産を不当に食い尽くしてはならない。互いの合意による商いによりなさい。また互いに殺し合ってはならない。アッラーはあなたがたに慈愛深い御方である。敵意と不正によってそのようなことをする者を、われらは業火に投げ込む。それはアッラーにとって易しいことである。もしあなたがたが、禁じられた大きな罪を避けるなら、われらはあなたがたの小さな過ちを消し去り、栄誉ある門から入れる。アッラーがあなたがたのある者をほかの者よりも恵まれたものを、うらやんではならない。男たちには自分が稼いだものの取り分があり、女たちにも自分が稼いだものの取り分がある。アッラーにその恵みを請いなさい。アッラーはすべてのことを知り尽くしておられる。両親と近親が残したものについて、われらはだれにでも相続人を定めた。あなたがたが誓いを交わした者たちにも、その取り分を与えなさい。アッラーはすべてのことの証人である。 (29-33)

男たちは女たちを支え守る者である。アッラーが一方に他方よりも多くを授けられたからであり、またかれらが自分の財産から費やすからである。だから正しい女たちは敬虔であり、夫の留守の間、アッラーが守らせようとされたものを守る。あなたがたが反抗を恐れる女たちには、まず諭し、それから寝床で一人にし、それから離れなさい。だがかの女たちがあなたがたに従うなら、かの女たちを責める道を求めてはならない。アッラーは至高にして至大の御方である。もしあなたがたが二人の間の破綻を恐れるなら、夫の一族から一人、妻の一族から一人の調停者を立てなさい。二人が和解を望むなら、アッラーは二人を和合させられる。アッラーはすべてを知り、すべてに通じておられる。 (34-35)

アッラーを崇め、かれに何ものも並べてはならない。両親に良くしなさい。また近親、孤児、貧しい者、近い隣人、縁のない隣人、かたわらの仲間、旅人、そして奴隷たちにも。アッラーは高慢な者、自慢する者を愛されない―かれらは出し惜しみ、ほかの者にも出し惜しむよう勧め、アッラーがその恵みから授けられたものを隠す。真理を否定する者たちのために、われらは屈辱の懲罰を用意した―またかれらは、人に見せるために財産を費やし、アッラーも最後の日も信じない。悪魔を仲間とする者―それは何と悪い仲間であろう。かれらがアッラーと最後の日を信じ、アッラーが授けられたものの中から施したとして、かれらに何の害があろうか。アッラーはかれらをよく知っておられる。アッラーは、ちり一粒の重さほどもだれにも不正を行われない。善い行いがあれば、かれはそれを何倍にも増やし、ご自分のもとから大きな報奨を授けられる。われらがそれぞれの共同体から一人の証人を連れて来て、（預言者よ）あなたをこれらの者たちに対する証人として連れて来るとき、どうなるであろうか。その日、真理を否定し、使徒に背いた者たちは、大地が自分たちの上で平らにならされることを願う。かれらはアッラーに何一つ隠すことができない。 (36-42)

信仰する者たちよ、酔っているときには、自分の言っていることが分かるようになるまで礼拝に近づいてはならない。また大きな不浄の状態にあるときも―通り過ぎるだけの場合を除いて―全身を洗うまでは近づいてはならない。もしあなたがたが病気であるか、旅の途中にあるか、あるいはだれかが用を足して来たか、女たちに触れたかして、水を見つけられないなら、清い土を取り、それで顔と手をぬぐいなさい。アッラーはよく大目に見て、よく赦される御方である。 (43)

あなたは、啓典の一部を授けられた者たちのことを考えなかったか。かれらは迷いを買い、あなたがたもまた道を見失うことを望んでいる。アッラーはあなたがたの敵がだれであるかを最もよく知っておられる。守護者としてはアッラーで十分であり、援助者としてもアッラーで十分である。ユダヤ教徒の中には、言葉をその場所からずらし、「わたしたちは聞き、そして背く」「聞け、聞かされぬ者よ」「ラーイナー」などと言う者がいる―舌をゆがめ、宗教を攻撃しているのである。もしかれらが「わたしたちは聞き、従います」「お聞きください」「ウンズルナー」と言っていたなら、かれらにとってより良く、より正しかったであろう。だがアッラーはその否定のゆえにかれらを呪われた。だからかれらはわずかしか信じない。 (44-46)

啓典を授けられた者たちよ、あなたがたのもとにすでにあるものを確証するものとしてわれらが下したものを信じなさい。われらが顔を消し去ってそれを後ろ向きにし、あるいは安息日の人々を呪ったようにかれらを呪う前に。アッラーの命令は必ず成し遂げられる。アッラーは、かれに何かが並べられることを赦されない。だがそれ以下のことは、お望みの者に赦される。アッラーに何かを並べる者は、とてつもない罪をでっち上げたのである。あなたは、自分は清いと言い張る者たちのことを考えなかったか。いや、お望みの者を清められるのはアッラーである。かれらは、なつめやしの種の筋一本ほども不当に扱われることはない。見なさい、かれらがどのようにアッラーについて偽りをでっち上げるかを。それだけで明白な罪である。あなたは、啓典の一部を授けられた者たちのことを考えなかったか。かれらは偶像と偽りの神々を信じ、真理を否定する者たちについて「これらの者は信者たちよりも正しく導かれている」と言う。かれらは、アッラーが呪われた者たちである。アッラーが呪われた者には、あなたは援助者を見いだせない。それともかれらに、王権の分け前があるのか。もしあったとしても、かれらは人々に、なつめやしの種のくぼみほどのものも与えないであろう。それともかれらは、アッラーがその恵みから人々に授けられたものをねたむのか。われらはイブラーヒームの一族に啓典と英知を授け、強大な王国を授けた。かれらの中にはかれを信じた者もあり、かれから背き去った者もある。燃えさかる火としては地獄で十分である。われらのしるしを否定する者たちを、われらは業火に投げ込む。その皮膚が焼け尽きるたびに、われらはそれを別の皮膚に取り替える。かれらが懲罰を味わうように。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。だが信仰して善行に励む者たちを、われらは川が下を流れる楽園に入れ、かれらは永遠にそこに住む。そこには清らかな伴侶たちがいて、われらはかれらを幾重にも重なる木陰に入れる。 (47-57)

アッラーはあなたがたに、預かったものをその持ち主に返すこと、また人々の間を裁くときには公正に裁くことを命じられる。アッラーがあなたがたを諭されることは、何とすばらしいことか。アッラーは全聴にして、すべてを見ておられる。信仰する者たちよ、アッラーに従い、使徒と、あなたがたの中で権威を持つ者たちに従いなさい。何かについて意見を異にしたなら、それをアッラーと使徒に委ねなさい。あなたがたがアッラーと最後の日を信じるなら。それが最も良く、結末も最もすぐれている。あなたは、あなたに下されたものとあなた以前に下されたものを信じると言い張る者たちのことを考えなかったか。かれらは偽りの裁き手のもとに争いを持ち込もうと望んでいる。それを退けるよう命じられていたのに。悪魔はかれらを

遠く迷わせようと望んでいる。「アッラーが下されたものと使徒のもとに来なさい」と言われると、あなたは偽信者たちが、嫌悪してあなたから背を向けるのを見る。自分の手が先に送ったもののために災難がかれらに降りかかるとき、どうなるであろうか。そのときかれらはあなたのもとに来て、「わたしたちは善意と和解のほか何も望んでいなかった」とアッラーにかけて誓う。アッラーはこれらの者の心の中にあることを知っておられる。だからかれらから離れ、かれらを諭し、かれら自身について心に染み通る言葉を語りなさい。 (58-63)

われらが使徒を遣わしたのは、ただアッラーのお許しによって従われるためである。（預言者よ）かれらが自分自身に不正を行ったとき、あなたのもとに来てアッラーの赦しを請い、使徒もまたかれらのために赦しを請うたなら、かれらはアッラーが悔悟をよく受け入れる、慈愛深い御方であることを見いだしたであろう。だが、いや、あなたの主にかけて、かれらは、自分たちの間の争いについてあなたを裁き手とし、あなたの下した決定に心の中で何の抵抗も感じず、すっかり従うようになるまでは、信じたことにはならない。もしわれらがかれらに「あなたがたの命を差し出しなさい」とか「あなたがたの住まいを去りなさい」と定めたなら、かれらのうちわずかな者しかそれを行わなかったであろう。かれらが諭されたとおりに行っていたなら、かれらにとってより良く、より強く信仰を固めることになったであろう。そのときわれらは、われらのもとから大きな報奨をかれらに与え、まっすぐな道に導いたであろう。アッラーと使徒に従う者は、アッラーが恵みを授けられた者たち――預言者たち、誠実な者たち、殉教者たち、正しい者たち――と共にいる。これらの者は何とすばらしい仲間であろう。それはアッラーからの恵みである。すべてを知る御方としては、アッラーで十分である。 (64-70)

信仰する者たちよ、警戒を怠ってはならない。そして分隊ごとに出陣するか、みな一緒に出陣しなさい。あなたがたの中には、後に残ってぐずぐずする者がいる。災難があなたがたに降りかかると、かれは「アッラーはわたしに恵みを施された。わたしはかれらと一緒にいなかったのだから」と言う。だがアッラーからの恵みがあなたがたに届くと、かれは――あなたがたとかれとの間に何の親しみもなかったかのように――「わたしもかれらと一緒にいたらよかったのに。そうすれば大きな成功を収めたであろうに」と言う。来世と引き換えに現世の生活を売る者たちは、アッラーの道で戦いなさい。アッラーの道で戦う者には、殺されても勝利を得ても、われらは大きな報奨を与える。あなたがたはどうして、アッラーの道のために、また虐げられた男たち、女たち、子どもたちのために戦わないのか。かれらはこう叫んで

いる。「わたしたちの主よ、住民が圧制者であるこの町から、わたしたちを連れ出してください。あなたのもとからわたしたちに守護者を立て、あなたのもとからわたしたちに援助者を立ててください。」信仰する者たちはアッラーの道のために戦い、真理を否定する者たちは偽りの神々の道のために戦う。だから悪魔の盟友たちと戦いなさい。悪魔の策略はまことに弱いものである。 (71-76)

あなたは、「手を控え、礼拝を守り、定めの喜捨をしなさい」と言われた者たちのことを考えなかったか。ところが戦うことが定められると、かれらの一部は、アッラーを畏れるように、いや、それ以上に人々を恐れて言った。「わたしたちの主よ、なぜあなたはわたしたちに戦うことを定められたのですか。もう少しの間、猶予してくだされればよかったのに。」言え、「現世の楽しみはわずかである。来世は、アッラーを畏れる者たちにとってより良い。あなたがたは、なつめやしの種の筋一本ほども不当に扱われることはない。」あなたがたがどこにいても、死はあなたがたに追いつく。たとえそびえ立つ塔の中にいても。かれらに良いことが起これば、「これはアッラーからのものだ」と言い、悪いことが起これば、「これは（預言者よ）あなたからのものだ」と言う。言え、「すべてはアッラーからのものである。」この人々はいったいどうしたのか。ほとんど一言も理解しようとしないとは。あなたに起こるどんな良いこともアッラーからのものであり、あなたに起こるどんな悪いこともあなた自身からのものである。われらはあなたを人々への使徒として遣わした。証人としてはアッラーで十分である。使徒に従う者は、アッラーに従ったのである。背き去る者については―われらはあなたをかれらの見張りとして遣わしたのではない。かれらは「従います」と言う。だがあなたのもとを去ると、かれらの一部は、あなたの言うこととは別のことを夜のうちにたくらむ。アッラーは、かれらが夜のうちにたくらむことを記録しておられる。だからかれらから離れ、アッラーに信頼を寄せなさい。すべてを委ねるべき御方としては、アッラーで十分である。 (77-81)

かれらはクルアーンについて深く考えないのか。もしそれがアッラー以外のものから出たのであれば、かれらはその中に多くの矛盾を見いだしたであろう。[6] (82)

[6] **重要な一節：科学的・哲学的・歴史的・神学的な矛盾のない、栄光あるクルアーン**
クルアーン 3:7 と 4:82―科学・哲学・神学に照らした総合的注釈
クルアーン 4:82 について考える―神の御言葉の一貫性をめぐる心理学・哲学・神学

安全や恐れに関わる知らせが届くたびに、かれらはそれを言い広める。だがそれを使徒と、かれらの中で権威を持つ者たちに委ねていたなら、かれらの中でその意味を引き出せる者たちが、それを知ったであろう。あなたがたへのアッラーの恵みと慈悲がなかったなら、あなたがたは、わずかな者を除いて悪魔に従っていたであろう。 (83)

だから（預言者よ）アッラーの道で戦いなさい。あなたが責めを負うのは自分自身についてだけである。そして信者たちを奮い立たせなさい。アッラーは、真理を否定する者たちの力を抑えてくださるであろう。アッラーは力においてより強く、懲らしめにおいてより厳しい御方である。 (84)

良いことのために執り成す者には、その分け前がある。悪いことのために執り成す者は、その重荷を負う。アッラーはすべてのことを見守っておられる。あなたがたがあいさつの言葉を受けたときには、それより良い言葉であいさつするか、同じ言葉を返しなさい。アッラーはすべてのことを清算される。[7] (85-86)

アッラー、かれのほかに神はない。かれは必ず、疑いの余地のない復活の日に、あなたがたを一緒に集められる。アッラーよりも言葉の真実な者がだれかあろうか。 (87)

あなたがたはどうして、偽信者たちのことで二派に分かれるのか。アッラーは、かれらが稼いだもののために、かれらを否定へと突き戻されたのに。あなたがたは、アッラーが迷うにまかせられた者を導こうと望むのか。アッラーが迷うにまかせられた者のために、あなたは決して道を見いだせない。かれらは、自分たちが否定したように、あなたがたも真理を否定して、みな同じになることを望んでいる。だからかれらがアッラーの道のために移住するまでは、かれらの中から盟友を取ってはならない。もしかれらが背を向けるなら、見つけたところで捕らえて殺しなさい。かれらのだれをも盟友や援助者としてはならない―ただし、あなたがたと盟約を結んでいる民に加わる者、あるいはあなたがたと戦うことにも自分の民と戦うことにも心がひるんで、あなたがたのもとに来る者は別である。アッラーがお望みなら、かれらにあなたがたを支配する力を与え、かれらはあなたがたと戦ったであろう。だからかれらがあなたがたから退き、あなたがたと戦わず、和平を申し出るなら、

[7] これらの重要な節は、信者たちの心に寛大な精神を育てます。自分のどんなに小さな善い行いも決してむだにはならないと、固く信じているからです。それらは書き留められており、やがて報われます。同じように、わたしたちは、罪ありとされることのないよう、気をつけて罪を避けなければなりません。

アッラーはかれらを攻める道をあなたがたに与えられない。あなたがたはまた、あなたがたからも自分の民からも安全でいたいと望む別の者たちを見いだすであろう。かれらは試練に引き戻されるたびに、その中に真っ逆さまに落ち込む。だからかれらがあなたがたから退かず、和平を申し出ず、手を控えないなら、出会ったところで捕らえて殺しなさい。これらの者に対しては、われらはあなたがたに明らかな権限を与えた。 (88-91)

信者が信者を殺すことは、過失による場合を除いて、あってはならない。過失で信者を殺した者は、信仰する奴隷を一人解放し、被害者の家族に血の代償を支払わなければならない。ただし家族がそれを施しとして免じる場合は別である。もし被害者が、あなたがたと敵対する民に属する信者であったなら、信仰する奴隷を一人解放することが償いである。もしあなたがたと盟約を結んでいる民に属していたなら、その家族に血の代償を支払い、信仰する奴隷を一人解放しなければならない。その手だてのない者は、続けて二か月断食しなければならない。これはアッラーからの悔い改めの道である。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。だが故意に信者を殺す者への報いは地獄であり、その者は永遠にそこにとどまる。アッラーの怒りと呪いがその上にあり、かれはその者のために重大な懲罰を用意された。信仰する者たちよ、アッラーの道のために出陣するときには、よく見極めなさい。あなたがたに和平のあいさつを差し出す者に向かって、現世のはかない利得を求めて「あなたは信者ではない」と言ってはならない—アッラーのもとには豊かな戦利品がある。以前はあなたがた自身もそのようであったが、アッラーがあなたがたに恵みを施されたのである。だからよく見極めなさい。アッラーはあなたがたの行うことによく通じておられる。 (92-94)

家にとどまっている信者たちは—体に障りのある者たちは別として—財産と生命をささげてアッラーの道のために奮闘する者たちと同等ではない。アッラーは、財産と生命をささげて奮闘する者たちを、家にとどまっている者たちよりも一段高くされた。アッラーはそのどちらにも最も良い報奨を約束された。だがアッラーは、奮闘する者たちを、家にとどまっている者たちよりも、大きな報奨によって優れたものとされた—かれからの栄誉の位階と、赦しと慈悲である。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (95-96)

自分自身に不正を行っている者たちの魂を天使たちが取り上げるとき、天使たちは言う。「あなたがたはどのような状態にあったのか。」かれらは答える。「わたし

たちは地上で虐げられていました。」天使たちは言う。「アッラーの大地は、あなたがたがそこで移住できるほど広くはなかったのか。」かれらの住みかは地獄である―何と悪い行き着く先であろう―ただし、手だてもなく道も見いだせない、まことに無力な男たち、女たち、子どもたちは別である。これらの者をアッラーは大目に見てくださるであろう。アッラーはよく大目に見て、よく赦される御方である。アッラーの道のために移住する者は、地上に多くの避難所と豊かなゆとりを見いだす。アッラーとその使徒のもとへ移住する者として家を出て、その後で死に追いつかれた者には、その報奨がアッラーのもとで確かなものとなる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (97-100)

あなたがたが地上を旅するとき、真理を否定する者たちが襲って来る恐れがあるなら、礼拝を短くしても、あなたがたに罪はない。真理を否定する者たちは、あなたがたの公然の敵である。（預言者よ）あなたがかれらの中にいて礼拝を導くときには、その一部の者が武器を携えたまま、あなたと共に立ちなさい。かれらがひれ伏し終えたなら、後ろに退き、まだ礼拝していない別の一団が進み出て、警戒を怠らず武器を携えたまま、あなたと共に礼拝しなさい。真理を否定する者たちは、あなたがたが武器と荷物に油断し、一挙に襲いかかれるようになることを望んでいる。雨に妨げられ、あるいは病気であるために武器を置いても、あなたがたに罪はない。だが警戒は怠ってはならない。アッラーは真理を否定する者たちのために屈辱の懲罰を用意された。礼拝を終えたなら、立っていても、座っていても、横になっていても、アッラーを念じなさい。そして安全になったなら、礼拝を完全に守りなさい。礼拝は、定められた時刻に行うものとして信者たちに定められている。敵を追うことに気力を失ってはならない。あなたがたが苦しんでいるなら、かれらもあなたがたと同じように苦しんでいる。しかもあなたがたは、かれらが望みえないものをアッラーに望んでいる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。 (101-104)

（預言者よ）われらは真理をもってあなたに啓典を下した。アッラーがあなたに示されたところによって、あなたが人々の間を裁くためである。だから裏切る者たちの弁護人となってはならない。アッラーの赦しを請いなさい。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。自分自身を裏切る者たちのために弁じてはならない。アッラーは、裏切りを重ねる罪深い者をだれも愛されない。かれらは人々からは身を隠すが、アッラーからは隠れることができない。かれらが、かれのお気に召さない言葉を夜のうちにたくらんでいるとき、かれはかれらと共におられる。アッラーはかれ

らの行うことをすべて取り囲んでおられる。あなたがたは現世の生活ではかれらのために弁じている。だが復活の日に、だれがかれらのためにアッラーに弁じるのか。だれがかれらの保護者となるのか。悪を行い、あるいは自分自身に不正を行っても、その後でアッラーの赦しを請う者は、アッラーがよく赦し、慈愛深い御方であることを見いだす。罪を犯す者は、ただ自分自身に対してそれを犯すのである。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。過ちや罪を犯しておきながら、それを罪のない者になすりつける者は、中傷と明白な罪を自ら背負ったのである。 (105-112)

（預言者よ）あなたへのアッラーの恵みと慈悲がなかったなら、かれらの一部はあなたを迷わせようと決意したであろう。だがかれらが迷わせているのは自分自身にほかならず、あなたを少しも害することはできない。アッラーはあなたに啓典と英知を下し、あなたの知らなかったことを教えられた。あなたへのアッラーの恵みは、まことに大きい。かれらの密談の多くには何の善もない。ただし施しや、正しいこと、あるいは人々の間の和解を勧める者は別である。アッラーのご満悦を求めてこれを行う者には、われらは大きな報奨を与える。導きが明らかにされた後で使徒に逆らい、信者たちの道以外の道に従う者を、われらはその向かったもののままにまかせ、地獄に投げ込む—何と悪い行き着く先であろう。 (113-115)

アッラーは、かれに何かが並べられることを赦されない。だがそれ以下のことは、お望みの者に赦される。アッラーに何かを並べる者は、遠く迷い去ったのである。かれらがかれをさしおいて祈り求めているのは、女神たちにほかならない。かれらが祈り求めているのは、反逆する悪魔にほかならない。アッラーはかれを呪われた。かれは言った。「わたしは必ず、あなたのしもべたちの中から定められた分を取ります。わたしはかれらを迷わせ、空しい欲望で満たします。わたしが命じると、かれらは家畜の耳を切り裂きます。わたしが命じると、かれらはアッラーの創造を変えます。」アッラーをさしおいて悪魔を守護者とする者は、明らかな損失を被ったのである。悪魔はかれらに約束し、空しい欲望で満たす。だが悪魔がかれらに約束するものは、惑わしにすぎない。かれらの住みかは地獄であり、そこから逃れる道を見いだせない。だが信仰して善行に励む者たちを、われらは川が下を流れる楽園に入れ、かれらはいつまでも永遠にそこに住む。これはアッラーの真実の約束である—アッラーよりも言葉の真実な者がだれかあろうか。それはあなたがたの空しい願いによるのでもなく、啓典の民の空しい願いによるのでもない。悪を行う者はその報いを受け、アッラーのほかに守護者も援助者も見いだせない。だが男であれ女

であれ、信者であって善行に励む者―これらの者は楽園に入り、なつめやしの種のくぼみほども不当に扱われることはない。自分のすべてをアッラーに委ねて帰依し、善を行い、純正な信仰の人イブラーヒームの教えに従う者よりも、宗教において優れた者がだれかあろうか。アッラーはイブラーヒームを親しい友とされた。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはアッラーのものである。アッラーはすべてのものを取り囲んでおられる。 (116-126)

（預言者よ）かれらは女たちについての裁定をあなたに求める。言え、「アッラーがかの女たちについてあなたがたに裁定を下される。また啓典の中であなたがたに読み聞かされることも同じである。それは、あなたがたが結婚したいと望みながら、定められたものを与えようとしない孤児の娘たちについて、また力のない子どもたちについて、そしてあなたがたが孤児たちを公正に扱うべきことについてである。あなたがたがどんな善を行っても、アッラーはそれをよく知っておられる。」 (127)

もし女が夫からの虐待や見捨てられることを恐れるなら、二人が自分たちの間で和解を取り決めても、二人に罪はない。和解こそ最も良い。人の心は貪欲に傾きやすい。だがあなたがたが善を行い、アッラーを畏れるなら、アッラーはあなたがたの行うことによく通じておられる。あなたがたは、どれほど望んでも、妻たちの間で平等に振る舞うことは決してできない。だが一人にすっかり傾いて、もう一人を宙づりのように放っておいてはならない。あなたがたが事を正し、アッラーを畏れるなら、アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。もし二人が別れるなら、アッラーはその豊かさの中から、それぞれを満たしてくださる。アッラーはすべてを包み、英知に満ちた御方である。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはアッラーのものである。われらはあなたがた以前に啓典を授けられた者たちにも、あなたがたにも命じた。アッラーを畏れなさい、と。もしあなたがたが真理を否定しても―天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはアッラーのものである。アッラーは満ち足りた、あらゆる讃美にふさわしい御方である。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはアッラーのものである。すべてを委ねるべき御方としては、アッラーで十分である。人々よ、かれがお望みなら、あなたがたをすっかり取り去り、ほかの者たちを代わりに連れて来ることもできる。アッラーにはそれを行う力がある。現世の報奨を望む者は知るがよい―アッラーのもとには現世の報奨も来世の報奨もある。アッラーは全聴にして、すべてを見ておられる。 (128-134)

信仰する者たちよ、アッラーのための証人として、公正のために堅く立ちなさい。たとえそれが自分自身や両親や近親に不利であっても。その人が富んでいても貧しくても、アッラーはそのどちらにもより近くおられる。だから自分の欲望に従って、公正からそれてはならない。もしあなたがたが証言をゆがめ、あるいは背を向けるなら、アッラーはあなたがたの行うことによく通じておられる。信仰する者たちよ、アッラーとその使徒を信じ、かれがその使徒に下された啓典と、以前に下された啓典を信じなさい。アッラーと、その天使たち、その諸啓典、その使徒たち、そして最後の日を否定する者は、遠く迷い去ったのである。信仰し、それから真理を否定し、それからまた信仰し、それからまた否定し、そのうえ否定を深めた者たち—アッラーはかれらを赦されず、どの道にも導かれない。偽信者たちに、痛ましい懲罰が待っているという知らせを伝えなさい— (135-138)

かれらは、信者たちをさしおいて、真理を否定する者たちを盟友とする者たちである。かれらはそのもとで栄誉を求めるのか。すべての栄誉はアッラーのものである。かれはすでに啓典の中であなたがたに下された。アッラーのしるしが否定され、あざけられるのを聞いたなら、かれらがほかの話に移るまでは、かれらと共に座っていてはならない、と—さもなければ、あなたがたもかれらと同じになる。アッラーは必ず、偽信者たちと真理を否定する者たちを、みな一緒に地獄に集められる—かれらは、あなたがたの成り行きを待ちうかがっている者たちである。アッラーからの勝利があなたがたに訪れると、かれらは「わたしたちはあなたがたと共にいたではないか」と言う。だが真理を否定する者たちに運が向くと、かれらは「わたしたちはあなたがたに対して優位に立っていながら、信者たちからあなたがたを守ってやったではないか」と言う。アッラーは復活の日に、あなたがたの間を裁かれる。アッラーは、真理を否定する者たちに、信者たちを制する道を決して与えられない。(139-141)

偽信者たちはアッラーを欺こうとするが、かれらを欺くのはかれのほうである。かれらは礼拝に立つとき、人に見せるために物憂げに立ち、アッラーを念じることはわずかである—あれこれの間を揺れ動き、こちらにも属さず、あちらにも属さない。アッラーが迷うにまかせられた者のために、あなたは決して道を見いだせない。信仰する者たちよ、信者たちをさしおいて、真理を否定する者たちを盟友としてはならない。あなたがたは、自分自身に不利な明らかな証拠をアッラーに差し出したいのか。偽信者たちは業火の最も深い底にいる。あなたはかれらのために援助者を見いだせない—ただし悔い改め、行いを正し、アッラーにしっかりとすがり、自分の

宗教をひたすらアッラーのものとする者たちは別である。かれらは信者たちと共にいる。アッラーは信者たちに大きな報奨を授けられる。あなたがたが感謝し、信仰するなら、アッラーはどうしてあなたがたを罰されようか。アッラーはよく報い、すべてを知っておられる。アッラーは、悪い言葉を公に口にすることを好まれない。ただし不当な扱いを受けた者は別である。アッラーは全聴にして全知の御方である。あなたがたが善を公に行っても、隠して行っても、あるいは悪を赦しても―アッラーはよく大目に見て、全能の御方である。 (142-149)

アッラーとその使徒たちを否定し、アッラーとその使徒たちとの間に区別を設けようとして、「わたしたちはある者を信じ、ある者を否定する」と言い、その中間に道を取ろうとする者たち―かれらこそまことの否定者である。否定する者たちのために、われらは屈辱の懲罰を用意した。だがアッラーとその使徒たちを信じ、かれらのだれをも区別しない者たち―これらの者に、かれはその報奨を授けられる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (150-152)

啓典の民は、天から一冊の書を自分たちに下してくれるよう、あなたに求める。かれらはムーサーに、それよりもさらに大きなことを求めた。「わたしたちにアッラーをはっきりと見せなさい」と言い、その不正のために雷に打たれたのである。それからかれらは、明らかな証拠が届いた後で、子牛を崇拝の対象とした。それでもわれらはそれを赦し、ムーサーに明白な権威を授けた。われらはかれらと契約を結ぶにあたって、かれらの上に山を高くそびえさせ、「謙虚に門を入りなさい」と言い、また「安息日の掟を破ってはならない」と言い、かれらから固い契約を取りつけた。そこでわれらは、かれらが契約を破り、アッラーのしるしを否定し、正当な理由もなく預言者たちを殺し、「わたしたちの心は覆われている」と言ったために、かれらを罰した―いや、アッラーはその否定のゆえにかれらの心に封をされた。だからかれらはわずかしか信じない―またその否定のため、マルヤムに対してとてつもない中傷を口にしたため、そして「わたしたちはアッラーの使徒、マルヤムの子イーサー、マスィーフを殺した」と言ったためである。かれらはかれを殺したのでもなく、十字架にかけたのでもない。ただかれらにはそのように見えたのである。これについて意見を異にする者たちは、それについて疑いの中にいる。かれらにはそれについての知識はなく、ただ憶測に従っているだけである。かれらは確かにかれを殺さなかった。いや、アッラーはかれをご自分のもとに引き上げられた。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。啓典の民のだれ一人として、かれの死の前にかれを信じない者はいない。復活の日には、かれはかれらに対する証

人となる。こうしてユダヤ教徒たちの不正のために、われらは、かれらに許されていた良いものを禁じた。またかれらが多くの者をアッラーの道から妨げ、禁じられていたのに利子を取り、人々の財産を不当に食い尽くしたためである。かれらのうち真理を否定する者たちのために、われらは痛ましい懲罰を用意した。だがかれらの中で知識にしっかりと根ざした者たちと信者たちは、（預言者よ）あなたに下されたものと、あなた以前に下されたものを信じる。また礼拝を守り、定めの喜捨をし、アッラーと最後の日を信じる者たち―これらの者にわれらは大きな報奨を与える。 (153-162)

（預言者よ）われらは、ヌーフとかれの後の預言者たちに啓示したように、あなたに啓示した。またイブラーヒーム、イスマーイール、イスハーク、ヤアクーブと諸部族、イーサー、アイユーブ、ユーヌス、ハールーン、スライマーンにも啓示し、ダーウードには詩篇を授けた。われらが以前あなたに語った使徒たちもあり、あなたに語らなかった使徒たちもある―そしてムーサーには、アッラーが直接に語りかけられた。使徒たちは吉報を伝え、警告する者であった。使徒たちが来た後では、人々がアッラーに対して言い立てる口実を持たないようにするためである。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。だがアッラーは、あなたに下されたものについて証言される。かれはご自身の知識をもってそれを下されたのである。天使たちもまた証言する―もっとも、証人としてはアッラーで十分である。真理を否定し、ほかの者たちをアッラーの道から妨げる者たちは、遠く迷い去ったのである。真理を否定し、不正を行う者たち―アッラーはかれらを赦されず、どの道にも導かれない。ただ地獄への道だけは別であり、かれらはいつまでも永遠にそこにとどまる。それはアッラーにとって易しいことである。 (163-169)

人々よ、使徒はあなたがたの主からの真理を携えて、あなたがたのもとに来た。だから信じなさい。それがあなたがたのためにより良い。だが否定しても―天と地にあるすべてのものはアッラーのものである。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。啓典の民よ、あなたがたの宗教において度を越してはならない。アッラーについては真実のほか何も語ってはならない。マルヤムの子イーサー、マスィーフは、アッラーの使徒にすぎず、かれがマルヤムに授けられた御言葉であり、かれからの霊である。だからアッラーとその使徒たちを信じなさい。「三」と言ってはならない。やめなさい。それがあなたがたのためにより良い。アッラーは唯一の神にほかならない。かれに栄光あれ―かれに子があるなどとは。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはかれのものである。すべてを委ねるべき御方とし

ては、アッラーで十分である。マスィーフは、アッラーのしもべであることを決して蔑みはしない。おそば近くにいる天使たちもまた同じである。かれを崇めることを蔑み、高慢になる者―かれはかれらをみなご自分のもとに集められる。信仰して善行に励む者たちには、かれはその報奨を十分に授け、その恵みからさらに加えられる。だが蔑み、高慢になった者たちを、かれは痛ましい懲罰で罰される。かれらは自分たちのために、アッラーのほかに守護者も援助者も見いだせない。 (170-173)

人々よ、あなたがたの主から明証があなたがたに届いた。われらはあなたがたに明らかな光を下した。アッラーを信じ、かれにしっかりとすがる者たちを、かれはご自分からの慈悲と恵みの中に入れ、まっすぐな道によってご自分のもとへと導かれる。 (174-175)

（預言者よ）かれらはあなたに裁定を求める。言え、「親も子も残さずに死ぬ者について、アッラーはあなたがたに裁定を下される。ある男が子を残さずに死に、姉妹が一人いるなら、かの女は残されたものの半分を受ける。かの女に子がなければ、かれがかの女から相続する。姉妹が二人いるなら、二人は残されたものの三分の二を受ける。兄弟と姉妹がいるなら、男子の取り分は女子二人分に等しい。あなたがたが迷わないように、アッラーはこれをあなたがたに明らかにされる。アッラーはすべてのことを知り尽くしておられる。」 (176)

5. 食卓 (Al-Mā’ida)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

信仰する者たちよ、あなたがたの契約を果たしなさい。これから読み聞かされるものを除いて、家畜の類はあなたがたに許されている。ただし巡礼の聖なる状態にある間は、狩りは許されない。アッラーはお望みのことを定められる。信仰する者たちよ、アッラーの儀礼のしるしを犯してはならない。聖なる月も、犠牲の供え物も、それに付けられた首飾りも、また主の恵みとご満悦を求めて聖なる館を目指す者たちも、犯してはならない。巡礼の聖なる状態を解いたなら、狩りをしてもよい。かつてあなたがたを聖なるマスジドから妨げた民への憎しみに駆られて、限度を越えてはならない。正しさとアッラーを畏れることにおいて互いに助け合いなさい。罪と敵意において助け合ってはならない。アッラーを畏れなさい。アッラーの懲罰は厳しい。 (1-2)

あなたがたに禁じられているのは、死肉、血、豚の肉、アッラー以外のものにささげられたもの、絞め殺されたもの、打ち殺されたもの、落ちて死んだもの、角で突き殺されたもの、猛獣が食い荒らしたもの―ただしまだ息のあるうちにあなたがたがほふったものは別である―また石の祭壇でほふられたものである。また占い矢で肉を分けることも禁じられている。それは背きの行いである。今日、真理を否定する者たちは、あなたがたの宗教を覆すことに望みを失った。だからかれらを恐れず、わたしを畏れなさい。今日、わたしはあなたがたのためにあなたがたの宗教を完成し、あなたがたへのわたしの恵みを全うし、あなたがたの宗教としてアッラーへの帰依を選んだ。だが罪に傾くつもりもなく、飢えに迫られた者には―アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (3)

かれらは何が自分たちに許されているかをあなたに尋ねる。言え、「良いものはすべてあなたがたに許されている。また、あなたがたが訓練した狩りの動物があなたがたのために捕らえたものも―あなたがたは、アッラーが教えられたことの一部をそれらに教えるのである―だからそれらがあなたがたのために捕らえたものを食べ、その上にアッラーの御名を唱えなさい。アッラーを畏れなさい。アッラーは清算に速い御方である。」今日、良いものはすべてあなたがたに許された。啓典を授けられた者たちの食べ物はあなたがたに許され、あなたがたの食べ物もかれらに許される。また信者たちの中の貞節な女たちも、あなたがた以前に啓典を授けられた者たちの中の貞節な女たちも、あなたがたに許されている。みだらな関係や、ひそかな

愛人としてではなく、正しい婚姻によって迎え、その婚資を与えるならば。信仰を拒む者は、その行いが無に帰し、来世では損失者の一人となる。 (4-5)

信仰する者たちよ、礼拝に立つときには、顔と、ひじまでの両手を洗い、頭をなで、くるぶしまでの両足を洗いなさい。大きな不浄の状態にあるなら、身を清めなさい。だがあなたがたが病気であるか、旅の途中にあるか、あるいはだれかが用を足して来たか、女たちと交わったかして、水を見つけられないなら、清い土を取り、それで顔と手をぬぐいなさい。アッラーはあなたがたに困難を課そうとは望まれない。かれはあなたがたを清め、あなたがたへの恵みを全うしようと望まれる。あなたがたが感謝するように。あなたがたへのアッラーの恵みと、あなたがたが「わたしたちは聞き、従います」と言ったときに、かれがあなたがたを結ばれた契約を思い起こしなさい。アッラーを畏れなさい。アッラーは胸の中にあることをよく知っておられる。 (6-7)

信仰する者たちよ、公正の証人として、アッラーのために堅く立ちなさい。ある民への憎しみに駆られて、公正を離れてはならない。公正でありなさい。それがアッラーを畏れる心により近い。アッラーを畏れなさい。アッラーはあなたがたの行うことをすべて知っておられる。アッラーは、信仰して善行に励む者たちに、赦しと大きな報奨があることを約束された。だが真理を否定し、われらのしるしを偽りとする者たち—かれらは燃えさかる業火の住人である。 (8-10)

信仰する者たちよ、あなたがたへのアッラーの恵みを思い起こしなさい。ある民があなたがたに向かって手を伸ばそうとしたとき、かれはその手をあなたがたから抑えられた。アッラーを畏れなさい。信者たちはアッラーにこそ信頼を寄せなさい。 (11)

アッラーはイスラエルの子孫と契約を結ばれ、われらはかれらの中から十二人の首長を立てた。アッラーは言われた。「わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたが礼拝を守り、定めの喜捨を納め、わたしの使徒たちを信じてかれらを支え、アッラーに良い貸し付けをする限り、わたしは必ずあなたがたの悪い行いをぬぐい去り、川が下を流れる楽園に入れる。だがこの後であなたがたのうち真理を否定する者は、正しい道から迷い出たのである。」ところがかれらが契約を破ったので、われらはかれらを呪い、その心をかたくなにした。かれらは言葉を本来の場所からねじ曲げ、戒められたことの一部を忘れた。あなたは、かれらのうちわずかな者を除いて、いつまでもかれらの裏切りを見いだすであろう。だがかれらを赦し、見逃しなさい。

アッラーは善を行う者を愛される。また「わたしたちはキリスト教徒である」と言う者たちとも、われらは契約を結んだ。だがかれらもまた、戒められたことの一部を忘れた。そこでわれらは、復活の日まで、かれらの間に敵意と憎しみをかき立てた。アッラーは、かれらが行っていたことをかれらに告げられる。 (12-14)

啓典の民よ、われらの使徒があなたがたのもとに来た。かれは、あなたがたが啓典の中で隠していたことの多くをあなたがたに明らかにし、多くを見逃す。アッラーから光と明らかな啓典があなたがたに届いた。アッラーはそれによって、かれのご満悦を求める者を平安の道へと導き、お許しによってかれらを深い暗闇から光へと連れ出し、まっすぐな道に導かれる。「アッラーはマルヤムの子マスィーフである」と言う者たちは、確かに真理を否定したのである。言え、「もしアッラーが、マルヤムの子マスィーフとその母と、地上のすべての者を滅ぼそうと望まれたなら、だれがアッラーに対して何かできようか。」天と地、そしてその間にあるすべてのものの王権はアッラーのものである。かれはお望みのものを何でも創られる。アッラーは万事に全能である。ユダヤ教徒とキリスト教徒は「わたしたちはアッラーの子であり、かれに愛される者である」と言う。言え、「それならなぜ、かれはあなたがたの罪のためにあなたがたを罰されるのか。いや、あなたがたは、かれが創られた者たちの中の人間にすぎない。かれはお望みの者を赦し、お望みの者を罰される。」天と地、そしてその間にあるすべてのものの王権はアッラーのものであり、旅路の果てはかれのもとにある。啓典の民よ、使徒たちの途絶えていた時期の後に、われらの使徒があなたがたのもとに来て、物事を明らかにしている。あなたがたが「吉報を伝える者も警告する者も、わたしたちのもとには来なかった」と言わないようにするためである。今や、吉報を伝える者、警告する者があなたがたのもとに来た。アッラーは万事に全能である。 (15-19)

またムーサーがその民に言ったときを思い起こしなさい。「わが民よ、あなたがたへのアッラーの恵みを思い起こしなさい。かれはあなたがたの中に預言者たちを興し、あなたがたを王とし、世界のほかのどの民にも与えられなかったものをあなたがたに授けられた。わが民よ、アッラーがあなたがたのために定められた聖なる地に入りなさい。背を向けて引き返してはならない。さもないと、損失者となって転落する。」かれらは言った。「ムーサーよ、そこには非常に強い民がいる。かれらがそこを出るまでは、わたしたちは決して入らない。かれらがそこを出るなら、わたしたちは入ろう。」アッラーを畏れ、アッラーの恵みを受けていた二人の男が言った。「門からかれらに攻め入りなさい。ひとたびそこに入れば、あなたがたは勝

利を得る。あなたがたが信者であるなら、アッラーにこそ信頼を寄せなさい。」かれらは言った。「ムーサーよ、かれらがそこにいる限り、わたしたちは決して入らない。あなたとあなたの主が行って戦いなさい。わたしたちはここに座っている。」かれは言った。「主よ、わたしは自分自身と兄弟のほかは、だれをも思いどおりにできません。どうかわたしたちと、この背く民との間を分けてください。」かれは言われた。「それなら、その地は四十年の間かれらに禁じられ、かれらは地上をさまよう。だから背く民のことで悲しんではならない。」 (20-26)

アーダムの二人の息子の物語を、真実のままにかれらに読み聞かせなさい。二人がそれぞれ犠牲をささげたとき、一人のものは受け入れられ、もう一人のものは受け入れられなかった。後者は言った。「わたしは必ずおまえを殺してやる。」前者は言った。「アッラーは、かれを畏れる者たちからだけ受け入れられる。たとえあなたがわたしを殺そうと手を伸ばしても、わたしはあなたを殺すために手を伸ばしはしない。わたしは万有の主アッラーを畏れる。わたしはむしろ、あなたがわたしの罪もあなた自身の罪も背負い、業火の住人の一人となることを望む―それが不正を行う者たちへの報いである。」やがてかれの心は兄弟を殺すようかれをそそのかし、かれは兄弟を殺して、損失者の一人となった。するとアッラーは一羽のからすを遣わされた。それは地面をかいて、兄弟のむき出しの亡きがらをどのように隠すかをかれに示した。かれは言った。「ああ情けない。わたしはこのからすのようになって、兄弟の亡きがらを隠すことさえできないのか。」こうしてかれは悔やむ者の一人となった。このためにわれらはイスラエルの子孫に定めた。人を殺した者、または地上に腐敗を広めた者への罰としてではなく、一人の人間を殺す者は、全人類を殺したのと同じである。また一人の命を救う者は、全人類の命を救ったのと同じである、と。われらの使徒たちは明らかな証拠を携えてかれらのもとに来た。それなのにその後もなお、かれらの多くは地上で度を越した行いを続けている。アッラーとその使徒に戦いを挑み、地上に腐敗を広めようと努める者たちへの報いは、殺されるか、十字架にかけられるか、手足を互い違いに切り落とされるか、あるいはその地から追放されることにほかならない。それは現世でのかれらの屈辱であり、来世では重大な懲罰がかれらを待っている―ただし、あなたがたがかれらを取り押さえる前に悔い改める者たちは別である。アッラーがよく赦し、慈愛深い御方であることを知りなさい。 (27-34)

信仰する者たちよ、アッラーを畏れ、かれに近づく手だてを求め、かれの道のために奮闘しなさい。あなたがたが成功するように。真理を否定する者たちは、たとえ

地上にあるすべてのものと、さらにそれと同じだけのものを持っていて、復活の日の懲罰から身をあがなうために差し出しても、それはかれらから受け入れられない。かれらには痛ましい懲罰が待っている。かれらは業火から出たいと願うが、そこから出ることはない。かれらには絶えることのない懲罰がある。 (35-37)

盗みをした者は、男であれ女であれ、その稼いだものへの報いとして、その手を切り落としなさい--これはアッラーからの見せしめの懲罰である。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。だが不正を行った後で悔い改め、行いを正す者を、アッラーは必ず慈悲をもって顧みられる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。あなたは、天と地の王権がアッラーのものであることを知らないのか。かれはお望みの者を罰し、お望みの者を赦される。アッラーは万事に全能である。 (38-40)

使徒よ、否定へと先を争って走る者たちのことで、悲しんではならない。それは、口では「わたしたちは信じる」と言いながら、その心は信じていない者たちの中にも、ユダヤ教徒たちの中にもいる--かれらは偽りに熱心に耳を傾け、あなたのもとに来たことのないほかの人々の言葉に熱心に耳を傾ける。かれらは言葉を本来の場所からねじ曲げ、「もしこれが与えられたら受け取りなさい。だがこれが与えられなければ用心しなさい」と言う。アッラーが試練にかけようと望まれた者のために、あなたはアッラーに対して何もしてやれない。これらの者は、アッラーがその心を清めようと望まれなかった者たちである。かれらには現世で屈辱があり、来世では重大な懲罰がある。かれらは偽りに熱心に耳を傾け、禁じられたものをむさぼる。もしかれらがあなたのもとに来たなら、かれらの間を裁くか、あるいはかれらから背を向けなさい。あなたが背を向けても、かれらは少しもあなたを害することはできない。だが裁くなら、かれらの間を公正に裁きなさい。アッラーは公正な者たちを愛される。だがかれらのもとには律法があり、その中にアッラーの裁きがあるのに、どうしてあなたのもとに裁きを求めて来て、その後で背を向けるのか。このような者たちは少しも信者ではない。われらは律法を下した。その中には導きと光がある。アッラーに帰依した預言者たちは、それによってユダヤ教徒たちを裁いた。律法学者たちや学識ある者たちも、アッラーの啓典について託されたところに従って裁いた。かれらはその証人であった。だから人々を恐れず、わたしを畏れなさい。わたしのしるしをわずかな値で売ってはならない。アッラーが下されたものによって裁かない者--このような者こそ真理を否定する者である。われらはその中でかれらに定めた。命には命、目には目、鼻には鼻、耳には耳、歯には歯、そして傷には

同じだけの報復を、と。だがそれを施しとして放棄する者には、それがその者の罪の償いとなる。アッラーが下されたものによって裁かない者――このような者こそ不正を行う者である。 (41-45)

またわれらは、かれらの足跡に続いてマルヤムの子イーサーを遣わし、かれ以前に届いていた律法を確証させた。われらはかれに福音を授けた。その中には導きと光があり、それ以前に届いていた律法を確証し、アッラーを畏れる者たちへの導きと訓戒である。福音の民は、アッラーがその中に下されたものによって裁きなさい。アッラーが下されたものによって裁かない者――このような者こそ背く者である。 (46-47)

そして（預言者よ）われらは真理をもってあなたに啓典を下した。それは以前に届いていた啓典を確証し、それを見守るものである。だからアッラーが下されたものによってかれらの間を裁きなさい。あなたに届いた真理を離れて、かれらの欲望に従ってはならない。われらはあなたがたのそれぞれに、掟と道を定めた。アッラーがお望みなら、あなたがたを一つの共同体にされたであろう。だがかれは、あなたがたに授けたものによってあなたがたを試みるために、そうされなかった。だから善い行いを競い合いなさい。あなたがたはみなアッラーのもとに帰る。そしてかれは、あなたがたが意見を異にしていたことについて、あなたがたに告げられる。アッラーが下されたものによってかれらの間を裁き、かれらの欲望に従ってはならない。かれらに用心しなさい。アッラーがあなたに下されたものの一部から、かれらがあなたを誘い出さないように。もしかれらが背き去るなら、アッラーが、その罪のいくらかのためにかれらを苦しめようと望んでおられることを知りなさい。まことに人々の多くは背く者である。かれらが求めているのは、無知の時代の裁きなのか。固く信じる民にとって、アッラーよりも良い裁きをする者がだれかあろうか。 (48-50)

信仰する者たちよ、ユダヤ教徒とキリスト教徒を盟友としてはならない。かれらは互いに盟友である。あなたがたのうちでかれらと盟友の関係を結ぶ者は、かれらの一人である。アッラーは不正を行う民を導かれない。あなたは、心に病のある者たちが、「わたしたちは運命の巡り合わせが襲いかかるのを恐れる」と言って、かれらのもとに急ぐのを見る。だがアッラーは、勝利か、あるいはご自分のもとからの何らかの定めをもたらされるかもしれない。そのときかれらは、心の中にひそかに抱いていたことを悔やむことになる。信仰する者たちは言うであろう。「これが、

自分たちは確かにあなたがたと共にいると、アッラーにかけて最も重い誓いを立てた者たちなのか。」かれらの行いは無に帰し、かれらは損失者となった。 (51-53)

信仰する者たちよ、あなたがたのうちで自分の宗教から背く者があれば―アッラーは、かれが愛し、またかれを愛する民を興される。かれらは信者たちには謙虚で、真理を否定する者たちには厳しく、アッラーの道のために奮闘し、だれの非難も恐れない。それはアッラーの恩恵であり、かれはお望みの者にそれを授けられる。アッラーはすべてを包み、すべてを知っておられる。あなたがたの盟友は、アッラーとその使徒と信仰する者たちにほかならない―礼拝を守り、定めの喜捨を納め、身をかがめて崇める者たちである。アッラーとその使徒と信仰する者たちを盟友とする者―勝利を得るのはアッラーの党である。 (54-56)

信仰する者たちよ、あなたがたの宗教をあざけりと戯れの種にする者たちを盟友としてはならない。あなたがた以前に啓典を授けられた者たちの中の者であれ、真理を否定する者たちであれ。あなたがたが信者であるなら、アッラーを畏れなさい。あなたがたが礼拝へと呼びかけると、かれらはそれをあざけりと戯れの種にする。それはかれらが理解しない民だからである。言え、「啓典の民よ、あなたがたがわたしたちを嫌うのは、わたしたちがアッラーを信じ、わたしたちに下されたものと以前に下されたものを信じていること、そしてあなたがたの多くが背く者であること、このほかに何か理由があるのか。」言え、「アッラーのもとでの報いとして、それよりも悪いものをあなたがたに知らせようか。アッラーが呪い、怒りを向けられた者たち、その一部を猿や豚にされた者たち、偽りの神々を崇めた者たち―かれらこそ立場はより悪く、正しい道からより遠く迷っている。」 (57-60)

かれらはあなたがたのもとに来ると「わたしたちは信じる」と言う。だがかれらは否定を抱いて入り、それを抱いたまま出て行く。アッラーはかれらが隠すことを最もよく知っておられる。あなたは、かれらの多くが罪と敵意に、また禁じられたものをむさぼることに先を争うのを見る。かれらの行うことは、まことに何と悪いことか。なぜかれらの律法学者たちや学識ある者たちは、かれらが罪深いことを語り、禁じられたものをむさぼるのを禁じないのか。かれらのしわざは、まことに何と悪いことか。ユダヤ教徒は「アッラーの御手は縛られている」と言う。縛られているのはかれら自身の手であり、かれらはその言葉のために呪われた。いや、かれの両の御手は広く開かれている。かれはお望みのままに授けられる。あなたの主からあなたに下されたものは、かれらの多くの者の反逆と否定を必ず増し加える。われら

は、復活の日まで、かれらの間に敵意と憎しみを投げ込んだ。かれらが戦いの火をたきつけるたびに、アッラーはそれを消される。かれらは地上に腐敗を広めようと努める。アッラーは腐敗を広める者たちを愛されない。啓典の民が信仰し、アッラーを畏れていたなら、われらはかれらの悪い行いをぬぐい去り、至福の楽園に入れたであろう。かれらが律法と福音と、主からかれらに下されたものを守り行っていたなら、かれらは頭上からも足もとからも糧を得て食べたであろう。かれらの中には中道を行く一団がいる。だがかれらの多くは―その行うことは何と悪いことか。(61-66)

使徒よ、あなたの主からあなたに下されたものを告げ知らせなさい。そうしなければ、あなたはかれの伝言を伝えたことにならない。アッラーは人々からあなたを守られる。アッラーは真理を否定する民を導かれない。言え、「啓典の民よ、あなたがたは、律法と福音と、主からあなたがたに下されたものを守り行うまでは、何のよりどころもない。」（預言者よ）あなたの主からあなたに下されたものは、かれらの多くの者の反逆と否定を必ず増し加える。だから真理を否定する民のことで悲しんではならない。信仰する者たち、ユダヤ教徒、サービア教徒、キリスト教徒―だれであれアッラーと最後の日を信じ、善を行う者―かれらには恐れもなく、悲しむこともない。(67-69)

われらはイスラエルの子孫と契約を結び、かれらに使徒たちを遣わした。使徒がかれらの心の望まないものを携えて来るたびに、かれらはある者たちを嘘つきと呼び、ある者たちを殺した。かれらは試練などないと思い込み、目も見えず耳も聞こえなくなった。それからアッラーは慈悲をもってかれらを顧みられた。それなのにまた、かれらの多くは目も見えず耳も聞こえなくなった。アッラーはかれらの行うことをすべて見ておられる。「アッラーはマルヤムの子マスィーフである」と言う者たちは、確かに真理を否定したのである。マスィーフ自身がこう言った。「イスラエルの子孫よ、わたしの主であり、あなたがたの主でもあるアッラーを崇めなさい。」アッラーに何かを並べる者には、アッラーは楽園を禁じられ、その者の逃げ場は業火である。不正を行う者たちには援助者はない。(70-72)

「アッラーは三者のうちの第三である」と言う者たちは、確かに真理を否定したのである。唯一の神のほかに神はない。もしかれらがその言葉をやめないなら、かれらのうち真理を否定する者たちには、必ず痛ましい懲罰が降りかかる。かれらはアッラーに悔い改めて帰り、かれの赦しを請わないのか。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。マルヤムの子マスィーフは、一人の使徒にすぎない。かれ以前に

も使徒たちは過ぎ去った。かれの母は誠実な女であった。二人とも食べ物を食べていた。見なさい、われらがどのようにかれらにしるしを明らかにするかを。それからまた見なさい、かれらがどのように背かされて行くかを。言え、「あなたがたはアッラーをさしおいて、あなたがたを害する力も益する力もないものを崇めるのか。アッラーこそ全聴にして全知の御方であるのに。」言え、「啓典の民よ、あなたがたの宗教において真理の境界を越えてはならない。以前に迷い、多くの者を迷わせ、正しい道から迷い出た民の欲望に従ってはならない。」 (73-77)

イスラエルの子孫のうち真理を否定した者たちは、ダーウードとマルヤムの子イーサーの舌によって呪われた。かれらが背き、掟を越え続けたからである。かれらは自分たちの犯す悪を互いに戒めようとしなかった。かれらが行っていたことは、まことに何と悪いことか。あなたは、かれらの多くが真理を否定する者たちと盟友の関係を結ぶのを見る。かれらの魂が自分たちのために先に送ったものは、まことに何と悪いことか。そのためにアッラーはかれらに怒りを向けられ、かれらは永遠に懲罰の中にとどまる。もしかれらがアッラーと預言者と、かれに下されたものを信じていたなら、あの者たちを盟友としなかったであろう。だがかれらの多くは背く者である。 (78-81)

あなたは必ず、人々の中で信者たちに最も敵意を抱くのは、ユダヤ教徒と、アッラーに同位者を並べる者たちであることを見いだす。またあなたは必ず、信者たちに最も親しみを抱くのは、「わたしたちはキリスト教徒である」と言う者たちであることを見いだす。それはかれらの中に司祭や修道士がいるからであり、またかれらが高慢でないからである。かれらは使徒に下されたものを聞くと、自分たちが認めた真理のために、その目から涙があふれるのをあなたは見る。かれらは言う。「わたしたちの主よ、わたしたちは信じます。だからわたしたちを証人たちの中に書き入れてください。主がわたしたちを正しい人々の中に入れてくださることを切に願っているのに、どうしてアッラーと、わたしたちに届いた真理を信じないことがありましょう。」そこでアッラーは、かれらの言ったことに報いて、川が下を流れる楽園を授けられ、かれらは永遠にそこに住む。それが善を行う者たちへの報奨である。だが真理を否定し、われらのしるしを偽りとする者たち―かれらは燃えさかる業火の住人である。 (82-86)

信仰する者たちよ、アッラーがあなたがたに許された良いものを禁じてはならない。また限度を越えてはならない。アッラーは限度を越える者を愛されない。アッラー

があなたがたに授けられた、許された良いものを食べなさい。そしてあなたがたが信じるアッラーを畏れなさい。アッラーは、あなたがたが不用意に口にした誓いについては責められないが、あなたがたが自らを固く縛った誓いについては責められる。それを破ったときの償いは、あなたがたが自分の家族に食べさせている普通の食べ物を十人の貧しい者に与えるか、かれらに衣服を与えるか、あるいは奴隷を一人解放することである。その手だてのない者は、三日間断食しなさい。それが、あなたがたが誓ったときの誓いの償いである。だがあなたがたの誓いは守りなさい。このようにアッラーはあなたがたにそのしるしを明らかにされる。あなたがたが感謝するように。 (87-89)

信仰する者たちよ、酒、賭け事、偶像、占い矢は、悪魔のしわざによる忌まわしいものである。だからそれらを避けなさい。あなたがたが成功するように。悪魔は、酒と賭け事によってあなたがたの間に敵意と憎しみをまき散らし、アッラーを念じることと礼拝からあなたがたを遠ざけようと望んでいるだけである。それでもあなたがたはやめないのか。アッラーに従い、使徒に従い、用心しなさい。もしあなたがたが背き去るなら、われらの使徒の務めは、ただはっきりと伝えることだけであると知りなさい。信仰して善行に励む者たちには、以前に口にしたものについて罪はない。かれらがアッラーを畏れ、信仰し、善行に励み、さらにアッラーを畏れて信仰し、さらにアッラーを畏れて善を行う限りは。アッラーは善を行う者を愛される。 (90-93)

信仰する者たちよ、アッラーは必ず、あなたがたの手や槍の届く獲物のいくらかによってあなたがたを試みられる。目に見えないところでかれを畏れる者がだれであるかを、アッラーが明らかにされるためである。この後で掟を越える者には、痛ましい懲罰がある。信仰する者たちよ、巡礼の聖なる状態にある間は、獲物を殺してはならない。あなたがたのうちで故意にそれを殺した者への償いは、殺したものに相当する家畜であり、あなたがたの中の公正な二人がそれを判定し、供え物としてカアバに届ける。あるいは償いとして、貧しい者たちに食べ物を与えるか、それに相当する断食をする。自分の行いの結果を味わうためである。アッラーは過ぎたことは赦された。だが繰り返す者には、アッラーは報復を下される。アッラーは偉力ならびなく、報復の主である。海の獲物とその食べ物は、あなたがたと旅人たちのための糧として、あなたがたに許されている。だが陸の獲物は、巡礼の聖なる状態にある限り、あなたがたに禁じられている。アッラーを畏れなさい。あなたがたはかれのもとに集められる。 (94-96)

アッラーは、聖なる館カアバを人々のためのよりどころとし、聖なる月、犠牲の供え物、首飾りもまた同じようにされた。それは、アッラーが天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものを知り、アッラーがすべてのことを知っておられることを、あなたがたが知るためである。アッラーの懲罰が厳しいこと、またアッラーがよく赦し、慈愛深い御方であることを知りなさい。使徒の務めは、ただ伝えることだけである。アッラーは、あなたがたが現すことも隠すことも知っておられる。 (97-99)

言え、「悪いものと良いものは同じではない。たとえ悪いものの多さがあなたを驚かせても。だから思慮ある者たちよ、アッラーを畏れなさい。あなたがたが成功するように。」信仰する者たちよ、明らかにされるとあなたがたを困らせるような事柄について尋ねてはならない。だがクルアーンが下されている間にそれについて尋ねるなら、それはあなたがたに明らかにされる。アッラーは、過去にあなたがたが尋ねたことを赦された。アッラーはよく赦し、寛容な御方である。あなたがた以前のある民もそのようなことを尋ね、その後でそれを否定する者となった。アッラーは、バヒーラも、サーイバも、ワスィーラも、ハームも定められなかった。だが真理を否定する者たちは、アッラーについて偽りをでっち上げる。かれらの多くは理性を働かせない。「アッラーが下されたものと使徒のもとに来なさい」と言われると、かれらは「わたしたちの父祖たちが行っているのを見たもので、わたしたちには十分だ」と言う。何と、かれらの父祖たちが何も知らず、導かれてもいなかったとしてもか。信仰する者たちよ、あなたがたは自分自身の魂に責任を負う。あなたがたが導かれているなら、迷う者があなたがたを害することはできない。あなたがたはみなアッラーのもとに帰る。そしてかれは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げられる。 (100-105)

信仰する者たちよ、あなたがたのだれかに死が近づき、遺言をするときには、あなたがたの間に証人を立てなさい―あなたがたの中の公正な二人か、あるいは、あなたがたが地上を旅していて死の災難に襲われた場合には、ほかの者たちの中の二人である。礼拝の後でその二人を引きとめ、もしあなたがたがかれらを疑うなら、アッラーにかけて誓わせなさい。「わたしたちは、たとえ近親のためであっても、どんな値でも自分の誓いを売りません。またアッラーの証言を隠しません。そんなことをすれば、わたしたちは確かに罪深い者の一人となります。」だがその二人が罪を犯していたことが明らかになったなら、初めの二人によって権利を損なわれた者たちの中から、別の二人が代わりに立ち、アッラーにかけて誓いなさい。「わたしたちの証言はかれらの証言よりも真実です。わたしたちは限度を越えてはいません。

そんなことをすれば、わたしたちは確かに不正を行う者の一人となります。」こうすれば、かれらがありのままに証言すること、あるいは自分たちの誓いの後でほかの誓いが立てられるのを恐れることが、より確かになる。アッラーを畏れ、よく聞きなさい。アッラーは背く民を導かれない。 (106-108)

アッラーが使徒たちを集めて、「あなたがたはどのような応答を受けたのか」と尋ねられる日、かれらは言う。「わたしたちには知識がありません。隠されたすべてのことを知っておられるのは、あなたです。」それからアッラーは言われる。「マルヤムの子イーサーよ、あなたとあなたの母へのわたしの恵みを思い起こしなさい。わたしは聖霊によってあなたを強め、あなたはゆりかごの中でも、成人してからも人々に語りかけた。わたしはあなたに啓典と英知、律法と福音を教えた。あなたはわたしの許しによって粘土で鳥の形を作り、それに息を吹き込むと、わたしの許しによってそれは鳥となった。あなたはわたしの許しによって、目の見えない人と重い皮膚病の人を癒やした。あなたはわたしの許しによって死者をよみがえらせた。またあなたが明らかな証拠を携えてイスラエルの子孫のもとに来たとき、わたしはかれらをあなたから抑えた。そのとき、かれらの中の真理を否定する者たちは、これは明らかな魔術にほかならないと言った。」また、わたしが弟子たちに「わたしとわたしの使徒を信じなさい」と啓示したときを思い起こしなさい。かれらは言った。「わたしたちは信じます。わたしたちがアッラーに帰依した者であることを証言してください。」 (109-111)

また弟子たちが言ったとき。「マルヤムの子イーサーよ、あなたの主は、わたしたちのために天から食べ物を並べた食卓を下すことがおできになりますか。」かれは言った。「あなたがたが信者であるなら、アッラーを畏れなさい。」かれらは言った。「わたしたちはそこから食べたいのです。わたしたちの心が安らぎ、あなたが真実を語られたことを知り、わたしたちがその証人となるためです。」マルヤムの子イーサーは言った。「アッラーよ、わたしたちの主よ、天から食卓をわたしたちに下してください。それがわたしたちにとって―わたしたちの最初の者にも最後の者にも―祝祭となり、あなたからのしるしとなりますように。わたしたちに糧をお与えください。あなたは糧を授ける者の中で最も優れた御方です。」アッラーは言われた。「わたしはそれをあなたがたに下す。だがその後であなたがたのうち真理を否定する者があれば、わたしはその者を、万有のうちのだれにも加えたことのない懲罰で罰する。」 (112-115)

またアッラーがこう言われるとき。「マルヤムの子イーサーよ、あなたは人々に、『アッラーをさしおいて、わたしとわたしの母を二柱の神としなさい』と言ったのか。」かれは言う。「あなたに栄光あれ。言う権利のないことを言うなど、わたしにはありえません。もしわたしがそう言ったのであれば、あなたはそれをご存じのはずです。あなたはわたしの内にあることを知っておられますが、わたしはあなたの内にあることを知りません。隠されたすべてのことを知っておられるのは、あなただけです。わたしは、あなたがわたしに命じられたことのほかは、かれらに何も言いませんでした。『わたしの主であり、あなたがたの主でもあるアッラーを崇めなさい』と。わたしがかれらの中にとどまっていた間は、わたしはかれらの証人でした。あなたがわたしを召された後は、あなたがかれらを見守る御方でした。あなたはすべてのことの証人です。もしあなたがかれらを罰されるなら、かれらはあなたのしもべです。もしあなたがかれらを赦されるなら、あなたは偉力ならびなく、英知に満ちた御方です。」アッラーは言われる。「これは、誠実な者たちがその誠実さによって益を得る日である。かれらには川が下を流れる楽園があり、いつまでも永遠にそこに住む。アッラーはかれらに満足し、かれらもかれに満足する。それこそ大いなる勝利である。」天と地、そしてその中にあるすべてのものの王権はアッラーのものである。かれは万事に全能である。 (116-120)

6. 家畜 (Al-Anʿām)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

すべての讃美はアッラーのもの。かれは天と地を創り、暗闇と光を設けられた。それなのに真理を否定する者たちは、自分たちの主に同等のものを並べる。かれこそは、あなたがたを粘土から創り、それから一つの期限を定められた御方である―かれのもとには定められた期限がある。それでもなお、あなたがたは疑っている。かれは天においても地においてもアッラーである。かれはあなたがたが隠すことも表すことも知り、あなたがたが稼ぐものを知っておられる。主のしるしの中の一つのしるしがかれらに届くたびに、かれらは必ずそれから背を向ける。真理が届いたとき、かれらはそれを偽りとした。だがかれらがあざけっていたことの知らせは、やがてかれらに届く。 (1-5)

かれらは、われらがかれら以前にどれほど多くの世代を滅ぼしたかを見ないのか。われらは、あなたがたには与えなかったほどの力を地上でかれらに与え、空から豊かな雨をかれらの上に降らせ、かれらの足もとに川を流れさせた。それからわれらは、その罪のためにかれらを滅ぼし、かれらの後に別の世代を興した。（預言者よ）たとえわれらが羊皮紙に書かれた書をあなたに下し、かれらが自分の手でそれに触れたとしても、真理を否定する者たちは「これは明らかな魔術にほかならない」と言ったであろう。かれらは「なぜかれのもとに天使が下されないのか」と言う。もしわれらが天使を下したなら、事は決せられ、かれらに猶予は与えられなかったであろう。またもしわれらがかれを天使としたなら、人間の姿にしたであろう。そしてかれらが今混乱しているまさにそのことで、かれらをさらに混乱させたであろう。 (6-9)

あなた以前の使徒たちもあざけられた。だがかれらをあざ笑った者たちは、自分があざけっていたまさにそのものに取り囲まれた。言え、「地上を旅して、偽りとした者たちの最後がどうであったかを見なさい。」言え、「天と地にあるすべてのものは、だれのものか。」言え、「アッラーのものである。」かれは慈悲をご自身の務めとして定められた。かれは必ず、疑いの余地のない復活の日に、あなたがたを集められる。自分自身の魂を失った者たちは、信じようとしない。夜と昼に宿るすべてのものは、かれのものである。かれは全聴にして全知の御方である。言え、「天と地を創り出された御方であり、養い、養われることのないアッラーのほかに、わたしがだれかを守護者とするであろうか。」言え、「わたしは、アッラーに帰依

する者の最初の者となるよう、そして決してかれに同位者を並べる者の一人とならないよう命じられた。」言え、「もしわたしが主に背くなら、わたしは重大な日の懲罰を恐れる。」その日それを免れる者は、かれが慈悲を施された者である。それこそ明らかな勝利である。 (10-16)

もしアッラーがあなたに災いを触れさせられるなら、かれのほかにそれを取り除ける者はない。もしかれがあなたに良いことを触れさせられるなら―かれは万事に全能である。かれはそのしもべたちの上に立つ至上の御方であり、英知に満ち、すべてに通じておられる。言え、「証言として最も重いものは何か。」言え、「アッラーが、わたしとあなたがたとの間の証人である。このクルアーンは、それによってわたしが、あなたがたと、それが届くすべての者に警告するために、わたしに啓示された。あなたがたは本当に、アッラーのほかに別の神々があると証言するのか。」言え、「わたしはそのような証言はしない。」言え、「かれは唯一の神にほかならない。わたしは、あなたがたがかれに並べるものとは関わりがない。」われらが啓典を授けた者たちは、自分の息子を見分けるようにそれを見分ける。だが自分自身の魂を失った者たちは、信じようとしない。アッラーについて偽りをでっち上げ、あるいはかれのしるしを偽りとする者よりも不正な者がだれかあろうか。まことに不正を行う者たちは成功しない。われらがかれらをみな一緒に集める日、アッラーに同位者を並べた者たちに言う。「あなたがたが言い張っていたあの同位者たちは、どこにいるのか。」そのときかれらには、「わたしたちの主アッラーにかけて、わたしたちは決してかれに何ものも並べませんでした」と言うよりほかに、言い逃れは残っていない。見なさい、かれらがどのように自分自身に対して偽るかを。そしてかれらがでっち上げていたものが、どのようにかれらを見捨てたかを。 (17-24)

かれらの中には、あなたに耳を傾ける者もいる。だがわれらは、かれらがそれを理解しないように、その心に覆いをかけ、その耳を聞こえにくくした。かれらはあらゆるしるしを見ても、それを信じない―それどころか、あなたと言い争うためにあなたのもとに来ると、真理を否定する者たちは「これは昔の人々の作り話にほかならない」と言う。かれらはほかの者をそれから遠ざけ、自分もそれから遠ざかる。だがかれらが滅ぼしているのは自分自身にほかならず、しかもそれに気づいていない。かれらが業火の前に立たされるときを、あなたが見ることができたなら。かれらは言う。「ああ、わたしたちが送り返されたなら。そうすれば主のしるしを偽りとせず、信者の一人となるのに。」いや、かれらが以前隠していたことが、かれらに明らかになったのである。たとえ送り返されても、かれらは禁じられたことに戻

るであろう。かれらはまことに嘘つきである。かれらは「わたしたちの現世の生活のほかには何もない。わたしたちがよみがえらされることはない」と言う。かれらが主の御前に立たされるときを、あなたが見ることができたなら。かれは言われる。「これは真実ではないか。」かれらは言う。「そのとおりです。わたしたちの主にかけて。」かれは言われる。「それなら、真理を否定していたことのゆえに懲罰を味わいなさい。」アッラーとの会見を偽りとする者たちは、まことに損失を被った。その時がにわかにかれらに訪れると、かれらは言う。「ああ情けない、わたしたちがそれをおろそかにしていたとは。」かれらは自分の重荷を背に負う―かれらが負うものは何と悪いことか。現世の生活は、遊びと戯れにすぎない。来世の住まいは、アッラーを畏れる者たちにとってより良い。あなたがたは理性を働かせないのか。(25-32)

（預言者よ）かれらの言うことがあなたを悲しませていることを、われらはよく知っている。かれらが嘘つき呼ばわりしているのは、あなたではない。不正を行う者たちが退けているのは、アッラーのしるしなのである。あなた以前の使徒たちも嘘つき呼ばわりされた。だがかれらは、われらの助けが届くまで、否定と迫害に耐え忍んだ。アッラーの言葉を変えられる者はない。使徒たちについての知らせは、すでにあなたに届いている。もしかれらが背き去ることがあなたにとってつらいのなら、地中に抜け穴を、あるいは天にはしごを探し出して、かれらにしるしを持って来ることができるなら―そうしてみなさい。アッラーがお望みなら、かれらをみな導きの上に集められたであろう。だから無知な者の一人となってはならない。応えるのは、耳を傾ける者たちだけである。死者たちについては、アッラーがかれらをよみがえらせ、それからかれらはかれのもとに帰される。(33-36)

かれらは「なぜかれの主から、かれにしるしが下されないのか」と言う。言え、「アッラーにはしるしを下す力がある。」だがかれらの多くは知らない。地上を動くどんな生き物も、二つの翼で飛ぶどんな鳥も、あなたがたと同じような共同体でないものはない。われらは啓典の中で何一つ省かなかった。それからかれらは主のもとに集められる。われらのしるしを偽りとする者たちは、聞こえず、物言えず、幾重もの暗闇の中にいる。アッラーはお望みの者を迷うにまかせ、お望みの者をまっすぐな道の上に置かれる。言え、「あなたがたはどう思うか。もしアッラーの懲罰があなたがたに臨み、あるいはその時があなたがたに訪れたなら、アッラー以外のものを呼び求めるのか―あなたがたが真実を語っているのなら。」いや、あなたがたが呼び求めるのはかれである。そしてかれは、お望みなら、あなたがたが祈り

求めたことを取り除かれる。あなたがたは、かれに並べていたものを忘れてしまう。(37-41)

われらはあなた以前の諸共同体にも使徒たちを遣わし、かれらがへりくだるように、困窮と逆境でかれらを捕らえた。われらの災いがかれらに臨んだとき、かれらがへりくだっていたなら。だがかれらの心はかたくなになり、悪魔はかれらの行っていたことを良いものに見せかけた。それから、かれらが戒められたことを忘れたとき、われらはあらゆるものの門をかれらに開いた。そしてかれらが与えられたものに有頂天になっていると、われらはにわかにかれらを捕らえた。するとかれらは絶望に陥った。こうして不正を行った民は、最後の一人まで断ち切られた。すべての讃美は、万有の主アッラーのものである。(42-45)

言え、「あなたがたはどう思うか。もしアッラーがあなたがたの聴覚と視覚を取り上げ、あなたがたの心に封をされたなら、アッラーのほかのどの神が、それをあなたがたに戻してくれるのか。」見なさい、われらがどのようにさまざまにしるしを示すかを。それでもなお、かれらは背を向ける。言え、「あなたがたはどう思うか。もしアッラーの懲罰が、にわかに、あるいは公然とあなたがたに臨んだなら、不正を行う民のほかに滅ぼされる者があろうか。」われらが使徒たちを遣わすのは、ただ吉報を伝える者、警告する者としてである。信仰して行いを正す者―かれらには恐れもなく、悲しむこともない。だがわれらのしるしを偽りとする者たち―かれらが背いていたために、懲罰がかれらに触れる。言え、「わたしはあなたがたに、アッラーの宝庫がわたしのもとにあるとは言わない。目に見えないことも知らない。またわたしが天使であるとも言わない。わたしは、ただわたしに啓示されることに従うだけである。」言え、「目の見えない者と見える者は同じであろうか。あなたがたは深く考えないのか。」(46-50)

守護者も執り成す者もかれのほかにないままに主のもとに集められることを恐れる者たちに、これによって警告しなさい。かれらがアッラーを畏れる者となるように。主の御顔を求めて朝な夕なにかれに祈る者たちを、追い払ってはならない。かれらの清算は少しもあなたの責任ではなく、あなたの清算も少しもかれらの責任ではない。それなのにかれらを追い払うなら、あなたは不正を行う者の一人となる。このようにわれらは、かれらのある者をほかの者によって試みた。かれらが「アッラーがわたしたちの中から恵みを授けられたのは、この者たちなのか」と言うように。アッラーは、感謝する者たちを最もよく知っておられるではないか。(51-53)

われらのしるしを信じる者たちがあなたのもとに来たなら、言え、「あなたがたに平安あれ。あなたがたの主は、慈悲をご自身の務めとして定められた。あなたがたのうちで無知のために悪を行い、その後で悔い改めて行いを正す者には―かれはよく赦し、慈愛深い御方である。」このようにわれらはしるしを詳しく説き明かす。罪人たちの道が明らかになるように。言え、「わたしは、あなたがたがアッラーをさしおいて祈り求めるものを崇めることを禁じられた。」言え、「わたしはあなたがたの欲望には従わない。従えば、わたしは迷ったことになり、導かれた者の一人ではなくなる。」言え、「わたしは主からの明らかな証拠の上に立っている。それなのにあなたがたはそれを偽りとした。あなたがたが急いで求めているものは、わたしの手の内にはない。裁きはアッラーだけのものである。かれは真理を告げられる。かれは最も優れた裁決者である。」言え、「もしあなたがたが急いで求めているものがわたしの手の内にあったなら、わたしとあなたがたとの間の事は、すでに決せられていたであろう。だがアッラーは、不正を行う者たちがだれであるかを最もよく知っておられる。」 (54-58)

目に見えないことの鍵はかれのもとにあり、かれのほかにそれを知る者はない。かれは陸にあるものも海にあるものも、すべて知っておられる。一枚の木の葉が落ちるのも、かれが知らないことはない。大地の暗闇の中の一粒の種も、みずみずしいものも枯れたものも、明らかな書の中に記されていないものはない。[8] (59)

かれこそは、夜の間にあなたがたの魂を召し、あなたがたが昼の間に稼いだことを知っておられる御方である。それからかれは、定められた期限が全うされるように、昼の間にあなたがたを起こされる。それからあなたがたの帰り着く先はかれのもとであり、そのときかれは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げられる。かれはそのしもべたちの上に立つ至上の御方である。 (60)

かれはあなたがたの上に見守る者たちを遣わされる。そしてあなたがたのだれかに死が訪れると、われらの使いたちがその魂を召す。かれらは決して怠ることがない。それからかれらは、その真の主であるアッラーのもとに帰される。まことに裁きはかれのものであり、かれは清算者の中で最も速い御方である。 (61-62)

言え、「あなたがたが陸と海の暗闇の中で、『もしかれがここからわたしたちを救い出してくださるなら、わたしたちは必ず感謝する者となります』とへりくだり、

[8] 機会原因論―栄光あるクルアーンと科学

ひそかにかれに祈るとき、だれがあなたがたを救い出すのか。」言え、「アッラーこそ、そこから、またあらゆる苦難から、あなたがたを救い出される。それなのにあなたがたは、なおもかれに同位者を並べる。」言え、「かれには、あなたがたの頭上から、あるいは足もとから懲罰を送り、またあなたがたを諸派に分けて混乱させ、互いの暴力を味わわせる力がある。」見なさい、われらがどのようにさまざまにしるしを示すかを。かれらが理解するように。あなたの民はそれを偽りとした。それは真理であるのに。言え、「わたしはあなたがたの後見人ではない。どの知らせにも、定められた時がある。あなたがたはやがて知るであろう。」 (63-67)

われらのしるしについてあざけりの話にふける者たちを見たなら、かれらがほかの話に移るまで、かれらから離れなさい。もし悪魔があなたに忘れさせたなら、思い出した後は、不正を行う民と共に座っていてはならない。アッラーを畏れる者たちは、かれらの清算について少しも責任を負わない。ただ戒めるだけである。かれらもまたアッラーを畏れる者となるように。自分の宗教を遊びと戯れとし、現世の生活に欺かれた者たちは放っておきなさい。だがこれによって戒めなさい。だれかが自分の稼いだもののために破滅に引き渡されることのないように。その者にはアッラーのほかに守護者も執り成す者もなく、どんな身代金を差し出しても受け入れられない。このような者たちは、自分の稼いだもののために破滅に引き渡された者たちである。かれらには、真理を否定していたことのゆえに、煮えたぎる湯の飲み物と痛ましい懲罰がある。 (68-70)

言え、「わたしたちは、アッラーをさしおいて、わたしたちに益も害も与えられないものを祈り求め、アッラーがわたしたちを導かれた後で、きびすを返すのか―悪魔たちに誘われて地上をさまよい、途方に暮れている者のように。その者には、『わたしたちのもとに来なさい』と導きへ呼びかける仲間たちがいるというのに。」言え、「アッラーの導きこそ真の導きである。わたしたちは万有の主に帰依するよう命じられた。また礼拝を守り、かれを畏れるよう命じられた。かれこそは、あなたがたがそのもとに集められる御方である。」かれこそは、真理をもって天と地を創られた御方である。かれが「あれ」と言われる日、それはある。かれの言葉は真理である。ラッパが吹き鳴らされる日、王権はかれのものである。かれは目に見えないものも見えるものも知り、英知に満ち、すべてに通じておられる。 (71-73)

またイブラーヒームが父アーザルに言ったとき。「あなたは偶像を神々とするのですか。わたしには、あなたとあなたの民が明らかな迷いの中にいるのが見えます。」

このようにわれらは、イブラーヒームに天と地の王国を見せた。かれが固く信じる者の一人となるように。夜がかれを覆ったとき、かれは一つの星を見た。かれは言った。「これがわたしの主だ。」だがそれが沈むと、かれは言った。「わたしは沈むものを好まない。」それから月が昇るのを見て、かれは言った。「これがわたしの主だ。」だがそれが沈むと、かれは言った。「もし主がわたしを導いてくださらなければ、わたしは必ず迷った民の一人となる。」それから太陽が昇るのを見て、かれは言った。「これがわたしの主だ。これはもっと大きい。」だがそれが沈むと、かれは言った。「わが民よ、わたしは、あなたがたがアッラーに並べるものとは関わりがない。わたしは純正な信仰の者として、天と地を創り出された御方にわたしの顔を向けた。わたしはアッラーに同位者を並べる者ではない。」 (74-79)

かれの民はかれと言い争った。かれは言った。「あなたがたはアッラーについてわたしと言い争うのか。かれはすでにわたしを導かれたのに。わたしは、あなたがたがかれに並べるものを恐れない。ただし主が何かをお望みになる場合は別である。わたしの主は、その知識ですべてのものを包んでおられる。あなたがたは心に留めないのか。あなたがたが、アッラーが何の権威も下されなかったものをかれに並べていながら恐れないのに、どうしてわたしが、あなたがたがかれに並べるものを恐れようか。二つの集団のうち、どちらが安全を得るのにふさわしいか。あなたがたに分かるなら。」信仰し、その信仰に不正を混ぜない者たち――かれらには安全があり、かれらこそ正しく導かれた者である。それが、われらがイブラーヒームにその民に対して授けた論証であった。われらはお望みの者の位階を高める。あなたの主は英知に満ち、すべてを知っておられる。 (80-83)

またわれらはかれにイスハークとヤアクーブを授け、そのそれぞれを導いた。それ以前にはヌーフを導き、その子孫の中からダーウード、スライマーン、アイユーブ、ユースフ、ムーサー、ハールーンを導いた――このようにわれらは善を行う者たちに報いる――またザカリーヤー、ヤヒヤー、イーサー、イルヤースを。かれらはみな正しい者の一人であった――またイスマーイール、アルヤサア、ユーヌス、ルートを。われらはそのそれぞれを万有の上に優れたものとした――またかれらの父祖たち、子孫たち、兄弟たちの一部をも。われらはかれらを選び、まっすぐな道に導いた。それがアッラーの導きであり、かれはそのしもべたちの中のお望みの者を、それによって導かれる。もしかれらがかれに同位者を並べていたなら、かれらが行ったことはすべて無に帰したであろう。これらの者は、われらが啓典と判断力と預言者の位を授けた者たちである。もしこの人々がそれらを否定するなら、われらは、それら

を否定しない民にそれらを託した。これらの者は、アッラーが導かれた者たちである。だからかれらの導きに従いなさい。言え、「わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。これは万有への訓戒にほかならない。」 (84-90)

かれらは、「アッラーはどんな人間にも何一つ下されなかった」と言うとき、アッラーをふさわしく評価していない。言え、「それなら、ムーサーが人々への光と導きとして携えて来た啓典は、だれが下したのか。あなたがたはそれを羊皮紙に書き写し、その一部を見せ、多くを隠している。あなたがたは、自分も父祖たちも知らなかったことを教えられたのに。」言え、「アッラーが下されたのである。」それから、かれらが空しい談義にふけって戯れるままにしておきなさい。これは、われらが下した祝福に満ちた啓典であり、それ以前にあったものを確証する。あなたが諸都市の母とその周りの者たちに警告するためである。来世を信じる者たちはこれを信じ、かれらは自分の礼拝を守る。アッラーについて偽りをでっち上げ、あるいは何も啓示されていないのに「わたしに啓示があった」と言い、あるいは「アッラーが下されたのと同じようなものを、わたしも下してみせよう」と言う者よりも不正な者がだれかあろうか。不正を行う者たちが死の苦しみの中にあり、天使たちが手を伸ばしているときを、あなたが見ることができたなら。「あなたがたの魂を差し出しなさい。今日あなたがたは、アッラーについて真実でないことを語り、高慢にもそのしるしを退けていたことのゆえに、屈辱の懲罰で報いられる。今やあなたがたは、われらが最初にあなたがたを創ったときのように、ただ一人でわれらのもとに来た。われらが授けたものは、背後に残して来た。あなたがたの事においてアッラーの同位者であると言い張っていた、あの執り成す者たちの姿は、あなたがたと共には見えない。あなたがたの間のきずなは断ち切られ、あなたがたが言い張っていたものは、あなたがたを見捨てたのである。」 (91-94)

穀物の粒となつめやしの種を割いて芽生えさせるのはアッラーである。かれは死んだものから生きたものを出し、生きたものから死んだものを出される。それがアッラーである―それなのに、あなたがたはどうして背かされて行くのか。かれは夜明けを切り開く御方であり、夜を休息のために、太陽と月を時を数えるために設けられた。それは、偉力ならびなく全知である御方の定めである。かれこそは、あなたがたのために星々を設けられた御方である。あなたがたが陸と海の暗闇の中で、それらによって道を知るためである。われらは、知識ある人々のためにしるしを詳しく説き明かした。かれこそは、一つの魂からあなたがたを生じさせ、それからとどまる場所と預けられる場所を与えられた御方である。われらは、理解する人々のた

めにしるしを詳しく説き明かした。かれこそは、空から水を降らせる御方である。われらはそれによってあらゆる種類の植物を芽生えさせ、そこから緑の若芽を出し、そこからぎっしりと重なった穀粒を出す。またなつめやしの花房からは低く垂れ下がる実の房を、またぶどうの園、オリーブ、ざくろを出す。それらは似ていながら、互いに異なる。それが実を結ぶときの実と、その熟するさまを見なさい。まことにその中には、信仰する人々へのしるしがある。それなのにかれらは、ジンをアッラーの同位者とした。かれがそれらを創られたのに。またかれらは無知のために、かれに息子たちや娘たちがあるとこしらえ上げた。かれに栄光あれ。かれは、かれらの言い表すことをはるかに超えた高みにおられる。天と地を創り出された御方―配偶者もないのに、どうしてかれに子がありえようか。かれはすべてのものを創り、すべてのことを知っておられる。それがあなたがたの主アッラーである。かれのほかに神はなく、すべてのものの創造主である。だからかれを崇めなさい。かれはすべてのものを見守る御方である。どんな視覚もかれをとらえることはできないが、かれはすべての視覚をとらえられる。かれは玄妙にして、すべてに通じておられる。(95-103)

「今やあなたがたの主から、明らかな洞察があなたがたに届いた。見る者は自分の魂のために見るのであり、目を閉ざす者は自分の損失を招くのである。わたしはあなたがたの見張りではない。」このようにわれらはさまざまにしるしを示す。かれらが「あなたはだれかに学んだのだ」と言うように、またわれらが知識ある人々にそれを明らかにするためである。あなたの主からあなたに啓示されたものに従いなさい―かれのほかに神はない―そしてアッラーに同位者を並べる者たちから離れなさい。アッラーがお望みなら、かれらは同位者を並べなかったであろう。われらはあなたをかれらの見張りとはせず、あなたはかれらの後見人でもない。(104-107)

かれらがアッラーをさしおいて祈り求めるものをののしってはならない。かれらが敵意と無知からアッラーをののしることのないように。このようにわれらは、どの共同体にも、その行いを良いものに見せた。それからかれらの帰り着く先は主のもとであり、かれは、かれらが行っていたことをかれらに告げられる。かれらは、もししるしが届いたなら必ずそれを信じると、アッラーにかけて最も重い誓いを立てる。言え、「しるしはアッラーのもとにのみある。」それが届いても、かれらが信じないであろうことを、何があなたがたに気づかせようか。われらは、かれらが最初にそれを信じなかったように、かれらの心と目をそらせ、反逆の中をやみくもにさまようままにしておく。たとえわれらがかれらのもとに天使たちを下し、死者た

ちがかれらに語りかけ、われらがあらゆるものをかれらの目の前に集めても、アッラーがお望みにならない限り、かれらは信じないであろう。だがかれらの多くは無知である。このようにわれらは、どの預言者にも敵を設けた。人間とジンの中の悪魔たちであり、かれらは惑わすために、飾り立てた言葉を互いにささやき合う。あなたの主がお望みなら、かれらはそうしなかったであろう。だからかれらと、かれらがでっち上げるものを放っておきなさい。それは、来世を信じない者たちの心がそれに傾き、それを喜び、かれらが稼いでいるものを稼ぐようにするためである。(108-113)

言え、「アッラーのほかに、わたしが裁き手を求めるであろうか。かれこそは、詳しく説き明かされた啓典をあなたがたに下された御方であるのに。」われらが啓典を授けた者たちは、それが真理をもってあなたの主から下されたものであることを知っている。だから疑う者の一人となってはならない。あなたの主の言葉は、真実と公正のうちに全うされた。かれの言葉を変えられる者はない。かれは全聴にして全知の御方である。もしあなたが地上の大多数の者に従うなら、かれらはあなたをアッラーの道から迷わせるであろう。かれらはただ憶測に従い、ただ当て推量をしているだけである。[9]あなたの主は、かれの道から迷う者を最もよく知り、導かれた者たちを最もよく知っておられる。(114-117)

だから、あなたがたがかれのしるしを信じるなら、アッラーの御名が唱えられたものを食べなさい。アッラーの御名が唱えられたものを、どうしてあなたがたは食べないのか。かれは、あなたがたがやむをえず迫られる場合を除いて、あなたがたに禁じられたものを、すでに詳しく説き明かされたのに。多くの者は、知識もなく、自分の欲望によってほかの者を迷わせる。あなたの主は、限度を越える者たちを最もよく知っておられる。表に現れた罪も、隠れた罪も捨てなさい。罪を稼ぐ者たちは、自分の犯していたことの報いを受ける。アッラーの御名が唱えられなかったものを食べてはならない。それは背きである。悪魔たちは自分の仲間たちに、あなたがたと言い争うようささやく。もしあなたがたがかれらに従うなら、あなたがたは必ずアッラーに同位者を並べる者となる。死んでいたのに、われらが命を与え、それによって人々の間を歩む光を授けた者が、幾重もの暗闇の中にいて、そこから出られない者と同じであろうか。このように、真理を否定する者たちには、その行っていたことが良いものに見せられている。またこのようにわれらは、どの町にも、

[9] 無神論は憶測（ザン）の上に築かれている：科学的・哲学的・神学的注釈

そこで策謀を巡らす罪人の頭たちを置いた。だがかれらが策謀を巡らしているのは自分自身に対してにほかならず、しかもそれに気づいていない。しるしがかれらに届くと、かれらは「アッラーの使徒たちに授けられたのと同じものが授けられるまでは、わたしたちは信じない」と言う。アッラーは、その伝言をどこに託すべきかを最もよく知っておられる。罪を犯した者たちには、その巡らした策謀のために、アッラーの御前での屈辱と厳しい懲罰が降りかかる。アッラーが導こうと望まれる者には、その胸をアッラーへの帰依に向けて開かれる。迷うにまかせようと望まれる者には、その胸を狭く、窮屈にされる。まるで空に登って行こうとしているかのように。このようにアッラーは、信じない者たちの上に汚れを置かれる。 (118-125)

これがあなたの主のまっすぐな道である。われらは、心に留める人々のためにしるしを詳しく説き明かした。かれらには主のもとに平安の住まいがあり、かれらが行っていたことのゆえに、かれはかれらの守護者である。 (126-127)

かれがかれらをみな一緒に集められる日。「ジンの衆よ、あなたがたは人間の多くをたぶらかした。」人間の中のかれらの仲間たちは言う。「わたしたちの主よ、わたしたちは互いに利益を得てきました。そして今、あなたがわたしたちに定められた期限に達しました。」かれは言われる。「業火があなたがたの住みかであり、そこにとどまり続ける―アッラーがお望みになる場合は別である。」あなたの主は英知に満ち、すべてを知っておられる。このようにわれらは、不正を行う者たちが稼いでいたもののために、かれらを互いに支配させる。「ジンと人間の衆よ、あなたがた自身の中から使徒たちがあなたがたのもとに来て、わたしのしるしを語り聞かせ、あなたがたのこの日の会見について警告しなかったか。」かれらは言う。「わたしたちは自分自身に不利な証言をします。」現世の生活がかれらを欺いたのである。かれらは、自分たちが真理を否定していたと、自分自身に不利な証言をする。それは、あなたの主が、住民が何も知らないままに、不当に町々を滅ぼされることは決してないからである。だれにでも、その行ったことに応じた位階がある。あなたの主は、かれらの行うことを見過ごされはしない。あなたの主は満ち足りた御方、慈悲の持ち主である。かれがお望みなら、あなたがたを取り去り、お望みの者をあなたがたの代わりに置かれる。ちょうどほかの民の子孫からあなたがたを生じさせたように。あなたがたに約束されていることは必ず来る。あなたがたはそれを免れることはできない。言え、「わが民よ、あなたがたの立場で行いなさい。わたしも行う。最後の住まいがだれのものとなるかを、あなたがたはやがて知るであろう。まことに不正を行う者たちは成功しない。」 (128-135)

かれらは、アッラーが創られた作物と家畜の中から、その一部をアッラーに割り当てて、「これはアッラーのもの」―とかれらは言い張る―「これはわたしたちの同位者たちのもの」と言う。同位者たちのためのものはアッラーには届かないが、アッラーのためのものは同位者たちに届く。かれらの判断は何と悪いことか。同じように、かれらの同位者たちは、アッラーに同位者を並べる者たちの多くに、自分の子どもを殺すことを良いことのように見せた。かれらを滅ぼし、その宗教を混乱させるためである。アッラーがお望みなら、かれらはそうしなかったであろう。だからかれらと、かれらがでっち上げるものを放っておきなさい。かれらは「これらの家畜と作物は禁じられている。わたしたちが望む者のほかは、だれも食べてはならない」―とかれらは言い張る―「また背に乗ることが禁じられた家畜もあり、アッラーの御名を唱えない家畜もある」と言う―かれについて偽りをでっち上げているのである。かれは、かれらがでっち上げていたことについて報いられる。またかれらは「これらの家畜の胎内にあるものは、わたしたちの男だけのもので、わたしたちの妻には禁じられている。だが死んで生まれたなら、みなでそれを分け合う」と言う。かれは、かれらのその言い立てについて報いられる。かれは英知に満ち、すべてを知っておられる。知識もなく愚かにも自分の子どもを殺し、アッラーについて偽りをでっち上げて、アッラーが授けられたものを禁じる者たちは、まことに損失を被った。かれらは迷い、導かれていない。 (136-140)

かれこそは、棚のある園も棚のない園も、なつめやしも、さまざまな実りをもたらす作物も、オリーブもざくろも生じさせられた御方である。それらは似ていながら、互いに異なる。実を結んだなら、その実を食べなさい。そして収穫の日には、その当然の分を与えなさい。だが浪費してはならない。かれは浪費する者を愛されない。家畜の中には、荷を運ぶものもあり、ほふるためのものもある。アッラーがあなたがたに授けられたものを食べなさい。悪魔の足跡に従ってはならない。かれはあなたがたの公然の敵である。家畜は八頭、雌雄の対である。羊の二頭、山羊の二頭。言え、「かれが禁じられたのは二頭の雄か、二頭の雌か、それとも二頭の雌の胎内にあるものか。あなたがたが真実を語っているのなら、知識をもってわたしに告げなさい。」またらくだの二頭、牛の二頭。言え、「かれが禁じられたのは二頭の雄か、二頭の雌か、それとも二頭の雌の胎内にあるものか。それともアッラーがこれをあなたがたに命じられたとき、あなたがたはその場に居合わせたのか。」知識もなく人々を迷わせるために、アッラーについて偽りをでっち上げる者よりも不正な者がだれかあろうか。アッラーは不正を行う民を導かれない。 (141-144)

言え、「わたしに啓示されたものの中には、食べようとする者に禁じられたものを見いださない。ただ死肉、流れ出た血、豚の肉―それは不浄である―あるいはアッラー以外のものにささげられた罪深い供え物は別である。だが、欲しがるのでもなく、必要を越えるのでもなく、やむをえず迫られた者には―あなたの主はよく赦し、慈愛深い御方である。」ユダヤ教徒であった者たちに、われらは爪のあるすべての動物を禁じた。また牛と羊については、その脂を禁じた。ただし背や内臓についているもの、骨と混じっているものは別である。このようにわれらは、その反逆のゆえにかれらに報いた。われらは確かに真実を語る。もしかれらがあなたを嘘つき呼ばわりするなら、言え、「あなたがたの主は、すべてを包む慈悲の持ち主である。だがかれの懲らしめは、罪を犯す民から退けられることはない。」アッラーに同位者を並べる者たちは言うであろう。「アッラーがお望みなら、わたしたちもわたしたちの父祖たちも同位者を並べなかったであろうし、何も禁じなかったであろう。」かれら以前の者たちも、われらの懲らしめを味わうまで、同じように偽りとした。言え、「あなたがたには、わたしたちに示せる何かの知識があるのか。あなたがたはただ憶測に従い、ただ当て推量をしているだけである。」言え、「決定的な論証はアッラーのものである。かれがお望みなら、あなたがたをみな導かれたであろう。」言え、「アッラーがこれを禁じられたと証言できる、あなたがたの証人たちを連れて来なさい。」もしかれらが証言しても、あなたはかれらと共に証言してはならない。われらのしるしを偽りとし、来世を信じず、自分たちの主に同等のものを並べる者たちの欲望に従ってはならない。 (145-150)

言え、「来なさい。あなたがたの主があなたがたに禁じられたことを、わたしが読み聞かせよう。かれに何ものも並べてはならない。両親に良くしなさい。貧しさのために自分の子どもを殺してはならない―われらがあなたがたにもかれらにも糧を授ける。表に現れたものであれ隠れたものであれ、醜行に近づいてはならない。アッラーが神聖なものとされた命を、正当な理由なく奪ってはならない。これが、あなたがたが理性を働かせるように、かれが命じられたことである。孤児の財産には、かれが成年に達するまで、最も良い方法によるのでなければ近づいてはならない。升目と目方は公正に満たしなさい―われらはだれにも、その能力を超える重荷を負わせない。語るときには、たとえ近親に関わることであっても、公正でありなさい。そしてアッラーとの契約を果たしなさい。これが、あなたがたが心に留めるように、かれが命じられたことである。これがわたしのまっすぐな道である。だからそれに従いなさい。ほかの道に従ってはならない。それらはあなたがたをかれの道から散

り散りにしてしまう。これが、あなたがたがアッラーを畏れる者となるように、かれが命じられたことである。」 (151-153)

それからわれらはムーサーに啓典を授けた。善を行った者へのわれらの恵みを全うし、すべてのことを詳しく説き明かし、導きと慈悲とするためである。かれらが主との会見を信じるように。そしてこれは、われらが下した祝福に満ちた啓典である。だからそれに従い、アッラーを畏れなさい。あなたがたが慈悲を受けるように。あなたがたが「啓典はわたしたち以前の二つの集団にだけ下され、わたしたちはかれらの学んでいたことを知らなかった」と言わないように、あるいは「もし啓典がわたしたちに下されていたなら、わたしたちはかれらよりも正しく導かれていたであろう」と言わないようにするためである。今や、あなたがたの主から明らかな証拠と導きと慈悲があなたがたに届いた。アッラーのしるしを偽りとし、それから背を向ける者よりも不正な者がだれかあろうか。われらは、われらのしるしから背を向ける者たちに、その背を向けたことのゆえに、恐ろしい懲罰で報いる。かれらは、天使たちがかれらのもとに来ること、あるいはあなたの主が来られること、あるいはあなたの主のしるしのいくつかが来ることを待っているのか。あなたの主のしるしのいくつかが来る日、それ以前に信仰していなかった者、あるいはその信仰によって何の善も稼がなかった者には、信仰は何の役にも立たない。言え、「待ちなさい。わたしたちも待っている。」 (154-158)

自分たちの宗教を分裂させ、諸派となった者たちについては、あなたは少しも関わりがない。かれらの件はアッラーに委ねられている。そしてかれは、かれらが行っていたことをかれらに告げられる。一つの善行を携えて来る者には、その十倍の報いがある。だが一つの悪行を携えて来る者は、それと同じだけの報いを受けるにすぎない。かれらが不当に扱われることはない。言え、「わたしの主は、わたしをまっすぐな道に導かれた。正しい宗教、純正な信仰の人イブラーヒームの教えである。かれはアッラーに同位者を並べる者ではなかった。」言え、「わたしの礼拝も、わたしの奉仕も、わたしの生も、わたしの死も、万有の主アッラーのためである。かれには同位者はない。わたしはこのように命じられた。わたしはアッラーに帰依する者の最初の者である。」言え、「アッラーのほかに、わたしが主を求めるであろうか。かれこそすべてのものの主であるのに。だれもが稼ぐものは、ただ自分自身に降りかかる。重荷を負う者は、ほかの者の重荷を負うことはない。それからあなたがたの帰り着く先は主のもとであり、かれは、あなたがたが意見を異にしていたことについて、あなたがたに告げられる。」かれこそは、あなたがたを地上の代理

者とし、あなたがたのある者をほかの者よりも位階において高められた御方である。あなたがたに授けたものによって、あなたがたを試みるためである。あなたの主は懲らしめに速く、またまことによく赦し、慈愛深い御方である。 (159-165)

7. 高壁 (Al-Aʿrāf)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ミーム・サード。 (1)

（預言者よ）これはあなたに下された啓典である―だからそのために、あなたの胸に何のわだかまりもないように―あなたがそれによって警告するためであり、信者たちへの訓戒である。あなたがたの主からあなたがたに下されたものに従いなさい。かれをさしおいて、ほかのものを守護者として従ってはならない。あなたがたが心に留めることは何と少ないことか。 (2-3)

われらはどれほど多くの町を滅ぼしたことか。われらの懲らしめは、夜の間に、あるいはかれらが昼に休んでいる間に、かれらに臨んだ。われらの懲らしめが臨んだとき、かれらの叫びはただ「わたしたちは確かに不正を行う者でした」と言うことだけであった。われらは必ず、使徒たちが遣わされた者たちを問いただし、また必ず使徒たちをも問いただす。それからわれらは、知識をもってかれらに語り聞かせる。われらは決して不在ではなかったのである。その日の計量は真実である。はかりの重い者たち―かれらこそ成功する者である。はかりの軽い者たち―かれらこそ自分の魂を失った者である。われらのしるしを不当に扱っていたからである。 (4-9)

われらはあなたがたを地上に住まわせ、そこに暮らしの手だてを授けた。あなたがたが感謝することは何と少ないことか。われらはあなたがたを創り、それから形を与え、それから天使たちに「アーダムにひれ伏しなさい」と言った。かれらはひれ伏した―イブリースだけは別であった。かれはひれ伏す者たちの中にいなかった。かれは言われた。「わたしが命じたとき、何があなたをひれ伏すことから妨げたのか。」かれは言った。「わたしはかれよりも優れています。あなたはわたしを火から創り、かれを粘土から創られました。」かれは言われた。「ここから下りて行きなさい。ここで高慢に振る舞うことは、あなたには許されない。出て行きなさい。あなたは卑しめられた者の一人である。」かれは言った。「かれらがよみがえらされる日まで、わたしに猶予をお与えください。」かれは言われた。「あなたは猶予を与えられた者の一人である。」かれは言った。「あなたがわたしを迷わせられたのですから、わたしは必ず、あなたのまっすぐな道でかれらを待ち伏せます。それから、かれらの前から、後ろから、右から、左からかれらに迫ります。あなたは、かれらの多くが感謝する者でないことを見いだされるでしょう。」かれは言われた。

「さげすまれ、追放された者として、ここから出て行きなさい。かれらのうちであなたに従う者があれば、わたしは必ず、あなたがたみなで地獄を満たす。そしてアーダムよ、あなたとあなたの妻は楽園に住み、どこでも望むところから食べなさい。だがこの木に近づいてはならない。さもないと、あなたがた二人は不正を行う者となる。」 (10-19)

ところが悪魔は二人にささやいた。二人に隠されていたその恥ずかしいところを、二人にあらわにするためである。かれは言った。「あなたがたの主がこの木を禁じられたのは、ただあなたがたが天使となり、あるいは永遠に生きる者となることのないようにするためである。」そしてかれは二人に誓った。「わたしは確かに、あなたがたに心から忠告する者である。」こうしてかれは欺いて二人を堕落させた。二人がその木を味わうと、その恥ずかしいところが二人にあらわになり、二人は楽園の木の葉で身を覆い始めた。主は二人に呼びかけられた。「わたしはあの木をあなたがたに禁じ、悪魔はあなたがたの公然の敵であると告げなかったか。」二人は言った。「わたしたちの主よ、わたしたちは自分自身に不正を行いました。もしあなたがわたしたちを赦し、慈悲をかけてくださらなければ、わたしたちは必ず損失者となります。」かれは言われた。「下りて行きなさい。あなたがたは互いに敵である。地上には、しばらくの間あなたがたの住みかと糧がある。」かれは言われた。「そこであなたがたは生き、そこで死に、そこから引き出される。」 (20-25)

アーダムの子孫よ、われらは、あなたがたの恥ずかしいところを覆うための、また飾りとしての衣服をあなたがたに下した。だがアッラーを畏れる心という衣服―それこそ最も良い。これはアッラーのしるしの一つである。かれらが心に留めるように。アーダムの子孫よ、悪魔にたぶらかされてはならない。かれがあなたがたの祖先の二人を楽園から追い出し、その恥ずかしいところを見せるために、二人から衣服をはぎ取ったように。かれとその一族は、あなたがたからは見えないところから、あなたがたを見ている。われらは悪魔たちを、信じない者たちの盟友とした。 (26-27)

かれらは醜行を犯すと、「わたしたちは父祖たちがそうしているのを見た。アッラーがそれをわたしたちに命じられたのだ」と言う。言え、「アッラーは醜行を命じられない。あなたがたは、知りもしないことをアッラーについて語るのか。」言え、「わたしの主は公正を命じられた。どの礼拝の場でもあなたがたの顔をかれに向け、宗教をひたすらかれのものとして、かれに祈りなさい。かれがあなたがたを最初に生じさせたように、あなたがたは帰って行く。」かれはある者たちを導かれ、ある

者たちは迷いに値する者となった。かれらはアッラーをさしおいて悪魔たちを盟友とし、自分は導かれていると思い込んでいる。アーダムの子孫よ、どの礼拝の場でも身なりを整えなさい。食べ、飲みなさい。だが浪費してはならない。かれは浪費する者を愛されない。言え、「アッラーがそのしもべたちのために生じさせた飾りと、糧の中の良いものを、だれが禁じたのか。」言え、「それらは、現世の生活では信仰する者たちのためのものであり、復活の日にはかれらだけのものとなる。」このようにわれらは、知識ある人々のためにしるしを詳しく説き明かす。 (28-32)

言え、「わたしの主が禁じられたのは、ただ表に現れたものであれ隠れたものであれ醜行と、罪と、不当な圧迫と、アッラーが何の権威も下されなかったものをかれに並べること、そして知りもしないことをアッラーについて語ることだけである。」どの共同体にも定められた期限がある。その期限が来ると、かれらは一刻も遅らせることができず、早めることもできない。 (33-34)

アーダムの子孫よ、あなたがた自身の中から使徒たちがあなたがたのもとに来て、わたしのしるしを語り聞かせるとき―アッラーを畏れ、行いを正す者には恐れもなく、悲しむこともない。だがわれらのしるしを偽りとし、それに対して高慢に振る舞う者たち―かれらは業火の住人であり、そこにとどまり続ける。アッラーについて偽りをでっち上げ、あるいはかれのしるしを偽りとする者よりも不正な者がだれかあろうか。このような者たちは、書き定められた自分の分け前を受ける。やがてわれらの使いたちが、その魂を召すためにかれらのもとに来て言う。「あなたがたがアッラーをさしおいて祈り求めていたものは、どこにいるのか。」かれらは言う。「かれらはわたしたちを見捨てました。」そして自分たちが真理を否定していたと、自分自身に不利な証言をする。かれは言われる。「あなたがた以前に過ぎ去ったジンと人間の諸共同体と共に、業火に入りなさい。」一つの共同体が入るたびに、それは自分の姉妹の共同体を呪う。やがてみなが次々とその中に集まると、後から来た者たちは先に来た者たちについて言う。「わたしたちの主よ、この者たちがわたしたちを迷わせました。だからかれらに業火の懲罰を二倍にして与えてください。」かれは言われる。「どちらにも二倍がある。だがあなたがたは知らない。」先に来た者たちは後から来た者たちに言う。「あなたがたは、わたしたちより少しも優れてはいなかった。だから自分の稼いだもののゆえに懲罰を味わいなさい。」 (35-39)

われらのしるしを偽りとし、それに対して高慢に振る舞う者たち―かれらのために天の門は開かれず、らくだが針の穴を通るまでは、楽園に入ることもない。このよ

うにわれらは罪を犯す者たちに報いる。地獄がかれらの寝床となり、その上には火の覆いがある。このようにわれらは不正を行う者たちに報いる。だが信仰して善行に励む者たち―われらはだれにも、その能力を超える重荷を負わせない―かれらは楽園の住人であり、そこにとどまり続ける。われらは、かれらの胸の中にあるわだかまりを残らず取り除く。かれらの足もとには川が流れ、かれらは言う。「すべての讃美はアッラーのもの。かれがわたしたちをここへ導いてくださった。アッラーが導いてくださらなかったなら、わたしたちは決して導きを得られなかった。わたしたちの主の使徒たちは、確かに真理を携えて来たのだ。」そしてかれらに呼びかける声がある。「これが、あなたがたの行っていたことのゆえに、あなたがたが受け継ぐことになった楽園である。」楽園の住人たちは業火の住人たちに呼びかける。「わたしたちは、主がわたしたちに約束されたことが真実であるのを見いだした。あなたがたも、主が約束されたことが真実であるのを見いだしたか。」かれらは「そうだ」と言う。そのとき、かれらの間で一人の告げ手が叫ぶ。「アッラーの呪いは不正を行う者たちの上にある。かれらはほかの者たちをアッラーの道から妨げ、それを曲げようとし、来世を否定する者たちである。」 (40-45)

二つの間には一つの隔てがあり、高壁の上には、それぞれの者をその特徴によって見分ける人々がいる。かれらは楽園の住人たちに呼びかける。「あなたがたに平安あれ。」かれらはまだそこに入っていないが、入ることを切に願っている。そしてその目が業火の住人たちのほうに向けられると、かれらは言う。「わたしたちの主よ、わたしたちを不正を行う民と共に置かないでください。」高壁の上の人々は、その特徴によって見分けた人々に呼びかける。「あなたがたの蓄えも、あなたがたの高慢も、あなたがたに何の役にも立たなかった。あなたがたが、アッラーは決して慈悲をかけられないと誓ったのは、この者たちのことか。」その者たちには言われる。「楽園に入りなさい。あなたがたには恐れもなく、悲しむこともない。」 (46-49)

業火の住人たちは楽園の住人たちに呼びかける。「わたしたちの上に水を少し注いでください。あるいはアッラーがあなたがたに授けられたものを少し。」かれらは言う。「アッラーは、その両方を真理を否定する者たちに禁じられた。かれらは自分の宗教を戯れと遊びとし、現世の生活に欺かれた者たちである。」だから今日、われらはかれらを忘れる。かれらがこの日の会見を忘れ、われらのしるしを退けていたように。 (50-51)

われらは、知識をもって詳しく説き明かした啓典をかれらにもたらした。信仰する人々への導きと慈悲としてである。かれらはただ、その成就を待っているのか。その成就が訪れる日、以前にそれを忘れていた者たちは言う。「わたしたちの主の使徒たちは、確かに真理を携えて来た。今わたしたちのために執り成してくれる者がいるであろうか。あるいはわたしたちは送り返されて、以前行っていたのとは違うことを行えるであろうか。」かれらは自分の魂を失い、かれらがでっち上げていたものは、かれらを見捨てた。 (52-53)

あなたがたの主はアッラーである。かれは六つの時代に天と地を創り、それから玉座に君臨された。かれは夜を覆いとして昼にかぶせ、夜は急いで昼を追い求める。太陽も月も星々も、かれの命令によって仕えさせられている。まことに創造も命令もかれのものである。万有の主アッラーに祝福あれ。へりくだり、ひそかにあなたがたの主に祈りなさい。かれは限度を越える者を愛されない。地上が正された後で、そこに腐敗を広めてはならない。恐れと望みを抱いてかれに祈りなさい。アッラーの慈悲は、善を行う者たちの近くにある。かれこそは、その慈悲に先立つ吉報として風を送られる御方である。風が重い雲を運び上げると、われらはそれを死んだ土地に追いやり、それによって水を降らせ、それによってあらゆる種類の果実を生じさせる。このようにわれらは死者をよみがえらせる。あなたがたが心に留めるように。良い土地は、その主のお許しによって草木を生い茂らせる。だが悪い土地からは、わずかなものしか生えない。このようにわれらは、感謝する人々のためにさまざまにしるしを示す。 (54-58)

われらはヌーフをその民に遣わした。かれは言った。「わが民よ、アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。わたしはあなたがたのために、重大な日の懲罰を恐れる。」かれの民の長老たちは言った。「わたしたちには、あなたが明らかな迷いの中にいるのが見える。」かれは言った。「わが民よ、わたしには何の迷いもない。わたしは万有の主からの使徒である。わたしは主の伝言をあなたがたに伝え、心から忠告する。わたしは、あなたがたの知らないことをアッラーから知っている。あなたがたは、あなたがたの中の一人の男を通して、主からの訓戒が届いたことを不思議に思うのか。それはあなたがたに警告し、あなたがたがアッラーを畏れる者となり、慈悲を受けるためである。」だがかれらはかれを嘘つき呼ばわりした。そこでわれらは、かれと、かれと共にいた者たちを舟の中で救い、われらのしるしを偽りとした者たちを溺れさせた。かれらはまことに目の見えない民であった。 (59-64)

またアードには、その兄弟フードを遣わした。かれは言った。「わが民よ、アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。あなたがたはかれを畏れないのか。」かれの民のうち真理を否定する長老たちは言った。「わたしたちには、あなたが愚か者に見える。わたしたちは、あなたを嘘つきの一人だと思う。」かれは言った。「わが民よ、わたしには何の愚かさもない。わたしは万有の主からの使徒である。わたしは主の伝言をあなたがたに伝える。わたしはあなたがたにとって信頼できる忠告者である。あなたがたは、あなたがたの中の一人の男を通して、あなたがたに警告するために主からの訓戒が届いたことを不思議に思うのか。かれがヌーフの民の後にあなたがたを後継者とし、あなたがたの体格を大いに増し加えられたことを思い起こしなさい。アッラーの数々の恵みを思い起こしなさい。あなたがたが成功するように。」かれらは言った。「あなたは、わたしたちがアッラーだけを崇め、父祖たちが崇めていたものを捨てるようにと、わたしたちのもとに来たのか。あなたが真実を語っているのなら、わたしたちを脅しているものをもたらしてみなさい。」かれは言った。「あなたがたの主からの懲罰と怒りが、すでにあなたがたの上に降りかかった。あなたがたは、自分たちと父祖たちがこしらえた名前について、わたしと言い争うのか。アッラーはそれらについて何の権威も下されなかった。待ちなさい。わたしもあなたがたと共に待つ。」そこでわれらは、慈悲によってかれと、かれと共にいた者たちを救い、われらのしるしを偽りとし、信者でなかった者たちを最後の一人まで断ち切った。 (65-72)

またサムードには、その兄弟サーリフを遣わした。かれは言った。「わが民よ、アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。あなたがたの主から明らかな証拠があなたがたに届いた。これはアッラーの雌らくだであり、あなたがたへのしるしである。アッラーの大地でこれに草をはませ、害を加えてはならない。さもないと、痛ましい懲罰があなたがたを捕らえる。かれがアードの後にあなたがたを後継者とし、この地に住まわせられたことを思い起こしなさい。あなたがたはその平原に宮殿を建て、山々を刻んで家としている。アッラーの数々の恵みを思い起こしなさい。地上を腐敗を広めながら歩き回ってはならない。」かれの民のうち高慢な長老たちは、弱い者と見なされていた者たち―その中の信仰した者たち―に言った。「あなたがたは、サーリフが主から遣わされた者であると知っているのか。」かれらは言った。「わたしたちは、かれが携えて遣わされたものを信じる。」高慢な者たちは言った。「わたしたちは、あなたがたの信じるものを否定する。」それからかれらは雌らくだの足の腱を切り、主の命令に逆らって言った。「サーリ

フよ、あなたが使徒の一人であるなら、わたしたちを脅しているものをもたらしてみなさい。」すると地震がかれらを襲い、朝にはかれらは自分の家の中でうつ伏せに倒れていた。かれはかれらから離れて言った。「わが民よ、わたしは主の伝言をあなたがたに伝え、心から忠告した。だがあなたがたは、心から忠告する者たちを好まない。」 (73-79)

またルートを。かれはその民に言った。「あなたがたは、万有のうちのだれもあなたがた以前に犯したことのない醜行を犯すのか。あなたがたは女ではなく、男に欲情して近づく。あなたがたはあらゆる限度を越えた民である。」かれの民の答えは、ただこう言うことだけであった。「かれらをあなたがたの町から追い出しなさい。かれらは身を清く保とうとする人々だ。」そこでわれらは、かれとその家族を救った—かれの妻は別であり、かの女は後に残った者の一人であった—そしてかれらの上に石の雨を降らせた。見なさい、罪を犯した者たちの最後がどうであったかを。 (80-84)

またマドヤンには、その兄弟シュアイブを遣わした。かれは言った。「わが民よ、アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。あなたがたの主から明らかな証拠があなたがたに届いた。だから升目と目方を十分に満たし、人々のものを出し惜しんではならない。地上が正された後で、そこに腐敗を広めてはならない。あなたがたが信者であるなら、それがあなたがたのためにより良い。あらゆる道で待ち伏せして、かれを信じる者たちを脅し、アッラーの道から妨げ、それを曲げようとしてはならない。あなたがたが少数であったとき、かれがあなたがたを増やされたことを思い起こしなさい。そして腐敗を広めた者たちの最後がどうであったかを見なさい。もしあなたがたの一団が、わたしが携えて遣わされたものを信じ、別の一団が信じないなら、アッラーがわたしたちの間を裁かれるまで耐えて待ちなさい。かれは最も優れた裁き手である。」 (85-87)

かれの民のうち高慢な長老たちは言った。「シュアイブよ、わたしたちは必ず、あなたと、あなたと共に信仰する者たちを、わたしたちの町から追い出す。さもなければ、あなたがたはわたしたちの教えに戻りなさい。」かれは言った。「たとえわたしたちがそれを嫌っていてもか。アッラーがわたしたちをそこから救い出された後で、あなたがたの教えに戻るなら、わたしたちはアッラーについて偽りをでっち上げることになる。わたしたちの主アッラーがお望みにならない限り、そこに戻ることはわたしたちにはありえない。わたしたちの主は、その知識ですべてのものを包んでおられる。わたしたちはアッラーに信頼を寄せた。わたしたちの主よ、わた

したちとわたしたちの民との間を、真理をもって裁いてください。あなたは最も優れた裁決者です。」かれの民のうち真理を否定する長老たちは言った。「もしあなたがたがシュアイブに従うなら、あなたがたは必ず損失者となる。」すると地震がかれらを襲い、朝にはかれらは自分の家の中でうつ伏せに倒れていた。シュアイブを嘘つき呼ばわりした者たちは―まるでそこに住んだことがなかったかのようになった。シュアイブを嘘つき呼ばわりした者たち―かれらこそ損失者であった。かれはかれらから離れて言った。「わが民よ、わたしは主の伝言をあなたがたに伝え、心から忠告した。それなのにどうして、真理を否定する民のために悲しむことがあろうか。」 (88-93)

われらがある町に預言者を遣わすときには、必ずその住民を困窮と逆境で捕らえた。かれらがへりくだるように。それからわれらは、その苦難を安楽に取り替えた。やがてかれらは栄えて、「わたしたちの父祖たちも、逆境と繁栄に見舞われたものだ」と言った。そこでわれらは、かれらが気づかないうちに、にわかにかれらを捕らえた。もし町々の住民が信仰し、アッラーを畏れていたなら、われらはかれらの上に天と地からの祝福を開いたであろう。だがかれらは偽りとした。そこでわれらは、かれらが稼いでいたもののゆえに、かれらを捕らえた。 (94-96)

町々の住民は、われらの懲らしめが、かれらの眠っている夜の間に臨むことはないと安心しているのか。あるいは町々の住民は、われらの懲らしめが、かれらの遊び戯れている真昼に臨むことはないと安心しているのか。かれらはアッラーの計らいに対して安心しているのか。損失を被る民のほかは、だれもアッラーの計らいに対して安心しない。以前の住民の後でその地を受け継ぐ者たちにとって、われらが望めば、その罪のためにかれらを打ち、かれらの心に封をして聞こえなくすることもできるということが、導きとならないのか。これらが、われらがその物語をあなたに語り聞かせる町々である。かれらの使徒たちは明らかな証拠を携えてかれらのもとに来た。だがかれらは、以前に偽りとしたものを信じようとしなかった。このようにアッラーは、真理を否定する者たちの心に封をされる。われらは、かれらの多くが契約に誠実でないことを見いだした。われらは、かれらの多くが背く者であることを見いだした。 (97-102)

それからかれらの後に、われらはムーサーを、われらのしるしと共にフィルアウンとその長老たちに遣わした。だがかれらはそれを不当に扱った。見なさい、腐敗を広めた者たちの最後がどうであったかを。ムーサーは言った。「フィルアウンよ、

わたしは万有の主からの使徒である。アッラーについては真実のほか何も語らないことが、わたしの務めである。わたしはあなたがたの主からの明らかな証拠を携えて、あなたがたのもとに来た。だからイスラエルの子孫をわたしと共に行かせなさい。」かれは言った。「もしあなたがしるしを携えて来たのなら、それを出してみなさい。あなたが真実を語っているのなら。」そこでかれが杖を投げると、たちまちそれは紛れもない大蛇となった。またかれが手を引き出すと、たちまちそれは見る者たちの目に白く輝いた。フィルアウンの民の長老たちは言った。「これは確かに腕の立つ魔術師だ。かれはあなたがたをあなたがたの土地から追い出そうと望んでいる。さて、あなたがたは何を勧めるか。」かれらは言った。「かれとその兄弟をしばらく待たせておき、諸都市に召集者たちを遣わしなさい。腕の立つ魔術師をすべてあなたのもとに連れて来させるために。」 (103-112)

魔術師たちはフィルアウンのもとに来て言った。「わたしたちが勝者となったなら、きっと報酬をいただけるのでしょうね。」かれは言った。「そうだ。そしてあなたがたは、わたしの側近の一人となる。」かれらは言った。「ムーサーよ、あなたが先に投げるか、それともわたしたちが投げるか。」かれは言った。「あなたがたが投げなさい。」かれらが投げると、人々の目を惑わし、かれらを恐れおののかせ、大がかりな魔術を繰り広げた。そこでわれらはムーサーに啓示した。「あなたの杖を投げなさい。」するとたちまちそれは、かれらがこしらえた偽りのものを呑み込んだ。こうして真理が打ち立てられ、かれらが行っていたことは無に帰した。かれらはその場で打ち負かされ、卑しめられて引き下がった。そして魔術師たちはひれ伏して倒れた。かれらは言った。「わたしたちは万有の主を信じます。ムーサーとハールーンの主を。」フィルアウンは言った。「わたしが許す前に、あなたがたはかれを信じたのか。これは確かに、あなたがたがこの都でたくらみ、その住民をそこから追い出そうとする陰謀である。だがあなたがたはやがて知るであろう。わたしは必ずあなたがたの手足を互い違いに切り落とし、それからあなたがたをみな十字架にかける。」かれらは言った。「わたしたちは確かに主のもとに帰ります。あなたがわたしたちに復讐するのは、ただ主のしるしが届いたときに、わたしたちがそれを信じたからにほかなりません。わたしたちの主よ、わたしたちに忍耐を注ぎ、あなたに帰依した者として死なせてください。」 (113-126)

フィルアウンの民の長老たちは言った。「あなたは、ムーサーとその民が地上に腐敗を広め、あなたとあなたの神々を捨てるままに放っておくのですか。」かれは言った。「われわれはかれらの男児を殺し、女を生かしておく。われわれはかれらを

完全に支配している。」ムーサーはその民に言った。「アッラーに助けを求め、耐え忍びなさい。大地はアッラーのものであり、かれはそのしもべたちの中のお望みの者にそれを受け継がせられる。最後の良い結末は、アッラーを畏れる者たちのものである。」かれらは言った。「わたしたちは、あなたがわたしたちのもとに来る前にも、来てからも、害を受けてきた。」かれは言った。「あなたがたの主は、あなたがたの敵を滅ぼし、あなたがたをこの地の後継者とし、それからあなたがたがどのように行うかをご覧になるであろう。」 (127-129)

われらはフィルアウンの一族を、何年もの干ばつと果実の不足で苦しめた。かれらが心に留めるように。だが良いことが訪れると、かれらは「これはわたしたちの当然の分だ」と言い、悪いことが降りかかると、それをムーサーと、かれと共にいる者たちの不吉のせいにした。まことにかれらの吉凶はアッラーのもとにある。だがかれらの多くは知らない。かれらは言った。「あなたがわたしたちを惑わすためにどんなしるしを持って来ても、わたしたちはあなたを信じない。」そこでわれらは、かれらの上に洪水、いなご、しらみ、かえる、血を送った―はっきりと分かるしるしである。だがかれらは高慢に振る舞い、罪を犯す民であった。災いがかれらの上に降りかかるたびに、かれらは言った。「ムーサーよ、あなたの主があなたと交わされた約束によって、わたしたちのために祈ってください。もしあなたがこの災いをわたしたちから取り除いてくれるなら、わたしたちは必ずあなたを信じ、イスラエルの子孫をあなたと共に行かせます。」だがわれらが、かれらの達するべき期限までその災いを取り除くと、かれらはたちまち約束を破った。そこでわれらはかれらに報復し、かれらを海に溺れさせた。かれらがわれらのしるしを偽りとし、それに無頓着であったからである。そしてわれらは、弱い者と見なされていた民に、われらが祝福した土地の東と西を受け継がせた。あなたの主の良い言葉は、かれらが耐え忍んだゆえに、イスラエルの子孫の上に全うされた。そしてわれらは、フィルアウンとその民が造ったものと、築き上げたものを打ち壊した。 (130-137)

われらはイスラエルの子孫に海を渡らせた。するとかれらは、自分たちの偶像に仕えている民のところに来た。かれらは言った。「ムーサーよ、かれらに神々があるように、わたしたちにも一つの神を造ってください。」かれは言った。「あなたがたは無知な民である。この人々が携わっていることは滅びる定めにあり、かれらの行っていることは空しい。」かれは言った。「アッラーのほかに、わたしがあなたがたのために神を求めるであろうか。かれはあなたがたを万有の上に優れたものとされたのに。」われらがあなたがたをフィルアウンの一族から救い出したときを思

い起こしなさい。かれらはあなたがたを最もひどい責め苦に遭わせ、あなたがたの男児を殺し、女を生かしておいた--そこには主からの重大な試練があった。 (138-141)

われらはムーサーに三十夜を約束し、さらに十夜を加えてそれを全うした。こうして主の定められた期間は四十夜となった。ムーサーは兄弟ハールーンに言った。「わたしの民の中でわたしの代わりを務め、正しく行いなさい。腐敗を広める者たちの道に従ってはならない。」ムーサーがわれらの定めた時に来て、主がかれに語りかけられたとき、かれは言った。「主よ、あなたの御姿をわたしにお見せください。わたしがあなたを仰ぎ見ることができるように。」かれは言われた。「あなたはわたしを見ることはできない。だがあの山を見なさい。もしそれがその場所にしっかりととどまるなら、あなたはわたしを見るであろう。」主がその栄光を山に現されると、かれはそれを粉々に砕かれ、ムーサーは気を失って倒れた。われに返ると、かれは言った。「あなたに栄光あれ。わたしは悔い改めてあなたに帰ります。わたしは信者の最初の者です。」かれは言われた。「ムーサーよ、わたしは、わたしの伝言とわたしの語りかけによって、あなたをすべての人々の上に選んだ。だからわたしが授けたものを受け取り、感謝する者の一人となりなさい。」 (142-144)

われらはかれのために、板の上にあらゆる事柄についての訓戒と、あらゆる事柄の解き明かしを書き記した。「それをしっかりと守り、あなたの民に、その最も良いところを守るよう命じなさい。わたしは、背く者たちの住まいをあなたがたに見せよう。」わたしは、正当な理由もなく地上で高慢に振る舞う者たちを、わたしのしるしから背かせる。かれらはあらゆるしるしを見ても、それを信じない。正しい導きの道を見ても、それを自分の道としない。だが迷いの道を見ると、それを自分の道とする。それは、かれらがわれらのしるしを偽りとし、それに無頓着であったからである。われらのしるしと来世の会見を偽りとする者たち--かれらの行いは無に帰した。かれらは、自分の行っていたことのほかに、何かで報いられるであろうか。 (145-147)

ムーサーのいない間に、その民は自分たちの装身具で造った子牛を--うなり声を出すだけの体を--崇拝の対象とした。かれらは、それが自分たちに語りかけることも、どんな道に導くこともできないのを見なかったのか。かれらはそれを崇め、不正を行う者となった。そしてかれらが後悔に打ちのめされ、自分たちが迷ったことを悟ると、かれらは言った。「もし主がわたしたちに慈悲をかけ、赦してくださらなければ、わたしたちは必ず損失者となる。」ムーサーが怒り、悲しんでその民のもと

に戻ったとき、かれは言った。「わたしが去った後で、あなたがたがわたしに代わって行ったことは、何と悪いことか。あなたがたは主の命令を急がせようとしたのか。」かれは板を投げ捨て、兄弟の頭をつかんで自分のほうへ引き寄せた。ハールーンは言った。「わたしの母の子よ、民はわたしを弱い者と見なし、わたしを殺そうとするばかりでした。だから敵たちにわたしのことをあざ笑わせないでください。わたしを不正を行う民の一人に数えないでください。」かれは言った。「主よ、わたしと兄弟を赦し、わたしたちをあなたの慈悲の中に入れてください。あなたは慈悲深い者の中で最も慈悲深い御方です。」子牛を崇めた者たち―主からの怒りと、現世の生活での屈辱がかれらに及ぶ。このようにわれらは、偽りをでっち上げる者たちに報いる。だが悪い行いをした後で悔い改め、信仰する者たち―まことにあなたの主は、その後では、よく赦し、慈愛深い御方である。 (148-153)

ムーサーの怒りが静まると、かれは板を取り上げた。そこに記されたことの中には、主を畏れ敬う者たちへの導きと慈悲があった。ムーサーは、われらの定めた時のために、その民の中から七十人の男を選んだ。激しい震動がかれらを襲ったとき、かれは言った。「主よ、あなたがお望みなら、以前にかれらもわたしも滅ぼすことがおできになりました。わたしたちの中の愚かな者たちが行ったことのために、あなたはわたしたちを滅ぼされるのですか。これはあなたの試練にほかなりません。あなたはそれによって、お望みの者を迷うにまかせ、お望みの者を導かれます。あなたはわたしたちの守護者です。だからわたしたちを赦し、慈悲をおかけください。あなたは赦す者の中で最も優れた御方です。わたしたちのために、現世でも来世でも良いことをお定めください。わたしたちはあなたのもとに立ち帰りました。」かれは言われた。「わたしの懲罰―わたしは望む者にそれを下す。だがわたしの慈悲はすべてのものを包む。わたしはそれを、アッラーを畏れ、定めの喜捨を納める者たち、われらのしるしを信じる者たちのために定める―かれらは使徒、文字を知らない預言者に従う者たちである。かれらは、自分たちのもとにある律法と福音の中に、かれが記されているのを見いだす。かれは正しいことを命じ、悪いことを禁じ、良いものをかれらに許し、汚れたものを禁じ、かれらの上にあった重荷とかせを取り除く。かれを信じ、かれを敬い、かれを助け、かれと共に下された光に従う者たち―かれらこそ成功する者である。」言え、「人々よ、わたしは、あなたがたすべてに遣わされたアッラーの使徒である―天と地の王権はかれのものである。かれのほかに神はなく、かれは生を与え死を与えられる。だからアッラーとその使徒、文

字を知らない預言者を信じなさい。かれはアッラーとその御言葉を信じる。かれに従いなさい。あなたがたが導かれるように。」 (154-158)

ムーサーの民の中には、真理によって導き、それによって公正に行う一団がいる。われらはかれらを十二の部族に、それぞれの共同体として分けた。その民がかれに水を求めたとき、われらはムーサーに啓示した。「あなたの杖で岩を打ちなさい。」するとそこから十二の泉がわき出て、それぞれの集団は自分の水飲み場を知った。われらは雲でかれらに陰をつくり、マンナとうずらを下した。「われらが授けた良いものを食べなさい。」かれらはわれらに不正を行ったのではなく、ただ自分自身に不正を行っただけである。またかれらにこう言われたとき。「この町に住み、どこでも望むところで食べなさい。そして、わたしたちの重荷を除いてください、と言い、謙虚に門を入りなさい。そうすればわれらはあなたがたの罪を赦し、善を行う者にはさらに多くを与える。」―ところがかれらの中の不正を行う者たちは、授けられた言葉を別の言葉にすり替えた。そこでわれらは、その不正のために、かれらの上に天から災いを下した。 (159-162)

海辺にあった町について、かれらに尋ねなさい。かれらが安息日の掟を破ったときのことを。安息日には魚が水面に姿を現してかれらのもとに来たが、安息日を守らない日には来なかった。このようにわれらは、かれらが背いていたために、かれらを試みた。またかれらの一団がこう言ったとき。「アッラーが滅ぼそうとし、あるいは厳しく罰しようとしておられる民を、なぜあなたがたは諭すのか。」かれらは言った。「あなたがたの主の御前で責めを免れるため、またかれらがアッラーを畏れる者となるかもしれないからである。」かれらが戒められたことを忘れたとき、われらは悪を禁じていた者たちを救い、不正を行った者たちを、その背きのゆえに恐ろしい懲罰で捕らえた。そしてかれらが禁じられたことにあくまで逆らったとき、われらはかれらに言った。「卑しめられた猿になれ。」またあなたの主が、復活の日まで、かれらにひどい苦しみを加える者たちを、必ずかれらに対して遣わすと宣言されたときを思い起こしなさい。あなたの主は懲らしめに速く、またまことによく赦し、慈愛深い御方である。 (163-167)

われらはかれらを、いくつもの共同体として地上に散らした。その中には正しい者もあり、そうでない者もあった。われらは良いことと悪いことでかれらを試みた。かれらが立ち帰るように。その後に、啓典を受け継いだ別の者たちが続いた。かれらはこの卑しい現世のはかない利得を取り、「わたしたちは赦されるであろう」と

言う。そして同じような利得がまた訪れると、またそれを取る。アッラーについては真実のほか何も語らないという啓典の契約が、かれらから取られたのではなかったか。かれらはその中にあることを学んだのである。来世の住まいは、アッラーを畏れる者たちにとってより良い。あなたがたは理性を働かせないのか。啓典をしっかりと守り、礼拝を守る者たち―われらは、行いを正す者たちの報奨を無駄にしない。またわれらが、天蓋のように山をかれらの上に持ち上げ、かれらがそれが自分たちの上に落ちて来ると思ったとき。「われらが授けたものをしっかりと守り、そこにあることを心にとどめなさい。あなたがたがアッラーを畏れる者となるように。」 (168-171)

またあなたの主が、アーダムの子孫から、その腰から、かれらの子孫を取り出し、かれら自身について証言させられたとき。「わたしはあなたがたの主ではないか。」かれらは言った。「そのとおりです。わたしたちは証言します。」これは、あなたがたが復活の日に「わたしたちはこのことを知らなかった」と言わないように、あるいは「以前アッラーに同位者を並べたのは、わたしたちの父祖たちであり、わたしたちはその後の子孫にすぎなかった。偽りに従った者たちが行ったことのために、あなたはわたしたちを滅ぼされるのですか」と言わないようにするためである。このようにわれらはしるしを詳しく説き明かす。かれらが立ち帰るように。 (172-174)

われらがしるしを授けたのに、それを脱ぎ捨てた者の物語を、かれらに読み聞かせなさい。悪魔がかれの後を追い、かれは迷う者の一人となった。われらが望んだなら、それらによってかれを高めたであろう。だがかれは地にしがみつき、自分の欲望に従った。かれのたとえは犬のようである。追い払っても舌を垂らしてあえぎ、放っておいても舌を垂らしてあえぐ。それが、われらのしるしを偽りとする民のたとえである。だからこの物語を語りなさい。かれらが深く考えるように。われらのしるしを偽りとする民のたとえは何と悪いことか。かれらが不正を行っていたのは、自分自身に対してであった。アッラーが導かれる者は、正しく導かれた者である。かれが迷うにまかせられる者―かれらこそ損失者である。われらは、ジンと人間の多くを地獄のために創った。かれらには心があるが、それで理解しない。目があるが、それで見ない。耳があるが、それで聞かない。かれらは家畜のようである―いや、それ以上に迷っている。かれらこそ無頓着な者である。 (175-179)

最も美しい名はアッラーのものである。だからそれらの名でかれに祈りなさい。かれの名を汚す者たちは放っておきなさい。かれらは自分の行っていたことの報いを

受ける。われらが創った者たちの中には、真理によって導き、それによって公正に行う一団がいる。われらのしるしを偽りとする者たちは、かれらの知らないところから、われらが一歩一歩破滅へと導いて行く。わたしはかれらに猶予を与える。わたしの計らいは堅固である。かれらは深く考えなかったのか。かれらの仲間には何の狂気もない。かれは明らかな警告者にほかならない。かれらは、天と地の王国と、アッラーが創られたすべてのものを見つめ、自分たちの期限がすでに近づいているかもしれないと考えなかったのか。この後で、かれらはどの言葉を信じるのか。アッラーが迷うにまかせられた者には、導く者はない。かれはかれらを、反逆の中をやみくもにさまようままにしておかれる。 (180-186)

（預言者よ）かれらはその時についてあなたに尋ねる。「それはいつ到来するのか。」言え、「その知識はわたしの主のもとにだけある。かれのほかに、その時が来たときにそれを明らかにする者はない。それは天と地に重くのしかかっている。それはにわかにしか、あなたがたに訪れない。」かれらは、あなたがそれを知りたがっているかのように、あなたに尋ねる。言え、「その知識はアッラーのもとにだけある。だが人々の多くは知らない。」言え、「わたしは、アッラーがお望みになること以外、自分自身を益する力も害する力も持たない。もしわたしが目に見えないことを知っていたなら、多くの良いものを手に入れ、どんな害もわたしに触れなかったであろう。わたしは、信仰する民への警告者、吉報を伝える者にすぎない。」 (187-188)

かれこそは、一つの魂からあなたがたを創り、それからその配偶者を設けられた御方である。かれがかの女のもとで安らぎを得るためである。かれがかの女を覆うと、かの女は軽い荷を宿し、それを抱えて過ごした。やがてそれが重くなると、二人は主アッラーに祈った。「もしあなたがわたしたちに健やかな子を授けてくださるなら、わたしたちは必ず感謝する者となります。」ところがかれが二人に健やかな子を授けられると、二人は、かれが授けられたものについて、かれに同位者を並べた。アッラーは、かれらが並べるものをはるかに超えて高くおられる。かれらは、何も創らず、自ら創られたものを、かれに並べるのか。それらはかれらを助けることもできず、自分自身を助けることもできないのに。 (189-192)

あなたがたがそれらを導きへと呼んでも、それらはあなたがたに従わない。あなたがたがそれらを呼んでも、黙っていても、あなたがたにとっては同じことである。あなたがたがアッラーをさしおいて祈り求めるものは、あなたがたと同じようなしもべである。それなら、それらに祈り求め、あなたがたに答えさせてみなさい。あ

なたがたが真実を語っているのなら。それらには、歩く足があるのか。つかむ手があるのか。見る目があるのか。聞く耳があるのか。言え、「あなたがたの同位者たちを呼びなさい。それからわたしに対して策謀を巡らし、猶予を与えるな。わたしの守護者は、啓典を下されたアッラーである。かれは正しい者たちを守られる。あなたがたがかれをさしおいて祈り求めるものは、あなたがたを助けることもできず、自分自身を助けることもできない。」あなたがたがかれらを導きへと呼んでも、かれらは聞かない。あなたは、かれらがあなたを見つめているのを見るが、かれらは見ていない。寛容を旨とし、正しいことを命じ、無知な者たちから離れなさい。もし悪魔からのそそのかしがあなたをそそのかすなら、アッラーに加護を求めなさい。かれは全聴にして全知の御方である。アッラーを畏れる者たちは、悪魔からの誘いが触れると、かれを念じる。するとたちまち、はっきりと見えるようになる。だが悪魔たちの兄弟たちは、悪魔たちによっていっそう深く迷いの中に引き込まれ、決して手を緩めない。 (193-202)

あなたがかれらにしるしを持って来ないと、かれらは「なぜあなたは一つ選んで来なかったのか」と言う。言え、「わたしは、ただ主からわたしに啓示されるものに従うだけである。これはあなたがたの主からの明らかな洞察であり、信仰する人々への導きと慈悲である。」クルアーンが読誦されるときには、それに耳を傾け、静かにしていなさい。あなたがたが慈悲を受けるように。朝な夕なに、声を高くすることなく、へりくだり、畏れを抱いて、あなたの心の中で主を念じなさい。無頓着な者の一人となってはならない。あなたの主のおそば近くにいる者たちは、かれを崇めることに高慢ではない。かれらはかれを讃え、かれにひれ伏す。 (203-206)

8. 戦利品 (Al-Anfāl)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

（預言者よ）かれらは戦いで得たものについてあなたに尋ねる。言え、「戦いで得たものは、アッラーと使徒のものである。だからあなたがたが信者であるなら、アッラーを畏れ、あなたがたの間の関係を正し、アッラーとその使徒に従いなさい。」信者とは、アッラーの御名が唱えられるとその心がおののき、かれのしるしが読み聞かされるとその信仰が強まり、主に信頼を寄せる者たちにほかならない。かれらは礼拝を守り、われらが授けたものの中から施す。これらの者こそ真の信者である。かれらには、主のもとに栄誉の位階と、赦しと、豊かな糧がある。 (1-4)

それはちょうど、あなたの主が真理のためにあなたをあなたの家から出て行かせられたのと同じである。信者たちの一部はそれを嫌い、真理が明らかにされた後でも、それについてあなたと言い争った。まるで目を開けたまま死へと追い立てられているかのように。またアッラーが、二つの集団のうちの一つがあなたがたのものとなると約束されたときを思い起こしなさい。あなたがたは、武装していないほうが自分たちのものとなることを望んだ。だがアッラーは、その御言葉によって真理を確立し、真理を否定する者たちを最後の一人まで断ち切ろうと望まれた。罪を犯す者たちがどれほど嫌っても、真理を真理とし、偽りを偽りとするためである。あなたがたが主に助けを叫び求めたとき、かれはあなたがたに答えられた。「わたしは、次々と続く千の天使であなたがたを加勢する。」アッラーがそれをなされたのは、ただ吉報とし、それによってあなたがたの心を安んじさせるためであった—助けはアッラーのもとからのみ来る。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。かれが、ご自分からの安心としてまどろみであなたがたを包み、空からあなたがたの上に水を降らせられたときを思い起こしなさい。それによってあなたがたを清め、悪魔の汚れをあなたがたから取り除き、あなたがたの心を引き締め、足場を固めるためである。あなたの主が天使たちに啓示されたとき。「わたしはあなたがたと共にいる。だから信仰する者たちを堅固にしなさい。わたしは真理を否定する者たちの心に恐怖を投げ込む。だからかれらの首の上を打ち、かれらの指先をことごとく打ち落としなさい。」それは、かれらがアッラーとその使徒に逆らったからである。アッラーとその使徒に逆らう者には—アッラーの懲罰は厳しい。「それが

あなたがたの分である―だからそれを味わいなさい。」真理を否定する者たちには業火の懲罰がある。[10] (5-14)

信仰する者たちよ、真理を否定する者たちが大挙して進んで来るのに出会ったなら、かれらに背を向けてはならない。その日かれらに背を向ける者は―再び戦うために向きを変える場合や、別の部隊に合流するために退く場合を除いて―アッラーの怒りを身に招いたのであり、その逃げ場は地獄である。何と悪い行き着く先であろう。(15-16)

かれらを殺したのはあなたがたではなく、アッラーがかれらを殺されたのである。（預言者よ）あなたが不信仰者たちに向かって砂を投げたとき、投げたのはあなたではなく、アッラーが投げられたのである―かれが信者たちに、ご自分からの良い試練によって恵みを施されるためであった。アッラーは全聴にして全知の御方である。[11] (17)

そのとおりである。アッラーは、真理を否定する者たちの策略をくじかれる。真理を否定する者たちよ、あなたがたが裁決を求めていたのなら、その裁決は今やあなたがたに届いた。もしあなたがたがやめるなら、それがあなたがたのためにより良い。だが再び戻るなら、われらも戻る。あなたがたの軍勢は、どれほど多くても、あなたがたに何の役にも立たない。アッラーは信者たちと共におられる。 (18-19)

信仰する者たちよ、アッラーとその使徒に従いなさい。聞いていながら、かれから背を向けてはならない。聞いてもいないのに「わたしたちは聞いた」と言う者たちのようになってはならない。アッラーの御目に最も悪い生き物は、理性を働かせない、耳の聞こえず物の言えない者たちである。アッラーがかれらの中に何か良いところを認められたなら、かれらに聞かせられたであろう。だが聞かせられたとしても、かれらは嫌って背を向けたであろう。信仰する者たちよ、使徒があなたがたに命を与えるものへとあなたがたを呼ぶときには、アッラーと使徒に応えなさい。(20-23)

そして、アッラーが人とその心との間に入られること、またあなたがたがかれのもとに集められることを知りなさい。[12] (24)

[10] 機会原因論―栄光あるクルアーンと科学
[11] 機会原因論―栄光あるクルアーンと科学
[12] 機会原因論―栄光あるクルアーンと科学

あなたがたの中の不正を行う者たちだけに降りかかるのではない試練に、用心しなさい。そしてアッラーの懲罰が厳しいことを知りなさい。 (25)

あなたがたが少数で、この地で弱い者と見なされ、人々にさらわれるのを恐れていたときを思い起こしなさい。そのときかれは、あなたがたに避難所を与え、その助けによってあなたがたを強め、良いものを糧として授けられた。あなたがたが感謝するように。信仰する者たちよ、アッラーと使徒を裏切ってはならない。またあなたがたに託された信頼を、知りながら裏切ってはならない。あなたがたの財産と子どもたちは試練にすぎないこと、そしてアッラーのもとには重大な報奨があることを知りなさい。信仰する者たちよ、もしあなたがたがアッラーを畏れるなら、かれは正しいことと誤りとを見分ける識別の力をあなたがたに授け、あなたがたの悪い行いを消し、あなたがたを赦される。アッラーは偉大な恵みの主である。 (26-29)

また真理を否定する者たちが、あなたを閉じ込め、あるいは殺し、あるいは追い出そうとたくらんだときを思い起こしなさい。かれらはたくらみ、アッラーも計らわれた。アッラーは最も優れた計らい手である。われらのしるしが読み聞かされると、かれらは言う。「わたしたちはもう聞いた。望めば、わたしたちもこれと同じようなことを言える--これは昔の人々の作り話にほかならない。」またかれらがこう言ったとき。「アッラーよ、もしこれが本当にあなたからの真理であるなら、わたしたちの上に空から石の雨を降らせるか、何か痛ましい懲罰をもたらしてください。」だがアッラーは、あなたがかれらの中にいる間は、かれらを罰されなかった。またかれらが赦しを請うている間も、アッラーはかれらを罰されなかった。だが、かれらが人々を聖なるマスジドから妨げているのに、アッラーがかれらを罰されないどんな理由があろうか。かれらはその守護者ではないのに。その守護者は、アッラーを畏れる者たちにほかならない—だがかれらの多くは知らない。この館でのかれらの礼拝は、口笛と手拍子にほかならなかった。「だからあなたがたが真理を否定していたことのゆえに、懲罰を味わいなさい。」真理を否定する者たちは、人々をアッラーの道から妨げるために財産を費やす。かれらはそれを費やし続けるが、やがてそれはかれらの悔恨の種となり、それからかれらは打ち負かされる。真理を否定する者たちは地獄に集められる—アッラーが悪いものを良いものから分け、悪いものを一つまた一つと積み重ね、ひとまとめにして地獄に投げ込まれるためである。これらの者こそ損失者である。真理を否定する者たちに告げなさい。もしかれらがやめるなら、過ぎたことは赦される。だが再びそれに戻るなら、昔の人々の先例がすでに過ぎ去っている、と。迫害がなくなり、宗教がすべてアッラーのものとなる

まで、かれらと戦いなさい。もしかれらがやめるなら、アッラーはかれらの行うことをすべてよく見ておられる。だが背き去るなら、アッラーがあなたがたの守護者であることを知りなさい。何とすばらしい守護者、何とすばらしい援助者であろう。(30-40)

そして知りなさい。あなたがたが戦いで得たものは何であれ、その五分の一はアッラーと使徒のもの、また近親、孤児、貧しい者、旅人のものである—あなたがたがアッラーと、識別の日、両軍が相まみえた日にわれらがわれらのしもべに下したものを信じるなら。アッラーは万事に全能である。あなたがたが谷の近いほうの岸に、かれらが遠いほうの岸にいて、隊商があなたがたの下方にいたときを思い起こしなさい。もしあなたがたが会う約束をしていたなら、あなたがたはその約束を果たせなかったであろう。だがそうなったのは、アッラーが、すでに定められた事を成し遂げられるためであった—滅びる者が明らかな証拠に基づいて滅び、生きる者が明らかな証拠に基づいて生きるためである。アッラーは全聴にして全知の御方である。(41-42)

アッラーが、あなたの夢の中でかれらを少数に見せられたときを思い起こしなさい。もしかれがかれらを多数に見せられたなら、あなたがたは気力を失い、その事について言い争ったであろう。だがアッラーはあなたがたを無事に守られた。かれは胸の中にあることをよく知っておられる。またあなたがたが相まみえたとき、かれはあなたがたの目にかれらを少数に見せ、かれらの目にもあなたがたを少数に見せられた。アッラーが、すでに定められた事を成し遂げられるためであった。すべての事はアッラーに帰される。(43-44)

信仰する者たちよ、敵の軍勢に出会ったなら、堅く立ち、アッラーを多く念じなさい。あなたがたが成功するように。アッラーとその使徒に従いなさい。互いに言い争ってはならない。さもないと、あなたがたは気力を失い、力が抜けてしまう。耐え忍びなさい。アッラーは耐え忍ぶ者たちと共におられる。得意になり、人々に見せびらかしながら自分の家を出て、ほかの者たちをアッラーの道から妨げた者たちのようになってはならない。アッラーはかれらの行うことをすべて取り囲んでおられる。また悪魔がかれらの行いを良いものに見せかけて、こう言ったときを思い起こしなさい。「今日、人々の中であなたがたに打ち勝てる者はいない。わたしがあなたがたのそばについている。」ところが両軍が互いに見えるところまで来ると、かれはきびすを返して言った。「わたしはあなたがたとは関わりがない。わたしに

は、あなたがたの見えないものが見える。わたしはアッラーを恐れる―アッラーの懲罰は厳しい。」 (45-48)

偽信者たちと、心に病のある者たちは言った。「この者たちは、自分たちの宗教に惑わされている。」だがアッラーに信頼を寄せる者には―アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。天使たちが、真理を否定する者たちの顔と背を打ちながら、その魂を召すときを、あなたが見ることができたなら。「焼き尽くす懲罰を味わいなさい。」「これはあなたがた自身の手が先に送ったもののためである―アッラーは決してそのしもべたちに不正を行われない。」かれらのありさまは、フィルアウンの一族や、それ以前の者たちと同じである。かれらはアッラーのしるしを否定した。そこでアッラーは、その罪のためにかれらを捕らえられた。アッラーは強く、懲罰の厳しい御方である。それは、ある民が自分たちの内にあるものを変えない限り、アッラーはその民に授けた恵みを決して変えられないからである。アッラーは全聴にして全知の御方である。かれらのありさまは、フィルアウンの一族や、それ以前の者たちと同じである。かれらは主のしるしを偽りとした。そこでわれらは、その罪のためにかれらを滅ぼし、フィルアウンの一族を溺れさせた。かれらはみな不正を行う者であった。 (49-54)

アッラーの御目に最も悪い生き物は、真理を否定して信じようとしない者たちである。あなたがかれらと契約を結んでも、かれらはそのたびに契約を破り、アッラーを畏れない。だから戦いでかれらに出会ったなら、かれらを見せしめにして、その背後にいる者たちを追い散らしなさい。かれらが心に留めるように。もしある民の裏切りを恐れるなら、対等の立場でその契約をかれらに投げ返しなさい。アッラーは裏切る者たちを愛されない。真理を否定する者たちは、われらを出し抜いたと思ってはならない。かれらは決してアッラーをくじくことはできない。かれらに対して、できる限りの兵力と、つないだ軍馬を備えなさい。それによってアッラーの敵とあなたがたの敵を恐れさせ、またかれらのほかに、あなたがたは知らないがアッラーが知っておられる者たちをも恐れさせるためである。あなたがたがアッラーの道のために費やすものは何であれ、あなたがたに十分に報いられ、あなたがたが不当に扱われることはない。もしかれらが和平に傾くなら、あなたもそれに傾き、アッラーに信頼を寄せなさい。かれは全聴にして全知の御方である。もしかれらがあなたを欺こうとするなら、あなたにはアッラーで十分である。かれこそは、その助けと信者たちによってあなたを強め、かれらの心を結び合わせられた御方である。たとえあなたが地上にあるすべてのものを費やしても、かれらの心を結び合わせる

ことはできなかったであろう。だがアッラーがかれらを結び合わせられた。かれは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。預言者よ、あなたにも、あなたに従う信者たちにも、アッラーで十分である。預言者よ、信者たちを戦いへと奮い立たせなさい。あなたがたの中に耐え忍ぶ者が二十人いれば、二百人に打ち勝つ。あなたがたが百人いれば、真理を否定する者たち千人に打ち勝つ。かれらは理解しない民だからである。今やアッラーは、あなたがたの中に弱さがあることを知って、あなたがたの重荷を軽くされた。だからあなたがたの中に耐え忍ぶ者が百人いれば、二百人に打ち勝つ。あなたがたが千人いれば、アッラーのお許しによって二千人に打ち勝つ。アッラーは耐え忍ぶ者たちと共におられる。 (55-66)

この地を完全に制圧するまでは、捕虜を持つことは預言者にはふさわしくない。あなたがたは現世のはかない財を望むが、アッラーはあなたがたのために来世を望まれる。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。もしアッラーからの先立つ定めがなかったなら、あなたがたが取ったもののために、重大な懲罰があなたがたに触れたであろう。だからあなたがたが戦いで得たものを、許された良いものとして享受しなさい。そしてアッラーを畏れなさい。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (67-69)

預言者よ、あなたがたの手の内にある捕虜たちに言いなさい。「もしアッラーがあなたがたの心の中に何か良いものを認められるなら、あなたがたから取り上げられたものよりも良いものを授け、あなたがたを赦してくださる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。」だがもしかれらがあなたを裏切ろうとするなら、かれらは以前にもアッラーを裏切ったのであり、かれはあなたにかれらを制する力を与えられた。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。 (70-71)

信仰して移住し、財産と生命をささげてアッラーの道のために奮闘した者たちと、避難所を与えて助けた者たち―かれらは互いに守護者である。信仰したが移住しなかった者たちについては、かれらが移住するまで、あなたがたにはかれらを守る務めはない。だがかれらが宗教のことであなたがたに助けを求めるなら、助けることがあなたがたの務めである。ただし、あなたがたと盟約を結んでいる民に対する場合は別である。アッラーはあなたがたの行うことをすべて見ておられる。 (72)

真理を否定する者たちは、互いに守護者である。あなたがたも同じようにしなければ、地上に迫害と大きな腐敗が生じるであろう。信仰して移住し、アッラーの道のために奮闘した者たちと、避難所を与えて助けた者たち―かれらこそ真の信者であ

る。かれらには赦しと豊かな糧がある。その後で信仰して移住し、あなたがたと共に奮闘した者たち―かれらもあなたがたの仲間である。だが血縁の者たちは、アッラーの啓典において、互いにより優先される。アッラーはすべてのことを知り尽くしておられる。 (73-75)

9. 悔悟 (Al-Tawba)

これは、あなたがたが盟約を結んだ多神教徒たちに対する、アッラーとその使徒からの解消の宣言である。「あなたがたは四か月の間、この地を自由に旅しなさい。だがあなたがたはアッラーから逃れられないこと、そしてアッラーは真理を否定する者たちに屈辱を与えられることを知りなさい。」またこれは、大巡礼の日に、アッラーとその使徒から人々に向けられた布告である。アッラーは多神教徒たちに対する務めから解かれ、その使徒もまた同じである、と。もしあなたがたが悔い改めるなら、それがあなたがたのためにより良い。だが背き去るなら、あなたがたはアッラーから逃れられないことを知りなさい。真理を否定する者たちに、痛ましい懲罰の知らせを伝えなさい—ただし、あなたがたが盟約を結んだ多神教徒たちのうち、何事においてもあなたがたに背かず、あなたがたに敵対するだれをも助けなかった者たちは別である。かれらとの盟約は、その期限が満ちるまで守りなさい。アッラーは、かれを畏れる者たちを愛される。 (1-4)

そして聖なる月々が過ぎたなら、多神教徒たちを見つけたところで殺し、捕らえ、包囲し、あらゆる待ち伏せの場所でかれらを待ち伏せなさい。だがかれらが悔い改め、礼拝を守り、定めの喜捨を納めるなら、かれらの道を行かせなさい。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。もし多神教徒のだれかがあなたに保護を求めるなら、アッラーの言葉を聞けるように保護を与え、それから安全な場所に送り届けなさい。それはかれらが知識のない民だからである。どうして多神教徒たちに、アッラーとその使徒との盟約がありえようか—あなたがたが聖なるマスジドで盟約を結んだ者たちは別である。かれらがあなたがたに誠実である限り、あなたがたもかれらに誠実でありなさい。アッラーは、かれを畏れる者たちを愛される。どうしてありえようか。かれらがあなたがたに対して優位に立てば、あなたがたについて血縁も契約も顧みないのに。かれらは口先ではあなたがたを喜ばせるが、その心は拒んでいる。かれらの多くは掟に背く者である。かれらはアッラーのしるしをわずかな値で売り、ほかの者たちをかれの道から妨げた。かれらが行ってきたことは、まことに何と悪いことか。かれらは信者について、血縁も契約も顧みない。かれらこそ限度を越える者である。だがかれらが悔い改め、礼拝を守り、定めの喜捨を納めるなら、かれらは宗教におけるあなたがたの兄弟である。われらは、知識ある人々のためにしるしを明らかにする。もしかれらが盟約の後で誓いを破り、あなたがたの宗教をそしるなら、否定の頭目たちと戦いなさい—かれらにとって誓いは無に等しい—かれらがやめるように。あなたがたは、誓いを破り、使徒を追い出そうとた

くらみ、最初にあなたがたに敵対を始めた民と戦わないのか。あなたがたはかれらを恐れるのか。あなたがたが信者であるなら、畏れるべきはアッラーである。かれらと戦いなさい。アッラーはあなたがたの手によってかれらを罰し、辱め、かれらに対してあなたがたを助け、信仰する民の胸を癒やし、その心から怒りを取り除かれる。アッラーはお望みの者を慈悲をもって顧みられる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。それともあなたがたは、アッラーが、あなたがたの中で奮闘し、アッラーとその使徒と信者たちのほかに親密な友を持たない者たちを、まだ明らかにされないうちに、そのまま放っておかれると思ったのか。アッラーはあなたがたの行うことによく通じておられる。 (5-16)

多神教徒たちが、真理を否定していることを自ら証言しながら、アッラーのマスジドを管理することはありえない。かれらの行いは無に帰し、かれらは業火の中にとどまる。アッラーのマスジドを管理するのは、アッラーと最後の日を信じ、礼拝を守り、定めの喜捨を納め、アッラーのほかはだれも恐れない者たちだけである。これらの者こそ、正しく導かれた者の中に数えられるであろう。あなたがたは、巡礼者たちに水を与えることや聖なるマスジドを管理することを、アッラーと最後の日を信じ、アッラーの道のために奮闘する者の行いと同等に見なすのか。それらはアッラーの御目には同等ではない。アッラーは不正を行う民を導かれない。信仰して移住し、財産と生命をささげてアッラーの道のために奮闘した者たちは、アッラーのもとではるかに高い位階にある。かれらこそ勝利を得る者である。かれらの主は、ご自分からの慈悲とご満悦と、かれらのために尽きることのない至福のある楽園の吉報をかれらに伝えられる。かれらは永遠にそこに住む。まことにアッラーのもとには重大な報奨がある。 (17-22)

信仰する者たちよ、あなたがたの父や兄弟が信仰よりも否定を好むなら、かれらを盟友としてはならない。あなたがたのうちでかれらを盟友とする者―かれらこそ不正を行う者である。言え、「もしあなたがたの父、息子、兄弟、妻、親族、あなたがたが手に入れた財産、不振になるのを恐れる商売、あなたがたの気に入っている住まいが、アッラーとその使徒とかれの道のための奮闘よりも、あなたがたにとって大切であるなら、アッラーがその命令をもたらされるまで待ちなさい。」アッラーは、かれに背く民を導かれない。アッラーは多くの戦場であなたがたを助けられた。フナインの日にも。そのとき、あなたがたは自分たちの数の多さに得意になっていたが、それは何の役にも立たなかった。大地はあれほど広いのに、あなたがたには狭く迫り、あなたがたは背を向けて逃げた。それからアッラーは、その使徒と

信者たちの上に安らぎを下し、あなたがたには見えない軍勢を下し、真理を否定する者たちを罰された。それが否定する者たちへの報いである。だがその後でも、アッラーはお望みの者を慈悲をもって顧みられる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (23-27)

信仰する者たちよ、多神教徒たちはまことに不浄である。だからかれらは、今年を過ぎたら、聖なるマスジドに近づいてはならない。もしあなたがたが貧困を恐れるなら、アッラーは、お望みなら、その恵みによってあなたがたを富ませてくださる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。啓典の民の中で、アッラーも最後の日も信じず、アッラーとその使徒が禁じられたものを禁じず、真理の宗教に従わない者たちとは、かれらが服従して自らの手で貢納を納めるまで戦いなさい。ユダヤ教徒は「ウザイルはアッラーの子である」と言い、キリスト教徒は「マスィーフはアッラーの子である」と言う。それはかれらが口先で言う言葉であり、かれら以前に真理を否定した者たちの言葉をまねているのである。アッラーがかれらを滅ぼされるように。かれらは何と背かされていることか。かれらは、アッラーをさしおいて、自分たちの律法学者たちや修道士たちを主とし、またマルヤムの子マスィーフをもそうした。だがかれらは、唯一の神のほかは何ものも崇めないよう命じられていた―かれのほかに神はない。かれらが並べるものから、かれは高く超えておられる。かれらは口先でアッラーの光を消そうと望んでいる。だがアッラーは、真理を否定する者たちがどれほど嫌っても、その光を全うすること以外をお認めにならない。かれこそは、導きと真理の宗教を携えてその使徒を遣わされた御方である。多神教徒たちがどれほど嫌っても、それをすべての宗教の上に勝たせるためである。信仰する者たちよ、律法学者たちや修道士たちの多くは、偽りによって人々の財産をむさぼり、かれらをアッラーの道から妨げる。金や銀を蓄え込み、それをアッラーの道のために費やさない者たち―かれらに痛ましい懲罰の知らせを伝えなさい。その日、それは地獄の火で熱せられ、かれらの額とわき腹と背に焼き印が押される。「これが、あなたがたが自分のために蓄え込んだものである―だから蓄え込んでいたものを味わいなさい。」 (28-35)

アッラーのもとでの月の数は十二であり、かれが天と地を創られた日に、アッラーの書の中に定められた。そのうち四つは聖なる月である。それが正しい宗教である。だからその月々の間に、自分自身に不正を行ってはならない。多神教徒たちがみな一緒になってあなたがたと戦うように、あなたがたもみな一緒になってかれらと戦いなさい。そしてアッラーは、かれを畏れる者たちと共におられることを知りなさ

い。聖なる月を先に延ばすことは、否定を増し加えることにほかならない。真理を否定する者たちは、それによって迷わされる。かれらは、アッラーが聖とされた月の数を合わせるために、ある年にはそれを許されたものとし、ある年には禁じられたものとして、アッラーが禁じられたものを許されたものにする。かれらの行いの悪は、かれらには良いものに見せられている。アッラーは真理を否定する民を導かれない。 (36-37)

信仰する者たちよ、あなたがたはどうしたのか。「アッラーの道のために出陣しなさい」と言われると、地面に重く沈み込むとは。あなたがたは来世よりも現世の生活に満足するのか。現世の生活の楽しみは、来世に比べればわずかなものにすぎない。もしあなたがたが出陣しないなら、かれは痛ましい懲罰であなたがたを罰し、あなたがたをほかの民と取り替えられる。あなたがたは少しもかれを害することはできない。アッラーは万事に全能である。もしあなたがたがかれを助けなくても、アッラーはすでにかれを助けられた。真理を否定する者たちがかれを追い出したとき、かれは二人のうちの一人であった。二人が洞窟の中にいたとき、かれはその仲間に言った。「悲しんではならない。アッラーはわたしたちと共におられる。」そこでアッラーは、その安らぎをかれの上に下し、あなたがたには見えない軍勢でかれを支え、真理を否定する者たちの言葉を最も低いものとされた。アッラーの言葉こそ最も高い。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。身軽な者も重装の者も出陣し、財産と生命をささげてアッラーの道のために奮闘しなさい。それがあなたがたのためにより良い。あなたがたがそれを知っていたなら。もしそれが手近な利得であり、楽な旅であったなら、かれらはあなたに従ったであろう。だがその道のりは、かれらには遠く思われた。かれらはアッラーにかけて誓うであろう。「もしわたしたちにできたなら、あなたがたと共に出かけたのに。」かれらは自分自身を滅ぼしている。アッラーは、かれらが嘘つきであることを知っておられる。 (38-42)

（預言者よ）アッラーがあなたを赦されるように。だれが真実を語る者であるかがあなたに明らかになり、あなたが嘘つきたちを知る前に、なぜかれらに残ることを許したのか。アッラーと最後の日を信じる者たちは、財産と生命をささげて奮闘することを免れようとして、あなたに許しを求めはしない。アッラーは、かれを畏れる者たちをよく知っておられる。あなたに許しを求めるのは、アッラーも最後の日も信じず、その心が疑いに満ち、疑いの中で揺れ動いている者たちだけである。もしかれらが出陣するつもりであったなら、そのために何かの準備をしたであろう。

だがアッラーは、かれらが出かけることを好まれず、かれらを引きとめられた。そして「残る者たちと共に残っていなさい」と言われた。もしかれらがあなたがたの中に交じって出陣したなら、あなたがたに混乱を加えるだけであり、あなたがたの間を急いで駆け回って、不和を起こそうとしたであろう。あなたがたの中には、かれらに耳を貸す者もいる。アッラーは不正を行う者たちをよく知っておられる。かれらは以前にも不和を起こそうとし、あなたのために事をかき乱した。やがて真理が訪れ、かれらが嫌ったにもかかわらず、アッラーの命令が明らかに勝った。かれらの中には、「わたしに残ることを許してください。わたしを試練に遭わせないでください」と言う者がいる。まことに、かれらはすでに試練の中に落ち込んでいる。地獄は確かに、真理を否定する者たちを取り囲んでいる。あなたに良いことが起これば、それはかれらを悲しませる。だがあなたに災難が降りかかると、かれらは「わたしたちは前もって用心しておいた」と言い、喜びながら背を向ける。言え、「アッラーがわたしたちのために定められたことのほかは、何もわたしたちに降りかからない。かれはわたしたちの守護者である。信者たちはアッラーにこそ信頼を寄せなさい。」言え、「あなたがたは、二つの最も良いことのうちの一つのほかに、何かがわたしたちに起こるのを待っているのか。わたしたちのほうは、アッラーがご自分のもとからの懲罰で、あるいはわたしたちの手によって、あなたがたを打たれるのを待っている。だから待ちなさい。わたしたちもあなたがたと共に待っている。」言え、「進んで施しても、いやいや施しても、それはあなたがたから受け入れられない。あなたがたはアッラーに背く民だからである。」かれらの施しが受け入れられるのを妨げているのは、ただかれらがアッラーとその使徒を否定し、物憂げにしか礼拝に来ず、いやいやながらにしか施さないことだけである。だからかれらの財産にも子どもたちにも、心を奪われてはならない。アッラーは、ただそれらによって現世の生活でかれらを罰し、かれらが真理を否定したまま魂が離れ去ることを望んでおられるのである。 (43-55)

かれらは、自分たちは確かにあなたがたの仲間であるとアッラーにかけて誓う。だがかれらはあなたがたの仲間ではない。かれらは恐れおののく民である。もし逃げ場や洞窟や、もぐり込める穴を見つけられるなら、かれらは一目散にそこへ向かうであろう。かれらの中には、喜捨のことであなたを非難する者がいる。その分け前を与えられれば満足するが、与えられなければ、たちまち腹を立てる。かれらが、アッラーとその使徒が授けられたものに満足して、こう言っていたならよかったのに。「わたしたちにはアッラーで十分である。アッラーはその恵みからわたしたち

に授けてくださり、その使徒もまたそうしてくださる。わたしたちはアッラーにこそ切に願い求める。」定めの喜捨は、貧しい者と困窮する者、それを管理する者、心を和らげるべき者、奴隷の解放、債務を負う者、アッラーの道、そして旅人のためだけのものである―これはアッラーが定められた務めである。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。 (56-60)

かれらの中には、預言者を傷つけ、「かれは何でも聞き入れる耳だ」と言う者たちがいる。言え、「あなたがたにとって良いことを聞く耳である。かれはアッラーを信じ、信者たちを信頼し、あなたがたの中の信仰する者たちへの慈悲である。」アッラーの使徒を傷つける者たちには、痛ましい懲罰がある。かれらは、あなたがたを喜ばせるために、あなたがたに向かってアッラーにかけて誓う。だがかれらが信者であるなら、アッラーとその使徒こそ、かれらが喜ばせるべきよりふさわしい方である。かれらは、アッラーとその使徒に逆らう者には地獄の火があり、そこにとどまり続けることを知らないのか。それこそ大きな屈辱である。 (61-63)

偽信者たちは、自分たちの心の中にあることを告げ知らせる一章が、自分たちについて下されることを恐れている。言え、「あざけり続けなさい。アッラーは、あなたがたが恐れていることを必ず明るみに出される。」あなたがかれらに問えば、かれらは「わたしたちは、ただ無駄話をして戯れていただけだ」と言うであろう。言え、「あなたがたがあざけっていたのは、アッラーと、そのしるしと、その使徒であったのか。」言い訳をしてはならない。あなたがたは信仰した後で真理を否定したのである。たとえわれらがあなたがたの一団を赦しても、別の一団は罰する。かれらが罪を犯した者だからである。偽信者の男も女も、みな同じ仲間である。かれらは悪いことを勧め、正しいことを禁じ、その手を固く閉じている。かれらはアッラーを忘れたので、かれもかれらを忘れられた。偽信者たち―かれらこそ背く者である。アッラーは、偽信者の男と女と、真理を否定する者たちに、地獄の火を約束された。かれらはそこにとどまり続ける。それでかれらには十分である。アッラーはかれらを呪われた。かれらには絶えることのない懲罰がある。あなたがたは、あなたがた以前の者たちと同じである。かれらはあなたがたよりも力が強く、財産も子どもたちも多かった。かれらは自分の分け前を享受した。あなたがたも、あなたがた以前の者たちが自分の分け前を享受したように、自分の分け前を享受した。そしてかれらがふけったように、あなたがたも無駄話にふけった。かれらの行いは現世でも来世でも無に帰した。かれらこそ損失者である。かれら以前の者たち―ヌーフの民、アード、サムード、イブラーヒームの民、マドヤンの人々、そして覆され

た町々―の知らせは、かれらに届かなかったのか。かれらの使徒たちは明らかな証拠を携えてかれらのもとに来た。アッラーがかれらに不正を行われたのではない。かれらが自分自身に不正を行っていたのである。 (64-70)

信者の男も女も、互いに守護者である。かれらは正しいことを勧め、悪いことを禁じ、礼拝を守り、定めの喜捨を納め、アッラーとその使徒に従う。これらの者に、アッラーは慈悲をかけられる。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。アッラーは、信者の男と女に、川が下を流れる楽園を約束された。かれらはそこにとどまり続ける。また尽きることのない至福の楽園の中の良い住まいを約束された。そしてアッラーのご満悦は、さらに大きい。それこそ大いなる勝利である。 (71-72)

預言者よ、真理を否定する者たちと偽信者たちに対して奮闘し、かれらに厳しくしなさい。かれらの逃げ場は地獄である―何と悪い行き着く先であろう。かれらは、自分たちは何も言わなかったとアッラーにかけて誓う。だがかれらは確かに否定の言葉を口にし、アッラーに帰依した後で真理を否定した。そして成し遂げられないことをたくらんだ。かれらが恨んだのは、ただアッラーとその使徒が、その恵みによってかれらを富ませられたことだけである。もしかれらが悔い改めるなら、それがかれらのためにより良い。だが背き去るなら、アッラーは現世でも来世でも、痛ましい懲罰でかれらを罰される。かれらには、地上に守護者も援助者もない。 (73-74)

かれらの中には、アッラーとこう約束を交わした者たちがいる。「もしかれがその恵みからわたしたちに授けてくださるなら、わたしたちは必ず施しをし、正しい者の一人となります。」ところがかれがその恵みからかれらに授けられると、かれらはそれを出し惜しみ、嫌って背を向けた。そこでかれは、かれらがかれに会う日まで、その心に偽信を報いとして残された。かれらがアッラーへの約束を破り、偽りを言っていたからである。かれらは、アッラーがかれらの秘密もひそかな語らいも知り、アッラーが目に見えないすべてのことを知っておられることを知らないのか。進んで惜しみなく施す信者たちを非難し、自分の労力のほかに施すものを持たない者たちをも非難して、かれらをあざ笑う者たち―アッラーはかれらをあざ笑われる。かれらには痛ましい懲罰がある。かれらのために赦しを請うても、請わなくても同じである。たとえあなたがかれらのために七十回赦しを請うても、アッラーはかれらを赦されない。それは、かれらがアッラーとその使徒を否定したからである。アッラーは、かれに背く民を導かれない。 (75-80)

後に残された者たちは、アッラーの使徒の後に残って家に座っていることを喜び、財産と生命をささげてアッラーの道のために奮闘することを嫌った。かれらは「この暑さの中を出陣するな」と言った。言え、「地獄の火はもっと熱い。」―かれらがそれを理解していたなら。だからかれらは少しだけ笑うがよい。かれらは、自分が稼いだものへの報いとして、多く泣くことになる。もしアッラーがあなたをかれらの一団のもとに帰らせ、かれらが出陣の許しをあなたに求めるなら、言え、「あなたがたは決してわたしと共に出陣することはなく、わたしのかたわらで敵と戦うこともない。あなたがたは最初のとき、家に座っていることに満足した。だから今も、残る者たちと共に座っていなさい。」 (81-83)

かれらのだれかが死んでも、決してその者のために礼拝してはならない。その墓のそばに立ってもならない。かれらはアッラーとその使徒を否定し、背く者として死んだのである。かれらの財産にも子どもたちにも、心を奪われてはならない。アッラーは、ただそれらによって現世でかれらを罰し、かれらが真理を否定したまま魂が離れ去ることを望んでおられるのである。「アッラーを信じ、その使徒と共に奮闘しなさい」という一章が下されると、かれらの中の資力ある者たちは、あなたに許しを求めて言う。「わたしたちを、家に座っている者たちと共にいさせてください。」かれらは、後に残る女たちと共にいることに満足している。かれらの心には封がされ、だからかれらは理解しない。だが使徒と、かれと共に信仰する者たちは、財産と生命をささげて奮闘する。これらの者にはあらゆる良いものがあり、かれらこそ成功する者である。アッラーはかれらのために、川が下を流れる楽園を用意された。かれらは永遠にそこに住む。それこそ大いなる勝利である。 (84-89)

遊牧のアラブ人たちの一部は、言い訳を持って来て、残ることの許しを求めた。一方、アッラーとその使徒に偽りを言った者たちは、家に座っていた。かれらのうち真理を否定する者たちには、痛ましい懲罰が降りかかる。弱い者にも、病人にも、費やすものを持たない者にも、アッラーとその使徒に誠実である限り、何の責めもない。善を行う者たちを責める道はない。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。また、乗り物を与えてくれるようあなたのもとに来て、あなたが「あなたがたを乗せるものが、わたしには見つからない」と言うと、費やすものが何もないことを悲しんで、目から涙をあふれさせて引き返した者たちにも、責めはない。責める道があるのは、富んでいながらあなたに許しを求める者たちに対してだけである。かれらは、後に残る女たちと共にいることに満足している。アッラーはかれらの心に封をされ、だからかれらは知らない。 (90-93)

あなたがたがかれらのもとに帰ると、かれらはあなたがたに言い訳をするであろう。言え、「言い訳をしてはならない。わたしたちはあなたがたを信じない。アッラーはすでに、あなたがたのしたことをわたしたちに知らせられた。アッラーはあなたがたの行いを見ておられ、その使徒もまた見る。それからあなたがたは、目に見えないものも見えるものも知っておられる御方のもとに連れ戻され、かれは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げられる。」あなたがたがかれらのもとに帰ると、かれらは、あなたがたが自分たちを放っておいてくれるように、あなたがたに向かってアッラーにかけて誓うであろう。だからかれらを放っておきなさい。かれらは汚れであり、その逃げ場は地獄である。かれらが稼いだものへの報いである。かれらは、あなたがたが自分たちに満足するようにと、あなたがたに誓う。だがたとえあなたがたがかれらに満足しても、アッラーは、かれに背く民に満足されない。 (94-96)

遊牧のアラブ人たちは、否定と偽信において最もかたくなであり、アッラーがその使徒に下されたものの境界を知らないことが最も多い。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。遊牧のアラブ人たちの中には、自分の施すものを罰金と見なし、運命の巡り合わせがあなたがたに不利に転じるのを待っている者がいる。悪い巡り合わせは、かれらの上にこそあれ。アッラーは全聴にして全知の御方である。だが遊牧のアラブ人たちの中には、アッラーと最後の日を信じ、自分の施すものを、アッラーに近づき、使徒の祈りを得るための手だてと見なす者もいる。まことにそれは、かれらにとって近づくための手だてである。アッラーはかれらをその慈悲の中に入れられる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (97-99)

移住者たちと援助者たちの中の、最初に先んじた者たち、そして善い行いにおいてかれらに従った者たち―アッラーはかれらに満足し、かれらもかれに満足する。かれはかれらのために、川が下を流れる楽園を用意された。かれらはいつまでも永遠にそこに住む。それこそ大いなる勝利である。 (100)

あなたがたの周りの遊牧のアラブ人たちの中には偽信者たちがおり、マディーナの住民の中にもいる。かれらは偽信に凝り固まっている。あなたはかれらを知らないが、われらはかれらを知っている。われらはかれらを二度罰し、それからかれらは重大な懲罰に引き戻される。またほかに、自分の罪を認めた者たちもいる。かれらは善い行いに、別の悪い行いを混ぜたのである。アッラーは慈悲をもってかれらを顧みてくださるであろう。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。かれらの財

産から施しを受け取り、それによってかれらを清め、浄化しなさい。そしてかれらのために祈りなさい。あなたの祈りは、かれらにとって安らぎである。アッラーは全聴にして全知の御方である。かれらは、そのしもべたちの悔い改めを受け入れ、施しを受け取られるのがアッラーであること、またアッラーが悔悟をよく受け入れる、慈愛深い御方であることを知らないのか。言え、「行いなさい。アッラーはあなたがたの行いを見ておられ、その使徒も信者たちもまた見る。それからあなたがたは、目に見えないものも見えるものも知っておられる御方のもとに連れ戻され、かれは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げられる。」またほかに、アッラーの命令を待って保留されている者たちもいる。かれがかれらを罰されるか、慈悲をもって顧みられるかである。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。 (101-106)

また、害を加え、否定を広め、信者たちの間を裂くため、そして以前アッラーとその使徒に戦いを挑んだ者のための拠点として、マスジドを建てた者たちがいる。かれらは必ず「わたしたちは良いことのほか何も望んでいなかった」と誓うであろう。だがアッラーは、かれらが嘘つきであることを証言される。決してその中に立って礼拝してはならない。最初の日からアッラーを畏れる心の上に築かれたマスジドこそ、あなたがその中に立つのにふさわしい。その中には、清められることを愛する人々がいる。アッラーは身を清める者たちを愛される。アッラーを畏れる心とかれのご満悦の上に自分の建物を築いた者と、崩れかけた崖の縁に自分の建物を築き、それもろとも地獄の火の中に崩れ落ちた者と、どちらが良いか。アッラーは不正を行う民を導かれない。かれらが建てたその建物は、かれらの心が切り刻まれるまで、その心の中の疑いの種であり続ける。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。 (107-110)

アッラーは、楽園と引き換えに、信者たちからその生命と財産を買い取られた。かれらはアッラーの道のために戦い、殺し、また殺される―これは、律法と福音とクルアーンの中で、かれが真実としてご自身に課された約束である。アッラーよりも自分の契約に忠実な者がだれかあろうか。だからあなたがたがかれと交わした取り引きを喜びなさい。それこそ大いなる勝利である。かれらは悔い改めて帰る者、崇める者、讃える者、かれのために旅する者、身をかがめる者、ひれ伏す者、正しいことを勧め、悪いことを禁じる者、そしてアッラーの定められた境界を守る者である。信者たちに吉報を伝えなさい。 (111-112)

多神教徒たちが烈火の住人であることが明らかになった後では、たとえ近親であっても、かれらのために赦しを請うことは、預言者にも信仰する者たちにもふさわしくない。イブラーヒームが父のために赦しを請うたのは、ただかれが父に約束していたからにほかならない。だが父がアッラーの敵であることが明らかになると、かれは父との関わりを断った。イブラーヒームは心優しく、寛容な人であった。アッラーは、ある民を導かれた後で、かれらが何に用心すべきかを明らかにされるまでは、決してかれらを迷うにまかせられない。アッラーはすべてのことを知り尽くしておられる。天と地の大権はアッラーのものである。かれは生を与え、死を与えられる。あなたがたには、アッラーのほかに守護者も援助者もない。 (113-116)

アッラーは、預言者と、苦難の時にかれに従った移住者たちと援助者たちを、慈悲をもって顧みられた。かれらの一部の心が、ほとんどそれかけた後のことである。それからかれは慈悲をもってかれらを顧みられた。かれはかれらに対して慈しみ深く、慈愛深い御方である。また後に残された三人をも顧みられた。大地はあれほど広いのに、かれらには狭く迫り、自分の魂さえもかれらを締めつけた。そしてかれらは、アッラーからの逃げ場は、かれのもとのほかにはないと悟った。それからかれは、かれらが悔い改めるように、慈悲をもってかれらを顧みられた。アッラーは悔悟をよく受け入れる、慈愛深い御方である。 (117-118)

信仰する者たちよ、アッラーを畏れ、誠実な者たちと共にいなさい。マディーナの住民も、その周りの遊牧のアラブ人たちも、アッラーの使徒の後に残ることも、かれの命よりも自分の命を大切にすることも、してはならなかった。それは、かれらがアッラーの道のために渇きや疲れや飢えに見舞われるたびに、また真理を否定する者たちを怒らせる一歩を踏み出すたびに、また敵に対して何かを勝ち取るたびに、必ずそのために正しい行いがかれらに記録されるからである。アッラーは、善を行う者たちの報奨を無駄にされない。またかれらが、小さなものであれ大きなものであれ何かを費やすたびに、また谷を一つ越えるたびに、必ずそれがかれらのために記録される。アッラーが、かれらの行っていた最も良いことに応じてかれらに報いられるためである。 (119-121)

信者たちがみな一緒に出陣するべきではない。どの集団からも一部の者が出て、宗教について深い理解を身につけ、自分の民のもとに帰ったときにかれらに警告すればよいではないか。かれらが用心するように。信仰する者たちよ、あなたがたの近くにいる、真理を否定する者たちと戦いなさい。かれらがあなたがたの中に堅固さ

を見いだすように。そしてアッラーは、かれを畏れる者たちと共におられることを知りなさい。 (122-123)

一章が下されるたびに、かれらの中には「これは、あなたがたのだれの信仰を増したのか」と言う者がいる。信仰する者たちについては、それはかれらの信仰を増し、かれらは喜ぶ。だが心に病のある者たちについては、それはかれらの汚れに汚れを加え、かれらは真理を否定したまま死ぬ。かれらは、毎年一度か二度、試みられているのを見ないのか。それでもかれらは悔い改めず、心に留めもしない。一章が下されるたびに、かれらは互いに顔を見合わせる。「だれかあなたがたを見ているか。」それからそっと立ち去る。アッラーはかれらの心を背かせられた。かれらが理解しない民だからである。 (124-127)

今や、あなたがた自身の中から一人の使徒があなたがたのもとに来た。あなたがたの苦しみは、かれに重くのしかかる。かれはあなたがたのことを深く気づかい、信者たちに対して優しく、慈悲深い。だがもしかれらが背き去るなら、言え、「わたしにはアッラーで十分である。かれのほかに神はない。わたしはかれに信頼を寄せた。かれは偉大な玉座の主である。」 (128-129)

10. ユーヌス (Yūnus)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ラー。これらは、英知に満ちた啓典の節であり、しるしである。われらが人々の中の一人の男に、「人々に警告しなさい。そして信仰する者たちに、かれらには主のもとに真実の足場があるという吉報を伝えなさい」と啓示したことが、人々には不思議なのか。真理を否定する者たちは言う。「これは明らかに魔術師だ。」 (1-2)

あなたがたの主はアッラーである。かれは六つの時代に天と地を創り、それから玉座に君臨し、すべての事を司っておられる。かれのお許しの後でなければ、執り成す者はない。それがあなたがたの主アッラーである。だからかれを崇めなさい。あなたがたは心に留めないのか。あなたがたはみな、かれのもとに帰る―アッラーの約束は真実である。かれは創造を始め、それからそれを繰り返される。信仰して善行に励む者たちに、公正に報いるためである。真理を否定する者たちには、その否定のゆえに、煮えたぎる湯の飲み物と痛ましい懲罰がある。 (3-4)

かれこそは、太陽を輝きとし、月を光とし、月のために宿を定められた御方である。あなたがたが年の数と時の数え方を知るためである。アッラーがこのすべてを創られたのは、ただ真理によってである。かれは、知識ある人々のためにしるしを詳しく説き明かされる。夜と昼の交替の中に、またアッラーが天と地に創られたすべてのものの中に、かれを畏れる人々へのしるしがある。われらとの会見を望まず、現世の生活に満足してそこに安住し、われらのしるしに無頓着な者たち―かれらの逃げ場は、自分が稼いだもののゆえに業火である。信仰して善行に励む者たち―主はその信仰によってかれらを導かれる。至福の楽園で、かれらの足もとには川が流れる。そこでのかれらの叫びは「アッラーよ、あなたに栄光あれ」であり、そこでのかれらのあいさつは「平安あれ」である。そしてかれらの叫びの結びは「すべての讃美は、万有の主アッラーのもの」である。 (5-10)

もしアッラーが、人々が良いことを急いで求めるように、かれらに悪いことを急いでもたらされたなら、かれらの期限はすでに尽きていたであろう。だがわれらは、われらとの会見を望まない者たちを、反逆の中をやみくもにさまようままにしておく。人間は災いに触れられると、横になっていても、座っていても、立っていても、われらに祈る。だがわれらがその災いを取り除くと、かれは、自分に触れた災いの

ことでわれらに祈ったことなどなかったかのように通り過ぎて行く。このように、度を越す者たちには、その行いが良いものに見せられている。われらは、あなたがた以前のいくつもの世代を、かれらが不正を行ったときに滅ぼした。かれらの使徒たちは明らかな証拠を携えてかれらのもとに来たが、かれらは信じようとしなかった。このようにわれらは、罪を犯す民に報いる。それからわれらは、かれらの後にあなたがたを地上の後継者とした。あなたがたがどのように行うかを見るためである。 (11-14)

われらの明らかなしるしがかれらに読み聞かされると、われらとの会見を望まない者たちは言う。「これとは別のクルアーンを持って来るか、これを変えなさい。」言え、「自分勝手にそれを変えることは、わたしにはできない。わたしは、ただわたしに啓示されることに従うだけである。もしわたしが主に背くなら、わたしは重大な日の懲罰を恐れる。」言え、「アッラーがお望みなら、わたしはそれをあなたがたに読み聞かせなかったであろうし、かれもそれをあなたがたに知らせられなかったであろう。わたしはこれ以前、あなたがたの中で一生の間暮らしてきた。あなたがたは理性を働かせないのか。」 (15-16)

アッラーについて偽りをでっち上げ、あるいはかれのしるしを偽りとする者よりも不正な者がだれかあろうか。罪を犯す者たちは決して成功しない。かれらは、アッラーをさしおいて、自分たちに害も益も与えられないものを崇め、「これらはアッラーのもとでわたしたちのために執り成す者である」と言う。言え、「あなたがたは、天にも地にも、アッラーがご存じでないことをかれに知らせるのか。」かれに栄光あれ。かれは、かれらが並べるすべてのものを超えて高くおられる。人類はかつて一つの共同体であった。それからかれらは意見を異にした。もしあなたの主からの先立つ言葉がなかったなら、かれらが意見を異にしていたことについて、すでにかれらの間に裁きが下されていたであろう。かれらは「なぜかれの主から、かれにしるしが下されないのか」と言う。言え、「目に見えないことはアッラーだけのものである。だから待ちなさい。わたしもあなたがたと共に待っている。」われらが、人々に触れた苦難の後で慈悲を味わわせると、かれらはたちまち、われらのしるしに対して策謀を巡らし始める。言え、「アッラーは策謀においてより速い。」われらの使いたちは、あなたがたが巡らす策謀をすべて記録している。 (17-21)

かれこそは、あなたがたに陸と海を旅させられる御方である。あなたがたが船に乗り、船が順風を受けて人々を運び、かれらがそれを喜んでいると、激しい風が襲い

かかり、波が四方から押し寄せ、かれらはもはや取り囲まれたと思う。そのときかれらは、宗教をひたすらかれのものとして、アッラーに祈る。「もしあなたがここからわたしたちを救い出してくださるなら、わたしたちは必ず感謝する者となります。」ところがかれがかれらを救い出されると、かれらはたちまち、正当な理由もなく地上で横暴に振る舞う。人々よ、あなたがたの横暴は、ただあなたがた自身に降りかかるだけである―それは現世の生活のつかの間の楽しみにすぎない。それからあなたがたの帰り着く先はわれらのもとであり、われらは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げる。 (22-23)

現世の生活のたとえは、ちょうどこのようである。われらが空から水を降らせると、人間や家畜が食べる大地の植物は、それを吸って入り交じって茂る。やがて大地がその飾りをまとって美しく装い、その住民がそれを思いのままにできると思ったとき、夜か昼に、われらの命令がそれに臨む。するとわれらはそれを、昨日まで栄えていなかったかのように、刈り取られた畑にしてしまう。このようにわれらは、深く考える人々のためにしるしを詳しく説き明かす。 (24)

アッラーは平安の住まいへと招き、お望みの者をまっすぐな道に導かれる。善を行う者たちには最も良い報奨があり、さらにそれ以上のものがある。暗さも屈辱も、かれらの顔を覆うことはない。かれらは楽園の住人であり、永遠にそこに住む。悪い行いを稼いだ者たちについては、悪い行いの報いはそれと同じだけのものであり、屈辱がかれらを覆う。かれらをアッラーから守る者はだれもいない。その顔はまるで、夜の闇の切れ端で覆われたかのようになる。かれらは業火の住人であり、永遠にそこにとどまる。 (25-27)

われらがかれらをみな一緒に集める日、アッラーに同位者を並べた者たちに言う。「あなたがたも、あなたがたの同位者たちも、その場所にとどまりなさい。」それからわれらはかれらを引き離す。するとかれらの同位者たちは言う。「あなたがたが崇めていたのは、わたしたちではなかった。」「わたしたちとあなたがたとの間の証人としては、アッラーで十分である。わたしたちは、あなたがたの崇拝に全く気づいていなかった。」そこで、だれもが自分の先に送ったものを思い知る。かれらは、その真の守護者であるアッラーのもとに帰され、かれらがでっち上げていたものは、かれらを見捨てる。 (28-30)

言え、「だれが天と地からあなたがたに糧を授けるのか。だれが聴覚と視覚を支配しているのか。だれが死んだものから生きたものを出し、生きたものから死んだも

のを出すのか。そしてだれがすべての事を司っているのか。」かれらは「アッラーである」と言うであろう。それなら言え、「それでもあなたがたは、かれを畏れないのか。」それが、あなたがたの真の主アッラーである。真理の後には、迷いのほかに何があろうか。それなのに、あなたがたはどうして背かされて行くのか。このように、あなたの主の言葉は、かれに背く者たちについて真実となった。かれらは信じない、と。言え、「あなたがたの同位者たちの中に、創造を始め、それからそれを繰り返す者がいるか。」言え、「アッラーこそ、創造を始め、それからそれを繰り返される。それなのに、あなたがたはどうして惑わされるのか。」言え、「あなたがたの同位者たちの中に、真理へと導く者がいるか。」言え、「アッラーこそ、真理へと導かれる。それでは、真理へと導く御方のほうが従われるにふさわしいか、それとも、導かれなければ自分では道を見いだせない者のほうか。あなたがたはどうしたのか。どのように判断するのか。」かれらの多くは、ただ憶測に従っているだけである。憶測は、真理に対しては何の役にも立たない。アッラーはかれらの行うことをよく知っておられる。[13] (31-36)

このクルアーンは、アッラー以外のだれかによってでっち上げられるようなものではない。それは、それ以前にあったものの確証であり、啓典の詳しい解き明かしである。その中に疑いの余地はなく、万有の主からのものである。それともかれらは「かれがそれをでっち上げた」と言うのか。言え、「それなら、それに似た一章を持って来なさい。そしてアッラーのほかに、呼べる者をだれでも呼びなさい。あなたがたが真実を語っているのなら。」いや、かれらは、自分の知識ではとらえきれず、その解き明かしがまだ届いていないものを偽りとしたのである。かれら以前の者たちも、同じように偽りとした。だから不正を行った者たちの最後がどうであったかを見なさい。 (37-39)

かれらの中にはそれを信じる者もあり、信じない者もある。あなたの主は、腐敗を広める者たちを最もよく知っておられる。もしかれらがあなたを偽りとするなら、言え、「わたしの行いはわたしのもの、あなたがたの行いはあなたがたのものである。あなたがたはわたしの行うことに責任を負わず、わたしもあなたがたの行うことに責任を負わない。」かれらの中には、あなたに耳を傾ける者もいる。だがあなたは、理解しようともしない、耳の聞こえない者たちに聞かせることができるであろうか。またかれらの中には、あなたを見つめる者もいる。だがあなたは、見よう

[13] 無神論は憶測（ザン）の上に築かれている：科学的・哲学的・神学的注釈

ともしない、目の見えない者たちを導くことができるであろうか。アッラーは、少しも人々に不正を行われない。人々が自分自身に不正を行うのである。 (40-44)

かれがかれらを集められる日、かれらはまるで、昼のひとときしか現世にとどまらなかったかのようであり、互いに見分け合う。アッラーとの会見を偽りとし、導かれなかった者たちは、まことに損失を被った。われらが、かれらに約束したことの一部をあなたに見せても、あるいはそれより先にあなたを召しても、かれらの帰り着く先はわれらのもとである。アッラーは、かれらの行うことすべての証人である。どの共同体にも使徒がいる。かれらの使徒が来ると、かれらの間は公正に裁かれ、かれらが不当に扱われることはない。かれらは「あなたがたが真実を語っているのなら、この約束はいつ果たされるのか」と言う。言え、「わたしは、アッラーがお望みになること以外、自分自身を害する力も益する力も持たない。どの共同体にも期限がある。その期限が来ると、かれらは一刻も遅らせることができず、早めることもできない。」言え、「あなたがたはどう思うか。もしかれの懲罰が夜か昼にあなたがたに臨んだなら、罪を犯す者たちは、そのどの部分を急いで求めるというのか。」それが実際に起こってから、あなたがたはそれを信じるのか。「今になってか。以前あなたがたは、それを急いで求めていたのに。」それから不正を行った者たちに言われる。「永遠の懲罰を味わいなさい。あなたがたは、自分が稼いでいたもののほかに、何かで報いられるであろうか。」 (45-52)

かれらは「それは本当か」とあなたに尋ねる。言え、「そうだ。わたしの主にかけて、それは確かに真実である―あなたがたはそれを免れることはできない。」もし不正を行ったすべての者が、地上にあるすべてのものを持っていたなら、それを身代金として差し出すであろう。かれらは懲罰を見るとき、後悔を胸に隠す。かれらの間は公正に裁かれ、かれらが不当に扱われることはない。まことに天と地にあるすべてのものはアッラーのものである。まことにアッラーの約束は真実である―だがかれらの多くは知らない。かれは生を与え、死を与えられる。あなたがたはかれのもとに帰される。 (53-56)

人々よ、あなたがたの主からの訓戒と、胸の中にあるものへの癒やしと、信者たちへの導きと慈悲が、あなたがたに届いた。言え、「アッラーの恵みとその慈悲によって―そのことをこそ、かれらは喜びなさい。それは、かれらが蓄えるすべてのものよりも良い。」言え、「あなたがたは、アッラーがあなたがたのために下された糧について考えたか。あなたがたはその一部を禁じられたものとし、一部を許され

たものとした。」言え、「アッラーがあなたがたに許されたのか。それともあなたがたは、アッラーについて偽りをでっち上げているのか。」アッラーについて偽りをでっち上げる者たちは、復活の日にどうなると思っているのか。アッラーは人々に対して恵み深い御方である。だがかれらの多くは感謝しない。 (57-60)

あなたがどんな事に携わっていても、クルアーンのどの部分を読誦していても、またあなたがたがどんな行いをしていても、あなたがたがそれに取り組んでいるとき、われらはあなたがたの証人である。地にあるものも天にあるものも、ちり一粒の重さほどのものさえ、あなたの主から隠れることはない。それより小さいものも大きいものも、明らかな書の中に記されていないものはない。まことにアッラーの友たち―かれらには恐れもなく、悲しむこともない。かれらは信仰し、アッラーを畏れる者たちである。かれらには、現世の生活でも来世でも吉報がある。アッラーの言葉に変更はない。それこそ大いなる勝利である。かれらの言うことで、あなたは悲しんではならない。まことにすべての力はアッラーのものである。かれは全聴にして全知の御方である。まことに天にいる者も地にいる者も、みなアッラーのものである。アッラーをさしおいて同位者たちに祈り求める者たちは、何にも従っていない。かれらはただ憶測に従い、ただ当て推量をしているだけである。かれこそは、あなたがたがその中で休むように夜を設け、物が見えるように昼を設けられた御方である。まことにその中には、耳を傾ける人々へのしるしがある。 (61-67)

かれらは「アッラーは子をもうけられた」と言う。かれに栄光あれ。かれは満ち足りた御方である。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものはかれのものである。あなたがたには、これについて何の権威もない。あなたがたは、知りもしないことをアッラーについて語るのか。言え、「アッラーについて偽りをでっち上げる者たちは成功しない。」現世でのつかの間の楽しみがあり、それからかれらの帰り着く先はわれらのもとである。それからわれらは、かれらが真理を否定していたことのゆえに、厳しい懲罰をかれらに味わわせる。 (68-70)

ヌーフの物語をかれらに読み聞かせなさい。かれがその民に言ったとき。「わが民よ、もしわたしがここにいることと、わたしがアッラーのしるしによってあなたがたを戒めることが、あなたがたに耐えがたいのなら、わたしはアッラーに信頼を寄せた。だからあなたがたも、あなたがたの同位者たちも、事を決しなさい。そしてあなたがたの事を、自分たちにとってあいまいなままにしておいてはならない。それからそれをわたしに対して実行し、猶予を与えるな。だがもしあなたがたが背き

去っても、わたしはあなたがたに何の報酬も求めなかった。わたしの報酬はアッラーのもとにだけある。わたしは、アッラーに帰依する者の一人となるよう命じられた。」だがかれらはかれを嘘つき呼ばわりした。そこでわれらは、かれと、かれと共にいた者たちを舟の中で救い、かれらを後継者とし、われらのしるしを偽りとした者たちを溺れさせた。見なさい、警告された者たちの最後がどうであったかを。(71-73)

それからかれの後に、われらは使徒たちをそれぞれの民に遣わした。かれらは明らかな証拠を携えて行ったが、人々は、以前に偽りとしたものを信じようとしなかった。このようにわれらは、限度を越える者たちの心に封をする。それからかれらの後に、われらはムーサーとハールーンを、われらのしるしと共にフィルアウンとその長老たちに遣わした。だがかれらは高慢に振る舞った。かれらは罪を犯す民であった。われらのもとから真理がかれらに届くと、かれらは言った。「これは明らかに魔術だ。」ムーサーは言った。「あなたがたは、真理が届いたのに、それについてそう言うのか。これが魔術であろうか。魔術師たちは決して成功しない。」かれらは言った。「あなたは、わたしたちの父祖たちが従っていたのを見たものからわたしたちを背かせ、この地であなたがた二人が権勢を得るために、わたしたちのもとに来たのか。わたしたちは決してあなたがたを信じない。」フィルアウンは言った。「腕の立つ魔術師をすべて、わたしのもとに連れて来なさい。」魔術師たちが来ると、ムーサーはかれらに言った。「あなたがたの投げるものを投げなさい。」かれらが投げると、ムーサーは言った。「あなたがたが持って来たものは魔術である。アッラーは必ずそれを無に帰される。アッラーは、腐敗を広める者たちの行いを成功させられない。アッラーは、罪を犯す者たちがどれほど嫌っても、その御言葉によって真理を確立される。」だがムーサーを信じたのは、その民の若者たちの一部だけであった。フィルアウンと自分たちの長老たちに迫害されるのを恐れたからである―まことにフィルアウンはこの地で横暴であり、あらゆる限度を越える者の一人であった。(74-83)

ムーサーは言った。「わが民よ、あなたがたがアッラーを信じ、かれに帰依した者であるなら、かれに信頼を寄せなさい。」かれらは言った。「わたしたちはアッラーに信頼を寄せました。わたしたちの主よ、わたしたちを不正を行う民の試練の的としないでください。あなたの慈悲によって、真理を否定する民からわたしたちを救い出してください。」われらはムーサーとその兄弟に啓示した。「あなたがたの民をエジプトの家々に住まわせ、あなたがたの家を礼拝の場とし、礼拝を守りなさ

い。そして信者たちに吉報を伝えなさい。」ムーサーは言った。「わたしたちの主よ、あなたはフィルアウンとその長老たちに、現世の生活での栄華と財産を授けられました。わたしたちの主よ、そのためにかれらは人々をあなたの道から迷わせています。わたしたちの主よ、かれらの財産を消し去り、かれらの心をかたくなにしてください。かれらが痛ましい懲罰を見るまでは、信じることのないように。」かれは言われた。「あなたがた二人の祈りは聞き届けられた。だから二人ともまっすぐに立ち、知識のない者たちの道に従ってはならない。」 (84-89)

われらはイスラエルの子孫に海を渡らせた。フィルアウンとその軍勢は、横暴と敵意に駆られてかれらを追った。やがて溺れそうになると、かれは言った。「わたしは信じます。イスラエルの子孫が信じる御方のほかに神はありません。わたしはかれに帰依する者の一人です。」「今になってか。以前あなたは背き、腐敗を広める者の一人であったのに。だから今日、われらはあなたの体だけは救う。あなたが後に来る者たちへのしるしとなるように。」それでもなお、人々の多くはわれらのしるしに無頓着である。われらはイスラエルの子孫を良い住まいに落ち着かせ、良いものを糧として授けた。かれらは、知識が届くまでは意見を異にしなかった。あなたの主は、かれらが意見を異にしていたことについて、復活の日にかれらの間を裁かれる。 (90-93)

もしあなたが、われらがあなたに下したものについて疑っているなら、あなた以前から啓典を読んでいる者たちに尋ねなさい。真理は確かにあなたの主からあなたに届いた。だから疑う者の一人となってはならない。またアッラーのしるしを偽りとする者の一人となってはならない。さもないと、あなたは損失者の一人となる。あなたの主の言葉が真実となった者たちは、たとえあらゆるしるしが届いても、痛ましい懲罰を見るまでは信じない。信仰して、その信仰が役に立った町が一つでもあったならよかったのに―ユーヌスの民だけは別であった。かれらが信仰したとき、われらは現世の生活での屈辱の懲罰をかれらから取り除き、しばらくの間かれらに生を楽しませた。あなたの主がお望みなら、地上にいる者はみな、一人残らず信仰したであろう。それなのにあなたは、人々が信者となるまで強いるのか。だれも、アッラーのお許しがなければ信仰することはできない。かれは、理性を働かせない者たちの上に汚れを置かれる。言え、「天と地にあるものを見なさい。」だがしるしも警告も、信じようとしない民には何の役にも立たない。かれらは、自分たち以前に過ぎ去った者たちの日々と同じようなもののほかに、何を待っているのか。言え、「待ちなさい―わたしもあなたがたと共に待っている。」それからわれらは、

われらの使徒たちと信仰する者たちを救う。このように、信者たちを救うことは、われらの務めである。 (94-103)

言え、「人々よ、もしあなたがたがわたしの宗教について疑っているなら、知りなさい。わたしは、あなたがたがアッラーをさしおいて崇めるものを崇めない。わたしは、あなたがたの魂を召されるアッラーを崇める。わたしは信者の一人となるよう命じられた。また、純正な信仰の者としてあなたの顔をこの宗教に向けなさい、決してアッラーに同位者を並べる者の一人となってはならない、と命じられた。」アッラーをさしおいて、あなたに益も害も与えられないものに祈ってはならない。もしそうするなら、あなたは不正を行う者の一人となる。もしアッラーがあなたに害を触れさせられるなら、かれのほかにそれを取り除ける者はない。もしかれがあなたに良いことを望まれるなら、その恵みを退けられる者はない。かれはそのしもべたちの中のお望みの者に、それを授けられる。かれはよく赦し、慈愛深い御方である。言え、「人々よ、あなたがたの主から真理があなたがたに届いた。導かれる者は、ただ自分自身のために導かれるのであり、迷う者は、ただ自分の損失を招いて迷うのである。わたしはあなたがたの後見人ではない。」あなたに啓示されるものに従い、アッラーが裁きを下されるまで耐え忍びなさい。かれは最も優れた裁き手である。 (104-109)

11. フード (Hūd)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ラー。これは、その節としるしが確かなものとされ、それから詳しく説き明かされた啓典であり、英知に満ち、すべてに通じておられる御方からのものである。あなたがたはアッラーのほかは何ものも崇めてはならない、と。言え、「わたしは、かれからあなたがたに遣わされた警告者であり、吉報を伝える者である。またあなたがたは主の赦しを請い、悔い改めてかれに帰りなさい。そうすればかれは、定められた期限まで、あなたがたに良い暮らしを楽しませ、恩恵にふさわしいすべての者にその恩恵を授けられる。だがもしあなたがたが背き去るなら、わたしはあなたがたのために大いなる日の懲罰を恐れる。あなたがたの帰り着く先はアッラーのもとである。かれは万事に全能である。」 (1-4)

見なさい、かれらは、かれから身を隠そうとして胸を折りたたむ。だがかれらが衣で身を包むときでさえ、かれは、かれらが隠すことも表すことも知っておられる。まことにかれは、胸の内にあることをよく知っておられる。地上を動くどんな生き物も、その糧がアッラーによらないものはない。かれはその住む場所も、預けられる場所も知っておられる。すべては明らかな書の中に記されている。かれこそは、六つの時代に天と地を創られた御方である―かれの玉座は水の上にあった―あなたがたのうちでだれの行いが最も優れているかを試みるためである。それなのに、もしあなたが「あなたがたは死後によみがえらされる」と言うなら、真理を否定する者たちは必ず「これは明らかな魔術にほかならない」と言う。またもしわれらが、数えられた時まで懲罰をかれらから遅らせるなら、かれらは必ず「何がそれを引きとめているのか」と言う。だがそれがかれらに臨む日、それはかれらから退けられることはなく、かれらがあざけっていたものが、四方からかれらを取り囲む。もしわれらが人間に、われらからの慈悲を味わわせ、それからそれを取り上げるなら、かれはすっかり絶望し、恩を忘れる。またもしわれらが、かれに触れた苦難の後で恵みを味わわせるなら、かれは必ず「災いはわたしから去った」と言い、有頂天になって自慢する―ただし耐え忍び、善行に励む者たちは別である。かれらには赦しと大きな報奨がある。 (5-11)

（預言者よ）あなたは、あなたに啓示されるものの一部を言わずにおこうとし、それによって胸を締めつけられているかもしれない。かれらが「なぜかれに財宝が下されず、あるいは天使がかれと共に来ないのか」と言うからである。あなたは警告

者にすぎない。アッラーこそ、すべてのことを委ねるべき御方である。それともかれらは「かれがそれをでっち上げた」と言うのか。言え、「それなら、それに似た、でっち上げた章を十持って来なさい。そしてアッラーのほかに、呼べる者をだれでも呼びなさい。あなたがたが真実を語っているのなら。」もしかれらがあなたがたに応えないなら、それがアッラーの知識をもって下されたものであること、そしてかれのほかに神はないことを知りなさい。それでもあなたがたは、かれに帰依しないのか。現世の生活とその飾りを望む者には、われらはそこでの行いに対して十分に支払い、かれらがそこで少なく受け取ることはない。これらの者は、来世では業火のほかに何もない者たちである。かれらがここで成し遂げたことは無に帰し、かれらが行っていたことはすべて空しい。このような者が、主からの明らかな証拠の上に立ち、かれからの証人がそれを読誦し、それ以前には導きと慈悲としてムーサーの啓典があった者と比べられようか。これらの者はそれを信じる。だが諸派のうちでそれを否定する者には、業火がその約束の場所である。だからそれについて疑ってはならない。それはあなたの主からの真理である。だが人々の多くは信じない。(12-17)

アッラーについて偽りをでっち上げる者よりも不正な者がだれかあろうか。かれらは主の御前に立たされ、証人たちは言う。「自分たちの主について偽りを語ったのは、この者たちである。」まことにアッラーの呪いは、不正を行う者たちの上にある。かれらはほかの者たちをアッラーの道から妨げ、それを曲げようとし、来世を否定する者たちである。かれらは地上で決してアッラーをくじくことはできず、アッラーのほかに守護者もない。かれらの懲罰は二倍にされる。かれらは聞くことに耐えられず、見ることもしなかった。これらの者は、自分自身の魂を失った者たちであり、かれらがでっち上げていたものは、かれらを見捨てた。疑いもなく、来世ではかれらこそ最大の損失者である。だが信仰して善行に励み、主の御前にへりくだる者たち—かれらは楽園の住人であり、永遠にそこに住む。この二つの集団のたとえは、目の見えない者と耳の聞こえない者を、目の見える者と耳の聞こえる者のそばに置いたようなものである。この二つが、たとえとして同じでありえようか。あなたがたは心に留めないのか。(18-24)

われらはヌーフをその民に遣わした。かれは言った。「わたしはあなたがたへの明らかな警告者である。アッラーのほかは何ものも崇めてはならない。わたしはあなたがたのために、痛ましい日の懲罰を恐れる。」かれの民のうち真理を否定する長老たちは言った。「わたしたちには、あなたはわたしたちと同じ人間にしか見えな

い。またあなたに従っているのは、わたしたちの中の最も卑しい者たちだけで、しかもよく考えもせずに従っているように見える。わたしたちは、あなたがたにわたしたちより優れたところを何も認めない。むしろ、あなたがたを嘘つきだと思う。」かれは言った。「わが民よ、考えてみなさい。もしわたしが主からの明らかな証拠の上に立ち、かれがご自分のもとからの慈悲をわたしに授けられたのに、それがあなたがたの目には隠されているとしたら、あなたがたが嫌っているのに、わたしたちがそれをあなたがたに無理に押しつけられようか。わが民よ、わたしはこのことで、あなたがたに財産を求めはしない。わたしの報酬はアッラーのもとにだけある。わたしは信仰する者たちを追い払いはしない—かれらはやがて主に会う—だがわたしには、あなたがたが無知に振る舞う民に見える。わが民よ、もしわたしがかれらを追い払ったなら、だれがアッラーからわたしを助けてくれるのか。あなたがたは心に留めないのか。わたしはあなたがたに、アッラーの宝庫がわたしのもとにあるとは言わない。目に見えないことを知っているとも言わない。わたしが天使であるとも言わない。またあなたがたの目がさげすむ者たちについて、アッラーは決してかれらに良いものを授けられない、とも言わない—アッラーは、かれらの心の中にあることを最もよく知っておられる。もしそう言うなら、わたしは確かに不正を行う者の一人となる。」かれらは言った。「ヌーフよ、あなたはわたしたちと言い争い、その言い争いを長々と続けた。あなたが真実を語っているのなら、今こそ、わたしたちを脅しているものをもたらしてみなさい。」かれは言った。「それをあなたがたにもたらされるのは、お望みならば、アッラーだけである。あなたがたはかれをくじくことはできない。もしアッラーが、あなたがたを迷うにまかせようと望まれるなら、わたしがどれほどあなたがたに忠告したいと望んでも、わたしの忠告はあなたがたの役に立たない。かれはあなたがたの主であり、あなたがたはかれのもとに帰される。」 (25-34)

それともかれらは「かれがそれをでっち上げた」と言うのか。言え、「もしわたしがそれをでっち上げたのなら、その罪はわたしの上にある。だがわたしは、あなたがたが犯す罪とは関わりがない。」 (35)

そしてヌーフに啓示された。「あなたの民の中で、すでに信仰した者たちのほかは、もうだれも信じない。だからかれらが行ってきたことで、心を痛めてはならない。われらの目の前で、われらの啓示に従って舟を造りなさい。不正を行った者たちのことで、わたしに嘆願してはならない。かれらは溺れることになる。」そこでかれは舟を造り始めた。かれの民の長老たちは、そばを通るたびにかれをあざ笑った。

かれは言った。「あなたがたがわたしたちをあざ笑うなら、あなたがたがあざ笑うように、わたしたちもあなたがたをあざ笑う。やがてあなたがたは、辱める懲罰がだれに臨み、絶えることのない懲罰がだれの上に下るかを知るであろう。」ついにわれらの命令が下り、かまどから水が噴き出したとき、われらは言った。「あらゆる種類のものから雌雄一対ずつと、あなたの家族―すでに言葉が下された者たちは除く―と、信仰する者たちを、その中に乗せなさい。」だがかれと共に信仰した者は、わずかにすぎなかった。かれは言った。「これに乗りなさい。その走るのも、とどまるのも、アッラーの御名によって。まことにわたしの主はよく赦し、慈愛深い御方である。」舟は、山のような波の間を、かれらを乗せて進んだ。ヌーフは、離れたところにいた息子に呼びかけた。「わが子よ、わたしたちと一緒に乗りなさい。真理を否定する者たちと共にいてはならない。」息子は言った。「わたしは山に逃れます。山が水からわたしを守ってくれるでしょう。」ヌーフは言った。「今日は、アッラーの命令から守ってくれる者はない。かれが慈悲をかけられた者のほかは。」そのとき波が二人の間を隔て、息子は溺れた者の一人となった。それから言葉があった。「大地よ、あなたの水を呑み込め。空よ、雨をとどめよ。」こうして水は引き、事は成し遂げられ、舟はジューディー山の上にとどまった。そして言葉があった。「不正を行う民は遠ざけられよ。」ヌーフは主に呼びかけて言った。「主よ、わたしの息子はわたしの家族の一人です。あなたの約束は確かに真実であり、あなたは裁き手の中で最も公正な御方です。」かれは言われた。「ヌーフよ、かれはあなたの家族ではない。かれのしたことは正しくない行いであった。だからあなたの知らないことについて、わたしに求めてはならない。わたしは、あなたが無知な者の一人とならないよう、あなたを諭す。」かれは言った。「主よ、わたしの知らないことについてあなたに求めることのないよう、あなたに加護を求めます。あなたがわたしを赦し、慈悲をかけてくださらなければ、わたしは損失者の一人となります。」言葉があった。「ヌーフよ、われらからの平安と、あなたの上の、またあなたと共にいる者たちから出る諸共同体の上の祝福と共に、下りて行きなさい。また別の共同体もある。われらはしばらくの間かれらを楽しませ、それからわれらからの痛ましい懲罰がかれらに触れる。」（預言者よ）これらは、われらがあなたに啓示する、目に見えない世界の知らせである。これ以前には、あなたもあなたの民も、それを知らなかった。だから耐え忍びなさい。最後の良い結末は、アッラーを畏れる者たちのものである。 (36-49)

またアードには、その兄弟フードを遣わした。かれは言った。「わが民よ、アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。あなたがたは偽りをでっち上げているにすぎない。わが民よ、わたしはこのことで、あなたがたに何の報酬も求めない。わたしの報酬は、わたしを創り出された御方のもとにだけある。あなたがたは理性を働かせないのか。わが民よ、あなたがたの主の赦しを請い、悔い改めてかれに帰りなさい。そうすればかれは、空から豊かな雨をあなたがたの上に降らせ、あなたがたの力に力を加えてくださる。だから罪を犯す者として背き去ってはならない。」かれらは言った。「フードよ、あなたはわたしたちに明らかな証拠を何も持って来なかった。わたしたちは、あなたの言葉だけで自分たちの神々を捨てはしない。あなたを信じるつもりもない。わたしたちが言えるのは、わたしたちの神々のどれかが、あなたに災いを加えたということだけだ。」かれは言った。「わたしはアッラーを証人とする―あなたがたも証言しなさい―わたしは、あなたがたがかれをさしおいてかれに並べるものとは関わりがない。だからみなでわたしに対して策謀を巡らし、猶予を与えるな。わたしは、わたしの主であり、あなたがたの主でもあるアッラーに信頼を寄せた。どんな生き物も、かれがその前髪をつかんでおられないものはない。まことにわたしの主は、まっすぐな道の上におられる。もしあなたがたが背き去っても、わたしは、自分が携えて遣わされたものを、すでにあなたがたに伝えた。わたしの主は、あなたがた以外の民をあなたがたの代わりに立てられる。あなたがたは少しもかれを害することはできない。まことにわたしの主は、すべてのものを見守っておられる。」われらの命令が下ったとき、われらは、われらからの慈悲によって、フードと、かれと共に信仰した者たちを救った。われらはかれらを、厳しい懲罰から救ったのである。それがアードであった。かれらは主のしるしを否定し、その使徒たちに背き、あらゆるかたくなな暴君の命令に従った。かれらは現世でも、復活の日にも、呪いに追われた。見よ、アードは自分たちの主を否定した。フードの民アードは遠ざけられよ。 (50-60)

またサムードには、その兄弟サーリフを遣わした。かれは言った。「わが民よ、アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。かれは大地からあなたがたを生じさせ、そこにあなたがたを住まわせられた。だからかれの赦しを請い、悔い改めてかれに帰りなさい。まことにわたしの主は近くにおられ、よく応えてくださる。」かれらは言った。「サーリフよ、これ以前、あなたはわたしたちの中で望みを託された人であった。あなたは、わたしたちの父祖たちが崇めていたものを崇めることを、わたしたちに禁じるのか。わたしたちは、あなたが呼びかけて

いることについて、深い疑いの中にいる。」かれは言った。「わが民よ、考えてみなさい。もしわたしが主からの明らかな証拠の上に立ち、かれがご自分のもとからの慈悲をわたしに授けられたのに、わたしがかれに背いたなら、だれがアッラーからわたしを助けてくれるのか。あなたがたは、わたしの破滅を増すだけである。わが民よ、これはアッラーの雌らくだであり、あなたがたへのしるしである。だからアッラーの大地でこれに草をはませ、害を加えてはならない。さもないと、間近な懲罰があなたがたを捕らえる。」だがかれらはその足の腱を切った。そこでかれは言った。「三日の間、あなたがたの家で楽しみなさい。それは偽りとなることのない約束である。」われらの命令が下ったとき、われらは、われらからの慈悲によって、サーリフと、かれと共に信仰した者たちを救い、その日の屈辱からも救った。まことにあなたの主は、強く、偉力ならびない御方である。そして轟音が不正を行った者たちを襲い、かれらは自分の家の中でうつ伏せに倒れた。まるでそこに住んだことがなかったかのように。見よ、サムードは自分たちの主を否定した。サムードは遠ざけられよ。 (61-68)

われらの使いたちは、吉報を携えてイブラーヒームのもとに来た。かれらは「平安あれ」と言った。かれも「平安あれ」と言い、すぐさま焼いた子牛を運んで来た。だがかれらの手がそれに伸びないのを見て、かれはいぶかしく思い、かれらに恐れを感じた。かれらは言った。「恐れてはならない。わたしたちはルートの民に遣わされたのである。」かれの妻はそばに立っていて、笑った。そこでわれらはかの女に、イスハークの吉報を、そしてイスハークの後にはヤアクーブの吉報を伝えた。かの女は言った。「まあ、何ということでしょう。わたしは年老いた女で、このわたしの夫も老人ですのに、わたしが子を産むのでしょうか。これは本当に不思議なことです。」かれらは言った。「あなたはアッラーの命令を不思議に思うのか。この家の人々よ、アッラーの慈悲と祝福があなたがたの上にあるように。まことにかれは讃えられるべき、栄光に満ちた御方である。」やがて恐れがイブラーヒームから去り、吉報がかれに届くと、かれはルートの民のことで、われらに嘆願し始めた。イブラーヒームはまことに寛容で、心優しく、常にアッラーに立ち帰る人であった。「イブラーヒームよ、このことから離れなさい。あなたの主の命令はすでに下った。退けることのできない懲罰が、かれらに臨もうとしている。」 (69-76)

われらの使いたちがルートのもとに来たとき、かれはかれらのことで心を痛め、守ってやる力がないと感じて言った。「今日はつらい日だ。」かれの民は急いでかれのもとに押し寄せて来た。かれらは以前から忌まわしい行いを重ねていた。かれは

言った。「わが民よ、ここにわたしの娘たちがいる。かの女たちのほうが、あなたがたにとってより清い。だからアッラーを畏れなさい。客人たちの前でわたしを辱めてはならない。あなたがたの中に、分別のある男は一人もいないのか。」かれらは言った。「あなたの娘たちに、わたしたちが何の用もないことは、あなたもよく知っている。わたしたちが何を望んでいるかも、あなたは確かに知っている。」かれは言った。「あなたがたに立ち向かう力がわたしにあったなら。あるいは強い支えに身を寄せることができたなら。」使いたちは言った。「ルートよ、わたしたちはあなたの主の使いである。かれらは決してあなたに手が届かない。だから夜の一部のうちに家族を連れて出発しなさい。あなたがたのだれも振り返ってはならない--ただしあなたの妻は別である。かれらに降りかかることが、かの女にも降りかかる。かれらに定められた時は朝である。朝は近いではないか。」われらの命令が下ったとき、われらはその町を上下逆さまに覆し、その上に、焼いた粘土の石を次々と雨のように降らせた。それは、あなたの主のもとでしるしを付けられたものである。それは、不正を行う者たちから決して遠くはない。 (77-83)

またマドヤンには、その兄弟シュアイブを遣わした。かれは言った。「わが民よ、アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。升目と目方を減らしてはならない。わたしには、あなたがたが豊かに暮らしているのが見える。だがわたしはあなたがたのために、すべてを取り囲む日の懲罰を恐れる。わが民よ、升目と目方を公正に十分に満たしなさい。人々のものをかすめ取ってはならない。地上を腐敗を広めながら歩き回ってはならない。あなたがたが信者であるなら、アッラーのもとに残るもののほうが、あなたがたにとってより良い。わたしはあなたがたの見張りではない。」かれらは言った。「シュアイブよ、あなたの礼拝があなたに命じるのか。わたしたちが父祖たちの崇めていたものを捨てるように、あるいは自分の財産を思いどおりに扱わないように、と。あなたこそまことに寛容で、分別のある人だ。」かれは言った。「わが民よ、考えてみなさい。もしわたしが主からの明らかな証拠の上に立ち、かれがご自分のもとから良い糧をわたしに授けられたとしたら--わたしは、あなたがたに禁じているまさにそのことを、あなたがたに隠れて行おうとは望まない。わたしはただ、できる限り物事を正したいと望んでいるだけである。わたしが成し遂げられるかどうかは、ただアッラーによる。わたしはかれに信頼を寄せ、かれに立ち帰る。わが民よ、わたしへの敵意のために、ヌーフの民やフードの民やサーリフの民に降りかかったのと同じようなことを、身に招いてはならない--ルートの民も、あなたがたから遠くはない。あなたがたの主の赦

しを請い、悔い改めてかれに帰りなさい。まことにわたしの主は慈愛深く、愛情に満ちた御方である。」 (84-90)

かれらは言った。「シュアイブよ、あなたの言うことの多くは、わたしたちには分からない。わたしたちには、あなたがわたしたちの中で弱い者に見える。あなたの一族がいなかったなら、わたしたちはあなたを石で打ち殺していたであろう。あなたはわたしたちに対して何の力もない。」かれは言った。「わが民よ、あなたがたにとっては、わたしの一族のほうがアッラーよりも重いのか。あなたがたはかれを背後に投げ捨てた。まことにわたしの主は、あなたがたの行うことをすべて取り囲んでおられる。わが民よ、あなたがたの立場で行いなさい。わたしも行う。辱める懲罰がだれに臨むか、だれが嘘つきであるかを、あなたがたはやがて知るであろう。見守りなさい。わたしもあなたがたと共に見守っている。」われらの命令が下ったとき、われらは、われらからの慈悲によって、シュアイブと、かれと共に信仰した者たちを救った。そして轟音が不正を行った者たちを襲い、かれらは自分の家の中でうつ伏せに倒れた。まるでそこに住んだことがなかったかのように。サムードが遠ざけられたように、マドヤンも遠ざけられよ。 (91-95)

またわれらはムーサーを、われらのしるしと明らかな権威と共に、フィルアウンとその長老たちに遣わした。だがかれらはフィルアウンの命令に従った。フィルアウンの命令は正しく導かれたものではなかった。かれは復活の日に自分の民の先頭に立ち、かれらを業火の中へと導き下ろす—導かれて行くその水場は何と悪いことか。かれらは現世でも、復活の日にも、呪いに追われた。与えられたその贈り物は何と悪いことか。 (96-99)

（預言者よ）これは、われらがあなたに語り聞かせる町々の知らせの一部である。その中には今も立っているものもあり、刈り取られたように滅びたものもある。われらがかれらに不正を行ったのではない。かれらが自分自身に不正を行ったのである。あなたの主の命令が下ったとき、かれらがアッラーをさしおいて祈り求めていた神々は、かれらに何の役にも立たなかった。それらはかれらに、破滅のほか何も加えなかった。あなたの主が、不正のただ中にある町々を捕らえられるとき、その捕らえ方はこのようである。かれの捕らえ方は、まことに痛ましく、厳しい。まことにその中には、来世の懲罰を恐れる者へのしるしがある。それは、人々がそのために集められる日であり、すべての者が立ち会う日である。われらがそれを遅らせるのは、ただ数えられた期限までである。その日が来ると、かれのお許しがなけれ

ば、だれも語らない。かれらの中には不幸な者もあり、幸いな者もある。不幸な者たちは業火の中にいて、そこでうめき、むせび泣く。あなたの主がお望みになる場合を除いて、天と地の続く限り、そこにとどまる。まことにあなたの主は、望まれることを成し遂げられる。幸いな者たちは楽園の中にいて、あなたの主がお望みになる場合を除いて、天と地の続く限り、そこにとどまる―それは途切れることのない贈り物である。 (100-108)

だからこの者たちが崇めているものについて、疑ってはならない。かれらは、以前に父祖たちが崇めていたように崇めているにすぎない。われらは必ず、かれらの取り分を減らすことなく、十分に支払う。われらはムーサーに啓典を授けたが、それについて意見の相違が生じた。もしあなたの主からの先立つ言葉がなかったなら、事はかれらの間で決せられていたであろう。それでもかれらは、それについて深い疑いの中にいる。あなたの主は必ず、かれらのそれぞれに、その行いを十分に報いられる。かれは、かれらの行うことをすべて知っておられる。だからあなたは、命じられたとおりに、あなたと共にアッラーに立ち帰った者たちと一緒に、まっすぐに立ちなさい。限度を越えてはならない。かれはあなたがたの行うことをすべて見ておられる。不正を行う者たちに傾いてはならない。さもないと、業火があなたがたに触れる。あなたがたには、アッラーのほかに守護者はなく、その後は助けられることもない。 (109-113)

昼の両端と、夜の初めの時刻に礼拝を守りなさい。まことに善い行いは悪い行いを追い払う。それは、心に留める者たちへの訓戒である。耐え忍びなさい。アッラーは、善を行う者たちの報奨を無駄にされない。あなたがた以前の諸世代の中に、地上の腐敗を禁じる、良識の名残を持つ人々がいたならよかったのに―だがそれは、われらが救ったわずかな者たちだけであった。不正を行った者たちは、与えられたぜいたくを追い求めた。かれらは罪を犯す者であった。あなたの主は、住民が物事を正している間は、不当に町々を滅ぼされることは決してない。あなたの主がお望みなら、人類をただ一つの共同体にされたであろう。だがかれらは、意見を異にし続ける。あなたの主が慈悲をかけられた者たちは別である―かれはそのためにかれらを創られたのである。あなたの主の言葉は全うされた。「わたしは必ず、ジンと人間を一緒にして地獄を満たす。」 (114-119)

われらが使徒たちの知らせについてあなたに語り聞かせるすべてのことは、それによってあなたの心を堅固にするためである。これらの中で、真理と、信者たちへの

訓戒と戒めがあなたに届いた。信じない者たちに言え、「あなたがたの立場で行いなさい。わたしたちも行う。そして待ちなさい。わたしたちも待っている。」天と地の目に見えないことはアッラーのものであり、すべての事はかれに帰される。だからかれを崇め、かれに信頼を寄せなさい。あなたの主は、あなたがたの行うことを見過ごされはしない。 (120-123)

12. ユースフ (Yūsuf)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ラー。これらは、物事を明らかにする啓典の節であり、しるしである。われらはそれをアラビア語のクルアーンとして下した。あなたがたが理解するように。 (1-2)

（預言者よ）われらは、このクルアーンをあなたに啓示することによって、最も美しい物語をあなたに語り聞かせる。これ以前、あなたはそれを知らない者の一人であった。ユースフが父に言ったとき。「お父さん、わたしは十一の星と太陽と月を見ました。それらがわたしにひれ伏しているのを見たのです。」かれは言った。「わが子よ、あなたの見た夢を兄たちに話してはならない。さもないと、かれらはあなたに対して策略を巡らすであろう。まことに悪魔は、人間にとって公然の敵である。このようにあなたの主はあなたを選び、出来事の解釈を教え、あなたとヤアクーブの一族へのかれの恵みを全うされる。以前、あなたの二人の父祖イブラーヒームとイスハークの上にそれを全うされたように。まことにあなたの主はすべてを知り、英知に満ちた御方である。」 (3-6)

まことにユースフとその兄弟たちの中には、尋ね求める者たちへのしるしがある。かれらが言ったとき。「ユースフとその弟のほうが、わたしたちよりも父に愛されている。わたしたちはこれだけの人数がいるのに。わたしたちの父は明らかに誤っている。ユースフを殺すか、どこかの土地に追いやりなさい。そうすれば、父の顔はあなたがただけに向けられる。その後で、あなたがたは正しい人々になればよい。」かれらの一人が言った。「ユースフを殺してはならない。どうしても何かをするというなら、かれを井戸の底に投げ込みなさい。どこかの隊商が拾い上げるであろう。」 (7-10)

かれらは言った。「お父さん、なぜユースフのことでわたしたちを信用してくださらないのですか。わたしたちは本当にかれのためを思っています。明日、かれをわたしたちと一緒に行かせて、駆け回って遊ばせてください。わたしたちは必ずかれを見守ります。」かれは言った。「あなたがたがかれを連れて行くことは、わたしを悲しませる。あなたがたがかれに気を配っていない間に、狼がかれを食べてしまうのではないかと恐れる。」かれらは言った。「わたしたちがこれだけ大勢いるのに、狼がかれを食べたなら、わたしたちはそれこそ損失者です。」 (11-14)

こうしてかれらがかれを連れ出し、井戸の底に入れることで一致したとき、われらはかれに啓示した。「あなたは必ず、かれらがあなたのことに気づかないときに、かれらのこのしわざをかれらに告げるであろう。」日が暮れると、かれらは泣きながら父のもとに来た。かれらは言った。「お父さん、わたしたちは競走をしに出かけ、ユースフを荷物のそばに残しておきました。すると狼がかれを食べてしまったのです。けれどもあなたは、わたしたちが本当のことを言っていても、信じてはくださらないでしょう。」そしてかれらは、偽りの血のついたかれの上着を持って来た。かれは言った。「いや、あなたがたの心が、何事かをあなたがたにそそのかしたのだ。それならば―美しい忍耐こそふさわしい。あなたがたの語ることに対しては、助けを求めるべきはアッラーである。」 (15-18)

やがて一つの隊商が来て、水くみの者を遣わした。その者がつるべを下ろすと、言った。「これは良い知らせだ。ここに男の子がいる。」かれらはかれを商品として隠した―だがアッラーは、かれらの行っていることをよく知っておられた。そしてかれらは、かれをわずかな値、数枚の銀貨で売った。かれらはかれをさほど値打ちのあるものとは思わなかったのである。 (19-20)

かれを買ったエジプトの人は、その妻に言った。「かれを手厚くもてなしなさい。わたしたちの役に立つかもしれないし、あるいは息子として迎えてもよい。」このようにわれらは、ユースフをその地に落ち着かせた。またかれに出来事の解釈を教えるためであった。アッラーは、ご自分の事を必ず成し遂げられる。だが人々の多くはそれを知らない。 (21)

かれが成年に達したとき、われらはかれに判断力と知識を授けた。このようにわれらは、善を行う者たちに報いる。かれが住んでいた家の女は、かれを誘惑しようとした。かの女は戸をすべて閉ざして言った。「さあ、こちらへ。」かれは言った。「アッラーにお守りを願います。あの方はわたしの主人であり、わたしの住まいを良くしてくださいました。まことに不正を行う者たちは成功しません。」かの女はかれを求めた。かれも、主の明証を見なかったなら、かの女を求めたであろう。このようになったのは、われらが悪と醜行をかれから遠ざけるためであった。かれは、われらの選ばれたしもべの一人であった。二人は戸口へと競って走り、かの女は後ろからかれの上着を引き裂いた。そして二人は、戸口でかの女の主人に出くわした。かの女は言った。「あなたの妻に悪いことをしようとした者への報いは、牢に入れるか、痛ましい懲罰のほかに何がありましょう。」かれは言った。「わたしを誘惑

しようとしたのは、かの女のほうです。」そこでかの女の家の者の一人が証言した。「もしかれの上着が前から裂けているなら、かの女が真実を語り、かれが嘘つきである。だがかれの上着が後ろから裂けているなら、かの女が偽りを言い、かれが真実を語っている。」主人は、かれの上着が後ろから裂けているのを見ると、言った。「これはあなたがた女のたくらみだ。まことにあなたがたのたくらみは大きい。ユースフよ、このことは忘れなさい。そして妻よ、あなたは自分の罪の赦しを請いなさい。あなたは確かに過ちを犯した。」 (22-29)

町の女たちは言った。「高官の妻が、自分の召使いの若者を誘惑しようとしている。かれへの恋心が、かの女の胸の奥まで染み込んだのだ。わたしたちには、かの女が明らかに誤っているのが見える。」かの女は、女たちの意地の悪いうわさを聞くと、かの女たちを招き、宴の席を用意し、その一人ひとりに小刀を渡した。それから「かの女たちの前に出て来なさい」と言った。女たちはかれを見ると、その姿に圧倒され、自分の手を切ってしまい、言った。「アッラーは何と完全な御方でしょう。これは人間ではありません。これは気高い天使にほかなりません。」かの女は言った。「この人が、あなたがたがわたしを責めたその人です。わたしは確かにかれを誘惑しようとしましたが、かれは固く身を守りました。けれどもわたしの命じることをしなければ、かれは必ず牢に入れられ、卑しめられる者の一人となるでしょう。」かれは言った。「主よ、かの女たちがわたしを誘うことよりも、牢のほうがわたしには好ましいのです。あなたがかの女たちのたくらみをわたしから遠ざけてくださらなければ、わたしはかの女たちに傾き、無知な者の一人となってしまいます。」そこで主はかれに答え、かの女たちのたくらみをかれから遠ざけられた。まことにかれは全聴にして全知の御方である。 (30-34)

それから、かれらは数々のしるしを見た後でも、しばらくの間かれを牢に入れておくのがよいと考えた。二人の若者が、かれと共に牢に入った。その一人が言った。「わたしは、自分がぶどう酒を搾っている夢を見ました。」もう一人が言った。「わたしは、自分が頭の上にパンを載せて運び、鳥がそこからついばんでいる夢を見ました。」二人は言った。「その解釈をわたしたちに教えてください。わたしたちには、あなたが善を行う人の一人であることが分かります。」 (35-36)

かれは言った。「あなたがた二人の糧としてどんな食べ物が届くときも、それが届く前に、わたしはその解釈をあなたがたに告げよう。それは、わたしの主がわたしに教えられたことの一部である。わたしは、アッラーを信じず、来世を否定する民

の教えを捨て、わたしの父祖イブラーヒーム、イスハーク、ヤアクーブの教えに従った。アッラーに何かを並べることは、わたしたちにはありえない。それは、わたしたちと人々へのアッラーの恩恵による。だが人々の多くは感謝しない。牢の仲間の二人よ、ばらばらの多くの主たちのほうが良いのか、それとも、唯一にしてすべてを従わせるアッラーのほうか。あなたがたがかれをさしおいて崇めているものは、あなたがたと父祖たちがつけた名前にすぎない。アッラーはそれらについて何の権威も下されなかった。裁きはアッラーだけのものである。かれは、あなたがたがかれのほかは何ものも崇めないよう命じられた。それが正しい宗教である。だが人々の多くはそれを知らない。牢の仲間の二人よ、あなたがたの一人は、主人にぶどう酒を注ぐことになる。もう一人は十字架にかけられ、鳥がその頭からついばむことになる。あなたがた二人がわたしに意見を求めた事は、すでに決せられた。」そしてかれは、二人のうち助かると思ったほうに言った。「あなたの主人の前で、わたしのことを話してください。」だが悪魔は、かれのことを主人に話すのを、その者に忘れさせた。そのためユースフは、なお数年の間、牢にとどまった。 (37-42)

王は言った。「わたしは、七頭の肥えた雌牛が七頭のやせた雌牛に食べられるのを見た。また七つの緑の穂と、ほかに枯れた穂を見た。長老たちよ、あなたがたに夢を解く力があるなら、わたしのこの夢について判断を示しなさい。」かれらは言った。「取りとめのない夢です。わたしたちは夢の解釈には通じておりません。」すると二人のうち助かったほうの者が、長い時を経て思い出し、言った。「わたしがその解釈をあなたがたにお知らせします。だからわたしを遣わしてください。」 (43-45)

「ユースフよ、誠実な人よ。七頭の肥えた雌牛が七頭のやせた雌牛に食べられること、また七つの緑の穂と、ほかに枯れた穂について、わたしたちに判断を示してください。わたしが人々のもとに戻り、かれらが知ることができるように。」かれは言った。「あなたがたは七年の間、いつものように種をまきなさい。刈り取ったものは、あなたがたが食べるわずかな分を除いて、穂のままにしておきなさい。それからその後に、厳しい七年が来る。その七年は、あなたがたが蓄えておくわずかな分を除いて、そのために前もって備えたものを食い尽くす。それからその後に、人々が雨に恵まれ、ぶどうやオリーブを搾る一年が来る。」 (46-49)

王は言った。「かれをわたしのもとに連れて来なさい。」だが使いの者がかれのもとに来ると、ユースフは言った。「あなたの主人のもとに戻り、自分の手を切った女たちのことを尋ねてください。まことにわたしの主は、かの女たちのたくらみを

すべて知っておられます。」王は女たちに言った。「あなたがたがユースフを誘惑しようとしたとき、いったい何があったのか。」かの女たちは言った。「アッラーは何と完全な御方でしょう。わたしたちは、かれに何の悪いところも知りません。」高官の妻は言った。「今こそ真実が明らかになりました。かれを誘惑しようとしたのはわたしです。かれは確かに真実を語る人の一人です。」ユースフは言った。「これは、わたしが主人の留守の間に主人を裏切らなかったこと、そしてアッラーが裏切る者たちのたくらみを導かれないことを、主人が知るためです。わたしは自分自身を潔白だとは言いません。まことに人の心は、わたしの主が慈悲をかけられる場合を除いて、しきりに悪を命じるものです。まことにわたしの主はよく赦し、慈愛深い御方です。」 (50-53)

王は言った。「かれをわたしのもとに連れて来なさい。わたしはかれを、わたし自身に直属する者としよう。」王はかれと言葉を交わすと、言った。「今日からあなたは、わたしたちのもとで確かな地位を持ち、信頼される者である。」かれは言った。「わたしをこの地の倉庫の管理に当たらせてください。わたしはよく守り、よく知る者です。」このようにわれらは、ユースフをその地に落ち着かせ、どこでも望むところに住めるようにした。われらは望む者に慈悲を授け、善を行う者たちの報奨を無駄にしない。だが来世の報奨は、信仰してアッラーを畏れる者たちにとって、確かにより良い。 (54-57)

ユースフの兄弟たちがやって来て、かれの前に通された。かれはかれらを見分けたが、かれらはかれに気づかなかった。かれはかれらに食糧を用意してやると、言った。「あなたがたの父を同じくする兄弟を、わたしのもとに連れて来なさい。わたしが升目を十分に満たし、最も良くもてなす者であることが、あなたがたには分からないか。もしかれをわたしのもとに連れて来ないなら、わたしのもとには、あなたがたのために量るものは何もない。あなたがたはわたしに近づいてはならない。」かれらは言った。「わたしたちは、かれの父を説き伏せてみます。必ずそういたします。」かれは召使いたちに言った。「かれらの持って来た品物を、かれらの荷袋に戻しておきなさい。かれらが家族のもとに帰ったとき、それに気づくように―そうすれば、かれらはまた戻って来るであろう。」 (58-62)

かれらは父のもとに帰ると、言った。「お父さん、わたしたちには穀物を量ってもらうことが禁じられました。だから弟をわたしたちと一緒に行かせてください。そうすれば量ってもらえます。わたしたちは必ずかれを見守ります。」かれは言った。

「以前その兄のことであなたがたを信用したように、かれのことであなたがたを信用せよというのか。だがアッラーこそ最も良く守ってくださる御方であり、慈悲深い者の中で最も慈悲深い御方である。」かれらが荷物を開けると、自分たちの品物が戻されているのを見つけた。かれらは言った。「お父さん、これ以上何を望みましょう。これはわたしたちの品物で、わたしたちに戻されたのです。わたしたちは家族のために食糧を手に入れ、弟を見守り、らくだ一頭分の荷を余分に得ましょう。それはたやすく得られる量です。」かれは言った。「あなたがたが四方を囲まれてしまう場合を除いて、必ずかれをわたしのもとに連れ帰ると、アッラーにかけて固い誓いを立てるまでは、わたしは決してかれをあなたがたと一緒に行かせない。」かれらがその誓いを立てると、かれは言った。「アッラーは、わたしたちの言うことを見守っておられる。」またかれは言った。「わが子らよ、一つの門から入ってはならない。別々の門から入りなさい。だがわたしは、アッラーに対して、あなたがたの何の役にも立てない。裁きはアッラーだけのものである。わたしはかれに信頼を寄せた。信頼を寄せる者はみな、かれにこそ信頼を寄せなさい。」かれらが父の言いつけたとおりに入ったとき、それはアッラーに対して、かれらに何の役にも立たなかった。それはただ、ヤアクーブの心の中にあった一つの願いであり、かれはそれを果たしたのである。かれは確かに知識を備えた人であった。われらがかれに教えたからである。だが人々の多くは知らない。 (63-68)

かれらがユースフの前に通されたとき、かれは弟を自分のそばに引き寄せて言った。「わたしはあなたの兄だ。だからかれらがしてきたことで、悲しんではならない。」それからかれは、かれらに食糧を用意してやると、弟の荷袋の中に杯を入れた。やがて一人の触れ役が叫んだ。「隊商の人々よ、あなたがたは盗人だ。」かれらは振り向いて言った。「あなたがたは何をなくしたのか。」かれらは言った。「王の杯がなくなった。それを持って来た者には、らくだ一頭分の荷を与える。わたしがそれを請け合う。」かれらは言った。「アッラーにかけて、わたしたちがこの地に腐敗を広めに来たのではないことは、あなたがたもよく知っている。わたしたちは盗人ではない。」かれらは言った。「もしあなたがたが嘘つきであったなら、その罰はどうするのか。」かれらは言った。「その罰はこうである。荷袋の中にそれが見つかった者、その者自身がその償いとなる。このようにわたしたちは、不正を行う者たちを罰する。」そこでかれは、弟の袋より先にほかの者たちの袋から調べ始め、それから弟の袋の中からそれを取り出した。このようにわれらは、ユースフのために計らった。アッラーがお望みにならない限り、王の法のもとでは、かれは弟を引

きとめることができなかったのである。われらは、望む者の位階を高める。知識を持つすべての者の上に、さらによく知る御方がおられる。 (69-76)

かれらは言った。「もしかれが盗んだのなら、かれの兄も以前に盗みをしたのだ。」だがユースフはそれを胸の内に秘め、かれらに明かさなかった。かれは心の中で言った。「あなたがたのほうがもっと悪い立場にいる。アッラーは、あなたがたの言い立てることを最もよく知っておられる。」かれらは言った。「高官よ、かれにはたいへん年老いた父がおります。だからかれの代わりに、わたしたちの一人を引きとめてください。わたしたちには、あなたが善を行う人の一人であることが分かります。」かれは言った。「わたしたちの物が見つかった者のほかに、だれかを引きとめることのないよう、アッラーにお守りを願う。そんなことをすれば、わたしたちは確かに不正を行う者となる。」かれらはかれに望みを失うと、離れて内々に相談した。その中の最も年長の者が言った。「あなたがたは、父がアッラーにかけて固い誓いをあなたがたから取りつけたこと、またこれ以前に、ユースフのことであなたがたが務めを怠ったことを知らないのか。父がわたしに許しを与えるか、アッラーがわたしのために裁きを下されるまで、わたしはこの地を離れない。かれは最も優れた裁き手である。あなたがたは父のもとに帰って言いなさい。『お父さん、あなたの息子は盗みをしました。わたしたちは、自分の知っていることだけを証言します。目に見えないことまでは見守れませんでした。わたしたちがいた町と、わたしたちが共に旅した隊商に尋ねてください。わたしたちは確かに本当のことを言っています。』」 (77-82)

かれは言った。「いや、あなたがたの心が、何事かをあなたがたにそそのかしたのだ。それならば―美しい忍耐こそふさわしい。アッラーは、かれらをみなわたしのもとに連れ戻してくださるかもしれない。まことにかれは全知にして英知に満ちた御方である。」そしてかれはかれらから顔を背けて言った。「ああ、ユースフを思うわたしの悲しみよ。」かれの目は、こらえた悲しみのために白くなった。かれらは言った。「アッラーにかけて、あなたは衰え果てるか、死ぬ者の一人となるまで、ユースフのことを思い続けるのですね。」かれは言った。「わたしは、わたしの苦しみと悲しみをアッラーにだけ訴える。わたしは、あなたがたの知らないことをアッラーから知っている。わが子らよ、行ってユースフとその弟を捜しなさい。アッラーの慰めに望みを失ってはならない。真理を否定する民のほかは、だれもアッラーの慰めに望みを失わない。」 (83-87)

かれらはかれの前に通されると、言った。「高官よ、わたしたちとわたしたちの家族は困窮に見舞われ、わずかな値打ちの品物しか持って参りませんでした。どうか升目を十分に満たし、わたしたちに施しをしてください。まことにアッラーは、施しをする者たちに報いられます。」かれは言った。「あなたがたは、無知であったとき、ユースフとその弟に何をしたかを知っているか。」かれらは言った。「もしや、あなたがユースフなのですか。」かれは言った。「わたしはユースフ、これはわたしの弟だ。アッラーはわたしたちに恵みを施された。まことにアッラーを畏れ、耐え忍ぶ者には―アッラーは、善を行う者たちの報奨を無駄にされない。」かれらは言った。「アッラーにかけて、アッラーは確かに、あなたをわたしたちよりも優れたものとされました。わたしたちは確かに過ちを犯していました。」かれは言った。「今日、あなたがたを責めることは何もない。アッラーがあなたがたを赦されるように。かれは慈悲深い者の中で最も慈悲深い御方である。わたしのこの上着を持って行き、父の顔にかけなさい。父は視力を取り戻すであろう。それからあなたがたの家族をみな、わたしのもとに連れて来なさい。」 (88-93)

隊商が出発したとき、かれらの父は言った。「わたしには確かに、ユースフの香りがする。あなたがたは、わたしがもうろくしたと思うかもしれないが。」人々は言った。「アッラーにかけて、あなたはまだ昔の思い違いの中におられる。」やがて吉報を伝える者が来て、それをかれの顔にかけると、かれの視力は戻った。かれは言った。「わたしは、あなたがたの知らないことをアッラーから知っていると言わなかったか。」かれらは言った。「お父さん、わたしたちの罪のために赦しを請うてください。わたしたちは確かに過ちを犯していました。」かれは言った。「わたしは、あなたがたのために主の赦しを請おう。まことにかれはよく赦し、慈愛深い御方である。」 (94-98)

かれらがユースフの前に通されたとき、かれは両親を自分のそばに引き寄せて言った。「アッラーがお望みなら、安心してエジプトにお入りください。」そしてかれは両親を高座に上らせ、人々はかれの前にひれ伏した。かれは言った。「お父さん、これが、昔わたしの見た夢の解き明かしです。わたしの主は、それを真実とされました。かれはわたしに良くしてくださいました。わたしを牢から出し、悪魔がわたしと兄弟たちとの間に不和をまいた後で、あなたがたを荒野からここに連れて来てくださったのです。まことにわたしの主は、望まれることを巧みに成し遂げられます。かれは全知にして英知に満ちた御方です。主よ、あなたはわたしに王権のいくらかを授け、出来事の解釈のいくらかを教えてくださいました。天と地を創り出さ

れた御方よ、あなたは現世でも来世でも、わたしの守護者です。わたしを、あなたに帰依した者として死なせ、正しい者たちの仲間に加えてください。」 (99-101)

（預言者よ）これは、われらがあなたに啓示する、目に見えない世界の知らせの一部である。かれらが事を決し、策謀を巡らしていたとき、あなたはかれらと共にいなかった。あなたがどれほど熱心に望んでも、人々の多くは信じない。あなたはこれについて、かれらに何の報酬も求めない。これは万有への訓戒にほかならない。天と地には、どれほど多くのしるしがあることか。かれらはそのそばを通り過ぎながら、それから顔を背ける。かれらの多くは、アッラーに同位者を並べることなしには、アッラーを信じない。かれらは、すべてを覆うアッラーの懲罰が臨むことはないと、あるいは気づかないうちにその時がにわかに訪れることはないと、安心しているのか。言え、「これがわたしの道である。わたしは、わたしも、わたしに従う者たちも、明らかな洞察に基づいてアッラーへと呼びかける。アッラーに栄光あれ。わたしは、かれに同位者を並べる者ではない。」 (102-108)

われらがあなた以前に遣わしたのも、町々の住民の中から出た、われらが啓示を授けた男たちにほかならなかった。かれらは地上を旅して、自分たち以前の者たちの最後がどうであったかを見なかったのか。まことに来世の住まいは、アッラーを畏れる者たちにとってより良い。あなたがたは理性を働かせないのか。やがて使徒たちが望みを失い、自分たちは嘘つきとされたと思ったとき、われらの助けがかれらに届き、われらが望んだ者は救われた。われらの懲らしめは、罪を犯す民から決して退けられない。まことにかれらの物語の中には、思慮ある者たちへの教訓がある。これはでっち上げられた話ではなく、それ以前にあったものの確証であり、すべてのことの詳しい解き明かしであり、信仰する人々への導きと慈悲である。 (109-111)

13. 雷 (Al-Raʿd)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ミーム・ラー。これらは啓典の節であり、しるしである。あなたの主からあなたに下されたものは真理である。だが人々の多くは信じない。アッラーこそは、あなたがたに見える柱もなしに天を高く上げ、それから玉座に君臨された御方である。かれは太陽と月を仕えさせ、そのそれぞれは定められた期限までその軌道を進む。かれはすべての事を司り、しるしを詳しく説き明かされる。あなたがたが主との会見を固く信じるように。[14]かれこそは、大地を広げ、そこに堅固な山々と川を置かれた御方である。またあらゆる種類の果実を、そこに二つずつ対にして設けられた。かれは夜を覆いとして昼にかぶせられる。まことにその中には、深く考える人々へのしるしがある。地上には、隣り合ういくつもの区画があり、ぶどうの園があり、作物の畑があり、一つの根から群がって生えるなつめやしも、一本だけで生えるなつめやしもある。それらはみな同じ一つの水で潤されるが、われらはその味において、あるものをほかのものよりも優れたものとする。まことにその中には、理性を働かせる人々へのしるしがある。 (1-4)

もしあなたが不思議に思うなら、かれらの言葉こそ不思議である。「何と、わたしたちが土になった後で、本当に新しく創られるというのか。」これらの者は、自分たちの主を否定した者たちである。これらの者は、首にかせをはめられる者たちである。これらの者は業火の住人であり、そこにとどまり続ける。かれらは、良いことより先に悪いことを急いでもたらすよう、あなたに求める。かれら以前にも、見せしめの懲罰はすでに下されているのに。まことにあなたの主は、人々の不正にもかかわらず、かれらに対して赦しに満ちた御方である。またまことにあなたの主は、懲罰の厳しい御方である。真理を否定する者たちは言う。「なぜかれの主から、かれにしるしが下されないのか。」あなたは警告者にすぎない。どの民にも導き手がいた。 (5-7)

---

[14] この節と、ルクマーン章の一節（31:10）において、神は、わたしたちの宇宙を動かし続けている重力を、ご自身の創造の力のしるしとして、また創造者（アル・ハーリク）、創り出す御方（アル・バーリウ）、形を授ける御方（アル・ムサウウィル）というご自身の属性の現れとして示しておられます。ここではまた、アッラーはそれを、わたしたちの来世のしるしとも呼んでおられます。アッラーは、ヤー・スィーン章の終わり近くにあるように、多くの箇所で、わたしたちの宇宙の最初の創造を、来世に起こることの実例として、また証拠として用いておられるからです。

アッラーは、すべての女が宿すものを知り、胎の縮むことも増すことも知っておられる。かれのもとでは、すべてのものに定められた量がある。かれは目に見えないものも見えるものも知っておられ、偉大にして至高の御方である。あなたがたのだれかがひそかに語っても、声高に語っても、夜の闇に身を隠しても、昼に出歩いても、同じことである。だれにでも、前にも後ろにも付き添う者たちがいて、アッラーの命令によってその人を守っている。まことにアッラーは、ある民が自分たちの内にあるものを変えない限り、その民の状態を変えられない。アッラーがある民に災いを望まれるとき、それを退けることはできない。かれらには、かれのほかに守護者もない。 (8-11)

かれこそは、恐れと望みを抱かせる稲妻をあなたがたに見せ、重い雲を起こされる御方である。雷は讃美をもってかれを讃え、天使たちもかれを畏れて讃える。かれは落雷を送り、お望みの者をそれで打たれる―それでもなお、かれらはアッラーについて言い争う。かれは力の強い御方であるのに。真実の祈りは、かれにこそささげられる。かれらがかれをさしおいて祈り求めるものは、何一つかれらに応えない。それはちょうど、水が口に届くようにと両手を水に向かって差し伸べる者に、水が応えないのと同じである。水は決して口に届かない。真理を否定する者たちの祈りは、迷いの中をさまようだけである。天と地にいるすべての者は、進んでであれ、いやいやであれ、アッラーにひれ伏す。かれらの影もまた、朝な夕なにひれ伏す。 (12-15)

言え、「天と地の主はだれか。」言え、「アッラーである。」言え、「それなのにあなたがたは、かれをさしおいて、自分自身にさえ益も害も与えられないものを守護者としたのか。」言え、「目の見えない者と見える者は同じであろうか。あるいは深い暗闇と光は同じであろうか。」それともかれらは、かれが創られたように創った同位者たちをアッラーに並べたので、その創造がかれらには似たものに見えるのか。言え、「アッラーはすべてのものの創造主である。かれは唯一にして、すべてを従わせる御方である。」 (16)

かれは空から水を降らせられる。すると谷々は、それぞれの量に応じて流れ、奔流は盛り上がる泡を運ぶ。また人々が装身具や道具を求めて火で熱するものからも、それに似た泡が出る。このようにアッラーは、真理と偽りをたとえられる。泡は、かすとなって消え去る。だが人々に役立つものは、大地にとどまる。[15] (17)

[15] 無神論は憶測（ザン）の上に築かれている：科学的・哲学的・神学的注釈

このようにアッラーは、さまざまなたとえを示される。主に応える者たちには、最も良い報奨がある。だがかれに応えない者たちは―たとえ地上にあるすべてのものと、さらにそれと同じだけのものを持っていても、それを身代金として差し出すであろう。かれらには悪い清算があり、その逃げ場は地獄である。何と悪い休み場であろう。 (18)

あなたの主からあなたに下されたものが真理であることを知る者が、目の見えない者と同じであろうか。心に留めるのは、思慮ある者たちだけである。かれらはアッラーとの契約を果たし、約束を破らない。アッラーが結べと命じられたものを結び、主を畏れ敬い、悪い清算を恐れる。主の御顔を求めて耐え忍び、礼拝を守り、われらが授けたものの中からひそかにも公にも施し、善によって悪を退ける。これらの者には、最後の良い住まいがある。かれらが入る、尽きることのない至福の楽園である。かれらの父祖たち、伴侶たち、子孫たちの中の正しい者たちも共に入る。天使たちは、あらゆる門からかれらのもとに入って来る。「あなたがたが耐え忍んだことのゆえに、あなたがたに平安あれ。最後の住まいは何とすばらしいことか。」だがアッラーとの契約を、固く結ばれた後で破り、アッラーが結べと命じられたものを断ち切り、地上に腐敗を広める者たち―かれらの上には呪いがあり、かれらには悪い住まいがある。アッラーは、お望みの者に糧を豊かに与え、またほどよく量って与えられる。かれらは現世の生活を喜んでいる。だが現世の生活は、来世に比べれば、つかの間の楽しみにすぎない。 (19-26)

真理を否定する者たちは言う。「なぜかれの主から、かれにしるしが下されないのか。」言え、「アッラーは、お望みの者を迷うにまかせ、かれに立ち帰る者をご自分のもとへと導かれる。かれらは信仰し、その心がアッラーを念じることによって安らぐ者たちである―まことに、アッラーを念じることによってこそ、心は安らぐ―信仰して善行に励む者たち、かれらには幸いと、美しい帰り着く先がある。」このようにわれらは、あなたを一つの共同体の中に遣わした。それ以前にも、いくつもの共同体が過ぎ去っている。われらがあなたに啓示したものを、あなたがかれらに読み聞かせるためである。それなのにかれらは、慈悲あまねき御方を否定する。言え、「かれはわたしの主である。かれのほかに神はない。わたしはかれに信頼を寄せた。わたしの帰り着く先はかれのもとである。」もし、それによって山々が動かされ、大地が裂かれ、死者が語らされるようなクルアーンがあるとすれば―それは

これである。いや、すべての事はアッラーのものである。信仰する者たちは、アッラーがお望みなら、全人類を導かれたであろうことを知らないのか。真理を否定する者たちには、その行ったことのために、災厄が襲い続け、あるいはその住まいの近くに降りかかり続ける。アッラーの約束が訪れるまで。まことにアッラーは、約束をたがえられない。 (27-31)

あなた以前の使徒たちもあざけられた。わたしは、真理を否定した者たちに猶予を与え、それからかれらを捕らえた―わたしの懲罰はどうであったか。すべての人の上に立ち、その稼いだものを知っておられる御方が、ほかのものと同じであろうか。それなのにかれらは、アッラーに同位者たちを並べた。言え、「その名を挙げなさい。それともあなたがたは、地上でかれがご存じでないことを、かれに知らせるのか。あるいはそれは、うわべだけの言葉なのか。」いや、真理を否定する者たちには、その策謀が良いものに見せられ、かれらは道から背かされたのである。アッラーが迷うにまかせられた者には、導く者はない。かれらには現世の生活での懲罰があり、来世の懲罰はさらに厳しい。かれらをアッラーから守る者は、だれもいない。 (32-34)

アッラーを畏れる者たちに約束された楽園のたとえは、こうである。その下を川が流れ、その果実は絶えることがなく、その木陰もまた同じである。それが、アッラーを畏れる者たちの行き着く結末である。真理を否定する者たちの行き着く結末は、業火である。われらが啓典を授けた者たちは、あなたに下されたものを喜ぶ。だが諸派の中には、その一部を否定する者もいる。言え、「わたしは、ただアッラーを崇め、かれに何ものも並べないよう命じられた。わたしはかれへと呼びかける。わたしの帰り着く先はかれのもとである。」このようにわれらは、それをアラビア語による確かな裁定として下した。もしあなたに知識が届いた後で、かれらの欲望に従うなら、あなたにはアッラーに対する守護者も、守ってくれる者もない。われらはあなた以前にも使徒たちを遣わし、かれらに妻と子孫を授けた。どの使徒も、アッラーのお許しがなければ、しるしを持って来ることはできなかった。どの期限にも、定められた書がある。アッラーは、お望みのものを消し、お望みのものを確かなものとされる。啓典の母はかれのもとにある。われらが、かれらに約束したことの一部をあなたに見せても、あるいはそれより先にあなたを召しても、あなたの務めはただ伝えることだけであり、清算はわれらの務めである。かれらは、われらがこの地に臨み、その端から次々と削り取っているのを見ないのか。アッラーが裁かれるのであり、その裁きを覆す者はない。かれは清算に速い御方である。かれら以

前の者たちも策謀を巡らした。だがすべての策謀はアッラーのものである。かれは、だれもが何を稼ぐかを知っておられる。真理を否定する者たちは、最後の住まいがだれのものであるかを、やがて知るであろう。真理を否定する者たちは言う。「あなたは遣わされた者ではない。」言え、「わたしとあなたがたとの間の証人としては、アッラーと、啓典の知識を持つ者で十分である。」 (35-43)

14. イブラーヒーム (Ibrāhīm)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ラー。これは、われらがあなたに下した啓典である。あなたが、主のお許しによって、人々を深い暗闇から光へと、偉力ならびなく讃えられるべき御方の道へと連れ出すためである―天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものは、アッラーのものである。真理を否定する者たちには、厳しい懲罰のゆえに災いあれ。かれらは来世よりも現世の生活を愛し、ほかの者たちをアッラーの道から妨げ、それを曲げようとする者たちである。かれらは遠く迷い去っている。われらが使徒を遣わすときには、必ずその民の言葉によった。かれが物事をかれらに明らかにするためである。そしてアッラーは、お望みの者を迷うにまかせ、お望みの者を導かれる。かれは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。 (1-4)

われらはムーサーを、われらのしるしと共に遣わした。「あなたの民を深い暗闇から光へと連れ出し、アッラーの日々をかれらに思い起こさせなさい。」まことにその中には、よく耐え忍び、よく感謝するすべての者へのしるしがある。ムーサーがその民に言ったとき。「あなたがたへのアッラーの恵みを思い起こしなさい。かれはあなたがたをフィルアウンの一族から救い出された。かれらはあなたがたをひどい懲らしめに遭わせ、あなたがたの男児を殺し、女を生かしておいた。そこには主からの重大な試練があった。またあなたがたの主がこう宣言されたとき。『もしあなたがたが感謝するなら、わたしは必ずあなたがたにさらに多くを与える。だがもし恩を忘れるなら、わたしの懲罰はまことに厳しい。』」ムーサーは言った。「たとえあなたがたも、地上のすべての者もそろって恩を忘れたとしても、アッラーは満ち足りた、讃えられるべき御方である。」 (5-8)

あなたがた以前の者たち―ヌーフの民、アード、サムード、そしてその後の者たち―の知らせは、あなたがたに届かなかったのか。かれらのことは、アッラーのほかにだれも知らない。かれらの使徒たちは明らかな証拠を携えてかれらのもとに来た。だがかれらは自分の手を口に押し当てて言った。「わたしたちは、あなたがたが携えて遣わされたものを否定する。わたしたちは、あなたがたが呼びかけていることについて、深い疑いの中にいる。」かれらの使徒たちは言った。「天と地を創り出された御方アッラーについて、疑いがあろうか。かれは、あなたがたの罪を赦し、定められた期限まであなたがたに猶予を与えるために、あなたがたを招いておられる。」かれらは言った。「あなたがたは、わたしたちと同じ人間にすぎない。あな

たがたは、わたしたちの父祖たちが崇めていたものから、わたしたちを背かせようとしている。それなら、何か明らかな権威をわたしたちに持って来なさい。」かれらの使徒たちは言った。「わたしたちは確かに、あなたがたと同じ人間にすぎない。だがアッラーは、そのしもべたちの中のお望みの者に恩恵を授けられる。アッラーのお許しがなければ、あなたがたに権威を持って来ることは、わたしたちにはできない。信者たちはアッラーにこそ信頼を寄せなさい。かれがわたしたちの道にわたしたちを導かれたのに、どうしてわたしたちがアッラーに信頼を寄せないことがあろうか。わたしたちは、あなたがたが加えるどんな害にも、必ず耐え忍ぶ。信頼を寄せる者はみな、アッラーにこそ信頼を寄せなさい。」 (9-12)

真理を否定した者たちは、自分たちの使徒たちに言った。「わたしたちは必ず、あなたがたをわたしたちの土地から追い出す。さもなければ、あなたがたはわたしたちの教えに戻りなさい。」そこでかれらの主は、かれらに啓示された。「われらは必ず不正を行う者たちを滅ぼし、かれらの後に、必ずあなたがたをその地に住まわせる。それは、わたしの前に立つことを恐れ、わたしの警告を恐れる者のためである。」かれらは裁決を求めた。するとかたくなな暴君はみな、望みを絶たれた。その者の行く手には地獄があり、うみの混じった水を飲まされる。かれはそれを少しずつすするが、ほとんど飲み下すことができない。死は四方からその者に迫るが、かれは死なない。その行く手には、なお厳しい懲罰がある。自分たちの主を否定する者たちのたとえは、こうである。かれらの行いは、嵐の日に風が激しく吹き飛ばす灰のようである。かれらは自分が稼いだものの何一つ思いどおりにできない。それこそ遠く迷い去ることである。 (13-18)

あなたは、アッラーが真理をもって天と地を創られたことを見ないのか。かれがお望みなら、あなたがたを取り去り、新しい被造物をもたらされる。それはアッラーにとって、何ら難しいことではない。かれらはみなアッラーの御前に進み出る。そのとき弱い者たちは、高慢であった者たちに言う。「わたしたちはあなたがたに従っていた。今あなたがたは、アッラーの懲罰のいくらかでも、わたしたちから取り除けるのか。」かれらは言う。「アッラーがわたしたちを導かれていたなら、わたしたちもあなたがたを導いたであろう。嘆いても耐え忍んでも、わたしたちにとっては同じことである。わたしたちに逃げ場はない。」事が決せられたとき、悪魔は言う。「アッラーはあなたがたに真実の約束をされた。わたしもあなたがたに約束したが、それを破った。わたしはあなたがたに対して何の権威も持っていなかった。ただわたしがあなたがたを呼び、あなたがたがわたしに応えただけである。だから

わたしを責めず、自分自身を責めなさい。わたしはあなたがたを助けに行けず、あなたがたもわたしを助けに来られない。以前あなたがたがわたしをアッラーに並べたことを、わたしは否認する。」まことに不正を行う者たちには、痛ましい懲罰がある。だが信仰して善行に励む者たちは、川が下を流れる楽園に入れられ、主のお許しによってそこにとどまり続ける。そこでのかれらのあいさつは「平安あれ」である。 (19-23)

あなたは、アッラーがどのようにたとえを示されるかを見ないのか。良い言葉は良い木のようである。その根はしっかりと張り、その枝は天に伸び、主のお許しによって季節ごとに実を結ぶ。アッラーは人々のためにたとえを示される。かれらが心に留めるように。悪い言葉のたとえは、悪い木のようである。地の表から根こそぎにされ、少しも安定しない。アッラーは、信仰する者たちを、現世の生活でも来世でも、確固とした言葉によって堅固にされる。アッラーは不正を行う者たちを迷うにまかせられる。アッラーはお望みのことを何でも行われる。 (24-27)

あなたは、アッラーの恵みを忘恩と取り替え、自分の民を破滅の住まいに落とし入れた者たちを見ないのか—それは地獄であり、かれらはそこに入って焼かれる。何と悪い落ち着き場所であろう。かれらは、人々をかれの道から迷わせるために、アッラーに同位者を並べた。言え、「楽しむがよい。あなたがたの行き着く先は業火である。」信仰するわたしのしもべたちに告げなさい。取り引きも友情もない日が来る前に、礼拝を守り、われらが授けたものの中から、ひそかにも公にも施すように、と。 (28-31)

アッラーこそは、天と地を創り、空から水を降らせ、それによってあなたがたの糧として果実を実らせられた御方である。またかれは、その命令によって海を走るように船をあなたがたに仕えさせ、川をあなたがたに仕えさせられた。また絶えず軌道を巡る太陽と月をあなたがたに仕えさせ、夜と昼をあなたがたに仕えさせられた。そしてあなたがたがかれに求めたすべてのものの中から、あなたがたに授けられた。たとえあなたがたがアッラーの恵みを数えようとしても、決して数え尽くすことはできない。まことに人間は、はなはだしく不正で、はなはだしく恩を忘れる。 (32-34)

またイブラーヒームが言ったとき。「主よ、この町を安全な所とし、わたしとわたしの子孫を、偶像を崇めることから遠ざけてください。主よ、偶像は多くの人々を迷わせました。わたしに従う者は、わたしの仲間です。わたしに背く者については–

–まことにあなたはよく赦し、慈愛深い御方です。わたしたちの主よ、わたしは子孫の一部を、あなたの聖なる館のそばの、作物の育たない谷に住まわせました―わたしたちの主よ、かれらが礼拝を守るためです。どうか人々の心をかれらに傾けさせ、かれらに果実を糧としてお授けください。かれらが感謝するように。わたしたちの主よ、あなたは、わたしたちが隠すことも表すことも知っておられます。地にあるものも天にあるものも、何一つアッラーに隠されてはいません。すべての讃美はアッラーのもの。かれは老いたわたしに、イスマーイールとイスハークを授けてくださいました。まことにわたしの主は、祈りを聞き届けられる御方です。主よ、わたしを礼拝を守る者とし、わたしの子孫をもそのようにしてください。わたしたちの主よ、わたしの祈りを受け入れてください。わたしたちの主よ、清算が行われる日に、わたしと両親と信者たちを赦してください。」[16] (35-41)

アッラーが、不正を行う者たちの行うことを見過ごしておられると思ってはならない。かれはただ、恐怖に目が見開かれる日まで、かれらに猶予を与えておられるだけである。その日かれらは、頭を上げたまま前のめりに急ぎ、そのまなざしは自分に戻らず、その心はうつろである。だから、懲罰がかれらに臨む日について、人々に警告しなさい。そのとき不正を行った者たちは言う。「わたしたちの主よ、ほんのしばらくの間、わたしたちに猶予を与えてください。わたしたちはあなたの呼びかけに応え、使徒たちに従います。」「だがあなたがたは以前、自分たちが滅びることは決してないと誓っていたではないか。あなたがたは、自分自身に不正を行った者たちの住まいに住み、われらがかれらをどのように扱ったかは、あなたがたに明らかにされていた。われらはあなたがたのために、たとえも示した。」かれらは策謀を巡らした。だがかれらの策謀はアッラーのもとにあった―たとえその策謀が、山々を動かすほどのものであったとしても。 (42-46)

だから、アッラーがその使徒たちへの約束をたがえられると思ってはならない。まことにアッラーは偉力ならびなく、報復の主である。大地が別の大地に変えられ、天もまた変えられ、かれらが唯一にしてすべてを従わせるアッラーの御前に進み出る日、あなたは、罪を犯した者たちがその日、鎖でつなぎ合わされているのを見る。その衣は黒い樹脂でできており、火がその顔を覆う。アッラーが、だれもに自分の

[16] 「主よ、この町を安全にしてください」：クルアーン 14:35-41 についての歴史的・神学的注釈―イブラーヒームから 2026 年のマッカ防衛同盟に至る、世紀ごとのマッカ安全史を添えて
1517 年のジェッダ包囲戦：ポルトガル、紅海、そして聖なる二都市の防衛

稼いだものを報いられるためである。まことにアッラーは清算に速い御方である。(47-51)

これは人々への伝言である。かれらがそれによって警告を受け、かれが唯一の神であることを知り、思慮ある者たちが心に留めるためである。(52)

15. ヒジュル (Al-Ḥijr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ラー。これらは啓典の節であり、しるしであり、物事を明らかにするクルアーンの節である。真理を否定する者たちは、やがて、アッラーに帰依していたらよかったのにと願うことであろう。かれらを放っておきなさい。食べ、楽しみ、望みに気を取られているがよい。かれらはやがて知るであろう。われらが町を滅ぼすときには、必ずその町に、知られた定めがあった。どの共同体も、その期限を早めることはできず、遅らせることもできない。かれらは言う。「訓戒が下されたというおまえよ、おまえは確かにつかれた者だ。おまえが真実を語る者の一人であるなら、なぜ天使たちをわたしたちのもとに連れて来ないのか。」われらは、真理をもってでなければ天使たちを下さない。そしてそのときには、かれらに猶予は与えられない。この訓戒を下したのはわれらであり、われらは必ずそれを守る。われらはあなた以前にも、昔の諸派の中に使徒たちを遣わした。かれらのもとに使徒が来るたびに、かれらは必ずその使徒をあざけった。このようにわれらは、それを罪を犯す者たちの心の中に染み込ませる。かれらはそれを信じない。昔の人々の先例がすでに過ぎ去っているのに。たとえわれらがかれらのために天の門を開き、かれらがそこを昇り続けたとしても、かれらはなおも言うであろう。「わたしたちの目がくらまされているだけだ。いや、わたしたちは魔術にかけられた民なのだ。」(1-15)

われらは天に星座を置き、見る者たちのためにそれを美しく飾り、呪われたすべての悪魔からそれを守った—ただし盗み聞きをする者は別であり、その者は輝く炎に追われる。また大地を、われらは広げ、その上に堅固な山々を据え、そこにあらゆるものを釣り合いよく生い茂らせた。またわれらはそこに、あなたがたのため、またあなたがたが養っているのではないものたちのために、暮らしの手だてを設けた。どんなものでも、その蔵がわれらのもとにないものはない。われらは、知られた量によってのみそれを下す。われらは実りをもたらす風を送り、それから空から水を降らせて、あなたがたに飲ませる。それを蓄えているのは、あなたがたではない。生を与え、死を与えるのはわれらであり、すべてを受け継ぐのもわれらである。われらは確かに、あなたがたのうち先に行った者たちを知り、また後に来る者たちを

も確かに知っている。かれらを集められるのは、あなたの主である。かれは英知に満ち、すべてを知っておられる。[17] (16-25)

われらは人間を、乾いて音を立てる粘土、形を与えられた黒い泥から創った。またジンは、それ以前に、焼けつく風の火から創った。あなたの主が天使たちに言われたとき。「わたしは、乾いて音を立てる粘土、形を与えられた黒い泥から、一人の人間を創る。わたしがかれを形づくり、わたしの霊をかれに吹き込んだなら、かれの前にひれ伏して倒れなさい。」天使たちはみな一斉にひれ伏した—イブリースだけは別であった。かれは、ひれ伏す者たちの中に加わることを拒んだ。かれは言われた。「イブリースよ、あなたはどうしたのか。ひれ伏す者たちの中にいないとは。」かれは言った。「あなたが、乾いて音を立てる粘土、形を与えられた黒い泥から創られた人間に、わたしはひれ伏すような者ではありません。」かれは言われた。「それならここから出て行きなさい。あなたは呪われた者である。審判の日まで、呪いは確かにあなたの上にある。」かれは言った。「主よ、かれらがよみがえらされる日まで、わたしに猶予をお与えください。」かれは言われた。「あなたは、定められた時の日まで猶予を与えられた者の一人である。」かれは言った。「主よ、あなたがわたしを迷わせられたのですから、わたしは必ず、地上で悪をかれらに良いものに見せ、必ずかれらをみな迷わせます—ただしかれらの中の、あなたの誠実なしもべたちは別です。」かれは言われた。「これは、わたしのもとにまっすぐに通じる道である。まことにわたしのしもべたちに対しては、あなたは何の権威も持たない。ただし迷った者たちの中であなたに従う者は別である。まことに地獄は、かれらすべてに約束された場所である。それには七つの門があり、それぞれの門に、かれらの一部が割り当てられる。」まことにアッラーを畏れる者たちは、楽園と泉の中にいる。「平安のうちに、安心してそこに入りなさい。」われらは、かれらの胸の中にあるわだかまりを残らず取り除く。かれらは兄弟として、寝いすの上で向かい合って座る。そこでは疲れがかれらに触れることはなく、そこから追い出されることも決してない。わたしのしもべたちに告げなさい。わたしはまことによく赦し、慈愛深い者であること、そしてわたしの懲罰は、まことに痛ましい懲罰であることを。 (26-50)

[17] クルアーン 15:16-25 についての科学的・哲学的・神学的注釈
クルアーンはなぜ、一つの章に星座の名をつけているのか

またイブラーヒームの客人たちのことを、かれらに告げなさい。かれらがかれのもとに入って来て「平安あれ」と言ったとき、かれは言った。「わたしたちは、あなたがたを恐れています。」かれらは言った。「恐れてはならない。わたしたちは、知識を備えた男の子の吉報をあなたに伝える。」かれは言った。「老いがわたしに迫っているというのに、あなたがたはわたしに吉報を伝えるのですか。いったいどんな吉報を伝えるのですか。」かれらは言った。「わたしたちは、真実をもってあなたに吉報を伝える。だから望みを失う者の一人となってはならない。」かれは言った。「迷った者たちのほかに、だれが主の慈悲に望みを失うでしょうか。」かれは言った。「使いの方々よ、それではあなたがたのご用は何ですか。」かれらは言った。「わたしたちは、罪を犯す民に遣わされたのである―ただしルートの家族は別である。わたしたちは必ず、かれらを一人残らず救う。かれの妻だけは別である。かの女は後に残る者の一人となると、われらは定めた。」 (51-60)

使いたちがルートの家族のもとに来たとき、かれは言った。「あなたがたは、わたしの知らない人々だ。」かれらは言った。「いや、わたしたちは、かれらが疑っていたものを携えて、あなたのもとに来た。わたしたちは真理を携えてあなたのもとに来た。わたしたちは確かに真実を語る。だから夜の一部のうちに家族を連れて出発し、あなたはその後ろについて行きなさい。あなたがたのだれも振り返ってはならない。命じられるところへ進みなさい。」そしてわれらは、この定めをかれに伝えた。朝までに、あの者たちは最後の一人まで断ち切られる、と。町の人々は、喜び勇んでやって来た。かれは言った。「この人たちはわたしの客人だ。だからわたしに恥をかかせないでくれ。アッラーを畏れ、わたしを辱めないでくれ。」かれらは言った。「わたしたちは、だれであれ人をかくまうことを、あなたに禁じなかったか。」かれは言った。「どうしても何かをするというなら、ここにわたしの娘たちがいる。」あなたの命にかけて、かれらは酔いしれて、やみくもにさまよっていた―そして日の出のころ、轟音がかれらを襲った。われらはその町を上下逆さまに覆し、かれらの上に、焼いた粘土の石を雨のように降らせた。まことにその中には、しるしを読み取る者たちへのしるしがある。その町は、今も人の通う道のかたわらにある。まことにその中には、信者たちへのしるしがある。 (61-77)

森の住人たちもまた不正を行う者であった。そこでわれらはかれらに報復した。その二つの町は、どちらもはっきりと分かる街道のかたわらにある。またヒジュルの住人たちも、使徒たちを嘘つき呼ばわりした。われらはかれらにしるしを授けたが、かれらはそれから背を向けた。かれらは安心しきって、山々を刻んで住まいを造っ

ていた。だが朝になって轟音がかれらを襲い、かれらが稼いでいたものはすべて、何の役にも立たなかった。 (78-84)

われらは天と地、そしてその間にあるすべてのものを、ただ真理によって創った。その時は必ず来る。だから美しく赦しなさい。まことにあなたの主は、すべてを知る創造主である。われらはあなたに、繰り返し唱えられる七つの節と、偉大なクルアーンを授けた。われらがかれらの一部に楽しませているものに、目を凝らしてはならない。かれらのことで悲しんでもならない。信者たちの上には、あなたの翼を低く垂れなさい。そして言え、「わたしはまことに明らかな警告者である。」それは、啓典を切り分けた者たち、クルアーンをばらばらの断片にした者たちの上に、われらが下したのと同じである。あなたの主にかけて、われらは必ず、かれらが行っていたことについて、かれらすべてを問いただす。だから命じられたことを公然と告げ知らせ、アッラーに同位者を並べる者たちから離れなさい。あざける者たちに対しては、あなたにはわれらで十分である。かれらはアッラーと並べて別の神を立てる。かれらはやがて知るであろう。われらは、かれらの言うことであなたの胸が締めつけられていることを、よく知っている。だからあなたの主を讃美して讃え、ひれ伏す者の一人となりなさい。そして確かなことがあなたに訪れるまで、あなたの主を崇めなさい。 (85-99)

16. 蜜蜂 (Al-Naḥl)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アッラーの命令は来た。だからそれを急いで求めてはならない。かれに栄光あれ。かれは、かれらが並べるものをはるかに超えて高くおられる。かれは、そのしもべたちの中のお望みの者に、ご自分の命令による霊と共に天使たちを下される。「わたしのほかに神はないと警告しなさい。だからわたしを畏れなさい。」かれは真理をもって天と地を創られた。かれは、かれらが並べるものをはるかに超えて高くおられる。かれは人間を一滴の液から創られた―ところが見よ、かれは公然と言い争う者である。また家畜を、かれはあなたがたのために創られた。それらには暖かさと、さまざまな益があり、あなたがたはそれらを食べもする。夕べにそれらを連れ帰るときにも、朝に牧場へ連れ出すときにも、あなたがたにとってそれらには美しさがある。またそれらは、あなたがたがたいへんな苦労をしなければ行き着けない土地まで、あなたがたの荷を運ぶ。あなたがたの主は、まことに慈しみ深く、慈愛深い御方である。また馬、らば、ろばを、あなたがたが乗るため、また飾りとして創られた。かれは、あなたがたの知らないものをも創られる。正しい道を示すのはアッラーの務めである。だが道の中には、それからそれるものもある。かれがお望みなら、あなたがたをみな導かれたであろう。 (1-9)

かれこそは、あなたがたのために空から水を降らせられる御方である。そこから飲み水が得られ、またそこから、あなたがたが家畜を放つ草木が育つ。かれはそれによって、あなたがたのために穀物、オリーブ、なつめやし、ぶどう、そしてあらゆる種類の果実を育てられる。まことにその中には、深く考える人々へのしるしがある。かれは夜と昼を、また太陽と月を、あなたがたに仕えさせられた。星々もまた、かれの命令によって仕えさせられている。まことにその中には、理性を働かせる人々へのしるしがある。またかれが地上で、あなたがたのために色とりどりに増やされたものも。まことにその中には、心に留める人々へのしるしがある。かれこそは、海を仕えさせられた御方である。あなたがたがそこから新鮮な肉を食べ、身につける装飾品をそこから取り出すためである。またあなたは、船が波を切って進むのを見る。あなたがたがかれの恵みを求め、感謝するようになるためである。またかれは、大地があなたがたを揺り動かさないように、その上に堅固な山々を据え、川と道を設けられた。あなたがたが道を知るためである。また数々の道しるべを設

けられた。人々は星によっても道を知る。それでは、創造される御方が、創造できない者と同じであろうか。あなたがたは心に留めないのか。 (10-17)

たとえあなたがたがアッラーの恵みを数えようとしても、決して数え尽くすことはできない。まことにアッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。アッラーは、あなたがたが隠すことも表すことも知っておられる。かれらがアッラーをさしおいて祈り求めるものは、何も創らない。それら自身が創られたものである。それらは死んだものであり、生きてはいない。自分がいつよみがえらされるかも知らない。あなたがたの神は唯一の神である。来世を信じない者たち―その心は否定に満ち、かれらは高慢である。アッラーが、かれらの隠すことも表すことも知っておられることに、疑いはない。かれは高慢な者たちを愛されない。 (18-23)

かれらは「あなたがたの主は何を下されたのか」と尋ねられると、「昔の人々の作り話だ」と言う―その結果、かれらは復活の日に、自分自身の重荷をすべて負い、さらに知識もなく迷わせた者たちの重荷の一部をも負うことになる。かれらが負うものは何と悪いことか。かれら以前の者たちも策謀を巡らした。するとアッラーは、かれらの建物をその土台から襲われ、屋根がかれらの上に頭上から落ち、懲罰は、かれらの気づかないところからかれらに臨んだ。それから復活の日に、かれはかれらを辱めて言われる。「あなたがたがそのことで言い争っていた、わたしの同位者たちはどこにいるのか。」知識を授けられた者たちは言う。「今日、屈辱と災いは、真理を否定した者たちの上にある―」かれらは、自分自身に不正を行っているままに、天使たちがその魂を召す者たちである。そのときかれらは服従を申し出る。「わたしたちは何も悪いことをしていませんでした。」いや、アッラーは、あなたがたが行っていたことをよく知っておられる。だから地獄の門に入り、そこにとどまりなさい。高慢な者たちの住まいは何と悪いことか。 (24-29)

またアッラーを畏れる者たちは「あなたがたの主は何を下されたのか」と尋ねられると、「良いものを」と言う。この現世で善を行う者たちには良いことがあり、来世の住まいはさらに良い。アッラーを畏れる者たちの住まいは何とすばらしいことか。それは、かれらが入る、尽きることのない至福の楽園であり、その下を川が流れる。そこには、かれらの望むものが何でもある。このようにアッラーは、かれを畏れる者たちに報いられる。かれらは、清らかなままに、天使たちがその魂を召す者たちである。天使たちは言う。「あなたがたに平安あれ。あなたがたが行っていたことのゆえに、楽園に入りなさい。」かれらは、天使たちがかれらのもとに来る

こと、あるいはあなたの主の命令が来ることのほかに、何かを待っているのか。かれら以前の者たちも、そのようにした。アッラーがかれらに不正を行われたのではない。かれらが自分自身に不正を行っていたのである。こうして、かれらの行いの悪がかれらを襲い、かれらがあざけっていたものが、かれらを取り囲んだ。 (30-34)

アッラーに同位者を並べる者たちは言う。「アッラーがお望みなら、わたしたちもわたしたちの父祖たちも、かれのほかは何も崇めなかったであろうし、かれによらずに何かを禁じることもなかったであろう。」かれら以前の者たちも、そのようにした。使徒たちの務めは、はっきりと伝えることのほかに何があろうか。われらは確かに、どの共同体にも一人の使徒を遣わした。「アッラーを崇め、偽りの神々を避けなさい」と告げるためである。かれらの中には、アッラーが導かれた者もあり、迷いが当然のものとなった者もある。だから地上を旅して、偽りとした者たちの最後がどうであったかを見なさい。あなたがどれほどかれらの導きを熱望しても、アッラーは、迷うにまかせられた者を導かれない。かれらには援助者もない。かれらは、アッラーは死んだ者をよみがえらせはしないと、アッラーにかけて最も重い誓いを立てる。いや、そうではない。それは、かれが真実としてご自身に課された約束である。だが人々の多くは知らない―それは、かれらが意見を異にしていたことを、かれがかれらに明らかにされるため、また真理を否定した者たちが、自分たちが嘘つきであったことを知るためである。われらが何かを望むとき、それに対するわれらの言葉は、ただ「あれ」と言うだけであり、するとそれはある。不当な扱いを受けた後で、アッラーのために移住した者たち―われらは必ず、現世でかれらに良い住まいを与える。来世の報奨はさらに大きい。かれらがそれを知っていたなら――かれらは耐え忍び、主に信頼を寄せる者たちである。 (35-42)

（預言者よ）われらがあなた以前に遣わしたのも、われらが啓示を授けた男たちにほかならなかった―もしあなたがたが知らないなら、訓戒を持つ人々に尋ねなさい――かれらは明らかな証拠と書巻を携えていた。そしてわれらは、あなたに訓戒を下した。人々のために下されたものを、あなたがかれらに明らかにするため、またかれらが深く考えるためである。 (43-44)

悪い策謀を巡らす者たちは、アッラーがかれらを大地に呑み込ませられることはないと、あるいは気づかないところから懲罰が臨むことはないと、あるいは行き来している最中に捕らえられて逃れられなくなることはないと、あるいは少しずつ弱らせながら捕らえられることはないと、安心しているのか。あなたがたの主は、まこ

とに慈しみ深く、慈愛深い御方である。かれらは、アッラーが創られたものを見なかったのか。その影は右に左に向きを変え、すっかりへりくだってアッラーにひれ伏している。天にあるすべてのもの、地上のすべての生き物、そして天使たちもアッラーにひれ伏す。かれらは高慢ではない。かれらは自分たちの上におられる主を畏れ、命じられたことを行う。 (45-50)

アッラーは言われた。「二つの神を立ててはならない。かれは唯一の神にほかならない。だからわたしを、ただわたしだけを畏れなさい。」天と地にあるすべてのものはかれのものであり、絶えることのない服従はかれにささげられる。それなのにあなたがたは、アッラー以外のものを畏れるのか。あなたがたにあるどんな恵みも、アッラーからのものである。そして害があなたがたに触れると、あなたがたが助けを叫び求めるのはかれである。ところがかれがその害を取り除かれると、たちまちあなたがたの一部は、自分たちの主に同位者を並べ、われらが授けたものに対して恩を忘れる。それなら楽しむがよい—やがてあなたがたは知るであろう。 (51-55)

かれらは、自分でもよく知らないもののために、われらが授けたものの中から取り分を割り当てる。アッラーにかけて、あなたがたは、自分がでっち上げていたことについて必ず問われる。かれらはアッラーに娘たちを割り当てる—かれに栄光あれ—そして自分たちには、望むものを取る。かれらの一人が女の子の誕生を知らされると、その顔は暗くなり、悲しみをこらえる。知らされたその悪い知らせのために、人々から身を隠す。屈辱を忍んでその子を手もとに置くか、それとも土の中に埋めてしまうか、と。かれらの判断は何と悪いことか。来世を信じない者たちには悪いたとえがふさわしく、最も高いたとえはアッラーのものである。かれは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。もしアッラーが、人々の不正のためにかれらを責められるなら、地上に一つの生き物も残されないであろう。だがかれは、定められた期限までかれらに猶予を与えられる。その期限が来ると、かれらは一刻も遅らせることができず、早めることもできない。かれらは、自分たちの嫌うものをアッラーに割り当て、その舌は、最も良いものが自分たちのものになるという偽りを語る。疑いもなく、業火がかれらのものであり、かれらは真っ先にそこへ追いやられる。 (56-62)

アッラーにかけて、われらはあなた以前の諸共同体にも使徒たちを遣わした。だが悪魔が、かれらの行いを良いものに見せかけた。だから今日、悪魔がかれらの後ろ盾であり、かれらには痛ましい懲罰が待っている。われらがあなたに啓典を下した

のは、ただかれらが意見を異にしていることを、あなたがかれらに明らかにするため、また信仰する人々への導きと慈悲とするためである。 (63-64)

アッラーは空から水を降らせ、それによって死んだ大地を生き返らせられる。まことにその中には、耳を傾ける人々へのしるしがある。また家畜の中にも、あなたがたへの教訓が確かにある。われらは、その腹の中にあるもの―排せつ物と血の間―から、混じりけのない乳をあなたがたに飲ませる。それは飲む者に心地よい。またなつめやしとぶどうの実から、あなたがたは酔わせる飲み物と良い糧を得る。まことにその中には、理性を働かせる人々へのしるしがある。またあなたの主は蜜蜂に啓示された。「山々にも、木々にも、人々が組み立てるものにも、あなたの住みかを造りなさい。それからあらゆる果実を食べ、あなたの主が歩みやすくされた道をたどりなさい。」その腹からは、色とりどりの飲み物が出る。その中には、人々への癒やしがある。まことにその中には、深く考える人々へのしるしがある。 (65-69)

アッラーはあなたがたを創られた。それからあなたがたを死なせられる。あなたがたの中には、最も衰えた年齢にまで戻され、知っていた後で何も分からなくなる者もいる。アッラーはすべてを知り、全能の御方である。アッラーは、糧において、あなたがたのある者をほかの者よりも恵まれた。それなのに、恵まれた者たちは、自分の所有する奴隷たちに自分の糧を譲り渡して、それについてかれらと同等になろうとはしない。それでもかれらは、アッラーの恵みを否定するのか。アッラーは、あなたがた自身の中から、あなたがたのために伴侶を設け、伴侶からあなたがたのために子と孫を設け、良いものを糧として授けられた。それでもかれらは、偽りを信じ、アッラーの恵みを否定するのか。またかれらは、アッラーをさしおいて、天からも地からも何の糧もかれらに与える力がなく、何もできないものを崇める。だからアッラーのために、たとえをこしらえてはならない。アッラーは知っておられるが、あなたがたは知らない。 (70-74)

アッラーは一つのたとえを示される。人に所有され、何事も思いどおりにできない奴隷と、われらがわれらのもとから良い糧を授け、その中からひそかにも公にも施す人である。この二人は同じであろうか。すべての讃美はアッラーのもの―だがかれらの多くは知らない。またアッラーは、二人の男のたとえを示される。その一人は口がきけず、何事も思いどおりにできず、主人の重荷となっている―どこに遣わされても、何の良いことも持ち帰らない。この者が、公正を命じ、自らもまっすぐな道の上にいる者と同じであろうか。天と地の目に見えないことはアッラーのもの

である。その時の事は、まばたき一つのよう、いや、それよりもさらに近い。アッラーは万事に全能である。アッラーは、何も知らないあなたがたを母の胎内から出し、あなたがたに聴覚と視覚と心を授けられた。あなたがたが感謝するように。かれらは、空の中に支えられている鳥たちを見ないのか。アッラーのほかに、それらを支えているものはない。まことにその中には、信仰する人々へのしるしがある。アッラーは、あなたがたの家を、あなたがたの憩いの場とされた。また家畜の皮から、旅立つ日にも宿る日にも軽く扱える天幕を、あなたがたのために設けられた。またその羊毛や毛皮や毛から、しばらくの間の調度と品々を設けられた。アッラーは、ご自分が創られたものの中から、あなたがたのために陰を設け、山々の中に隠れ場を設け、暑さからあなたがたを守る衣と、戦いであなたがたを守るよろいを設けられた。このようにかれは、あなたがたへの恵みを全うされる。あなたがたがかれに帰依するように。だがもしかれらが背き去るなら、（預言者よ）あなたの務めは、ただはっきりと伝えることだけである。かれらはアッラーの恵みを認めながら、それを否定する。かれらの多くは恩を忘れる者である。 (75-83)

われらがそれぞれの共同体から一人の証人を立てる日、真理を否定した者たちは、弁明を許されず、償いをすることも認められない。不正を行った者たちが懲罰を見るとき、それはかれらのために軽くされず、猶予も与えられない。アッラーに同位者を並べた者たちは、自分たちの同位者たちを見ると言う。「わたしたちの主よ、これが、わたしたちがあなたをさしおいて祈り求めていた、わたしたちの同位者たちです。」だがそれらは、「あなたがたは確かに嘘つきだ」という言葉を、かれらに投げ返す。その日かれらはアッラーに服従を申し出、かれらがでっち上げていたものは、かれらを見捨てる。真理を否定し、ほかの者たちをアッラーの道から妨げた者たち―われらは、かれらが広めていた腐敗のゆえに、その懲罰の上にさらに懲罰を加える。 (84-88)

われらがそれぞれの共同体の中に、かれら自身の中から、かれらに対する一人の証人を立てる日、（預言者よ）われらはあなたを、これらの者たちに対する証人として連れて来る。われらは、すべてのことの解き明かしとして、またアッラーに帰依する者たちへの導きと慈悲と吉報として、あなたに啓典を下した。 (89)

アッラーは、公正と、善を行うことと、近親に惜しみなく与えることを命じ、醜行と、悪いことと、圧迫を禁じられる。かれは、あなたがたが心に留めるように、あなたがたを諭される。あなたがたが契約を結んだなら、アッラーとの契約を果たし

なさい。誓いを固め、アッラーをあなたがたの保証人とした後で、それを破ってはならない。アッラーは、あなたがたの行うことを知っておられる。しっかりと紡いだ後で、自分の糸をばらばらにほどいてしまう女のようになってはならない。ある共同体がほかの共同体よりも数が多いからといって、あなたがたの誓いを、互いを欺く手段としてはならない。アッラーは、ただそれによってあなたがたを試みておられるのである。かれは復活の日に、あなたがたが意見を異にしていたことを、必ずあなたがたに明らかにされる。 (90-92)

アッラーがお望みなら、あなたがたを一つの共同体にされたであろう。だがかれは、お望みの者を迷うにまかせ、お望みの者を導かれる。あなたがたは、自分の行っていたことについて必ず問われる。あなたがたの誓いを、互いを欺く手段としてはならない。さもないと、しっかりと踏みしめていた足が滑り、あなたがたは、ほかの者たちをアッラーの道から妨げたことのゆえに、災いを味わう。そしてあなたがたには、重大な懲罰がある。アッラーとの契約を、わずかな値で売ってはならない。アッラーのもとにあるもののほうが、あなたがたにとってより良い。あなたがたがそれを知っていたなら。あなたがたのもとにあるものは尽きるが、アッラーのもとにあるものは残る。われらは必ず、耐え忍んだ者たちに、かれらの行っていた最も良いことに応じて、その報奨を与える。男であれ女であれ、信者であって善を行う者―われらは必ず、その者に良い生活を送らせ、かれらの行っていた最も良いことに応じて、その報奨を与える。 (93-97)

だからクルアーンを読誦するときには、呪われた悪魔からの加護を、アッラーに求めなさい。信仰して主に信頼を寄せる者たちに対しては、悪魔は何の力も持たない。悪魔の力は、ただかれを後ろ盾とする者たちと、アッラーに同位者を並べる者たちの上にだけ及ぶ。われらが一つの節を別の節に取り替えると―アッラーは、ご自分が下されるものを最もよく知っておられる―かれらは「あなたはでっち上げているだけだ」と言う。いや、かれらの多くには知識がない。言え、「聖霊が、真理をもって、あなたの主からそれを下した。信仰する者たちを堅固にするため、またアッラーに帰依する者たちへの導きと吉報とするためである。」われらは、かれらが「かれに教えているのは、ただの人間だ」と言っていることをよく知っている。かれらがほのめかしている者の言葉は外国語であるが、これは明瞭なアラビア語である。アッラーのしるしを信じない者たち―アッラーはかれらを導かれず、かれらには痛ましい懲罰が待っている。偽りをでっち上げるのは、ただアッラーのしるしを信じない者たちだけである。かれらこそ嘘つきである。信仰した後でアッラーを否

定する者―心は信仰のうちに安らいでいながら、強制された者は別である―だが否定に向かって胸を開く者には、アッラーの怒りがその上にあり、かれらには重大な懲罰が待っている。それは、かれらが来世よりも現世の生活を好んだからであり、またアッラーが真理を否定する民を導かれないからである。これらの者は、アッラーがその心と聴覚と視覚に封をされた者たちである。かれらこそ無頓着な者である。疑いもなく、来世ではかれらこそ損失者である。だが迫害を受けた後で移住し、それから奮闘し、耐え忍んだ者たちには―あなたの主は、そのすべての後では、確かによく赦し、慈愛深い御方である。だれもが自分自身のために弁じようとして来る日、だれもが自分の行ったことを十分に報いられ、不当に扱われることはない。アッラーは一つのたとえを示される。安全で平穏な町があり、その糧は四方から豊かに届いていた。ところがその町はアッラーの恵みに対して恩を忘れた。そこでアッラーは、かれらの行っていたことのゆえに、飢えと恐れの衣をその町に味わわせられた。かれら自身の中から一人の使徒がかれらのもとに来たが、かれらはその使徒を嘘つき呼ばわりした。そこで、かれらが不正を行っているうちに、懲罰がかれらを捕らえた。 (98-113)

だから、アッラーがあなたがたに授けられた、許された良いものを食べなさい。そしてアッラーの恵みに感謝しなさい。あなたがたが崇めるのがかれであるなら。かれがあなたがたに禁じられたのは、死肉、血、豚の肉、そしてアッラー以外のものにささげられたものだけである。だが、欲しがるのでもなく、限度を越えるのでもなく、やむをえず迫られた者には―アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。あなたがたの舌が語る偽りのままに、「これは許されている、これは禁じられている」と言って、アッラーについて偽りをでっち上げてはならない。アッラーについて偽りをでっち上げる者たちは成功しない―つかの間の楽しみがあり、それからかれらには痛ましい懲罰が待っている。ユダヤ教徒であった者たちには、われらが以前あなたに語ったものを禁じた。われらがかれらに不正を行ったのではない。かれらが自分自身に不正を行ったのである。それから、無知のために悪を行い、その後で悔い改めて行いを正す者たちには―あなたの主は、そのすべての後では、確かによく赦し、慈愛深い御方である。 (114-119)

イブラーヒームは、かれ一人で一つの共同体であった。アッラーに敬虔に従い、純正な信仰を持ち、アッラーに同位者を並べる者ではなかった。かれはかれの恵みに感謝する者であった。アッラーはかれを選び、まっすぐな道に導かれた。われらは現世でかれに良いものを授けた。来世でも、かれは必ず正しい者たちの一人である。

それから（預言者よ）われらはあなたに啓示した。「純正な信仰の人イブラーヒームの教えに従いなさい。かれはアッラーに同位者を並べる者ではなかった。」安息日は、それについて意見を異にした者たちにだけ定められた。あなたの主は、かれらが意見を異にしていたことについて、復活の日に必ずかれらの間を裁かれる。(120-124)

英知と良い訓戒によって、あなたの主の道へと呼びかけなさい。そして最も良い仕方でかれらと議論しなさい。あなたの主は、かれの道から迷った者を最もよく知り、導かれた者たちを最もよく知っておられる。もしあなたがたが報復するなら、自分が受けたのと同じ程度に報復しなさい。だが耐え忍ぶなら、それは耐え忍ぶ者たちにとって確かに最も良い。耐え忍びなさい--あなたの忍耐は、ただアッラーの助けによる--かれらのことで悲しんではならない。かれらのたくらみに心を悩ませてもならない。アッラーは、かれを畏れる者たち、善を行う者たちと共におられる。(125-128)

17. 夜の旅 (Al-Isrāʾ)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

そのしもべを、夜の間に、聖なるマスジドから、われらがその周りを祝福した最も遠いマスジドまで旅させられた御方に栄光あれ。われらのしるしのいくつかをかれに見せるためであった。かれこそ全聴にして、すべてを見ておられる御方である。われらはムーサーに啓典を授け、それをイスラエルの子孫への導きとした。「わたしのほかに、すべてを委ねる者を持ってはならない。われらがヌーフと共に舟に乗せた者たちの子孫よ。かれはまことに感謝するしもべであった。」 (1-3)

われらは啓典の中で、イスラエルの子孫に定めた。「あなたがたは二度、この地に腐敗を広め、大いに高ぶるであろう。」二つの約束のうちの最初のものが実現したとき、われらは、非常に力の強いわれらのしもべたちを、あなたがたに対して遣わした。かれらはあなたがたの家々を荒らし回った。それは果たされた約束であった。それからわれらは、かれらに対する勝ち運を再びあなたがたに戻し、財産と息子たちであなたがたを助け、あなたがたの人数を多くした。われらは言った。「あなたがたが善を行うなら、自分自身のために善を行うのであり、悪を行うなら、それも自分自身に降りかかる。」それから二度目の約束が実現したとき、われらは別の者たちを遣わした。あなたがたの顔を曇らせ、最初に入ったときのように神殿に入り、手に落ちたものをことごとく打ち壊すためである。あなたがたの主は、あなたがたに慈悲をかけてくださるかもしれない。だがあなたがたが戻るなら、われらも戻る。われらは地獄を、真理を否定する者たちの牢獄とした。 (4-8)

まことにこのクルアーンは、最も正しい道へと導き、善行に励む信者たちに、大きな報奨が待っているという吉報を伝える。また来世を信じない者たちのために、われらが痛ましい懲罰を用意したことを伝える。人間は、良いことを祈り求めるように、悪いことを祈り求める。人間はまことに性急である。われらは夜と昼を二つのしるしとした。われらは夜のしるしを暗くし、昼のしるしを明るくした。あなたがたが主からの恵みを求め、年の数と時の数え方を知るためである。われらはすべてのことを詳しく説き明かした。われらは、どの人間にも、その運命をその首に結びつけた。復活の日、われらはその者のために、広げられた一冊の書を取り出す。「あなたの書を読みなさい。今日は、あなた自身が、自分を清算する者として十分である。」 (9-14)

導かれる者は、ただ自分自身のために導かれるのであり、迷う者は、ただ自分の損失を招いて迷うのである。重荷を負う者は、ほかの者の重荷を負うことはない。われらは、使徒を遣わすまでは決して罰しない。われらが一つの町を滅ぼそうとするとき、われらはその町のぜいたくに暮らす者たちに命じる。するとかれらはそこで背きの行いをする。こうしてその町に対する言葉が当然のものとなり、われらはそれを跡形もなく滅ぼす。ヌーフの後、われらはどれほど多くの世代を滅ぼしたことか。そのしもべたちの罪を知り、見ておられる御方としては、あなたの主で十分である。このつかの間の現世を望む者には―われらは、望む者に、われらが望むものを、そこで急いで与える。それからわれらは、その者のために地獄を定める。かれは、辱められ、退けられて、そこで焼かれる。だが来世を望み、信者であって、それにふさわしく努力する者―かれらの努力こそ報いられる。われらは、そのどちらにも―これらの者にも、あの者たちにも―あなたの主の賜物を惜しみなく与える。あなたの主の賜物は、だれにも閉ざされてはいない。見なさい、われらがどのように、かれらのある者をほかの者よりも恵んだかを。だが来世は、位階においても恩恵においても、さらに大きい。 (15-21)

アッラーと並べて別の神を立ててはならない。さもないと、あなたは辱められ、見捨てられて座り込むことになる。あなたの主は定められた。あなたがたは、かれのほかは何ものも崇めてはならない。また両親に良くしなさい。両親の一方、あるいは両方が、あなたのもとで老齢に達したなら、かれらに「ちぇっ」とも言ってはならない。かれらを突き放してもならない。敬意のこもった言葉でかれらに語りかけなさい。慈しみの心から、へりくだりの翼をかれらの上に低く垂れなさい。そして言いなさい。「主よ、わたしが幼かったころ、二人がわたしを育ててくれたように、二人に慈悲をおかけください。」あなたがたの主は、あなたがたの心の中にあることを最もよく知っておられる。あなたがたが正しい者であるなら、かれは、繰り返しかれに立ち帰る者たちを確かによく赦される。近親には、その当然の分を与えなさい。貧しい者にも、旅人にも。だがむやみに浪費してはならない。浪費する者たちは悪魔たちの兄弟である。悪魔は、その主に対して恩を忘れる者であった。だがあなたが、望みをかけている主からの慈悲を待ちながら、かれらに背を向けざるをえないときには、かれらに優しい言葉をかけなさい。あなたの手を首に縛りつけておいてはならない。またそれをいっぱいに広げきってもならない。さもないと、あなたは非難され、何もかも失って座り込むことになる。あなたの主は、お望みの者

に糧を豊かに与え、またほどよく量って与えられる。かれは確かに、そのしもべたちを知り、見ておられる。 (22-30)

貧しさを恐れて、あなたがたの子どもを殺してはならない。われらが、かれらにもあなたがたにも糧を授ける。かれらを殺すことは、確かに大きな罪である。姦通に近づいてはならない。それは醜行であり、悪い道である。アッラーが神聖なものとされた命を、正当な理由なく奪ってはならない。だれかが不当に殺されたなら、われらはその相続人に権限を与えた。だがかれは、殺すことにおいて度を越してはならない。かれはすでに助けを得ているのである。孤児の財産には、かれが成年に達するまで、最も良い方法によるのでなければ近づいてはならない。約束を果たしなさい。約束については、必ず問われる。量るときには升目を十分に満たし、正しいはかりで量りなさい。それがより良く、結末も最もすぐれている。あなたに知識のないことを追い求めてはならない。聴覚も視覚も心も―そのすべてについて問われる。高慢に地上を歩いてはならない。あなたは大地を裂くこともできず、山々の高さに達することもできない。これらすべての悪は、あなたの主の御目に忌まわしい。 (31-38)

（預言者よ）これは、あなたの主があなたに啓示された英知の一部である。アッラーと並べて別の神を立ててはならない。さもないと、あなたは非難され、退けられて、地獄に投げ込まれる。あなたがたの主は、あなたがたには息子たちを選んで授け、ご自分には天使たちの中から娘たちを取られたのか。あなたがたは確かに、とんでもないことを言っている。 (39-40)

われらはこのクルアーンの中で、さまざまに物事を説き明かした。かれらが心に留めるように。だがそれは、かれらの嫌悪を増すばかりである。（預言者よ）言え、「もしかれらの言うように、かれのほかに別の神々がいたなら、それらは必ず、玉座の主に挑む道を求めたであろう。」かれに栄光あれ。かれは、かれらの言うことをはるかに超えて高く、計り知れないほど高くおられる。七つの天と大地と、その中にあるすべてのものは、かれを讃える。かれを讃美して讃えないものは何一つない。だがあなたがたは、それらの讃美を理解しない。かれはまことに寛容で、よく赦される御方である。[18] (41-44)

[18] わたしたちの宇宙の秩序は、唯一神信仰、すなわちただ一つの神の意志があることを物語っています。
神の唯一性の構造：クルアーンの唯一神信仰についての科学的・哲学的・神学的注釈―栄光あるクルアーンと科学

あなたがクルアーンを読誦するとき、われらは、あなたと来世を信じない者たちとの間に、目に見えない隔てを置く。またかれらがそれを理解しないように、その心に覆いをかけ、その耳を聞こえにくくする。あなたがクルアーンの中で、あなたの主だけの御名を唱えると、かれらは嫌って背を向ける。われらは、かれらがあなたに耳を傾けるとき、何のために聞いているかをよく知っている。またかれらがひそかに語り合い、不正を行う者たちが「あなたがたは、魔術にかけられた男に従っているにすぎない」と言うときのことも。見なさい、かれらがあなたをどのようにたとえるかを。かれらは迷い、道を見いだせない。かれらは言う。「わたしたちが骨とちりになった後で、本当に新しい被造物としてよみがえらされるのか。」言え、「石にでも鉄にでもなるがよい。あるいはあなたがたの心の中で、よみがえらせることがもっと難しいと思うどんな被造物にでも。」するとかれらは言うであろう。「だれがわたしたちを元に戻すのか。」言え、「最初にあなたがたを創られた御方である。」するとかれらはあなたに向かって頭を振り、「それはいつのことか」と言うであろう。言え、「それは近いかもしれない—その日、かれがあなたがたを呼ばれると、あなたがたはかれを讃えながら応える。そして自分たちは、ほんのわずかの間しかとどまらなかったと思うであろう。」 (45-52)

わたしのしもべたちに告げなさい。最も良い言葉を語るように、と。悪魔はかれらの間に不和をまく。悪魔は人間にとって公然の敵である。あなたがたの主は、あなたがたを最もよく知っておられる。かれはお望みなら、あなたがたに慈悲をかけ、お望みなら、あなたがたを罰される。（預言者よ）われらはあなたを、かれらの後見人として遣わしたのではない。あなたの主は、天と地にいるすべての者を最もよく知っておられる。われらは、預言者たちのある者をほかの者よりも優れたものとし、ダーウードには詩篇を授けた。言え、「あなたがたが、かれをさしおいて神だと言い張るものたちに祈ってみなさい。それらには、あなたがたから害を取り除く力も、それを変える力もない。」かれらが祈り求めているものたち自身が、主に近づく手だてを求めている—だれが最も近いかと競いながら—そしてかれの慈悲を望み、かれの懲罰を恐れている。あなたの主の懲罰は、まことに用心すべきものである。復活の日の前に、われらが滅ぼさず、あるいは厳しい懲罰で罰しない町は一つもない。それは啓典の中に書き記されている。 (53-58)

神の唯一性、宇宙の秩序、創造の文法：クルアーン 21:22、23:91、17:41-44 についての科学的・哲学的・神学的注釈—栄光あるクルアーンと科学

われらがしるしを送ることを妨げているのは、ただ昔の人々がそれを偽りとしたことだけである。われらはサムードに、目に見えるしるしとして雌らくだを授けたが、かれらはそれに不正を行った。われらがしるしを送るのは、ただ恐れを抱かせるためである。（預言者よ）われらはあなたに、あなたの主はすべての人々を取り囲んでおられると告げた。われらがあなたに見せた光景も、クルアーンの中で呪われた木も、ただ人々への試練としたのである。われらはかれらに警告する。だがそれは、かれらのはなはだしい反逆を増すばかりである。 (59-60)

われらが天使たちに「アーダムにひれ伏しなさい」と言ったとき、かれらはひれ伏した―イブリースだけは別であった。かれは言った。「あなたが粘土から創られた者に、わたしがひれ伏すのですか。」かれは言った。「あなたがわたしよりも重んじられたこの者をご覧ください。もしあなたが復活の日までわたしに猶予を与えてくださるなら、わたしは必ず、わずかな者を除いて、かれの子孫を思うままに従わせます。」かれは言われた。「行け。かれらのうちであなたに従う者があれば―地獄があなたがたへの報いであり、十分な報いである。あなたの声でかれらのうち動かせる者を動かし、あなたの騎兵と歩兵でかれらに襲いかかり、財産と子どもたちにおいてかれらと分け合い、かれらに約束するがよい」―だが悪魔がかれらに約束するものは、惑わしにすぎない。「わたしのしもべたちに対しては、あなたは何の力も持たない。すべてを委ねるべき御方としては、あなたの主で十分である。」 (61-65)

あなたがたの主は、あなたがたがかれの恵みを求めるように、あなたがたのために海で船を進ませられる御方である。かれはまことに、あなたがたに慈愛深い御方である。海で害があなたがたに触れると、あなたがたが祈り求めるものは、かれのほかはみな姿を消す。ところがかれがあなたがたを無事に陸に着かせられると、あなたがたは背を向ける。人間はまことに恩を忘れる。あなたがたは、かれが陸の一角であなたがたを呑み込ませ、あるいは石の嵐をあなたがたの上に送られることはないと、安心しているのか。そのときあなたがたは、自分のために、すべてを委ねられる者を見いだせない。それともあなたがたは、かれがあなたがたをもう一度海に戻し、すべてを打ち砕く暴風をあなたがたに送り、恩を忘れたことのゆえにあなたがたを溺れさせられることはないと、安心しているのか。そのときあなたがたは、自分のために、われらに対して償いを求めてくれる者を見いだせない。われらは確かにアーダムの子孫を重んじ、陸と海でかれらを運び、良いものを糧として授け、われらが創った多くのものよりも、かれらを大いに優れたものとした。 (66-70)

われらがすべての人々を、その導師と共に呼び出す日、自分の書を右手に与えられる者―これらの者は自分の書を読み、なつめやしの種の筋一本ほども不当に扱われることはない。だがこの世で目の見えなかった者は、来世でも目が見えず、道からさらに遠く迷う。かれらは、われらがあなたに啓示したものからあなたを誘い出し、あなたがそれとは別のことを、われらについてでっち上げるようにさせるところであった。そうなれば、かれらはあなたを親しい友としたであろう。もしわれらがあなたを堅く立たせなかったなら、あなたは少しかれらに傾いたかもしれない。そのときわれらは、生においても二倍、死においても二倍の懲罰をあなたに味わわせ、あなたは、われらに対する援助者を見いだせなかったであろう。またかれらは、あなたを脅かしてこの地から追い出そうとするところであった。だがそうなれば、かれらもあなたの後に、ほんのわずかの間しかとどまれなかったであろう―これは、われらがあなた以前に遣わした使徒たちについての、われらの慣行である。あなたは、われらの慣行に何の変更も見いだせない。 (71-77)

太陽が傾くときから夜の闇が訪れるまで、礼拝を守りなさい。また夜明けの読誦を守りなさい。まことに夜明けの読誦には、立ち会う者がある。また夜の一部には眠りから起きて、あなた自身の余分のささげ物として、それによって礼拝しなさい。あなたの主は、あなたを讃えられる地位に上らせてくださるであろう。言え、「主よ、真実のうちにわたしを入らせ、真実のうちにわたしを出させてください。あなたのもとから、わたしに助けとなる権威をお授けください。」また言え、「真理は訪れ、偽りは消え去った。まことに偽りは、消え去る定めにある。」 (78-81)

われらはクルアーンの中で、信者たちへの癒やしと慈悲となるものを下す。だがそれは、不正を行う者たちには損失を増すばかりである。われらが人間に恵みを授けると、かれは背を向けて遠ざかる。だが災いがかれに触れると、かれは絶望する。言え、「だれもが自分の性分に従って行う。あなたがたの主は、だれが最も正しく道に導かれているかを最もよく知っておられる。」 (82-84)

（預言者よ）かれらは霊についてあなたに尋ねる。言え、「霊は、わたしの主の命令に属する。あなたがたには、ほんのわずかな知識しか授けられていない。」われらが望めば、われらがあなたに啓示したものを取り去ることも確かにできる。そのときあなたは、それについて、われらに対してあなたのために弁じる者を見いだせない―ただあなたの主からの慈悲による場合は別である。あなたへのかれの恵みは、まことに大きい。言え、「たとえ人間とジンがみな集まって、このクルアーンと同

じようなものをもたらそうとしても、互いに助け合ったとしても、それと同じようなものをもたらすことはできない。」われらはこのクルアーンの中で、人々のためにあらゆる種類のたとえを示した。それなのに人々の多くは、否定のほかはすべてを拒む。かれらは言う。「わたしたちは、あなたがわたしたちのために大地から泉をわき出させるまでは、あなたを信じない。あるいはあなたがなつめやしとぶどうの園を持ち、その中に川を豊かにわき出させるまでは。あるいはあなたが言い張るように、空をばらばらにしてわたしたちの上に落とすまでは。あるいはアッラーと天使たちを、わたしたちの目の前に連れて来るまでは。あるいはあなたが黄金の家を持つか、空に昇るまでは―しかも、わたしたちの読める書をわたしたちのもとに下ろして来るまでは、あなたが昇ったことも信じない。」言え、「わたしの主に栄光あれ。わたしは、使徒である一人の人間のほかに何であろうか。」導きが届いたとき、人々が信仰することを妨げたのは、ただかれらが「アッラーは人間を使徒として遣わされたのか」と言ったことだけである。言え、「もし地上に、落ち着いて歩き回る天使たちがいたなら、われらは空から、使徒として天使をかれらのもとに下したであろう。」言え、「わたしとあなたがたとの間の証人としては、アッラーで十分である。かれは確かに、そのしもべたちを知り、見ておられる。」 (85-96)

アッラーが導かれる者は、まことに導かれた者である。かれが迷うにまかせられる者―あなたはかれらのために、かれのほかに守護者を見いだせない。われらは復活の日に、目も見えず、物も言えず、耳も聞こえないかれらを、うつ伏せのままに集める。かれらの住みかは地獄である。その火が衰えるたびに、われらはかれらのために炎を増し加える。それがかれらへの報いである。かれらがわれらのしるしを否定し、「わたしたちが骨とちりになった後で、本当に新しい被造物としてよみがえらされるのか」と言ったからである。かれらは、天と地を創られたアッラーが、かれらと同じようなものを創ることがおできになることを見ないのか。かれは、疑いの余地のない期限をかれらに定められた。それなのに不正を行う者たちは、否定のほかはすべてを拒む。言え、「たとえあなたがたが、わたしの主の慈悲の宝庫を持っていたとしても、使い果たすことを恐れて、それを出し惜しむであろう。人間はまことに物惜しみする。」 (97-100)

われらはムーサーに九つの明らかなしるしを授けた―イスラエルの子孫に尋ねなさい。かれがかれらのもとに来たとき、フィルアウンはかれに言った。「ムーサーよ、わたしは、おまえが魔術にかけられているのだと思う。」かれは言った。「あなたはよく知っているはずだ。目を開かせる明証としてこれらを下されたのは、天と地

の主のほかにはない。フィルアウンよ、わたしは、あなたが破滅する者だと思う。」そこでかれは、かれらをその地から追い払おうと決めた。だがわれらは、かれと、かれと共にいた者たちをみな溺れさせた。かれの後で、われらはイスラエルの子孫に言った。「この地に住みなさい。来世の約束が訪れるとき、われらは、あなたがたをみな入り交じった群れとして連れて来る。」 (101-104)

われらは真理をもってそれを下し、それは真理をもって下った。われらがあなたを遣わしたのは、ただ吉報を伝える者、警告する者としてである。それは、あなたが間を置いて人々に読み聞かせるように、われらがいくつもの部分に分けたクルアーンである。われらはそれを、段階を追って下した。言え、「それを信じても、信じなくてもよい。」それ以前に知識を授けられた者たちは、それが読み聞かされると、顔を地につけてひれ伏し、言う。「わたしたちの主に栄光あれ。わたしたちの主の約束は、確かに果たされた。」かれらは泣きながら顔を地につけてひれ伏す。それはかれらのへりくだりを増す。言え、「アッラーと呼んで祈っても、慈悲あまねき御方と呼んで祈ってもよい。どの名で祈っても、最も美しい名はかれのものである。」あなたの礼拝では、声を高くしすぎてはならない。低くしすぎてもならない。その中ほどの道を求めなさい。また言え、「すべての讃美はアッラーのもの。かれは子をもうけず、その王権に同位者はなく、弱さのゆえに守護者を必要とされることもない。」そしてかれの偉大さを、繰り返したたえなさい。 (105-111)

18. 洞窟 (Al-Kahf)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

すべての讃美はアッラーのもの。かれはそのしもべに啓典を下し、その中に少しのゆがみも置かれなかった―それは寸分の狂いもなくまっすぐであり、かれのもとからの厳しい懲罰について警告し、善行に励む信者たちに、良い報奨が待っているという吉報を伝えるためである。かれらは永遠にその中にとどまる。また「アッラーは子をもうけられた」と言う者たちに警告するためである。かれらにはそれについて何の知識もなく、かれらの父祖たちにもなかった。かれらの口から出るその言葉は、何と途方もないことか。かれらは偽りのほか何も語っていない。（預言者よ）もしかれらがこの言葉を信じないなら、あなたはかれらの後を追って、悲しみのあまり身を滅ぼしてしまうかもしれない。 (1-6)

われらは、地上にあるものをその飾りとした。かれらのうちでだれの行いが最も優れているかを試みるためである。そしてわれらは必ず、その上にあるすべてのものを、草木のない荒れ地にする。それともあなたは、洞窟と碑文の仲間たちが、われらのしるしの中でも不思議なものであったと思うのか。その若者たちが洞窟に逃れたとき、かれらは言った。「わたしたちの主よ、あなたのもとから慈悲をお授けください。わたしたちの事において、正しい導きを整えてください。」そこでわれらは、何年もの間、洞窟の中でかれらの耳をふさいだ。それからわれらはかれらを目覚めさせた。二つの集団のうち、どちらがかれらのとどまった期間をよりよく数えられるかを知るためである。 (7-12)

われらは、かれらの物語を真実のままにあなたに語り聞かせる。かれらは主を信じた若者たちであり、われらはかれらの導きを増し加えた。かれらが立ち上がってこう言ったとき、われらはかれらの心を強めた。「わたしたちの主は、天と地の主である。わたしたちは、かれのほかにどんな神にも決して祈らない。もしそうしたなら、わたしたちはとんでもないことを口にしたことになる。このわたしたちの民は、かれをさしおいて神々を立てた。なぜかれらは、それらについて明らかな権威を持って来ないのか。アッラーについて偽りをでっち上げる者よりも不正な者がだれかあろうか。あなたがたが、かれらと、かれらがアッラーをさしおいて崇めるものから離れた今は、洞窟に逃れなさい。あなたがたの主は、その慈悲をあなたがたの上に広げ、あなたがたの事において、楽な道を整えてくださる。」 (13-16)

あなたは、太陽が昇るときには、かれらの洞窟から右のほうにそれ、沈むときには、かれらを左に避けて通り過ぎるのを見たであろう。かれらはその中の広い場所に横たわっていた。それはアッラーのしるしの一つである。アッラーが導かれる者は、まことに導かれた者である。かれが迷うにまかせられる者―あなたはその者のために、導いてくれる守護者を見いだせない。あなたは、かれらが眠っているのに、目を覚ましていると思ったであろう。われらはかれらを、右に左に寝返りを打たせた。かれらの犬は、入り口で前足を伸ばしていた。もしあなたがかれらに出くわしたなら、かれらへの恐怖に満たされ、背を向けて逃げ出したであろう。 (17-18)

このようにわれらは、かれらを目覚めさせた。かれらが互いに尋ね合うためである。その一人が言った。「あなたがたは、どれほどとどまっていたのか。」かれらは言った。「わたしたちは一日か、一日の一部分とどまっていた。」かれらは言った。「あなたがたがどれほどとどまっていたかは、あなたがたの主が最もよく知っておられる。あなたがたのこの銀貨を持たせて、一人を町に遣わしなさい。かれに、どの食べ物が最も清いかを見させ、そこからいくらかの糧をあなたがたのもとに持って来させなさい。かれは慎重に振る舞い、あなたがたのことをだれにも気づかせてはならない。もしかれらがあなたがたのことを知ったなら、あなたがたを石で打ち殺すか、かれらの宗教に無理に引き戻すであろう。そうなれば、あなたがたは決して成功しない。」このようにわれらは、かれらのことを人々に知らせた。人々が、アッラーの約束が真実であること、その時については疑いの余地がないことを知るためである。人々がかれらの事について互いに言い争っていたとき、ある者たちは言った。「かれらの上に建物を建てなさい。かれらのことは、かれらの主が最もよく知っておられる。」かれらの事について力を持っていた者たちは言った。「わたしたちは必ず、かれらの上に礼拝の場を建てよう。」ある者たちは「三人で、四番目はかれらの犬だ」と言い、ある者たちは「五人で、六番目はかれらの犬だ」と言うであろう--目に見えないことを当て推量しているのである。またある者たちは「七人で、八番目はかれらの犬だ」と言うであろう。言え、「かれらの数は、わたしの主が最もよく知っておられる。わずかな者のほかは、かれらのことを知らない。」だからはっきりしていること以外は、かれらについて議論してはならない。またかれらについて、あの者たちのだれにも意見を求めてはならない。どんなことについても、「アッラーがお望みなら」と付け加えずに、「わたしは明日それをする」と言ってはならない。忘れたときには、あなたの主を念じて言いなさい。「わたしの主は、これよりもさらに正しい道に近いものへと、わたしを導いてくださる

であろう。」かれらは洞窟の中に三百年とどまり、さらに九年を加えた。言え、「かれらがどれほどとどまっていたかは、アッラーが最もよく知っておられる。天と地の目に見えないことは、かれのものである。かれは何とよく見ておられ、何とよく聞いておられることか。かれらには、かれのほかに守護者はない。かれは、その支配にだれをも加えられない。」 (19-26)

あなたの主の啓典の中から、あなたに啓示されたものを読誦しなさい。かれの言葉を変えられる者はない。あなたは、かれのほかに逃げ場を見いだせない。主の御顔を求めて朝な夕なにかれに祈る者たちと共に、あなた自身を辛抱強くとどめなさい。現世の生活の華やかさを望んで、あなたの目をかれらからそらせてはならない。われらが、われらを念じることに無頓着にさせた心の持ち主、自分の欲望に従い、その事がまったく度を越している者に従ってはならない。言え、「真理はあなたがたの主からのものである。だから望む者は信じ、望む者は否定するがよい。」われらは、不正を行う者たちのために業火を用意した。その火の幕がかれらを取り囲む。かれらが助けを求めて叫ぶと、顔を焼く、溶けた金属のような水で助けられる。何と悪い飲み物、何と悪い休み場であろう。信仰して善行に励む者たちについては―われらは、善い行いをする者の報奨を無駄にしない。かれらには、尽きることのない至福の楽園があり、その下を川が流れる。そこでかれらは黄金の腕輪で飾られ、薄い絹と厚い錦の緑の衣をまとい、高い寝いすにもたれる。何とすばらしい報奨、何と良い休み場であろう。 (27-31)

かれらに、二人の男のたとえを示しなさい。われらはその一人のために、二つのぶどうの園を設け、なつめやしでその周りを囲み、その間に畑を置いた。二つの園は、どちらも実りをもたらし、少しも欠けることがなかった。われらは、その間に川をわき出させた。かれには豊かな実りがあった。かれは仲間と語り合いながら、その仲間に言った。「わたしは、あなたよりも財産が多く、人手も強い。」かれは、自分自身に不正を行いながら自分の園に入り、言った。「わたしは、これがいつか滅びるとは思わない。その時が来るとも思わない。たとえわたしが主のもとに連れ戻されても、わたしは必ず、これよりも良いものを代わりに見いだすであろう。」仲間は、かれと語り合いながら、かれに言った。「あなたは、あなたを土から、それから一滴の液から創り、それからあなたを一人の男に形づくられた御方を否定するのか。だがわたしにとっては、かれこそアッラー、わたしの主である。わたしは、わたしの主にだれをも並べない。あなたが自分の園に入ったとき、こう言えばよかったのに。これはアッラーが望まれたことである。アッラーによるのでなければ、

何の力もない、と。たとえあなたの目に、わたしが財産も子どもたちもあなたより少ないと見えても、わたしの主は、あなたの園よりも良いものをわたしに授けてくださるかもしれない。そしてあなたの園の上に、空から災いを送り、それをすべすべの裸の土地にしてしまわれるかもしれない。あるいはその水が地中深く沈み、あなたが決してそれを探し出せなくなるかもしれない。」そしてかれの実りは、すっかり滅びに包まれた。園は棚の上に崩れ落ち、かれは、それに費やしたすべてのものを思って両手をもみ始め、言った。「ああ、わたしの主にだれも並べなければよかったのに。」かれには、アッラーのほかにかれを助ける仲間はなく、かれは自分自身を助けることもできなかった。そこでは、守護はただ真実の御方アッラーにのみ属する。かれは報奨において最も優れ、結末においても最も優れた御方である。(32-44)

かれらに、現世の生活のたとえを示しなさい。それは、われらが空から降らせる水のようである。大地の植物はそれと入り交じって茂るが、やがて風が吹き散らす乾いた切れ端となる。アッラーは万事に全能である。財産と子どもたちは、現世の生活の飾りである。だがいつまでも残る善い行いは、あなたの主のもとで、報奨においてより良く、望みにおいてもより良い。われらが山々を動かし、あなたが大地のむき出しになるのを見る日、われらはかれらをみな集め、そのだれ一人も残さない。かれらは列をなして、あなたの主の御前に並べられる。「今やあなたがたは、われらが最初にあなたがたを創ったときのように、われらのもとに来た。あなたがたは、われらがあなたがたのために会見の時を定めることはないと言い張っていたのに。」そして書が置かれる。あなたは、罪を犯した者たちが、その中にあるものを恐れおののくのを見る。かれらは言う。「ああ情けない。これは何という書であろう。小さなことも大きなことも何一つ漏らさず、数え上げているとは。」かれらは、自分の行ったすべてのことを、目の前に見いだす。あなたの主は、だれにも不正を行われない。(45-49)

われらが天使たちに「アーダムにひれ伏しなさい」と言ったとき、かれらはひれ伏した―イブリースだけは別であった。かれはジンの一人であり、主の命令に背いた。それなのにあなたがたは、わたしをさしおいて、かれとその子孫を守護者とするのか。かれらはあなたがたの敵であるのに。不正を行う者たちにとって、それは何と悪い取り替えであろう。わたしは、天と地の創造にも、かれら自身の創造にも、かれらを立ち会わせなかった。わたしは、迷わせる者たちを助け手とすることもない。かれが「あなたがたが、わたしの同位者だと言い張っていたものたちを呼びなさい」

と言われる日、かれらはそれらを呼ぶが、それらはかれらに応えない。われらは、かれらの間に滅びの場を置く。罪を犯した者たちは業火を見て、自分たちがそこに落ちようとしていることを悟る。かれらは、それを逃れる道を見いだせない。 (50-53)

われらはこのクルアーンの中で、人々のためにあらゆる種類のたとえを示した。だが人間は、何にもまして言い争いを好む。導きが届いたとき、人々が信仰し、主の赦しを請うことを妨げているのは、ただ昔の人々の先例が自分たちに臨むのを、あるいは懲罰が目の前に臨むのを待っていることだけである。われらが使徒たちを遣わすのは、ただ吉報を伝える者、警告する者としてである。だが真理を否定する者たちは、真理を打ち負かそうとして偽りによって言い争い、わたしのしるしと、かれらに与えられた警告を、あざけりの種にする。主のしるしによって戒められたのに、それから背を向け、自分の手が先に送ったものを忘れる者よりも不正な者がだれかあろうか。われらは、かれらがそれを理解しないように、その心に覆いをかけ、その耳を聞こえにくくした。たとえあなたがかれらを導きへと呼んでも、かれらは決して導かれない。あなたの主はよく赦し、慈悲の持ち主である。もしかれが、かれらの稼いだもののためにかれらを責められるなら、かれらのために懲罰を急がれたであろう。だがかれらには定められた時があり、かれらはそれを逃れる場所を見いだせない。あれらの町々――われらは、かれらが不正を行ったとき、それを滅ぼした。われらは、その滅びのために定めの時を設けたのである。 (54-59)

ムーサーは従者に言った。「わたしは、二つの海の出会う所に着くまでは、決してあきらめない。たとえ長い年月を旅し続けても。」二人が二つの海の出会う所に着いたとき、かれらは自分たちの魚のことを忘れた。魚は海の中に道を取り、するりと去って行った。二人がそこを通り過ぎたとき、かれは従者に言った。「朝の食事を持って来なさい。わたしたちは、この旅で確かに疲れを覚えた。」従者は言った。「ご覧になりましたか。わたしたちが岩のところで休んだとき、わたしは魚のことを忘れてしまいました――それを話すのを忘れさせたのは、悪魔にほかなりません――魚は不思議な仕方で、海の中に道を取ったのです。」かれは言った。「それこそ、わたしたちが求めていたものだ。」そこで二人は、自分の足跡をたどって引き返した。そして、われらのしもべの一人を見いだした。われらは、われらのもとからの慈悲をかれに授け、われら自身のもとから知識を教えていた。ムーサーはかれに言った。「あなたが教えられた正しい導きの一部をわたしに教えていただけるように、あなたについて行ってもよいでしょうか。」かれは言った。「あなたは決して、わ

たしと共にいて辛抱することはできないであろう。あなたの理解の及ばないことについて、どうして辛抱できようか。」ムーサーは言った。「アッラーがお望みなら、あなたはわたしが辛抱強い者であることを見いだすでしょう。わたしは、何事においてもあなたに背きません。」かれは言った。「それなら、もしわたしについて来るなら、わたし自身があなたにそれについて語るまでは、何事についてもわたしに尋ねてはならない。」 (60-70)

こうして二人は出発した。やがて二人が舟に乗ると、かれはそれに穴をあけた。ムーサーは言った。「あなたは、乗っている人々を溺れさせるために穴をあけたのですか。あなたは確かに恐ろしいことをなさいました。」かれは言った。「あなたは決して、わたしと共にいて辛抱することはできないと、わたしは言わなかったか。」ムーサーは言った。「わたしが忘れたことを責めないでください。わたしの事で、わたしにつらく当たらないでください。」それから二人は進んで行った。やがて一人の少年に出会うと、かれはその少年を殺した。ムーサーは言った。「あなたは、だれの命も奪っていない、罪のない人を殺したのですか。あなたは確かにひどいことをなさいました。」かれは言った。「あなたは決して、わたしと共にいて辛抱することはできないと、わたしはあなたに言わなかったか。」ムーサーは言った。「この後でわたしが何かについてあなたに尋ねたなら、もうわたしを連れとしないでください。あなたは、わたしの側から十分な言い分を得られたのです。」それから二人は進んで行った。やがてある町の人々のところに着くと、二人はその住民に食べ物を求めた。だがかれらは、二人をもてなすことを拒んだ。二人はそこで、今にも倒れそうな壁を見つけた。かれはそれをまっすぐに立て直した。ムーサーは言った。「あなたがお望みなら、それについて報酬を取ることもできましたのに。」かれは言った。「これが、わたしとあなたとの別れである。あなたが辛抱できなかったことの意味を、あなたに告げよう。あの舟は、海で働く貧しい人々のものであった。わたしはそれを傷つけようと思った。かれらの行く手に、あらゆる舟を力ずくで奪い取る王がいたからである。あの少年については、その両親は信者であった。わたしたちは、かれが反逆と否定によって両親を苦しめることを恐れた。そこでわたしたちは、主がかれの代わりに、もっと清らかで、もっと情け深い子を二人に授けてくださることを願った。あの壁は、町にいる二人の孤児の少年のものであった。その下には、二人のものである宝があった。二人の父は正しい人であった。そこであなたの主は、二人が成年に達して、自分の宝を取り出すことを望まれた。あなた

の主からの慈悲としてである。わたしは、自分の考えでそれを行ったのではない。これが、あなたが辛抱できなかったことの意味である。」 (71-82)

（預言者よ）かれらはズルカルナインについてあなたに尋ねる。言え、「わたしはかれの物語のいくらかを、あなたがたに読み聞かせよう。」われらは、かれを地上に確かな地位に就かせ、あらゆるものへの道を授けた。そこでかれは一つの道をたどった。やがて太陽の沈む所に着くと、かれは、それが泥の濁った泉に沈むのを見た。またその近くに一つの民を見いだした。われらは言った。「ズルカルナインよ、かれらを罰するか、それともかれらを親切に扱うかである。」かれは言った。「不正を行う者は、わたしたちが罰する。それからその者は主のもとに帰され、主はひどい懲罰でその者を罰される。だが信仰して善を行う者には、最も良い報奨がある。わたしたちはその者に、わたしたちの命令を優しい言葉で告げよう。」それからかれは、また一つの道をたどった。やがて太陽の昇る所に着くと、かれは、それが一つの民の上に昇るのを見た。われらは、その民のために、それをさえぎる覆いを何も設けていなかった。そのとおりであった。われらは、かれのもとにあったすべてのことを、知識で包み尽くしていた。 (83-91)

それからかれは、また一つの道をたどった。やがて二つの山の壁の間に着くと、かれはそのそばに、ほとんど言葉の通じない一つの民を見いだした。かれらは言った。「ズルカルナインよ、ヤアジュージュとマアジュージュが、この地に腐敗を広めています。あなたがわたしたちとかれらとの間に防壁を築いてくださるという条件で、わたしたちはあなたに貢ぎ物を納めましょうか。」かれは言った。「わたしの主がわたしに授けられたもののほうが良い。だから力を貸してわたしを助けなさい。わたしは、あなたがたとかれらとの間に堅固な壁を築こう。鉄の塊をわたしのもとに持って来なさい。」やがてかれが二つの崖の間の透き間を埋めて平らにすると、かれは言った。「吹きなさい。」そしてそれを火のように真っ赤にすると、かれは言った。「溶かした銅をわたしのもとに持って来なさい。その上に注ごう。」こうしてかれらは、それをよじ登ることも、それに穴をあけることもできなくなった。かれは言った。「これはわたしの主からの慈悲である。だがわたしの主の約束が訪れるとき、かれはそれを平らにならされる。わたしの主の約束は、常に真実である。」その日われらは、かれらを波のように互いにぶつかり合わせる。そしてラッパが吹き鳴らされ、われらはかれらをみな一緒に集める。その日われらは、真理を否定した者たちの前に、地獄をはっきりと示す。かれらは、その目がわたしを念じることから覆いをかけられ、聞くことに耐えられなかった者たちである。真理を否定する

者たちは、わたしをさしおいて、わたしのしもべたちを守護者とすることができると思うのか。われらは、真理を否定する者たちの宿として、地獄を用意した。 (92-102)

言え、「行いにおいて最も大きな損失を被る者がだれであるかを、あなたがたに知らせようか。それは、現世の生活での努力が迷い去ったのに、自分では良い仕事をしていると思っている者たちである。」かれらは、主のしるしと、かれとの会見を否定した者たちである。だからかれらの行いは無に帰し、復活の日、われらはかれらのために何の重みも認めない。それがかれらへの報い―地獄―である。かれらが真理を否定し、わたしのしるしとわたしの使徒たちを、あざけりの種にしたからである。だが信仰して善行に励む者たちには、宿としてフィルダウスの楽園がある。かれらは永遠にそこに住み、そこから移ることを決して望まない。 (103-108)

言え、「たとえ海が、わたしの主の御言葉を記すための墨であったとしても、わたしの主の御言葉が尽きる前に、海のほうが尽きてしまうであろう。たとえわれらが、それと同じだけのものを補うために持って来たとしても。」[19] (109)

言え、「わたしは、あなたがたと同じ人間にすぎない。わたしには、あなたがたの神は唯一の神であると啓示されている。だから主との会見を望む者は、善い行いをし、主を崇めることにおいて、だれをも並べてはならない。」 (110)

[19] この重要な節は、包括的な科学的・哲学的注釈を示すために、わたしがこれから時間をかけて注釈として加えていくすべてのリンクによって、最もよく説明することができます。インシャーアッラー。それまでの間は、わたしのブログの注目記事をすべてご覧ください：注目記事―栄光あるクルアーンと科学。

19. マルヤム (Maryam)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

カーフ・ハー・ヤー・アイン・サード。 (1)

これは、あなたの主が、そのしもべザカリーヤーに施された慈悲の物語である。かれがひそかな声で主に呼びかけたとき、かれは言った。「主よ、わたしの骨はすっかり弱り、頭は白髪で燃え立つようです。主よ、わたしはあなたに祈って、報われなかったことは一度もありません。わたしは、わたしの後の親族たちのことが気がかりです。わたしの妻は子を産めない体です。どうかあなたのもとから、わたしに跡継ぎをお授けください。かれがわたしの後を継ぎ、ヤアクーブの家の後を継ぐように。主よ、かれを、あなたのお気に召す者としてください。」「ザカリーヤーよ、われらはあなたに、ヤヒヤーという名の男の子の吉報を伝える。われらは、かれ以前には、その名をだれにも授けなかった。」かれは言った。「主よ、どうしてわたしに男の子がありえましょう。妻は子を産めない体で、わたしは老いの極みに達しておりますのに。」かれは言われた。「そのとおりになる。」あなたの主は言われる。「それはわたしにとって易しいことである。わたしは以前、あなたが何ものでもなかったとき、あなたを創った。」 (2-9)

かれは言った。「主よ、わたしにしるしをお示しください。」かれは言われた。「あなたのしるしは、あなたが健やかであるのに、三夜の間、人々に語りかけないことである。」そこでかれは、聖所から自分の民の前に出て来て、朝な夕なにアッラーを讃えるよう、かれらに身ぶりで示した。 (10-11)

「ヤヒヤーよ、啓典をしっかりと守りなさい。」われらは、まだ幼いうちにかれに英知を授け、われらのもとからの優しさと清らかさを授けた。かれはアッラーを畏れる者であり、両親に孝行を尽くし、横暴でも反抗的でもなかった。かれが生まれた日にも、死ぬ日にも、生きてよみがえらされる日にも、かれの上に平安あれ。 (12-15)

またこの啓典の中で、マルヤムのことを語りなさい。かの女が家族から離れて東のほうのある場所に引きこもり、かれらから身を隠すために幕を垂らしたとき、われらはわれらの霊をかの女のもとに遣わした。それは、均整のとれた一人の男の姿でかの女の前に現れた。かの女は言った。「わたしは、あなたからの加護を、慈悲あまねき御方に求めます―もしあなたがアッラーを畏れる人であるなら。」かれは言

った。「わたしは、清らかな男の子をあなたに授けるために遣わされた、あなたの主の使いにすぎない。」かの女は言った。「どうしてわたしに男の子がありえましょう。どの男もわたしに触れたことがなく、わたしは不貞な女でもありませんのに。」かれは言った。「そのとおりになる。」あなたの主は言われる。「それはわたしにとって易しいことである。それは、われらがかれを人々へのしるしとし、われらからの慈悲とするためである。それは、すでに定められた事である。」こうしてかの女はかれを身ごもり、かれを宿したまま遠い所に引きこもった。やがて産みの苦しみが、かの女をなつめやしの幹のもとへと追いやった。かの女は言った。「ああ、この前に死んでしまい、忘れ去られ、すっかり忘れられたものになっていたならよかったのに。」すると、かの女の下のほうから呼びかける声があった。「悲しんではならない。あなたの主は、あなたの下に小川を設けられた。なつめやしの幹を、あなたのほうへ揺さぶりなさい。熟したみずみずしい実が、あなたの上に落ちて来る。だから食べ、飲み、心を安らかにしなさい。もしだれか人を見かけたなら、こう言いなさい。わたしは慈悲あまねき御方に断食を誓いました。だから今日は、だれとも話しません、と。」 (16-26)

それからかの女は、その子を抱いて自分の民のもとに連れて来た。かれらは言った。「マルヤムよ、あなたは確かに、とんでもないことをしでかした。ハールーンの姉妹よ、あなたの父は悪い人ではなかったし、あなたの母も不貞な女ではなかった。」かの女はその子を指さした。かれらは言った。「ゆりかごの中の赤子に、どうしてわたしたちが話しかけられようか。」その子は言った。「わたしはアッラーのしもべです。かれはわたしに啓典を授け、わたしを預言者とされました。またわたしがどこにいても、わたしを祝福された者とし、わたしが生きている限り、礼拝と定めの喜捨をわたしに命じられました。また母に孝行を尽くす者とし、わたしを横暴な者にも不幸な者にもされませんでした。わたしが生まれた日にも、死ぬ日にも、生きてよみがえらされる日にも、わたしの上に平安あれ。」これがマルヤムの子イーサーである。かれらが疑っていることについての、真実の言葉である。子をもうけることは、アッラーにはありえない―かれに栄光あれ。かれが事を定められるとき、ただそれに「あれ」と言われるだけで、それはある。イーサーは言った。「アッラーはわたしの主であり、あなたがたの主でもある。だからかれを崇めなさい。これがまっすぐな道である。」だが諸派は互いに意見を異にした。重大な日に立ち会うとき、真理を否定する者たちに災いあれ。かれらがわれらのもとに来る日、かれらは何とよく聞き、何とよく見ることか。だが今日、不正を行う者たちは明らかな迷

いの中にいる。悔恨の日について、かれらに警告しなさい。そのとき事は決せられる。それなのにかれらは無頓着で、信じない。大地と、その上にいるすべての者を受け継ぐのはわれらである。かれらはわれらのもとに帰される。 (27-40)

またこの啓典の中で、イブラーヒームのことを語りなさい。かれは誠実な人であり、預言者であった。かれが父に言ったとき。「お父さん、聞くことも見ることもできず、何の役にも立たないものを、なぜ崇めるのですか。お父さん、あなたには届かなかった知識が、わたしには届きました。だからわたしに従ってください。わたしがあなたを正しい道に導きます。お父さん、悪魔を崇めないでください。悪魔は、慈悲あまねき御方に背く者です。お父さん、わたしは、慈悲あまねき御方からの懲罰があなたに触れ、あなたが悪魔の仲間となることを恐れます。」父は言った。「イブラーヒームよ、おまえはわたしの神々を嫌うのか。もしやめないなら、わたしは必ずおまえを石で打つ。長い間、わたしから離れておれ。」かれは言った。「あなたに平安がありますように。わたしは、あなたのために主の赦しを請いましょう。かれはいつもわたしに恵み深くあられました。わたしは、あなたがたと、あなたがたがアッラーをさしおいて祈り求めるものから離れ、わたしの主に祈ります。わたしの主に祈って、報われないことはないでしょう。」かれが、かれらと、かれらがアッラーをさしおいて崇めていたものから離れたとき、われらはかれにイスハークとヤアクーブを授け、そのそれぞれを預言者とした。われらは、われらの慈悲をかれらに授け、高く真実な名声をかれらに与えた。 (41-50)

またこの啓典の中で、ムーサーのことを語りなさい。かれは選ばれた者であり、使徒であり、預言者であった。われらは山の右側からかれに呼びかけ、親しく語り合うためにかれを近づけた。またわれらは、慈悲によって、兄弟ハールーンを預言者としてかれに授けた。またこの啓典の中で、イスマーイールのことを語りなさい。かれは約束に誠実な者であり、使徒であり、預言者であった。かれは自分の民に礼拝と定めの喜捨を命じ、主のお気に召す者であった。またこの啓典の中で、イドリースのことを語りなさい。かれは誠実な人であり、預言者であった。われらは、かれを高い地位に上らせた。 (51-57)

これらの者は、預言者たちの中で、アッラーが恵みを授けられた者たちである。アーダムの子孫の中から、われらがヌーフと共に舟に乗せた者たちの中から、イブラーヒームとイスラエルの子孫の中から、またわれらが導き、選んだ者たちの中から出た者たちである。慈悲あまねき御方のしるしが読み聞かされると、かれらは泣き

ながらひれ伏して倒れた。だがかれらの後に、礼拝をおろそかにし、欲望に従う後継ぎたちが続いた。だからかれらは、やがて破滅に出会う―ただし悔い改め、信仰し、善を行う者たちは別である。これらの者は楽園に入り、少しも不当に扱われることはない―それは、慈悲あまねき御方が、目に見えないうちにそのしもべたちに約束された、尽きることのない至福の楽園である。かれの約束は必ず果たされる。そこでかれらは、無駄な言葉を聞くことはなく、ただ「平安あれ」という言葉だけを聞く。そこでかれらには、朝な夕なに糧がある。それが、われらが、われらのしもべたちの中でアッラーを畏れた者に受け継がせる楽園である。 (58-63)

天使たちは言う。「わたしたちは、ただあなたの主の命令によってのみ下る。わたしたちの前にあるものも、後ろにあるものも、その間にあるすべてのものも、かれのものである。あなたの主は、決して忘れることがない―かれは天と地、そしてその間にあるすべてのものの主である。だからかれを崇め、かれを崇めることに耐え忍びなさい。あなたは、かれと同じ名を持つ者をだれか知っているか。」 (64-65)

人間は言う。「わたしが死んだ後で、本当に生きて出されるのか。」人間は、以前かれが何ものでもなかったとき、われらがかれを創ったことを思い出さないのか。あなたの主にかけて、われらは必ず、かれらを悪魔たちと共に集める。それからわれらは、かれらをひざまずかせて、地獄の周りに連れて来る。それからわれらは、どの集団からも、慈悲あまねき御方に対して最も横柄であった者たちを引き出す。そしてわれらは、そこで焼かれるのに最もふさわしい者たちを、確かに最もよく知っている。あなたがたのうちで、その上を通らない者は一人もいない。それは、あなたの主の、定まった確かな定めである。それからわれらは、アッラーを畏れた者たちを救い、不正を行う者たちを、ひざまずかせたままそこに残す。 (66-72)

われらの明らかなしるしがかれらに読み聞かされると、真理を否定する者たちは信仰する者たちに言う。「二つの集団のうち、どちらが地位において優れ、仲間の集まりにおいて立派であるか。」われらは、かれら以前に、どれほど多くの世代を滅ぼしたことか。その者たちのほうが、財産も見ばえもすぐれていたのに。言え、「迷いの中にいる者には、慈悲あまねき御方がその期間を引き延ばされるがよい。やがてかれらが、約束されていたもの―懲罰か、あるいはその時―を見るとき、だれの地位がより悪く、だれの軍勢がより弱いかを知るであろう。」アッラーは、導かれた者たちの導きを増し加えられる。いつまでも残る善い行いは、あなたの主のもとで、報奨においてより良く、結末においてもより良い。あなたは、われらのし

るしを否定して、「わたしは必ず財産と子どもたちを授けられる」と言う者を見たか。かれは目に見えないことをのぞき見たのか。それとも慈悲あまねき御方から約束を取りつけたのか。決してそうではない。われらは、かれの言うことを書き留め、かれのために懲罰を長く引き延ばす。かれの語っているものは、われらがかれから受け継ぐ。かれは、ただ一人でわれらのもとに来る。 (73-80)

かれらは、自分たちの力の源となるように、アッラーをさしおいて神々を立てた。決してそうではない。それらはかれらの崇拝を否認し、かれらの敵となる。あなたは、われらが真理を否定する者たちに対して悪魔たちを遣わし、かれらをしきりにそそのかさせているのを見ないのか。だからかれらのことで急いではならない。われらは、かれらの日数を数えているのである。われらが、アッラーを畏れる者たちを、栄誉ある使節団として慈悲あまねき御方の御前に集め、罪を犯した者たちを、のどの渇いた家畜の群れのように地獄へ追い立てる日、慈悲あまねき御方と約束を結んだ者のほかは、だれも執り成す力を持たない。かれらは「慈悲あまねき御方は子をもうけられた」と言う。あなたがたは確かに、途方もないことを言い立てた。そのために天は裂けんばかりとなり、大地は割れ、山々は崩れ落ちんばかりである。かれらが、慈悲あまねき御方に子があると言い立てたからである。子をもうけることは、慈悲あまねき御方にはふさわしくない。天と地にいる者で、しもべとして慈悲あまねき御方の御前に来ない者は一人もいない。かれは、かれらを数え上げ、正確に数え尽くしておられる。かれらのだれもが、復活の日に、ただ一人でかれのもとに来る。 (81-95)

信仰して善行に励む者たちには、慈悲あまねき御方が愛を授けられる。（預言者よ）われらがそれをあなたの言葉で易しくしたのは、ただあなたがそれによって、アッラーを畏れる者たちに吉報を伝え、言い争いを好む民に警告するためである。われらは、かれら以前に、どれほど多くの世代を滅ぼしたことか。あなたは、その中のだれか一人でも見かけるか。あるいはかれらのかすかなささやきでも聞こえるか。 (96-98)

20. ター・ハー (Ṭā Hā)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ター・ハー。 (1)

（預言者よ）われらがあなたにクルアーンを下したのは、あなたを苦しめるためではない。ただアッラーを畏れ敬う者への訓戒としてである。それは、大地と高い天を創られた御方からの啓示である。慈悲あまねき御方は、玉座に君臨しておられる。天にあるもの、地にあるもの、その間にあるもの、そして土の下にあるものは、すべてかれのものである。あなたが声高に語っても語らなくても、かれは秘密も、さらに深く隠されたことも知っておられる。アッラー―かれのほかに神はない。最も美しい名はかれのものである。 (2-8)

ムーサーの物語は、あなたに届いたか。かれが火を見て、家族に言ったとき。「ここにとどまっていなさい。わたしは火を見つけた。そこから燃えさしを持って来られるかもしれないし、火のところで道しるべを見いだせるかもしれない。」かれがそこに着くと、呼びかける声があった。「ムーサーよ、わたしはあなたの主である。あなたの履物を脱ぎなさい。あなたは聖なる谷トゥワーにいる。わたしはあなたを選んだ。だから啓示されることに耳を傾けなさい。わたしはアッラーである。わたしのほかに神はない。だからわたしを崇め、わたしを念じるために礼拝を守りなさい。その時は必ず来る―わたしはそれをほとんど隠している―だれもが、その努めたことに応じて報いられるためである。だから、それを信じず、自分の欲望に従う者が、あなたをそれから背かせることのないようにしなさい。さもないと、あなたは滅びる。 (9-16)

ムーサーよ、あなたの右手にあるそれは何か。」かれは言った。「これはわたしの杖です。わたしはこれにもたれ、これで羊のために木の葉を打ち落とします。ほかにもいろいろな使い道があります。」かれは言われた。「ムーサーよ、それを投げなさい。」そこでかれがそれを投げると―見よ、それは蛇となって、するすると動いた。かれは言われた。「それをつかみなさい。恐れてはならない。われらはそれを元の姿に戻す。またあなたの手をわきに引き寄せなさい。それは何の害もなく、白くなって出て来る―これはもう一つのしるしである。われらの最も大きなしるしのいくつかを、あなたに見せるためである。フィルアウンのもとに行きなさい。かれはあらゆる限度を越えた。」かれは言った。「主よ、わたしのために胸を開き、

わたしの務めを易しくしてください。わたしの舌のもつれを解いてください。かれらがわたしの言葉を理解するように。またわたしの家族の中から、わたしに助け手を立ててください—わたしの兄弟ハールーンを。かれによってわたしを強め、かれをわたしの務めにあずからせてください。わたしたちがあなたを多く讃え、あなたを多く念じるように。あなたはいつもわたしたちを見ておられます。」 (17-35)

かれは言われた。「ムーサーよ、あなたの願いは聞き届けられた。われらは以前にも、もう一度あなたに恵みを施した。われらがあなたの母に、啓示すべきことを啓示したときである。かれを箱の中に入れ、それを川に投げ入れなさい。川がそれを岸に打ち上げ、わたしの敵であり、かれの敵でもある者が、かれを拾い上げる、と。そしてわたしは、わたしからの愛情をあなたの上に注いだ。あなたがわたしの目の前で育てられるためであった。あなたの姉が歩いて行って、こう言ったとき。かれの世話をする者を、あなたがたに教えましょうか、と。こうしてわれらは、あなたを母のもとに帰した。母の目が喜びに安らぎ、悲しまないようにするためである。またあなたは一人の人を殺したが、われらはあなたを苦悩から救い、多くの試練であなたを試みた。それからあなたは、何年もの間マドヤンの人々の中にとどまった。それからムーサーよ、あなたは定めに従ってここに来た。わたしは、わたし自身のためにあなたを選んだ。あなたとあなたの兄弟は、わたしのしるしを携えて行きなさい。わたしを念じることを怠ってはならない。二人ともフィルアウンのもとに行きなさい。かれはあらゆる限度を越えた。かれには穏やかな言葉で語りなさい。かれが心に留めるか、あるいは畏れを抱くかもしれない。」 (36-44)

二人は言った。「わたしたちの主よ、わたしたちは、かれがわたしたちに性急に振る舞い、あるいは限度を越えることを恐れます。」かれは言われた。「恐れてはならない。わたしはあなたがた二人と共にいる。わたしは聞き、また見ている。かれのもとに行って、こう言いなさい。わたしたちは、あなたの主の二人の使徒である。だからイスラエルの子孫をわたしたちと共に行かせなさい。かれらを苦しめてはならない。わたしたちは、あなたの主からのしるしを携えて、あなたのもとに来た。導きに従う者の上に平安あれ。偽りとして背を向ける者の上に懲罰が下ると、わたしたちに啓示された、と。」 (45-48)

フィルアウンは言った。「ムーサーよ、それでは、おまえたち二人の主とはだれか。」かれは言った。「わたしたちの主は、すべてのものにその形を授け、それから導かれた御方である。」かれは言った。「それなら、昔の諸世代はどうなのか。」

かれは言った。「かれらについての知識は、わたしの主のもとの一冊の書の中にある。わたしの主は、誤ることも忘れることもない。かれこそは、あなたがたのために大地を寝床とし、そこにあなたがたのための道を通し、空から水を降らせられた御方である。」われらはそれによって、さまざまな種類の植物を対にして生じさせた。食べなさい。そしてあなたがたの家畜を放ちなさい。まことにその中には、分別ある者たちへのしるしがある。われらはそこからあなたがたを創り、そこへあなたがたを帰し、そこからもう一度あなたがたを出す。 (49-55)

われらは、われらのしるしをすべてかれに見せた。だがかれはそれを偽りとし、拒んだ。かれは言った。「ムーサーよ、おまえは、おまえの魔術でわれわれをわれわれの土地から追い出すために来たのか。それなら、われわれも必ず、それと同じような魔術をおまえに持って来よう。だからわれわれとおまえとの間に、会う時を決めよ。われわれもおまえも、それをたがえてはならない。場所は、どちらにも公平な所とする。」かれは言った。「あなたがたとの約束の時は、祭りの日とし、人々を日の高く昇るころに集めなさい。」 (56-59)

そこでフィルアウンは引き下がり、策略を集めて、やって来た。ムーサーはかれらに言った。「あなたがたに災いあれ。アッラーについて偽りをでっち上げてはならない。さもないと、かれは懲罰であなたがたを根こそぎにされる。偽りをでっち上げる者は、すでに失敗しているのである。」そこでかれらは、自分たちの事について互いに言い争い、ひそかに相談した。かれらは言った。「この二人は確かに魔術師であり、自分たちの魔術であなたがたをあなたがたの土地から追い出し、あなたがたの模範的な生き方を滅ぼそうと望んでいる。だからあなたがたの策略を一つにまとめ、列を組んで進み出なさい。今日、優位に立つ者こそ、確かに成功する。」かれらは言った。「ムーサーよ、あなたが投げるか、それともわたしたちが最初に投げるか。」かれは言った。「いや、あなたがたが投げなさい。」するとたちまち、かれらの縄と杖は、その魔術のために、するすると動いているようにかれには見えた。そこでムーサーは、心の中に恐れを覚えた。われらは言った。「恐れてはならない。勝つのは確かにあなたである。あなたの右手にあるものを投げなさい。それは、かれらがこしらえたものを呑み込む。かれらがこしらえたものは、魔術師のたくらみにすぎない。魔術師は、どこへ行っても成功しない。」 (60-69)

こうして魔術師たちは、ひれ伏して身を投げ出し、言った。「わたしたちは、ハールーンとムーサーの主を信じます。」フィルアウンは言った。「わたしが許す前に、

おまえたちはかれを信じたのか。かれは、おまえたちに魔術を教えた頭目に違いない。わたしは必ずおまえたちの手足を互い違いに切り落とし、なつめやしの幹におまえたちをはりつけにする。そうすればおまえたちは、われわれのどちらの懲罰がより厳しく、より長く続くかを、確かに知るであろう。」かれらは言った。「わたしたちは、わたしたちに届いた明らかな証拠よりも、またわたしたちを創られた御方よりも、あなたを選ぶことは決してありません。だからあなたの定めたいことを定めなさい。あなたが定められるのは、この現世の生活のことだけです。わたしたちは主を信じました。かれが、わたしたちの罪と、あなたがわたしたちに無理に行わせた魔術を赦してくださるように。アッラーこそ、より良く、いつまでもおられる御方です。」 (70-73)

罪を犯した者として主のもとに来る者―その者には地獄があり、そこで死ぬことも生きることもない。だが善行に励んだ信者としてかれのもとに来る者―これらの者には最も高い位階がある。それは、川が下を流れる、尽きることのない至福の楽園であり、かれらは永遠にそこに住む。それが、身を清めた者への報奨である。 (74-76)

われらはムーサーに啓示した。「わたしのしもべたちを連れて、夜のうちに出発しなさい。かれらのために、海の中に乾いた道を打ち開きなさい。追いつかれることを恐れず、おびえてもならない。」フィルアウンは、軍勢を率いてかれらを追った。だが海は、かれらをすっかり覆い尽くした。フィルアウンは自分の民を迷わせ、導かなかった。 (77-79)

イスラエルの子孫よ、われらはあなたがたを敵から救い、山の右側であなたがたと約束を交わし、マンナとうずらをあなたがたに下した。「われらが授けた良いものを食べなさい。だがそのことで限度を越えてはならない。さもないと、わたしの怒りがあなたがたの上に下る。わたしの怒りが下った者は、確かに滅びる。だがわたしは、悔い改め、信仰し、善を行い、それから正しい道を歩み続ける者を、確かによく赦す。」 (80-82)

「ムーサーよ、何があなたを、あなたの民よりも先に急がせたのか。」かれは言った。「かれらは、わたしのすぐ後に続いております。主よ、あなたにご満足いただけるように、わたしはあなたのもとに急ぎました。」かれは言われた。「われらは、あなたのいない間に、あなたの民を試みた。サーミリーがかれらを迷わせた。」そこでムーサーは、怒り、悲しんで、その民のもとに戻った。かれは言った。「わが

民よ、あなたがたの主は、あなたがたに良い約束をされたではないか。約束の時が、あなたがたにはあまりに長く思えたのか。それとも主からの怒りが自分たちの上に下ることを望んで、わたしとの約束を破ったのか。」かれらは言った。「わたしたちは、自分の意志であなたとの約束を破ったのではありません。わたしたちは、あの民の装身具の重荷を負わされていたので、それを火の中に投げ込みました。サーミリーも同じように投げ込んだのです。」それからかれは、かれらのために、うなり声を出す体をした子牛を取り出した。するとかれらは言った。「これがあなたがたの神であり、ムーサーの神である。だがかれは忘れてしまったのだ。」かれらは、それが自分たちに一言も言葉を返さず、害も益も与える力がないのを見なかったのか。ハールーンは、すでに以前からかれらに言っていた。「わが民よ、あなたがたは、これによって試みられているだけである。まことにあなたがたの主は、慈悲あまねき御方である。だからわたしに従い、わたしの命令に従いなさい。」かれらは言った。「ムーサーがわたしたちのもとに帰って来るまで、わたしたちはこれに仕え続ける。」 (83-91)

ムーサーは言った。「ハールーンよ、かれらが迷って行くのを見たとき、何があなたを、わたしに従うことから妨げたのか。あなたはわたしの命令に背いたのか。」かれは言った。「わたしの母の子よ、わたしのあごひげや頭をつかまないでください。わたしは、あなたがこう言うことを恐れたのです。あなたはイスラエルの子孫を分裂させ、わたしの言葉を守らなかった、と。」ムーサーは言った。「サーミリーよ、あなたの言い分は何か。」かれは言った。「わたしは、かれらに見えなかったものを見ました。それで使いの足跡からひと握りの土を取り、それを投げ入れたのです。わたしの心が、そうするようわたしをそそのかしました。」ムーサーは言った。「去れ。おまえは一生の間、わたしに触れるな、と言い続けることになる。またおまえには、破られることのない約束がある。さあ、おまえが仕え続けていたおまえの神を見よ。われらは必ずそれを焼き、それからちりにして海にまき散らす。あなたがたの神は、アッラーにほかならない。かれのほかに神はない。かれは、その知識ですべてのものを包んでおられる。」 (92-98)

（預言者よ）このようにわれらは、以前に過ぎ去ったことの知らせのいくらかを、あなたに語り聞かせる。われらは、われら自身のもとから、あなたに訓戒を授けた。それから背を向ける者は、復活の日に重荷を負い、永遠にその下にとどまる―復活の日、かれらにとってそれは何と悪い荷であろう。その日ラッパが吹き鳴らされ、われらは、目のかすんだ罪人たちを集める。かれらは互いにささやき合う。「あな

たがたは、ほんの十日とどまっただけだ。」われらは、かれらの言うことを最もよく知っている。そのとき、かれらの中で最も模範的な生き方をした者が言う。「あなたがたは、ほんの一日とどまっただけだ。」 (99-104)

かれらは山々についてあなたに尋ねる。言え、「わたしの主は、それらを粉々に吹き飛ばし、平らな野原として残される。あなたはそこに、曲がったところも起伏も見ることがない。」その日かれらは、呼び出す者に従う。かれからそれることはできない。慈悲あまねき御方の御前で声は静まり、あなたはかすかなささやきのほか何も聞かない。その日、慈悲あまねき御方が許し、その言葉をお認めになった者のほかは、執り成しは何の役にも立たない。かれは、かれらの前にあることも後ろにあることも知っておられる。だがかれらは、その知識でかれをとらえ尽くすことはできない。すべての顔は、永遠に生き、自ら存在される御方の前にへりくだる。不正の重荷を負う者は、すでに失敗したのである。だが信者であって善行に励む者は、不当に扱われることも、取り分を減らされることも恐れない。このようにわれらは、それをアラビア語のクルアーンとして下し、その中で警告をさまざまに説き明かした。かれらがアッラーを畏れる者となるように、あるいはそれがかれらに思い起こす心を呼び覚ますように。真の王であるアッラーは、いと高くおられる。あなたへの啓示が全うされる前に、クルアーンを急いではならない。そして言え、「主よ、わたしの知識を増してください。」われらは以前、アーダムと約束を交わした。だがかれは忘れた。われらは、かれに固い決意を見いださなかった。われらが天使たちに「アーダムにひれ伏しなさい」と言ったとき、かれらはひれ伏した―イブリースだけは別であり、かれは拒んだ。そこでわれらは言った。「アーダムよ、これは、あなたとあなたの妻の敵である。かれに、あなたがた二人を楽園から追い出させてはならない。さもないと、あなたは苦しむことになる。そこでは、あなたは飢えることも、裸になることもない。そこでは渇くことも、日に焼かれることもない。」だが悪魔はかれにささやいて言った。「アーダムよ、永遠の木と、朽ちることのない王国を、あなたに教えようか。」こうして二人はその木から食べた。すると二人の恥ずかしいところがあらわになり、二人は楽園の木の葉をつづり合わせて、身を覆い始めた。アーダムは主に背き、道を誤った。それから主はかれを選び、慈悲をもってかれを顧み、導かれた。かれは言われた。「二人とも、みな一緒にここから下りて行きなさい。あなたがたは互いに敵である。やがてわたしからあなたがたに導きが届いたとき、わたしの導きに従う者は、迷うことも、不幸になることもない。だがわたしを念じることから背を向ける者には、窮屈な生活があり、復活の日、わ

れらはその者を、目の見えない者としてよみがえらせる。」かれは言う。「主よ、なぜあなたは、わたしを目の見えない者としてよみがえらせられたのですか。わたしは、以前は見えておりましたのに。」かれは言われる。「そのとおりである。われらのしるしがあなたに届いたのに、あなたはそれを忘れた。同じように、今日、あなたは忘れられる。」度を越し、主のしるしを信じない者に、われらはこのように報いる。来世の懲罰は、確かにより厳しく、より長く続く。かれら以前にわれらがどれほど多くの世代を滅ぼしたかが、かれらを導かなかったのか。かれらは今、その者たちの住まいの跡を歩いている。まことにその中には、分別ある者たちへのしるしがある。 (105-128)

もしあなたの主からの先立つ言葉と、定められた期限がなかったなら、懲罰は避けられないものとなっていたであろう。だからかれらの言うことに耐え忍び、太陽が昇る前と沈む前に、あなたの主を讃美して讃えなさい。また夜の時刻にも、昼の両端にも、かれを讃えなさい。あなたが満ち足りるように。われらがかれらの一部に楽しませているもの、現世の生活の華やかさに、目を凝らしてはならない。われらは、それによってかれらを試みているのである。あなたの主の糧のほうが、より良く、いつまでも残る。あなたの家族に礼拝を命じ、あなた自身もそれに耐えて励みなさい。われらは、あなたに糧を求めない。あなたに糧を授けるのはわれらである。良い結末は、アッラーを畏れる心のものである。 (129-132)

かれらは言う。「なぜかれは、主からのしるしをわたしたちに持って来ないのか。」以前の諸啓典の中にあったことの明らかな証拠が、かれらに届いたではないか。もしわれらが、これ以前に懲罰でかれらを滅ぼしていたなら、かれらは言ったであろう。「わたしたちの主よ、わたしたちに使徒を遣わしてくださっていたなら、卑しめられ、辱められる前に、あなたのしるしに従いましたのに。」言え、「だれもがみな待っている。だからあなたがたも待ちなさい。だれが正しい道の人々であり、だれが導かれた者であるかを、あなたがたはやがて知るであろう。」 (133-135)

21. 預言者たち (Al-Anbiyā')

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

人々の清算は近づいた。それなのにかれらは、無頓着に背を向けている。主からの新しい訓戒が届くたびに、かれらは必ず、戯れながらそれを聞く。その心はうわの空である。不正を行う者たちは、ひそかにささやき合う。「これは、あなたがたと同じ人間にすぎないではないか。それなのにあなたがたは、目を開けたまま魔術に近づくのか。」かれは言った。「わたしの主は、天と地で語られるすべての言葉を知っておられる。かれは全聴にして全知の御方である。」いや、かれらは言う。「取りとめのない夢だ。」いや、「かれがでっち上げたのだ。」いや、「かれは詩人だ。昔の使徒たちが遣わされたときのように、かれもわたしたちにしるしを持って来るがよい。」かれら以前にわれらが滅ぼした町は、一つとして信じなかった。それなのに、この者たちが信じるであろうか。（預言者よ）われらがあなた以前に遣わしたのも、われらが啓示を授けた男たちにほかならなかった―もしあなたがたが知らないなら、訓戒を持つ人々に尋ねなさい―われらは、食べ物を必要としない体をかれらに与えず、かれらは不死でもなかった。それからわれらは、かれらへの約束を果たした。われらは、かれらと、われらが望んだ者たちを救い、あらゆる限度を越えた者たちを滅ぼした。 (1-9)

今やわれらは、あなたがたへの訓戒を収めた啓典を、あなたがたに下した。あなたがたは理性を働かせないのか。われらは、不正にふけっていた町を、どれほど多く打ち砕き、その後に別の民を興したことか。かれらはわれらの懲らしめを感じ取ると、そこから走って逃げ出した。「走って逃げてはならない。あなたがたが楽しんでいたぜいたくと、あなたがたの住まいに戻りなさい。あなたがたは問われるかもしれない。」かれらは言った。「ああ情けない。わたしたちは確かに不正を行う者でした。」かれらのその叫びは、われらがかれらを、刈り取られて動かなくなった切り株のようにするまで、やまなかった。 (10-15)

われらは、天と地、そしてその間にあるすべてのものを、戯れに創ったのではない。もしわれらが慰みごとを持とうと望んだなら、われらのもとにあるものの中から、それを取ったであろう―もしわれらがそのようなことをするとしたら。いや、われらは真理を偽りに投げつける。すると真理はその頭を打ち砕き、偽りはたちまち消え去る。あなたがたがアッラーについて言い立てることのゆえに、あなたがたに災いあれ。天と地にいるすべての者は、かれのものである。かれのおそば近くにいる

者たちは、かれを崇めることに高慢ではなく、疲れることもない。かれらは夜も昼もかれを讃え、決して怠らない。 (16-20)

それともかれらは、死者をよみがえらせることのできる神々を、大地から取り上げたのか。もし天と地に、アッラーのほかに別の神々がいたなら、その両方は確かに乱れ滅びていたであろう。玉座の主アッラーは、かれらの言い立てることをはるかに超えて、讃えられるべき御方である。[20]かれは、ご自分の行われることについて問われることはない。だがかれらは問われる。それともかれらは、かれをさしおいて神々を立てたのか。言え、「あなたがたの証拠を持って来なさい。これは、わたしと共にいる者たちへの訓戒であり、わたし以前の者たちへの訓戒である。」だがかれらの多くは真理を知らず、そのために背を向ける。われらがあなた以前に遣わしたどの使徒にも、必ずこう啓示した。「わたしのほかに神はない。だからわたしを崇めなさい。」かれらは「慈悲あまねき御方は子をもうけられた」と言う。かれに栄光あれ。いや、かれらは栄誉を授けられたしもべである。かれらは、かれが語られる前に語ることはなく、かれの命令によって行う。かれは、かれらの前にあることも後ろにあることも知っておられる。かれらは、かれが満足された者のためにしか執り成さず、かれを畏れておののいている。もしかれらのだれかが「わたしは、かれのほかの神である」と言うなら、われらはその者に地獄で報いる。このようにわれらは、不正を行う者たちに報いる。 (21-29)

真理を否定する者たちは、天と地がかつて一つに結び合わされたものであり、われらがそれを引き裂いたこと、またわれらが、生きているすべてのものを水から造ったことを見ないのか。それでもかれらは信じないのか。[21]またわれらは、大地がかれらを揺り動かさないように、その上に堅固な山々を置いた。またそこに、道としての広い通り道を設けた。かれらが道を知るためである。またわれらは、空をよく守られた屋根とした—それなのにかれらは、そのしるしから背を向ける。[22]かれこそは、

---

[20] わたしたちの宇宙の秩序は、唯一神信仰、すなわちただ一つの神の意志があることを物語っています。
神の唯一性の構造：クルアーンの唯一神信仰についての科学的・哲学的・神学的注釈—栄光あるクルアーンと科学
神の唯一性、宇宙の秩序、創造の文法：クルアーン 21:22、23:91、17:41-44 についての科学的・哲学的・神学的注釈—栄光あるクルアーンと科学

[21] 預言者ムハンマドが、この深遠な科学的事実を偶然に知ることはありえませんでした。この節は、ほかの多くの節と同じように、全知の源があることを物語っています。このことは、24:45 と 25:54 にも述べられています。

[22] 栄光あるクルアーン：「われらは天を、堅く守られた天蓋とした」

夜と昼、太陽と月を創られた御方である。そのそれぞれは、軌道の中を泳ぐように進む。[23] (30-33)

（預言者よ）われらは、あなた以前のどんな人間にも、不死を授けなかった。もしあなたが死ぬなら、かれらは永遠に生きるというのか。だれもがみな死を味わう。われらは、試練として、悪いことと良いことであなたがたを試みる。あなたがたは、われらのもとに帰される。真理を否定する者たちは、あなたを見ると、あなたをあざけりの種にするばかりである。「これが、あなたがたの神々のことをとやかく言う者か。」―しかもかれらこそ、慈悲あまねき御方について語られることを否定している。 (34-36)

人間は、性急なものとして創られた。わたしはやがて、わたしのしるしをあなたがたに見せる。だからわたしに急いで求めてはならない。かれらは言う。「あなたがたが真実を語っているのなら、この約束はいつ果たされるのか。」真理を否定する者たちが、その時のことを知っていたなら。そのときかれらは、自分の顔からも背からも業火を防ぐことができず、助けも得られない。いや、それはにわかにかれらに臨み、かれらをぼう然とさせる。かれらはそれを退けることができず、猶予も与えられない。 (37-40)

あなた以前の使徒たちもあざけられた。だがかれらをあざ笑った者たちは、自分があざけっていたまさにそのものに取り囲まれた。言え、「夜も昼も、だれが慈悲あまねき御方からあなたがたを守るのか。」それなのにかれらは、主を念じることから背を向ける。それともかれらには、われらからかれらを守る神々がいるのか。それらは自分自身を助けることもできず、われらから守られることもない。いや、われらは、この者たちとその父祖たちに、長い年月にわたって生を楽しませた。かれらは、われらがこの地に臨み、その端から次々と削り取っているのを見ないのか。それでもかれらが勝者なのか。言え、「わたしは、ただ啓示によってあなたがたに警告するだけである。」―だが耳の聞こえない者たちは、警告されても呼びかけを聞かない。それでも、あなたの主の懲罰のひと吹きでもかれらに触れたなら、かれらは必ず叫ぶであろう。「ああ情けない。わたしたちは確かに不正を行う者でした。」われらは復活の日のために、公正なはかりを据える。だれも少しも不当に扱

[23] 栄光あるクルアーン 21:30-33―科学的・神学的洞察―5 分で読む
クルアーンにおける天のしるし：霊的・科学的考察

われることはない。たとえからし種一粒の重さであっても、われらはそれを持ち出す。清算者としては、われらで十分である。 (41-47)

われらはムーサーとハールーンに、識別と、光と、アッラーを畏れる者たちへの訓戒を授けた。かれらは、目に見えない主を畏れ、その時を思っておののく者たちである。そしてこれは、われらが下した祝福に満ちた訓戒である。それでもあなたがたは、これを退けるのか。それよりずっと以前、われらはイブラーヒームに正しい導きを授けた。われらはかれをよく知っていた。かれが父とその民に「あなたがたがこれほど熱心に仕えているこれらの像は何ですか」と言ったとき、かれらは言った。「わたしたちは、父祖たちがこれらを崇めているのを見た。」かれは言った。「それなら、あなたがたも父祖たちも、明らかな迷いの中にいたのです。」かれらは言った。「あなたはわたしたちに真理を持って来たのか。それともふざけているのか。」かれは言った。「いいえ、あなたがたの主は天と地の主であり、それらを創り出された御方です。わたしはそのことを証言する者の一人です。アッラーにかけて、あなたがたが背を向けて立ち去った後で、わたしは必ずあなたがたの偶像に一計を巡らします。」そこでかれは、偶像を粉々に打ち砕いた。ただその中の最も大きいものだけは残した。人々がそれのところに戻って来るようにするためである。かれらは言った。「わたしたちの神々にこんなことをしたのはだれか。その者は確かに不正を行う者だ。」ある者たちが言った。「わたしたちは、一人の若者が神々のことをとやかく言っているのを聞いた。イブラーヒームと呼ばれている者だ。」かれらは言った。「それなら、人々の目の前にかれを連れて来なさい。人々が証人となるように。」かれらは言った。「イブラーヒームよ、わたしたちの神々にこんなことをしたのはあなたか。」かれは言った。「いいえ、それをしたのは、この中で最も大きいこれです。口がきけるものなら、かれらに尋ねてごらんなさい。」そこでかれらはわれに返って、互いに言った。「不正を行っているのは、あなたがたのほうだ。」だがすぐにまた元の考えに逆戻りした。「これらが口をきかないことは、あなたもよく知っているはずだ。」かれは言った。「それではあなたがたは、アッラーをさしおいて、少しもあなたがたの役に立たず、害を与えることもできないものを崇めるのですか。あなたがたにも、あなたがたがアッラーをさしおいて崇めるものにも、あきれ果てます。あなたがたは理性を働かせないのですか。」かれらは言った。「かれを焼き殺し、あなたがたの神々を助けなさい。何かをするつもりなら。」われらは言った。「火よ、イブラーヒームのために冷たくなり、安全なものとなれ。」かれらはかれに害を加えようとたくらんだ。だがわれらは、かれら

を最大の損失者とした。われらは、かれとルートを救い、万有のために祝福した土地へと導いた。またわれらはかれにイスハークを授け、さらに重ねての賜物としてヤアクーブを授けた。われらはそのそれぞれを正しい者とした。われらはかれらを、われらの命令によって導く導師とし、善を行い、礼拝を守り、定めの喜捨をするよう啓示した。かれらはわれらを崇める者であった。またルートには、われらは判断力と知識を授け、汚らわしい行いをしていた町からかれを救い出した。かれらは悪い民であり、背く者であった。われらはかれを、われらの慈悲の中に入れた。かれは正しい者の一人であった。 (48-75)

またヌーフを。かれはそれよりずっと以前に叫び求め、われらはかれに答えて、かれとその家族を大きな苦難から救い出した。われらは、われらのしるしを偽りとした民に対して、かれを助けた。かれらは悪い民であった。そこでわれらは、かれらをみな溺れさせた。 (76-77)

またダーウードとスライマーンを。二人が、ある人々の羊が夜の間に入り込んで荒らした畑について裁きを下したとき―われらは、かれらの裁きに立ち会っていた。われらはスライマーンにその件を理解させた。そしてそのどちらにも、判断力と知識を授けた。またわれらは、山々と鳥たちを従わせ、ダーウードと共に讃えさせた。それを行ったのはわれらである。またわれらは、あなたがたのためによろいを作る術をかれに教えた。戦いであなたがたを守るためである。それでもあなたがたは感謝するであろうか。またスライマーンには、激しく吹く風を従わせた。風はかれの命令によって、われらが祝福した土地へと吹いて行った―われらはすべてのことを知っている―また悪魔たちの中には、かれのために海にもぐり、そのほかの仕事もする者たちがいた。かれらを見張っていたのはわれらである。 (78-82)

またアイユーブを。かれが主に叫び求めたとき。「災いがわたしに触れました。あなたは慈悲深い者の中で最も慈悲深い御方です。」われらはかれに答えて、かれの上にあった災いを取り除いた。またわれらは、われらからの慈悲として、また崇める者たちへの訓戒として、かれに家族を返し、さらにそれと同じだけの者を加えて授けた。またイスマーイール、イドリース、ズルキフルを。そのそれぞれは、耐え忍ぶ者の一人であった。われらはかれらを、われらの慈悲の中に入れた。かれらは正しい者たちの中にいた。また魚の人を。かれが怒って立ち去り、われらがかれを締めつけることはないと思ったとき、かれは幾重もの暗闇の中で叫び求めた。「あなたのほかに神はありません。あなたに栄光あれ。わたしは確かに不正を行う者の

一人でした。」われらはかれに答えて、かれを苦悩から救い出した。このようにわれらは、信者たちを救い出す。またザカリーヤーを。かれが主に叫び求めたとき。「主よ、わたしを跡継ぎもなく一人のままにしないでください。もっとも、あなたは受け継ぐ者の中で最も優れた御方です。」われらはかれに答えて、ヤヒヤーを授け、かれの妻を子の産める体にした。かれらはみな、善い行いに急ぎ、望みと恐れを抱いてわれらに祈り、われらの前にへりくだる者たちであった。また自分の貞節を守った女を。われらは、われらの霊をかの女に吹き込み、かの女とその息子を万有へのしるしとした。 (83-91)

まことにあなたがたのこの共同体は、ただ一つの共同体である。わたしはあなたがたの主である。だからわたしを崇めなさい。だがかれらは、自分たちの事を互いの間でばらばらに引き裂いた。かれらはみな、われらのもとに帰って来る。信者であって善行に励む者は、その努力を無にされることはない。われらは、その者のためにそれを書き留めている。われらが滅ぼした町には、禁じられたことがある。その住民は決して帰って来ない。やがてヤアジュージュとマアジュージュが解き放たれ、かれらがあらゆる高みからなだれ下りて来て、真実の約束が近づくとき—そのとき、真理を否定した者たちの目は見開かれたままとなる。「ああ情けない。わたしたちはこのことに無頓着でした。いや、わたしたちは不正を行う者でした。」あなたがたも、あなたがたがアッラーをさしおいて崇めるものも、地獄の燃料である。あなたがたはそこに下りて行く。もしこれらが神々であったなら、そこに下りて行くことはなかったであろう。だがみな、永遠にその中にとどまる。そこでかれらはうめき、そこでは何も聞こえない。 (92-100)

だがわれらのもとから、最も良い報奨がすでに定められている者たちは、そこから遠ざけられる。かれらは、そのかすかな音さえ聞かない。かれらは、自分の心が望むものの中に、永遠にとどまる。あの最大の恐怖も、かれらを悲しませることはない。天使たちはかれらを迎える。「これが、あなたがたに約束されていた、あなたがたの日である。」その日われらは、書き物の巻物を巻くように、天を巻き上げる。われらが最初の創造を始めたように、われらはそれを繰り返す。これは、われらが自らに課した約束である。われらは必ずそれを行う。 (101-104)

われらは、訓戒の後で、詩篇の中に書き記した。大地は、わたしの正しいしもべたちが受け継ぐ、と。まことにこの中には、崇める民への伝言がある。（預言者よ）われらがあなたを遣わしたのは、ただ万有への慈悲としてである。言え、「わたし

にはただ、あなたがたの神は唯一の神であると啓示されている。それでもあなたがたは、かれに帰依しないのか。」もしかれらが背き去るなら、言え、「わたしは、あなたがたすべてに等しく伝言を告げ知らせた。あなたがたに約束されていることが近いのか遠いのか、わたしは知らない。かれは、声高に語られることも、あなたがたが隠すことも知っておられる。わたしは知らない—それはあなたがたへの試練であり、しばらくの間の楽しみであるかもしれない。」かれは言った。「主よ、真理をもって裁いてください。わたしたちの主は慈悲あまねき御方であり、あなたがたの言い立てることに対して、その助けが求められる御方である。」 (105-112)

22. 巡礼 (Al-Ḥajj)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

人々よ、あなたがたの主を畏れなさい。その時の震動は、まことに重大なことである。あなたがたがそれを見る日、乳を飲ませている女はみな、自分の乳飲み子を忘れ、身ごもっている女はみな、その荷を産み落とす。あなたは、人々が酔っているように見るであろう。だがかれらは酔っているのではない—アッラーの懲罰がそれほど厳しいのである。それでも人々の中には、知識もなくアッラーについて言い争い、反逆するあらゆる悪魔に従う者がいる。その悪魔については、こう定められている。かれを友とする者を、かれは迷わせ、燃えさかる業火の懲罰へと導く、と。(1-4)

人々よ、もしあなたがたが復活について疑っているなら、考えてみなさい。われらはあなたがたを土から創り、それから一滴の液から、それから付着するものから、それから形の整ったものも整わないものもある肉の塊から創った。あなたがたに物事を明らかにするためである。われらは、望むものを、定められた期限まで胎内にとどめる。それからわれらは、あなたがたを赤子として出し、それからあなたがたが成年に達するように成長させる。あなたがたの中には、死によって召される者もあり、最も衰えた年齢にまでとどめられ、知っていた後で何も分からなくなる者もある。またあなたは、大地が生気なく枯れているのを見る。だがわれらがその上に水を降らせると、それは動き、ふくらみ、あらゆる種類の美しい草木を生い茂らせる。それは、アッラーこそ真理であり、かれが死者を生き返らせ、万事に全能であるからである。またその時が必ず来て、それには疑いの余地がなく、アッラーが墓の中にいる者たちをよみがえらせられるからである。それでも人々の中には、知識も、導きも、光を放つ啓典もなく、アッラーについて言い争う者がいる。その者は、人々をアッラーの道から迷わせるために、高慢に身をそらせる。その者には現世で屈辱があり、復活の日には、われらはその者に、焼き尽くす懲罰を味わわせる。「これは、あなた自身の手が先に送ったもののためである。アッラーは決してそのしもべたちに不正を行われない。」 (5-10)

また人々の中には、縁ぎりぎりのところに立ってアッラーを崇める者がいる。良いことが訪れれば、それで安心するが、試練が降りかかると、元の道に逆戻りする。その者は現世も来世も失う—それこそ明らかな損失である。その者は、アッラーをさしおいて、自分に害も益も与えられないものに祈る—それこそ遠く迷い去ること

である。その者は、益よりも害のほうが近いものに祈る。それは何と悪い後ろ盾、何と悪い仲間であろう。アッラーは、信仰して善行に励む者たちを、川が下を流れる楽園に入れられる。アッラーは、望まれることを行われる。アッラーが現世でも来世でも預言者を助けられることはないと思う者は、天に向かって綱を張り、それから自分を切り離してみるがよい。そして自分の策略が、自分を怒らせているものを取り除くかどうかを見るがよい。このようにわれらは、それを明らかなしるしとして下した。アッラーは、望まれる者を導かれる。 (11-16)

信仰する者たち、ユダヤ教徒、サービア教徒、キリスト教徒、マギ教徒、そしてアッラーに同位者を並べる者たち―アッラーは復活の日に、かれらの間を裁かれる。アッラーはすべてのことの証人である。あなたは見ないのか。天にいるすべての者、地にいるすべての者がアッラーにひれ伏すのを―太陽も、月も、星々も、山々も、木々も、生き物たちも、人々の多くも。だがほかの多くの者には、懲罰が当然のものとなった。アッラーが卑しめられる者を、尊ぶことのできる者はない。アッラーは、お望みのことを行われる。これらは、自分たちの主について言い争う、敵対する二つの者たちである。真理を否定する者たちには、火の衣が裁ち切られる。その頭の上から煮えたぎる湯が注がれ、それによってその腹の中にあるものも、皮膚も溶かされる。またかれらのために、鉄のかぎ付きの棒がある。かれらが苦悩のあまりそこから出ようとするたびに、かれらはその中に押し戻される。「焼き尽くす懲罰を味わいなさい。」だがアッラーは、信仰して善行に励む者たちを、川が下を流れる楽園に入れられる。そこでかれらは、黄金の腕輪と真珠で飾られ、そこでのかれらの衣は絹である。かれらは良い言葉へと導かれ、あらゆる讃美にふさわしい御方の道へと導かれた。 (17-24)

真理を否定し、人々をアッラーの道と聖なるマスジドから妨げる者たち―われらはそこを、そこに住む者にも遠くから来る者にも等しく、すべての人々のために設けた―また不正によってそこを汚そうとする者―われらはかれらに、痛ましい懲罰を味わわせる。われらがイブラーヒームを、この館の場所に落ち着かせたときを思い起こしなさい。「わたしに何ものも並べてはならない。わたしの館を、巡り歩く者、立つ者、身をかがめひれ伏す者たちのために清めなさい。そして人々に巡礼を告げ知らせなさい。かれらは、歩いて、またあらゆるやせたらくだに乗って、あらゆる遠い山道を通ってあなたのもとに来る。自分たちへの数々の益に立ち会い、定めら

れた日々に、かれが授けられた家畜の上にアッラーの御名を唱えるためである。[24]だからそれを食べ、また困窮する者に食べさせなさい。それからかれらは、身を清める儀礼を済ませ、自分の誓いを果たし、古き館を巡り歩きなさい。」そのとおりである。アッラーの聖なる定めを尊ぶ者には、それが主のもとで、その者のためにより良い。あなたがたに読み聞かされる禁じられたものを除いて、家畜はあなたがたに許されている。だから偶像の汚れを避け、偽りの言葉を避けなさい。ひたすらアッラーに身をささげ、かれに何ものも並べてはならない。アッラーに何かを並べる者は、ちょうど空から落ちて鳥にさらわれるか、風に吹かれて遠い所に運び去られるようなものである。そのとおりである。アッラーの儀礼のしるしを尊ぶ者―それは、心の中のアッラーを畏れる思いから出る。あなたがたには、定められた時まで、犠牲の家畜に益がある。それからそれをほふる場所は、古き館の近くである。われらは、どの共同体にも儀礼を定めた。かれらが、かれの授けられた家畜の上にアッラーの御名を唱えるためである。あなたがたの神は唯一の神である。だからかれに帰依しなさい。へりくだる者たちに吉報を伝えなさい。かれらは、アッラーの御名が唱えられるとその心がおののき、身に降りかかることに耐え忍び、礼拝を守り、われらが授けたものの中から施す者たちである。 (25-35)

われらは、犠牲のらくだを、あなたがたのためにアッラーの儀礼のしるしの一つとした。それには、あなたがたにとって良いことがある。だからそれが列をなして立っているとき、その上にアッラーの御名を唱えなさい。それがわき腹を下にして倒れたなら、それを食べ、また満ち足りている者にも乞う者にも食べさせなさい。このようにわれらは、それをあなたがたに従わせた。あなたがたが感謝するように。その肉も血も、アッラーに届くのではない。かれに届くのは、あなたがたのかれを畏れる心である。このようにかれは、それをあなたがたに従わせられた。あなたがたを導いてくださったことについて、あなたがたがアッラーの偉大さをたたえるためである。[25]善を行う者たちに吉報を伝えなさい。アッラーは、信仰する者たちを守られる。アッラーは、裏切りを重ねる恩知らずをだれも愛されない。戦いを仕掛けられている者たちには、戦うことが許された。かれらが不当な扱いを受けたからである--アッラーは、確かにかれらを助ける力を持っておられる--かれらは、ただ「わたしたちの主はアッラーである」と言っただけで、正当な理由もなく自分の家から追い出された者たちである。もしアッラーが、ある人々をほかの人々によって

[24] 毎年のハッジ、すなわちマッカへの巡礼の成功は、イーサーの時代より 1800 年も前に、イブラーヒームに予告されていました。
[25] 短い章「ささやかな親切」（アル・マーウーン）のいくつかの節と併せてお読みください。

退けられなかったなら、アッラーの御名が多く唱えられる修道院も、教会も、会堂も、マスジドも、必ず打ち壊されていたであろう。アッラーは、かれを助ける者を必ず助けられる。アッラーは強く、偉力ならびない御方である。かれらは、われらがこの地に確かな地位を授ければ、礼拝を守り、定めの喜捨をし、正しいことを勧め、悪いことを禁じる者たちである。すべての事の結末は、アッラーのもとにある。(36-41)

（預言者よ）もしかれらがあなたを偽りとするなら、かれら以前にも、ヌーフの民、アード、サムード、イブラーヒームの民、ルートの民、マドヤンの人々が同じようにした。ムーサーもまた偽りとされた。わたしは、否定する者たちに猶予を与え、それからかれらを捕らえた―わたしを否んだことへの報いは、何と恐ろしかったことか。われらは、不正にふけっていた町を、どれほど多く滅ぼしたことか。それらは今、屋根も崩れ落ちて廃墟となっている。どれほど多くの井戸が打ち捨てられ、どれほど多くのそびえ立つ宮殿が見捨てられたことか。かれらは地上を旅しなかったのか。そうすれば、理解する心や、聞く耳を持てたであろうに。まことに、見えなくなるのは目ではない。胸の中にある心が見えなくなるのである。(42-46)

かれらは、懲罰を急いでもたらすよう、あなたに求める。だがアッラーは、決してその約束を破られない。あなたの主のもとでの一日は、あなたがたの数える千年のようである。[26]わたしは、不正にふけっていたどれほど多くの町に猶予を与え、それからそれを捕らえたことか。最後の帰り着く先は、わたしのもとである。(47-48)

言え、「人々よ、わたしは、あなたがたへの明らかな警告者にすぎない。」信仰して善行に励む者たちには、赦しと豊かな糧がある。だがわれらのしるしをくじこうとして、それに逆らって努める者たちは、燃えさかる業火の住人である。われらがあなた以前に遣わしたどの使徒も預言者も、かれが読誦すると、必ず悪魔がその読誦の中に何かを吹き込もうとした。だがアッラーは、悪魔が吹き込むものを取り除き、それからご自分のしるしを確かなものとされる―アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である―それは、悪魔が吹き込むものを、心に病のある者たち、心のかたくなな者たちへの試練とするためである―不正を行う者たちは、根深い対立の中にいる―また知識を授けられた者たちが、それがあなたの主からの真理であることを知り、それを信じ、その心がかれの前にへりくだるためである。アッラーは、

[26] この節や同じような節は、時間の相対性という考え方をわたしたちに示しています。それは科学の言葉では、アルベルト・アインシュタインの相対性理論によって示されているものです。

信仰する者たちを必ずまっすぐな道に導かれる。真理を否定する者たちは、その時がにわかに訪れるか、あるいはすべての望みを絶たれた日の懲罰が臨むまで、それについて疑いをやめない。その日、王権はアッラーのものである。かれは、かれらの間を裁かれる。信仰して善行に励んだ者たちは、至福の楽園の中にいる。だが真理を否定し、われらのしるしを偽りとした者たちには、屈辱の懲罰がある。 (49-57)

アッラーの道のために移住し、その後で殺され、あるいは死んだ者たちには、アッラーが必ず良い糧を授けられる。アッラーはまことに、糧を授ける者の中で最も優れた御方である。かれは必ず、かれらが満足する入り口から、かれらを入らせられる。アッラーはすべてを知り、寛容な御方である。そのとおりである。自分が受けた害と同じだけの仕返しをし、その後でまた不当な扱いを受けた者を、アッラーは必ず助けられる。アッラーはよく大目に見て、よく赦される御方である。それは、アッラーが夜を昼の中に入らせ、昼を夜の中に入らせられるからであり、アッラーが全聴にして、すべてを見ておられるからである。それは、アッラーこそ真理であり、かれらがかれをさしおいて祈り求めるものは偽りであるからであり、アッラーこそ至高にして至大の御方であるからである。 (58-62)

あなたは見ないのか。アッラーが空から水を降らせ、大地が緑になるのを。アッラーは玄妙にして、すべてに通じておられる。天にあるすべてのもの、地にあるすべてのものは、かれのものである。アッラーこそ、満ち足りた、あらゆる讃美にふさわしい御方である。あなたは見ないのか。アッラーが、地上にあるすべてのものと、その命令によって海を行く船を、あなたがたに従わせられたのを。かれは、お許しがない限り、天が大地の上に落ちないように支えておられる。[27]アッラーは、人々に対して慈しみ深く、慈悲深い御方である。かれこそは、あなたがたに命を与え、それからあなたがたを死なせ、それからまた命を与えられる御方である。まことに人間は恩を忘れる。 (63-66)

われらは、どの共同体にも、かれらが守り行う儀礼を定めた。だからかれらは、この事についてあなたと言い争ってはならない。人々をあなたの主へと招きなさい。あなたは確かに、まっすぐな導きの上にいる。もしかれらがあなたと言い争うなら、言え、「アッラーは、あなたがたの行うことを最もよく知っておられる。アッラーは復活の日に、あなたがたが意見を異にしていたことについて、あなたがたの間を裁かれる。」あなたは、アッラーが天と地にあるすべてのものを知っておられるこ

[27] 神は、わたしたちの惑星への隕石の衝突をできるだけ少なくする仕組みを備えてくださいました。

とを知らないのか。そのすべては一冊の書の中にある。それはアッラーにとって易しいことである。 (67-70)

それでもかれらは、アッラーをさしおいて、かれが何の権威も下されず、自分たちにも何の知識もないものを崇める。不正を行う者たちには、援助者はない。われらの明らかなしるしがかれらに読み聞かされると、あなたは、真理を否定する者たちの顔に拒絶の色を見て取る。かれらは、われらのしるしを読み聞かせる者たちに、今にも襲いかからんばかりである。言え、「それよりも悪いものを、あなたがたに知らせようか。業火である。アッラーはそれを、真理を否定する者たちに約束された—何と悪い行き着く先であろう。」人々よ、一つのたとえが示される。だからそれに耳を傾けなさい。あなたがたがアッラーをさしおいて祈り求めるものたちは、たとえそのためにみなが力を合わせても、一匹のはえさえ創ることができない。またはえがかれらから何かを奪い去っても、かれらはそれを取り返すことができない。求める者も、求められるものも、何と弱いことか。かれらは、アッラーをふさわしく評価していない。アッラーは確かに強く、偉力ならびない御方である。 (71-74)

アッラーは、天使たちの中から、また人々の中から使徒を選ばれる。アッラーは全聴にして、すべてを見ておられる。かれは、かれらの前にあるものも後ろにあるものも知っておられる。すべての事はアッラーに帰される。信仰する者たちよ、身をかがめ、ひれ伏し、あなたがたの主を崇め、善を行いなさい。そうすればあなたがたは成功するであろう。アッラーのために、かれにふさわしい奮闘をもって奮闘しなさい。かれはあなたがたを選び、宗教においてあなたがたに何の苦難も課されなかった—あなたがたの父イブラーヒームの教えである。かれは、以前にも、またこの啓示の中でも、あなたがたを「アッラーに帰依する者たち」と名づけられた。使徒があなたがたの証人となり、あなたがたが人々の証人となるためである。だから礼拝を守り、定めの喜捨をし、アッラーにしっかりとすがりなさい。かれはあなたがたの守護者である—何と優れた守護者、何と優れた援助者であろう。 (75-78)

23. 信者たち (Al-Mu’minūn)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

信者たちは確かに成功した。かれらは、礼拝においてへりくだり、無益な話から遠ざかり、定めの喜捨に努め、自分の貞節を守る者たちである。ただし自分の配偶者や女奴隷に対しては別であり、その場合は責められることはない―だがそれを越えて求める者は、掟を越える者である―またかれらは、預かったものと約束に忠実であり、自分の礼拝を固く守る者たちである。これらの者こそ相続者であり、フィルダウスの楽園を受け継いで、永遠にそこに住む。 (1-11)

われらは人間を、粘土の精髄から創った。それからわれらは、かれを一滴の液として、堅固な宿りの場所に置いた。それからわれらは、その一滴を付着するものとし、付着するものを肉の塊とし、その塊を骨とし、骨に肉を着せた。それからわれらは、かれを別の被造物として生み出した。創造する者の中で最も優れたアッラーに、祝福あれ。それからその後、あなたがたは必ず死ぬ。それから復活の日に、あなたがたは必ずよみがえらされる。 (12-16)

われらは、あなたがたの上に七つの道を創った。われらは、創造について決して無頓着ではない。われらは、空から水をしかるべき量だけ降らせ、それを大地にとどまらせる―われらには、それを取り去ることも確かにできる。それによってわれらは、あなたがたのために、なつめやしとぶどうの園を生い育てる。そこにはあなたがたのための多くの果実があり、あなたがたはそれを食べる。またシナイ山に生える一本の木があり、油と、食べる者のための味つけを産する。また家畜の中にも、あなたがたへの教訓が確かにある。われらは、その乳房からあなたがたに飲み物を与え、あなたがたにはそのほかにも多くの益があり、あなたがたはそれを食べもする。またあなたがたは、その上にも、舟の上にも運ばれる。 (17-22)

われらはヌーフをその民に遣わした。かれは言った。「わたしの民よ、アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。それでもあなたがたは、かれを畏れないのか。」だが、かれの民の中で真理を否定した長老たちは言った。「これは、あなたがたと同じ人間にすぎない。あなたがたの上に立とうとしているのだ。アッラーがお望みなら、天使たちを下されたはずだ。わたしたちは、昔の父祖たちの間でこんなことを聞いたことがない。かれは、狂気に取りつかれた男にすぎない。だからしばらく、かれの様子を見ていなさい。」かれは言った。「主よ、

わたしを助けてください。かれらはわたしをうそつきと呼びました。」そこでわれらは、かれに啓示した。「われらの目の前で、われらの啓示に従って舟を造りなさい。そしてわれらの命令が下り、かまどが煮えたぎったなら、あらゆる種類のものを一つがいずつ、またあなたの家族を、その中に乗せなさい―ただしその中で、すでに言葉が下された者は別である―不正を行った者たちのことで、わたしに嘆願してはならない。かれらは溺れさせられるのである。あなたと、あなたと共にいる者たちが舟の上に落ち着いたなら、言いなさい。『すべての讃美はアッラーのもの。不正を行う民からわたしたちを救い出された御方である。』また言いなさい。『主よ、祝福された上陸の場所にわたしを降ろしてください。あなたは、陸に降ろす者の中で最も優れた御方です。』」まことにこの中には、数々のしるしがある。われらは、常に人々を試みている。 (23-30)

それからわれらは、かれらの後に別の世代を興し、かれらの中に、かれら自身の中から一人の使徒を遣わした。「アッラーを崇めなさい。あなたがたには、かれのほかに神はない。それでもあなたがたは、かれを畏れないのか。」だが、かれの民の中で真理を否定し、来世での会見を偽りとし、われらが現世の生活で豊かにしておいた長老たちは言った。「これは、あなたがたと同じ人間にすぎない。あなたがたが食べるものを食べ、あなたがたが飲むものを飲んでいる。もしあなたがたが、自分と同じ人間に従うなら、あなたがたは必ず損失者となる。かれは、あなたがたが死んで土と骨になったとき、再び外に出されると約束するのか。あなたがたに約束されていることは、何と遠いことか、何と遠いことか。あるのは、わたしたちの現世の生活だけだ。わたしたちは死に、そして生きる。よみがえらされることなどない。かれは、アッラーについて偽りを作り上げた男にすぎない。わたしたちは、かれを信じるつもりはない。」かれは言った。「主よ、わたしを助けてください。かれらはわたしをうそつきと呼びました。」かれは言われた。「もうしばらくすれば、かれらは必ず後悔に満たされる。」そこで轟音が、正義をもってかれらを捕らえた。われらはかれらを、押し流されるあくたのようにした。不正を行う民は遠ざけられよ。それからわれらは、かれらの後に別の諸世代を興した。どの共同体も、その定められた期限を早めることも、遅らせることもできない。それからわれらは、われらの使徒たちを次々に遣わした。使徒がその共同体のもとに来るたびに、かれらはかれをうそつきと呼んだ。そこでわれらは、かれらを次々に滅びへと続かせ、かれらを語りぐさとした。信仰しない民は遠ざけられよ。 (31-44)

それからわれらは、ムーサーとその兄弟ハールーンを、われらのしるしと明らかな権威を持たせて、フィルアウンとその長老たちのもとに遣わした。だがかれらは高慢であった。かれらは思い上がった民であった。かれらは言った。「わたしたちと同じ二人の人間を信じよというのか。しかもその民は、わたしたちの奴隷であるのに。」こうしてかれらは二人をうそつきと呼び、滅ぼされる者の仲間となった。われらはムーサーに啓典を授けた。かれらが導かれるように。またわれらは、マルヤムの子とその母を一つのしるしとし、泉の流れる安らぎの場所である高台に、かれらを住まわせた。 (45-50)

「使徒たちよ、良いものを食べ、善い行いをしなさい。わたしは、あなたがたの行うことをよく知っている。まことにあなたがたのこの共同体は、ただ一つの共同体である。わたしはあなたがたの主である。だからわたしを畏れなさい。」だがかれらは、自分たちの事を互いの間で引き裂いて諸派に分かれ、それぞれの党派は自分の持つものを喜んでいる。だからしばらくの間、かれらを混迷の洪水の中に放っておきなさい。かれらは、われらがかれらに惜しみなく与える富と息子たちによって、われらが良いものをかれらに急いで与えていると思うのか。いや、かれらは気づいていない。自分の主を畏れ敬っておののく者たち、自分の主のしるしを信じる者たち、自分の主に何ものも並べない者たち、そして自分の主のもとに帰ることを思って心をおののかせながら、与えるものを与える者たち—これらの者こそ、善い行いに急ぐ者であり、真っ先にそれに達する者である。われらは、どの魂にもその力を超える重荷を負わせない。われらのもとには真実を語る書があり、かれらが不当に扱われることはない。だがかれらの心は、これについて混迷の洪水の中にある。かれらにはほかにも数々の行いがあり、それを行い続けている—やがてわれらが、富におごった者たちを懲罰で捕らえると、かれらは助けを求めて叫ぶ。「今日は叫ぶな。あなたがたは、われらから何の助けも受けられない。わたしのしるしは、あなたがたに読み聞かされていた。だがあなたがたは、きびすを返して背き去り、高慢に、夜通しむだ話をして、それをののしっていた。」 (51-67)

かれらは、この言葉を深く考えなかったのか。それとも、昔の父祖たちには来なかったものが、かれらに来たというのか。それとも、自分たちの使徒が分からず、それでかれを退けるのか。それとも、「かれは取りつかれている」と言うのか。いや、かれは真理を持ってかれらのもとに来た。だがかれらの多くは、真理を嫌っている。もし真理がかれらの欲望に従っていたなら、天も地も、その中にいるすべての者も、きっと崩れ去ったであろう。いや、われらはかれらに、かれらの訓戒をもたらした。

だがかれらは、自分たちの訓戒から背き去る。それともあなたは、かれらに何かの報酬を求めているのか。あなたの主の報酬のほうが良い。かれは、糧を授ける者の中で最も優れた御方である。あなたは確かに、かれらをまっすぐな道へと招いている。だが来世を信じない者たちは、その道からそれている。たとえわれらがかれらをあわれみ、かれらを悩ます苦しみを取り除いても、かれらはなお反逆を続け、当てもなくさまようであろう。われらは、すでに懲罰でかれらを捕らえた。だがかれらは、主に従わず、へりくだることもなかった—やがてわれらが、厳しい懲罰の門をかれらに開くと、かれらは絶望に沈む。 (68-77)

かれこそは、あなたがたのために聴覚と視覚と心を創り出された御方である—あなたがたは何とわずかしか感謝しないことか。かれこそは、あなたがたを地上に増やし広げられた御方であり、あなたがたはかれのもとに集められる。かれこそは、生を与え、死を与えられる御方であり、夜と昼の交替もかれのものである。それでもあなたがたは理性を働かせないのか。だがかれらは、昔の人々が言ったのと同じことを言う。かれらは言う。「何と、わたしたちが死んで土と骨になったとき、本当によみがえらされるのか。わたしたちも父祖たちも、以前にこのことを約束された。これは昔の人々の作り話にすぎない。」言え、「大地とその中にいるすべての者は、だれのものか。あなたがたが知っているなら。」かれらは言うであろう。「アッラーのものだ。」言え、「それでもあなたがたは、心に留めないのか。」言え、「七つの天の主、偉大な玉座の主はだれか。」かれらは言うであろう。「それらはアッラーのものだ。」言え、「それでもあなたがたは、かれを畏れないのか。」言え、「万物の支配をその手に握り、守りはするが、かれに対してはだれも守ることのできない御方はだれか。あなたがたが知っているなら。」かれらは言うであろう。「アッラーのものだ。」言え、「それなら、あなたがたはどうしてそれほど惑わされているのか。」いや、われらはかれらに真理をもたらした。かれらは確かにうそつきである。アッラーは決して子を持たれたことはなく、かれと並ぶ神もない。もしそうであったなら、それぞれの神は自分の創ったものを持ち去り、互いに相手を従えようとしたであろう。アッラーは、かれらの言い立てることを超えて、栄光に満ちておられる。[28] (78-91)

[28] わたしたちの宇宙の秩序は、唯一神信仰、すなわちただ一つの神の意志があることを物語っています。
神の唯一性の構造：クルアーンの唯一神信仰についての科学的・哲学的・神学的注釈—栄光あるクルアーンと科学

かれは、目に見えないものも見えるものも知っておられる御方である。かれは、かれらが並べるものを超えて、高くあられる。言え、「主よ、もしあなたが、かれらに約束されていることをわたしに見せてくださるなら、主よ、わたしを不正を行う民の中に置かないでください。」われらには、かれらに約束したことをあなたに見せることが確かにできる。より良いものによって悪を退けなさい。われらは、かれらの言い立てることを最もよく知っている。また言え、「主よ、悪魔たちのそそのかしから、あなたに守りを求めます。主よ、かれらがわたしに近づくことから、あなたに守りを求めます。」 (92-98)

かれらはそのまま続け、やがてその一人に死が訪れると、その者は言う。「主よ、わたしを送り返してください。わたしが残してきたものの中で、善を行えるように。」決してそうではない。それは、その者が口にする言葉にすぎない。かれらの後ろには、よみがえらされる日まで隔てがある。ラッパが吹かれるとき、その日、かれらの間に血縁のきずなはなく、互いに尋ね合うこともない。そのはかりの重い者たち—かれらこそ成功する者である。そのはかりの軽い者たち—かれらこそ自分の魂を失った者であり、地獄の中に長くとどまる。業火がその顔を焼き、かれらはその中で顔をゆがめる。「わたしのしるしは、あなたがたに読み聞かされなかったのか。そしてあなたがたは、それを偽りとしなかったのか。」かれらは言う。「主よ、わたしたちの不幸がわたしたちに打ち勝ち、わたしたちは迷った民となりました。主よ、わたしたちをここから出してください。もし再び悪に戻るなら、そのときこそわたしたちは不正を行う者です。」かれは言われる。「その中に退いていなさい。わたしに話しかけてはならない。わたしのしもべたちの中に、こう言っていた一団がいた。『主よ、わたしたちは信じます。だからわたしたちを赦し、あわれんでください。あなたは慈悲深い者の中で最も慈悲深い御方です。』だがあなたがたは、かれらを笑いぐさにし、ついにはかれらのことで、わたしを思い起こすことを忘れてしまった。あなたがたは、かれらを笑っていた。今日わたしは、かれらが耐え忍んだことに報いた。かれらこそ勝利を得た者である。」かれは言われる。「あなたがたは、地上に何年とどまっていたのか。」かれらは言う。「一日か、一日の一部とどまっていました。数える者たちにお尋ねください。」かれは言われる。「あなたがたは、ほんのわずかの間とどまっただけである。あなたがたがそれを知

神の唯一性、宇宙の秩序、創造の文法：クルアーン 21:22、23:91、17:41-44 についての科学的・哲学的・神学的注釈—栄光あるクルアーンと科学

っていたならよかったのに。あなたがたは、われらがあなたがたを戯れに創り、あなたがたがわれらのもとに帰されないと思っていたのか。」 (99-115)

真の王であるアッラーは、高くあられる。かれのほかに神はない。尊い玉座の主である。何の証拠もないのに、アッラーと並べてほかの神に祈る者―その者の清算は、ただその主のもとにある。真理を否定する者たちは、成功しない。言え、「主よ、赦し、あわれんでください。あなたは慈悲深い者の中で最も慈悲深い御方です。」 (116-118)

24. 光 (Al-Nūr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

これは、われらが下し、定めとした一章である。われらはその中に、しるしを、明らかなしるしを下した。あなたがたが思い起こして心に留めるように。 (1)

姦通した女と男は、そのそれぞれを百回むち打ちなさい。あなたがたがアッラーと最後の日を信じるなら、アッラーの掟に関して、かれらへのあわれみに心を動かされてはならない。また信者たちの一団に、かれらの懲罰に立ち会わせなさい。姦通した男は、姦通した女か多神教徒の女としか結婚しない。姦通した女は、姦通した男か多神教徒の男としか結婚しない。そのようなことは、信者たちには禁じられている。貞淑な女たちを訴えておきながら、四人の証人を連れて来ない者たちは、八十回むち打ち、二度とその証言を受け入れてはならない。かれらこそ、アッラーに背く者である―ただしその後で悔い改め、行いを正す者は別である。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (2-5)

自分の妻を訴えておきながら、自分のほかに証人のない者たちについては、その男の証言は、自分が真実を語っているとアッラーにかけて四度誓い、五度目に、もし自分がうそをついているならアッラーの呪いが自分の上にあるようにと誓うことである。また女が、かれはうそをついているとアッラーにかけて四度誓い、五度目に、もしかれが真実を語っているならアッラーの怒りが自分の上にあるようにと誓うなら、懲罰はかの女から退けられる。 (6-9)

もしあなたがたの上に、アッラーの恵みと慈悲がなく、またアッラーが悔悟をよく受け入れ、英知に満ちた御方でなかったなら、あなたがたはこのことで苦しんだであろう。あの中傷を持ち出したのは、あなたがたの中の一団である。それを、あなたがたにとって悪いことと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって良いことである。かれらの一人一人は、自分が稼いだ罪の分を負う。その中で大きな役割を担った者には、重大な懲罰がある。あなたがたがそれを聞いたとき、信仰する男たちも女たちも、なぜ自分たちの仲間のことを良く考えて、「これは明らかな中傷だ」と言わなかったのか。なぜかれらは、それについて四人の証人を連れて来なかったのか。証人を連れて来なかった以上、アッラーの御前では、かれらこそうそつきである。もしあなたがたの上に、現世と来世でアッラーの恵みと慈悲がなかったなら、あなたがたがのめり込んだことのために、重大な懲罰があなたがたに触

れたであろう。そのときあなたがたは、舌から舌へとそれを伝え、知りもしないことを口で語り、それを軽いことと考えていた。だがアッラーの御前では、それは重大なことであった。あなたがたがそれを聞いたとき、なぜこう言わなかったのか。「これは、わたしたちが口にすべきことではない。あなたに栄光あれ―これは恐ろしい中傷だ。」アッラーは、あなたがたが信者であるなら、二度とこのようなことを繰り返さないよう戒められる。アッラーは、あなたがたにしるしを明らかにされる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。信者たちの間に醜行が広まるのを好む者たちには、現世と来世で痛ましい懲罰がある。アッラーは知っておられるが、あなたがたは知らない。もしあなたがたの上に、アッラーの恵みと慈悲がなく、またアッラーが慈しみ深く、慈悲深い御方でなかったなら、あなたがたは滅びていたであろう。信仰する者たちよ、悪魔の足跡に従ってはならない。悪魔の足跡に従う者は知るがよい。悪魔は醜行と悪事を命じるのである。もしあなたがたの上に、アッラーの恵みと慈悲がなかったなら、あなたがたのだれ一人として、決して清められることはなかったであろう。だがアッラーは、望まれる者を清められる。アッラーは全聴にして全知の御方である。 (10-21)

あなたがたの中で恵みと富を持つ者たちは、近親者や、困窮する者や、アッラーの道のために移住した者たちに与えないと誓ってはならない。かれらを赦し、大目に見なさい。あなたがたは、アッラーが自分を赦してくださることを望まないのか。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (22)

貞淑で、何も知らない、信仰する女たちを訴える者たちは、現世でも来世でも呪われ、かれらには重大な懲罰がある。その日、かれら自身の舌と手と足が、かれらの行っていたことについて、かれらに不利な証言をする。その日アッラーは、かれらに当然の報いを十分に支払われ、かれらは、アッラーこそ明白な真理であることを知る。悪い女は悪い男に、悪い男は悪い女にふさわしい。良い女は良い男に、良い男は良い女にふさわしい。これらの者は、中傷する者たちの言うことについて潔白である。かれらには、赦しと豊かな糧がある。 (23-26)

信仰する者たちよ、自分の家のほかの家には、許しを求め、その家の人々にあいさつをするまで入ってはならない。それがあなたがたにとってより良い。あなたがたが心に留めるように。もしそこにだれもいなければ、許しが与えられるまで入ってはならない。もし「お帰りください」と言われたなら、帰りなさい―それがあなたがたにとってより清らかである。アッラーは、あなたがたの行うことをよく知って

おられる。人の住んでいない家で、あなたがたに何かの用のある家に入ることは、あなたがたの罪にならない。アッラーは、あなたがたが表すことも隠すことも知っておられる。信仰する男たちに言いなさい。視線を低くし、貞節を守るようにと。それがかれらにとってより清らかである。アッラーは、かれらの行うことによく通じておられる。また信仰する女たちに言いなさい。視線を低くし、貞節を守り、自然に外に表れるもののほかは、その飾りを見せないようにと。また頭のおおいを胸と襟元の上に垂らし、自分の夫、自分の父、夫の父、自分の息子、夫の息子、自分の兄弟、兄弟の息子、姉妹の息子、自分と同じ女たち、自分の奴隷、欲望を持たない男の付き人、あるいは女の隠すべき所にまだ気づいていない子供たちのほかには、その飾りを見せないようにと。また隠している飾りに注意を引くために、足を踏み鳴らさないようにと。信者たちよ、みなそろってアッラーに悔い改めて立ち返りなさい。そうすればあなたがたは成功するであろう。 (27-31)

あなたがたの中の独り身の者たち、またあなたがたの男女の奴隷の中の正しい者たちを結婚させなさい。もしかれらが貧しければ、アッラーはその恵みによってかれらを豊かにされる。アッラーはすべてを包み、すべてを知っておられる。結婚する手だてを見いだせない者たちは、アッラーがその恵みによってかれらを豊かにされるまで、身を慎みなさい。奴隷の中に解放の契約を求める者があれば、かれらに良いところがあると知るなら、かれらのためにそれを書き、アッラーがあなたがたに授けられた富の中から、かれらに与えなさい。あなたがたの女奴隷が貞節を守りたいと望んでいるのに、現世の生活のはかない利益を得るために、かの女たちに売春を強いてはならない。だれかがかの女たちに強いるなら、その強いられた後で、アッラーはかの女たちに対して、よく赦し、慈愛深い御方である。 (32-33)

われらは、物事を明らかにするしるしと、あなたがた以前に過ぎ去った者たちの例と、アッラーを畏れる者たちへの戒めを、あなたがたに下した。 (34)

アッラーは、天と地の光である。かれの光のたとえは、ともしびの置かれた壁のくぼみのようである。そのともしびはガラスの中にあり、そのガラスは輝く星のようである。それは、東のものでも西のものでもない祝福されたオリーブの木から灯される。その油は、火が触れなくても、ほとんど光を放つほどである。光の上に光。アッラーは、望まれる者をかれの光へと導かれる。アッラーは人々のためにたとえを示される。アッラーはすべてのことを知っておられる。その光は、アッラーが高く建てることを許され、その中でかれの御名が唱えられる家々の中に輝く。そこで

は朝に夕に、かれを讃える人々がいる。かれらは、商いにも売り買いにも気を取られて、アッラーを思い起こすこと、礼拝を守ること、定めの喜捨をすることを忘れることがない。かれらは、心と目が覆される日を恐れている。アッラーが、かれらの行った最も良いことに報い、さらにその恵みから増し加えてくださるためである。アッラーは、望まれる者に限りなく糧を授けられる。 (35-38)

だが真理を否定する者たちの行いは、平原の蜃気楼のようである。のどの渇いた者はそれを水と思うが、そこに来てみると、何もないことを知る。だがそこにアッラーを見いだし、アッラーはその者の勘定を十分に支払われる。アッラーは清算に速い。あるいは、深い海の中の幾重もの暗闇のようである。波がそれを覆い、その上にまた波があり、その上に雲がある—暗闇の上に暗闇が重なる。手を伸ばしても、ほとんどそれが見えない。アッラーが光を授けられない者には、何の光もない。 (39-40)

あなたは見ないのか。天と地にいるすべての者が、また翼を広げた鳥たちが、アッラーを讃えているのを。そのそれぞれは、自分の祈りと自分の讃美を知っている。アッラーは、かれらの行うことをよく知っておられる。天と地の王権はアッラーのものであり、最後の帰り着く先はアッラーのもとである。あなたは見ないのか。アッラーが雲を駆り立て、それからそれらを寄せ集め、それから積み重ねて一つの塊とされるのを。そしてあなたは、その間から雨が降り注ぐのを見る。かれは空から、ひょうを含んだ山のような雲の塊を下し、それによって望まれる者を打ち、望まれる者からそれをそらされる。その稲妻のひらめきは、ほとんど視力を奪うほどである。アッラーは夜と昼を交替させられる。まことにこの中には、見る目を持つ者たちへの教訓がある。またアッラーは、すべての生き物を水から創られた。[29]その中のあるものは腹ではって進み、あるものは二本の足で歩き、あるものは四本の足で歩く。アッラーは、望まれるものを創られる。アッラーは万事に全能である。 (41-45)

われらは、物事を明らかにするしるしを下した。アッラーは、望まれる者をまっすぐな道に導かれる。かれらは「わたしたちはアッラーと使徒を信じ、従います」と言う。だがその後で、かれらの一団は背き去る。このような者たちは信者ではない。かれらの間を裁くために、アッラーとその使徒のもとに呼ばれると、かれらの一団は背き去る。だが正しさが自分の側にあるなら、従順にかれのもとに来る。かれら

[29] 預言者ムハンマドが、この深遠な科学的事実を偶然に知ることはありえませんでした。この節は、ほかの多くの節と同じように、全知の源があることを物語っています。このことは、21:30 と 25:54 にも述べられています。

の心には病があるのか。それとも疑っているのか。それとも、アッラーとその使徒が自分たちを不当に扱うと恐れているのか。いや、かれらこそ不正を行う者である。信者たちは、かれらの間を裁くためにアッラーとその使徒のもとに呼ばれると、ただ「わたしたちは聞き、従います」と言うだけである。これらの者こそ成功する者である。アッラーとその使徒に従い、アッラーを恐れ、かれを畏れる者―これらの者こそ勝利を得る者である。かれらは、あなたが命じるなら必ず出陣すると、アッラーにかけて最も固い誓いを立てる。言え、「誓うな。求められているのは、広く認められた形の服従である。アッラーは、あなたがたの行うことによく通じておられる。」言え、「アッラーに従い、使徒に従いなさい。」もしあなたがたが背き去るなら、かれは自分に課されたことについてだけ責任を負い、あなたがたは自分たちに課されたことについて責任を負う。もしあなたがたがかれに従うなら、あなたがたは導かれる。使徒の務めは、明らかに伝えることだけである。 (46-54)

アッラーは、あなたがたの中で信仰して善行に励む者たちに約束された。かれら以前の者たちを後継者とされたように、必ずかれらをこの地の後継者とし、かれらのために認められた宗教を必ずかれらのために確立し、かれらの恐れを必ず安全に変える、と。「かれらはわたしを崇め、わたしに何ものも並べない。」その後で真理を否定する者―かれらこそ背く者である。礼拝を守り、定めの喜捨をし、使徒に従いなさい。そうすればあなたがたは慈悲を受けるであろう。真理を否定する者たちが、地上でアッラーをくじくことができると思ってはならない。かれらの避け所は業火である―何と悪い行き着く先であろう。 (55-57)

信仰する者たちよ、奴隷たちと、あなたがたの中でまだ成年に達していない者たちには、三つの時に、入る前にあなたがたの許しを求めさせなさい。夜明けの礼拝の前、真昼にあなたがたが衣を脱ぐとき、そして夜の礼拝の後である―これは、あなたがたのための三つの内々の時である。これらの時のほかは、あなたがたにもかれらにも罪はない。かれらはあなたがたの間を行き来し、あなたがたは互いに行き来するからである。このようにアッラーは、あなたがたにしるしを明らかにされる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。あなたがたの中の子供たちが成年に達したなら、かれら以前の者たちが許しを求めたように、許しを求めさせなさい。このようにアッラーは、あなたがたにご自分のしるしを明らかにされる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。子を産む年を過ぎて、結婚の望みを持たない女たちについては、その飾りを見せびらかさない限り、外衣を脱いで

も罪はない。だが控えるほうが、かの女たちにとってより良い。アッラーは全聴にして全知の御方である。 (58-60)

目の見えない者にも、足の不自由な者にも、病人にも、またあなたがた自身にも、自分の家、あるいは父の家、母の家、兄弟の家、姉妹の家、父方のおじの家、父方のおばの家、母方のおじの家、母方のおばの家、あるいはそのかぎをあなたがたが預かっている家、あるいは友人の家で食べることに、何の制限もない。あなたがたが一緒に食べても、別々に食べても罪はない。家に入るときは、アッラーからの、祝福された良いあいさつをもって、互いにあいさつをしなさい。このようにアッラーは、あなたがたにしるしを明らかにされる。あなたがたが理性を働かせるように。 (61)

真の信者とは、アッラーとその使徒を信じ、皆にかかわる事でかれと共にいるときには、かれの許しを求めるまで立ち去らない者たちである。あなたの許しを求める者たちこそ、アッラーとその使徒を信じる者たちである。だからかれらが、自分の何かの用事のためにあなたの許しを求めるなら、かれらの中のあなたが望む者に許しを与え、かれらのためにアッラーの赦しを請いなさい。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。あなたがたの間での使徒の呼びかけを、あなたがたが互いに呼び合うときの呼びかけのように扱ってはならない。アッラーは、あなたがたの中で互いの陰に隠れてそっと抜け出す者たちを知っておられる。かれの命令に逆らう者たちは、試練が降りかかるか、痛ましい懲罰が臨むことを警戒するがよい。 (62-63)

まことに、天と地にあるすべてのものはアッラーのものである。かれは、あなたがたの置かれている状態をよく知っておられる。かれらがかれのもとに帰される日、かれは、かれらが行ったことをかれらに告げられる。アッラーはすべてのことを知っておられる。 (64)

25. 識別 (Al-Furqān)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ご自分のしもべに識別を下された御方に、祝福あれ。かれが万有への警告者となるためである―天と地の王権はかれのものであり、かれは子を持たず、王権において同位者もなく、すべてのものを創り、それを正確な量に定められた。それでもかれらは、かれをさしおいて、何も創らず、自らが創られたものである神々を持った。それらは、自分自身にさえ害も益ももたらす力がなく、死も、生も、復活も支配しない。 (1-3)

真理を否定する者たちは言う。「これは、かれが作り上げた偽りにすぎない。ほかの人々がそれを手伝ったのだ。」かれらがもたらしたのは、不正と偽りだけである。またかれらは言う。「昔の人々の作り話だ。かれがそれを書き取らせたのだ。それは朝に夕に、かれに口述されている。」言え、「これは、天と地の秘密を知っておられる御方が下されたものである。かれは常によく赦し、慈愛深い御方である。」[30] (4-6)

かれらは言う。「これはどういう使徒なのか。食べ物を食べ、市場を歩き回るとは。なぜかれのもとに天使が下されて、かれと共に警告者とならないのか。あるいは、なぜかれに財宝が投げ下ろされないのか。あるいは、なぜかれには、そこから食べる園がないのか。」また不正を行う者たちは言う。「あなたがたは、魔術にかけられた男に従っているにすぎない。」見なさい、かれらがあなたのためにどんなたとえを持ち出しているかを。かれらは迷い去り、道を見いだすことができない。お望みなら、それよりも良いものをあなたに授けることのできる御方に、祝福あれ―川が下を流れる楽園と、数々の宮殿である。 (7-10)

[30] これらは、クルアーンの重要な節です。過去のキリスト教護教家たちと今日の無神論の批判者たちは、クルアーンに対して根拠のない批判を向けますが、アッラーは実に筋の通った弁護を示しておられます。もしこのクルアーンが、ムハンマドには知りえなかった天と地の秘密を明かしているのなら、クルアーンは全知の御方の言葉であるということになります。注釈者たちが示す現代科学との整合は、そうした推論の一つの筋道です。この翻訳のいくつかの注釈は、クルアーンと現代科学との響き合いについてのものです。たとえば 21:30-33 と 51:47-49 です。

実のところ、かれらが偽りとしているのは、その時の到来である。[31]その時を否定する者たちのために、われらは燃えさかる業火を用意した。業火が遠くからかれらを見ると、かれらはその怒り狂う音と、うなる音を聞く。かれらが一緒に鎖につながれて、その中の狭い所に投げ込まれると、かれらはそこで滅びを求めて叫ぶ。「今日は一度の滅びを求めて叫ぶな。何度もの滅びを求めて叫ぶがよい。」言え、「それが良いのか。それとも、アッラーを畏れる者たちに約束された永遠の楽園が良いのか。それはかれらへの報奨であり、最後の行き着く先である。そこでかれらは、望むものを何でも得て、永遠にとどまる―これは、あなたの主が果たすことを自らに課された約束である。」かれが、かれらと、かれらがアッラーをさしおいて崇めるものとを一緒に集められる日、かれは言われる。「わたしのこれらのしもべたちを迷わせたのは、あなたがたか。それともかれらが自ら道から迷ったのか。」それらは言う。「あなたに栄光あれ。あなたのほかに守護者を持つことは、わたしたちにふさわしくありませんでした。だがあなたは、かれらとその父祖たちに生を楽しませ、ついにかれらは訓戒を忘れ、滅びに落ちた民となりました。」アッラーは言われる。「かれらは今、あなたがたの言うことを偽りとした。あなたがたは、懲罰を退けることも、助けを得ることもできない。」あなたがたの中で不正を行う者には、われらは大きな懲罰を味わわせる。 (11-19)

（預言者よ）われらがあなた以前に遣わした使徒たちも、みな食べ物を食べ、市場を歩き回っていた。われらは、あなたがたのある者を、ほかの者への試練とした。あなたがたは耐え忍ぶであろうか。あなたの主は、常に見ておられる。われらとの会見を期待しない者たちは言う。「なぜ天使たちがわたしたちのもとに下されないのか。なぜわたしたちは、自分の主を見ないのか。」かれらは心の中で高慢に満ち、はなはだしい横柄さで背いた。かれらが天使たちを見る日、その日、罪を犯す者たちに吉報はない。天使たちは言う。「あなたがたと喜びとの間には、越えることを禁じられた隔てがある。」われらは、かれらが行ったどんな行いにも向かい、それをまき散らされたちりのようにする。その日、楽園の住人には、より良い住まいと、より美しい休み場がある。空が雲と共に裂け、天使たちが大いなる降下によって下される日、その日、真の王権は慈悲あまねき御方のものである。それは、真理を否定する者たちにとって厳しい日となる。その日、不正を行う者は自分の両手をかんで言う。「ああ、使徒と共に一つの道を取っていたならよかったのに。ああ情けな

[31] 神を否定すること、すなわち無神論は、来世や責任を問われることの否定と手を携えています。このことは、クルアーンの中で何度も述べられています。第 41 章（ハー・ミーム・サジダ）の最後の節もご覧ください。

い。あの者を友としなければよかったのに。訓戒がわたしのもとに来た後で、かれはわたしをそこから迷わせた。」悪魔は、最後には必ず人間を見捨てる。 (20-29)

使徒は言う。「主よ、わたしの民はこのクルアーンを、打ち捨てるべきものとしました。」このようにわれらは、どの預言者にも、罪を犯す者たちの中から敵を定めた。だがあなたの主は、導き手として、また援助者として十分である。 (30-31)

真理を否定する者たちは言う。「なぜクルアーンは、一度にまとめてかれに下されなかったのか。」それは、これによってあなたの心を強めるためである。われらはそれを、整った、はっきりとした段階を追って、あなたに読み聞かせた。かれらがあなたにどんな論を持って来ても、われらは必ず、真理と、より優れた説明をあなたにもたらす。[32] (32-33)

顔を下にして地獄へと集められる者たち—かれらは最も悪い所にいて、道から最も遠く迷っている。 (33-34)

われらはムーサーに啓典を授け、その兄弟ハールーンをかれの助け手に定めた。われらは言った。「二人とも、われらのしるしを偽りとした民のもとに行きなさい。」それからわれらは、かれらを跡形もなく滅ぼした。またヌーフの民を。かれらが使徒たちを偽りとしたとき、われらはかれらを溺れさせ、人々へのしるしとした。われらは、不正を行う者たちのために痛ましい懲罰を用意している。またアードと、サムードと、ラッスの人々と、その間の多くの世代を。そのそれぞれに、われらは警告として数々の例を示し、そのそれぞれを、われらは完全に滅ぼした。この者たちは、あの災いの雨を浴びせられた町のそばを、確かに通り過ぎたはずである。かれらはそれを見なかったのか。いや、かれらは復活を期待していない。かれらはあなたを見ると、ただあなたをあざけるだけである。「これが、アッラーが使徒として遣わした者か。わたしたちが神々にしっかりとすがっていなかったなら、かれは危うくわたしたちを神々から迷わせるところであった。」かれらは懲罰を見るとき、だれが道からより遠く迷っているかを知るであろう。あなたは、自分の欲望を自分の神とした者を見たか。あなたは、その者の後見人になるというのか。それともあなたは、かれらの多くが聞き、あるいは理性を働かせると思うのか。かれらは家畜のようなものにすぎない—いや、かれらは道からさらに遠く迷っている。 (35-44)

[32] 歴史という舞台における啓示：クルアーン 25:32-33 についての歴史的・哲学的・神学的注釈—栄光あるクルアーンと科学

あなたは見ないのか。あなたの主が、どのように影を引き伸ばされるかを。かれがお望みなら、それを静止させることもおできになった。それからわれらは、太陽をその道しるべとし、それからわれらは、それを少しずつわれらのほうへ引き寄せる。かれこそは、夜をあなたがたの衣とし、眠りを休息とし、昼を、起き上がって生きる時とされた御方である。かれこそは、その慈悲に先立って、吉報として風を送られる御方である。われらは空から清らかな水を降らせる。それによって死んだ土地に命を与え、われらが創った多くの家畜と人々に、それを飲ませるためである。われらは、人々が心に留めるように、何度もこれを繰り返した。だが人々の多くは、恩を忘れることのほかは何も受け入れない。われらが望んだなら、どの町にも警告者を興すことができた。だから真理を否定する者たちに従ってはならない。これ（クルアーン）によって、かれらに対して大いに奮闘しなさい。 (45-52)

かれこそは、二つの海を解き放たれた御方である。一方は甘くてさわやかであり、もう一方は塩辛くて苦い。かれはその間に隔てを、越えることを禁じられた仕切りを設けられた。かれこそは、水から人間を創り、血縁と姻戚の関係を授けられた御方である。[33]あなたの主は、常に全能である。それでもかれらは、アッラーをさしおいて、自分たちに益も害も与えられないものを崇める。真理を否定する者は、常に自分の主に敵対する側に味方する。われらはあなたを、ただ吉報を伝える者、警告者として遣わした。言え、「わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。ただ望む者が、自分の主への道を取るようにと願うだけである。」決して死ぬことのない、生きておられる御方にすべてを委ね、かれを讃美して讃えなさい。かれは、そのしもべたちの罪に通じておられる御方として十分である―かれは、天と地と、その間にあるすべてのものを六つの時代で創り、それから玉座に君臨された御方、慈悲あまねき御方である。だから、かれについてよく知る者に尋ねなさい。かれらは「慈悲あまねき御方にひれ伏しなさい」と言われると、こう言う。「慈悲あまねき御方とは何か。あなたが命じるものなら何にでも、わたしたちはひれ伏すというのか。」そしてそれは、かれらの嫌悪を増すだけである。空に星座を置き、そこにともしびと、光を放つ月を置かれた御方に、祝福あれ。かれこそは、心に留

[33] 預言者ムハンマドが、この深遠な科学的事実を偶然に知ることはありえませんでした。この節は、ほかの多くの節と同じように、全知の源があることを物語っています。このことは、21:30 と 24:45 にも述べられています。

めようと望む者、あるいは感謝しようと望む者のために、夜と昼を互いに後を追うものとされた御方である。[34] (53-62)

慈悲あまねき御方のしもべたちとは、地上を謙虚に歩き、無知な者たちが話しかけると「平安あれ」と言う者たちである。また、ひれ伏し、あるいは立って、自分の主の前で夜を過ごす者たち。またこう言う者たち。「主よ、地獄の懲罰をわたしたちから遠ざけてください。その懲罰は、離れることのない苦しみです。それは何と悪い住まい、何と悪い休み場でしょう。」また、施すときには、浪費もせず、物惜しみもせず、その二つの間の正しい中ほどを保つ者たち。また、アッラーと並べてほかの神に祈らず、アッラーが神聖なものとされた命を、正当な理由なしに奪わず、姦通もしない者たち―これらのことを行う者は、罪の報いに出会う。復活の日に、その懲罰は倍にされ、その者は辱められて、永遠にその中にとどまる―ただし悔い改め、信仰し、善行に励む者は別である。かれらについては、アッラーはその悪い行いを善い行いに変えられる。アッラーは常によく赦し、慈愛深い御方である。悔い改めて善を行う者は、まことにアッラーに悔い改めて立ち返ったのである。またかれらは、偽りの証言をせず、無益な話のそばを通るときには、品位を保って通り過ぎる者たち。また、自分の主のしるしを思い起こさせられると、耳も聞こえず目も見えない者のように、その前に倒れ伏すことのない者たち。またこう言う者たち。「主よ、わたしたちの配偶者と子孫の中に、わたしたちの目の喜びを授けてください。そしてわたしたちを、アッラーを畏れる者たちの模範としてください。」これらの者は、その耐え忍んだことのために、楽園の最も高い部屋で報われ、そこであいさつと平安をもって迎えられる。かれらは永遠にそこにとどまる―何と良い住まい、何と良い休み場であろう。言え、「あなたがたの祈りがなかったなら、わたしの主はあなたがたを気にもかけられない。だがあなたがたは真理を偽りとした。だから懲罰は避けられないものとなる。」 (63-77)

[34] クルアーンはなぜ、一つの章に星座の名をつけているのか

26. 詩人たち (Al-Shuʿarāʾ)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ター・スィーン・ミーム。これらは、明らかな啓典の節である。 (1-2)

（預言者よ）かれらが信じようとしないことを嘆いて、あなたは自分の身をすり減らすかもしれない。われらが望むなら、空からかれらの上に一つのしるしを下し、その前でかれらの首を、従順に垂れたままにすることもできる。それでも、慈悲あまねき御方から新しい訓戒がかれらに来るたびに、かれらはそれから背き去る。かれらはそれを偽りとした。だからかれらがあざけっていたことの知らせが、必ずかれらに来る。かれらは大地を見ないのか―われらがその中に、あらゆる気高い種類のものを、どれほど多く生い育てたかを。[35]まことにこの中には一つのしるしがある。だがかれらの多くは信じようとしない。まことにあなたの主は、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。[36] (3-9)

あなたの主がムーサーに呼びかけられたとき。「不正を行う民、フィルアウンの民のもとに行きなさい。かれらはアッラーを畏れないのか。」かれは言った。「主よ、かれらがわたしを偽りとすることを恐れます。わたしの胸は締めつけられ、わたしの舌は滑らかに動きません。ですからハールーンを呼び寄せてください。またかれらは、わたしに一つの罪を負わせています。それでわたしは、かれらに殺されることを恐れます。」かれは言われた。「決してそうはならない。二人とも、われらのしるしを持って行きなさい。われらはあなたがたと共にいて、聞いている。フィルアウンのもとに行って言いなさい。『わたしたちは万有の主の使徒である―イスラエルの子孫をわたしたちと共に行かせなさい。』」 (10-17)

フィルアウンは言った。「われわれは、おまえを子供のころからわれわれの間で育て、おまえは生涯の幾年かをわれわれの間で過ごしたではないか。そのうえでおまえは、あのしわざをしでかした--おまえは恩知らずの一人だ。」かれは言った。「わたしがそれをしたのは、まだ迷っていた者の一人であったときです。それでわたしは、あなたがたを恐れて、あなたがたのもとから逃げました。それから主は、

[35] 「かれらは大地を見ないのか」―クルアーン 26:7 についての注釈

[36] 植物界：クルアーンによる、アッラーの神性の証拠
創造者、創り出す御方、形を授ける御方であるアッラー：植物の王国

わたしに判断力を授け、わたしを使徒の一人とされました。それに、あなたがイスラエルの子孫を奴隷にしたこと―それが、あなたがわたしに着せる恩なのですか。」(18-22)

フィルアウンは言った。「万有の主とは何か。」かれは言った。「天と地と、その間にあるすべてのものの主です。あなたがたが確信を持とうとするなら。」フィルアウンは周りの者たちに言った。「聞いたか。」かれは言った。「あなたがたの主であり、あなたがたの昔の父祖たちの主です。」フィルアウンは言った。「おまえたちのもとに遣わされたというこの使徒は、確かに気が狂っている。」かれは言った。「東と西と、その間にあるすべてのものの主です。あなたがたが悟ろうとするなら。」フィルアウンは言った。「もしおまえがわたしのほかに神を持つなら、わたしは必ずおまえを囚人の一人にする。」かれは言った。「たとえわたしが、はっきりと目に見えるものを持って来てもですか。」フィルアウンは言った。「それなら持って来い。おまえが真実を語っているなら。」そこでかれがつえを投げると、たちまちそれは、はっきりと目に見える蛇となった。またかれが手を引き出すと、たちまちそれは、見る者たちの目に白く輝いた。フィルアウンは周りの長老たちに言った。「これは確かに熟練した魔術師だ。その魔術によって、おまえたちをおまえたちの土地から追い出そうとしている。さて、おまえたちは何を勧めるか。」かれらは言った。「かれとその兄弟をしばらく待たせ、町々に召集する者たちを遣わして、熟練した魔術師をみな、あなたのもとに連れて来させなさい。」こうして魔術師たちは、知らされた日の定められた時刻に集められた。また人々にはこう告げられた。「あなたがたも集まらないか。魔術師たちが勝つなら、わたしたちはかれらに従うことにしよう。」(23-40)

魔術師たちが来ると、かれらはフィルアウンに言った。「わたしたちが勝ったなら、報酬をいただけるのでしょうか。」かれは言った。「そうだ。そのときおまえたちは、わたしのそば近くに置かれる者となる。」ムーサーはかれらに言った。「あなたがたの投げるものを投げなさい。」そこでかれらは、縄とつえを投げて言った。「フィルアウンの威力にかけて、勝つのは必ずわたしたちだ。」それからムーサーがつえを投げると、たちまちそれは、かれらがこしらえた偽物をのみ込んだ。魔術師たちは、ひれ伏して崩れ落ちた。かれらは言った。「わたしたちは万有の主を信じます。ムーサーとハールーンの主を。」フィルアウンは言った。「わたしが許しを与える前に、おまえたちはかれを信じたのか。かれは、おまえたちに魔術を教えたおまえたちの頭に違いない―だがおまえたちは、すぐに思い知るであろう。わた

しはおまえたちの手と足を互い違いに切り落とし、おまえたちをみな、はりつけにする。」かれらは言った。「かまいません。わたしたちは、自分の主のもとに帰るのです。わたしたちは、真っ先に信じた者であったのですから、主がわたしたちの罪を赦してくださるよう望んでいます。」 (41-51)

それからわれらは、ムーサーに啓示した。「わたしのしもべたちを連れて、夜のうちに出発しなさい。あなたがたは追われるであろう。」フィルアウンは、町々に召集する者たちを遣わした。「これらの者は、ほんのわずかな一団にすぎない。かれらはわれわれを怒らせた。だがわれわれは、みな警戒を怠らない大軍である。」こうしてわれらは、かれらを園と泉から、また財宝と立派な住まいから連れ出した―そのとおりであった。そしてわれらは、それらをイスラエルの子孫に受け継がせた。かれらは日の出のころに追いかけた。二つの軍勢が互いに見えるようになったとき、ムーサーの仲間たちは言った。「わたしたちは確かに追いつかれた。」かれは言った。「決してそうではない。わたしの主は、わたしと共におられる。かれはわたしを導いてくださる。」そこでわれらは、ムーサーに啓示した。「あなたのつえで海を打ちなさい。」すると海は分かれ、そのそれぞれの部分は巨大な山のようになった。われらは、もう一方の者たちをその場所に近づけ、ムーサーと、かれと共にいたすべての者を救った。それからわれらは、もう一方の者たちを溺れさせた。まことにこの中には一つのしるしがある。だがかれらの多くは信じようとしない。まことにあなたの主は、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。 (52-68)

かれらにイブラーヒームの物語を読み聞かせなさい。かれが父とその民に言ったとき。「あなたがたは何を崇めているのですか。」かれらは言った。「わたしたちは偶像を崇め、ずっとそれに仕えている。」かれは言った。「あなたがたが呼びかけるとき、それらはあなたがたの声を聞きますか。あるいは、あなたがたに益や害を与えますか。」かれらは言った。「いや、だがわたしたちは、父祖たちが同じようにしているのを見た。」かれは言った。「あなたがたは、自分たちが崇めてきたものについて考えてみたのですか。あなたがたも、あなたがたの昔の父祖たちも。それらは、わたしにとって敵です―ただ万有の主だけは別です。かれはわたしを創り、わたしを導かれる御方です。わたしに食べ物と飲み物を授け、わたしが病気になれば、わたしを癒やされる御方です。わたしを死なせ、それからわたしに命を授けられる御方です。そして審判の日に、わたしの過ちを赦してくださるよう、わたしが望みをかけている御方です。主よ、わたしに判断力を授け、わたしを正しい者たちに加えてください。後の世代の間で、わたしに良い評判を与えてください。わたし

を、至福の楽園を受け継ぐ者の一人としてください。わたしの父を赦してください。かれは迷った者の一人です。そしてかれらがよみがえらされる日に、わたしを辱めないでください。その日、富も息子たちも何の役にも立ちません。ただ健やかな心を持ってアッラーのもとに来る者だけは別です。」 (69-89)

楽園は、アッラーを畏れる者たちのために近づけられ、燃えさかる業火は、迷った者たちの前にあらわにされる。そしてかれらはこう尋ねられる。「あなたがたが、アッラーをさしおいて崇めていたものはどこにいるのか。それらはあなたがたを助けられるのか。あるいは自分自身を助けられるのか。」それからかれらは、真っ逆さまにその中に投げ込まれる。かれらも、迷った者たちも、イブリースの軍勢も、みな一緒に。そこでかれらは、互いに言い争いながら言う。「アッラーにかけて、わたしたちは明らかな迷いの中にいた。あなたがたを万有の主と同等に置いていたときに。わたしたちを迷わせたのは、ただ罪を犯す者たちであった。今やわたしたちには、とりなしてくれる者もなく、心の通う友もない。もう一度機会があったなら、わたしたちは信者の仲間になるのに。」まことにこの中には一つのしるしがある。だがかれらの多くは信じようとしない。まことにあなたの主は、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。 (90-104)

ヌーフの民は、使徒たちを偽りとした。かれらの兄弟ヌーフが、かれらに言ったとき。「あなたがたはアッラーを畏れないのか。わたしは、あなたがたへの信頼できる使徒である。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。わたしの報酬は、ただ万有の主のもとにある。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。」かれらは言った。「わたしたちがあなたを信じるというのか。あなたに従っているのは、最も身分の低い者たちなのに。」かれは言った。「かれらが何をしていたかについて、わたしに何の知識があろう。かれらの清算は、ただわたしの主のもとにある。あなたがたがそれに気づくことができたなら。わたしは、信者たちを追い払うつもりはない。わたしは明らかな警告者にすぎない。」かれらは言った。「ヌーフよ、もしやめないなら、あなたは必ず石で打たれる。」かれは言った。「主よ、わたしの民はわたしを偽りとしました。ですからわたしとかれらの間を、はっきりと裁いてください。そしてわたしと、わたしと共にいる信者たちを救ってください。」そこでわれらは、かれと、かれと共にいた者たちを、荷を満載した舟の中で救い、その後で残りの者たちを溺れさせた。まことにこの中には一つのしるしがある。だがかれらの多くは信じよう

としない。まことにあなたの主は、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。 (105-122)

アードの民は、使徒たちを偽りとした。かれらの兄弟フードが、かれらに言ったとき。「あなたがたはアッラーを畏れないのか。わたしは、あなたがたへの信頼できる使徒である。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。わたしの報酬は、ただ万有の主のもとにある。あなたがたは、戯れのために、あらゆる高台に記念の塔を建てるのか。また永遠に生きるつもりであるかのように、とりでを築き上げるのか。そして人をつかまえるときには、暴君のようにつかまえるのか。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。あなたがたの知っているすべてのものによって、あなたがたを助けられた御方を畏れなさい。かれは、家畜と息子たち、園と泉によって、あなたがたを助けられた。わたしは、あなたがたのために重大な日の懲罰を恐れる。」かれらは言った。「あなたが説教をしても、説教をする者の一人でなくても、わたしたちには同じことだ。これは、昔の人々の習わしにすぎない。わたしたちが懲罰を受けることなどない。」こうしてかれらはかれを偽りとし、われらはかれらを滅ぼした。まことにこの中には一つのしるしがある。だがかれらの多くは信じようとしない。まことにあなたの主は、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。 (123-140)

サムードの民は、使徒たちを偽りとした。かれらの兄弟サーリフが、かれらに言ったとき。「あなたがたはアッラーを畏れないのか。わたしは、あなたがたへの信頼できる使徒である。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。わたしの報酬は、ただ万有の主のもとにある。あなたがたは、ここにあるものの中に、安全なまま放っておかれると思うのか―園と泉の中に、作物の畑と、柔らかな花房をつけたなつめやしの中に。またあなたがたは、巧みな技で山々に家を刻んでいる。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。あらゆる限度を越える者たちの言いつけに従ってはならない。かれらは地上に腐敗を広め、物事を正さない者たちである。」かれらは言った。「あなたは、魔術にかけられた者の一人にすぎない。あなたは、わたしたちと同じ人間にすぎない。だからしるしを持って来なさい。あなたが真実を語っているなら。」かれは言った。「ここに一頭の雌らくだがいる。これには水を飲む番があり、あなたがたにも水を飲む番がある。それぞれ定められた日にである。これに害を加えてはならない。さもないと、重大な日の懲罰があなたがたを捕らえる。」だがかれらは、その足の腱を切った。そして後悔に満たされた。懲罰がかれらを捕らえたからであ

る。まことにこの中には一つのしるしがある。だがかれらの多くは信じようとしない。まことにあなたの主は、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。 (141-159)

ルートの民は、使徒たちを偽りとした。かれらの兄弟ルートが、かれらに言ったとき。「あなたがたはアッラーを畏れないのか。わたしは、あなたがたへの信頼できる使徒である。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。わたしの報酬は、ただ万有の主のもとにある。あなたがたは、世のすべての者の中で男たちに近づき、あなたがたの主があなたがたのために創られた妻たちを放っておくのか。いや、あなたがたは限度を越える民である。」かれらは言った。「ルートよ、もしやめないなら、あなたは必ず追い出される。」かれは言った。「わたしは、あなたがたの行いを憎む者の一人である。主よ、わたしとわたしの家族を、かれらの行いから救ってください。」そこでわれらは、かれとその家族をみな救った。ただ後に残った一人の老女は別である。それからわれらは、残りの者たちを滅ぼし、かれらの上に雨を降らせた—警告を受けていた者たちへの雨は、何と悪いものであったことか。まことにこの中には一つのしるしがある。だがかれらの多くは信じようとしない。まことにあなたの主は、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。 (160-175)

森の住人たちは、使徒たちを偽りとした。シュアイブが、かれらに言ったとき。「あなたがたはアッラーを畏れないのか。わたしは、あなたがたへの信頼できる使徒である。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。わたしの報酬は、ただ万有の主のもとにある。量りを十分に満たし、人に損をさせる者の仲間になってはならない。正しいはかりで量りなさい。人々のものをごまかして奪ってはならない。腐敗を広めながら地上を歩き回ってはならない。あなたがたと、昔の諸世代とを創られた御方を畏れなさい。」かれらは言った。「あなたは、魔術にかけられた者の一人にすぎない。あなたは、わたしたちと同じ人間にすぎない。わたしたちは、あなたをうそつきの一人だと思う。だから空の一片を、わたしたちの上に落としてみなさい。あなたが真実を語っているなら。」かれは言った。「わたしの主は、あなたがたの行うことを最もよく知っておられる。」こうしてかれらはかれを偽りとし、陰の日の懲罰がかれらを捕らえた。それは重大な日の懲罰であった。まことにこの中には一つのしるしがある。だがかれらの多くは信じようとしない。まことにあなたの主は、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。 (176-191)

まことにこれは、万有の主から下されたものである。信頼できる霊が、それを（預言者よ）あなたの心の上にもたらした。あなたが警告者の一人となるためである。明らかなアラビア語によってである。まことにこれは、昔の人々の諸啓典の中にもある。イスラエルの子孫の学識ある者たちがこれを知っていることは、かれらにとってしるしではないのか。もしわれらが、これをアラブ人でない者に下し、その者がかれらに読み聞かせたとしても、かれらはこれを信じなかったであろう。このようにわれらは、それを罪を犯す者たちの心の中に通り抜けさせた。かれらは、痛ましい懲罰を見るまでこれを信じない。それは、かれらが気づかないうちに、にわかにかれらに臨む。そのときかれらは言う。「わたしたちに猶予は与えられるのか。」それでもかれらは、われらの懲罰を急いで求めるのか。あなたは考えてみたか。もしわれらがかれらに幾年も生を楽しませ、それからかれらに約束されていたことが臨むなら、かれらが楽しむよう与えられていたすべてのものは、かれらに何の役に立つであろうか。われらは、訓戒として警告者たちを置くことなしに、どの町も滅ぼしたことはない。われらは決して不正を行わない。 (192-209)

これをもたらしたのは、悪魔たちではない。それはかれらにふさわしくなく、かれらにはその力もない。かれらは、それを聞くことから遠く退けられている。だからアッラーと並べてほかの神に祈ってはならない。さもないとあなたは、懲罰を受ける者の仲間となる。あなたの最も近い親族に警告しなさい。あなたに従う信者たちには、あなたの翼を低く垂れなさい。もしかれらがあなたに背くなら、言え、「わたしは、あなたがたの行うことにかかわりがない。」偉力ならびなく、慈愛深い御方にすべてを委ねなさい。かれは、あなたが礼拝に立つのを見ておられ、ひれ伏して崇める者たちの間でのあなたの動きも見ておられる。かれこそは全聴にして全知の御方である。悪魔たちがだれの上に下るかを、あなたがたに知らせようか。かれらは、あらゆるうそつきの罪人の上に下る。かれらは聞きかじったことを伝えるが、そのほとんどはうそつきである。また詩人たちについては、迷った者たちがかれらに従う。あなたは見ないのか。かれらがあらゆる谷をさまよい歩き、自分の行わないことを口にするのを。ただし信仰し、善行に励み、アッラーを多く思い起こし、不当な扱いを受けた後で自分を守る者たちは別である。不正を行う者たちは、自分たちがどのような所に覆されて行くのかを、やがて知るであろう。 (210-227)

27. 蟻 (Al-Naml)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ター・スィーン。これらはクルアーンの節、明らかな啓典の節であり、信者たちへの導きであり吉報である。かれらは礼拝を守り、定めの喜捨をし、来世を固く信じる者たちである。来世を信じない者たちについては、われらはその行いを、かれらの目に美しく見えるようにした。それでかれらは、当てもなくさまよっている。かれらこそ、最も悪い懲罰を受ける者であり、来世では最大の損失者となる。まことに（預言者よ）あなたは、英知に満ち、すべてを知っておられる御方から、クルアーンを授かっている。 (1-6)

ムーサーが家族に言ったとき。「わたしは火を見た。そこから何かの知らせを、あなたがたに持って来よう。あるいは、あなたがたが暖まれるように、燃えさしを持って来よう。」かれがそこに来ると、声が呼びかけた。「火の中にいる者と、その周りにいる者に祝福あれ。万有の主アッラーに栄光あれ。ムーサーよ、まことにわたしはアッラー、偉力ならびなく、英知に満ちた者である。あなたのつえを投げなさい。」だがかれは、それが蛇のようにのたうつのを見ると、背を向けて逃げ出し、振り返りもしなかった。「ムーサーよ、恐れてはならない。使徒たちは、わたしの前で恐れることはない。ただし不正を行い、その後で悪を善に取り替えた者は別である―わたしはよく赦し、慈愛深い者である。あなたの手を衣のふところに入れなさい。それは何の害もなく、白くなって出て来る―これは、フィルアウンとその民への九つのしるしの一つである。かれらは背くことに身を任せた民である。」 (7-12)

だがわれらのしるしが、まったく明らかな姿でかれらに来ると、かれらは言った。「これは明らかな魔術だ。」かれらは、心の中ではそれを確信していながら、不正と高慢からそれを偽りとした。見なさい、腐敗を広める者たちの最後がどうであったかを。 (13-14)

われらは、ダーウードとスライマーンに知識を授けた。二人は言った。「アッラーに讃美あれ。かれは、信仰するしもべたちの多くにまさる恵みを、わたしたちに授けられた。」スライマーンはダーウードの後を継いで言った。「人々よ、わたしたちは鳥の言葉を教えられ、あらゆるものを授けられた。これは確かに明らかな恵みである。」スライマーンの前に、ジンと人間と鳥からなるかれの軍勢が集められ、整然と隊列を組まされた。やがてかれらが蟻の谷に来ると、一匹の蟻が言った。

「蟻たちよ、自分の住みかに入りなさい。スライマーンとその軍勢が、気づかずにあなたがたを踏みつぶさないように。」かれはその言葉に笑みを浮かべ、笑って言った。「主よ、あなたがわたしとわたしの両親に授けてくださった恵みに感謝し、あなたが喜ばれる善い行いをするよう、わたしの心を導いてください。そしてあなたの慈悲によって、わたしをあなたの正しいしもべたちの中に入れてください。」(15-19)

スライマーンは鳥たちを点検して言った。「なぜやつがしらの姿が見えないのか。それとも、かれはいない者の一人なのか。はっきりとした理由を持って来ない限り、わたしは必ずかれを厳しく罰するか、ほふってしまう。」だがやつがしらは、長く離れてはいなかった。かれはやって来て言った。「わたしは、あなたの知らないことを見つけました。わたしは、確かな知らせを持って、サバアからあなたのもとに来ました。わたしは、一人の女がかれらを治めているのを見ました。かの女はあらゆるものを授けられ、壮大な王座を持っています。わたしは、かの女とその民が、アッラーをさしおいて太陽にひれ伏しているのを見ました。悪魔がかれらの行いを、かれらの目に美しく見せ、かれらを道から妨げたのです。それでかれらは導かれていません―天と地に隠されているものを現し、あなたがたが隠すことも表すことも知っておられるアッラーに、かれらはひれ伏さないのです。アッラー―かれのほかに神はなく、偉大な玉座の主であられます。」スライマーンは言った。「おまえが真実を語ったのか、それともうそつきの一人なのか、今に分かるであろう。わたしのこの手紙を持って行き、かれらに届けなさい。それからかれらのもとを離れて、どんな返事を返すかを見ていなさい。」(20-28)

女王は言った。「長老たちよ、尊い手紙がわたしに届けられました。それはスライマーンからのもので、こう書かれています。『慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。わたしに対して高ぶることなく、アッラーに帰依してわたしのもとに来なさい。』」かの女は言った。「長老たちよ、わたしのこの事について、わたしに助言しなさい。あなたがたが立ち会うまで、わたしはどんな事も決めません。」かれらは言った。「わたしたちは力を持ち、戦いにおいて大いに勇猛な者です。しかし命じるのはあなたです。ですから何を命じられるか、お考えください。」かの女は言った。「王たちは町に入ると、それを荒らし、その住民の中で最も力のある者を最も卑しい者にします。かれらはそのように振る舞うのです。わたしはかれらに贈り物を送り、使者たちが何を持ち帰るかを見ることにします。」(29-35)

かの女の使者がスライマーンのもとに来ると、かれは言った。「あなたがたは、わたしの富を増やそうというのか。アッラーがわたしに授けられたものは、あなたがたに授けられたものよりも良い。いや、自分の贈り物を喜んでいるのは、あなたがたのほうだ。かれらのもとに帰りなさい。わたしたちは必ず、かれらが立ち向かうことのできない軍勢を率いてかれらのもとに行き、かれらを卑しめ、辱めてそこから追い出す。」かれは言った。「長老たちよ、かれらがアッラーに帰依してわたしのもとに来る前に、あなたがたのだれがかの女の王座をわたしに持って来るか。」ジンの中の力の強い者が言った。「あなたがその席から立ち上がる前に、わたしがそれを持って来ましょう。わたしにはそれだけの力があり、信頼できる者です。」啓典の知識を持つ者が言った。「あなたのまなざしがあなたに戻る前に、わたしがそれを持って来ましょう。」かれは、それが自分の前に据えられているのを見ると言った。「これは、わたしの主の恵みによるものである。わたしが感謝するか、恩を忘れるかを試みるためである。感謝する者は、ただ自分自身のために感謝するのである。恩を忘れる者がいても--わたしの主は満ち足りた、最も寛大な御方である。」かれは言った。「かの女のために、かの女の王座の姿を変えておきなさい。かの女が導かれるか、それとも導かれない者の一人であるかを見よう。」かの女が来ると、こう尋ねられた。「あなたの王座はこのようなものですか。」かの女は言った。「まるでそのもののようです。」スライマーンは言った。「わたしたちは、かの女より前に知識を授けられ、アッラーに帰依している。」だがかの女がアッラーをさしおいて崇めていたものが、かの女を妨げていた。かの女は、真理を否定する民の出であったからである。かの女は「宮殿にお入りください」と言われた。かの女はそれを見ると、水をたたえた池だと思い、すそを上げて両足をあらわにした。かれは言った。「これは、ガラスを滑らかに敷き詰めた宮殿です。」かの女は言った。「主よ、わたしは自分自身に不正を行っていました。わたしはスライマーンと共に、万有の主アッラーに帰依します。」 (36-44)

われらはサムードに、かれらの兄弟サーリフを遣わした。「アッラーを崇めなさい。」するとたちまち、かれらは互いに言い争う二つの派となった。かれは言った。「わたしの民よ、なぜあなたがたは、良いことの前に悪いことを急いで求めるのか。なぜアッラーの赦しを請わないのか。そうすればあなたがたは慈悲を受けるであろうに。」かれらは言った。「わたしたちは、あなたと、あなたと共にいる者たちに不吉な兆しを見る。」かれは言った。「あなたがたの兆しはアッラーのもとにある。いや、あなたがたは試みられている民である。」その町には、地上に腐敗を広め、

物事を正さない九人の男たちがいた。かれらは言った。「アッラーにかけて互いに誓い合おう。夜のうちにかれとその家族を襲い、それからかれの近親者にこう言おう。『わたしたちは、かれの家族の滅びに立ち会わなかった。わたしたちは真実を語っている。』」かれらは一つの計略を巡らし、われらもまた一つの計略を巡らした。かれらはそれに気づかなかった。見なさい、かれらの計略の最後がどうであったかを。われらは、かれらとその民をみな一緒に滅ぼした。あれがかれらの家々である。かれらが行った不正のために、崩れ落ちて廃墟となっている。まことにこの中には、知る民へのしるしがある。われらは、信仰してアッラーを畏れていた者たちを救った。 (45-53)

またルートを。かれがその民に言ったとき。「あなたがたは、目を開けたままで、あの醜行を行うのか。あなたがたは、女たちをさしおいて、欲望をもって男たちに近づくのか。いや、あなたがたは無知のままに振る舞う民である。」かれの民の答えは、ただこう言うだけであった。「ルートの一家を、あなたがたの町から追い出しなさい。かれらは身を清く保とうとする者たちなのだ。」そこでわれらは、かれとその家族を救った。ただかれの妻は別である。われらは、かの女が後に残る者の一人となるよう定めた。われらは、かれらの上に雨を降らせた—警告を受けていた者たちへの雨は、何と悪いものであったことか。 (54-58)

（預言者よ）言え、「アッラーに讃美あれ。かれが選ばれたしもべたちに平安あれ。」アッラーが良いのか。それとも、かれらが並べるものが良いのか。天と地を創り、あなたがたのために空から水を降らせたのはだれか。われらはそれによって、美しさに満ちた園を生い育てる。その木々を生い育てることは、あなたがたには決してできなかった。アッラーと並ぶ神があるのか。いや、かれらは真理からそれる民である。大地を安定した住まいとし、その中に川を設け、その上に揺るぎない山々を置き、二つの海の間に隔てを設けたのはだれか。アッラーと並ぶ神があるのか。いや、かれらの多くは知らない。苦しむ者がかれに祈るとき、それに答え、災いを取り除き、あなたがたを地上の後継者とされるのはだれか。アッラーと並ぶ神があるのか。あなたがたは何とわずかしか心に留めないことか。陸と海の暗闇の中であなたがたを導き、その慈悲に先立つ先触れとして風を送られるのはだれか。アッラーと並ぶ神があるのか。アッラーは、かれらが並べるものをはるかに超えて、高くあられる。創造を始め、それからそれを繰り返し、空と地からあなたがたに糧を授けられるのはだれか。アッラーと並ぶ神があるのか。言え、「あなたがたの証拠を持って来なさい。あなたがたが真実を語っているなら。」 (59-64)

言え、「天と地にいる者は、アッラーのほかにだれも、目に見えないものを知らない。またかれらは、いつよみがえらされるのかも気づかない。」いや、かれらの知識は来世にまで届かない。いや、かれらはそれについて疑っている。いや、かれらはそれについて目が見えない。真理を否定する者たちは言う。「わたしたちも父祖たちも土になったとき、本当に引き出されるのか。わたしたちも父祖たちも、以前にこのことを約束された。これは昔の人々の作り話にすぎない。」言え、「地上を旅して、罪を犯す者たちの最後がどうであったかを見なさい。」かれらのことで悲しんではならない。かれらのたくらみに心を悩ませてはならない。かれらは言う。「この約束はいつ果たされるのか。あなたがたが真実を語っているなら。」言え、「あなたがたが急いで求めているものの一部は、あなたがたのすぐ後ろに迫っているかもしれない。」まことにあなたの主は、人々に対して恵みに満ちておられる。だがかれらの多くは感謝しない。まことにあなたの主は、かれらの胸が隠すことも、表すことも知っておられる。天と地に隠されているもので、明らかな書の中にないものは何もない。 (65-75)

まことにこのクルアーンは、イスラエルの子孫に、かれらが意見を異にしていることのほとんどを語り聞かせる。まことにこれは、信者たちへの導きであり慈悲である。まことにあなたの主は、ご自分の裁定によってかれらの間を裁かれる。かれは偉力ならびなく、すべてを知っておられる御方である。だからアッラーにすべてを委ねなさい。あなたは明白な真理の上に立っている。あなたは死者に聞かせることはできず、耳の聞こえない者たちが背を向けて去って行くとき、その呼びかけを聞かせることもできない。またあなたは、目の見えない者たちをその迷いから導き出すこともできない。あなたが聞かせることができるのは、われらのしるしを信じ、それゆえ帰依した者たちだけである。かれらに対する言葉が現実となるとき、われらはかれらのために、大地から一つの生き物を出し、それがかれらに語りかける。人々はわれらのしるしを確信していなかった、と。その日われらは、どの共同体からも、われらのしるしを偽りとした者たちの一群を集め、かれらは隊列を組まされる―やがてかれらが来ると、かれは言われる。「あなたがたは、わたしのしるしを、知識によって十分に理解もしないで偽りとしたのか。それとも、あなたがたは何をしていたのか。」かれらが行った不正のために、かれらに対する言葉は現実となり、かれらは何も言えない。 (76-85)

かれらは見なかったのか。われらが、かれらがその中で休むように夜を設け、昼を、物を見せるものとしたのを。まことにこの中には、信仰する民への数々のしるしが

ある。ラッパが吹かれる日、天にいるすべての者も、地にいるすべての者も、恐怖に打たれる。ただアッラーが望まれる者は別である。そしてみな、へりくだってかれのもとに来る。あなたは、山々を見て、堅く動かないものと思う。だがそれらは、雲が流れ去るように流れ去る。これは、すべてのものを完全に造られたアッラーの御業である。かれは、あなたがたの行うことによく通じておられる。善い行いを持って来る者には、それよりも良いものがあり、かれらはその日の恐怖から安全である。だが悪い行いを持って来る者―かれらは、顔を下にして業火の中に投げ込まれる。「あなたがたは、自分が行っていたこと以外のことで報いられるのか。」「わたしは、この町の主を崇めるよう命じられただけである。かれはこの町を神聖なものとされ、すべてのものはかれのものである。またわたしは、アッラーに帰依する者の一人となり、クルアーンを読誦するよう命じられた。」だから導かれる者は、ただ自分自身のために導かれるのである。迷う者には言え、「わたしは警告者の一人にすぎない。」また言え、「アッラーに讃美あれ。かれは、ご自分のしるしをあなたがたに示され、あなたがたはそれを認めるであろう。あなたの主は、あなたがたの行うことに無頓着ではない。」 (86-93)

28. 物語 (Al-Qaṣaṣ)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ター・スィーン・ミーム。これらは、明らかな啓典の節である。（預言者よ）われらは、信仰する民のために、ムーサーとフィルアウンの物語の一部を、真理によってあなたに読み聞かせる。フィルアウンはその地で高ぶり、その住民を諸派に分け、その中の一団を虐げて、その息子たちを殺し、女たちを生かしておいた。かれは腐敗を広める者の一人であった。だがわれらは、その地で虐げられていた者たちに恵みを施し、かれらを指導者とし、かれらを相続者とし、かれらにその地で確かな地位を与え、フィルアウンとハーマーンとその軍勢に、かれらが恐れていたまさにそのことを、かれらの手によって見せようと望んだ。 (1-6)

われらは、ムーサーの母に啓示した。「かれに乳を飲ませなさい。そしてかれの身を案じるときは、かれを川に投げ入れなさい。恐れてはならない。悲しんではならない。われらは、かれをあなたのもとに返し、かれを使徒の一人とする。」それからフィルアウンの一家がかれを拾い上げた。かれが、かれらにとって敵となり、悲しみとなるためである。まことにフィルアウンとハーマーンとその軍勢は、過ちを犯す者たちであった。フィルアウンの妻は言った。「わたしにとっても、あなたにとっても目の喜びです。この子を殺さないでください。わたしたちの役に立つかもしれません。あるいは、わたしたちの息子にしてもよいでしょう。」かれらは気づいていなかった。ムーサーの母の心は、ほかのすべてのことについて空になった。もしわれらが、かの女が信者の一人であるように、その心を強めなかったなら、かの女は危うくかれのことを明かすところであった。かの女は、かれの姉に言った。「かれの後を追いなさい。」そこで姉は、かれらに気づかれないように、遠くからかれを見守った。われらは初めから、かれに乳母たちを拒ませていた。そこで姉は言った。「あなたがたのためにこの子を育て、よく世話をする一家を、あなたがたに教えましょうか。」こうしてわれらは、かれをその母のもとに返した。かの女の目が慰められ、悲しまないように、またアッラーの約束が真実であることを、かの女が知るように。だがかれらの多くは知らない。 (7-13)

かれが力の盛りに達して成熟したとき、われらはかれに判断力と知識を授けた。このようにわれらは、善を行う者たちに報いる。かれは、その住民が気づかない時に町に入り、そこで二人の男が争っているのを見た。一人はかれ自身の民の者であり、もう一人はかれの敵の者であった。かれの民の者が、敵の者に対してかれに助けを

求めた。そこでムーサーは、その者をこぶしで打ち、その命を絶ってしまった。かれは言った。「これは悪魔のしわざだ。かれは、人を迷わせる明らかな敵である。」かれは言った。「主よ、わたしは自分自身に不正を行いました。ですからわたしを赦してください。」そこでかれは、かれを赦された。かれこそは、よく赦し、慈愛深い御方である。かれは言った。「主よ、あなたがわたしに恵みを授けてくださったのですから、わたしは決して罪を犯す者たちの味方にはなりません。」 (14-17)

翌朝、かれは恐れ、あたりを警戒しながら町にいた。すると前の日にかれの助けを求めた者が、また助けを求めて叫んだ。ムーサーはその者に言った。「あなたは明らかにもめ事を起こす者だ。」だがかれが、二人の敵である者に手をかけようとしたとき、その男は言った。「ムーサーよ、昨日一人の男を殺したように、わたしも殺そうというのか。あなたはこの地で暴君になりたいだけだ。物事を正す者の一人になりたいのではない。」そのとき、町の遠い端から一人の男が走って来て言った。「ムーサーよ、長老たちが、あなたを殺そうと相談しています。ですからお逃げなさい。わたしは、あなたに誠実な忠告をしているのです。」そこでかれは、恐れ、あたりを警戒しながら、その町を出て言った。「主よ、不正を行う民からわたしを救ってください。」 (18-21)

かれがマドヤンのほうに顔を向けたとき、かれは言った。「わたしの主が、わたしを正しい道に導いてくださるかもしれない。」かれがマドヤンの水場に来ると、そこで大勢の人々が家畜に水を飲ませているのを見た。またかれらから離れて、二人の女が自分の家畜を押しとどめているのを見た。かれは言った。「お二人はどうされたのですか。」かの女たちは言った。「羊飼いたちが家畜を連れ去るまで、わたしたちは水を飲ませることができません。それにわたしたちの父は、たいへん年老いています。」そこでかれは、かの女たちのために家畜に水を飲ませ、それから日陰に退いて言った。「主よ、あなたがわたしに下してくださるどんな良いものでも、わたしはそれを必要としています。」やがて二人のうちの一人が、恥ずかしそうに歩いてかれのもとに来て言った。「父があなたをお招きしています。わたしたちのために水を飲ませてくださったことに、お礼をしたいのです。」かれがその人のもとに来て、身の上を語ると、その人は言った。「恐れることはない。あなたは、不正を行う民から逃れたのだ。」二人のうちの一人が言った。「お父さま、この方を雇ってください。あなたが雇える最も良い人は、強くて信頼できる人です。」その人は言った。「わたしは、この二人の娘のうちの一人を、あなたと結婚させたいと思う。あなたが八年間、わたしに仕えることを条件としてである。もしあなたが十

年を満たすなら、それはあなたの自由な意志による。わたしは、あなたに無理を強いるつもりはない。アッラーがお望みなら、あなたは、わたしが正しい者の一人であることを知るであろう。」かれは言った。「それは、わたしとあなたの間で決まったことです。二つの期限のどちらをわたしが果たしても、わたしに対して不当なことがありませんように。アッラーは、わたしたちの言うことの証人です。」 (22-28)

ムーサーがその期限を満たして、家族と共に旅をしていたとき、かれは山の方に火を認めた。かれは家族に言った。「ここで待っていなさい。わたしは火を認めた。そこから何かの知らせを、あるいはあなたがたが暖まれるように、火の燃えさしを持って来られるかもしれない。」かれがそこに来ると、谷の右側の、祝福された地にある木から、声が呼びかけた。「ムーサーよ、まことにわたしはアッラー、万有の主である。あなたのつえを投げなさい。」だがかれは、それが蛇のようにのたうつのを見ると、背を向けて逃げ出し、振り返りもしなかった。「ムーサーよ、近くに来なさい。恐れてはならない。あなたは安全である。あなたの手を衣のふところに入れなさい。それは何の害もなく、白くなって出て来る。また恐れを静めるために、あなたの腕を身に引き寄せなさい。これらは、あなたの主から、フィルアウンとその長老たちへの二つの証拠である。かれらは背くことに身を任せた民である。」かれは言った。「主よ、わたしはかれらの一人を殺しました。それでかれらに殺されることを恐れます。わたしの兄弟ハールーンは、わたしよりも弁舌が巧みです。ですからかれを、わたしの正しさを確かめる助け手として、わたしと共に遣わしてください。わたしは、かれらがわたしを偽りとすることを恐れます。」かれは言われた。「われらは、あなたの兄弟によってあなたの腕を強め、あなたがた二人に権威を授ける。それでかれらは、あなたがたに手が届かない。われらのしるしによって、あなたがた二人と、あなたがたに従う者たちが勝利者となる。」 (29-35)

だがムーサーが、われらの明らかなしるしを持ってかれらのもとに来ると、かれらは言った。「これは、作り上げられた魔術にすぎない。わたしたちは、昔の父祖たちの間でこんなことを聞いたことがない。」ムーサーは言った。「わたしの主は、だれがかれのもとから導きを持って来たのか、また最後の住まいがだれのものとなるのかを、最もよく知っておられる。まことに不正を行う者たちは、成功しない。」フィルアウンは言った。「長老たちよ、わたしは、おまえたちのために、わたしのほかに神があることを知らない。だからハーマーンよ、わたしのために粘土に火を

たいて焼き、高い塔を建てなさい。わたしがムーサーの神のもとに登って行けるように―もっともわたしは、かれをうそつきの一人だと思っている。」 (36-38)

かれとその軍勢は、正当な理由もなくその地で高慢に振る舞い、自分たちがわれらのもとに帰されることはないと思っていた。そこでわれらは、かれとその軍勢を捕らえ、海の中に投げ込んだ。見なさい、不正を行う者たちの最後がどうであったかを。われらはかれらを、業火へと招く指導者とした。復活の日に、かれらが助けられることはない。われらは、現世でかれらに呪いを付きまとわせた。復活の日には、かれらは忌み嫌われる者の中にいる。われらは、以前の諸世代を滅ぼした後で、ムーサーに啓典を授けた。人々への明らかな洞察として、また導きと慈悲としてである。かれらが心に留めるように。 (39-43)

（ムハンマドよ）われらがムーサーにその事を定めたとき、あなたは西の側にいたのではなく、立ち会った者の一人でもなかった。だがわれらは、幾世代もの人々を興し、かれらの上に長い年月が過ぎた。またあなたは、マドヤンの人々の間に住んで、われらのしるしをかれらに読み聞かせていたのでもない。だが使徒たちを遣わしたのは、われらである。またわれらが呼びかけたとき、あなたは山の傍らにいたのでもない。だがこれは、あなたの主からの慈悲である。あなた以前に警告者が来なかった民に、あなたが警告するためである。かれらが心に留めるように。また、かれら自身の手が先に送ったもののために災いがかれらを襲ったとき、かれらがこう言わないためである。「主よ、あなたがわたしたちに使徒を遣わしてくださっていたなら、わたしたちはあなたのしるしに従い、信者の仲間になっていたでしょうに。」ところが今、われらのもとから真理がかれらに来ると、かれらは言う。「なぜかれには、ムーサーに授けられたのと同じものが授けられないのか。」かれらは以前に、ムーサーに授けられたものを否定しなかったのか。かれらは「互いに助け合う二つの魔術だ」と言い、また「わたしたちはそのどちらも否定する」と言う。言え、「それなら、この二つよりも良く導く啓典を、アッラーのもとから持って来なさい。わたしはそれに従おう。あなたがたが真実を語っているなら。」もしかれらがあなたに答えないなら、かれらは自分の欲望に従っているだけだと知りなさい。アッラーからの導きもなく、自分の欲望に従う者よりも迷っている者がだれかあろうか。まことにアッラーは、不正を行う民を導かれない。 (44-50)

われらは、かれらが心に留めるように、この言葉をかれらに届けた。これより前にわれらが啓典を授けた者たちは、これを信じる。これがかれらに読み聞かされると、

かれらは言う。「わたしたちはこれを信じます。これはわたしたちの主からの真理です。わたしたちは、これより前からアッラーに帰依していました。」これらの者は、その報奨を二度授けられる。かれらが耐え忍び、善によって悪を退け、われらが授けたものの中から施すからである。またかれらは、無益な話を聞くと、それから遠ざかって言う。「わたしたちにはわたしたちの行いがあり、あなたがたにはあなたがたの行いがある。あなたがたに平安あれ。わたしたちは無知な者たちを求めない。」 (51-55)

（預言者よ）あなたは、自分の愛する者を導くことはできない。だがアッラーは、望まれる者を導かれる。かれは、導かれる者たちを最もよく知っておられる。かれらは言う。「もしわたしたちが、あなたと共に導きに従うなら、わたしたちは自分の土地からさらわれてしまう。」われらは、かれらのために安全な聖域を確立し、そこにあらゆる種類の果実が、われらからの糧として運ばれて来るようにしたではないか。だがかれらの多くは知らない。われらは、自分の暮らしぶりにおごっていた町を、どれほど多く滅ぼしたことか。あれがかれらの住まいである。かれらの後、わずかの間を除いて、人が住んだことはない。受け継ぐ者は、われらである。あなたの主は、その母なる町に、われらのしるしを読み聞かせる使徒を興すまでは、決して町々を滅ぼされない。またわれらは、その住民が不正を行う者でない限り、町々を滅ぼすことはない。あなたがたに授けられたものは何であれ、現世の生活の楽しみと、その飾りにすぎない。だがアッラーのもとにあるものは、より良く、より長く続く。それでもあなたがたは悟らないのか。 (56-60)

われらが良い約束をし、その果たされるのを見る者は、われらが現世の生活の楽しみを与え、復活の日には裁きのために引き出される者の一人となる者と、同じであろうか。かれがかれらに呼びかけて、「あなたがたが言い立てていた、わたしの同位者たちはどこにいるのか」と言われる日、言葉が現実となった者たちは言う。「主よ、これらは、わたしたちが迷わせた者たちです。わたしたち自身が迷っていたように、かれらを迷わせました。わたしたちは、あなたの御前でかれらとかかわりを断ちます。かれらが崇めていたのは、わたしたちではありません。」そしてこう言われる。「あなたがたの同位者たちを呼びなさい。」かれらは呼ぶが、それらは答えない。そしてかれらは懲罰を見る―かれらが導かれていたならよかったのに。かれがかれらに呼びかけて、「あなたがたは使徒たちにどう答えたのか」と言われる日、その日、すべての知らせはかれらに閉ざされ、かれらは互いに尋ね合うことさえしない。だが悔い改め、信仰し、善行に励む者は、成功する者の一人となるで

あろう。あなたの主は、望まれるものを創り、選ばれる。選ぶことは、かれらにはできない。アッラーに栄光あれ。かれは、かれらが並べるものをはるかに超えて、高くあられる。あなたの主は、かれらの胸が隠すことも、表すことも知っておられる。かれこそはアッラーであり、かれのほかに神はない。現世でも来世でも、讃美はかれのものである。裁きはかれのものであり、あなたがたはかれのもとに帰される。 (61-70)

（預言者よ）言え、「あなたがたは考えてみたか。もしアッラーが、復活の日まで、あなたがたの上に夜をいつまでも続かせられたなら、アッラーのほかのどの神が、あなたがたに光をもたらすことができるであろうか。それでもあなたがたは聞かないのか。」言え、「あなたがたは考えてみたか。もしアッラーが、復活の日まで、あなたがたの上に昼をいつまでも続かせられたなら、アッラーのほかのどの神が、あなたがたが休むための夜をもたらすことができるであろうか。それでもあなたがたは見ないのか。」かれは、その慈悲によって、あなたがたのために夜と昼を設けられた。あなたがたが一方で休み、もう一方でかれの恵みを求め、そして感謝するためである。かれがかれらに呼びかけて、「あなたがたが言い立てていた、わたしの同位者たちはどこにいるのか」と言われる日、われらはどの共同体からも一人の証人を引き出して言う。「あなたがたの証拠を持って来なさい。」そのときかれらは、真理がアッラーのものであることを知り、かれらが作り上げていたすべてのものは、かれらを見捨てる。 (71-75)

カールーンは、ムーサーの民の一人であったが、かれらを虐げた。われらは、その倉のかぎだけでも、力の強い者たちの一団に重くのしかかるほどの財宝を、かれに授けていた。かれの民は、かれに言った。「おごり高ぶってはならない。アッラーは、おごり高ぶる者たちを愛されない。アッラーがあなたに授けられたものによって、来世の住まいを求めなさい。だが現世でのあなたの分け前も忘れてはならない。アッラーがあなたに善くしてくださったように、善を行いなさい。地上で腐敗を求めてはならない。アッラーは、腐敗を広める者たちを愛されない。」かれは言った。「これは、わたしの持つ知識のおかげで、わたしに授けられたものにほかならない。」かれは知らなかったのか。アッラーがかれ以前に、かれよりも力が強く、蓄えたものも多かった諸世代を滅ぼされたことを。だが罪を犯す者たちは、その罪について尋ねられもしない。そしてかれは、着飾って民の前に出て行った。現世の生活を望む者たちは言った。「ああ、カールーンに授けられたのと同じものが、わたしたちにもあったならよいのに。かれは本当に大きな幸運に恵まれた人だ。」だが

知識を授けられた者たちは言った。「あなたがたは情けない。信仰して善行に励む者には、アッラーの報奨のほうが良い―そしてそれは、耐え忍ぶ者たちのほかには授けられない。」それからわれらは、かれとその住まいを大地にのみ込ませた。かれには、アッラーに対してかれを助ける一団もなく、自分で自分を助けることのできる者でもなかった。つい前の日まで、かれの立場にあることを願っていた者たちは、こう言い始めた。「ああ、アッラーは、そのしもべたちの中の望まれる者に糧を広げ、またそれを量って授けられるのだ。もしアッラーがわたしたちに恵みを施されなかったなら、わたしたちものみ込まされていたであろう。ああ、真理を否定する者たちは成功しないのだ。」 (76-82)

その来世の住まいを、われらは、地上で高ぶることも、腐敗を広めることも求めない者たちに授ける。最後の良い結末は、アッラーを畏れる者たちのものである。善い行いを持って来る者には、それよりも良いものがある。悪い行いを持って来る者―悪い行いをした者たちは、ただ自分の行ったことに応じて報いられるだけである。あなたにクルアーンを義務として課された御方は、必ずあなたを帰り着く所に戻される。言え、「わたしの主は、だれが導きを持って来たのか、だれが明らかな迷いの中にいるのかを、最もよく知っておられる。」あなたは、この啓典が自分に授けられるとは期待していなかった。それは、ただあなたの主からの慈悲であった。だから決して、真理を否定する者たちの味方になってはならない。アッラーのしるしがあなたに下された後で、決してかれらがあなたをそこからそらせることのないようにしなさい。あなたの主へと招きなさい。かれに何かを並べる者の一人となってはならない。アッラーと並べてほかの神に祈ってはならない。かれのほかに神はない。かれの御顔のほかは、すべてのものが滅びる。裁きはかれのものであり、あなたがたはかれのもとに帰される。 (83-88)

29. 蜘蛛 (Al-ʿAnkabūt)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ミーム。人々は、「わたしたちは信じます」と言うだけで放っておかれ、試みられることはないと思うのか。われらは、かれら以前の者たちを試みた。アッラーは必ず、真実を語る者たちを明らかにし、うそつきたちをも必ず明らかにされる。それとも悪い行いをする者たちは、われらを出し抜けると思うのか。かれらの判断は何と悪いことか。アッラーとの会見を望む者―アッラーの定められた期限は必ず来る。かれこそは全聴にして全知の御方である。奮闘する者は、ただ自分自身のために奮闘するのである。アッラーは、万有を少しも必要とされない。信仰して善行に励む者たちについては、われらは必ず、その悪い行いをかれらから消し去り、かれらが行った最も良いことに応じて報いる。われらは人間に、両親に孝行するよう命じた。だがもし両親が、あなたの知識にないものをわたしに並べさせようと努めるなら、かれらに従ってはならない。あなたがたの帰り着く先は、わたしのもとである。わたしは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げる。信仰して善行に励む者たち―われらは必ず、かれらを正しい者たちの中に入れる。(1-9)

人々の中には、「わたしたちはアッラーを信じます」と言う者がいる。だがアッラーの道のために害を受けると、人々からの迫害を、アッラーの懲罰であるかのように受け取る。それでいて、あなたの主から助けが来ると、かれらは必ず言う。「わたしたちは、ずっとあなたがたと共にいました。」アッラーは、すべての者の胸の中にあるものを最もよく知っておられるのではないか。アッラーは必ず、信仰する者たちを明らかにし、偽信者たちをも必ず明らかにされる。真理を否定する者たちは、信仰する者たちに言う。「わたしたちの道に従いなさい。あなたがたの罪は、わたしたちが負おう。」だがかれらは、その罪を少しも負いはしない。かれらはうそつきである。かれらは必ず、自分自身の重荷を負い、その重荷と共にほかの重荷も負う。そして復活の日に、かれらが作り上げていたことについて、必ず問われる。(10-13)

われらはヌーフをその民に遣わした。かれは、千年に五十年足りない間、かれらの中にとどまった。それから、かれらが不正を続けているうちに、洪水がかれらを襲った。だがわれらは、かれと舟の中の者たちを救い、それを万有へのしるしとした。(14-15)

またイブラーヒームを。かれがその民に言ったとき。「アッラーを崇め、かれを畏れなさい。あなたがたが知っているなら、それがあなたがたにとってより良い。あなたがたは、アッラーをさしおいて、ただの偶像を崇め、偽りを作り上げている。あなたがたがアッラーをさしおいて崇めるものには、あなたがたに糧を授ける力はない。だからアッラーに糧を求め、かれを崇め、かれに感謝しなさい。あなたがたは、かれのもとに帰される。もしあなたがたがこの伝言を偽りとするなら、あなたがた以前の諸共同体もまた偽りとした。使徒の務めは、明らかに伝えることだけである。」 (16-18)

かれらは見ないのか。アッラーがどのように創造を始め、それからそれを繰り返されるかを。それは、アッラーにとって確かに易しいことである。言え、「地上を旅して、かれがどのように創造を始められたかを見なさい。それからアッラーは、後の創造を生み出される。アッラーは万事に全能である。かれは、望まれる者を罰し、望まれる者に慈悲をかけられる。あなたがたは、かれのもとに戻される。あなたがたは、地上でも天でも、かれから逃れることはできない。あなたがたには、アッラーのほかに守護者も援助者もない。」アッラーのしるしと、かれとの会見を否定する者たち―かれらは、わたしの慈悲に絶望した者であり、かれらには痛ましい懲罰がある。 (19-23)

かれの民の答えは、ただこう言うだけであった。「かれを殺せ。あるいは焼いてしまえ。」だがアッラーは、かれを火から救われた。まことにこの中には、信仰する民への数々のしるしがある。かれは言った。「あなたがたは、ただ現世の生活での互いの親しみから、アッラーをさしおいて偶像を持ったにすぎない。だが復活の日には、あなたがたは互いにかかわりを否み、互いに呪い合う。あなたがたの避け所は業火であり、あなたがたには援助者はない。」ルートはかれを信じた。かれは言った。「わたしは、わたしの主のもとへ移住する。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。」われらはかれに、イスハークとヤアクーブを授け、かれの子孫の中に預言者の務めと啓典を置いた。われらは、現世でかれに報奨を授けた。来世では、かれは正しい者たちの中にいる。 (24-27)

またルートを。かれがその民に言ったとき。「あなたがたは、あなたがた以前に世のだれも行ったことのない醜行を行っている。あなたがたは男たちに近づき、街道で人を襲い、集まりの中で忌まわしいことを行うのか。」かれの民の答えは、ただこう言うだけであった。「アッラーの懲罰を、わたしたちに持って来なさい。あな

たが真実を語っているなら。」かれは言った。「主よ、腐敗を広める民に対して、わたしを助けてください。」われらの使いたちが吉報を持ってイブラーヒームのもとに来たとき、かれらは言った。「わたしたちは、あの町の住民を滅ぼそうとしています。その住民は不正を行う者たちです。」かれは言った。「だがそこにはルートがいます。」かれらは言った。「そこにだれがいるかは、わたしたちが最もよく知っています。わたしたちは必ず、かれとその家族を救います。ただかれの妻は別です。かの女は後に残る者の一人となります。」われらの使いたちがルートのもとに来たとき、かれはかれらのことで心を痛め、かれらを守る力がないと感じた。かれらは言った。「恐れてはなりません。悲しんではなりません。わたしたちは、あなたとあなたの家族を救います。ただあなたの妻は別です。かの女は後に残る者の一人となります。わたしたちは、この町の住民の上に、かれらが背いたことのために、天からの災いを下そうとしています。」われらは、理解する民のために、その町の明らかなしるしを残した。 (28-35)

またマドヤンには、かれらの兄弟シュアイブを遣わした。かれは言った。「わたしの民よ、アッラーを崇め、最後の日を待ち望みなさい。腐敗を広めながら地上を歩き回ってはならない。」だがかれらはかれを偽りとした。そこで地震がかれらを捕らえ、朝にはかれらは、自分の家の中で倒れ伏していた。またアードとサムードを――それは、かれらの住まいの跡から、あなたがたに明らかである。悪魔がかれらの行いを、かれらの目に美しく見せ、かれらを道から妨げた。かれらは物の見える者たちであったのに。またカールーンとフィルアウンとハーマーンを。ムーサーは明らかなしるしを持ってかれらのもとに来た。だがかれらは、その地で高慢に振る舞った。それでもかれらは、われらを出し抜くことはできなかった。われらは、そのそれぞれを、その罪のために捕らえた。ある者には石のあらしを送り、ある者は轟音に捕らえられ、ある者は大地にのみ込ませ、ある者は溺れさせた。アッラーがかれらに不正を行われたのではない。かれらが自分自身に不正を行ったのである。アッラーのほかに守護者を持つ者たちのたとえは、自分のために家を作る蜘蛛のようである――家の中で最ももろいのは、蜘蛛の家である。かれらがそれを知っていたなら。アッラーは、かれらがかれをさしおいて祈り求めるものを何でも知っておられる。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。これらは、われらが人々のために示すたとえである。だが知識のある者たちのほかは、それを理解しない。アッラーは、真理によって天と地を創られた。まことにこの中には、信者たちへのしるしがある。 (36-44)

（預言者よ）啓典の中からあなたに啓示されたものを読誦し、礼拝を守りなさい。礼拝は、醜行と悪事から人を遠ざける。アッラーを思い起こすことは、さらに大きなことである。アッラーは、あなたがたの行うことを知っておられる。啓典の民とは、最も良いやり方によるほかは、言い争ってはならない―ただしかれらの中で不正を行う者たちは別である―そして言いなさい。「わたしたちは、わたしたちに下されたものと、あなたがたに下されたものを信じます。わたしたちの神とあなたがたの神は唯一であり、わたしたちはかれに帰依します。」このようにわれらは、あなたに啓典を下した。われらが啓典を授けた者たちは、これを信じる。またこれらの人々の中にも、これを信じる者がいる。われらのしるしを否定するのは、真理を否定する者たちだけである。 (45-47)

あなたは、これより前にどんな書物も読んだことはなく、右手でそれを書いたこともなかった。もしそうであったなら、偽りに従う者たちは疑う理由を持ったであろう。いや、これは、知識を授けられた者たちの胸の中にある明らかなしるしである。われらのしるしを否定するのは、不正を行う者たちだけである。かれらは言う。「なぜかれの主から、かれにしるしが下されないのか。」言え、「しるしは、ただアッラーのもとにある。わたしは明らかな警告者にすぎない。」われらが、かれらに読み聞かされるこの啓典をあなたに下したことは、かれらにとって十分ではないのか。まことにこの中には、信仰する民への慈悲と訓戒がある。言え、「わたしとあなたがたの間の証人として、アッラーは十分である。かれは、天と地にあるすべてのものを知っておられる。偽りを信じ、アッラーを否定する者たち―かれらこそ損失者である。」 (48-52)

かれらは、懲罰を急いでもたらすよう、あなたに迫る。もし期限が定められていなかったなら、懲罰はすでにかれらに来ていたであろう。それは必ず、かれらが気づかないうちに、にわかにかれらに臨む。かれらは、懲罰を急いでもたらすよう、あなたに迫る―だが地獄は必ず、真理を否定する者たちを取り囲む。その日、懲罰は上からも足の下からもかれらを覆い、かれは言われる。「あなたがたが行っていたことを味わいなさい。」 (53-55)

信仰するわたしのしもべたちよ、わたしの大地は広い。だからわたしだけを崇めなさい。どの魂も死を味わう。それからあなたがたは、われらのもとに帰される。信仰して善行に励む者たち―われらは必ず、かれらを、川が下を流れる楽園の高殿に住まわせ、かれらは永遠にそこにとどまる。働く者たちへの報奨は、何と優れてい

ることか。かれらは耐え忍び、自分の主にすべてを委ねる者たちである。自分の糧を運ばない生き物が、どれほど多くいることか。アッラーが、それにもあなたがたにも糧を授けられる。かれこそは全聴にして全知の御方である。もしあなたがかれらに、だれが天と地を創り、太陽と月を従わせたのかと尋ねるなら、かれらは必ず「アッラーだ」と言う。それなのに、かれらはどうして背かされるのか。アッラーは、そのしもべたちの中の望まれる者に糧を広げ、またその者のためにそれを量って授けられる。アッラーはすべてのことを知っておられる。もしあなたがかれらに、だれが空から水を降らせ、それによって死んだ後の大地に命を与えるのかと尋ねるなら、かれらは必ず「アッラーだ」と言う。言え、「アッラーに讃美あれ。」だがかれらの多くは理解しない。 (56-63)

この現世の生活は、気晴らしと戯れにすぎない。来世の住まいこそ、真の生である。かれらがそれを知っていたなら。かれらは舟に乗ると、ひたすらアッラーだけに信仰をささげて、かれに祈る。だがかれが、かれらを無事に陸に上げられると、たちまちかれらはかれに何かを並べる。われらが授けたものに対して恩を忘れ、しばらくの間楽しむのである。だがかれらは、やがて知るであろう。かれらは見ないのか。周りでは人々がさらわれているのに、われらが安全な聖域を設けたのを。それでもかれらは、偽りを信じ、アッラーの恵みを否定するのか。アッラーについて偽りを作り上げ、あるいは真理が自分のもとに来たときにそれを否定する者よりも、不正な者がだれかあろうか。地獄の中には、真理を否定する者たちの住まいがあるではないか。だがわれらのために奮闘する者たち―われらは必ず、かれらをわれらの道に導く。まことにアッラーは、善を行う者たちと共におられる。 (64-69)

30. ローマ人 (Al-Rūm)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ミーム。ローマ人たちは、最も近い地で打ち負かされた。だがかれらは、その敗北の後、数年のうちに勝利を得る。前にも後にも、決定はアッラーのものである。その日、信者たちはアッラーの助けを喜ぶ。かれは、望まれる者を助けられる。かれこそは偉力ならびなく、慈愛深い御方である。これはアッラーの約束である。アッラーは、その約束を破られない。だが人々の多くは知らない。かれらは、現世の生活の表面だけを知り、来世については無頓着である。かれらは、自分自身の中で考えてみなかったのか。アッラーは、天と地と、その間にあるすべてのものを、ただ真理によって、定められた期限のために創られた。それでも人々の多くは、自分の主と会見することを否定する。 (1-8)

かれらは地上を旅して、かれら以前の者たちの最後がどうであったかを見なかったのか。その者たちは、かれらよりも力が強く、大地を耕し、この者たちが築いたよりも多くそれを築き上げた。かれらの使徒たちは、明白なしるしを持ってかれらのもとに来た。アッラーがかれらに不正を行われたのではない。かれらが自分自身に不正を行ったのである。それから、悪を行った者たちの最後は悪いものであった。かれらがアッラーのしるしを偽りとし、それをあざけっていたからである。アッラーは創造を始め、それからそれを繰り返される。それからあなたがたは、かれのもとに帰される。 (9-11)

その時が訪れる日、罪を犯す者たちは、絶望のあまり言葉を失う。かれらの同位者たちの中には、かれらのためにとりなす者はなく、かれらは自分の同位者たちを否む。その時が訪れる日―その日、かれらは分けられる。信仰して善行に励んだ者たちは、緑の園の中で喜びに満たされる。だが真理を否定し、われらのしるしと来世での会見を偽りとした者たち―かれらは懲罰の中に引き出される。 (12-16)

だから夕べを迎えるときも、朝に起きるときも、アッラーの栄光を讃えなさい―天と地において、讃美はかれのものである―また午後の遅い時にも、真昼を迎えるときにも。かれは、死んだものから生きたものを出し、生きたものから死んだものを出し、死んだ後の大地に命を与えられる。そのように、あなたがたも引き出される。かれのしるしの一つは、かれがあなたがたを土から創られたことである。そして見よ、あなたがたは、遠く広く散らばる人間となった。またかれのしるしの一つは、

あなたがたのために、あなたがた自身の中から配偶者を創られたことである。あなたがたがその人のもとで安らぎを得るためである。かれは、あなたがたの間に愛と慈悲を置かれた。まことにこの中には、深く考える民への数々のしるしがある。またかれのしるしの一つは、天と地の創造と、あなたがたの言葉と肌の色がさまざまであることである。まことにこの中には、知る者たちへの数々のしるしがある。またかれのしるしの一つは、夜と昼のあなたがたの眠りと、あなたがたがかれの恵みを求めることである。まことにこの中には、耳を傾ける民への数々のしるしがある。またかれのしるしの一つは、恐れと望みを抱かせるために、あなたがたに稲妻を見せ、空から水を降らせ、それによって死んだ後の大地に命を与えられることである。まことにこの中には、理解する民への数々のしるしがある。 (17-24)

またかれのしるしの一つは、天と地がかれの命令によって堅く立っていることである。[37] (25)

それから、かれがただ一度の呼びかけで、あなたがたを大地から呼ばれると、見よ、あなたがたは出て来る。天と地にいる者は、みなかれのものである。すべての者がかれに従っている。かれこそは、創造を始め、それからそれを繰り返される御方である—それは、かれにとってなおさら易しい。天と地において、あらゆるたとえを超えた最高のものは、かれのものである。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。 (26-27)

かれは、あなたがた自身の中から、あなたがたのために一つのたとえを示される。あなたがたには、奴隷たちの中に、われらがあなたがたに授けたものを共にする同位者がいて、それについてあなたがたがかれらと同等であり、あなたがたが互いを恐れるように、かれらを恐れるということがあるか。このようにわれらは、理解する民のためにしるしを詳しく説く。いや、不正を行う者たちは、知識もなく自分の欲望に従っている。アッラーが迷うに任せられた者を、だれが導くことができようか。かれらには援助者はない。だから純正な信仰の人として、あなたの顔をこの宗教に向けなさい。これは、アッラーが人間に植えつけられた、生まれながらの本性である—アッラーの創造に変更はない。それこそ正しい宗教である。だが人々の多

[37] 機会原因論—栄光あるクルアーンと科学
絶え間ない創造の形而上学：クルアーン 30:25 と 35:41 についての科学的・哲学的・神学的注釈
動画：アッラーは、天と地が消え去らないように支えておられる
クルアーン 35:41 と 6:59 における「支えること」と「記録すること」—物理的情報理論およびシミュレーション仮説との対話
存在の中に保たれている宇宙：クルアーン 30:25 と 35:41 についての注釈

くは知らない。悔い改めてかれに立ち返り、かれを畏れ、礼拝を守りなさい。アッラーに何かを並べる者たちの仲間になってはならない。自分たちの宗教を引き裂いて諸派に分かれ、それぞれの党派が自分の持つものを喜んでいる者たちの仲間に。人々に災いが触れると、かれらは自分の主に立ち返って、かれに祈る。それから、かれがご自分からの慈悲を味わわせられると、たちまちかれらの一団は、自分の主に何かを並べる。われらが授けたものに対して恩を忘れるのである。それなら楽しむがよい—あなたがたは、やがて知るであろう。それともわれらは、かれらが並べるものについて語る何かの権威を、かれらに下したのか。 (28-35)

われらが人々に慈悲を味わわせると、かれらはそれを喜ぶ。だがかれら自身の手が先に送ったもののために、悪いことがかれらに降りかかると、たちまちかれらは絶望する。かれらは見ないのか。アッラーが、望まれる者に糧を広げ、望まれる者には切り詰められるのを。まことにこの中には、信仰する民への数々のしるしがある。だから近親者に、困窮する者に、旅人に、その当然受けるべきものを与えなさい。それは、アッラーの御顔を求める者たちにとって最も良いことである。かれらこそ成功する者である。あなたがたが、人々の財産によって増えるようにと、利子を取って与えるものは、アッラーのもとでは増えない。だがあなたがたが、アッラーの御顔を求めて、定めの喜捨として与えるもの—そのような者たちこそ、幾倍にも増やされる者である。アッラーこそは、あなたがたを創り、それから糧を授け、それからあなたがたを死なせ、それからあなたがたに命を授けられる御方である。あなたがたの同位者たちの中に、そのどれか一つでもできる者がいるか。かれに栄光あれ。かれは、かれらが並べるものをはるかに超えて、高くあられる。人々の手が稼いだことのために、陸にも海にも腐敗が現れた。かれらが行ったことの一部を、かれがかれらに味わわせるためであり、かれらが立ち返るためである。言え、「地上を旅して、あなたがた以前の者たちの最後がどうであったかを見なさい。その多くは、アッラーに何かを並べる者たちであった。」だから、退けることのできない日がアッラーのもとから来る前に、あなたの顔を正しい宗教に向けなさい。その日、かれらは分け隔てられる。真理を否定する者には、その否定が自分に降りかかる。善行に励む者たちは、自分自身のために場所を整えているのである。かれが、信仰して善行に励む者たちに、その恵みから報いられるためである。まことにかれは、真理を否定する者たちを愛されない。 (36-45)

またかれのしるしの一つは、吉報を運ぶものとして風を送られることである。あなたがたにその慈悲を味わわせ、その命令によって舟を走らせ、あなたがたがその恵

みを求め、そして感謝するためである。われらは、あなた以前にも、使徒たちをそれぞれの民に遣わした。かれらは明白なしるしを持って、その民のもとに来た。それからわれらは、罪を犯した者たちに報復した。信者たちを助けることは、常にわれらの務めであった。アッラーこそは、風を送られる御方である。風は雲を巻き起こし、それからかれは、お望みのままに雲を空に広げ、それを切れ切れにされる。そしてあなたは、その間から雨が出て来るのを見る。かれが、そのしもべたちの中の望まれる者の上にそれを降らせると、たちまちかれらは喜ぶ。それが降らされる前には、絶望していたのに。だからアッラーの慈悲の跡を見なさい--かれが、死んだ後の大地にどのように命を与えられるかを。まことにその同じ御方が、死者に命を与えられる。かれは万事に全能である。だがもしわれらが風を送り、かれらが作物の黄色くなるのを見たなら、それでもかれらは否定し続けるであろう。（預言者よ）あなたは死者に聞かせることはできず、耳の聞こえない者たちが背を向けて去って行くとき、その呼びかけを聞かせることもできない。またあなたは、目の見えない者たちをその迷いから導き出すこともできない。あなたが聞かせることができるのは、われらのしるしを信じ、それゆえ帰依した者たちだけである。アッラーこそは、あなたがたを弱いものから創り、それから弱さの後に力を授け、それから力の後に弱さと白髪を定められた御方である。かれは、望まれるものを創られる。かれこそは、すべてを知り、全能の御方である。 (46-54)

その時が訪れる日、罪を犯す者たちは、自分たちはほんのひとときしかとどまらなかったと誓う。このようにかれらは、欺かれていたのである。だが知識と信仰を授けられた者たちは言う。「あなたがたは、アッラーの定めによって、復活の日までとどまっていた--これがその復活の日である。だがあなたがたは知らなかった。」その日、不正を行った者たちの言い訳は、かれらの役に立たず、償いをすることも許されない。 (55-57)

われらは、このクルアーンの中で、人々のためにあらゆる種類のたとえを示した。それでも、あなたがかれらにしるしを持って来ると、真理を否定する者たちは必ず言う。「あなたがたは、偽りに従っているにすぎない。」このようにアッラーは、知らない者たちの心を封じられる。だから耐え忍びなさい。アッラーの約束は真実である。確信を持たない者たちに、あなたの心を乱されてはならない。 (58-60)

31. ルクマーン (Luqmān)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ミーム。これらは、英知に満ちた啓典の節であり、しるしである。善を行う者たちへの導きであり慈悲である。かれらは礼拝を守り、定めの喜捨をし、来世を固く信じる者たちである。これらの者こそ、自分の主からの導きの上に立つ者であり、これらの者こそ成功する者である。人々の中には、知識もなく人々をアッラーの道から迷わせ、それを笑いぐさにするために、無益な話を買い入れる者がいる。そのような者には、屈辱の懲罰がある。われらのしるしがその者に読み聞かされると、その者は高慢に背を向ける。まるでそれを聞かなかったかのように、まるでその両耳に重い栓があるかのように。だからその者に、痛ましい懲罰の知らせを伝えなさい。信仰して善行に励む者たちには、至福の楽園があり、かれらは永遠にそこに住む。アッラーの約束は真実である。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。かれは、あなたがたに見える柱もなしに天を創り、大地があなたがたを乗せて揺れないように、その上に揺るぎない山々を据え、その中にあらゆる種類の生き物を散らばらせられた。またわれらは、空から水を降らせ、その中にあらゆる気高い種類のものを生い育てた。[38]これがアッラーの創造である。それなら、かれのほかの者たちが何を創ったのかを、わたしに見せなさい。いや、不正を行う者たちは、明らかな迷いの中にいる。 (1-11)

われらは、ルクマーンに英知を授けた。「アッラーに感謝しなさい。」感謝する者は、ただ自分自身のために感謝するのである。恩を忘れる者がいても―アッラーは満ち足りた、あらゆる讃美にふさわしい御方である。ルクマーンが、その息子を戒めて言ったとき。「いとしい息子よ、アッラーのほかの何ものにも、神としての力があるとしてはならない。まことにそのように偽って神性を帰することは、恐ろしい不正である。」 (12-13)

われらは人間に、両親を大切にするよう命じた。母は、苦労に苦労を重ねてかれを身ごもり、その乳離れには二年かかる。わたしと、あなたの両親に感謝しなさい。旅路の果ては、わたしのもとである。だがもし両親が、あなたの知識にないものをわたしに並べさせようと努めるなら、かれらに従ってはならない。それでも現世で

[38] この節と、雷章の一節（13:2）において、神は、わたしたちの宇宙を動かし続けている重力を、ご自身の創造の力のしるしとして、また創造者（アル・ハーリク）、創り出す御方（アル・バーリウ）、形を授ける御方（アル・ムサウウィル）というご自身の属性の現れとして示しておられます。

は、思いやりをもってかれらと共に過ごし、わたしに立ち返る者の道に従いなさい。それからあなたがたの帰り着く先は、わたしのもとである。わたしは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げる。 (14-15)

またルクマーンは言った。「息子よ、たとえそれがからし種一粒の重さであっても、また岩の中にあっても、天にあっても地にあっても、アッラーはそれを取り出される。まことにアッラーは玄妙にして、すべてに通じておられる。[39] (16)

息子よ、礼拝を守り、正しいことを勧め、悪いことを禁じ、身に降りかかることを耐え忍びなさい。それは、固い決意を要することである。また高慢や軽蔑から人々に顔を背けてはならない。おごり高ぶって地上を歩いてはならない。まことにアッラーは、高慢でうぬぼれの強い者たちを愛されない。歩みは控えめにし、声は低くしなさい。まことに、声の中で最もいとわしいのは、ろばの鳴き声である。」 (17-19)

人々よ、あなたがたは見ないのか。アッラーが、天にあるすべてのものと地にあるすべてのものをあなたがたに従わせ、外に見える恵みも内に隠れた恵みも、あなたがたに惜しみなく注がれたのを。それでも人々の中には、知識も、導きも、光を放つ啓典もなく、アッラーについて言い争う者がいる。かれらは「アッラーが下されたものに従いなさい」と言われると、こう言う。「いや、わたしたちは、父祖たちが行っていたことに従う。」たとえ悪魔が、かれらを烈火の懲罰へと招いていてもか。善を行いながら、自分の顔をアッラーにささげる者は、最も堅固な取っ手をつかんだのである。すべての事の結末は、アッラーのもとにある。真理を否定する者については、その否定があなたを悲しませることのないようにしなさい。かれらの帰り着く先は、われらのもとである。われらは、かれらが行ったことをかれらに告げる。アッラーは、すべての者の胸の中にあるものをよく知っておられる。われらは、しばらくの間かれらを楽しませ、それからかれらを、押しつぶすような懲罰へと追い込む。もしあなたがかれらに、だれが天と地を創ったのかと尋ねるなら、かれらは必ず「アッラーだ」と言う。言え、「アッラーに讃美あれ。」だがかれらの多くは知らない。天と地にあるすべてのものは、アッラーのものである。まことにアッラーこそ、満ち足りた、あらゆる讃美にふさわしい御方である。 (20-26)

[39] 機会原因論—栄光あるクルアーンと科学

たとえ地上のすべての木が筆であり、海が墨であって、さらに七つの海がそれを補っても、アッラーの御言葉が尽きることはない。まことにアッラーは、偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。[40] (27)

あなたがたの創造も、あなたがたの復活も、ただ一つの魂のそれと同じである。まことにアッラーは全聴にして、すべてを見ておられる。 (28)

（預言者よ）あなたは見ないのか。アッラーが夜を昼の中に入らせ、昼を夜の中に入らせ、太陽と月を従わせられたのを。そのそれぞれは、定められた期限までその道を走る。またアッラーが、あなたがたの行うことに通じておられるのを。それは、アッラーこそ真理であり、かれらがかれをさしおいて祈り求めるものは偽りであるからであり、アッラーこそ至高にして至大の御方であるからである。あなたは見ないのか。アッラーの恵みによって、舟が海を走るのを。かれのしるしのいくつかを、あなたがたに見せるためである。まことにこの中には、よく耐え忍び、よく感謝するすべての者への数々のしるしがある。死の影のような大波がかれらを覆うと、かれらは、ひたすらアッラーだけに信仰をささげて、かれに祈る。だがかれが、かれらを無事に陸に上げられると、かれらの中には揺れ動く者がいる。われらのしるしを否むのは、裏切りを重ねる恩知らずだけである。人々よ、あなたがたの主を畏れなさい。そして、父がその息子の役に立たず、息子もその父の役に少しも立たない日を恐れなさい。アッラーの約束は真実である。だから現世の生活に欺かれてはならない。またあの欺く者に、アッラーについて欺かれてはならない。まことに、その時についての知識は、ただアッラーのもとにある。かれは雨を降らせ、胎内にあるものを知っておられる。どの魂も、明日自分が何を稼ぐのかを知らず、どの魂も、自分がどの地で死ぬのかを知らない。まことにアッラーはすべてを知り、すべてに通じておられる。 (29-34)

[40] この重要な節は、包括的な科学的・哲学的注釈を示すために、わたしがこれから時間をかけて注釈として加えていくすべてのリンクによって、最もよく説明することができます。インシャーアッラー。それまでの間は、わたしのブログの注目記事をすべてご覧ください：注目記事—栄光あるクルアーンと科学。

32. 平伏 (Al-Sajda)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アリフ・ラーム・ミーム。疑いの余地のないこの啓典が下されたのは、万有の主からである。それともかれらは、「かれがそれを作り上げたのだ」と言うのか。いや、それはあなたの主からの真理である。あなた以前に警告者が来なかった民に、あなたが警告するためである。かれらが導かれるように。アッラーこそは、天と地と、その間にあるすべてのものを六つの時代で創り、それから玉座に君臨された御方である。あなたがたには、かれのほかに守護者もとりなす者もない。それでもあなたがたは心に留めないのか。かれは、天から地へとすべての事を治められる。それからそれは、あなたがたの数える千年に当たる一日のうちに、かれのもとに昇って行く。これこそ、目に見えないものも見えるものも知っておられる御方、偉力ならびなく、慈愛深い御方であり、創られたすべてのものを美しく整えられた御方である。かれは、粘土から人間の創造を始められた。それから、卑しい液の精髄からその子孫を造られた。それからかれを形づくり、ご自分の霊をその中に吹き込まれた。またあなたがたに、聴覚と視覚と心を授けられた。あなたがたは何とわずかしか感謝しないことか。かれらは言う。「わたしたちが大地の中に消えてしまったとき、本当に新しく創られるのか。」いや、かれらは自分の主との会見を否定している。言え、「あなたがたを任された死の天使が、あなたがたを召し、それからあなたがたは、あなたがたの主のもとに帰される。」 (1-11)

（預言者よ）罪を犯す者たちが、自分の主の前で頭を垂れているのを、あなたが見ることができたなら。「主よ、わたしたちは見ました。聞きました。ですからわたしたちを送り返してください。わたしたちは善を行います。今こそわたしたちは確信しました。」われらが望んだなら、どの魂にもその導きを授けることができた。だがわたしの言葉は真実となった。わたしは必ず、ジンと人間を共にして地獄を満たす、と。「だから懲罰を味わいなさい。あなたがたが、あなたがたのこの日の会見を忘れたからである。われらもあなたがたを忘れた。あなたがたが行っていたことのために、永遠の懲罰を味わいなさい。」 (12-14)

われらのしるしを信じるのは、それを思い起こさせられると、ひれ伏して崩れ落ち、自分の主を讃美して讃え、高慢にならない者たちだけである。かれらは、わき腹を寝床から離して、恐れと望みを抱いて自分の主に祈り、われらが授けたものの中から施す。かれらが行っていたことへの報奨として、どんな目の喜びがかれらのため

に隠されているかを、どの魂も知らない。信仰する者は、背く者と同じであろうか。かれらは同じではない。信仰して善行に励む者たちには、かれらが行っていたことのために、もてなしとして安住の楽園がある。だが背く者たちの避け所は、業火である。かれらがそこから出ようとするたびに、かれらはその中に押し戻され、こう言われる。「あなたがたが偽りとしていた業火の懲罰を味わいなさい。」われらは必ず、より大きな懲罰の前に、より近い懲罰をかれらに味わわせる。かれらが立ち返るように。自分の主のしるしを思い起こさせられながら、それから背き去る者よりも、不正な者がだれかあろうか。われらは必ず、罪を犯す者たちに報復する。(15-22)

われらは、ムーサーに啓典を授けた―だからかれと会うことについて、疑ってはならない―そしてそれを、イスラエルの子孫への導きとした。またわれらは、かれらが耐え忍び、われらのしるしを確信していたとき、かれらの中から、われらの命令によって導く指導者たちを立てた。あなたの主は、復活の日に、かれらが意見を異にしていたことについて、かれらの間を裁かれる。(23-25)

われらが、かれら以前にどれほど多くの世代を滅ぼしたかは、かれらへの導きとならないのか。かれらは、その住まいの跡を歩き回っている。まことにこの中には、数々のしるしがある。それでもかれらは聞かないのか。かれらは見ないのか。われらが不毛の地に水を追いやり、それによって作物を出し、かれらの家畜もかれら自身もそれを食べるのを。それでもかれらは見ないのか。かれらは言う。「この裁決はいつなのか。あなたがたが真実を語っているなら。」言え、「裁決の日には、真理を否定した者たちの信仰は、かれらの役に立たず、猶予も与えられない。」だからかれらから遠ざかり、待ちなさい。かれらもまた待っている。(26-30)

33. 部族連合 (Al-Aḥzāb)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

預言者よ、アッラーを畏れなさい。真理を否定する者たちにも、偽信者たちにも従ってはならない。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。あなたの主からあなたに啓示されるものに従いなさい。アッラーは、あなたがたの行うことによく通じておられる。アッラーにすべてを委ねなさい。アッラーは、すべてを委ねるべき御方として十分である。アッラーは、どの男の胸の中にも二つの心を置かれなかった。またあなたがたが、母の背のようだと言い放つ妻たちを、本当のあなたがたの母とはされなかった。またあなたがたの養子を、本当のあなたがたの息子とはされなかった。それは、あなたがたの口先の言葉にすぎない―だがアッラーは真理を語り、かれこそ道に導かれる。 (1-4)

かれらを、その父の名で呼びなさい。それがアッラーの御前で、より公正である。もしその父を知らないなら、かれらは信仰におけるあなたがたの兄弟であり、あなたがたの身内である。あなたがたが誤って行ったことについては、罪はない。ただあなたがたの心が、ことさらに意図したことについては別である。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。預言者は、信者たちにとって、かれら自身よりも近い。その妻たちは、かれらの母である。アッラーの書の中では、血縁の者たちは、ほかの信者たちや移住者たちよりも、互いに優先される。ただしあなたがたが、自分の友に善意を施すことは別である。それは書の中に記されている。 (5-6)

われらが預言者たちから、その誓約を取ったときを思い起こしなさい―あなたからも、ヌーフ、イブラーヒーム、ムーサー、マルヤムの子イーサーからも。われらはかれらから、厳粛な誓約を取った。かれが、真実を語る者たちに、その真実について問われるためである。真理を否定する者たちのためには、かれは痛ましい懲罰を用意された。 (7-8)

信仰する者たちよ、あなたがたへのアッラーの恵みを思い起こしなさい。軍勢があなたがたに攻め寄せたとき、われらはかれらに対して、風と、あなたがたには見えない軍勢を送った。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことを見ておられる。かれらが、あなたがたの上からも下からも攻め寄せたとき、目はうつろになり、心臓はのどもとまでせり上がり、あなたがたはアッラーについてさまざまな思いを巡らした―そこで信者たちは試みられ、激しく揺さぶられた。また偽信者たちと、心

に病のある者たちが言ったとき。「アッラーとその使徒がわたしたちに約束したのは、欺きにすぎなかった。」またかれらの一団が言ったとき。「ヤスリブの人々よ、ここにはあなたがたのとどまる所はない。だから引き返しなさい。」またほかの一団は、「わたしたちの家は無防備です」と言って、預言者に許しを求めた―だが家は無防備ではなかった。かれらは、ただ逃げたかっただけである。もし町があらゆる方面から攻め込まれ、それからかれらが、信者たちに背いて戦うよう求められたなら、かれらはそれを行い、ほとんどためらいもしなかったであろう。だがかれらは以前に、背を向けないとアッラーに約束していた。アッラーとの約束は、必ず問われる。言え、「あなたがたが、死や、殺されることから逃げても、逃げることはあなたがたの役に立たない。たとえそうしても、あなたがたは、ほんのわずかの間、生を楽しむことを許されるだけである。」言え、「アッラーがあなたがたに災いを望まれるなら、あるいは慈悲を望まれるなら、だれがあなたがたをアッラーから守ることができるのか。」かれらは、アッラーのほかに、自分たちのための守護者も援助者も見いださない。 (9-17)

アッラーは、あなたがたの中でほかの者を引きとめる者たちと、自分の兄弟たちに「わたしたちのほうに来なさい」と言う者たちを、よく知っておられる。かれらは、めったに戦いに出て来ず、あなたがたに対して物惜しみする。恐れが訪れると、あなたは、かれらがあなたのほうを見て、死に臨んで気を失う者のように、その目をぐるぐる回しているのを見る。だが恐れが去ると、かれらは戦利品をむさぼろうとして、鋭い舌であなたがたを打ちのめす。これらの者は、決して信じていない。だからアッラーは、かれらの行いを無にされた。それは、アッラーにとって易しいことである。かれらは、部族連合軍がまだ立ち去っていないと思っている。もし部族連合軍がまた来るなら、かれらは、砂漠で遊牧のアラブ人たちの間にいて、あなたがたの消息を尋ねていたいと願うであろう。たとえかれらがあなたがたの中にいても、ほとんど戦わないであろう。あなたがたには、アッラーの使徒の中に、確かに美しい模範がある。アッラーと最後の日に望みをかけ、アッラーを多く思い起こす者のための模範である。 (18-21)

信者たちは、部族連合軍を見ると言った。「これは、アッラーとその使徒がわたしたちに約束されたことである。アッラーとその使徒は真実を語られた。」それは、かれらの信仰と帰依を増すだけであった。信者たちの中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人々がいる。かれらのある者は、死によってその誓いを果たし、ある者はなお待っている。かれらは少しも変わらなかった―アッラーが、真実を語

る者たちにその真実のゆえに報い、お望みなら偽信者たちを罰し、あるいは慈悲をもってかれらに向き直られるためである。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。アッラーは、真理を否定する者たちを、その怒りに燃えたままで追い返された。かれらは何の良いものも得なかった。アッラーは、信者たちを戦わずに済ませられた。アッラーは強く、偉力ならびない御方である。またかれは、啓典の民の中でかれらを後押しした者たちを、そのとりでから引き下ろし、その心に恐怖を投げ込まれた。あなたがたは、ある者を殺し、ある者を捕虜にした。かれは、かれらの土地と、家々と、財産と、またあなたがたがまだ足を踏み入れたことのない土地を、あなたがたに受け継がせられた。アッラーは万事に全能である。 (22-27)

預言者よ、あなたの妻たちに言いなさい。「もしあなたがたが、現世の生活とその飾りを望むなら、来なさい。わたしはあなたがたに贈り物を与え、手厚いやり方であなたがたを去らせよう。だがもしあなたがたが、アッラーとその使徒と来世の住まいを望むなら、アッラーは、あなたがたの中で善を行う者のために、大きな報奨を用意されている。」預言者の妻たちよ、あなたがたの中で明らかな醜行を犯す者には、懲罰が倍にされる。それは、アッラーにとって易しいことである。だがあなたがたの中で、アッラーとその使徒に心から従い、善を行う者には、われらはその報奨を二度授ける。われらは、その者のために豊かな糧を用意している。預言者の妻たちよ、あなたがたは、ほかのどの女とも同じではない。あなたがたがアッラーを畏れるなら、言葉をやさしくしすぎてはならない。心に病のある者が、よこしまな望みを抱かないためである。ふさわしい言い方で話しなさい。あなたがたの家にとどまり、以前の無知の時代のように、身を飾って見せびらかしてはならない。礼拝を守り、定めの喜捨をし、アッラーとその使徒に従いなさい。この家の人々よ、アッラーは、ただあなたがたからすべての汚れを取り除き、あなたがたを完全に清めようと望んでおられる。あなたがたの家で読み聞かされる、アッラーのしるしと英知を心に留めなさい。アッラーは玄妙にして、すべてに通じておられる。 (28-34)

アッラーに帰依する男たちと帰依する女たち、信仰する男たちと信仰する女たち、心から従う男たちと心から従う女たち、真実を語る男たちと真実を語る女たち、耐え忍ぶ男たちと耐え忍ぶ女たち、へりくだる男たちとへりくだる女たち、施しをする男たちと施しをする女たち、斎戒する男たちと斎戒する女たち、貞節を守る男たちと貞節を守る女たち、アッラーを多く思い起こす男たちと思い起こす女たち―かれらのために、アッラーは赦しと大きな報奨を用意されている。 (35)

アッラーとその使徒がある事を決められたとき、信仰する男にも信仰する女にも、その事について自分で選ぶ余地はない。アッラーとその使徒に背く者は、明白な迷いの中に迷い込んだのである。アッラーが恵みを授け、あなたも恵みを施した者に、あなたがこう言ったときを思い起こしなさい。「あなたの妻を自分のもとにとどめ、アッラーを畏れなさい。」あなたは、アッラーが明るみに出そうとされていたことを、自分の心の中に隠していた。あなたは人々を恐れていた。だがアッラーこそ、あなたが恐れるのに、よりふさわしい御方である。そこでザイドがかの女とのきずなを終えたとき、われらはかの女をあなたと結婚させた。養子が自分の妻とのきずなを終えたとき、その妻について、信者たちに何の差し支えもないようにするためである。アッラーの命令は、必ず成し遂げられる。アッラーが預言者の務めとされたことについて、かれには何の罪もない。これは、以前に過ぎ去った者たちについての、アッラーの慣行であった―アッラーの命令は、定められた定めである―かれらは、アッラーの伝言を伝え、かれを恐れ、アッラーのほかはだれも恐れなかった者たちである。アッラーは、清算する御方として十分である。ムハンマドは、あなたがたの男たちのだれの父でもない。かれはアッラーの使徒であり、預言者たちの封印である。アッラーはすべてのことを知っておられる。信仰する者たちよ、アッラーを多く思い起こし、朝に夕にかれを讃えなさい。かれこそは、あなたがたに祝福を送られる御方であり、その天使たちもそうする。あなたがたを、深い暗闇から光の中へと連れ出すためである。かれは、信者たちに対して慈愛深い御方である。かれらがかれと会見する日、かれらのあいさつは「平安あれ」である。かれは、かれらのために豊かな報奨を用意されている。 (36-44)

預言者よ、われらはあなたを、証人として、吉報を伝える者として、警告者として遣わした。またかれのお許しによってアッラーへと招く者として、光を放つともしびとして遣わした。信者たちに吉報を伝えなさい。かれらには、アッラーからの大きな恵みがある。真理を否定する者たちにも、偽信者たちにも従ってはならない。かれらの加える害は気にかけず、アッラーにすべてを委ねなさい。アッラーは、すべてを委ねるべき御方として十分である。 (45-48)

信仰する者たちよ、あなたがたが信仰する女たちと結婚し、かの女たちに触れる前に離婚するなら、あなたがたがかの女たちに数えるべき待機期間はない。だからかの女たちに贈り物を与え、手厚いやり方で去らせなさい。預言者よ、われらは、あなたが婚資を与えた妻たちを、あなたに許した。またアッラーが戦いで得たものとしてあなたに授けられた女奴隷たちを、またあなたと共に移住した、父方のおじの

娘たち、父方のおばの娘たち、母方のおじの娘たち、母方のおばの娘たちを、また婚資を求めずに自分自身を預言者にささげる信仰する女を、預言者がかの女との結婚を望むなら、許した――これは、あなただけのためのものであり、ほかの信者たちのためのものではない。われらは、かれらの妻たちと女奴隷たちについて、かれらに定めたことをよく知っている―あなたに何の差し支えもないようにするためである。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。あなたは、かの女たちの中の望む者を後に回し、望む者を迎え入れてよい。あなたが退けておいた者を求めても、あなたに罪はない。そのほうが、かの女たちの目が慰められ、悲しむことがなく、みながあなたの与えるものに満足するのに、よりふさわしい。アッラーは、あなたがたの心の中にあるものを知っておられる。アッラーはすべてを知り、寛容な御方である。この後は、ほかの女たちはあなたに許されない。またたとえその美しさがあなたの気に入っても、かの女たちをほかの妻と取り替えることも許されない―ただしあなたの右手が所有する者は別である。アッラーは、すべてのことを見守っておられる。 (49-52)

信仰する者たちよ、食事のために許しが与えられない限り、預言者の家に入ってはならない。またその用意ができるのを待ち構えていてもならない。だが招かれたなら入りなさい。そして食べ終えたなら、世間話に長居することなく立ち去りなさい。それは預言者を悩ませるが、かれはあなたがたに言うのを遠慮する。だがアッラーは、真実を言うことを遠慮されない。あなたがたが、かれの妻たちに何かを求めるときは、幕の後ろから求めなさい。それが、あなたがたの心にもかの女たちの心にも、より清らかである。あなたがたは、アッラーの使徒を悩ませてはならず、かれの後で、その妻たちと結婚することも決してしてはならない。それは、アッラーの御前では重大なことである。あなたがたが何かを表しても隠しても、アッラーはすべてのことを知っておられる。かの女たちには、自分の父、息子、兄弟、兄弟の息子、姉妹の息子、自分と同じ女たち、あるいは自分の奴隷については、何の罪もない。預言者の妻たちよ、アッラーを畏れなさい。アッラーはすべてのことの証人である。アッラーとその天使たちは、預言者に祝福を送る。信仰する者たちよ、かれのために祝福を祈り、平安のあいさつをもってかれにあいさつをしなさい。アッラーとその使徒を悩ませる者たち―アッラーは、現世でも来世でもかれらを呪い、かれらのために屈辱の懲罰を用意された。また信仰する男たちと信仰する女たちを、かれらが行いもしなかったことで悩ませる者たちは、中傷と明らかな罪を負う。 (53-58)

預言者よ、あなたの妻たちと娘たち、また信者の女たちに言いなさい。外衣を身にぴったりと引き寄せるようにと。そのほうが、かの女たちがそれと見分けられ、害を加えられないのに、よりふさわしい。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。もし偽信者たちと、心に病のある者たちと、町で不安をあおる者たちがやめないなら、われらは必ず、あなたをかれらに立ち向かわせる。そうなれば、かれらはほんのわずかの間しか、そこであなたの隣人としてとどまれない―かれらは呪われた者である。どこで見つけられても捕らえられ、殺される。これは、以前に過ぎ去った者たちについての、アッラーの慣行であった。あなたは、アッラーの慣行に何の変更も見いださない。 (59-62)

人々は、その時についてあなたに尋ねる。言え、「それについての知識は、ただアッラーのもとにある。」何があなたに分からせるであろうか。その時は近いかもしれない。アッラーは、真理を否定する者たちを呪い、かれらのために燃えさかる業火を用意された。かれらは永遠にその中にとどまり、守護者も援助者も見いださない。かれらの顔が業火の中で転がされる日、かれらは言う。「ああ、アッラーに従い、使徒に従っていたならよかったのに。」またかれらは言う。「主よ、わたしたちは、自分たちの頭たちや有力者たちに従いました。そしてかれらが、わたしたちを道から迷わせました。主よ、かれらに倍の懲罰を与え、大いなる呪いでかれらを呪ってください。」 (63-68)

信仰する者たちよ、ムーサーを悩ませた者たちのようになってはならない。アッラーは、かれらの言ったことからかれの潔白を明らかにされた。かれは、アッラーの御前で誉れある者であった。信仰する者たちよ、アッラーを畏れ、的を射た正しい言葉を語りなさい。そうすればかれは、あなたがたのために行いを正し、あなたがたの罪を赦してくださる。アッラーとその使徒に従う者は、確かに大いなる勝利を得たのである。われらは、信託を天と地と山々に差し出した。だがそれらは、それを担うことを拒み、それを恐れた。そして人間がそれを引き受けた。まことにかれは、不正で無知な者であった―アッラーが、偽信者の男たちと女たち、多神教徒の男たちと女たちを罰し、信仰する男たちと女たちには慈悲をもって向き直られるためである。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (69-73)

34. サバア (Saba')

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

すべての讃美はアッラーのもの。天にあるものも地にあるものも、すべてかれのものである。来世においても、すべての讃美はかれのものである。かれこそは英知に満ち、すべてに通じておられる御方である。かれは、大地に入って行くものも、そこから出て来るものも、空から下るものも、そこへ昇って行くものも知っておられる。かれこそは慈愛深く、よく赦される御方である。真理を否定する者たちは言う。「その時が、わたしたちに来ることなどない。」言え、「いや、わたしの主にかけて、それは必ずあなたがたに来る―目に見えないものを知っておられる御方にかけて。天でも地でも、ちり一粒の重さのものさえ、かれから逃れることはない。それより小さいものも大きいものも、明らかな書の中にないものはない―かれが、信仰して善行に励む者たちに報いられるためである。かれらには、赦しと豊かな糧がある。」だがわれらのしるしをくじこうとして、それに逆らって努める者たち―かれらには、痛ましい苦しみの懲罰がある。 (1-5)

知識を授けられた者たちは、あなたの主からあなたに下されたものが真理であり、偉力ならびなく、讃えられるべき御方の道へと導くものであることを見て取る。だが真理を否定する者たちは言う。「あなたがたがすっかりばらばらに引き裂かれたときに、新しい創造としてよみがえらされると告げる男を、あなたがたに教えようか。かれはアッラーについて偽りを作り上げたのか。それとも、かれには狂気があるのか。」いや、来世を信じない者たちは、懲罰と、遠く迷い去った迷いの中にいる。かれらは、自分の前にも後ろにもある天と地を見ないのか。われらが望むなら、大地にかれらをのみ込ませ、あるいは空のかけらをかれらの上に落とすこともできる。まことにこの中には、アッラーに立ち返るすべてのしもべへのしるしがある。 (6-9)

われらは、ダーウードにわれらのもとからの恵みを授けた。「山々よ、かれと共にアッラーへの讃美をこだまさせなさい。鳥たちよ、あなたがたも。」またわれらは、かれのために鉄を柔らかくした。「鎖かたびらを作り、その輪をよく測って整えなさい。」あなたがたはみな、善い行いをしなさい。わたしは、あなたがたの行うことをよく見ている。またスライマーンには、われらは風を従わせた。その朝の行程は一月の旅路であり、その夕べの行程も一月の旅路であった。われらは、かれのために溶けた銅の泉を流れさせた。またジンの中には、その主のお許しによって、か

れの前で働く者たちがいた。その中でわれらの命令からそれる者には、われらは烈火の懲罰を味わわせた。かれらは、かれの望むものを何でもかれのために作った。聖所、彫像、貯水池のような大鉢、据えつけられた大がまである。「ダーウードの一族よ、感謝して働きなさい。」だがわたしのしもべたちの中で、本当に感謝する者は少ない。それからわれらが、かれに死を定めたとき、かれが死んだことをかれらに示したのは、かれのつえをかじっていた地の虫だけであった。かれが倒れたとき、ジンたちにははっきりと分かった。もし自分たちが目に見えないものを知っていたなら、屈辱の苦役の中にとどまってはいなかったであろうということが。 (10-14)

サバアの人々には、その住んでいた所に一つのしるしがあった。右と左の二つの園である。「あなたがたの主の糧を食べ、かれに感謝しなさい―良い土地であり、よく赦される主である。」だがかれらは背き去った。そこでわれらは、かれらに対して堰の洪水を送り、かれらの二つの園を、苦い実と、ぎょりゅうと、わずかなナツメの木のなる二つの園に変えた。このようにわれらは、かれらが恩を忘れたことのために報いた。われらは、恩知らずのほかに、そのように報いるであろうか。またわれらは、かれらと、われらが祝福した町々との間に、互いに見える所にほかの町々を置き、その間の旅を容易にした。「夜も昼も、安全にその間を旅しなさい。」だがかれらは言った。「主よ、わたしたちの旅の道のりをもっと長くしてください。」こうしてかれらは、自分自身に不正を行った。そこでわれらは、かれらを昔の語りぐさとし、かれらをすっかり散り散りにした。まことにこの中には、よく耐え忍び、よく感謝するすべての者への数々のしるしがある。イブリースは、かれらについての自分の見込みが正しかったことを知った。かれらがかれに従ったからである―ただ信者たちの一団だけは別であった。だがかれには、かれらに対する何の権威もなかった。ただわれらが、来世を信じる者を、それについて疑っている者から区別するためであった。あなたの主は、すべてのことを見守っておられる。 (15-21)

言え、「あなたがたが、アッラーをさしおいて神だと言い立てるものたちを呼びなさい。それらは、天でも地でも、ちり一粒の重さのものさえ持っていない。それらは、そのどちらにも何の持ち分もなく、かれには、それらの中に助け手もない。」かれのもとでは、かれがお許しになる者のためのほかは、とりなしは何の役にも立たない。やがてかれらの心から恐怖が取り除かれると、かれらは言う。「あなたがたの主は、何と言われたのか。」かれらは言う。「真理を。かれこそは至高にして

至大の御方である。」言え、「だれが、天と地からあなたがたに糧を授けるのか。」言え、「アッラーである。そしてわたしたちか、あなたがたかのどちらかが、導きの上にいるか、あるいは明白な迷いの中にいる。」言え、「あなたがたは、わたしたちが犯した罪について問われることはなく、わたしたちも、あなたがたの行うことについて問われることはない。」言え、「わたしたちの主は、わたしたちをみな一緒に集め、それから真理をもってわたしたちの間を裁かれる。かれこそは裁く御方、すべてを知っておられる御方である。」言え、「あなたがたが、同位者としてかれに付け加えたものたちを、わたしに見せなさい。決してそうではない。かれこそはアッラー、偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。」われらはあなたを、ただすべての人々への、吉報を伝える者、警告者として遣わした。だが人々の多くは知らない。かれらは言う。「この約束はいつ果たされるのか。あなたがたが真実を語っているなら。」言え、「あなたがたには、一日の約束がある。あなたがたは、それをひとときも遅らせることはできず、早めることもできない。」 (22-30)

真理を否定する者たちは言う。「わたしたちは、このクルアーンも、それ以前に来たものも、決して信じない。」不正を行う者たちが、自分の主の前に立たされ、互いに言葉を投げ返し合っているのを、あなたが見ることができたなら。さげすまれていた者たちは、高慢であった者たちに言う。「あなたがたがいなかったなら、わたしたちは信者になっていたでしょうに。」高慢であった者たちは、さげすまれていた者たちに言う。「導きがあなたがたに来た後で、わたしたちがあなたがたをそれから妨げたというのか。いや、あなたがた自身が罪を犯す者であったのだ。」さげすまれていた者たちは、高慢であった者たちに言う。「いや、それは、夜も昼も続いたあなたがたのたくらみでした。あなたがたは、アッラーを否定し、かれに並ぶものを立てるよう、わたしたちに命じたのです。」かれらは懲罰を見ると、後悔を胸に隠す。われらは、真理を否定した者たちの首に鎖をかける。かれらは、自分が行っていたこと以外のことで報いられるであろうか。われらが、どの町に警告者を遣わしても、その中でぜいたくに暮らしていた者たちは必ず言った。「わたしたちは、あなたがたが託されて来たものを否定する。」またかれらは言った。「わたしたちには、もっと多くの富と子供たちがある。わたしたちが懲罰を受けることなどない。」言え、「わたしの主は、望まれる者に糧を豊かに授け、また望まれる者にはそれを量って授けられる。だが人々の多くは知らない。」あなたがたをわれらのそば近くに寄せるのは、あなたがたの富でも子供たちでもない。ただ信仰して善行に励む者たちは別である―かれらには、その行ったことのために倍の報奨があり、

かれらは高い部屋の中に安らかに住む。だがわれらのしるしをくじこうとして、それに逆らって努める者たち―かれらは懲罰の中に引き出される。言え、「わたしの主は、そのしもべたちの中の望まれる者に糧を豊かに授け、またお望みのままに、その者にそれを量って授けられる。あなたがたが何を施しても、かれはその代わりを授けられる。かれは、糧を授ける者の中で最も優れた御方である。」 (31-39)

かれが、かれらをみな一緒に集められる日、かれは天使たちに言われる。「この者たちが崇めていたのは、あなたがたか。」天使たちは言う。「あなたに栄光あれ。わたしたちの守護者はあなたであって、かれらではありません。いや、かれらはジンを崇めていました。かれらのほとんどは、ジンを信じていたのです。」「だから今日、あなたがたのだれも、ほかの者に益をもたらす力も、害を与える力もない。」われらは、不正を行った者たちに言う。「あなたがたが偽りと呼んでいた業火の懲罰を味わいなさい。」われらの明らかなしるしがかれらに読み聞かされると、かれらは言う。「これは、あなたがたの父祖たちが崇めていたものから、あなたがたをそらせようとする男にすぎない。」またかれらは言う。「これは、作り上げられた偽りにすぎない。」真理を否定する者たちは、真理が自分たちのもとに来ると、それについて言う。「これは明らかな魔術にすぎない。」だがわれらは、かれらに学ぶべき啓典を何も授けておらず、あなた以前に、かれらに警告者を遣わしてもいなかった。かれら以前の者たちもまた、真理を否定した。この者たちは、われらがその者たちに授けたものの十分の一にも達していない。それでもその者たちは、わたしの使徒たちを偽りとした―わたしの咎めは、何と恐ろしかったことか。 (40-45)

言え、「わたしは、ただ一つのことをあなたがたに勧める。あなたがたが、二人ずつ、あるいは一人ずつ、アッラーの前に立ち、それからよく考えることである。あなたがたの仲間には、狂気などない。かれは、厳しい懲罰に先立つ、あなたがたへの警告者にすぎない。」言え、「わたしがあなたがたに求めたかもしれない報酬は、あなたがたのものである。わたしの報酬は、ただアッラーのもとにある。かれはすべてのことの証人である。」言え、「わたしの主は、真理を投げかけられる。かれは、隠されたすべてのものを知っておられる御方である。」言え、「真理が来た。偽りは、何かを生み出すことも、元に戻すこともできない。」言え、「もしわたしが迷うなら、ただわたし自身の損として迷うのである。もしわたしが導かれるなら、それは、わたしの主がわたしに啓示されるものによる。かれは全聴にして、すぐ近くにおられる。」 (46-50)

かれらが恐怖に打たれ、逃げ場もなく、近い所から捕らえられるのを、あなたが見ることができたなら。かれらは言う。「今こそ、わたしたちはそれを信じます。」だがそれほど遠い所から、どうしてそれに手が届くであろうか。かれらは以前にそれを否定し、遠い所から、目に見えないものに当て推量を投げつけていたのに。かれらと、かれらが望むものとの間には、隔てが置かれる。以前に、かれらと同類の者たちになされたとおりである。かれらは、落ち着かない疑いの中にいたのである。(51-54)

35. 創造者 (Fāṭir)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

すべての讃美はアッラーのもの。天と地を創り出された御方、二対、三対、四対の翼を持つ天使たちを使いとされる御方である。かれは、望まれるものを創造に付け加えられる。アッラーは万事に全能である。アッラーが人々のために開かれる慈悲を、とどめることのできる者はなく、かれがとどめられるものを、その後で放つことのできる者もない。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。人々よ、あなたがたへのアッラーの恵みを思い起こしなさい。アッラーのほかに、空と地からあなたがたに糧を授ける創造者があるか。かれのほかに神はない。それなのに、あなたがたはどうして背かされるのか。 (1-3)

（預言者よ）もしかれらがあなたをうそつきと呼ぶなら、あなた以前の使徒たちもうそつきと呼ばれた。すべての事はアッラーに帰される。人々よ、アッラーの約束は真実である。だから現世の生活に欺かれてはならない。またあの欺く者に、アッラーについて欺かれてはならない。悪魔はあなたがたの敵である。だからかれを敵として扱いなさい。かれは、ただ自分の党派を、烈火の住人となるよう招いているのである。真理を否定する者たちには、厳しい懲罰がある。信仰して善行に励む者たちには、赦しと大きな報奨がある。自分の悪い行いが美しく見せられ、それを良いものと見る者はどうであろうか。アッラーは、望まれる者を迷うに任せ、望まれる者を導かれる。だからかれらのことを嘆いて、あなたの魂をすり減らしてはならない。アッラーは、かれらの行うことをよく知っておられる。 (4-8)

アッラーこそは、風を送られる御方である。風は雲を巻き起こし、それからわれらは、それを死んだ土地へと駆り立て、それによって死んだ後の大地を生き返らせる。復活もそのようである。誉れを望む者は―すべての誉れはアッラーのものである。良い言葉はかれのもとに昇って行き、正しい行いは、かれがそれを高く上げられる。だが悪い行いをたくらむ者たちには、厳しい懲罰があり、かれらのたくらみは無に帰する。アッラーは、あなたがたを土から、それから一滴から創り、それからあなたがたを男女の組とされた。どの女も、かれの知識なしに身ごもることも、産むこともない。だれも、書の中に記されているとおりでなければ、年を重ねることも、その寿命を縮められることもない。それは、アッラーにとって易しいことである。 (9-11)

二つの海は同じではない。一方はさわやかで甘く、飲んでおいしい。もう一方は塩辛くて苦い。それでもあなたがたは、そのどちらからも新鮮な肉を食べ、身に着ける飾りを取り出す。またあなたは、舟がその中を波を切って進むのを見る。あなたがたがかれの恵みを求め、そして感謝するためである。かれは夜を昼の中に入らせ、昼を夜の中に入らせ、太陽と月を従わせられた。そのそれぞれは、定められた期限まで走る。これこそアッラー、あなたがたの主であり、王権はかれのものである。あなたがたがかれをさしおいて祈り求めるものたちは、なつめやしの種の薄皮一枚さえ持っていない。あなたがたがそれらを呼んでも、それらはあなたがたの呼びかけを聞かない。たとえ聞いたとしても、あなたがたに答えることはできない。復活の日には、それらは、あなたがたがそれらをアッラーに並べたことを否む。すべてに通じておられる御方のように、あなたに真実を告げる者はない。 (12-14)

人々よ、アッラーを必要としているのは、あなたがたである。アッラーこそ、満ち足りた、讃えられるべき御方である。かれがお望みなら、あなたがたを取り除き、新しい被造物を連れて来ることもできる。それは、アッラーにとって難しいことではない。重荷を負う者は、ほかの者の重荷を負わない。重い荷を負った者が、その荷を担ってくれるよう呼びかけても、たとえ近親者であっても、その何一つも担ってはもらえない。あなたが警告できるのは、目に見えない自分の主を畏れ、礼拝を守る者たちだけである。自分を清める者は、ただ自分自身のために清めるのである。旅路の果ては、アッラーのもとである。目の見えない者と見える者は同じではない。深い暗闇と光も、日陰と焼けつく暑さも同じではない。生きている者と死んだ者も同じではない。アッラーは、望まれる者に聞かせられる。だがあなたは、墓の中にいる者たちに聞かせることはできない。あなたは警告者にすぎない。われらはあなたを、真理を持たせて、吉報を伝える者、警告者として遣わした。警告者がその中を通り過ぎなかった共同体は、一つもない。もしかれらがあなたをうそつきと呼ぶなら、かれら以前の者たちもまた、自分たちの使徒をうそつきと呼んだ。その使徒たちは、明らかな証拠と、諸啓典と、光を放つ啓典を持ってかれらのもとに来た。それからわたしは、真理を否定した者たちを捕らえた―わたしの咎めは、何と恐ろしかったことか。 (15-26)

あなたは見ないのか。アッラーが空から水を降らせ、それによってわれらが、色とりどりの果実を出すのを。また山々には、白や、濃淡さまざまな赤の筋があり、からすのように黒いものもある。人々にも、獣にも、家畜にも、同じようにさまざまな色がある。アッラーを本当に畏れ敬うのは、かれのしもべたちの中で知識のある

者たちである。アッラーは偉力ならびなく、よく赦される御方である。アッラーの啓典を読誦し、礼拝を守り、われらが授けたものの中から、ひそかにも公にも施す者たちは、決して廃れることのない取引を望んでいる。かれが、かれらにその報奨を十分に支払い、さらにその恵みから増し加えてくださるためである。かれはよく赦し、よく報いられる御方である。 (27-30)

われらが啓典の中からあなたに啓示したものは、真理であり、それ以前に来たものを確証するものである。アッラーは、そのしもべたちによく通じ、すべてを見ておられる。それからわれらは、われらのしもべたちの中から選んだ者たちに、啓典を受け継がせた。その中には、自分自身に不正を行う者もあり、中ほどの道を取る者もあり、アッラーのお許しによって、善い行いに先んじる者もある。それこそ大きな恵みである。かれらは、尽きることのない至福の楽園に入る。そこでかれらは、黄金の腕輪と真珠で飾られ、そこでのかれらの衣は絹である。かれらは言う。「すべての讃美はアッラーのもの。かれは、わたしたちからすべての悲しみを取り除かれた。わたしたちの主は、まことによく赦し、よく報いられる御方である。かれは、その恵みによって、わたしたちを永く住む家に住まわせられた。ここでは、労苦がわたしたちに触れることはなく、疲れがわたしたちに触れることもない。」だが真理を否定する者たちには、地獄の火がある。かれらが死ねるように終わりが定められることはなく、その懲罰がかれらのために軽くされることもない。このようにわれらは、すべての恩知らずに報いる。そこでかれらは叫ぶ。「主よ、わたしたちを出してください。わたしたちは善を行います。以前に行っていたことではなく。」「われらはあなたがたに、心に留めようとする者なら心に留めるのに十分な寿命を、与えなかったか。しかも警告者があなたがたのもとに来た。だから味わいなさい。不正を行う者たちには、援助者はない。」 (31-37)

アッラーは、天と地の目に見えないものを知っておられる。かれは、胸の中にあるものをよく知っておられる。かれこそは、あなたがたを地上の後継者とされた御方である。真理を否定する者には、その否定が自分に降りかかる。否定する者たちの否定は、かれらの主のかれらへの嫌悪を増すだけであり、かれらの否定は、かれらの損失を増すだけである。言え、「あなたがたは、アッラーをさしおいて祈り求める、あなたがたの同位者たちについて考えてみたか。それらが大地の何を創ったのかを、わたしに見せなさい。それとも、それらには天に持ち分があるのか。それともわれらが、かれらに啓典を授け、かれらがそこからの明らかな証拠の上に立って

いるのか。」いや、不正を行う者たちは、互いに欺きのほかは何も約束し合わない。(38-40)

アッラーは、天と地が消え去らないように支えておられる。もしそれらが消え去るなら、かれの後で、それらを引き戻すことのできる者はない。かれは寛容で、よく赦される御方である。[41] (41)

かれらは、もし警告者が自分たちのもとに来るなら、どの共同体よりもよく導かれるであろうと、アッラーにかけて最も固い誓いを立てた。だが警告者がかれらのもとに来ると、それはただ、かれらの嫌悪と、地上での高慢と、悪いたくらみを増すだけであった。だが悪いたくらみは、それをたくらんだ者のほかは、だれも取り囲まない。それではかれらは、アッラーが昔の人々を扱われた慣行のほかに、何かを待っているのか。あなたは、アッラーの慣行に何の変更も見いださない。あなたは、アッラーの慣行に何のそれることも見いださない。かれらは地上を旅して、かれら以前の者たちの最後がどうであったかを見なかったのか。その者たちは、この者たちよりも力が強かったのに。天でも地でも、何ものもアッラーをくじくことはできない。かれはすべてを知り、全能の御方である。もしアッラーが、人々の稼いだことのためにかれらを罰されるなら、地の面に一つの生き物も残されなかったであろう。だがかれは、定められた期限までかれらに猶予を与えられる。そしてかれらの期限が来るとき―アッラーは、そのしもべたちを常に見ておられる。 (42-45)

[41] 機会原因論―栄光あるクルアーンと科学
絶え間ない創造の形而上学：クルアーン 30:25 と 35:41 についての科学的・哲学的・神学的注釈
動画：アッラーは、天と地が消え去らないように支えておられる
クルアーン 35:41 と 6:59 における「支えること」と「記録すること」―物理的情報理論およびシミュレーション仮説との対話
存在の中に保たれている宇宙：クルアーン 30:25 と 35:41 についての注釈

36. ヤー・スィーン (Yā Sīn)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ヤー・スィーン。 (1)

英知に満ちたクルアーンにかけて、あなたは確かに使徒の一人であり、まっすぐな道の上にいる―これは、偉力ならびなく、慈愛深い御方が下された啓示である。その父祖たちが警告を受けず、それで無頓着でいる民に、あなたが警告するためである。かれらのほとんどに対して、言葉はすでに真実となった。かれらは信じないからである。われらは、かれらの首にあごまで届くかせをはめた。それでかれらの頭は、上に押し上げられている。またわれらは、かれらの前に隔てを置き、後ろにも隔てを置いて、かれらを覆った。それでかれらは見ることができない。あなたが警告しても警告しなくても、かれらには同じことである。かれらは信じない。あなたが警告できるのは、訓戒に従い、目に見えない慈悲あまねき御方を畏れる者だけである。そのような者には、赦しと尊い報奨の吉報を伝えなさい。まことにわれらは、死者に命を与える。われらは、かれらが先に送ったものと、後に残した足跡を書き留める。われらは、すべてのことを明らかな帳簿の中に数え上げている。 (2-12)

かれらに一つのたとえを示しなさい。使徒たちがやって来たときの、あの町の住民のことである。われらがかれらのもとに二人を遣わすと、かれらはその二人をうそつきと呼んだ。そこでわれらは、三人目によってかれらを強めた。かれらは言った。「わたしたちは、あなたがたのもとに遣わされた者です。」人々は言った。「あなたがたは、わたしたちと同じ人間にすぎない。慈悲あまねき御方は、何も下されていない。あなたがたは、うそをついているだけだ。」かれらは言った。「わたしたちの主は、わたしたちがあなたがたのもとに遣わされたことを知っておられます。わたしたちの務めは、明らかに伝えることだけです。」人々は言った。「わたしたちは、あなたがたに不吉な兆しを見る。もしやめないなら、わたしたちは必ずあなたがたを石で打ち、わたしたちからの痛ましい懲罰が、あなたがたに降りかかる。」かれらは言った。「あなたがたの不吉な兆しは、あなたがた自身にあります。思い起こさせられたからというのですか。いや、あなたがたは、あらゆる限度を越える民です。」そのとき、町の最も遠い端から、一人の男が走って来た。かれは言った。「わたしの民よ、使徒たちに従いなさい。あなたがたに何の報酬も求めず、正しく導かれている人々に従いなさい。わたしを創り出された御方を、どうしてわたしが崇めないでいられよう。あなたがたも、かれのもとに帰されるのである。わたしが、

かれをさしおいてほかの神々を持つというのか。もし慈悲あまねき御方がわたしに災いを望まれるなら、それらのとりなしは、わたしに何の役にも立たず、わたしを救うこともできない。そうなれば、わたしは確かに明白な迷いの中にいることになる。わたしは、あなたがたの主を信じる。だからわたしの言うことを聞きなさい。」(13-25)

「楽園に入りなさい」と言われた。かれは言った。「ああ、わたしの民が知っていたならよいのに。わたしの主がわたしを赦し、誉れを受ける者の一人としてくださったことを。」かれの後、われらはかれの民に対して、天から軍勢を下しもせず、下す必要もなかった。それは、ただ一度の轟音であった。するとたちまち、かれらは消えた火のように静まり返った。(26-29)

ああ、しもべたちの情けないことよ。使徒がかれらのもとに来るたびに、かれらは必ずそれをあざけった。かれらは見ないのか。われらが、かれら以前にどれほど多くの世代を滅ぼしたかを。そしてその者たちが、かれらのもとに戻って来ないことを。だがかれらはみな、一緒に集められて、われらの前に引き出される。かれらへの一つのしるしは、死んだ大地である。われらはそれに命を与え、そこから穀物を出し、かれらはそれを食べる。またわれらは、そこになつめやしとぶどうの園を設け、そこに泉をわき出させた。かれらがその実を食べるためである—かれらの手がそれを作ったのではない。それでもかれらは感謝しないのか。すべてのものを対として創られた御方に、栄光あれ。大地が生い育てるものにも、かれら自身にも、かれらの知らないものにも。またかれらへの一つのしるしは、夜である。われらがそこから昼をはぎ取ると、かれらは暗闇の中に沈む。また太陽は、それに定められた休み場へと、その道を走る。それは、偉力ならびなく、すべてを知っておられる御方の定めである。また月には、われらは宿を定めた。やがてそれは、古く枯れたなつめやしの枝のようになって戻る。太陽が月に追いつくことはなく、夜が昼を追い越すこともない。そのそれぞれは、軌道を泳いでいる。(30-40)

またかれらへの一つのしるしは、われらがかれらの子孫を、荷を満載した舟に乗せて運んだことである。またわれらは、かれらのために、それと同じようなものを創り、かれらはそれに乗る。われらが望むなら、かれらを溺れさせることもできる。そうなれば、かれらの叫びに答える者はなく、かれらが救い出されることもない—ただわれらからの慈悲として、またしばらくの間の楽しみとしてのほかは。かれらは、「あなたがたの前にあるものと、後ろにあるものを警戒しなさい。そうすればあなたがたは慈悲を受けるであろう」と言われると、背き去る。かれらの主のしる

しの一つがかれらに来るたびに、かれらは必ずそれから背き去る。また「アッラーがあなたがたに授けられたものの中から施しなさい」と言われると、真理を否定する者たちは、信仰する者たちに言う。「アッラーがお望みなら食べさせることのできた者を、わたしたちが食べさせるというのか。あなたがたは、明白な迷いの中にいるにすぎない。」 (41-47)

かれらは言う。「この約束はいつ果たされるのか。あなたがたが真実を語っているなら。」かれらが待っているのは、ただ一度の轟音にすぎない。それは、かれらがまだ言い争っているうちに、かれらを捕らえる。かれらは遺言をすることもできず、自分の家族のもとに帰ることもできない。 (48-50)

ラッパが吹かれる。するとたちまち、かれらは墓から出て、自分の主のもとへと急ぐ。かれらは言う。「ああ情けない。だれがわたしたちを、休み場から起こしたのか。」「これは、慈悲あまねき御方が約束されたことである。使徒たちは真実を語っていた。」それは、ただ一度の轟音にすぎない。するとたちまち、かれらはみな一緒に、われらの前に引き出される。「今日は、どの魂も少しも不当に扱われない。あなたがたは、ただ自分が行っていたことで報いられるだけである。楽園の住人たちは今日、喜びの中で過ごしている。かれらもその配偶者たちも、木陰で寝いすに身を横たえている。そこでかれらには果実があり、求めるものは何でもある。『平安あれ』―慈愛深い主からの御言葉である。だが罪を犯した者たちよ、今日は離れて立ちなさい。アーダムの子孫よ、わたしはあなたがたに命じなかったか。悪魔に仕えてはならない、かれはあなたがたの公然の敵である、と。そしてわたしを崇めなさい、これがまっすぐな道である、と。だがかれは、あなたがたの中の大勢の者を迷わせた。あなたがたは理性を働かせなかったのか。これが、あなたがたに約束されていた地獄である。あなたがたが真理を否定したのだから、今日はその中で焼かれなさい。」 (51-64)

今日われらは、かれらの口を封じる。かれらの手がわれらに語り、かれらの足が、かれらの稼いでいたことについて証言する。われらが望んだなら、かれらの目をつぶすこともできた。そうなれば、かれらは道へと先を争うであろう―だがどうして見ることができようか。またわれらが望んだなら、かれらをその場で別の姿に変えることもできた。そうなれば、かれらは進むことも戻ることもできない。われらが長い寿命を授ける者は、その体のつくりを逆戻りさせる。それでもかれらは悟らないのか。 (65-68)

われらは、かれに詩を教えなかった。それは、かれにふさわしくもない。これは、訓戒であり、明らかなクルアーンにほかならない。生きている者に警告し、真理を否定する者たちに対して言葉が真実となるためである。 (69-70)

かれらは見ないのか。われらが、われらの手で造ったものの中から、かれらのために家畜を創り、かれらがその持ち主となっているのを。われらは、それをかれらに従わせた。それでかれらは、あるものに乗り、あるものを食べる。またかれらには、それからのほかの益もあり、飲み物もある。それでもかれらは感謝しないのか。それでもかれらは、助けられることを望んで、アッラーのほかに神々を持った。それらは、かれらを助けることができない。かれらのほうが、それらのために整えられた軍勢となっているのに。だからかれらの言葉に悲しんではならない。われらは、かれらが隠すことも表すことも知っている。 (71-76)

人間は見ないのか。われらがかれを一滴から創ったことを。それなのに見よ、かれは公然と言い争う者となっている。かれは、われらのためにたとえを持ち出し、自分自身の創造を忘れている。かれは言う。「朽ち果てて土となった骨に、だれが命を与えるのか。」言え、「最初にそれを生み出された御方が、再びそれに命を与えられる。かれは、すべての創造をよく知っておられる―緑の木から、あなたがたのために火を生じさせられた御方である。それであなたがたは、そこから火をともす。」天と地を創られた御方に、それと同じようなものを創ることができないであろうか。いや、できる。かれこそは至高の創造者、すべてを知っておられる御方である。かれが何かを望まれるとき、その命令は、ただそれに「あれ」と言われるだけである。するとそれは、ある。だから、万物の支配をその手に握っておられる御方に、栄光あれ。あなたがたは、かれのもとに帰される。 (77-83)

37. 整列する者たち (Al-Ṣāffāt)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

列をなして並ぶものたちにかけて。追い立てて退けるものたちにかけて。訓戒を読誦するものたちにかけて。まことにあなたがたの神は唯一であり、天と地と、その間にあるすべてのものの主、また日の昇るすべての所の主である。われらは、最も低い天を星々の飾りで飾り、反逆するあらゆる悪魔に対する守りとした。かれらは、至高の集いに聞き耳を立てることができず、あらゆる方面から打たれ、追い払われる。かれらには絶えることのない懲罰がある—ただし一片をかすめ取る者は別であり、その者を、貫く炎が追いかける。 (1-10)

だからかれらに尋ねなさい。創るのがより難しいのは、かれらか。それとも、われらが創ったほかのものたちか。われらはかれらを、粘りのある粘土から創った。あなたは驚き、かれらはあざける。かれらは、思い起こさせられても心に留めず、しるしを見ると、それをからかって言う。「これは明らかな魔術にすぎない。何と、わたしたちが死んで土と骨になったとき、本当によみがえらされるのか—わたしたちの昔の父祖たちも。」言え、「そうだ—そしてあなたがたは卑しめられる。」それは、ただ一度の叫びにすぎない。するとたちまち、かれらは目を見張る。かれらは言う。「ああ情けない。これは審判の日だ。」「これは、あなたがたが偽りと呼んでいた裁決の日である。」「不正を行った者たちを、その仲間たちと、かれらがアッラーをさしおいて崇めていたものと一緒に集め、烈火の道へと導きなさい。そしてかれらを立ち止まらせなさい。かれらは問われるのである。『あなたがたはどうしたのか。互いに助け合わないとは。』」いや、その日、かれらはすっかり降参する。かれらは互いに向き合って、問いただし合う。かれらは言う。「右のほうからわたしたちのもとに来ていたのは、あなたがたでした。」相手は言う。「いや、あなたがた自身が信者ではなかったのだ。わたしたちには、あなたがたに対する何の権威もなかった。いや、あなたがたは、あらゆる限度を越える民であった。こうして、わたしたちの主の言葉は、わたしたちに対して真実となった。わたしたちは必ず懲罰を味わう。わたしたちは、あなたがたを迷わせた。わたしたち自身が迷っていたからである。」こうしてその日、かれらは懲罰を共にする。このようにわれらは、罪を犯す者たちを扱う。かれらは、「アッラーのほかに神はない」と言われると、高ぶって言った。「わたしたちが、気の狂った詩人のために、自分たちの神々を捨てるというのか。」いや、かれは真理を持って来て、使徒たちを確証した。

あなたがたは必ず、痛ましい懲罰を味わう。あなたがたは、ただ自分が行っていたことで報いられるだけである― (11-39)

ただしアッラーの選ばれたしもべたちは別である。かれらには、よく知られた糧がある。果実である。かれらは、喜びの楽園の中で誉れを受け、寝いすの上で向かい合う。流れる泉からくんだ杯が、かれらの間に回される。それは白く、飲む者にとって美味であり、その中には何の害もなく、それで酔うこともない。またかれらのそばには、まなざしを控えた、美しい目の伴侶たちがいる。まるで大切に隠された卵のようである。 (40-49)

かれらは互いに向き合って、尋ね合う。その中の一人が言う。「わたしには親しい仲間がいて、よくこう言っていた。『あなたは本当に、わたしたちが死んで土と骨になったとき、裁きに引き出されると信じる者の一人なのか。』」かれは言う。「あなたがたは、下をのぞいてみるか。」そこでかれがのぞいて見ると、その者が烈火の真ん中にいるのが見える。かれは言う。「アッラーにかけて、あなたは危うくわたしを滅ぼすところであった。もしわたしの主の恵みがなかったなら、わたしもまた、地獄に引き出される者の中にいたであろう。それではわたしたちは、最初の死のほかには死ぬことがなく、懲罰を受けることもないのか。これこそ大いなる勝利である。」働く者はみな、このようなもののために働くがよい。もてなしとして良いのはそれか。それともザックームの木か。われらはそれを、不正を行う者たちへの試練とした。それは、烈火の底から生える木である。その実の房は、悪魔たちの頭のようである。かれらはそれを食べて、それで腹を満たす。それからその上に、煮えたぎる湯を混ぜたものを飲まされる。それからかれらの帰る所は、烈火である。かれらは、自分の父祖たちが迷っているのを見て、その足跡を追って急いだ。かれら以前にも、昔の人々のほとんどが迷った。われらは、その中に警告者たちを遣わしていたのに。見なさい、警告を受けた者たちの最後がどうであったかを―ただしアッラーの選ばれたしもべたちは別である。 (50-74)

ヌーフはわれらに叫び求めた。われらは、何と優れた答える者であったことか。われらは、かれとその家族を大きな苦難から救い出し、かれの子孫を生き残る者とし、後の世代の間に、かれのために良い評判を残した。「万有の中で、ヌーフに平安あれ。」このようにわれらは、善を行う者たちに報いる。かれは、われらの信仰するしもべの一人であった。それからわれらは、ほかの者たちを溺れさせた。 (75-82)

イブラーヒームもまた、かれと同じ道の者であった。かれが健やかな心を持って、主のもとに来たとき。かれが父とその民に言ったとき。「あなたがたは何を崇めているのですか。あなたがたが望むのは偽り――アッラーのほかの神々――なのですか。それなら、万有の主についてどう思うのですか。」それからかれは、星々を一目見て言った。「わたしは具合が悪い。」そこでかれらは、かれに背を向けて立ち去った。それからかれは、かれらの神々のほうに向かって言った。「食べないのか。おまえたちはどうしたのか。口をきかないとは。」それからかれは、右手で打ちながら、それらに襲いかかった。人々は、かれのほうへ急いで駆けつけた。かれは言った。「あなたがたは、自分で刻んだものを崇めるのですか。アッラーが、あなたがたも、あなたがたの作るものもすべて創られたのに。」かれらは言った。「かれのために建物を築き、燃えさかる火の中に投げ込め。」かれらはかれに対してたくらんだ。だがわれらは、かれらを最も低い者とした。 (83-98)

かれは言った。「わたしは、わたしの主のもとに行く。かれはわたしを導いてくださる。主よ、正しい者たちの中から、わたしに息子を授けてください。」そこでわれらは、寛容な男の子の吉報をかれに伝えた。その子が、かれと共に走り回れるほどの年になったとき、かれは言った。「息子よ、わたしは夢の中で、あなたを犠牲にささげているのを見た。あなたはどう思うか、考えてみなさい。」その子は言った。「お父さん、命じられたとおりにしてください。アッラーがお望みなら、あなたは、わたしが耐え忍ぶ者の一人であることを知るでしょう。」二人がともにアッラーに身を委ね、かれがその子の額を地につけて伏せさせたとき、われらはかれに呼びかけた。「イブラーヒームよ、あなたは確かにその夢を果たした。」このようにわれらは、善を行う者たちに報いる。これは確かに明らかな試練であった。われらは、大きな犠牲によってその子をあがない、後の世代の間に、かれのために良い評判を残した。「イブラーヒームに平安あれ。」このようにわれらは、善を行う者たちに報いる。かれは、われらの信仰するしもべの一人であった。 (99-111)

またわれらは、正しい者の一人、預言者であるイスハークの吉報をかれに伝えた。われらは、かれとイスハークを祝福した。二人の子孫の中には、善を行う者もあり、明らかに自分自身に不正を行う者もある。われらは、ムーサーとハールーンに恵みを授け、二人とその民を大きな苦難から救い出した。われらはかれらを助け、かれらは勝利者となった。われらは、物事を明らかにする啓典を二人に授け、まっすぐな道に導いた。われらは、後の世代の間に、二人のために良い評判を残した。「ム

ーサーとハールーンに平安あれ。」このようにわれらは、善を行う者たちに報いる。二人は、われらの信仰するしもべであった。 (112-122)

イルヤースもまた、使徒の一人であった。かれがその民に言ったとき。「あなたがたはアッラーを畏れないのか。あなたがたはバアルに祈り、創造する者の中で最も優れた御方を捨てるのか—あなたがたの主であり、あなたがたの昔の父祖たちの主であるアッラーを。」だがかれらは、かれをうそつきと呼んだ。だからかれらは、必ず懲罰に引き出される—ただしアッラーの選ばれたしもべたちは別である。われらは、後の世代の間に、かれのために良い評判を残した。「イルヤースに平安あれ。」このようにわれらは、善を行う者たちに報いる。かれは、われらの信仰するしもべの一人であった。 (123-132)

ルートもまた、使徒の一人であった。われらは、かれとその家族をみな救った。ただ後に残った者たちの中の一人の老女は別である。それからわれらは、ほかの者たちを滅ぼした。あなたがたは、朝にも夜にも、かれらの跡のそばを通り過ぎる。それでもあなたがたは悟らないのか。ユーヌスもまた、使徒の一人であった。かれは、荷を満載した舟へと逃げ、くじを引いて、負けた者の一人となった。そして魚がかれをのみ込んだ。かれが責められるべき者であったからである。もしかれが、アッラーを讃える者の一人でなかったなら、人々がよみがえらされる日まで、その腹の中にとどまっていたであろう。だがわれらは、かれを不毛の岸辺に投げ上げた。かれは病んでいた。われらは、かれの上にひょうたんの木を生えさせた。そしてわれらは、かれを十万人、あるいはそれ以上の人々のもとに遣わした。かれらは信じた。そこでわれらは、しばらくの間かれらに生を楽しませた。 (133-148)

だからかれらに尋ねなさい。あなたの主には娘たちがあり、かれらには息子たちがあるというのか。それともわれらは、かれらが見ている前で、天使たちを女として創ったのか。かれらが「アッラーは子をもうけられた」と言うのは、かれら自身の偽りからではないか。かれらは確かにうそつきである。かれは、息子たちよりも娘たちを選ばれたというのか。あなたがたはどうしたのか。どのように判断しているのか。それでもあなたがたは心に留めないのか。それとも、あなたがたには明らかな権威があるのか。それなら、あなたがたの書を持って来なさい。あなたがたが真実を語っているなら。かれらは、かれとジンとの間に血縁を立てた。だがジンたちは、自分たちが裁きに引き出されることをよく知っている。アッラーに栄光あれ。かれは、かれらの言い表すことをはるかに超えておられる—ただしアッラーの選ば

れたしもべたちは別である。あなたがたも、あなたがたの崇めるものも、だれもかれから誘い出すことはできない。ただ烈火で焼かれることになっている者は別である。「わたしたちの中には、定められた持ち場を持たない者は一人もいない。わたしたちは、列をなして並ぶ者である。わたしたちは、かれを讃える者である。」(149-166)

かれらは、よくこう言っていた。「もしわたしたちに、昔の人々からの訓戒があったなら、わたしたちはアッラーの選ばれたしもべになっていたであろうに。」だが今、かれらはそれを否定している。かれらは、やがて知るであろう。われらの言葉は、われらのしもべである使徒たちに、すでに下されている。助けられるのは、必ずかれらである。われらの軍勢―かれらこそ勝利者である。だからしばらくの間、かれらから遠ざかり、かれらを見ていなさい。かれらは、やがて見るであろう。かれらは、われらの懲罰を急いで求めるのか。それがかれらの庭先に下るとき、警告を受けていた者たちの朝は、何と悪いものとなることか。だからしばらくの間、かれらから遠ざかり、見ていなさい。かれらは、やがて見るであろう。あなたの主、威力の主に栄光あれ。かれは、かれらの言い表すことをはるかに超えておられる。使徒たちに平安あれ。すべての讃美は、万有の主アッラーのもの。(167-182)

38. サード (Ṣād)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

サード。訓戒に満ちたクルアーンにかけて。だが真理を否定する者たちは、高慢と反抗の中に沈んでいる。われらは、かれら以前にどれほど多くの世代を滅ぼしたことか。かれらは叫んだが、もはや逃れる時ではなかった。かれらは、自分たちの中から警告者が来たことを不思議がる。真理を否定する者たちは言う。「これは魔術師、うそつきだ。かれは、神々を一つの神にしてしまったのか。これは実に驚くべきことだ。」かれらの長老たちは、こう言いながら立ち去る。「行きなさい。そして自分たちの神々にしっかりとすがりなさい。これは確かに、何かたくらまれたことだ。わたしたちは、最も新しい教えの中で、こんなことを聞いたことがない。これは作り事にすぎない。わたしたちすべての中から、かれにだけ訓戒が下されたというのか。」いや、かれらは、わたしの訓戒について疑っている。いや、かれらは、まだわたしの懲罰を味わっていないのである。 (1-8)

それともかれらは、偉力ならびなく、惜しみなく与えられるあなたの主の慈悲の宝庫を持っているのか。それとも、天と地と、その間にあるすべてのものの王権は、かれらのものなのか。それなら、綱を伝って登ってみるがよい。かれらは、あなたに敵対して手を組んだすべての党派からなる一つの軍勢であり、ここで打ち破られる。かれら以前にも、ヌーフの民が真理を否定した。アードも、杭の主フィルアウンも、サムードも、ルートの民も、森の住人たちも―これらが諸党派であった。そのだれもが、使徒たちをうそつきと呼んだ。そこでわたしの懲罰が、当然のものとして下った。この者たちが待っているのは、ただ一度の轟音だけである。それには何の猶予もない。かれらは言う。「主よ、清算の日の前に、わたしたちの取り分を急いでわたしたちにください。」かれらの言うことを耐え忍び、われらのしもべ、力の人ダーウードを思い起こしなさい。かれは、常にアッラーに立ち返る者であった。 (9-17)

われらは、山々を従わせ、夕べにも日の出にも、かれと共にアッラーを讃えさせた。また集められた鳥たちをも。みな、かれに立ち返った。われらは、かれの王国を強め、かれに英知と、物事をはっきりと決める言葉を授けた。訴え出た者たちの話は、あなたに届いたか。かれらが壁を乗り越えて、かれの私室に入ったとき。かれらがダーウードの前に入って来ると、かれはかれらにおびえた。かれらは言った。「恐れないでください。わたしたちは訴え合う二人であり、一方がもう一方に不当なこ

とをしました。ですから真理をもってわたしたちの間を裁き、不公平にならず、わたしたちを正しい道に導いてください。これはわたしの兄弟です。かれには九十九頭の雌羊があり、わたしには一頭の雌羊しかありません。それなのにかれは、『それをわたしに預けなさい』と言い、言葉でわたしを言い負かしました。」かれは言った。「かれは、あなたの雌羊を自分の雌羊に加えようと求めて、あなたに不当なことをした。仲間どうしの多くは、互いに不当なことをする―ただし信仰して善行に励む者たちは別であるが、かれらは少ない。」そのときダーウードは、われらがかれを試みたのだと悟った。そこでかれは、主に赦しを請い、身をかがめて崩れ落ち、悔い改めてかれに立ち返った。そこでわれらは、そのことについてかれを赦した。かれには、われらのもとでの近さと、美しい帰り着く所がある。「ダーウードよ、われらはあなたを地上の後継者とした。だから真理をもって人々の間を裁き、欲望に従ってはならない。それがあなたを、アッラーの道から迷わせないように。アッラーの道から迷う者たちには、清算の日を忘れたことのために、厳しい懲罰がある。」 (18-26)

われらは、天と地と、その間にあるすべてのものを、むだに創ったのではない。それは、真理を否定する者たちの思い込みである―真理を否定する者たちには、業火のゆえに災いあれ。われらが、信仰して善行に励む者たちを、地上に腐敗を広める者たちのように扱うであろうか。あるいは、アッラーを畏れる者たちを、悪を行う者たちのように扱うであろうか。これは、われらがあなたに下した祝福に満ちた啓典である。かれらがその節を深く考え、理解力のある者たちが心に留めるためである。 (27-29)

われらは、ダーウードにスライマーンを授けた―何と優れたしもべであろう。かれは、常にアッラーに立ち返る者であった。夕暮れ近く、三本の足で立つ足の速い馬たちが、かれの前に引き出されたとき、かれは言った。「わたしは、主を思い起こすことよりも、良いものへの愛を愛してしまった。」やがて太陽が幕の後ろに隠れた。「それらを、わたしのもとに連れ戻しなさい。」そしてかれは、その足と首をなで始めた。われらは確かにスライマーンを試み、かれの王座の上に一つの体を投げ出した。それからかれは、アッラーに立ち返った。かれは言った。「主よ、わたしを赦し、わたしの後のだれにもふさわしくないような王国を、わたしに授けてください。まことにあなたは、惜しみなく与えられる御方です。」そこでわれらは、風をかれに従わせた。風は、かれの命令によって、かれの向けるどこへでも穏やかに吹いた。また悪魔たちを、あらゆる建てる者ともぐる者を、またかせでつながれ

たほかの者たちを従わせた。「これは、われらの贈り物である。だから清算を気にせず、惜しみなく与えても、とどめておいてもよい。」かれには、われらのもとでの近さと、美しい帰り着く所がある。 (30-40)

また、われらのしもべアイユーブを思い起こしなさい。かれが主に呼びかけたとき。「悪魔が、疲れと苦しみでわたしに触れました。」「あなたの足で地を踏みなさい。ここに、身を洗う冷たい水と、飲み物がある。」われらは、われらからの慈悲として、また理解力のある者たちへの訓戒として、かれに家族を返し、さらにそれと同じだけの者を加えて授けた。「あなたの手に一束の小枝を取って、それで打ちなさい。あなたの誓いを破ってはならない。」われらは、かれが耐え忍ぶ者であることを知った—何と優れたしもべであろう。かれは、常にアッラーに立ち返る者であった。 (41-44)

また、われらのしもべイブラーヒーム、イスハーク、ヤアクーブを思い起こしなさい。力と見識を備えた人々であった。われらは、一つの清らかな特質によって、かれらを清めた。来るべき住まいを思い起こすことである。かれらは、われらのもとで、選ばれた者、善い者の中にいる。またイスマーイール、アルヤサア、ズルキフルを思い起こしなさい。そのだれもが、善い者の中にいた。これは一つの訓戒である。アッラーを畏れる者たちには、美しい帰り着く所がある。 (45-49)

尽きることのない至福の楽園であり、その門はかれらのために開かれている。そこでかれらは、身を横たえて、豊かな果実と飲み物を求める。かれらのそばには、まなざしを控えた、同じ年ごろの伴侶たちがいる。「これが、清算の日のために、あなたがたに約束されているものである。これは、われらの授ける糧であり、決して尽きることがない。」 (50-54)

そのとおりである。だがあらゆる限度を越える者たちには、悪い帰り着く所がある。地獄であり、かれらはその中で焼かれる—何と悪い休み場であろう。そのとおりである。かれらにそれを味わわせなさい。煮えたぎる湯と、うみである。また同じ種類のほかの苦しみが、幾組もある。「これは、あなたがたと共に押し寄せて来る一群である。かれらに歓迎はない。かれらは業火で焼かれるのである。」その者たちは言う。「いや、歓迎がないのは、あなたがたのほうだ。あなたがたが、これをわたしたちにもたらした—何と悪い落ち着き先であろう。」かれらは言う。「主よ、これをわたしたちにもたらした者には、業火の中で倍の懲罰を与えてください。」またかれらは言う。「わたしたちはどうしたのか。わたしたちが悪人の中に数えて

いた人々が見えないとは。わたしたちは、かれらを笑いぐさにしていたのか。それとも、わたしたちの目がかれらを見落としているのか。」これは確かに真実である。業火の住人たちの言い争いである。 (55-64)

言え、「わたしは警告者にすぎない。アッラーのほかに神はない。唯一にして、すべてを従わせる御方、天と地と、その間にあるすべてのものの主、偉力ならびなく、よく赦される御方である。」言え、「これは重大な知らせである。それなのにあなたがたは、それから背き去っている。至高の集いの者たちが論じ合ったとき、わたしには何の知識もなかった。わたしにはただ、わたしが明らかな警告者であるということだけが啓示されている。」 (65-70)

あなたの主が、天使たちに言われたとき。「わたしは、粘土から人間を創ろうとしている。わたしがかれを形づくり、わたしの霊をその中に吹き込んだなら、かれの前にひれ伏して崩れ落ちなさい。」そこで天使たちは、みなそろってひれ伏した――ただイブリースは別であった。かれは高ぶり、真理を否定する者の一人となった。かれは言われた。「イブリースよ、わたしがこの両手で創ったものの前にひれ伏すことを、何があなたに妨げたのか。あなたは高ぶったのか。それとも、高い者の一人なのか。」かれは言った。「わたしは、かれよりも優れています。あなたは、わたしを火から創り、かれを粘土から創られました。」かれは言われた。「それなら、ここから出て行け。おまえは呪われた者である。審判の日まで、わたしの呪いはおまえの上にある。」かれは言った。「主よ、かれらがよみがえらされる日まで、わたしに猶予を与えてください。」かれは言われた。「おまえは、定められた時の日まで、猶予を与えられた者の一人である。」かれは言った。「それなら、あなたの威力にかけて、わたしは必ずかれらをみな迷わせます。ただその中の、あなたの選ばれたしもべたちは別です。」かれは言われた。「これは真理である――わたしは真理を語る。わたしは必ず、おまえと、かれらの中でおまえに従うすべての者とで、地獄を満たす。」 (71-85)

言え、「わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。またわたしは、見せかける者の一人でもない。これは、万有への訓戒にほかならない。あなたがたは、しばらくの後に、必ずその知らせを知るであろう。」 (86-88)

39. 群れ (Al-Zumar)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

この啓典が下されたのは、偉力ならびなく、英知に満ちたアッラーからである。われらは、真理によってあなたに啓典を下した。だからアッラーを崇め、信仰をひたすらかれにささげなさい。まことに、純粋な信仰は、ただアッラーにささげられるべきものである。かれのほかに守護者を持ち、「わたしたちがこれらを崇めるのは、ただわたしたちをアッラーのそば近くに寄せてくれるからである」と言う者たち―アッラーは、かれらが意見を異にしていることについて、かれらの間を裁かれる。アッラーは、うそつきで恩知らずの者を導かれない。もしアッラーが子を持とうと望まれたなら、創られるものの中から、望まれるものを選ぶことができたであろう。かれに栄光あれ。かれこそはアッラー、唯一にして、すべてを従わせる御方である。かれは、真理によって天と地を創られた。かれは、夜を昼の上に巻きつけ、昼を夜の上に巻きつけ、太陽と月を従わせられた。そのそれぞれは、定められた期限まで走る。かれこそ、偉力ならびなく、よく赦される御方ではないか。 (1-5)

かれは、あなたがたをただ一つの魂から創り、それからその魂からその配偶者を造られた。またあなたがたのために、八頭の家畜を雌雄の対にして下された。かれは、あなたがたの母の胎内で、三重の暗闇の中で、創造に創造を重ねてあなたがたを創られる。これこそアッラー、あなたがたの主であり、王権はかれのものである。かれのほかに神はない。それなのに、あなたがたはどうして背かされるのか。もしあなたがたが真理を否定しても、アッラーは、あなたがたを少しも必要とされない。だがかれは、そのしもべたちの恩知らずを喜ばれない。もしあなたがたが感謝するなら、かれは、あなたがたのそれを喜ばれる。重荷を負う者は、ほかの者の重荷を負わない。それからあなたがたの帰り着く先は、あなたがたの主のもとである。かれは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げられる。かれは、胸の中にあるものをよく知っておられる。 (6-7)

人間に災いが触れると、かれは自分の主に立ち返って、かれに祈る。だがかれが、ご自分からの恵みを授けられると、以前に祈り求めていたことを忘れ、アッラーに並ぶものを立てて、人々をかれの道から迷わせる。言え、「しばらくの間、あなたの不信仰を楽しむがよい。あなたは業火の住人の一人である。」夜の時を通して、ひれ伏し、あるいは立って、心から崇め、来世を警戒し、自分の主の慈悲を望む者

は、そうしない者と同じであろうか。言え、「知る者と知らない者は同じであろうか。」心に留めるのは、理解力のある者たちだけである。 (8-9)

言え、「アッラーはこう言われる。信仰するわたしのしもべたちよ、あなたがたの主を畏れなさい。現世で善を行う者たちには、良いものがある。アッラーの大地は広い。まことに、耐え忍ぶ者たちは、限りなくその報奨を十分に支払われる。」言え、「わたしは、信仰をひたすらアッラーにささげて、かれを崇めるよう命じられた。またわたしは、アッラーに帰依する者の最初の者となるよう命じられた。」言え、「もしわたしが主に背くなら、わたしは重大な日の懲罰を恐れる。」言え、「わたしが崇めるのはアッラーであり、信仰をひたすらかれにささげる。だからあなたがたは、かれのほかに何でも望むものを崇めるがよい。」言え、「本当の損失者とは、復活の日に、自分自身と自分の家族を失う者たちである。それこそ明白な損失ではないか。かれらには、上にも火の覆いがあり、下にも覆いがある。」これによってアッラーは、そのしもべたちに恐れを抱かせられる。「わたしのしもべたちよ、わたしを畏れなさい。」 (10-16)

偽りの神々を崇めることを避け、アッラーに立ち返る者たち―かれらには吉報がある。だからわたしのしもべたちに吉報を伝えなさい。かれらは、語られることに耳を傾け、その最も良いものに従う者たちである。これらの者こそ、アッラーが導かれた者であり、これらの者こそ、理解力のある者である。懲罰の言葉が、その者に対して真実となった者はどうであろうか。あなたは、業火の中にいる者を救い出すことができるのか。だが自分の主を畏れる者たちには、高殿がある。その上にさらに高殿が築かれ、その下を川が流れる。これはアッラーの約束である―アッラーは、その約束をたがえられない。 (17-20)

あなたは見ないのか。アッラーが空から水を降らせ、それを泉として大地の中に通わせ、それからそれによって色とりどりの作物を出されるのを。それからそれは枯れ、あなたは、それが黄色くなるのを見る。それからかれは、それを砕けたわらくずとされる。まことにこの中には、理解力のある者たちへの訓戒がある。 (21)

アッラーがその胸を開いて、かれに帰依させ、自分の主からの光の中を歩む者は、心のかたくなな者と同じであろうか。アッラーを思い起こすことに対して心のかたくなな者たちには、災いあれ。かれらは、明白な迷いの中にいる。アッラーは、最も美しい言葉を下された。それ自身と調和し、その教えが対をなして繰り返される啓典である。自分の主を畏れ敬う者たちの肌は、それによって震える。それからか

れらの肌と心は、アッラーを思い起こすことへと和らぐ。これがアッラーの導きである。かれは、これによって望まれる者を導かれる。アッラーが迷うに任せられた者には、導く者はない。 (22-23)

復活の日に、最も悪い懲罰を自分の顔で防ぐほかない者は、安全な者と同じであろうか。不正を行う者たちには、こう言われる。「あなたがたが稼いでいたものを味わいなさい。」かれら以前の者たちもまた、真理を否定した。そこで懲罰は、かれらが思いもしなかった所から、かれらに臨んだ。こうしてアッラーは、現世の生活でかれらに屈辱を味わわせられた。来世の懲罰は、確かにもっと大きい。かれらがそれを知っていたなら。 (24-26)

われらは、このクルアーンの中で、人々のためにあらゆる種類のたとえを示した。かれらが心に留めるためである。少しの曲がりもない、アラビア語のクルアーンである。かれらがアッラーを畏れるようになるためである。アッラーは、一つのたとえを示される。互いに争い合う何人もの主人たちに属する男と、ただ一人の主人にすっかり属する男である。この二人の境遇は同じであろうか。アッラーに讃美あれ。だがかれらの多くは知らない。 (27-29)

あなたも死に、かれらも死ぬ。それから復活の日に、あなたがたは、あなたがたの主の前で互いに言い争う。アッラーについて偽りを作り上げ、真理が自分のもとに来たときにそれを偽りと呼ぶ者よりも、不正な者がだれかあろうか。地獄の中には、真理を否定する者たちの住まいがあるではないか。だが真理をもたらす者と、それを真実と認める者―これらの者こそ、アッラーを畏れる者である。かれらには、自分の主のもとで、望むものが何でもある。これが、善を行う者たちへの報奨である。アッラーが、かれらの行った最も悪いことをかれらから消し去り、かれらが行っていた最も良いことに応じて、その報奨を支払われるためである。 (30-35)

アッラーは、そのしもべにとって十分ではないのか。それでもかれらは、かれのほかのものたちによって、あなたを脅そうとする。アッラーが迷うに任せられた者には、導く者はない。アッラーが導かれる者を、迷わせることのできる者はない。アッラーは、偉力ならびなく、報復の主ではないのか。もしあなたがかれらに、だれが天と地を創ったのかと尋ねるなら、かれらは必ず「アッラーだ」と言う。言え、「それなら、あなたがたがアッラーをさしおいて祈り求めるものたちについて、考えてみたか。もしアッラーがわたしに災いを望まれるなら、それらは、かれの災いを取り除くことができるのか。あるいは、かれがわたしに慈悲を望まれるなら、そ

れらは、かれの慈悲をとどめることができるのか。」言え、「わたしには、アッラーで十分である。すべてを委ねる者たちは、かれに委ねるがよい。」言え、「わたしの民よ、あなたがたの立場に応じて行いなさい。わたしもまた行っている。あなたがたは、やがて知るであろう。辱める懲罰がだれに臨み、永く続く懲罰がだれの上に下るのかを。」 (36-40)

われらは、人々のために、真理によってあなたに啓典を下した。導かれる者は、自分自身のために導かれるのである。迷う者は、ただ自分自身の損として迷うのである。あなたは、かれらの後見人ではない。アッラーは、人が死ぬときにその魂を召され、まだ死なない者の魂も、その眠りの中で召される。かれは、死を定められた者の魂をとどめ、ほかの者の魂は、定められた期限まで送り返される。まことにこの中には、深く考える民への数々のしるしがある。それともかれらは、アッラーのほかに、とりなす者たちを持ったのか。言え、「たとえそれらが、何ものに対しても力がなく、何の理解力もなくてもか。」言え、「すべてのとりなしは、アッラーのものである。天と地の王権はかれのものである。それからあなたがたは、かれのもとに帰される。」 (41-44)

アッラーだけが語られると、来世を信じない者たちの心は、嫌悪に縮み上がる。だがかれのほかのものたちが語られると、たちまちかれらは喜ぶ。言え、「アッラーよ、天と地を創り出された御方、目に見えないものも見えるものも知っておられる御方よ。あなたは、あなたのしもべたちが意見を異にしていたことについて、かれらの間を裁かれます。」もし不正を行った者たちが、地上にあるすべてのものと、さらにそれと同じだけのものを持っていたとしても、かれらは復活の日に、最も悪い懲罰から自分を贖うために、それを差し出すであろう。だがそのとき、かれらが思ってもみなかったことが、アッラーのもとからかれらに現れる。かれらが稼いだことの悪い結果がかれらに現れ、かれらがあざけっていたことが、かれらを取り囲む。 (45-48)

人間に災いが触れると、かれはわれらに祈る。それから、われらがわれらからの恵みを授けると、かれは言う。「これは、ただ知識のおかげで、わたしに授けられたのだ。」いや、それは一つの試練である。だがかれらの多くは知らない。かれら以前の者たちも、同じことを言った。だがかれらの稼いだものは、かれらの役に立たなかった。こうして、かれらが稼いだことの悪い結果が、かれらを襲った。この者たちの中で不正を行う者たちにも―かれらが稼ぐことの悪い結果が襲い、かれらは

逃れることができない。かれらは知らないのか。アッラーが、望まれる者に糧を豊かに授け、またそれを量って授けられることを。まことにこの中には、信仰する民への数々のしるしがある。 (49-52)

言え、「アッラーはこう言われる。自分自身に対して度を越した、わたしのしもべたちよ、アッラーの慈悲に絶望してはならない。アッラーは、すべての罪を赦される。かれこそは、よく赦し、慈愛深い御方である。懲罰があなたがたに臨む前に、あなたがたの主に立ち返り、かれに帰依しなさい。その後では、あなたがたは助けられない。あなたがたが気づかないうちに、懲罰がにわかにあなたがたに臨む前に、あなたがたの主からあなたがたに下されたものの中の、最も良いものに従いなさい。どの魂も、こう言うことのないように。『ああ情けない。わたしは、アッラーに対する務めを怠り、まことにあざける者の一人でした。』あるいはこう言うことのないように。『もしアッラーがわたしを導いてくださっていたなら、わたしは、かれを畏れる者の中にいたでしょうに。』あるいは懲罰を見て、こう言うことのないように。『もう一度機会があったなら、わたしは善を行う者の仲間になるのに。』」決してそうではない。わたしのしるしは、あなたのもとに来ていた。だがあなたは、それを偽りと呼んで高ぶり、真理を否定する者の一人であった。 (53-59)

復活の日に、あなたは、アッラーについて偽りを語った者たちの顔が、黒くなっているのを見る。地獄の中には、高慢な者たちの住まいがあるではないか。アッラーは、かれを畏れていた者たちを、その安全な所へと救い出される。災いがかれらに触れることはなく、かれらが悲しむこともない。アッラーは、すべてのものの創造者であり、すべてのものを委ねるべき御方である。天と地のかぎは、かれのものである。アッラーのしるしを否定する者たち―かれらこそ損失者である。 (60-63)

言え、「無知な者たちよ、あなたがたは、アッラーのほかのものを崇めるよう、わたしに命じるのか。」あなたにも、あなた以前の者たちにも、すでにこう啓示されている。「もしあなたがアッラーに何かを並べるなら、あなたの行いは必ず無に帰し、あなたは必ず損失者の一人となる。」いや、アッラーだけを崇め、感謝する者の一人となりなさい。かれらは、アッラーをふさわしく評価していない。復活の日には、大地のすべてがかれの一握りの中にあり、天は、その右手の中に巻き上げられる。かれに栄光あれ。かれは、かれらが並べるものをはるかに超えて、高くあられる。ラッパが吹かれる。すると天にいるすべての者も、地にいるすべての者も、気を失って倒れる。ただアッラーが望まれる者は別である。それからもう一度それ

が吹かれる。するとたちまち、かれらは立ち上がって、目を見張る。大地は、その主の光によって輝く。書が置かれ、預言者たちと証人たちが連れ出され、真理をもってかれらの間に裁きが下される。かれらが不当に扱われることはない。どの魂も、その行ったことに対して十分に支払われる。かれは、かれらの行うことを最もよく知っておられる。 (64-70)

真理を否定した者たちは、群れをなして地獄へと追い立てられる。やがてかれらがそこに着くと、その門が開かれ、その番人たちがかれらに言う。「あなたがた自身の中から、使徒たちがあなたがたのもとに来て、あなたがたの主のしるしを読み聞かせ、あなたがたのこの日の会見を警告しなかったのか。」かれらは言う。「確かに来ました。」―だが懲罰の言葉は、真理を否定する者たちに対して真実となった。そしてこう言われる。「地獄の門を入り、永遠にそこにとどまりなさい。」高慢な者たちの住まいは、何と悪いことか。 (71-72)

また自分の主を畏れていた者たちは、群れをなして楽園へと導かれる。やがてかれらがそこに着くと、その門はすでに開かれており、その番人たちがかれらに言う。「あなたがたに平安あれ。あなたがたは良く行った。だからそこに入り、永遠にとどまりなさい。」かれらは言う。「すべての讃美はアッラーのもの。かれは、わたしたちへの約束を果たし、この大地をわたしたちに受け継がせられた。わたしたちは、楽園の中の望むどこにでも住むことができる。」働く者たちへの報奨は、何と優れていることか。またあなたは、天使たちが玉座の周りを巡り、自分の主を讃美して讃えているのを見る。真理をもってかれらの間に裁きが下され、こう言われる。「すべての讃美は、万有の主アッラーのもの。」 (73-75)

40. 赦す御方 (Ghāfir)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ハー・ミーム。 (1)

この啓典が下されたのは、偉力ならびなく、すべてを知っておられるアッラーからである。罪を赦し、悔悟を受け入れ、懲罰に厳しく、恵みに富む御方である。かれのほかに神はない。最後の帰り着く先は、かれのもとである。アッラーのしるしについて言い争うのは、真理を否定する者たちだけである。だから（預言者よ）かれらがこの地を行き来していることに、欺かれてはならない。かれら以前にも、ヌーフの民が否定し、その後の諸党派も否定した。どの共同体も、自分たちの使徒を捕らえようとたくらみ、偽りによって言い争って、それで真理を打ち消そうとした―そこでわたしは、かれらを捕らえた。わたしの懲罰は、どのようなものであったか。このように、あなたの主の言葉は、真理を否定する者たちに対して真実となった。かれらは業火の住人である、と。 (2-6)

玉座を担う者たちと、その周りにいる者たちは、自分の主を讃美して讃え、かれを信じ、信仰する者たちのために赦しを請う。「主よ、あなたは、慈悲と知識によってすべてのものを包んでおられます。ですから、悔い改めてあなたの道に従う者たちを赦し、かれらを地獄の懲罰から守ってください。主よ、あなたがかれらに約束された、尽きることのない至福の楽園に、かれらを入れてください。かれらの父祖、配偶者、子孫の中の正しい者たちも共に。まことにあなたは、偉力ならびなく、英知に満ちた御方です。またかれらを、悪い行いから守ってください。その日、あなたが悪い行いから守られる者は、確かにあなたが慈悲をかけられた者です―それこそ大いなる勝利です。」真理を否定した者たちには、こう呼びかけられる。「アッラーのあなたがたへの嫌悪は、今日のあなたがたの自分自身への嫌悪よりも大きい。あなたがたは信仰へと招かれたのに、否定したからである。」かれらは言う。「主よ、あなたは二度わたしたちを命のないものとし、二度わたしたちに命を授けられました。今わたしたちは、自分の罪を認めます。出て行く道が何かあるでしょうか。」「これは、アッラーだけが祈り求められたとき、あなたがたが否定し、かれに同位者が並べられたとき、あなたがたが信じたからである。裁きは、至高にして至大のアッラーのものである。」 (7-12)

かれこそは、あなたがたにご自分のしるしを見せ、あなたがたのために空から糧を下される御方である。だがかれに立ち返る者のほかは、だれも心に留めない。だから、真理を否定する者たちがどれほど嫌っても、信仰をひたすらアッラーにささげて、かれに祈りなさい。かれは、あらゆる位階を超えて高く、玉座の主であられる。かれは、そのしもべたちの中の望まれる者に、ご自分の命令による霊を投げかけられる。会見の日を警告するためである―その日、かれらは現れ出て、かれらの何一つも、アッラーに隠れることはない。「今日、王権はだれのものか。」「唯一にして、すべてを従わせるアッラーのものである。今日、どの魂も、その稼いだことに対して報いられる。今日、不正はない。アッラーは清算に速い。」 (13-17)

刻々と近づいて来るその日を、かれらに警告しなさい。そのとき、心臓はのどもとまでせり上がって息を詰まらせる。不正を行う者たちには、心の通う友もなく、聞き入れられるとりなす者もない。かれは、目の裏切りも、胸が隠すすべてのことも知っておられる。アッラーは真理をもって裁かれる。だがかれらがかれをさしおいて祈り求めるものたちは、何一つ裁くことができない。まことにアッラーこそ全聴にして、すべてを見ておられる御方である。 (18-20)

かれらは地上を旅して、かれら以前の者たちの最後がどうであったかを見なかったのか。その者たちは、力においても、地上に残した跡においても、この者たちよりも強大であった。だがアッラーは、その罪のためにかれらを捕らえられた。かれらには、アッラーから守ってくれる者はなかった。それは、かれらの使徒たちが明らかな証拠を持って来続けたのに、かれらが否定したからである。そこでアッラーは、かれらを捕らえられた。まことにかれは強く、懲罰に厳しい御方である。 (21-22)

われらは、ムーサーに、われらのしるしと明らかな権威を持たせて、フィルアウンとハーマーンとカールーンのもとに遣わした。だがかれらは言った。「うそつきの魔術師だ。」かれがわれらのもとからの真理をかれらにもたらすと、かれらは言った。「かれと共に信じる者たちの息子たちを殺し、その女たちは生かしておけ。」だが真理を否定する者たちのたくらみは、迷いのほかにはどこにも行き着かない。フィルアウンは言った。「わたしにムーサーを殺させなさい。かれには、自分の主に祈らせておけ。わたしは、かれがおまえたちの宗教を変えるか、あるいはこの地に腐敗を広めることを恐れる。」ムーサーは言った。「わたしは、清算の日を信じないすべての高慢な者から、わたしの主であり、あなたがたの主である御方に守りを求める。」 (23-27)

フィルアウンの一族の中で、自分の信仰を隠していた一人の信仰する男が言った。「あなたがたは、『わたしの主はアッラーである』と言うからといって、一人の人を殺すのですか。かれは、あなたがたの主からの明らかな証拠を、あなたがたにもたらしたのに。もしかれがうそつきなら、そのうそはかれ自身に降りかかります。だがもしかれが真実を語っているなら、かれがあなたがたに警告していることの一部は、あなたがたに降りかかるでしょう。アッラーは、度を越すうそつきを導かれません。わたしの民よ、今日、王権はあなたがたのものであり、あなたがたはこの地で優位に立っています—だがアッラーの懲らしめがわたしたちに臨むなら、だれがわたしたちを助けてくれるでしょうか。」フィルアウンは言った。「わたしは、わたし自身が見るものだけを、おまえたちに示している。わたしは、ただ正しい行いの道へと、おまえたちを導いている。」 (28-29)

信仰するその男は言った。「わたしの民よ、わたしはあなたがたのために、諸党派の日のようなものを恐れます—ヌーフの民、アード、サムード、そしてその後の者たちの運命のようなものを。アッラーは、そのしもべたちに対して何の不正も望まれません。わたしの民よ、わたしはあなたがたのために、互いに呼び合う日を恐れます。その日、あなたがたは背を向けて逃げますが、アッラーから守ってくれる者はだれもいません。アッラーが迷うに任せられた者には、導く者はありません。以前にも、ユースフが明らかな証拠を持って、あなたがたのもとに来ました。だがあなたがたは、かれがもたらしたものについて疑い続けました。やがてかれが死ぬと、あなたがたは言いました。『アッラーは、かれの後に決して使徒を遣わされない。』このようにアッラーは、度を越して疑う者を迷うに任せられます— (30-34)

自分たちのもとに来た何の権威もないのに、アッラーのしるしについて言い争う者たちを。それは、アッラーの御前でも、信仰する者たちの前でも、はなはだしく憎まれることです。このようにアッラーは、高慢で横暴なすべての心を封じられます。」フィルアウンは言った。「ハーマーンよ、わたしのために塔を建てなさい。わたしが道に達するように—天の道に達して、ムーサーの神を見るように。わたしは、かれをうそつきだと思っている。」このようにフィルアウンには、その行いの悪さが美しく見せられ、かれは道から妨げられた。フィルアウンのたくらみは、滅びに終わっただけであった。 (35-37)

信仰するその男は言った。「わたしの民よ、わたしに従いなさい。わたしは、あなたがたを正しい行いの道へと導きます。わたしの民よ、この現世の生活は、過ぎ去

る楽しみにすぎません。来世こそ、永く住む家です。悪い行いをする者は、それと同じだけの報いを受けるだけです。だが男でも女でも、信者であって善を行う者―これらの者は楽園に入り、そこで限りなく糧を授けられます。わたしの民よ、どうしたことでしょう。わたしはあなたがたを救いへと招いているのに、あなたがたはわたしを業火へと招くとは。あなたがたは、アッラーを否定し、わたしの知識にないものをかれに並べるよう、わたしを招きます。だがわたしは、偉力ならびなく、よく赦される御方へと、あなたがたを招きます。疑いもなく、あなたがたがわたしを招いているものには、現世でも来世でも、祈り求められる資格はありません。わたしたちの帰り着く先はアッラーのもとであり、度を越す者たちは業火の住人です。あなたがたは、わたしがあなたがたに言うことを、やがて思い起こすでしょう。わたしは、自分の事をアッラーに委ねます。まことにアッラーは、そのしもべたちを見ておられます。」こうしてアッラーは、かれらがたくらんだ悪からかれを守られた。そして悪い懲罰が、フィルアウンの一族を取り囲んだ。 (38-45)

業火である―かれらは、朝に夕にその前にさらされる。その時が訪れる日には、こう言われる。「フィルアウンの一族を、最も厳しい懲罰の中に入れなさい。」かれらが業火の中で互いに言い争うとき、弱い者たちは、高慢であった者たちに言う。「わたしたちは、あなたがたに従う者でした。それなら今、業火のいくらかでも、わたしたちから取り除いてくれますか。」高慢であった者たちは言う。「わたしたちはみな、この中にいる。アッラーは、すでにそのしもべたちの間を裁かれた。」業火の中にいる者たちは、地獄の番人たちに言う。「一日だけでも、わたしたちの懲罰を軽くしてくださるよう、あなたがたの主に祈ってください。」番人たちは言う。「あなたがたの使徒たちは、明らかな証拠を持って、あなたがたのもとに来続けなかったのか。」かれらは言う。「来ました。」番人たちは言う。「それなら祈るがよい―だが真理を否定する者たちの祈りは、むなしいだけである。」 (46-50)

われらは必ず、現世の生活でも、証人たちが立つ日にも、われらの使徒たちと信仰する者たちを助ける―その日、不正を行った者たちの言い訳は、かれらの役に立たない。かれらには呪いがあり、悪い住まいがある。われらは、ムーサーに導きを授け、イスラエルの子孫に啓典を受け継がせた。理解力のある者たちへの導きであり訓戒である。だから耐え忍びなさい。アッラーの約束は真実である。あなたの罪のために赦しを請い、夕べにも早朝にも、あなたの主を讃美して讃えなさい。自分たちのもとに来た何の権威もないのに、アッラーのしるしについて言い争う者たち―その胸の中にあるのは、決してかれらが達することのない高慢だけである。だから

アッラーに守りを求めなさい。まことにかれこそ全聴にして、すべてを見ておられる御方である。 (51-56)

まことに、天と地の創造は、人間の創造よりも大きなことである。だが人々の多くは知らない。目の見えない者と見える者は同じではない。信仰して善行に励む者たちと、悪を行う者も同じではない。あなたがたは何とわずかしか心に留めないことか。その時は必ず来る。それには疑いの余地がない。だが人々の多くは信じない。あなたがたの主は言われた。「わたしに祈りなさい。わたしはあなたがたに答える。高ぶってわたしを崇めない者たちは、卑しめられて地獄に入る。」 (57-60)

アッラーこそは、あなたがたがその中で休むように夜を設け、昼を、物を見せるものとされた御方である。まことにアッラーは、人々に対して恵みに満ちておられる。だが人々の多くは感謝しない。これこそアッラー、あなたがたの主、すべてのものの創造者である。かれのほかに神はない。それなのに、あなたがたはどうして背かされるのか。アッラーのしるしを否む者たちは、このように背かされる。アッラーこそは、大地をあなたがたのための定まった住まいとし、空を天蓋とし、あなたがたを形づくって、その姿を美しくし、良いものをあなたがたに授けられた御方である。これこそアッラー、あなたがたの主である。万有の主アッラーに祝福あれ。かれは生きておられる御方であり、かれのほかに神はない。だから信仰をひたすらかれにささげて、かれに祈りなさい。すべての讃美は、万有の主アッラーのもの。 (61-65)

言え、「わたしの主からの明らかな証拠がわたしに来た今、わたしは、あなたがたがアッラーをさしおいて祈り求めるものたちを崇めることを禁じられた。そしてわたしは、万有の主に帰依するよう命じられた。」かれこそは、あなたがたを土から、それから一滴から、それから付着するものから創られた御方である。それからかれは、あなたがたを赤子として出される。それから、あなたがたが力の盛りに達し、それから老いるまで生かされる—あなたがたの中には、その前に召される者もある—また定められた期限に達するようにされる。あなたがたが悟るためである。かれこそは、生を与え、死を与えられる御方である。かれが何かを定められるとき、ただそれに「あれ」と言われるだけである。するとそれは、ある。 (66-68)

あなたは見ないのか。アッラーのしるしについて言い争う者たちが、どのように背かされているかを。啓典と、われらが使徒たちに託して遣わしたものを偽りとする者たちは、やがて知るであろう。鉄の首かせと鎖がその首にかけられ、かれらが煮

えたぎる湯の中に引きずり込まれ、それから燃料として業火の中に押し込まれるときに。それからかれらは、こう尋ねられる。「あなたがたが、アッラーをさしおいて並べていたものたちは、今どこにいるのか。」かれらは言う。「それらは、わたしたちを見捨てました。いや、わたしたちが以前に祈り求めていたものは、何ものでもなかったのです。」このようにアッラーは、真理を否定する者たちを迷うに任せられる。「これは、あなたがたが正当な理由もなく地上でおごり、横柄であったからである。地獄の門を入り、そこにとどまりなさい。高慢な者たちの住まいは、何と悪いことか。」 (69-76)

だから耐え忍びなさい。アッラーの約束は真実である。われらが、かれらに約束したことの一部をあなたに見せるにせよ、あるいはその前にあなたをわれらのもとに召すにせよ、かれらはわれらのもとに帰される。われらは、あなた以前にも使徒たちを遣わした。そのある者については、あなたに語り、ある者については、あなたに語っていない。どの使徒も、アッラーのお許しによるほかは、しるしをもたらすことはできなかった。それからアッラーの命令が下るとき、真理をもって裁きが下され、そこで偽りに従う者たちは滅びる。 (77-78)

アッラーこそは、あなたがたのために家畜を設けられた御方である。あなたがたがそのあるものに乗り、あるものを食べるためである。あなたがたには、それらの中にほかの益もある。またそれらによって、あなたがたの胸の中にあるどんな用も果たすことができる。あなたがたは、その上にも、舟の上にも運ばれる。かれは、あなたがたにご自分のしるしを見せられる。それでは、あなたがたはアッラーのしるしのどれを否むのか。 (79-81)

かれらは地上を旅して、かれら以前の者たちの最後がどうであったかを見なかったのか。その者たちは、この者たちよりも数が多く、力においても、地上に残した跡においても強大であった。だがかれらの稼いだものは、かれらに何の役にも立たなかった。かれらの使徒たちが明らかな証拠を持って来たとき、かれらは、自分たちの持っている知識におごった。そしてかれらがあざけっていたことが、かれらを取り囲んだ。それから、かれらがわれらの懲らしめを見たとき、かれらは言った。「わたしたちは、アッラーだけを信じます。かれに並べていたものを否みます。」だがわれらの懲らしめを見た後での信仰は、かれらの役に立たなかった―これは、かれのしもべたちの間で常に行われてきた、アッラーの慣行である―そこで、真理を否定した者たちは滅びた。 (82-85)

41. 解明 (Fuṣṣilat)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ハー・ミーム。 (1)

慈悲あまねく慈愛深い御方から下されたものである。その節が詳しく解き明かされた啓典であり、知る民のための、アラビア語のクルアーンである。吉報を伝え、警告するものである。だがかれらのほとんどは背き去り、それで聞こうとしない。かれらは言う。「わたしたちの心は、あなたが招くものに対して覆われている。わたしたちの耳には重い栓があり、わたしたちとあなたの間には幕がある。だから好きなようにするがよい。わたしたちも行っている。」言え、「わたしは、あなたがたと同じ人間にすぎない。わたしには、あなたがたの神は唯一の神であると啓示されている。だからまっすぐにかれに向かい、かれの赦しを請いなさい。」かれに何かを並べる者たちには、災いあれ。かれらは、定めの喜捨をせず、来世を否定する者たちである。信仰して善行に励む者たちには、決して尽きることのない報奨がある。 (2-8)

言え、「あなたがたは本当に、大地を二つの時代で創られた御方を否定し、かれに並ぶものを立てるのか。かれこそ万有の主である。」かれは、その上にそびえ立つ揺るぎない山々を置き、そこを祝福し、求めるすべての者のために釣り合いよく、四つの時代で、その中に糧のもとを量り定められた。それからかれは、まだ煙であった天へと御心を向け、それと大地に言われた。「進んでであれ、いやいやであれ、二つとも来なさい。」それらは言った。「わたしたちは進んで参ります。」そこでかれは、二つの時代で、それらを七つの天に整え、それぞれの天にその務めを啓示された。またわれらは、最も低い天をともしびで飾り、それを安全に守った。それは、偉力ならびなく、すべてを知っておられる御方の定めである。 (9-12)

もしかれらが背き去るなら、言え、「わたしは、アードとサムードの落雷のような落雷を、あなたがたに警告する。」使徒たちが、前からも後ろからもかれらのもとに来て、「アッラーのほかは何ものも崇めてはならない」と言ったとき、かれらは言った。「もしわたしたちの主がお望みなら、天使たちを下されたはずだ。だからわたしたちは、あなたがたが託されて来たものを否定する。」アードについては、かれらは正当な理由もなくその地で高慢になり、こう言った。「力において、わたしたちよりも強い者がだれかあろうか。」かれらは見なかったのか。かれらを創ら

れたアッラーが、力においてかれらよりも強いことを。かれらは、われらのしるしを否み続けた。そこでわれらは、災いの日々にわたって、うなりを上げる風をかれらに送った。現世の生活で、屈辱の懲罰をかれらに味わわせるためである。だが来世の懲罰は、さらに屈辱に満ちている。かれらが助けられることはない。サムードについては、われらはかれらを導いた。だがかれらは、導きよりも盲目であることを好んだ。そこで、かれらが稼いでいたことのために、屈辱の懲罰の落雷がかれらを捕らえた。われらは、信仰してアッラーを畏れていた者たちを救った。 (13-18)

アッラーの敵たちが業火へと集められる日、かれらは隊列を組んで追い立てられる。やがてかれらがそこに着くと、かれらの耳と目と皮膚が、かれらの行っていたことについて、かれらに不利な証言をする。かれらは、自分の皮膚に言う。「なぜわたしたちに不利な証言をしたのか。」皮膚は言う。「すべてのものに言葉を授けられるアッラーが、わたしたちに言葉を授けられたのです。かれは、最初にあなたがたを創られた御方であり、あなたがたはかれのもとに帰されます。あなたがたは、自分の耳や目や皮膚が自分に不利な証言をしないようにと、身を隠していたのではありません。むしろあなたがたは、自分の行うことの多くを、アッラーは知っておられないと思っていました。あなたがたが自分の主について抱いていたその思いが、あなたがたを滅ぼしました。こうしてあなたがたは、損失者となったのです。」たとえかれらが耐えても、業火がかれらの住まいである。たとえ償いをしたいと願っても、かれらはそれを許される者の中にはいない。 (19-24)

われらは、かれらに仲間たちをあてがった。その仲間たちは、かれらの前にあるものも後ろにあるものも、かれらの目に美しく見せた。こうして、かれら以前に過ぎ去ったジンと人間の諸共同体の中で、言葉はかれらに対して真実となった。まことにかれらは損失者であった。真理を否定する者たちは言う。「このクルアーンに耳を貸すな。騒ぎ立ててそれをかき消せ。そうすればあなたがたが勝つであろう。」だからわれらは必ず、真理を否定する者たちに厳しい懲罰を味わわせ、かれらが行っていた最も悪いことに応じて、必ず報いる。それが、アッラーの敵たちへの報い、業火である。かれらには、その中に永遠の住まいがある―われらのしるしを否んでいたことへの報いである。真理を否定した者たちは言う。「主よ、ジンと人間の中で、わたしたちを迷わせた者たちを見せてください。わたしたちは、かれらを足の下に踏みつけ、最も低い者にしてやります。」「わたしたちの主はアッラーである」と言い、それからまっすぐに立ち続ける者たち―天使たちが、かれらの上に下って来る。「恐れてはならない。悲しんではならない。あなたがたに約束されていた楽

園を喜びなさい。わたしたちは、現世の生活でも来世でも、あなたがたの盟友である。そこであなたがたには、自分の魂が望むものが何でもあり、そこであなたがたには、求めるものが何でもある。よく赦し、慈愛深い御方からのもてなしである。」(25-32)

アッラーへと招き、善を行い、「わたしは、アッラーに帰依する者の一人である」と言う者よりも、優れた言葉を語る者がだれかあろうか。善と悪は同じではない。より良いものによって悪を退けなさい。そうすれば、あなたとの間に敵意のあった者も、まるで心の通う親しい友のようになる。だが耐え忍ぶ者たちのほかには、これは授けられない。大きな幸運に恵まれた者のほかには、これは授けられない。もし悪魔からのそそのかしがあなたをそそのかすなら、アッラーに守りを求めなさい。まことにかれこそ全聴にして全知の御方である。(33-36)

かれのしるしの中には、夜と昼、太陽と月がある。太陽にも月にもひれ伏してはならない。それらを創られたアッラーにひれ伏しなさい。あなたがたが崇めるのがかれであるなら。だがもしかれらが高ぶるなら―あなたの主のもとにいる者たちは、夜も昼もかれを讃え、決して疲れることがない。またかれのしるしの一つは、こうである。あなたは、大地がへりくだって静まり返っているのを見る。だがわれらがその上に水を降らせると、それは動き、ふくらむ。まことに、それに命を与えられる御方は、死者に命を与えられる御方である。まことにかれは、万事に全能である。(37-39)

われらのしるしをゆがめる者たちは、われらから隠れてはいない。業火の中に投げ込まれる者が良いのか。それとも、復活の日に無事にやって来る者が良いのか。望むことを行うがよい。まことにかれは、あなたがたの行うことを見ておられる。訓戒が自分たちのもとに来たときに、それを否む者たち―それは、だれも打ち破ることのできない力ある啓典である。偽りは、その前からも後ろからも、それに近づくことができない。英知に満ち、あらゆる讃美にふさわしい御方から下されたものである。（預言者よ）あなたに語られることは、あなた以前の使徒たちに語られたことにほかならない。まことにあなたの主は、赦しの主であり、痛ましい報復の主でもある。もしわれらが、これを外国の言葉のクルアーンとしていたなら、かれらは言ったであろう。「なぜその節が詳しく解き明かされないのか。何と、外国の言葉の書と、アラブ人の使徒とは。」言え、「これは、信仰する者たちには導きであり、癒やしである。だが信仰しない者たちの耳には重い栓があり、これは、かれらにとって見えないものである。かれらは、遠い所から呼びかけられる者のようである。」

われらは、ムーサーに啓典を授けた。だがそれについて意見の違いが生じた。もしあなたの主から以前に下された御言葉がなかったなら、かれらの間はすでに裁かれていたであろう。それでもかれらは、それについて、落ち着かない疑いの中にいる。(40-45)

善を行う者は、自分自身のためにそれを行い、悪を行う者は、自分自身に対してそれを行う。あなたの主は、決してそのしもべたちに不正を行われない。その時についての知識は、すべてかれに帰される。どの果実も、かれの知識なしにそのさやから出ることはなく、どの女も、かれの知識なしに身ごもることも、産むこともない。かれがかれらに、「わたしの同位者たちはどこにいるのか」と呼びかけられる日、かれらは言う。「わたしたちは、あなたに申し上げます。わたしたちの中には、証人は一人もいません。」かれらが以前に祈り求めていたものは、かれらを見捨て、かれらは、自分たちに逃げ場がないことを知る。(46-48)

人間は、良いことを祈り求めて飽きることがない。だが災いが触れると、落胆して望みを失う。そして災いが触れた後で、われらがわれらからの慈悲を味わわせると、かれは必ず言う。「これは、わたしが当然受けるべきものだ。わたしは、その時が来るとは思わない。たとえわたしが主のもとに帰されても、かれのもとには、必ずわたしのための最も良い報奨がある。」だがわれらは必ず、真理を否定した者たちに、その行ったことを告げ、必ず厳しい懲罰を味わわせる。われらが人間に恵みを授けると、かれは背き去り、わきへ退く。だが災いが触れると、長々と祈る。言え、「あなたがたは考えてみたか。もしこれがアッラーからのものであり、それなのにあなたがたがそれを否定するなら、根深い対立の中にいる者よりも迷っている者がだれかあろうか。」われらは、それが真理であることがかれらに明らかになるまで、地平の果てにも、かれら自身の中にも、われらのしるしを見せる。あなたの主が、すべてのことの証人であられることは、十分ではないのか。まことにかれらは、自分の主との会見について疑っている。まことにかれは、すべてのものを包んでおられる。(49-54)

42. 協議 (Al-Shūrā)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ハー・ミーム。アイン・スィーン・カーフ。 (1-2)

このように、偉力ならびなく、英知に満ちたアッラーは、（預言者よ）あなたに啓示される。あなた以前の者たちに啓示されたように。天にあるものも地にあるものも、すべてかれのものである。かれこそは至高にして至大の御方である。天は、その上のほうからほとんど裂けんばかりである。天使たちは、自分の主を讃美して讃え、地上にいる者たちのために赦しを請う。まことにアッラーこそ、よく赦し、慈愛深い御方である。かれのほかに守護者を持つ者たちについては、アッラーがかれらを見守っておられる。あなたは、かれらの後見人ではない。 (3-6)

このようにわれらは、アラビア語のクルアーンをあなたに啓示した。あなたが、諸都市の母とその周りのすべての者に警告し、また疑いの余地のない召集の日を警告するためである。一団は楽園の中に、一団は烈火の中にいる。アッラーがお望みなら、かれらを一つの共同体とされたであろう。だがかれは、望まれる者をご自分の慈悲の中に入れられる。不正を行う者たちには、守護者も援助者もない。それともかれらは、かれのほかに守護者を持ったのか。アッラーこそ守護者である。かれは死者に命を与え、万事に全能である。あなたがたが何について意見を異にしても、その裁きはアッラーのもとにある。「これこそアッラー、わたしの主である。わたしは、かれにすべてを委ね、かれに立ち返る。かれは、天と地を創り出された御方である。かれは、あなたがたのために、あなたがた自身の中から配偶者を設け、家畜にも対を設けて、それによってあなたがたを増やされる。かれに似たものは何もない。かれこそは全聴にして、すべてを見ておられる御方である。天と地のかぎは、かれのものである。かれは、望まれる者に糧を広げ、またそれを量って授けられる。まことにかれは、すべてのことを知っておられる。」 (7-12)

かれは、ヌーフに命じられたものを、あなたがたのための宗教として定められた。それは、われらがあなたに啓示したものであり、われらがイブラーヒーム、ムーサー、イーサーに命じたものである。「この宗教を打ち立てなさい。その中で分裂してはならない。」あなたがかれらを招いているものは、アッラーに同位者を並べる者たちにとって、耐えがたいことである。アッラーは、望まれる者をご自分のために選び、立ち返る者をご自分のもとへと導かれる。かれらは、知識が自分たちのも

とに来た後で、ただ互いの間のねたみから分裂した。もしあなたの主から以前に下された御言葉がなく、定められた期限までかれらに猶予が与えられていなかったなら、かれらの間はすでに裁かれていたであろう。かれらの後で啓典を受け継がされた者たちは、それについて、落ち着かない疑いの中にいる。だから人々をこれへと招き、あなたが命じられたとおりに、まっすぐに立ちなさい。かれらの欲望に従ってはならない。そして言いなさい。「わたしは、アッラーが下されたどの啓典も信じる。わたしは、あなたがたの間を公正に扱うよう命じられた。アッラーは、わたしたちの主であり、あなたがたの主である。わたしたちにはわたしたちの行いがあり、あなたがたにはあなたがたの行いがある。わたしたちとあなたがたの間に、言い争うことはない。アッラーは、わたしたちを一緒に集められる。旅路の果ては、かれのもとである。」アッラーが認められた後で、かれについて言い争う者たち――その言い分は、かれらの主のもとでは無効である。かれらの上には怒りがあり、かれらには厳しい懲罰がある。アッラーこそは、真理によって啓典を下し、またはかりを下された御方である。何があなたに分からせるであろうか。その時は近いかもしれない。それを信じない者たちは、それを急いで求める。だが信仰する者たちは、それを恐れおののき、それが真理であることを知っている。まことに、その時について言い争う者たちは、遠く迷い去っている。 (13-18)

アッラーは、そのしもべたちに対してやさしく、望まれる者に糧を授けられる。かれこそは強く、偉力ならびない御方である。来世の収穫を望む者には、われらはその収穫を増し加える。現世の収穫を望む者には、われらはその中からいくらかを与える。だがその者には、来世での分け前はない。それともかれらには、アッラーがお許しにならなかったものを、かれらのための宗教として定めた同位者たちがいるのか。もし決定の御言葉がなかったなら、かれらの間はすでに裁かれていたであろう。まことに不正を行う者たちには、痛ましい懲罰がある。あなたは、不正を行う者たちが、自分の稼いだことのために恐れおののいているのを見る。それは必ずかれらに降りかかる。だが信仰して善行に励む者たちは、楽園の緑の園の中にいる。かれらには、自分の主のもとで、望むものが何でもある。それこそ大きな恵みである。それは、アッラーが、信仰して善行に励むそのしもべたちに伝えられる吉報である。言え、「わたしはこれについて、あなたがたに何の報酬も求めない。ただ近親者への愛だけを求める。」善い行いを稼ぐ者には、われらはその良さを増し加える。まことにアッラーは、よく赦し、よく報いられる御方である。 (19-23)

それともかれらは、「かれはアッラーについて偽りを作り上げた」と言うのか。もしアッラーがお望みなら、あなたの心を封じることもできる。アッラーは、偽りを消し去り、ご自分の御言葉によって真理を確立される。まことにかれは、胸の中にあるものを知っておられる。かれこそは、そのしもべたちの悔悟を受け入れ、悪い行いを大目に見られる御方である。かれは、あなたがたの行うことを知っておられる。かれは、信仰して善行に励む者たちに答え、その恵みからかれらに増し加えられる。だが真理を否定する者たちには、厳しい懲罰がある。もしアッラーが、そのしもべたちすべてに糧を広げられたなら、かれらは地上で横柄に振る舞ったであろう。だがかれは、お望みのものを、量を定めて下される。まことにかれは、そのしもべたちによく通じ、かれらを見ておられる。かれこそは、かれらが絶望した後で雨を降らせ、ご自分の慈悲を広げられる御方である。かれこそは守護者、あらゆる讃美にふさわしい御方である。 (24-28)

かれのしるしの中には、天と地の創造と、かれがその二つの中に散らばらせられた生き物たちがある。かれは、お望みのときに、それらを集める力を持っておられる。あなたがたに降りかかるどんな災いも、あなたがた自身の手が稼いだことのためである―しかもかれは、多くを大目に見られる。あなたがたは、地上でかれから逃れることはできない。あなたがたには、アッラーのほかに守護者も援助者もない。またかれのしるしの中には、山のように海を行く舟がある。かれがお望みなら、風を静められる。するとそれらは、海の面でじっと動かなくなる。まことにこの中には、よく耐え忍び、よく感謝するすべての者への数々のしるしがある。あるいはかれは、かれらが稼いだことのために、それらを難破させられる―しかもかれは、多くを大目に見られる―われらのしるしについて言い争う者たちが、自分たちに逃げ場がないことを知るためである。 (29-35)

あなたがたに授けられたものは何であれ、現世の生活の楽しみである。だがアッラーのもとにあるものは、より良く、より長く続く。それは、信仰して自分の主にすべてを委ねる者たちのためのものである。かれらは、大きな罪と醜行を避け、怒ったときには赦す者たちである。また自分の主に答え、礼拝を守り、自分たちの事を互いの協議によって決め、われらが授けたものの中から施す者たちである。また不当な仕打ちが降りかかったときには、自分を守る者たちである。害に対する報いは、それと同じだけの害である。だが大目に見て、物事を正す者は、その報奨がアッラーのもとにある。まことにかれは、不正を行う者たちを愛されない。不当な扱いを受けた後で、自分を守る者―そのような者たちには、責められる筋合いはない。責

められる筋合いがあるのは、人々に不正を行い、正当な理由もなく地上で限度を越える者たちだけである。これらの者には、痛ましい懲罰がある。だが耐え忍んで赦す者―それこそ、確かに固い決意を要することである。 (36-43)

アッラーが迷うに任せられた者には、その後、守護者はない。あなたは、不正を行う者たちが懲罰を見て、こう言うのを見る。「戻る道が何かあるでしょうか。」またあなたは、かれらが屈辱のあまりへりくだり、盗み見るようなまなざしで見ながら、その前に引き出されるのを見る。信仰した者たちは言う。「まことに損失者とは、復活の日に、自分自身と自分の家族を失った者たちである。」まことに不正を行う者たちは、永く続く懲罰の中にいる。かれらには、アッラーのほかに、かれらを助ける守護者はない。アッラーが迷うに任せられた者には、進む道はない。 (44-46)

退けることのできない日がアッラーのもとから来る前に、あなたがたの主に答えなさい。その日、あなたがたには避け所もなく、否む力もない。だがもしかれらが背き去るなら―われらはあなたを、かれらの見張り人として遣わしたのではない。あなたの務めは、伝えることだけである。われらが人間に、われらからの慈悲を味わわせると、かれはそれを喜ぶ。だがかれらの手が先に送ったもののために、何か悪いことがかれらに降りかかると、人間は恩を忘れる。天と地の王権は、アッラーのものである。かれは、望まれるものを創られる。かれは、望まれる者に娘たちを授け、望まれる者に息子たちを授けられる。あるいは、息子たちと娘たちを共に授けられる。また望まれる者を、子のない者とされる。まことにかれはすべてを知り、全能の御方である。 (47-50)

アッラーが人間に語りかけられるのは、ただ霊感によるか、幕の後ろからか、あるいは使いを遣わして、お許しによって、望まれることを啓示させることによるほかはない。まことにかれは至高にして、英知に満ちた御方である。このようにわれらは、われらの命令による霊を、あなたに啓示した。あなたは、啓典が何であるかも、信仰が何であるかも知らなかった。だがわれらは、それを光とし、それによってわれらのしもべたちの中の望む者を導く。まことにあなたは、まっすぐな道へと導いている。天にあるものも地にあるものも、すべてがその御方のものである、アッラーの道である。まことに、すべての事はアッラーに帰る。 (51-53)

43. 金の飾り (Al-Zukhruf)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ハー・ミーム。 (1)

物事を明らかにする啓典にかけて。われらは、あなたがたが理解するように、それをアラビア語のクルアーンとした。まことにそれは、われらのもとにある啓典の母の中にあって、実に高く、英知に満ちている。 (2-4)

あなたがたが度を越す民であるからといって、われらが、あなたがたからこの訓戒をすっかり取り上げるであろうか。われらは、昔の人々の中に、どれほど多くの預言者を遣わしたことか。だが預言者がかれらのもとに来るたびに、かれらは必ずそれをあざけった。そこでわれらは、この者たちよりも力の強い人々を滅ぼした。昔の人々の例は、すでに過ぎ去った。もしあなたがかれらに、「だれが天と地を創ったのか」と尋ねるなら、かれらは必ず言う。「偉力ならびなく、すべてを知っておられる御方が、それらを創られた。」―かれは、あなたがたのために大地を揺りかごとし、あなたがたが導かれるように、その中に道を設けられた御方である。また量を定めて空から水を降らせられる御方である―われらは、それによって死んだ土地を生き返らせる。そのように、あなたがたも引き出される―またすべてのものを対として創り、あなたがたのために、乗るための舟と家畜を設けられた御方である。あなたがたがその背に落ち着き、その上に座ったとき、あなたがたの主の恵みを思い起こして、こう言うためである。「これをわたしたちに従わせられた御方に栄光あれ。わたしたちには、とうていこれを従わせることはできなかった。まことにわたしたちは、わたしたちの主のもとに帰って行く。」 (5-14)

それでもかれらは、かれのしもべたちの一部を、かれの分け前としている。人間は、明らかに恩知らずである。それともかれは、創られるものの中から娘たちを取り、あなたがたには息子たちを選ばれたのか。かれらの一人は、自分が慈悲あまねき御方に当てはめているものの誕生を知らされると、その顔は暗くなり、悲しみで息を詰まらせる。「飾りの中で育てられ、言い争いになれば、はっきりと物を言えない者をか。」かれらは、慈悲あまねき御方のしもべである天使たちを、女とした。かれらは、その創造に立ち会ったのか。かれらの証言は書き留められ、かれらは問われる。 (15-19)

かれらは言う。「もし慈悲あまねき御方がお望みなら、わたしたちは、それらを崇めなかったであろう。」かれらには、それについて何の知識もない。かれらは当て推量をしているだけである。それともわれらは、これより前に、かれらに啓典を授け、かれらはそれにしっかりとすがっているのか。いや、かれらは言う。「わたしたちは、父祖たちが一つの道に従っているのを見た。わたしたちは、その足跡をたどって導かれている。」同じように、われらがあなた以前に、どの町に警告者を遣わしても、その裕福な者たちは必ず言った。「わたしたちは、父祖たちが一つの道に従っているのを見た。わたしたちは、その足跡に従っている。」かれは言った。「たとえわたしが、あなたがたが父祖たちの従っているのを見たものよりも、良い導きを持って来てもか。」かれらは言った。「わたしたちは、あなたがたが託されて来たものを否定する。」そこでわれらは、かれらに報復した。見なさい、否定した者たちの最後がどうであったかを。またイブラーヒームが、父とその民に言ったとき。「わたしは、あなたがたが崇めるものとかかわりがありません―ただ、わたしを創られた御方は別です。かれは、わたしを導いてくださいます。」かれはそれを、自分の子孫の間に永く残る言葉とした。かれらがアッラーに立ち返るためである。 (20-28)

いや、わたしは、この者たちとその父祖たちに生を楽しませた。やがて真理と、物事を明らかにする使徒が、かれらのもとに来た。だが真理がかれらのもとに来ると、かれらは言った。「これは魔術だ。わたしたちは、それを否定する。」またかれらは言う。「なぜこのクルアーンは、二つの町のだれか偉い人物に下されなかったのか。」あなたの主の慈悲を分け与えるのは、かれらなのか。現世の生活でのかれらの暮らしの糧を、かれらの間に分け与えたのは、われらである。われらは、かれらのある者を、ほかの者よりも位を高くした。ある者がほかの者を使うためである。あなたの主の慈悲は、かれらが蓄えるものよりも良い。もし人々がみな、否定する者たちの一つの共同体になってしまうおそれがなかったなら、われらは、慈悲あまねき御方を否定する者たちのために、その家に銀の屋根と、登るための階段と、その家の扉と、身を横たえる寝いすと、黄金の飾りを設けたであろう。だがそれらはみな、現世の生活の楽しみにすぎない。来世は、あなたの主のもとで、アッラーを畏れる者たちのためのものである。 (29-35)

慈悲あまねき御方を思い起こすことから、目をつぶって背く者には、われらは一人の悪魔をあてがい、それがその者の仲間となる。これらの悪魔は、確かにかれらを道から妨げる。それでもかれらは、自分たちは正しく導かれていると思っている。

やがてその者がわれらのもとに来ると、こう言う。「ああ、わたしとおまえの間に、二つの東ほどの隔たりがあったならよかったのに。何と悪い仲間であろう。」あなたがたは不正を行ったのだから、あなたがたが懲罰を共にしていることは、今日、あなたがたの役に立たない。 (36-39)

あなたは、耳の聞こえない者に聞かせ、あるいは目の見えない者や、明白な迷いの中にいる者を導くことができるのか。われらがあなたを取り去るにせよ、われらは必ずかれらに報復する。あるいは、かれらに約束したことをあなたに見せるにせよ--われらは、かれらに対して十分な力を持っている。だから、あなたに啓示されたものをしっかりと守りなさい。まことにあなたは、まっすぐな道の上にいる。まことにこれは、あなたとあなたの民への訓戒である。あなたがたはみな、やがて問われる。われらがあなた以前に遣わした、われらの使徒たちに尋ねてみなさい。われらが、慈悲あまねき御方のほかに、崇められるべき神々を定めたことがあったか。 (40-45)

われらは、ムーサーに、われらのしるしを持たせて、フィルアウンとその長老たちのもとに遣わした。かれは言った。「わたしは、万有の主の使徒です。」だがかれが、われらのしるしを持ってかれらのもとに来ると、かれらはそれを笑った。われらがかれらに見せたどのしるしも、その前のものよりも大きかった。われらは、かれらが立ち返るように、懲罰でかれらを捕らえた。かれらは言った。「魔術師よ、あなたの主があなたと結ばれた約束によって、わたしたちのために主に祈ってください。わたしたちは必ず導かれます。」だがわれらが、かれらから懲罰を取り除くと、かれらはその言葉を破った。フィルアウンは、その民の間で布告した。「わたしの民よ、エジプトの王権は、わたしのものではないか。わたしの下を流れるこれらの川も。おまえたちは見ないのか。わたしは、卑しくて、はっきりと物も言えないこの者よりも、優れているではないか。それなら、なぜかれに黄金の腕輪が投げ与えられないのか。あるいは、なぜ天使たちが列をなしてかれと共に来ないのか。」こうしてかれは、その民を軽くあしらい、かれらはかれに従った。まことにかれらは、背く民であった。かれらがわれらを怒らせたとき、われらはかれらに報復し、かれらをみな溺れさせた。そしてかれらを、過ぎ去ったものとし、後の者たちへの例とした。 (46-56)

マルヤムの子が例として挙げられると、あなたの民は、それについて騒ぎ立てて言う。「わたしたちの神々が良いのか。それともかれか。」かれらがこれをあなたに持ち出すのは、ただ言い争うためである。まことにかれらは、争いを好む民である。

かれは、われらが恵みを授け、イスラエルの子孫への例としたしもべにすぎない。われらが望んだなら、あなたがたの中から天使たちを設け、地上であなたがたの後を継がせることもできた。 (57-60)

まことにかれは、その時のしるしである。だからそれについて疑ってはならない。わたしに従いなさい。これがまっすぐな道である。悪魔に妨げられてはならない。まことにかれは、あなたがたの明らかな敵である。イーサーは、明らかな証拠を持って来たとき、言った。「わたしは、英知を持ってあなたがたのもとに来ました。またあなたがたが意見を異にしていることの一部を、あなたがたに明らかにするために来ました。だからアッラーを畏れ、わたしに従いなさい。アッラーは、わたしの主であり、あなたがたの主です。だからかれを崇めなさい。これがまっすぐな道です。」だが諸党派は、互いの間で意見を異にした。不正を行った者たちには、痛ましい日の懲罰のゆえに災いあれ。かれらは、その時が、気づかないうちに、にわかにかれらに臨むことのほかに、何かを待っているのか。その日、親しい友どうしは、互いに敵となる―ただしアッラーを畏れる者たちは別である。「わたしのしもべたちよ、今日、あなたがたには恐れもなく、悲しむこともない―われらのしるしを信じ、アッラーに帰依していた者たちよ。あなたがたも、あなたがたの配偶者たちも、楽園に入って喜びに満たされなさい。」黄金の大皿と杯が、かれらの間に回される。そこには、魂が望み、目が喜ぶものが何でもある。あなたがたは、永遠にそこにとどまる。これが、あなたがたが行っていたことのために、受け継がされた楽園である。そこであなたがたには豊かな果実があり、あなたがたはそれを食べる。だが悪を行う者たちは、地獄の懲罰の中に永遠にとどまる。それがかれらのために軽くされることはなく、かれらはその中で絶望する。われらが、かれらに不正を行ったのではない。かれらこそ、不正を行う者であった。かれらは叫ぶ。「マーリクよ、あなたの主に、わたしたちを終わらせていただきたい。」かれは言う。「あなたがたは、ここにとどまるのである。」われらは、あなたがたに真理をもたらした。だがあなたがたの多くは、真理を嫌っている。 (61-78)

それともかれらは、何かのたくらみを固めたのか。それなら、われらもまた事を固めている。それともかれらは、われらがかれらの秘密や内々の相談を聞いていないと思うのか。いや、聞いている。われらの使いたちがかれらのそばにいて、書き留めている。 (79-80)

言え、「もし慈悲あまねき御方に子があるなら、わたしが真っ先にその子を崇めるであろう。」天と地の主、玉座の主に栄光あれ。かれは、かれらの言い表すことをはるかに超えておられる。だから、かれらに約束されているかれらの日に出会うまで、かれらがむだ話にふけり、戯れるままに放っておきなさい。かれこそは、天においても神であり、地においても神であられる御方である。かれこそは英知に満ち、すべてを知っておられる御方である。天と地と、その間にあるすべてのものの王権を持たれる御方に、祝福あれ。その時についての知識は、かれのもとにあり、あなたがたはかれのもとに帰される。かれらがかれをさしおいて祈り求めるものたちには、とりなす力はない―ただ、知ったうえで真理を証言する者たちは別である。もしあなたがかれらに、だれがかれらを創ったのかと尋ねるなら、かれらは必ず「アッラーだ」と言う。それなのに、かれらはどうして背かされるのか。アッラーは、かれの叫びを聞いておられる。「主よ、これらは信じない民です。」だからかれらから遠ざかり、「平安あれ」と言いなさい。かれらは、やがて知るであろう。 (81-89)

44. 煙 (Al-Dukhān)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ハー・ミーム。 (1)

物事を明らかにする啓典にかけて。われらは、祝福された夜にそれを下した—われらは、常に警告してきた—その夜には、英知に満ちたすべての事が、われらのもとからの命令として、はっきりと分けられる—われらは、常に使徒たちを遣わしてきた—あなたの主からの慈悲としてである。まことにかれこそ全聴にして全知の御方であり、天と地と、その間にあるすべてのものの主である。あなたがたが確かな信仰を持っていたなら。かれのほかに神はない。かれは、生を与え、死を与えられる—あなたがたの主であり、あなたがたの昔の父祖たちの主である。それでもかれらは、疑いの中で戯れている。 (2-9)

だから、空がはっきりと見える煙をもたらす日を待ちなさい。それは人々を包む。これは痛ましい懲罰である。「主よ、わたしたちから懲罰を取り除いてください。わたしたちは信じます。」どうしてその訓戒が、かれらの役に立つであろうか。物事を明らかにする使徒が、すでにかれらのもとに来たのに、かれらは、かれから背き去ってこう言った。「ほかの者に教え込まれた者、狂人だ。」われらは、しばらくの間、懲罰を取り除く。だがあなたがたは、必ず元に戻る。われらが最大の捕らえ方で捕らえる日、われらは必ず報復する。 (10-16)

かれら以前にも、われらはフィルアウンの民を試みた。気高い使徒が、かれらのもとに来たとき。「アッラーのしもべたちを、わたしに引き渡しなさい。わたしは、あなたがたへの信頼できる使徒である。アッラーに対して高ぶってはならない。わたしは、明らかな権威をあなたがたにもたらす。わたしは、あなたがたがわたしを石で打つことのないよう、わたしの主であり、あなたがたの主である御方に守りを求める。もしあなたがたがわたしを信じないなら、わたしを放っておきなさい。」 (17-21)

それからかれは、主に呼びかけた。「これらは、罪に浸りきった民です。」「わたしのしもべたちを連れて、夜のうちに出発しなさい。あなたがたは追われるであろう。海を、分かれて静まったままにしておきなさい。かれらは、溺れさせられる軍勢である。」かれらは、どれほど多くの園と泉を後に残したことか。また種をまいた畑と、立派な住まいと、かれらが楽しんでいた快いものを。そのとおりであった。

われらは、それらをほかの民に受け継がせた。天も地も、かれらのために泣かなかった。かれらには、猶予も与えられなかった。われらは、イスラエルの子孫を、フィルアウンの屈辱の懲罰から救い出した。かれは確かに思い上がった者であり、あらゆる限度を越える者の一人であった。われらは、知ったうえで、かれらをすべての民にまさって選び、明らかな試練を含むしるしをかれらに授けた。 (22-33)

だがこの者たちは言う。「わたしたちの最初の死のほかには、何もない。わたしたちが、再びよみがえらされることなどない。あなたがたが真実を語っているなら、わたしたちの父祖たちを連れ戻してみなさい。」かれらのほうが優れているのか。それとも、トゥッバウの民と、それ以前の者たちか。われらは、かれらを滅ぼした。かれらは悪を行う者たちであった。われらは、天と地と、その間にあるすべてのものを、戯れに創ったのではない。われらは、ただ真理によってそれらを創った。だがかれらの多くは知らない。 (34-39)

まことに裁決の日は、かれらすべてのための定められた時である――その日、友は友の役に少しも立たず、かれらが助けられることもない。ただアッラーが慈悲をかけられる者は別である。まことにかれこそは、偉力ならびなく、慈愛深い御方である。まことにザックームの木は、罪人の食べ物である。それは溶けた銅のように、腹の中で煮えたぎる。煮えたぎる湯が沸き立つようにである。「かれを捕らえ、烈火の真ん中へ引きずって行け。それからその頭の上に、煮えたぎる湯の懲罰を注げ。味わうがよい。おまえこそ、力ある者、気高い者であったのだ。これが、おまえたちが疑っていたものである。」アッラーを畏れる者たちは、安全な所にいる。園と泉の中にいて、薄絹と厚い錦をまとい、向かい合っている。そのとおりである。われらは、美しく大きな目の伴侶たちを、かれらに添わせる。そこでかれらは、安らかに、あらゆる種類の果実を求める。かれらはそこで、最初の死のほかには、死を味わうことがない。かれは、烈火の懲罰からかれらを守られる――あなたの主からの恵みである。それこそ大いなる勝利である。 (40-57)

われらは、かれらが心に留めるように、これをあなた自身の言葉で易しくした。だから待ち受けなさい。かれらもまた待ち受けている。 (58-59)

45. ひざまずく者たち (Al-Jāthiya)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ハー・ミーム。 (1)

この啓典が下されたのは、偉力ならびなく、英知に満ちたアッラーからである。まことに、天と地の中には、信者たちへの数々のしるしがある。またあなたがた自身の創造にも、かれが散らばらせられる生き物たちにも、確かな信仰を持つ民への数々のしるしがある。また夜と昼の交替にも、アッラーが空から下し、それによって死んだ後の大地に命を与えられる糧にも、風の向きが変わることにも、理性を働かせる民への数々のしるしがある。これらは、われらが真理によってあなたに読み聞かせる、アッラーのしるしである。それでは、アッラーとそのしるしの後で、かれらはどんな言葉を信じるのか。 (2-6)

罪深いすべてのうそつきに、災いあれ。その者は、アッラーのしるしが読み聞かされるのを聞きながら、それを聞かなかったかのように、高慢に居直る。その者に、痛ましい懲罰の知らせを伝えなさい。その者は、われらのしるしの何かを知ると、それを笑いぐさにする。このような者たちには、屈辱の懲罰がある。かれらの後ろには、地獄がある。かれらが稼いだものは、かれらに何の役にも立たず、かれらがアッラーのほかに守護者としたものたちも役に立たない。かれらには、重大な懲罰がある。これは導きである。自分の主のしるしを否定する者たちには、痛ましい苦しみの懲罰がある。 (7-11)

アッラーこそは、海をあなたがたに従わせられた御方である。その命令によって舟がそこを走り、あなたがたがその恵みを求め、そして感謝するためである。またかれは、天にあるものも地にあるものも、すべてをご自分からのものとして、あなたがたに従わせられた。まことにこの中には、深く考える民への数々のしるしがある。 (12-13)

信仰する者たちに言いなさい。アッラーの日々を待ち望まない者たちを赦すようにと。かれが、人々をその稼いでいたことに応じて報いられるためである。善を行う者は、自分自身のためにそれを行い、悪を行う者は、自分自身に対してそれを行う。それからあなたがたは、あなたがたの主のもとに帰される。 (14-15)

われらは、イスラエルの子孫に、啓典と、権威と、預言者の務めを授けた。われらは、かれらに良いものを授け、すべての民にまさる恵みを与えた。われらは、その事についての明らかな証拠を、かれらに授けた。かれらは、知識が自分たちのもとに来た後で、ただ互いの間のねたみから意見を異にした。あなたの主は、復活の日に、かれらが意見を異にしていたことについて、かれらの間を裁かれる。それからわれらは、あなたを、その事の明らかな道の上に置いた。だからそれに従いなさい。知らない者たちの欲望に従ってはならない。かれらは、アッラーに対して、あなたの役に少しも立たない。不正を行う者たちは、互いに守護者どうしである。だがアッラーは、かれを畏れる者たちの守護者である。これは、人々への明らかな洞察であり、確かな信仰を持つ民への導きと慈悲である。 (16-20)

それとも悪い行いを重ねる者たちは、われらがかれらを、信仰して善行に励む者たちと同じようにし、その生も死も等しくすると思うのか。かれらの判断は何と悪いことか。アッラーは、真理によって天と地を創られた。どの魂も、その稼いだことに対して報いられるためである。かれらが不当に扱われることはない。あなたは、自分の欲望を自分の神とした者を見たか。アッラーは、知識があるにもかかわらず、その者を迷うに任せ、その耳と心を封じ、その目に覆いをかけられた。それなら、アッラーの後で、だれがその者を導くであろうか。それでもあなたがたは心に留めないのか。 (21-23)

かれらは言う。「あるのは、わたしたちの現世の生活だけだ。わたしたちは死に、そして生きる。わたしたちを滅ぼすのは、時の流れだけだ。」かれらには、それについて何の知識もない。かれらは当て推量をしているだけである。われらのしるしが、まったく明らかな姿でかれらに読み聞かされると、かれらの言い分は、ただこう言うだけである。「あなたがたが真実を語っているなら、わたしたちの父祖たちを連れ戻してみなさい。」言え、「アッラーこそは、あなたがたに命を与え、それからあなたがたを死なせ、それから疑いの余地のない復活の日へとあなたがたを集められる御方である。だが人々の多くは知らない。」[42] (24-26)

天と地の王権は、アッラーのものである。その時が訪れる日--その日、偽りに従う者たちは滅びる。あなたは、どの共同体もひざまずいているのを見る。どの共同体

[42] 無神論は憶測（ザン）の上に築かれている：科学的・哲学的・神学的注釈
無神論、憶測、そして知識を求めるクルアーンの要求
無神論、来世、憶測：クルアーンに基づく探究

も、その書のもとへ呼ばれる。「今日、あなたがたは、自分が行っていたことで報いられる。これは、真理をもってあなたがたについて語る、われらの書である。われらは、あなたがたの行っていたことを、すべて書き留めさせていた。」信仰して善行に励んだ者たちについては、かれらの主が、かれらをご自分の慈悲の中に入れられる。それこそ明らかな勝利である。だが真理を否定した者たちについては、こうである。「わたしのしるしは、あなたがたに読み聞かされなかったのか。だがあなたがたは高ぶり、罪を犯す民であった。『アッラーの約束は真実である。その時については、疑いの余地がない』と言われると、あなたがたは言った。『わたしたちは、その時が何であるかを知らない。それは、当て推量にすぎないと思う。わたしたちは、確信してはいない。』」 (27-32)

かれらが行ったことの悪い結果がかれらに現れ、かれらがあざけっていたことが、かれらを取り囲む。そしてこう言われる。「今日、われらはあなたがたを忘れる。あなたがたが、あなたがたのこの日の会見を忘れたように。あなたがたの住まいは業火であり、あなたがたには援助者はない。これは、あなたがたがアッラーのしるしを笑いぐさにし、現世の生活があなたがたを欺いたからである。」だから今日、かれらはそこから出されることはなく、償いをすることも許されない。 (33-35)

だから讃美は、天の主、地の主、万有の主であるアッラーのもの。天と地において、威光はかれのものである。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。 (36-37)

46. 砂丘 (Al-Aḥqāf)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ハー・ミーム。 (1)

この啓典が下されたのは、偉力ならびなく、英知に満ちたアッラーからである。われらは、天と地と、その間にあるすべてのものを、ただ真理によって、定められた期限のために創った。だが真理を否定する者たちは、自分たちが警告されたことから背き去る。言え、「あなたがたは、アッラーをさしおいて祈り求めるものについて、考えてみたか。それらが大地のどの部分を創ったのかを、わたしに見せなさい。それとも、それらには天に持ち分があるのか。これより前の啓典か、あるいは何か知識の名残を、わたしに持って来なさい。あなたがたが真実を語っているなら。」アッラーをさしおいて、復活の日まで自分に答えることのないものたちに祈る者よりも、迷っている者がだれかあろうか。それらは、かれらの祈りに気づいてさえいない。人々が集められるとき、それらはかれらの敵となり、かれらが崇めたことを否む。 (2-6)

われらのしるしが、まったく明らかな姿でかれらに読み聞かされると、真理を否定する者たちは、真理が自分たちのもとに来たとき、それについて言う。「これは明らかな魔術だ。」それともかれらは、「かれがそれを作り上げたのだ」と言うのか。言え、「もしわたしがそれを作り上げたのなら、あなたがたには、アッラーに対してわたしを助ける力は少しもない。かれは、あなたがたがそれについてしきりに語っていることを、最もよく知っておられる。わたしとあなたがたの間の証人として、かれは十分である。かれこそは、よく赦し、慈愛深い御方である。」言え、「わたしは、使徒たちの中で目新しい者ではない。わたしは、自分にもあなたがたにも何がなされるのかを知らない。わたしは、ただ自分に啓示されるものに従うだけである。わたしは明らかな警告者にすぎない。」言え、「あなたがたは考えてみたか。もしこれがアッラーからのものであり、それなのにあなたがたがそれを否定し、しかもイスラエルの子孫の中の一人の証人が、それと同じようなものについて証言して信じたのに、あなたがたが高ぶっているとしたら―」まことにアッラーは、不正を行う民を導かれない。 (7-10)

真理を否定する者たちは、信仰する者たちについて言う。「もしそれが良いものであったなら、かれらがわたしたちより先にそれに達することはなかったであろう。」

かれらは、それによって導かれていないので、こう言うであろう。「これは昔からの偽りだ。」これより前には、導きであり慈悲であるムーサーの啓典があった。これは、それを確証する、アラビア語の啓典である。不正を行う者たちに警告し、善を行う者たちへの吉報となるためである。まことに、「わたしたちの主はアッラーである」と言い、それからまっすぐに立ち続ける者たち―かれらには恐れもなく、悲しむこともない。かれらは楽園の住人であり、永遠にそこに住む。かれらが行っていたことへの報奨である。 (11-14)

われらは人間に、両親に孝行するよう命じた。母は、苦しんでかれを身ごもり、苦しんでかれを産む。身ごもってから乳離れまでは、三十か月かかる。やがてかれが力の盛りに達し、四十歳に達すると、こう言う。「主よ、あなたがわたしとわたしの両親に授けてくださった恵みに感謝し、あなたが喜ばれる善い行いをするよう、わたしの心を動かしてください。またわたしのために、わたしの子孫を正しい者にしてください。わたしは悔い改めてあなたに立ち返ります。わたしは、あなたに帰依する者の一人です。」これらの者こそ、その行った最も良いことをわれらが受け入れ、その悪い行いをわれらが見過ごす者である。かれらは、楽園の住人の中にいる。これは、かれらに約束されていた真実の約束である。 (15-16)

だが自分の両親にこう言う者がいる。「うんざりだ、あなたがた二人には。わたしより前に幾世代もが過ぎ去ったのに、わたしが墓から出されると約束するのか。」二人は、アッラーに助けを求めて叫ぶ。「情けない子よ、信じなさい。アッラーの約束は確かに真実である。」だがその者は言う。「これは昔の人々の作り話にすぎない。」これらの者こそ、かれら以前に過ぎ去ったジンと人間の諸共同体の中で、言葉が自分に対して真実となった者である。まことにかれらは損失者であった。すべての者には、その行ったことに応じた位階がある。かれが、その行いに対して十分に支払われるためである。かれらが不当に扱われることはない。真理を否定した者たちが、業火の前に引き出される日、こう言われる。「あなたがたは、現世の生活で、自分の良いものを使い果たし、それを楽しんだ。だから今日、あなたがたは屈辱の懲罰で報いられる。あなたがたが、正当な理由もなく地上で高慢であり、また背いていたからである。」 (17-20)

アードの兄弟のことを語りなさい。かれが、砂丘の間でその民に警告したとき―かれの前にも後にも、警告者たちが来ては去っていた―かれは言った。「アッラーのほかは何ものも崇めてはならない。わたしは、あなたがたのために重大な日の懲罰

を恐れる。」かれらは言った。「あなたは、わたしたちを自分たちの神々からそらせるために来たのか。それなら、あなたがわたしたちを脅しているものを持って来なさい。あなたが真実を語っているなら。」かれは言った。「その知識は、ただアッラーのもとにある。わたしは、自分が託されて来たものを、あなたがたに伝えている。だがわたしの見るところ、あなたがたは無知な民である。」やがてかれらは、それが雲となって自分たちの谷に向かって来るのを見ると、言った。「これは、わたしたちに雨をもたらす雲だ。」いや、それは、あなたがたが急いで求めていたものである。痛ましい懲罰を運ぶ風であり、その主の命令によって、すべてのものを滅ぼす。こうして朝には、かれらの住まいのほかは、何も見えなくなった。このようにわれらは、罪を犯す民に報いる。 (21-25)

われらは、あなたがたには与えなかったほどの確かな地位を、かれらに与え、かれらに聴覚と視覚と心を授けた。だがかれらの聴覚も視覚も心も、かれらに何の役にも立たなかった。かれらが、アッラーのしるしを否み続けたからである。そしてかれらがあざけっていたことが、かれらを取り囲んだ。われらは、あなたがたの周りの町々を滅ぼした。われらは、かれらが立ち返るように、さまざまにしるしを示していた。それなら、かれらが、アッラーのそば近くに寄せてもらうために、アッラーをさしおいて神々としたものたちは、なぜかれらを助けなかったのか。いや、それらは、かれらのもとから消え去った。それが、かれらの偽りであり、かれらが作り上げていたものである。 (26-28)

われらが、ジンの一団をあなたのほうに向かわせ、クルアーンに耳を傾けさせたときを思い起こしなさい。かれらはその場に臨むと、言った。「静かにしなさい。」それが終わると、かれらは警告者として、自分の民のもとに帰って行った。かれらは言った。「わたしたちの民よ、わたしたちは、ムーサーの後に下された啓典を聞いた。それは、それ以前に来たものを確証し、真理とまっすぐな道へと導く。わたしたちの民よ、アッラーへと招く者に答え、かれを信じなさい。かれは、あなたがたの罪を赦し、あなたがたを痛ましい懲罰から守ってくださる。アッラーへと招く者に答えない者は、地上で逃れることはできず、かれのほかに守護者もない。そのような者たちは、明白な迷いの中にいる。」 (29-32)

かれらは見ないのか。天と地を創り、その創造に疲れることもなかったアッラーには、死者に命を与える力があることを。いや、ある。かれは万事に全能である。真理を否定した者たちが、業火の前に引き出される日、こう言われる。「これは真実

ではないか。」かれらは言う。「わたしたちの主にかけて、そのとおりです。」かれは言われる。「それなら、真理を否定していたことのために、懲罰を味わいなさい。」 (33-34)

だから、固い決意を持った使徒たちが耐え忍んだように、耐え忍びなさい。かれらのために、それを急いで求めてはならない。かれらが、自分たちに約束されていることを見る日、かれらはまるで、昼のひとときしかとどまらなかったかのようである。これは、伝えられるべき伝言である。背く民のほかに、滅ぼされる者があろうか。 (35)

47. ムハンマド (Muḥammad)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

真理を否定し、人々をアッラーの道から妨げる者たち―かれは、その行いを無にされた。だが信仰して善行に励み、ムハンマドに下されたものを信じる者たち―それは、かれらの主からの真理である―かれは、その悪い行いを消し去り、その境遇を正された。それは、真理を否定する者たちが偽りに従い、信仰する者たちが、自分の主からの真理に従うからである。このようにアッラーは、人々のために、かれらのたとえを示される。 (1-3)

だからあなたがたが、戦いで真理を否定する者たちと出会ったなら、その首を打ちなさい。やがてかれらを徹底的に打ち負かしたなら、捕虜を固く縛りなさい。その後は、恩恵として、あるいは身代金を取って、かれらを解き放ちなさい。戦いがその重荷を下ろすまでである。そのとおりである。もしアッラーがお望みなら、ご自分でかれらに報復することもできた。だがそれは、あなたがたのある者を、ほかの者によって試みられるためである。アッラーの道のために殺された者たちについては、かれは決してその行いを無にされない。かれは、かれらを導き、その境遇を正し、かれらに知らせておかれた楽園に、かれらを入れられる。信仰する者たちよ、もしあなたがたがアッラーを助けるなら、かれはあなたがたを助け、あなたがたの足を堅く立たせてくださる。 (4-7)

だが真理を否定する者たち―かれらには滅びがあり、かれはその行いを無にされる。それは、かれらが、アッラーの下されたものを嫌ったからである。それでかれは、その行いをむなしいものとされた。かれらは地上を旅して、かれら以前の者たちの最後がどうであったかを見なかったのか。アッラーは、かれらを跡形もなく滅ぼされた。真理を否定する者たちには、それと同じようなことが待っている。それは、アッラーが信仰する者たちの守護者であり、真理を否定する者たちには、守護者がないからである。アッラーは、信仰して善行に励む者たちを、川が下を流れる楽園に入れられる。だが真理を否定する者たちは、楽しみにふけり、家畜が食べるように食べる。業火がかれらの住まいとなる。あなたを追い出したあなたの町よりも、力の強かった町を、われらはどれほど多く滅ぼしたことか。かれらを助ける者は、だれもいなかった。 (8-13)

自分の主からの明らかな証拠の上に立つ者は、自分の悪い行いが美しく見せられ、自分の欲望に従う者と同じであろうか。アッラーを畏れる者たちに約束された楽園の姿は、こうである。そこには、濁ることのない水の川、味の変わることのない乳の川、飲む者にとって美味な酒の川、澄みきった蜜の川がある。そこでかれらには、あらゆる種類の果実があり、自分の主からの赦しがある。かれらは、永遠に業火の中にとどまり、煮えたぎる湯を飲まされて、はらわたを引き裂かれる者たちと同じであろうか。 (14-15)

かれらの中には、（預言者よ）あなたに耳を傾ける者たちがいる。だがあなたのもとを去ると、知識を授けられた者たちに言う。「かれは、今しがた何を言っていたのか。」これらの者は、アッラーがその心を封じられた者であり、自分の欲望に従う者たちである。だが導きを受け入れる者たち―かれは、かれらの導きを増し加え、かれらにアッラーを畏れる心を授けられる。かれらは、その時がにわかに自分たちに臨むことのほかに、何かを待っているのか。その兆しは、すでに来ている。それがかれらに臨んだとき、思い起こすことがかれらに何の役に立つであろうか。だから、アッラーのほかに神はないことを知りなさい。あなたの罪のために、また信仰する男たちと女たちのために、赦しを請いなさい。アッラーは、あなたがたの行き来する所も、とどまる所も知っておられる。 (16-19)

信仰する者たちは言う。「一章が下されたならよいのに。」だがはっきりとした一章が下され、その中で戦いのことが語られると、あなたは、心に病のある者たちが、死が迫って気を失う者のようなまなざしで、あなたを見ているのを見る。かれらにとってより良いのは、服従と、ふさわしい言葉である。それから事が決まったとき、アッラーに対して誠実であるなら、それがかれらにとってより良い。もしあなたがたが背き去るなら、あなたがたは、地上に腐敗を広め、血縁のきずなを断ち切ることになるのではないか。これらの者は、アッラーが呪われた者である。かれは、その耳を聞こえなくし、その目を見えなくされた。それでもかれらは、クルアーンを深く考えないのか。それとも、その心に錠がかかっているのか。導きが自分たちに明らかになった後で、背を向けて引き返す者たち―悪魔がかれらをそそのかし、偽りの望みを抱かせたのである。それは、かれらが、アッラーの下されたものを嫌う者たちにこう言ったからである。「わたしたちは、いくつかの事では、あなたがたに従おう。」だがアッラーは、かれらの秘密を知っておられる。 (20-26)

天使たちが、その顔と背を打ちながら、かれらの魂を召すときは、どうであろうか。それは、かれらが、アッラーを怒らせるものに従い、かれが喜ばれるものを嫌ったからである。それでかれは、その行いを無にされた。 (27-28)

それとも心に病のある者たちは、アッラーが決してかれらの悪意を明るみに出されないと思うのか。われらが望んだなら、かれらをあなたに見せ、あなたは、そのしるしによってかれらを見分けたであろう。だがあなたは必ず、その話しぶりによってかれらを見分ける。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことを知っておられる。われらは必ず、あなたがたの中で奮闘する者たちと耐え忍ぶ者たちを知るまで、あなたがたを試み、あなたがたについての知らせを試す。真理を否定し、人々をアッラーの道から妨げ、導きが自分たちに明らかになった後で使徒に逆らう者たちは、アッラーを少しも害することができない。かれは、その行いを無にされる。信仰する者たちよ、アッラーに従い、使徒に従いなさい。あなたがたの行いを、むだにしてはならない。真理を否定し、人々をアッラーの道から妨げ、それから否定する者のまま死ぬ者たち―アッラーは、決してかれらを赦されない。 (29-34)

だから、あなたがたが優位に立っているのに、弱気になって和平を呼びかけてはならない。アッラーは、あなたがたと共におられる。かれは、あなたがたの行いの報奨を、決して減らされない。この現世の生活は、戯れと気晴らしにすぎない。だがもしあなたがたが信仰し、アッラーを畏れるなら、かれはあなたがたに報奨を授け、あなたがたの財産を求められることはない。もしかれが、あなたがたにそれを求めて強く迫られるなら、あなたがたは物惜しみし、かれは、あなたがたの悪意を明るみに出されるであろう。見よ、あなたがたは、アッラーの道のために施すよう呼びかけられている。だがあなたがたの中には、物惜しみする者がいる―物惜しみする者は、ただ自分自身に対して物惜しみしているのである。アッラーは満ち足りた御方であり、あなたがたは乏しい者である。もしあなたがたが背き去るなら、かれは、あなたがたに代えてほかの民を連れて来られる。その人々は、あなたがたのようではない。 (35-38)

48. 勝利 (Al-Fatḥ)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

（預言者よ）われらは確かに、あなたに明らかな勝利を授けた。アッラーが、あなたの過去と未来の罪を赦し、あなたへの恵みを全うし、あなたをまっすぐな道に導き、力強い助けによってあなたを助けられるためである。かれこそは、信者たちの心に安らぎを下された御方である。かれらが、その信仰の上にさらに信仰を加えるためである。天と地の軍勢は、アッラーのものである。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。これは、かれが、信仰する男たちと女たちを、川が下を流れる楽園に入れ、かれらをそこに永遠に住まわせ、その悪い行いをかれらから消し去られるためである—それこそ、アッラーの御前では大いなる成功である—またかれが、偽信者の男たちと女たち、アッラーに同位者を並べる男たちと女たちを罰されるためである。かれらは、アッラーについて悪い考えを抱く者たちである。悪い巡り合わせは、かれら自身の上にある。アッラーは、かれらに怒り、かれらを呪い、かれらのために地獄を用意された—何と悪い行き着く先であろう。天と地の軍勢は、アッラーのものである。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。（預言者よ）われらはあなたを、証人として、吉報を伝える者として、警告者として遣わした。人々よ、あなたがたがアッラーとその使徒を信じ、かれを支え、かれを敬い、朝に夕にアッラーを讃えるためである。 (1-9)

あなたに忠誠を誓う者たちは、アッラーに忠誠を誓っているのである。アッラーの御手は、かれらの手の上にある。誓いを破る者は、ただ自分自身の害になるように破るのである。アッラーと結んだ約束を守る者には—かれは大きな報奨を授けられる。後に残った遊牧のアラブ人たちは、あなたに言うであろう。「わたしたちの財産と家族が、わたしたちの手をふさいでいました。ですから、わたしたちのために赦しを請うてください。」かれらは、心にないことを舌で言う。言え、「もしアッラーがあなたがたに害を望まれ、あるいは益を望まれるなら、だれがアッラーに対して、あなたがたのために何かをする力を持つのか。いや、アッラーは、あなたがたの行うすべてのことに通じておられる。」いや、あなたがたは、使徒と信者たちが決して家族のもとに帰らないと思っていた。それは、あなたがたの心に快く思われた。あなたがたは悪い考えを抱き、滅びに定められた民であった。アッラーとその使徒を信じない者—われらは、真理を否定する者たちのために燃えさかる火を用

意している。天と地の支配は、アッラーのものである。かれは、望まれる者を赦し、望まれる者を罰される。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (10-14)

あなたがたが戦利品を取りに出かけるとき、後に残った者たちは言うであろう。「わたしたちも、あなたがたについて行かせてください。」かれらは、アッラーの御言葉を変えようと望んでいる。言え、「あなたがたは、わたしたちについて来てはならない。アッラーは、以前にそう言われた。」するとかれらは言うであろう。「いや、あなたがたは、わたしたちをねたんでいるのだ。」いや、かれらは、ほんのわずかしか理解していない。 (15)

後に残った遊牧のアラブ人たちに言え、「あなたがたは、大きな力を持つ民に対して呼び出されるであろう。かれらが降伏しない限り、かれらと戦うためである。もしあなたがたが従うなら、アッラーは良い報奨を授けられる。だがもし、以前に背き去ったように背き去るなら、かれは痛ましい懲罰であなたがたを罰される。」目の見えない者にも、足の不自由な者にも、病人にも罪はない。アッラーとその使徒に従う者を、かれは、川が下を流れる楽園に入れられる。だが背き去る者を、かれは痛ましい懲罰で罰される。 (16-17)

アッラーは、信者たちが木の下であなたに忠誠を誓ったとき、かれらを確かに喜ばれた。かれは、かれらの心の中にあるものを知っておられた。そこでかれは、かれらの上に安らぎを下し、近い勝利と、かれらが手にする多くの戦利品によって報いられた。アッラーは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。アッラーは、あなたがたが手にする多くの戦利品を約束された。そしてこれを、あなたがたのために急いで与え、人々の手をあなたがたから押しとどめられた。それが信者たちへのしるしとなり、かれが、あなたがたをまっすぐな道に導かれるためである。またほかにも、あなたがたがまだ手にすることができないでいるものがある。だがアッラーは、すでにそれを包んでおられる。アッラーは万事に全能である。 (18-21)

もし真理を否定する者たちが、あなたがたと戦っていたなら、かれらは背を向けたであろう。そして守護者も援助者も見いださなかったであろう。これは、常に行われてきたアッラーの慣行である。あなたは、アッラーの慣行に何の変更も見いださない。かれこそは、マッカの谷で、あなたがたをかれらよりも優位に立たせた後で、かれらの手をあなたがたから、あなたがたの手をかれらから押しとどめられた御方である。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことを見ておられる。かれらは、真理を否定し、あなたがたを聖なるマスジドから妨げ、ささげ物がその犠牲の場所

に届くのを妨げた者たちである。もし、あなたがたの知らない信仰する男たちと信仰する女たちがいて、あなたがたがかれらを踏みにじり、知らないうちにかれらのことで罪を負うおそれがなかったなら―アッラーは、あなたがたに戦わせられたであろう。それは、かれが、望まれる者をご自分の慈悲の中に入れられるためである。もしかれらがはっきりと分かれていたなら、われらは、その中の真理を否定する者たちを、痛ましい懲罰で罰したであろう。真理を否定する者たちが、その心に、無知の時代の激しいおごりを抱いたとき、アッラーは、その使徒と信者たちの上にご自分の安らぎを下し、アッラーを畏れる言葉をかれらに固く守らせられた。かれらは、それに最もふさわしく、それに値する者であった。アッラーはすべてのことを知っておられる。 (22-26)

アッラーは確かに、その使徒の見た夢を、真実として実現された。アッラーがお望みなら、あなたがたは必ず、頭をそり、あるいは髪を短く切り、恐れることなく、安全に聖なるマスジドに入るであろう。かれは、あなたがたの知らなかったことを知っておられ、それに先立って、近い勝利を授けられた。かれこそは、導きと真理の宗教を持たせて、その使徒を遣わされた御方である。それを、すべての宗教の上に勝たせるためである。アッラーは、証人として十分である。ムハンマドはアッラーの使徒である。かれと共にいる者たちは、真理を否定する者たちに対しては強く、互いの間では情け深い。あなたは、かれらが身をかがめ、ひれ伏して、アッラーからの恵みとかれの喜びを求めるのを見る。かれらのしるしは、ひれ伏した跡として、その顔にある。これが、律法の中のかれらの姿である。福音の中のかれらの姿は、芽を出し、それを強くし、太くなって、その茎の上にまっすぐに立ち、種をまいた者たちを喜ばせる種のようである―かれが、かれらによって、真理を否定する者たちを怒らせられるためである。アッラーは、かれらの中で信仰して善行に励む者たちに、赦しと大きな報奨を約束された。 (27-29)

49. 部屋 (Al-Ḥujurāt)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

信仰する者たちよ、アッラーとその使徒の前に出しゃばってはならない。アッラーを畏れなさい。アッラーは全聴にして全知の御方である。信仰する者たちよ、あなたがたの声を、預言者の声よりも高く上げてはならない。あなたがたが互いに大声で話すように、かれに大声で話してはならない。あなたがたが気づかないうちに、あなたがたの行いが無に帰することのないようにである。アッラーの使徒の前で声を低くする者たちは、アッラーが、かれを畏れる心のためにその心を試された者たちである。かれらには、赦しと大きな報奨がある。奥の部屋の外から、あなたを大声で呼ぶ者たち--かれらの多くは、分別がない。もしかれらが、あなたがかれらのもとに出て来るまで辛抱していたなら、それがかれらにとってより良かったであろう。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (1-5)

信仰する者たちよ、もし不正な者があなたがたに知らせを持って来たなら、それを確かめなさい。知らないままに人々に害を加え、後で自分のしたことを悔やむことのないようにである。あなたがたの中に、アッラーの使徒がいることを知りなさい。もしかれが、多くの事であなたがたに従うなら、あなたがたは必ず苦境に陥るであろう。だがアッラーは、あなたがたに信仰を慕わしいものとし、それをあなたがたの心の中で美しくし、不信仰と、悪行と、不服従を、あなたがたにとって憎むべきものとされた。これらの者こそ、正しく導かれた者である。アッラーからの恵みと恩恵による。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。 (6-8)

もし信者たちの二つの集団が互いに戦うなら、その間を和解させなさい。だがもしその一方が、もう一方に不当なことをするなら、不当なことをする側が、アッラーの命令に立ち返るまで、それと戦いなさい。そして立ち返ったなら、正義をもってその間を和解させ、公平に行いなさい。アッラーは、公平に行う者たちを愛される。信者たちは、ただ兄弟である。だからあなたがたの二人の兄弟の間を和解させ、アッラーを畏れなさい。そうすればあなたがたは慈悲を受けるであろう。 (9-10)

信仰する者たちよ、ある人々がほかの人々をあざけってはならない。その人々のほうが、自分たちよりも優れているかもしれない。また女たちが、ほかの女たちをあざけってはならない。その女たちのほうが、自分たちよりも優れているかもしれない。互いにあら探しをしてはならない。互いに不快なあだ名で呼び合ってはならな

い。信仰の後で、悪行の名で呼ばれることは、何と悪いことか。悔い改めない者たち―かれらこそ不正を行う者である。信仰する者たちよ、多くの憶測を避けなさい。ある憶測は罪である。互いに探り合ってはならない。互いに陰口を言ってはならない。あなたがたのだれが、死んだ自分の兄弟の肉を食べたいと思うであろうか。あなたがたは、それを嫌うであろう。アッラーを畏れなさい。アッラーは悔悟をよく受け入れ、慈愛深い御方である。人々よ、われらは、一人の男と一人の女からあなたがたを創り、あなたがたが互いに知り合うように、あなたがたを諸民族と諸部族とした。アッラーの御前で、あなたがたの中の最も気高い者は、かれを最も畏れる者である。アッラーはすべてを知り、すべてに通じておられる。 (11-13)

遊牧のアラブ人たちは言う。「わたしたちは信じます。」言え、「あなたがたは、信じてはいない。むしろ『わたしたちは服従しました』と言いなさい。信仰は、まだあなたがたの心に入っていない。だがもしあなたがたが、アッラーとその使徒に従うなら、かれは、あなたがたの行いを少しも減らされない。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。」信者とは、ただアッラーとその使徒を信じ、その後で疑いを抱かず、アッラーの道のために、自分の財産と身をもって奮闘する者たちである。かれらこそ、真実を語る者である。言え、「あなたがたは、自分の宗教をアッラーに教えるというのか。アッラーは、天と地にあるすべてのものを知っておられるのに。アッラーはすべてのことを知っておられる。」かれらは、自分たちが服従したことを、あなたへの恩恵と考えている。言え、「あなたがたの服従を、わたしへの恩恵に数えてはならない。むしろアッラーが、あなたがたを信仰へと導いて、あなたがたに恩恵を施されたのである。あなたがたが真実を語っているなら。」アッラーは、天と地の目に見えないものを知っておられる。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことを見ておられる。 (14-18)

50. カーフ (Qāf)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

カーフ。栄光に満ちたクルアーンにかけて。だがかれらは、自分たちの中から警告者が来たことを不思議がる。真理を否定する者たちは言う。「これは奇妙なことだ。わたしたちが死んで土になったときにか。それは、ありそうもない帰還だ。」われらは、大地がかれらの何を減らすかをよく知っている。われらのもとには、すべてを保つ書がある。いや、かれらは、真理が自分たちのもとに来たとき、それを否定した。それでかれらは、混乱した状態にある。かれらは、頭上の空を見なかったのか―われらが、どのようにそれを築き、飾ったかを。それには何の裂け目もない。また大地を―われらは、それを広げ、その上に揺るぎない山々を置き、その中に、あらゆる種類の美しい対を生い育てた。アッラーに立ち返るすべてのしもべへの、洞察として、訓戒としてである。またわれらは、空から祝福された水を降らせ、それによって園と、刈り入れる穀物を生い育てる。また実が幾重にも重なって房をなす、高いなつめやしの木を。しもべたちへの糧としてである。またわれらは、それによって死んだ土地を生き返らせる。墓から出ることも、そのようである。かれら以前にも、ヌーフの民が真理を否定した。ラッスの人々も、サムードも、アードも、フィルアウンも、ルートの兄弟たちも、森の住人たちも、トゥッバウの民も。そのだれもが、使徒たちを偽りとした。そこでわたしの警告は、現実となった。 (1-14)

それではわれらは、最初の創造で疲れ果てたのか。いや、それでもかれらは、新しい創造について疑っている。われらは人間を創った。われらは、かれ自身の魂がかれにささやくことを知っている。われらは、かれの首の血管よりもかれに近い。二人の受け取る者が、右と左に座って受け取るとき、かれが一言でも口にすれば、必ずそのそばに、用意を整えた見張りがいる。死の苦しみは、真実をもって訪れる。「これが、あなたが避けようとしていたものである。」 (15-19)

そしてラッパが吹かれる。「これが、警告されていた日である。」どの魂も、追い立てる者と証人を伴ってやって来る。「あなたは、このことに無頓着であった。今われらは、あなたの覆いをあなたから取り除いた。だから今日、あなたの目は鋭い。」かれの仲間は言う。「これが、わたしのもとに用意してあるものです。」「あなたがた二人は、かたくなに否定するすべての者を地獄に投げ込め。善を妨げ、限度を越え、疑いを抱き、アッラーと並べてほかの神を立てた者を。その者を、厳しい懲罰の中に投げ込め。」かれの仲間は言う。「主よ、わたしがかれに限度を越

えさせたのではありません。かれ自身が、遠く迷い去っていたのです。」かれは言われる。「わたしの前で言い争ってはならない。わたしは、すでにあなたがたに警告を送っていた。わたしのもとで、言葉が変えられることはない。わたしは、決してしもべたちに不正を行わない。」その日われらは、地獄に「満たされたか」と言う。すると地獄は言う。「もっとありますか。」また楽園は、アッラーを畏れる者たちに近づけられ、遠くはない。「これが、あなたがたに約束されていたものである—アッラーに立ち返り、その掟を守ったすべての者のためのもの、目に見えない慈悲あまねき御方を畏れ、かれに立ち返る心を持って来た者のためのものである。平安のうちに、そこに入りなさい。これは永遠の日である。」そこでかれらには、望むものが何でもあり、われらのもとには、さらにそれ以上のものがある。 (20-35)

われらは、かれら以前に、この者たちよりも力の強かった世代を、どれほど多く滅ぼしたことか。かれらは、諸国を探し回った—逃げ場が何かあったであろうか。まことにこの中には、心を持つ者、あるいは立ち会いながら耳を傾ける者への訓戒がある。われらは、天と地と、その間にあるすべてのものを六つの時代で創った。そしてどんな疲れも、われらに触れなかった。だからかれらの言うことを耐え忍び、日の出の前にも、日の入りの前にも、あなたの主を讃美して讃えなさい。また夜の一部にも、ひれ伏す礼拝の後にも、かれを讃えなさい。そして、呼ぶ者が近い所から呼びかける日に、耳を澄ましなさい—その日、かれらは、真実をもってその轟音を聞く。それが、墓から出る日である。まことにわれらは、生を与え、死を与える。旅路の果ては、われらのもとである—その日、大地はかれらの周りで裂け、かれらは急いで出て来る。それは、われらにとって易しい召集である。われらは、かれらの言うことを最もよく知っている。あなたは、かれらに対する暴君ではない。だからクルアーンによって、わたしの警告を恐れる者に思い起こさせなさい。 (36-45)

51. まき散らす風 (Al-Dhāriyāt)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

遠く広くまき散らす風にかけて。重い荷を運ぶ雲にかけて。やすやすと滑るように進む舟にかけて。命令によって分け与える天使たちにかけて。あなたがたに約束されていることは、確かに真実である。審判は必ず訪れる。織りなされた道を持つ空にかけて。あなたがたは、それについて言うことが互いに食い違っている。それから背かされる者は、自ら背かされるに任せたのである。憶測によって生きる者たちは滅びよ。かれらは、無頓着の洪水の中でもがいている。[43]かれらは尋ねる。「審判の日はいつなのか。」それは、かれらが業火の上で試みられる日である。「あなたがたの試練を味わいなさい。これが、あなたがたがしきりに急いで求めていたものである。」アッラーを畏れていた者たちは、園と泉の中にいて、自分の主が授けられるものを受け取る。かれらは、これより前に善を行う者であったからである。かれらは、夜のほんのわずかしか眠らず、夜明け前の時には赦しを請うていた。その財産の中には、乞う者と、恵まれない者のための正当な取り分があった。地上には、確信を求める者たちへの数々のしるしがある。あなたがた自身の中にもある。それでもあなたがたは見ないのか。また天には、あなたがたの糧と、あなたがたに約束されているすべてのものがある。だから天と地の主にかけて、これはまさしく真実である—あなたがたが今、物を言っているのと同じように確かである。 (1-23)

イブラーヒームの誉れある客たちの話は、あなたに届いたか。かれらがかれのもとに入って来て、「平安あれ」と言ったとき、かれは「平安あれ」と言い、「見知らぬ人々だ」と思った。それからかれは、そっと家族のもとに行き、肥えた子牛を持って来て、かれらの前に置いた。かれは言った。「召し上がらないのですか。」そしてかれは、かれらにかすかな恐れを感じた。かれらは言った。「恐れてはなりません。」そして、知識に恵まれた男の子の吉報をかれに伝えた。するとかれの妻が、叫び声を上げながら進み出て、自分の顔を打って言った。「子を産めない老女なのに。」かれらは言った。「あなたの主は、そのように言われました。かれこそは英知に満ち、すべてを知っておられる御方です。」かれは言った。「使いの方々よ、それでは、あなたがたの用向きは何ですか。」かれらは言った。「わたしたちは、罪に浸りきった民のもとに遣わされました。かれらの上に、焼いた粘土の石を放つ

[43] 無神論は憶測（ザン）の上に築かれている：科学的・哲学的・神学的注釈

ためです。それは、あらゆる限度を越える者たちのために、あなたの主のもとでしるしをつけられたものです。」そこでわれらは、そこにいた信者たちをみな連れ出した。だがわれらがそこで見いだしたのは、アッラーに帰依する者たちのただ一つの家だけであった。われらは、痛ましい懲罰を恐れる者たちのために、そこに一つのしるしを残した。 (24-37)

ムーサーにもまた、しるしがある。われらは、明らかな権威を持たせて、かれをフィルアウンのもとに遣わした。だがフィルアウンは、自分の力を頼みにして背き去り、こう言った。「魔術師か、あるいは狂人だ。」そこでわれらは、かれとその軍勢を捕らえ、海の中に投げ込んだ。責められるべきは、かれであった。アードにもまた、しるしがある。われらは、かれらに対して不毛の風を送った。それは、通り過ぎたものを何一つ残さず、朽ちた骨のようにした。サムードにもまた、しるしがある。かれらは、「しばらくの間楽しむがよい」と言われた。だがかれらは、自分の主の命令に逆らった。そこで、かれらが見ているうちに、落雷がかれらを捕らえた。かれらは、立ち上がることも、自分を助けることもできなかった。またかれら以前のヌーフの民にも。かれらは、背くことに身を任せた民であった。また天を―われらは、力をもってそれを築いた。われらは確かに、それを広げ続けている。また大地を―われらは、それを広げた。われらは、何と見事にそれを平らにしたことか。またわれらは、すべてのものを対として創った。あなたがたが深く考えるためである。だからアッラーのもとへ逃れなさい。わたしは、かれからの、あなたがたへの明らかな警告者である。アッラーと並べてほかの神を立ててはならない。わたしは、かれからの、あなたがたへの明らかな警告者である。 (38-51)

同じように、かれら以前の者たちに使徒が来るたびに、かれらは必ず言った。「魔術師か、あるいは狂人だ。」かれらは、これを互いに言い伝えてきたのか。いや、かれらは、あらゆる限度を越える民である。だからかれらから遠ざかりなさい。あなたが責められることはない。そして思い起こさせ続けなさい。思い起こさせることは、信者たちの役に立つ。 (52-55)

わたしがジンと人間を創ったのは、ただわたしを崇めさせるためである。わたしは、かれらに何の糧も求めず、かれらがわたしを養うことも求めない。まことにアッラーこそ、糧を授ける御方、力を持つ御方、揺るぎない御方である。不正を行う者たちには、かれらの仲間たちの取り分と同じような取り分がある―だからかれらは、

それを急ぐようわたしに求めてはならない。真理を否定する者たちには、かれらに約束されているかれらのその日に、災いあれ。 (56-60)

52. 山 (Al-Ṭūr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

あの山にかけて。広げられた羊皮紙に書き記された書にかけて。多くの者が訪れる館にかけて。高く上げられた天蓋にかけて。満ちあふれる海にかけて。あなたの主の懲罰は、必ず起こる―それを退けることのできる者はない―その日、空は激しく揺れ動き、山々は大きく動き出す。その日、真理を否定した者たちに災いあれ。かれらは、むだ話にふけって戯れている者たちである。その日、かれらは、地獄の火の中へ荒々しく突き落とされる。「これが、あなたがたが偽りとしていた業火である。それでは、これは魔術なのか。それとも、あなたがたには見えないのか。その中で焼かれなさい。耐え忍んでも耐え忍ばなくても、あなたがたには同じことである。あなたがたは、ただ自分が行ったことで報いられるだけである。」 (1-16)

アッラーを畏れる者たちは、楽園と至福の中にいて、自分の主が授けられたものを喜んでいる。かれらの主は、烈火の懲罰からかれらを守られた。「あなたがたが行ったことのために、心ゆくまで食べ、飲みなさい。」かれらは、列をなして並べられた寝いすに身を横たえる。われらは、美しい目の伴侶たちを、かれらに添わせる。信仰した者たちと、信仰においてかれらに従ったその子孫―われらは、その子孫をかれらと一緒にする。われらは、かれらの行いから何一つ減らさない。人はだれでも、自分の稼いだことの質となっている。われらは、かれらが望む果実と肉を、何でもかれらに授ける。そこでかれらは、互いに杯を回し合う。それは、むだ話にも罪にも導かない。またかれらの間を、かれらに仕える若者たちが巡る。大切に守られた真珠のようである。かれらは互いに向き合って、尋ね合う。かれらは言う。「これより前、わたしたちは、家族の中にいて恐れながら暮らしていた。だがアッラーは、わたしたちに恵みを施し、焼けつく風の懲罰からわたしたちを守られた。わたしたちは、以前からかれに祈っていた。かれこそは恵み深く、慈愛深い御方である。」だから（預言者よ）思い起こさせなさい。あなたの主の恵みによって、あなたは占い師でも狂人でもない。それともかれらは、「詩人だ―わたしたちは、かれに運命の巡り合わせが来るのを待っている」と言うのか。言え、「それなら待つがよい。わたしもまた、あなたがたと共に待っている。」かれらの理性が、かれらにこうせよと命じるのか。それともかれらは、あらゆる限度を越える民なのか。それともかれらは、「かれがそれを作り上げたのだ」と言うのか。いや、かれらは信

じないのである。それなら、これと同じような言葉を持って来るがよい。かれらが真実を語っているなら。 (17-34)

それともかれらは、無から創られたのか。それとも、かれら自身が創造者なのか。それとも、かれらが天と地を創ったのか。いや、かれらには確信がない。[44] (35-36)

それともかれらは、あなたの主の宝庫を握っているのか。それとも、かれらが支配者なのか。それとも、かれらにははしごがあって、それで聞き耳を立てているのか。それなら、その聞いた者に、明らかな権威を持って来させなさい。それとも、かれには娘たちがあり、あなたがたには息子たちがあるというのか。それともあなたは、かれらに報酬を求めていて、それでかれらが負債に押しつぶされているのか。それとも、かれらには目に見えないものの知識があって、それを書き留めているのか。それとも、かれらは何かたくらもうとしているのか。だが真理を否定する者たちこそ、たくらみにかけられる者である。それとも、かれらにはアッラーのほかに神があるのか。アッラーに栄光あれ。かれは、かれらが並べるものを超えておられる。 (37-43)

たとえかれらが、空のかけらが落ちて来るのを見ても、「積み重なった雲だ」と言うであろう。だから、かれらが打たれて気を失うかれらの日に出会うまで、かれらを放っておきなさい―その日、かれらのたくらみは、かれらに何の役にも立たず、かれらが助けられることもない。不正を行う者たちには、その前にも懲罰がある。だがかれらの多くは知らない。だから、あなたの主の裁きを耐え忍んで待ちなさい。あなたは、われらの目の前にいる。あなたが起き上がるとき、あなたの主を讃美して讃えなさい。また夜の一部にも、星々が消えて行くときにも、かれを讃えなさい。 (44-49)

---

[44] 聖クルアーン：アッラーは最初の者であり、すべてのものを創り出された御方である―栄光あるクルアーンと科学
動画：なぜ無ではなく、神なのか
動画：無の九つの段階とは何か｜ロバート・ローレンス・クーン―栄光あるクルアーンと科学
究極の問いを正しく問うことが、無神論を論破する
動画：絶対的な無を思い描くことによって神を見いだす

53. 星 (Al-Najm)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

沈み行く星にかけて。あなたがたの仲間は、迷ってもおらず、誤ってもいない。また自分の欲望から語っているのでもない。それは、啓示される啓示にほかならない。強い力を持つ者が、かれにそれを教えた。優れた力を備えた者であり、最も高い地平にいて、まっすぐに立った。それから近づいて、降りて来た。そして弓二つほどの距離か、それよりも近くになった。そしてかれは、かれのしもべに、啓示すべきことを啓示した。心は、自分が見たものについて偽らなかった。それでもあなたがたは、かれが見るものについて、かれと言い争うのか。かれは確かに、もう一度その者を見た。最果ての境にあるスィドラの木のそばである。その近くには、安住の楽園がある。そのとき、スィドラの木を覆うものが、それを覆っていた。かれのまなざしは、それることもなく、度を越すこともなかった。かれは確かに、自分の主の最も大きなしるしのいくつかを見た。 (1-18)

あなたがたは、アッラートとウッザーについて考えてみたか。そして三番目のもう一つ、マナートについて。あなたがたには息子たちがあり、かれには娘たちがあるというのか。それなら、それは不公平な分け方である。それらは、あなたがたとあなたがたの父祖たちが名づけた名前にすぎない。アッラーは、それらについて何の権威も下されなかった。かれらは、憶測と、自分の魂が望むものに従っているだけである—自分の主からの導きが、すでにかれらのもとに来ているのに。それとも人間は、自分が願うものを何でも得られるのか。来世も現世も、アッラーのものである。天には、どれほど多くの天使たちがいることか。だがそのとりなしは、アッラーが望まれ、喜ばれる者に、お許しを与えられた後でなければ、何の役にも立たない。 (19-27)

来世を信じない者たちは、天使たちに女の名前をつける。かれらには、それについて何の知識もない。かれらは憶測に従っているだけである。憶測は、真理の代わりには少しもならない。[45] (28)

[45] 無神論は憶測（ザン）の上に築かれている：科学的・哲学的・神学的注釈

だから、われらを思い起こすことから背き去り、現世の生活のほかは何も望まない者から遠ざかりなさい。[46]それが、かれらの知識の及ぶ限りである。あなたの主は、だれがかれの道から迷ったかを最もよく知っておられ、だれが導かれているかも最もよく知っておられる。天にあるすべてのものも、地にあるすべてのものも、アッラーのものである。かれが、悪を行う者たちにその行ったことに応じて報い、善を行う者たちには最も良いもので報いられるためである―かれらは、ささいな過ちのほかは、大きな罪と醜行を避ける者たちである。あなたの主は、赦しにおいて広大な御方である。かれは、あなたがたを大地から生み出されたときも、あなたがたが母の胎内で胎児であったときも、あなたがたをよく知っておられた。だから、自分は清いと言い立ててはならない。かれは、だれがかれを畏れているかを最もよく知っておられる。 (29-32)

あなたは、背き去った者を見たか。少しだけ与えて、それから出し惜しんだ者を。その者には、目に見えないものの知識があって、それで見えているのか。それともその者は、ムーサーの書巻にあることを知らされていないのか。また務めを果たしたイブラーヒームの書巻にあることを。すなわち、重荷を負う者は、ほかの者の重荷を負わないこと。人間には、自分が努めたもののほかは何もないこと。その努めは、やがて見られること。それから、それに対して十分に報いられること。最後の行き着く先は、あなたの主のもとであること。笑わせ、泣かせるのは、かれであること。死を与え、生を与えるのは、かれであること。かれは、男と女の二つの対を、注がれる一滴から創られたこと。二度目の創造をもたらすのは、かれであること。富を授け、財産を授けるのは、かれであること。かれこそは、シリウス星の主であること。かれは、昔のアードを滅ぼされたこと。またサムードを、一人も残さずに滅ぼされたこと。またそれ以前のヌーフの民を―かれらは、最も不正で、最も背く者であった。またかれは、覆された町々を打ち倒し、それを覆うものがそれを覆ったこと。それなら、あなたは、あなたの主の恵みのどれについて言い争うのか。 (33-55)

これは、昔の警告者たちと同じ一人の警告者である。迫り来るその時は、近づいている。アッラーのほかに、それを明らかにできる者はない。それなのにあなたがた

[46] 神の否定と来世の否定は手を携えており、このことは、クルアーンのいくつもの節で指摘されています。

は、この言葉を不思議がるのか。そして笑うばかりで泣きもせず、うかうかと戯れているのか。アッラーの前にひれ伏し、かれを崇めなさい。 (56-62)

54. 月 (Al-Qamar)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

その時は近づき、月は裂けた。 (1)

それでもかれらは、しるしを見ると、背き去って言う。「いつもながらの魔術だ。」かれらは否定し、自分の欲望に従った―だがすべての事は、やがて定まる。かれらのもとには、思いとどまらせるのに十分な知らせが、すでに来ている―行き届いた英知である―だが警告は、何の役にも立たない。だからかれらから遠ざかりなさい。呼ぶ者が、恐ろしいものへと呼びかける日、かれらは目を伏せ、まき散らされたいなごのように、墓から出て来る。そして呼ぶ者のほうへと急ぐ。真理を否定する者たちは言う。「これは厳しい日だ。」 (2-8)

かれら以前にも、ヌーフの民が否定した。かれらは、われらのしもべを偽りとし、「狂人だ」と言った。そしてかれは追い払われた。そこでかれは、主に祈った。「わたしは打ち負かされました。ですからお助けください。」そこでわれらは、降り注ぐ水によって空の門を開き、大地に泉をわき出させた。こうして水は、すでに定められていた事のために出会った。われらはかれを、板とくぎで造られたものに乗せて運んだ。それは、われらの目の前を走った―退けられていた者への報奨である。われらは、それをしるしとして残した。心に留める者はだれかいるか。それでは、わたしの懲罰と警告は、何と恐ろしかったことか。われらは、クルアーンを覚えやすくした。心に留める者はだれかいるか。 (9-17)

アードは否定した。それでは、わたしの懲罰と警告は、何と恐ろしかったことか。われらは、絶え間ない災いの日に、かれらに対して荒れ狂う風を送った。それは、根こそぎにされたなつめやしの幹のように、人々を引き抜いた。それでは、わたしの懲罰と警告は、何と恐ろしかったことか。われらは、クルアーンを覚えやすくした。心に留める者はだれかいるか。 (18-22)

サムードは、警告を偽りとした。かれらは言った。「わたしたちの中の、ただ一人の人間に従うというのか。それなら、わたしたちは確かに迷いと狂気の中にいることになる。わたしたちすべての中から、かれにだけ訓戒が下されたというのか。いや、かれは思い上がったうそつきだ。」明日になれば、かれらは、だれが思い上がったうそつきであるかを知るであろう。われらは、かれらへの試練として雌らくだを送る。だからかれらを見守り、耐え忍びなさい。かれらに告げなさい。水は、か

れらの間で分け合うべきものであり、それぞれの飲む番には、順番に臨むべきである、と。だがかれらは仲間を呼び、その者は刃物を取って、その足の腱を切った。それでは、わたしの懲罰と警告は、何と恐ろしかったことか。われらは、かれらに対してただ一度の轟音を送った。するとかれらは、囲いを作る者の枯れ枝のようになった。われらは、クルアーンを覚えやすくした。心に留める者はだれかいるか。(23-32)

ルートの民は、警告を偽りとした。われらは、かれらに対して石のあらしを送った--ただルートの家族は別であり、われらは夜明け前にかれらを救った。われらからの恵みとしてである。このようにわれらは、感謝する者に報いる。かれは、われらの猛襲をかれらに警告していた。だがかれらは、その警告について言い争った。かれらは、かれの客たちを引き渡すようにとさえ求めた。そこでわれらは、かれらの目をつぶした。「わたしの懲罰と警告を味わいなさい。」そして朝早く、いつまでも続く懲罰がかれらを襲った。「わたしの懲罰と警告を味わいなさい。」われらは、クルアーンを覚えやすくした。心に留める者はだれかいるか。(33-40)

フィルアウンの一族にも、警告は来た。かれらは、われらのしるしをすべて偽りとした。そこでわれらは、偉力ならびなく、全能の者の捕らえ方で、かれらを捕らえた。(41-42)

あなたがたの中の否定する者たちは、その者たちよりも優れているのか。それともあなたがたには、諸啓典の中に免除が与えられているのか。それともかれらは、「わたしたちは、必ず勝つ団結した軍勢だ」と言うのか。その軍勢は打ち破られ、背を向けて逃げる。いや、その時こそ、かれらの約束の時である。その時は、さらに災いに満ち、さらに苦い。罪を犯す者たちは、迷いと狂気の中にいる。かれらが、顔を下にして業火の中へ引きずられる日、こう言われる。「地獄の触れるのを味わいなさい。」われらは、すべてのものを、しかるべき量に従って創った。われらの命令は、ただ一言であり、まばたき一つのようである。われらは、あなたがたと同類の者たちを滅ぼした。心に留める者はだれかいるか。(43-51)

かれらが行ったすべてのことは、書巻の中にある。小さな事も大きな事も、すべて書き留められている。アッラーを畏れる者たちは、園と川の中にいる。真実の座にあり、全能の王者の御前にいる。(52-55)

55. 慈悲あまねき御方 (Al-Raḥmān)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

慈悲あまねき御方。かれは、クルアーンを教え、人間を創り、はっきりと物を言うことを教えられた。太陽と月は、正確な計算に従って運行し、草も木もひれ伏している。また天を―かれは、それを高く上げ、はかりを設けられた。あなたがたが、はかりにおいて限度を越えないためである。公正に量りなさい。はかりを減らしてはならない。また大地を―かれは、すべての生き物のためにそれを据えられた。そこには果実があり、さやに包まれた房をつけるなつめやしがあり、殻に包まれた穀物と、香りの良い草がある。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。 (1-13)

かれは、焼き物のような乾いた粘土から人間を創り、煙のない火の炎からジンを創られた。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。二つの東の主、二つの西の主であられる。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。かれは、二つの海を解き放たれた。それらは出会う。だがその間には隔てがあり、それらは越えることがない。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。その二つからは、真珠とさんごが出る。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。山のように海にそびえ立つ舟は、かれのものである。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。 (14-25)

地上にいるすべての者は、やがて消え去る。そして威厳と誉れに満ちた、あなたの主の御顔だけが残る。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。天と地にいるすべての者は、かれに請い求める。かれは、日ごとに何かの事に携わっておられる。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。二つの重荷よ、われらは、やがてあなたがたに取りかかる。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。ジンと人間の群れよ、もしあなたがたが、天と地の境を越えて行くことができるなら、越えてみなさい。あなたがたは、権威なしには越えることができない。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。火の炎と溶けた銅が、あなたがた二つの者に対して送られる。あなたがたは、自分を守ることができない。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの

主の恵みのどれを否定するのか。空が裂けて、なめし革のように赤くなるとき―それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。その日、人間もジンも、その罪について尋ねられることはない。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。罪を犯す者たちは、そのしるしによって見分けられ、前髪と足をつかまれる。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。これが、罪を犯す者たちが偽りとしていた地獄である。かれらは、その地獄と、煮えたぎる熱湯との間を行き巡る。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。 (26-45)

だが自分の主の前に立つことを恐れる者には、二つの楽園がある。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。どちらも、枝を広げている。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。そのそれぞれには、流れる二つの泉がある。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。そのそれぞれには、あらゆる果実が二種類ずつある。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。かれらは、錦で裏打ちされた寝いすに身を横たえる。二つの楽園の果実は、近くに垂れ下がっている。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。そこには、まなざしを控えた者たちがいる。かれら以前には、人間もジンも、かの女たちに触れたことがない。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。まるで紅玉とさんごのようである。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。善の報いは、善のほかにあろうか。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。 (46-61)

この二つのほかに、さらに二つの楽園がある―それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。茂った葉で、濃い緑色をしている。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。そのそれぞれには、わき出る二つの泉がある。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。そのそれぞれには、果実と、なつめやしと、ざくろがある。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。そこには、良く美しい者たちがいる。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。天幕の中にかくまわれた、美しい目の伴侶たちである。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがた

の主の恵みのどれを否定するのか。かれら以前には、人間もジンも、かの女たちに触れたことがない。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。かれらは、緑のしとねと、美しく見事なじゅうたんの上に身を横たえる。それなら、あなたがた二つの者は、あなたがたの主の恵みのどれを否定するのか。威厳と誉れに満ちた、あなたの主の御名に祝福あれ。[47] (62-78)

[47] **一枚の絵と、ただ一つの段落による、慈悲あまねき御方章（アッ・ラフマーン章）の注釈**
慈悲あまねき御方章（アッ・ラフマーン章）：慈悲と思いやりの主
アブラハムの諸宗教の、配慮に満ちた神：ただの水がその物語を語ってくれる
ほんの少し見方を変えれば、デイヴィッド・アッテンボローは、アブラハムの諸宗教の神についての優れた教師となる
わたしたちの慈悲深い神を信じる、十の五百乗の理由

56. 出来事 (Al-Wāqiʿa)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

避けることのできない出来事が起こるとき--それが起こることを、偽りとすることはできない--それは、ある者を低くし、ある者を高くする。大地が激しく揺り動かされ、山々が粉々に砕かれて、飛び散るちりとなるとき、あなたがたは三つの組になる。右手の仲間たち--右手の仲間たちとは何であろう。左手の仲間たち--左手の仲間たちとは何であろう。そして先頭に立つ者たち、先頭に立つ者たち。かれらこそ、そば近くに寄せられる者であり、至福の楽園の中にいる--昔の世代からは大勢の者が、後の世代からはわずかな者が。かれらは、黄金を織り込んだ寝いすの上にいて、それに身を横たえ、向かい合っている。いつまでも若々しい若者たちが、杯と水差しと、流れる泉からくんだ酒杯を持って、かれらの間を巡る--かれらは、それで頭が痛くなることもなく、酔うこともない--またかれらが選ぶ果実と、かれらが望む鳥の肉を持って巡る。また美しい目の伴侶たちがいる。大切に守られた真珠のようである。かれらが行っていたことへの報奨である。そこでかれらは、むだ話も、罪へのそそのかしも聞かない。ただ「平安あれ、平安あれ」という言葉だけを聞く。 (1-26)

右手の仲間たち--右手の仲間たちとは何であろう。かれらは、とげのないスィドラの木と、実が幾重にも重なったバナナの木の間にいる。長く伸びる木陰と、絶えず流れる水の間にいる。また尽きることも禁じられることもない、豊かな果実の間にいて、高く上げられた寝いすの上にいる。われらは、新しい創造として、かれらの伴侶たちを創り、かの女たちを、清らかで、愛情深く、同じ年ごろの者とした。右手の仲間たちのためである。昔の世代からも大勢の者が、後の世代からも大勢の者がいる。 (27-40)

左手の仲間たち--左手の仲間たちとは何であろう。かれらは、焼けつく風と煮えたぎる湯の中にいて、黒い煙の陰にいる。それは涼しくもなく、さわやかでもない。これより前、かれらはぜいたくに暮らし、大きな罪に固執し、よくこう言っていた。「何と、わたしたちが死んで土と骨になったとき、本当に再びよみがえらされるのか。わたしたちの昔の父祖たちも。」言え、「昔の世代も後の世代も、定められた日の約束の時に、必ず一緒に集められる。それから、迷って真理を否定した者たちよ、あなたがたは、ザックームの木から食べ、それで腹を満たし、その上に煮えた

ぎる湯を飲む。のどの渇いたらくだが飲むように飲むのである。」これが、審判の日のかれらへのもてなしである。 (41-56)

あなたがたを創ったのは、われらである―それでもあなたがたは信じないのか。あなたがたは、自分が注ぐ種について考えてみたか。それを創るのは、あなたがたか。それとも、われらが創造者なのか。われらは、あなたがたの間に死を定めた。われらが、あなたがたの姿を変え、あなたがたの知らないものの中に再び生み出すことを、だれも出し抜くことはできない。あなたがたは、最初の創造を知っている―それでもあなたがたは心に留めないのか。あなたがたは、自分がまく種について考えてみたか。それを生い育てるのは、あなたがたか。それとも、われらが育てる者なのか。われらが望むなら、それをわらくずにすることもできる。そうなれば、あなたがたは嘆き続けるであろう。「わたしたちは負債を負わされた。いや、わたしたちは何もかも奪われた。」あなたがたは、自分が飲む水について考えてみたか。それを雲から降らせるのは、あなたがたか。それとも、われらが降らせる者なのか。われらが望むなら、それを苦くすることもできる。それなのに、なぜあなたがたは感謝しないのか。あなたがたは、自分がともす火について考えてみたか。その木を生じさせるのは、あなたがたか。それとも、われらが生じさせる者なのか。われらは、それを訓戒とし、荒れ野を旅する者たちへの糧とした。だから、至大であられるあなたの主の御名を讃えなさい。 (57-74)

わたしは、星々の位置にかけて誓う―それは、あなたがたが知っているなら、実に重大な誓いである―まことにこれは、気高いクルアーンであり、固く守られた書の中にある。清められた者たちのほかは、だれもそれに触れない。万有の主からの啓示である。あなたがたは、この言葉を軽んじるのか。それを偽りとすることを、自分の糧とするのか。 (75-82)

それなら、魂がのどもとに達するとき、そしてあなたがたが、そのときただ見ているとき―われらは、あなたがたよりもその者に近い。だがあなたがたには見えない――もしあなたがたが裁きに服さないというのなら、なぜそれを引き戻さないのか。あなたがたが真実を語っているなら。[48] (83-87)

[48] これらの重要な節は、わたしにとって大きな気づきをもたらすものです。わたしは、睡眠障害だけに専念するようになる前に、十年以上にわたって集中治療の専門医として働いていたからです。これらの節についての包括的な注釈は、次のリンクでご覧いただけます：[臨終の床での挑戦：クルアーン 56:83-87 の包括的注釈]

もしその者が、そば近くに寄せられる者の一人であるなら、安らぎと、香りの良いものと、至福の楽園がある。もしその者が、右手の仲間の一人であるなら、右手の仲間たちから「あなたに平安あれ」と迎えられる。だがもしその者が、迷って否定した者の一人であるなら、煮えたぎる湯のもてなしと、地獄で焼かれることがある。まことにこれは、確かな真理である。だから、至大であられるあなたの主の御名を讃えなさい。 (88-96)

魂がのどもとに達するとき：クルアーン 56:75-89（出来事章）についての、一節ごとの科学的・哲学的・神学的注釈
臨終の生理学とイスラームにおける魂
出来事章（アル・ワーキア章）：死ののどもとで

57. 鉄 (Al-Ḥadīd)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

天と地にあるすべてのものは、アッラーを讃える。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。天と地の支配は、かれのものである。かれは、生を与え、死を与えられる。かれは万事に全能である。かれは、最初の者であり最後の者であり、現れた者であり隠れた者である。かれは、すべてのことを知っておられる。かれこそは、天と地を六つの時代で創り、それから玉座に君臨された御方である。かれは、大地に入って行くものも、そこから出て来るものも、空から下るものも、そこへ昇って行くものも知っておられる。あなたがたがどこにいても、かれはあなたがたと共におられる。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことを見ておられる。天と地の支配は、かれのものである。すべての事はアッラーに帰される。かれは、夜を昼の中に入らせ、昼を夜の中に入らせられる。かれは、心の中にあるものを知っておられる。[49] (1-6)

アッラーとその使徒を信じ、かれがあなたがたを後継者とされたものの中から施しなさい。あなたがたの中で、信仰して施す者たちには、大きな報奨がある。あなたがたはどうしたのか。アッラーを信じないとは。使徒が、あなたがたの主を信じるよう、あなたがたを招いているのに。しかもかれは、すでにあなたがたの誓約を取っておられる—あなたがたが信者であるなら。かれこそは、そのしもべに明らかなしるしを下される御方である。あなたがたを、深い暗闇から光の中へと連れ出すためである。まことにアッラーは、あなたがたに対して慈しみ深く、慈悲深い御方である。あなたがたはどうしたのか。アッラーの道のために施さないとは。天と地の相続は、アッラーのものであるのに。あなたがたの中で、勝利の前に施し、戦った者たちは、ほかの者たちと同じではない。かれらは、その後で施し、戦った者たちよりも、位が高い。だがアッラーは、そのすべての者に最も良い報奨を約束された。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことに通じておられる。 (7-10)

アッラーに良い貸し付けをする者はだれか。かれは、その者のためにそれを幾倍にもし、豊かな報奨を授けられる。その日、あなたは、信仰する男たちと信仰する女たちを見る。かれらの光は、その前と右側を走っている。「今日、あなたがたに吉報がある—川が下を流れる楽園であり、あなたがたは永遠にそこに住む。それこそ

[49] 機会原因論—栄光あるクルアーンと科学

大いなる成功である。」その日、偽信者の男たちと女たちは、信仰する者たちに言う。「わたしたちを待ってください。あなたがたの光を、少し借りたいのです。」するとこう言われる。「後ろに戻って、光を探しなさい。」そのとき、かれらの間に、門のある壁が立てられる。その内側には慈悲があり、その外側の向かいには懲罰がある。かれらは、信者たちに呼びかける。「わたしたちは、あなたがたと共にいたではありませんか。」信者たちは言う。「そうだ。だがあなたがたは、自分自身を誘惑に陥れ、待ち構え、疑った。そしてむなしい望みが、あなたがたを欺いた。やがてアッラーの命令が下った—あの欺く者が、アッラーについてあなたがたを欺いたのである。だから今日、あなたがたからも、真理を否定した者たちからも、身代金は受け取られない。あなたがたの避け所は業火である。それこそ、あなたがたにふさわしい主人である—何と悪い行き着く先であろう。」 (11-15)

信仰する者たちにとって、アッラーを思い起こすことと、下された真理とに、その心がへりくだる時は、まだ来ないのか。またかれらが、以前に啓典を授けられた者たちのようにならない時は。その者たちは、長い年月が過ぎて、その心がかたくなになり、その多くは背く者となった。知りなさい。アッラーは、死んだ後の大地に命を与えられる。われらは、あなたがたが悟るように、しるしを明らかにした。施しをする男たちと女たち、そしてアッラーに良い貸し付けをする者たち—かれらには、それが幾倍にもされ、豊かな報奨がある。アッラーとその使徒たちを信じる者たち—かれらこそ、真実を語る者であり、自分の主の御前での証人である。かれらには、その報奨と光がある。だが真理を否定し、われらのしるしを偽りとする者たちは、烈火の住人である。知りなさい。現世の生活は、戯れと気晴らし、飾りと互いの自慢、そして富と子供の多さの競い合いにすぎない。それは、雨のようである。その雨による草木は、耕す者たちを喜ばせる。だがやがてそれは枯れ、あなたは、それが黄色くなるのを見る。それからそれは、砕けたわらくずとなる。来世には、厳しい懲罰があり、またアッラーからの赦しと喜びがある。現世の生活は、欺きの楽しみにすぎない。あなたがたの主からの赦しと、天と地の広さほどの広さを持つ楽園とを目指して、互いに先を競いなさい。それは、アッラーとその使徒たちを信じる者たちのために用意されている。これは、アッラーの恵みであり、かれは、望まれる者にそれを授けられる。アッラーは、大いなる恵みの主である。 (16-21)

大地にも、あなたがた自身にも、どんな災いが降りかかっても、われらがそれを生じさせる前に、書の中に記されていないものはない—それは、アッラーにとって易しいことである。[50] (22)

それは、あなたがたが、失ったものについて悲しまず、かれがあなたがたに授けられたものについておごらないためである。アッラーは、高慢でうぬぼれの強い者をだれも愛されない—物惜しみし、人々にも物惜しみを勧める者たちを。背き去る者がいても—アッラーこそ、満ち足りた、讃えられるべき御方である。われらは、明らかなしるしを持たせて、われらの使徒たちを遣わし、かれらと共に啓典とはかりを下した。人々が正義を守るためである。またわれらは、鉄を下した。それには大きな威力があり、人々への益がある。アッラーが、目に見えないままで、かれとその使徒たちを助ける者がだれであるかを知るためである。アッラーは強く、偉力ならびない御方である。 (23-25)

われらは、ヌーフとイブラーヒームを遣わし、その子孫の中に預言者の務めと啓典を置いた。その中には導かれた者もいるが、その多くは背く者である。それからわれらは、その足跡に続かせて、われらの使徒たちを遣わした。その後にマルヤムの子イーサーを遣わし、かれに福音を授けた。われらは、かれに従った者たちの心に、思いやりと慈悲を置いた。だが修道の生活は、かれらが自分たちで作り出したものである—われらが、かれらにそれを定めたのではない—ただアッラーの喜びを求めてのことであった。だがかれらは、それを守るべきとおりには守らなかった。そこでわれらは、その中で信仰した者たちに報奨を授けた。だがその多くは、背く者である。信仰する者たちよ、アッラーを畏れ、その使徒を信じなさい。かれは、ご自分の慈悲を二倍にしてあなたがたに授け、あなたがたがその中を歩む光を設け、あなたがたを赦してくださる。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。これは、啓典の民が、自分たちにはアッラーの恵みに対して何の力もないこと、恵みはアッラーの御手の中にあり、かれが望まれる者にそれを授けられることを知るためである。アッラーは、大いなる恵みの主である。 (26-29)

[50] 機会原因論—栄光あるクルアーンと科学

58. 訴える女 (Al-Mujādila)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アッラーは、（預言者よ）自分の夫のことであなたに訴え、アッラーに苦情を申し立てた女の言葉を、確かに聞かれた。アッラーは、あなたがた二人の語り合うのを聞いておられた。アッラーは全聴にして、すべてを見ておられる。あなたがたの中で、母のようだと言い放って妻を遠ざける者たち―かの女たちは、かれらの母ではない。かれらの母は、かれらを産んだ女たちのほかにはない。かれらの言うことは、いとわしく、偽りである。だがアッラーは、よく大目に見て、よく赦される御方である。このようにして妻を遠ざけ、それから自分の言ったことを取り消す者たちは、二人が再び触れ合う前に、一人の奴隷を解放しなければならない。これが、あなたがたに戒められていることである。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことに通じておられる。解放する奴隷を見いだせない者は、二人が触れ合う前に、続けて二か月間斎戒しなければならない。それもできない者は、六十人の困窮する者に食べさせなければならない。これは、あなたがたがアッラーとその使徒を信じるためである。これらは、アッラーの定められた掟である。真理を否定する者たちには、痛ましい懲罰がある。アッラーとその使徒に逆らう者たちは、かれら以前の者たちが卑しめられたように、卑しめられる。われらは、明らかなしるしを下した。真理を否定する者たちには、屈辱の懲罰が待っている。その日、アッラーは、かれらをみな一緒によみがえらせ、かれらが行ったことをかれらに告げられる。アッラーは、それを数え上げておられた。だがかれらは、それを忘れていた。アッラーはすべてのことの証人である。 (1-6)

あなたは見ないのか。アッラーが、天にあるすべてのものと地にあるすべてのものを知っておられるのを。三人でひそかに語り合えば、かれは必ずその四人目であり、五人であれば、必ずその六人目である。それより少なくても多くても、かれらがどこにいても、かれは必ずかれらと共におられる。[51] (7)

それから復活の日に、かれは、かれらが行ったことをかれらに告げられる。アッラーはすべてのことを知っておられる。あなたは見なかったか。ひそかな語り合いを禁じられたのに、禁じられたことにまた戻り、罪と、敵意と、使徒への不服従につ

[51] **神の遍在の次元的構造：クルアーン 58:7 についての科学的・哲学的・神学的注釈**
機会原因論―栄光あるクルアーンと科学

いて、ひそかに語り合う者たちを。かれらは、あなたのもとに来ると、アッラーがあなたへのあいさつに用いられたことのない言葉で、あなたにあいさつをする。そして心の中で言う。「わたしたちが言うことのために、なぜアッラーは、わたしたちを罰しないのか。」かれらには地獄で十分である。かれらはその中で焼かれる―何と悪い行き着く先であろう。 (8)

信仰する者たちよ、あなたがたがひそかに語り合うときは、罪と、敵意と、使徒への不服従について語り合ってはならない。善と、アッラーを畏れることについて語り合いなさい。アッラーを畏れなさい。あなたがたは、かれの御前に集められる。ひそかな語り合いは、ただ悪魔のしわざであり、信仰する者たちを悲しませるためである。だがアッラーのお許しがない限り、それはかれらを少しも害することができない。信者たちは、アッラーにすべてを委ねなさい。 (9-10)

信仰する者たちよ、集まりの中で「場所を空けなさい」と言われたなら、場所を空けなさい。アッラーは、あなたがたのために場所を広げてくださる。また「立ちなさい」と言われたなら、立ちなさい。アッラーは、あなたがたの中で信仰する者たちと、知識を授けられた者たちの位を高められる。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことに通じておられる。信仰する者たちよ、あなたがたが使徒と内々に話したいときは、その内々の話の前に、何かを施しとして差し出しなさい。それがあなたがたにとってより良く、より清らかである。だがもしその手だてを見いだせないなら、アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (11-12)

あなたがたは、内々の話の前に施しを差し出すことを、ためらうのか。あなたがたがそれをせず、アッラーが慈悲をもってあなたがたに向き直られたのだから、礼拝を守り、定めの喜捨をし、アッラーとその使徒に従いなさい。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことに通じておられる。 (13)

あなたは見なかったか。アッラーが怒られた民を、盟友とする者たちを。かれらは、あなたがたの仲間でもなく、その民の仲間でもない。かれらは、知っていながら偽りの誓いを立てる。アッラーは、かれらのために厳しい懲罰を用意された。かれらが行ってきたことは、実に悪い。かれらは、自分の誓いを隠れみのにして、人々をアッラーの道から妨げた。かれらには、屈辱の懲罰が待っている。かれらの富も子供たちも、アッラーに対して、かれらの役に少しも立たない。かれらは業火の住人であり、そこにとどまる。アッラーが、かれらをみな一緒によみがえらせる日、かれらは、今あなたがたに誓うように、かれに誓う。そして自分たちには、何かより

どころがあると思っている。まことに、かれらこそうそつきである。悪魔がかれらを支配し、アッラーを思い起こすことを忘れさせた。かれらは悪魔の党である―悪魔の党こそ、必ず損失者となる。アッラーとその使徒に逆らう者たちは、最も卑しめられる者の中にいる。アッラーは、こう定められた。「わたしとわたしの使徒たちが、必ず勝つ。」アッラーは強く、偉力ならびない御方である。 (14-21)

あなたは、アッラーと最後の日を信じる民が、アッラーとその使徒に逆らう者たちを愛するのを見いださない。たとえそれが、かれらの父や、息子や、兄弟や、一族であってもである。これらの者の心に、かれは信仰を書き記し、ご自分からの霊によってかれらを強められた。かれは、川が下を流れる楽園にかれらを入れ、かれらは永遠にそこに住む。アッラーはかれらを喜ばれ、かれらもかれを喜ぶ。かれらはアッラーの党である―アッラーの党こそ、必ず成功する者である。 (22)

59. 召集 (Al-Ḥashr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

天にあるすべてのものも、地にあるすべてのものも、アッラーを讃える。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。かれこそは、啓典の民の中で真理を否定した者たちを、最初の召集のときに、その家から追い出された御方である。あなたがたは、かれらが出て行くとは思わなかった。かれらも、自分たちのとりでがアッラーから守ってくれると思っていた。だがアッラーは、かれらが思いもしなかった所から、かれらに臨み、その心に恐怖を投げ込まれた。それでかれらは、自分自身の手と信者たちの手によって、自分の家を壊した。だから、見る目を持つ者たちよ、教訓を得なさい。もしアッラーが、かれらに追放を定められなかったなら、現世でかれらを罰されたであろう。来世では、かれらには業火の懲罰がある。それは、かれらが、アッラーとその使徒に敵対したからである。アッラーに敵対する者には―アッラーは懲罰に厳しい御方である。 (1-4)

あなたがたがなつめやしの木を切り倒したのも、その根の上に立ったまま残したのも、アッラーのお許しによることであり、かれが背く者たちを辱められるためであった。アッラーが、かれらからその使徒に取り戻されたものについては、あなたがたは、そのために馬もらくだも駆り立てなかった。だがアッラーは、望まれる者に対して、その使徒たちに力を授けられる。アッラーは万事に全能である。アッラーが、町々の住民からその使徒に取り戻されたものは、アッラーと、使徒と、その近親者と、孤児たちと、困窮する者たちと、旅人のものである。それが、あなたがたの中の富める者たちの間だけを巡ることのないためである。使徒があなたがたに与えるものは、受け取りなさい。かれがあなたがたに禁じるものは、控えなさい。アッラーを畏れなさい。アッラーは懲罰に厳しい御方である。 (5-7)

それはまた、自分の家と財産から追い出された、貧しい移住者たちのものである。かれらは、アッラーの恵みと喜びを求め、アッラーとその使徒を助けている。これらの者こそ、真実な者である。またかれらより前から、この町に住まいを構え、信仰を抱いていた者たちは、自分たちのもとに移住して来る者を愛する。そしてかれらに与えられたものについて、心に何の欲も抱かず、自分自身が困窮していても、自分よりもかれらを優先する。自分の魂の貪欲から守られる者―これらの者こそ成功する者である。またかれらの後に来る者たちは言う。「主よ、わたしたちと、わたしたちより先に信仰した兄弟たちを赦してください。信仰する者たちに対する恨

みを、わたしたちの心に残さないでください。主よ、あなたは慈しみ深く、慈愛深い御方です。」 (8-10)

あなたは見なかったか。偽信者たちが、啓典の民の中で真理を否定するかれらの兄弟たちに、こう言うのを。「もしあなたがたが追い出されるなら、わたしたちも必ず、あなたがたと共に出て行く。あなたがたに敵対するだれにも、決して従わない。もしあなたがたが攻められるなら、わたしたちは必ず、あなたがたを助ける。」アッラーは、かれらがうそつきであることを証言される。もしかれらが追い出されても、偽信者たちは、かれらと共に出て行かない。もしかれらが攻められても、偽信者たちは、かれらを助けない。たとえ助けたとしても、背を向けて逃げる。そうなれば、かれらが助けられることはない。信者たちよ、かれらの心の中では、あなたがたのほうが、アッラーよりも強い恐れを抱かせている。それは、かれらが理解しない民だからである。かれらは、守りを固めた町の中からか、壁の後ろからでなければ、まとまってあなたがたと戦うことはない。かれらどうしの間の敵意は激しい。あなたは、かれらが団結していると思うであろうが、その心はばらばらである。それは、かれらが理性を働かせない民だからである。かれらは、かれらの少し前に去った者たちのようである。その者たちは、自分の行いの悪い結果を味わった。かれらには、痛ましい懲罰が待っている。かれらは、悪魔のようである。かれは人間に「真理を否定せよ」と言い、人間が否定すると、こう言う。「わたしは、おまえとかかわりがない。わたしは、万有の主アッラーを恐れる。」こうして、その両方の行き着く先は、業火の中にいて、そこにとどまることである。それが、不正を行う者たちへの報いである。 (11-17)

信仰する者たちよ、アッラーを畏れなさい。どの魂も、明日のために何を先に送ったかをよく考えなさい。アッラーを畏れなさい。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことに通じておられる。アッラーを忘れた者たちのようになってはならない。それでかれは、かれらに自分自身を忘れさせられた。かれらこそ、背く者である。業火の住人と楽園の住人は、同じではない。楽園の住人こそ、勝利を得る者である。もしわれらが、このクルアーンを山の上に下したなら、あなたは、それがアッラーを畏れるあまり、へりくだって裂けるのを見たであろう。これらは、われらが人々のために示すたとえである。かれらが深く考えるためである。 (18-21)

かれこそはアッラーであり、かれのほかに神はない。目に見えないものも見えるものも知っておられる御方、慈悲あまねく慈愛深い御方である。かれこそはアッラー

であり、かれのほかに神はない。王者、神聖な御方、平安の源、安全を授ける御方、見守る御方、偉力ならびない御方、すべてを従わせる御方、至高の御方である。アッラーに栄光あれ。かれは、かれらが並べるものをはるかに超えておられる。かれこそはアッラーであり、創造者、創り出す御方、形を授ける御方である。最も美しい御名は、かれのものである。天と地にあるすべてのものは、かれを讃える。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。 (22-24)

60. 試される女 (Al-Mumtaḥana)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

信仰する者たちよ、わたしの敵であり、あなたがたの敵である者たちを盟友とし、かれらに親しみを示してはならない。かれらは、あなたがたのもとに来た真理を否定し、あなたがたが、あなたがたの主アッラーを信じるからといって、使徒とあなたがたを追い出したのである。もしあなたがたが、わたしの道のために奮闘し、わたしの喜びを求めて出て来たのなら、どうしてひそかにかれらに親しみを示すことができようか。わたしは、あなたがたが隠すことも表すことも、よく知っている。あなたがたの中でこれを行う者は、正しい道から迷ったのである。もしかれらが、あなたがたよりも優位に立つなら、かれらはあなたがたの敵となり、悪意をもって、その手と舌をあなたがたに伸ばす。かれらは、あなたがたが真理を否定することを願っている。 (1-2)

復活の日には、あなたがたの親族も子供たちも、あなたがたの役に立たない。かれは、あなたがたの間を裁かれる。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことを見ておられる。あなたがたには、イブラーヒームと、かれと共にいた者たちの中に、良い模範がある。かれらが、その民に言ったとき。「わたしたちは、あなたがたとも、あなたがたがアッラーをさしおいて崇めるものとも、かかわりがありません。わたしたちは、あなたがたを否みます。あなたがたがアッラーだけを信じるまで、わたしたちとあなたがたの間には、敵意と憎しみが永遠に現れました。」―ただしイブラーヒームが父に言った、次の言葉は別である。「わたしは、あなたのために赦しを請いましょう。もっともわたしには、あなたのためにアッラーから何かを得る力はありません。」「主よ、わたしたちは、あなたにすべてを委ね、あなたに立ち返りました。最後の帰り着く先は、あなたのもとです。主よ、わたしたちを、真理を否定する者たちへの試練としないでください。主よ、わたしたちを赦してください。まことにあなたこそ、偉力ならびなく、英知に満ちた御方です。」かれらの中には、あなたがたのための良い模範がある。アッラーと最後の日に望みをかける者のための模範である。だが背き去る者がいても―アッラーこそ、満ち足りた、讃えられるべき御方である。 (3-6)

アッラーは、あなたがたと、あなたがたが今敵としている者たちとの間に、親しみを生じさせられるかもしれない。アッラーは全能であり、アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。アッラーは、宗教のことであなたがたと戦わず、あなたがたを

家から追い出さなかった者たちに対して、あなたがたが親切にし、公正に扱うことを禁じられない。アッラーは、公正な者たちを愛される。アッラーが禁じられるのは、ただ、宗教のことであなたがたと戦い、あなたがたを家から追い出し、あるいは追い出すのを助けた者たちを、盟友とすることだけである。かれらを盟友とする者―かれらこそ不正を行う者である。 (7-9)

信仰する者たちよ、信仰する女たちが、移住者としてあなたがたのもとに来たなら、かの女たちを試しなさい―アッラーは、かの女たちの信仰を最もよく知っておられる―そしてかの女たちが信者であると分かったなら、真理を否定する者たちのもとに送り返してはならない。かの女たちは、その男たちに許されず、その男たちも、かの女たちに許されない。その男たちには、かれらが婚資として費やしたものを与えなさい。あなたがたがかの女たちに婚資を与えたなら、かの女たちと結婚しても、あなたがたに罪はない。真理を否定する女たちとの婚姻のきずなに、しがみついてはならない。あなたがたが費やしたものを求めなさい。かれらにも、かれらが費やしたものを求めさせなさい。これが、アッラーの裁きである。かれは、あなたがたの間を裁かれる。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。もしあなたがたの妻のだれかが、真理を否定する者たちのもとに去り、その後であなたがたに得る番が巡って来たなら、妻に去られた者たちに、かれらが費やしたのと同じだけのものを与えなさい。あなたがたが信じているアッラーを畏れなさい。 (10-11)

預言者よ、信仰する女たちが、あなたに忠誠を誓うために、あなたのもとに来たなら―アッラーに何ものも並べず、盗みをせず、姦通をせず、自分の子供たちを殺さず、自分の手と足の間でこしらえた中傷を持ち出さず、正しいことについてあなたに背かないと誓うなら―かの女たちの誓いを受け入れ、かの女たちのためにアッラーの赦しを請いなさい。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (12)

信仰する者たちよ、アッラーが怒られた民を盟友としてはならない。かれらは、来世に絶望している。真理を否定する者たちが、墓の中にいる者たちに絶望しているのと同じである。 (13)

61. 隊列 (Al-Ṣaff)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

天にあるすべてのものも、地にあるすべてのものも、アッラーを讃える。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。信仰する者たちよ、なぜあなたがたは、自分の行わないことを口にするのか。あなたがたが、自分の行わないことを口にするのは、アッラーの御前で最も憎まれることである。アッラーは、まるで堅固な建物のように隊列を組んで、かれの道のために戦う者たちを愛される。 (1-4)

ムーサーが、その民に言ったときを思い起こしなさい。「わたしの民よ、なぜあなたがたは、わたしを悩ませるのか。わたしが、あなたがたへのアッラーの使徒であることを知っているのに。」こうしてかれらがそれると、アッラーは、かれらの心をそれるに任せられた。アッラーは、背く民を導かれない。またマルヤムの子イーサーが言ったとき。「イスラエルの子孫よ、わたしは、あなたがたへのアッラーの使徒です。わたしより前に来た律法を確証し、わたしの後に来る、その名をアフマドという使徒の吉報を伝える者です。」だがかれが、明らかなしるしを持ってかれらのもとに来ると、かれらは言った。「これは明らかな魔術だ。」 (5-6)

アッラーに帰依するよう招かれていながら、アッラーについて偽りを作り上げる者よりも、不正な者がだれかあろうか。アッラーは、不正を行う民を導かれない。かれらは、自分の口でアッラーの光を消そうと望んでいる。だがアッラーは、真理を否定する者たちがどれほど嫌っても、ご自分の光を全うされる。かれこそは、導きと真理の宗教を持たせて、その使徒を遣わされた御方である。アッラーに同位者を並べる者たちがどれほど嫌っても、それを、すべての宗教の上に勝たせるためである。 (7-9)

信仰する者たちよ、痛ましい懲罰からあなたがたを救う取引を、あなたがたに教えようか。アッラーとその使徒を信じ、アッラーの道のために、自分の財産と身をもって奮闘することである。あなたがたが知っているなら、それがあなたがたにとってより良い。かれは、あなたがたの罪を赦し、川が下を流れる楽園に、また尽きることのない至福の楽園の中の快い住まいに、あなたがたを入れてくださる。それこそ大いなる勝利である。またあなたがたが好むもう一つのものがある。アッラーからの助けと、近い勝利である。だから信者たちに吉報を伝えなさい。信仰する者たちよ、アッラーを助ける者となりなさい。マルヤムの子イーサーが、弟子たちにこ

う言ったようにである。「アッラーの道のために、わたしを助ける者はだれか。」弟子たちは言った。「わたしたちが、アッラーを助ける者です。」こうしてイスラエルの子孫の一団は信仰し、一団は否定した。そこでわれらは、信仰した者たちを、その敵に対して強めた。そしてかれらは、勝る者となった。 (10-14)

62. 集会 (Al-Jumuʿa)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

天にあるすべてのものも、地にあるすべてのものも、アッラーを讃える。王者であり、神聖であり、偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。かれこそは、文字を知らない人々の中に、かれら自身の中から一人の使徒を興された御方である。かれらにご自分のしるしを読み聞かせ、かれらを清め、かれらに啓典と英知を教えるためである―かれらは、これより前には、明白な迷いの中にいた―またまだかれらに加わっていない、かれらの中のほかの者たちのためでもある。かれこそは偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。これは、アッラーの恵みであり、かれは、望まれる者にそれを授けられる。アッラーは、大いなる恵みの持ち主である。律法を負わされながら、それを担わなかった者たちのたとえは、何冊もの書物を運ぶろばのようである。アッラーのしるしを偽りとした民のたとえは、何と悪いことか。アッラーは、不正を行う民を導かれない。 (1-5)

（預言者よ）言え、「ユダヤの教えに従う者たちよ、もしあなたがたが、すべての人々の中で自分たちだけがアッラーの友であると言い立てるなら、死を願ってみなさい。あなたがたが真実を語っているなら。」だがかれらは、自分の手が先に送ったもののために、決してそれを願わない。アッラーは、不正を行う者たちをよく知っておられる。言え、「あなたがたが逃げているその死は、必ずあなたがたに出会う。それからあなたがたは、目に見えないものも見えるものも知っておられる御方のもとに帰される。そしてかれは、あなたがたが行っていたことをあなたがたに告げられる。」 (6-8)

信仰する者たちよ、集会の日に礼拝への呼びかけがなされたなら、アッラーを思い起こすことへと急ぎ、商いをやめなさい。あなたがたが知っているなら、それがあなたがたにとってより良い。それから礼拝が終わったなら、地上に散らばり、アッラーの恵みを求めなさい。そしてアッラーを多く思い起こしなさい。そうすればあなたがたは成功するであろう。だがかれらは、何かの商品や気晴らしを見ると、そちらへ散って行き、あなたを立たせたままにする。言え、「アッラーのもとにあるものは、気晴らしよりも商品よりも良い。アッラーは、糧を授ける者の中で最も優れた御方である。」 (9-11)

63. 偽信者たち (Al-Munāfiqūn)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

（預言者よ）偽信者たちは、あなたのもとに来ると、こう言う。「わたしたちは、あなたが確かにアッラーの使徒であることを証言します。」アッラーは、あなたが確かにかれの使徒であることを知っておられる。そしてアッラーは、偽信者たちがうそつきであることを証言される。かれらは、自分の誓いを隠れみのにして、人々をアッラーの道から妨げた。かれらが行ってきたことは、実に悪い。それは、かれらが信仰し、それから否定したからである。それでその心は封じられ、かれらは理解しない。あなたがかれらを見ると、その見かけは、あなたを感心させる。かれらが話すと、あなたは、その言葉に耳を傾ける。だがかれらは、壁に立てかけられた材木のようである。かれらは、どんな叫び声も、自分たちに向けられたものだと思う。かれらは敵である―だからかれらを警戒しなさい。アッラーが、かれらを滅ぼされるように。かれらは、何と真理から背かされていることか。 (1-4)

かれらは、「来なさい。アッラーの使徒が、あなたがたのために赦しを請うてくださる」と言われると、頭を背ける。あなたは、かれらが高慢に顔をそむけるのを見る。あなたが、かれらのために赦しを請うても請わなくても、かれらには同じことである。アッラーは、決してかれらを赦されない。アッラーは、背く民を導かれない。かれらこそ、こう言う者たちである。「アッラーの使徒と共にいる者たちには、何も施すな。かれらが散り散りになるように。」だが天と地の宝庫は、アッラーのものである。それでも偽信者たちは理解しない。かれらは言う。「もしわたしたちが町に帰るなら、より力のある者が、より卑しい者を、必ずそこから追い出すであろう。」だが力は、アッラーとその使徒と信者たちのものである。それでも偽信者たちは知らない。 (5-8)

信仰する者たちよ、あなたがたの富と子供たちに気を取られて、アッラーを思い起こすことを忘れてはならない。そうする者―かれらこそ損失者である。あなたがたの一人に死が訪れて、こう言うようになる前に、われらが授けたものの中から施しなさい。「主よ、ほんのしばらくわたしに猶予を与えてくださったなら、わたしは施しをし、正しい者の一人になるのに。」だがアッラーは、その定められた時が来たなら、どの魂にも決して猶予を与えられない。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことに通じておられる。 (9-11)

64. 互いの損得 (Al-Taghābun)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

天にあるすべてのものも、地にあるすべてのものも、アッラーを讃える。王権はかれのものであり、讃美もかれのものである。かれは万事に全能である。かれこそは、あなたがたを創られた御方である。だがあなたがたの中には、真理を否定する者もあり、信仰する者もある。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことを見ておられる。かれは、真理によって天と地を創り、あなたがたを形づくって、その姿を美しくされた。最後の帰り着く先は、かれのもとである。かれは、天と地にあるすべてのものを知り、あなたがたが隠すことも表すことも知っておられる。アッラーは、胸の中にあるものをよく知っておられる。 (1-4)

以前に真理を否定し、自分の行いの悪い結果を味わった者たちの話は、あなたがたに届かなかったか。かれらには、痛ましい懲罰が待っている。それは、かれらの使徒たちが、明らかなしるしを持って来続けたのに、かれらがこう言ったからである。「ただの人間が、わたしたちを導くというのか。」こうしてかれらは否定し、背き去った。アッラーは、かれらを少しも必要とされなかった。アッラーは満ち足りた、讃えられるべき御方である。 (5-6)

真理を否定する者たちは、自分たちが決してよみがえらされないと言い立てる。言え、「いや、わたしの主にかけて、あなたがたは必ずよみがえらされる。それから必ず、自分が行ったことを告げられる。それは、アッラーにとって易しいことである。」 (7)

だからアッラーとその使徒と、われらが下した光を信じなさい。アッラーは、あなたがたの行うすべてのことに通じておられる。かれが、召集の日のためにあなたがたを集められる日―それは、互いに損得が明らかになる日である。アッラーを信じ、善を行う者―かれは、その悪い行いを消し去り、川が下を流れる楽園にその者を入れ、永遠にそこに住まわせられる。それこそ大いなる勝利である。だが真理を否定し、われらのしるしを偽りとする者たち―かれらは業火の住人であり、そこにとどまる。何と悪い行き着く先であろう。 (8-10)

どんな災いも、アッラーのお許しによるほかは降りかからない。アッラーを信じる者―かれは、その心を導かれる。アッラーはすべてのことを知っておられる。アッラーに従い、使徒に従いなさい。もしあなたがたが背き去るなら、われらの使徒の

務めは、明らかに伝えることだけである。アッラー―かれのほかに神はない。信者たちは、アッラーにすべてを委ねなさい。信仰する者たちよ、あなたがたの配偶者と子供たちの中には、あなたがたの敵がいる。だからかれらを警戒しなさい。だがもしあなたがたが、大目に見て、見過ごし、赦すなら―アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (11-14)

あなたがたの富と子供たちは、一つの試練にすぎない。アッラーのもとには、大いなる報奨がある。だからできる限りアッラーを畏れ、聞き、従い、施しなさい。それが、あなたがた自身のためにより良い。自分の魂の貪欲から守られる者―かれらこそ成功する者である。もしあなたがたが、アッラーに良い貸し付けをするなら、かれは、あなたがたのためにそれを幾倍にもし、あなたがたを赦してくださる。アッラーはよく報い、寛容な御方である。目に見えないものも見えるものも知っておられる御方、偉力ならびなく、英知に満ちた御方である。 (15-18)

65. 離婚 (Al-Ṭalāq)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

預言者よ、あなたがたが女たちと離婚するときは、その待機期間の初めに離婚し、その期間を正しく数えなさい。あなたがたの主アッラーを畏れなさい。かの女たちが明らかな醜行を犯さない限り、かの女たちをその家から追い出してはならず、かの女たちも出て行ってはならない。これらは、アッラーの定められた掟である。アッラーの掟を越える者は、自分自身に不正を行ったのである。あなたは知らない。アッラーは、その後で何か新しい事を生じさせられるかもしれない。 (1)

それから、かの女たちがその期限の終わりに達したなら、ふさわしいやり方でかの女たちをとどめるか、ふさわしいやり方でかの女たちと別れなさい。あなたがたの中から、公正な二人を証人に立て、アッラーのために証言を正しく行いなさい。これは、アッラーと最後の日を信じる者への戒めである。アッラーを畏れる者には―かれは、出口を設けてくださり、思いもしなかった所から糧を授けられる。アッラーにすべてを委ねる者には―かれで十分である。アッラーは、ご自分の目的を成し遂げられる。アッラーは、すべてのものに一つの定めを設けられた。 (2-3)

あなたがたの女たちの中で、月経の望みがなくなった者については、もしあなたがたが疑うなら、その待機期間は三か月である。まだ月経のない者も同じである。身ごもっている者については、その期限は、その荷を産み落とすまでである。アッラーを畏れる者には―かれは、その者の事を易しくしてくださる。これは、アッラーがあなたがたに下された、かれの命令である。アッラーを畏れる者には―かれは、その悪い行いを消し去り、その報奨を大きくしてくださる。 (4-5)

あなたがたの力に応じて、あなたがた自身が住んでいる所に、かの女たちを住まわせなさい。かの女たちを苦しい目に遭わせようとして、悩ませてはならない。もしかの女たちが身ごもっているなら、その荷を産み落とすまで、かの女たちのために費やしなさい。もしかの女たちが、あなたがたのために子に乳を飲ませるなら、その報酬を与え、ふさわしいやり方で互いに話し合いなさい。だがもしあなたがたが互いに折り合えないなら、ほかの女が、父親のためにその子に乳を飲ませればよい。ゆとりのある者は、そのゆとりに応じて費やしなさい。糧の限られた者は、アッラーが授けられたものの中から費やしなさい。アッラーは、どの魂にも、かれが授け

られた以上のものを負わせられない。アッラーは、困難の後に安楽をもたらされる。(6-7)

どれほど多くの町が、その主とその使徒たちの命令に、横柄に逆らったことか。そこでわれらは、それを厳しく清算し、恐ろしい懲罰で罰した。こうしてその町は、自分の行いの悪い結果を味わった。その事の結末は、滅びであった。アッラーは、かれらのために厳しい懲罰を用意された。だからアッラーを畏れなさい。理解力のある者たちよ、信仰する者たちよ。アッラーは、あなたがたに訓戒を下された。アッラーの明らかなしるしをあなたがたに読み聞かせる使徒である。信仰して善行に励む者たちを、深い暗闇から光の中へと連れ出すためである。アッラーを信じ、善を行う者を、かれは、川が下を流れる楽園に入れ、永遠にそこに住まわせられる。アッラーは、その者に優れた糧を授けられた。(8-11)

アッラーこそは、七つの天を創り、大地についても、それと同じだけのものを創られた御方である。命令は、その間を下って行く。アッラーが万事に全能であり、アッラーが知識によってすべてのものを包んでおられることを、あなたがたが知るためである。(12)

66. 禁止 (Al-Taḥrīm)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

預言者よ、なぜあなたは、妻たちを喜ばせようとして、アッラーがあなたに許されたものを禁じるのか。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。アッラーは、あなたがたの誓いを解く道を、すでにあなたがたに定められた。アッラーは、あなたがたの守護者である。かれこそはすべてを知り、英知に満ちた御方である。 (1-2)

預言者が、妻の一人にある事を打ち明け、かの女がそれをほかに漏らし、アッラーがそのことをかれに知らせられたとき、かれは、その一部を知らせ、一部は見過ごした。かれがそのことをかの女に告げると、かの女は言った。「だれが、これをあなたに知らせたのですか。」かれは言った。「すべてを知り、すべてに通じておられる御方が、わたしに知らせてくださった。」もしあなたがた二人が、悔い改めてアッラーに立ち返るなら—あなたがたの心は、確かにそれに傾いていた—それは良いことである。だがもしあなたがたが、かれに対して互いに力を合わせるなら、アッラーこそかれの守護者であり、ジブリールも、信者たちの中の正しい者たちもそうである。そのうえ天使たちも、かれの助け手である。もしかれが、あなたがたを離婚するなら、かれの主は、あなたがたの代わりに、あなたがたよりも良い妻たちをかれに授けられるかもしれない。アッラーに帰依し、信仰し、心から従い、悔い改め、崇め、斎戒する女たちであり、結婚したことのある者も、ない者もいる。 (3-5)

信仰する者たちよ、あなたがた自身と家族を、人間と石を燃料とする火から守りなさい。その上には、荒々しく厳しい天使たちがいる。かれらは、アッラーが命じられることに背かず、命じられたことを行う。「真理を否定した者たちよ、今日は言い訳をしてはならない。あなたがたは、ただ自分が行っていたことで報いられるだけである。」 (6-7)

信仰する者たちよ、心からの悔い改めをもって、アッラーに立ち返りなさい。あなたがたの主は、あなたがたの悪い行いを消し去り、川が下を流れる楽園にあなたがたを入れてくださるかもしれない。その日、アッラーは、預言者と、かれと共に信仰した者たちを辱められない。かれらの光は、その前と右側を走る。かれらは言う。「主よ、わたしたちのために、わたしたちの光を全うし、わたしたちを赦してください。あなたは万事に全能です。」 (8)

預言者よ、真理を否定する者たちと偽信者たちに対して奮闘し、かれらに厳しくしなさい。かれらの避け所は地獄である―何と悪い行き着く先であろう。アッラーは、真理を否定する者たちのために、一つの例を示された。ヌーフの妻とルートの妻である。二人は、われらの正しいしもべである二人の者の妻であった。だが二人は、かれらを裏切った。それで夫たちは、アッラーに対して、二人の役に少しも立たなかった。そしてこう言われた。「入るすべての者と共に、業火に入りなさい。」またアッラーは、信仰する者たちのために、一つの例を示された。フィルアウンの妻である。かの女が言ったとき。「主よ、楽園の中で、あなたの御そばに、わたしのために家を建ててください。わたしを、フィルアウンとその行いから救い、不正を行う民から救ってください。」またイムラーンの娘マルヤムである。かの女は、自分の貞節を守った。そこでわれらは、その中にわれらの霊を吹き込んだ。かの女は、自分の主の御言葉とその諸啓典を真実と認め、心から従う者の一人であった。 (9-12)

67. 王権 (Al-Mulk)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

すべての王権をその手に握っておられる御方に、祝福あれ。かれは万事に全能である―かれは、あなたがたの中でだれが行いにおいて最も優れているかを試みるために、死と生を創られた御方である。かれこそは偉力ならびなく、よく赦される御方である。かれは、七つの天を一つまた一つと重ねて創られた御方である。あなたは、慈悲あまねき御方の創造に、何の不調和も見ない。もう一度見なさい。何か欠けた所が見えるか。それからもう一度、さらにもう一度見なさい。あなたのまなざしは、目がくらみ、疲れ果てて、あなたに戻って来る。 (1-4)

われらは、最も低い天をともしびで飾り、それらを、悪魔たちを打つための飛び道具とした。われらは、かれらのために烈火の懲罰を用意している。自分の主を否定する者たちには、地獄の懲罰がある―何と悪い行き着く先であろう。かれらがその中に投げ込まれると、かれらは、それが煮えたぎりながらうなる音を聞く。それは、怒りのあまり、ほとんど破裂しそうである。一団がその中に投げ込まれるたびに、その番人たちがかれらに尋ねる。「あなたがたのもとに、警告者は来なかったのか。」かれらは言う。「いや、確かに警告者は、わたしたちのもとに来ました。だがわたしたちは、かれをうそつきと呼び、こう言いました。『アッラーは何も下されていない。あなたがたは、大きな迷いの中にいるにすぎない。』」またかれらは言う。「もしわたしたちが、耳を傾け、あるいは理性を働かせていたなら、烈火の住人の中にはいなかったであろうに。」こうしてかれらは、自分の罪を認める―烈火の住人は遠ざけられよ。目に見えない自分の主を畏れる者たちには、赦しと大きな報奨がある。 (5-12)

あなたがたが言葉を隠しても、声に出して言っても、かれは、胸の中にあるものをよく知っておられる。創られた御方が、知らないということがあろうか。かれこそは玄妙にして、すべてに通じておられる御方である。かれこそは、あなたがたのために大地を従順なものとされた御方である。だからその広い道を歩き、かれの授けられる糧を食べなさい―復活は、かれのもとへである。あなたがたは、天におられる御方が、大地を揺り動かして、あなたがたをのみ込ませることはないと、安心しているのか。それともあなたがたは、天におられる御方が、あなたがたに対して石のあらしを送ることはないと、安心しているのか。そのときあなたがたは、わたしの警告がどのようなものであるかを知るであろう。かれら以前の者たちもまた、否

定した。わたしの咎めは、何と恐ろしかったことか。かれらは、頭上の鳥たちが、翼を広げたりたたんだりするのを見ないのか。慈悲あまねき御方のほかには、それらを支えるものはない。かれは、すべてのものを見ておられる。慈悲あまねき御方に対して、あなたがたを助ける、あなたがたの軍勢とはだれなのか。真理を否定する者たちは、欺きの中にいるにすぎない。もしかれが、その糧をとどめられたなら、あなたがたに糧を授ける者とはだれなのか。それでもかれらは、横柄と嫌悪に固執している。顔を伏せてはうように歩く者のほうが、よく導かれているのか。それとも、まっすぐな道の上を、身を起こして歩く者か。 (13-22)

言え、「かれこそは、あなたがたを生み出し、あなたがたに聴覚と視覚と心を授けられた御方である—あなたがたは何とわずかしか感謝しないことか。」言え、「かれこそは、あなたがたを地上に散らばらせられた御方であり、あなたがたはかれのもとに集められる。」かれらは言う。「この約束はいつ果たされるのか。あなたがたが真実を語っているなら。」言え、「その知識は、ただアッラーのもとにある。わたしは明らかな警告者にすぎない。」だがそれが間近にあるのを見ると、真理を否定した者たちの顔は悲しみに曇る。そしてこう言われる。「これが、あなたがたが呼び求めていたものである。」言え、「考えてみなさい。アッラーが、わたしとわたしと共にいる者たちを滅ぼされても、あるいはわたしたちに慈悲をかけられても、真理を否定する者たちを、だれが痛ましい懲罰から守るのか。」言え、「かれこそは慈悲あまねき御方である。わたしたちは、かれを信じ、かれにすべてを委ねる。あなたがたは、やがて知るであろう。だれが明白な迷いの中にいるのかを。」 (23-29)

言え、「考えてみなさい。もしあなたがたの水が、地の底に沈んで消えてしまったなら、だれが流れる水をあなたがたにもたらすのか。」[52] (30)

[52] **地の底に沈んで消えるかもしれない水：クルアーン 67:30 についての哲学的・神学的注釈**

68. 筆 (Al-Qalam)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

ヌーン。筆にかけて、またかれらが書き記すものにかけて。（預言者よ）あなたは、あなたの主の恵みによって、狂人ではない。まことにあなたには、決して尽きることのない報奨がある。まことにあなたは、優れた人格を備えている。やがてあなたは見るであろう。かれらも見るであろう。あなたがたのうちのどちらが、狂気に取りつかれた者であるかを。あなたの主は、だれがかれの道から迷ったかを最もよく知っておられ、正しく導かれた者たちをも最もよく知っておられる。だから、真理を否定する者たちに従ってはならない。かれらは、あなたが妥協することを望んでいる。そうすれば、かれらもまた妥協するであろう。また、やたらに誓いを立てる卑しい者にも従ってはならない。陰口を言い、うわさを触れ回り、善を妨げ、限度を越え、罪を重ねる者、粗暴で、そのうえ素性の知れない者にも―ただその者に富と息子たちがあるからといって。われらのしるしがその者に読み聞かされると、その者は言う。「昔の人々の作り話だ。」われらは、その鼻面に焼き印を押す。 (1-16)

われらは、あの園の持ち主たちを試みたように、かれらを試みた。その者たちは、朝になったら必ずその実を摘み取ると誓い、アッラーの御心については何の留保もしなかった。そこで、かれらが眠っている間に、あなたの主からの災いがその園を巡った。朝には、それはすでに刈り尽くされた畑のようになっていた。夜明けに、かれらは互いに呼びかけた。「実を摘み取るつもりなら、朝早く畑に出かけなさい。」そこでかれらは、互いにささやき合いながら出かけた。「今日は、あなたがたのいる間、困窮する者を一人もそこに入れてはならない。」かれらは、自分たちには力があると思い、その目的を固く心に決めて、朝早く出かけた。だがそれを見ると、かれらは言った。「わたしたちは、道を間違えたに違いない。いや、わたしたちは何もかも奪われたのだ。」かれらの中で最も分別のある者が言った。「わたしは、あなたがたに言わなかったか。『なぜアッラーを讃えないのか』と。」かれらは言った。「わたしたちの主に栄光あれ。わたしたちは、確かに不正を行う者でした。」それからかれらは、互いに向き合って責め合った。かれらは言った。「ああ情けない。わたしたちは、度を越していた。わたしたちの主は、その代わりに、もっと良いものを授けてくださるかもしれない。わたしたちは、望みを抱いてわたしたちの主に向かう。」懲罰とは、このようなものである。来世の懲罰は、はるかに大きい。かれらがそれを知っていたなら。 (17-33)

アッラーを畏れる者たちには、かれらの主のもとに、至福の楽園がある。われらが、アッラーに帰依する者たちを、罪を犯す者たちのように扱うであろうか。あなたがたはどうしたのか。どのように判断しているのか。それともあなたがたには、一冊の書があって、その中で、あなたがたが選ぶものは何でも得られると読んでいるのか。それともあなたがたには、復活の日までわれらを縛る誓いがあって、あなたがたが決めるものは何でも得られるというのか。かれらに尋ねなさい。かれらのだれが、それを請け合うのか。それともかれらには、アッラーに並ぶ同位者たちがいるのか。それなら、その同位者たちを連れて来るがよい。かれらが真実を語っているなら。すねがあらわにされ、かれらがひれ伏すよう呼ばれる日、かれらには、それができない。かれらは目を伏せ、屈辱がかれらを覆う。かれらは、まだ健やかであったときに、ひれ伏すよう呼ばれていたのである。 (34-43)

だから、この言葉を偽りとする者たちのことは、わたしに任せておきなさい。われらは、かれらの知らない所から、一歩一歩かれらを引き寄せる。わたしは、かれらに猶予を与える。わたしの計画は揺るぎない。それともあなたは、かれらに報酬を求めていて、それでかれらが負債に押しつぶされているのか。それとも、かれらには目に見えないものがあって、それを書き留めているのか。だから、あなたの主の裁きを耐え忍んで待ちなさい。あの魚の人のようになってはならない。かれは、苦悩に息を詰まらせて呼びかけた。もしかれの主からの恵みが届かなかったなら、かれは辱められて、不毛の岸辺に投げ出されていたであろう。だがかれの主は、かれを選び、正しい者の一人とされた。真理を否定する者たちは、訓戒を聞くと、そのまなざしで、ほとんどあなたを突き刺さんばかりである。そしてこう言う。「かれは確かに狂っている。」だがこれは、万有への訓戒にほかならない。 (44-52)

69. 必ず訪れる時 (Al-Ḥāqqa)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

必ず訪れるその時。必ず訪れるその時とは何か。必ず訪れるその時が何であるかを、何があなたに分からせるであろうか。 (1-3)

サムードとアードは、打ち砕く災いを偽りとした。サムードは、すべてを圧倒する轟音によって滅ぼされた。アードは、うなりを上げて荒れ狂う風によって滅ぼされた。かれは、七夜八日の間、絶え間なくそれをかれらに吹きつけさせられた。それであなたは、人々が、倒れたなつめやしのうつろな幹のように、打ち倒されているのを見たであろう。あなたは今、かれらの名残を何か見るか。フィルアウンも、かれ以前の者たちも、覆された町々も、みな重い罪を犯した。かれらは、自分の主の使徒に背いた。そこでかれは、ますます強まる捕らえ方で、かれらを捕らえられた。水があふれ出たとき、われらは、あなたがたを浮かぶ舟に乗せて運んだ。それを、あなたがたへの訓戒とし、心を傾ける耳がそれを留めるためである。 (4-12)

それから、ラッパがただ一度吹かれ、大地と山々が持ち上げられて、ただ一撃で打ち砕かれるとき、その日、あの出来事が起こる。空は裂ける。その日、空はもろくなっている。天使たちは、その端々にいる。その日、八人の者が、かれらの上に、あなたの主の玉座を担う。その日、あなたがたは引き出される。あなたがたのどんな秘密も、隠れたままではいない。そのとき、自分の書を右手に渡される者は言う。「さあ、わたしの書を読んでください。わたしは、自分の清算に出会うことを、いつも知っていました。」こうしてその者は、満ち足りた生活の中にいる。高い楽園の中にいて、その果実の房は近くに垂れ下がっている。「過ぎ去った日々に、あなたがたが先に送ったもののために、心ゆくまで食べ、飲みなさい。」だが自分の書を左手に渡される者は言う。「ああ、わたしの書が渡されなかったならよかったのに。自分の清算が何であるかを、決して知らなかったならよかったのに。ああ、死がすべての終わりであったならよかったのに。わたしの富は、わたしの役に立たなかった。わたしの権力は、わたしのもとから消え去った。」「かれを捕らえて縛れ。それから地獄に投げ込め。それから、長さ七十腕尺の鎖につなげ。」その者は、至大であられるアッラーを信じず、困窮する者に食べさせることを勧めもしなかったからである。だから今日、その者には、ここに友もなく、傷から出る汚いうみのほかに食べ物もない。それは、罪人たちのほかは、だれも食べない。 (13-37)

わたしは、あなたがたに見えるものにかけて、またあなたがたに見えないものにかけて誓う。まことにこれは、気高い使徒の言葉である。詩人の言葉ではない―あなたがたは、何とわずかしか信じないことか―占い師の言葉でもない―あなたがたは、何とわずかしか心に留めないことか。これは、万有の主から下されたものである。もしかれが、われらの名で何かの言葉を作り上げたなら、われらは、その右手をつかみ、それからその命の血管を断ち切ったであろう。あなたがたのだれも、かれを守ることはできなかったであろう。まことにこれは、アッラーを畏れる者たちへの訓戒である。われらは、あなたがたの中にこれを偽りと呼ぶ者がいることを知っている。まことにこれは、真理を否定する者たちにとって、悔いの種となる。だがこれは、まさしく確かな真理である。だから、至大であられるあなたの主の御名を讃えなさい。 (38-52)

70. 昇り行く道 (Al-Maʿārij)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

問う者が、必ず下る懲罰について尋ねた。真理を否定する者たちに下るものである――それを退けることのできる者はない――それは、昇り行く道の主であるアッラーからのものである。天使たちと霊は、その長さが五万年に当たる一日のうちに、かれのもとに昇る。だから耐え忍びなさい。美しい忍耐をもってである。かれらは、それを遠いものと見ている。だがわれらは、それを近いものと見ている。その日、空は溶けた銅のようになり、山々は羊毛の房のようになる。そして友は友のことを尋ねない。互いに見えているのにである。罪を犯す者は、その日の懲罰から自分を贖うことができればと願う。自分の子供たちによって、配偶者によって、兄弟によって、自分をかくまってくれた一族によって、そして地上にいるすべての者によって――それで自分が救われるならと。決してそうはならない。それは、燃え上がる炎であり、頭の皮をはぎ取る。それは、背を向けて立ち去ったすべての者を呼び寄せる。富を集めて、ため込んだ者を。 (1-18)

まことに人間は、落ち着きのないものに創られた。災いが触れると嘆き悲しみ、良いことが触れると物惜しみする――ただし礼拝する者たちは別である。かれらは、絶えず礼拝を続ける者たち。その財産の中に、乞う者と恵まれない者のための、認められた取り分がある者たち。審判の日を真実と認める者たち。自分の主の懲罰を恐れる者たち――自分の主の懲罰から安全だと思える者は、だれもいない――自分の貞節を守る者たち。ただし自分の配偶者や女奴隷に対しては別であり、その場合は責められることはない――だがそれを越えて求める者は、掟を越える者である――また預かったものと約束に忠実な者たち。証言において揺るがない者たち。そして自分の礼拝を固く守る者たちである。これらの者は、楽園の中で誉れを受ける。 (19-35)

それなのに、真理を否定する者たちはどうしたのか。（預言者よ）かれらは、右からも左からも、群れをなしてあなたのほうへ押し寄せて来る。かれらの一人一人は、至福の楽園に入ることを望んでいるのか。決してそうではない。われらは、かれらが知っているものから、かれらを創った。わたしは、日の昇る所と日の沈む所の主にかけて誓う。われらには、かれらよりも優れた者たちを代わりに置くことが確かにできる。われらが出し抜かれることはない。だから、かれらに約束されている日に出会うまで、かれらがむだ話にふけり、戯れるままに放っておきなさい。その日、かれらは、まるで目印に向かって競い合うかのように、急いで墓から出て来る。か

れらは目を伏せ、屈辱がかれらを覆う。それが、かれらに約束されていた日である。
(36-44)

71. ヌーフ (Nūḥ)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

われらは、ヌーフをその民に遣わした。「痛ましい懲罰がかれらに臨む前に、あなたの民に警告しなさい。」かれは言った。「わたしの民よ、わたしは、あなたがたへの明らかな警告者である。アッラーを崇め、かれを畏れ、わたしに従いなさい。かれは、あなたがたの罪を赦し、定められた時まであなたがたに猶予を与えてくださる。アッラーの定められた時が来れば、それを遅らせることはできない。あなたがたがそれを知っていたなら。」 (1-4)

かれは言った。「主よ、わたしは、夜も昼もわたしの民に呼びかけました。だがわたしの呼びかけは、かれらの逃げ去ることを増すだけでした。あなたがかれらを赦してくださるようにと、わたしがかれらに呼びかけるたびに、かれらは指を耳に差し入れ、衣で身を覆い、かたくなに固執し、ますます高慢になりました。それからわたしは、公然とかれらに呼びかけました。それから、かれらに向かって公に告げ、またひそかに語りかけて、こう言いました。『あなたがたの主に赦しを請いなさい。かれは、よく赦される御方である。かれは、あなたがたの上に空から豊かな雨を降らせ、富と息子たちによってあなたがたを強め、あなたがたに園を授け、川を授けてくださる。あなたがたはどうしたのか。アッラーに威厳を認めようとしないとは。かれは、いくつもの段階を経てあなたがたを創られたのに。あなたがたは見ないのか。アッラーが、どのように七つの天を層に重ねて創り、その中に月を光として置き、太陽をともしびとされたかを。アッラーは、あなたがたを草木のように大地から生い育てられた。それからかれは、あなたがたをその中に戻し、また新たに引き出される。アッラーは、あなたがたのために大地を広々と広げられた。あなたがたが、その広い道を行き来するためである。』」 (5-20)

ヌーフは言った。「主よ、かれらはわたしに背き、その富と子供たちが、自分の損失を増すばかりの者たちに従いました。かれらは、大それたたくらみを巡らして、こう言いました。『あなたがたの神々を捨ててはならない。ワッドも、スワーウも、ヤグースも、ヤウークも、ナスルも捨ててはならない。』かれらは、多くの者を迷わせました。主よ、不正を行う者たちには、迷いのほかは何も増し加えないでください。」 (21-24)

その罪のために、かれらは溺れさせられ、火の中に入れられた。そしてかれらは、アッラーのほかに、自分たちを助ける者を見いださなかった。ヌーフは言った。「主よ、真理を否定する者たちを、一人も地上に住まわせたまま残さないでください。もしあなたが、かれらを残されるなら、かれらは、あなたのしもべたちを迷わせ、悪を行う否定者のほかは生みません。主よ、わたしと、わたしの両親と、信者としてわたしの家に入る者と、信仰する男たちと女たちを赦してください。不正を行う者たちには、滅びのほかは何も増し加えないでください。」 (25-28)

72. ジン (Al-Jinn)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

（預言者よ）言え、「わたしに啓示された。ジンの一団が耳を傾けて、こう言った、と。『わたしたちは、驚くべき読誦を聞いた。それは、正しい道へと導く。わたしたちは、それを信じる。わたしたちは、決して自分たちの主にだれも並べない。わたしたちの主の威光は、高くあられる。かれは、妻も子も持たれなかった。わたしたちの中の愚かな者は、アッラーについて、途方もないことを口にしていた。わたしたちは、人間もジンも、アッラーについて偽りを語ることは決してないと思っていた。ところが人間の中には、ジンの中の者たちに守りを求める者たちがいて、それがかれらの横柄さを増した。かれらは、あなたがたが思っていたように、アッラーがだれもよみがえらせないと思っていた。わたしたちは、天に手を伸ばした。だがそこは、厳しい見張りと、飛び交う炎で満ちているのを知った。わたしたちは、聞き耳を立てるために、そこの席に座っていたものである。だが今、聞き耳を立てる者は、待ち構えている飛ぶ炎を見いだす。わたしたちは、地上にいる者たちに災いが望まれているのか、それとも、かれらの主がかれらを正しく導こうと望んでおられるのかを知らない。わたしたちの中には、正しい者もいれば、そうでない者もいる。わたしたちは、それぞれ別々の道をたどってきた。わたしたちは、地上で決してアッラーをくじくことができず、逃げてもかれをくじくことができないと知った。わたしたちは、導きを聞いたとき、それを信じた。自分の主を信じる者は、損失も不正も恐れることはない。わたしたちの中には、アッラーに帰依する者もいれば、道をそれる者もいる。帰依する者たちは、正しい道を探し求めたのである。だが道をそれる者たちは、地獄の燃料となる。』」 (1-15)

もしかれらが、まっすぐな道を守り続けていたなら、われらは、かれらに豊かな水を飲ませたであろう。それによって、かれらを試みるためである。自分の主を思い起こすことから背き去る者を、かれは、ますます募る懲罰の中に追い込まれる。礼拝の場所は、アッラーのものである。だからアッラーと並べて、だれにも祈ってはならない。だがアッラーのしもべが、かれに祈るために立ったとき、かれらは群がって、ほとんどかれを押しつぶさんばかりであった。言え、「わたしは、ただわたしの主に祈る。わたしは、かれにだれも並べない。」言え、「わたしには、あなたがたに害を与える力も、正しい導きをもたらす力もない。」言え、「だれも、アッラーからわたしを守ることはできない。わたしは、かれのほかに避け所を見いださ

ない―わたしの務めは、ただアッラーからのもの、かれの伝言を伝えることだけである。アッラーとその使徒に背く者には、地獄の火があり、永遠にそこにとどまる。」やがてかれらは、自分たちに約束されていたものを見ると、だれが援助者において弱く、数において少ないかを知るであろう。言え、「わたしは、あなたがたに約束されていることが近いのか、それともわたしの主が、それに遠い期限を定められたのかを知らない。かれは、目に見えないものを知っておられる御方である。かれは、ご自分の目に見えないものを、だれにも明かされない。ただご自分が選ばれた使徒は別である。そのときかれは、その前にも後ろにも見張りを遣わされる。かれらが、自分の主の伝言を確かに伝えたことを知られるためである。かれは、かれらのもとにあるすべてのものを包み、すべてのものを数で数え上げておられる。」(16-28)

73. 衣に包まる者 (Al-Muzzammil)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

衣に身を包んだ者よ、わずかな時を除いて、夜の間、礼拝に立ちなさい―その半分か、それより少し少なく、あるいはそれより少し多く―そしてクルアーンを、ゆっくりと、はっきりと読誦しなさい。われらは、やがて重みのある言葉をあなたに投げかける。まことに、夜に起きることは、心に刻まれる力がより強く、言葉もよりまっすぐになる。昼間は、あなたには長い時間にわたる務めがあるからである。あなたの主の御名を思い起こし、ひたすらかれに身をささげなさい。かれは東と西の主であり、かれのほかに神はない。だから、かれをすべてを委ねるべき御方としなさい。かれらの言うことを耐え忍び、礼儀正しく身を引いて、かれらから離れなさい。安楽に暮らしながら真理を否定する者たちのことは、わたしに任せておき、しばらくの間、かれらを大目に見なさい。われらのもとには、かせと、燃えさかる業火と、のどに詰まる食べ物と、痛ましい懲罰がある。その日、大地と山々は震え、山々は崩れ流れる砂の山となる。 (1-14)

われらは、あなたがたの証人として、一人の使徒をあなたがたに遣わした。フィルアウンに一人の使徒を遣わしたのと同じである。だがフィルアウンは、その使徒に背いた。そこでわれらは、押しつぶすような捕らえ方で、かれを捕らえた。それなら、もしあなたがたが真理を否定するなら、子供たちの髪を白くする日から、どうして自分を守るのか。その日、空は裂ける。かれの約束は、必ず果たされる。まことにこれは訓戒である。だから望む者は、自分の主への道を取るがよい。 (15-19)

あなたの主は、（預言者よ）あなたが、夜の三分の二近く、あるいはその半分、あるいはその三分の一を、礼拝に立っていることを知っておられる。あなたと共にいる者たちの一団もそうである。アッラーは、夜と昼を量り定められる。かれは、あなたがたがそれを数えきれないことを知り、慈悲をもってあなたがたに向き直られた。だからクルアーンの中から、あなたがたにたやすいだけを読誦しなさい。かれは、あなたがたの中に、病気の者もあり、アッラーの恵みを求めて地上を旅する者もあり、アッラーの道のために戦う者もあることを知っておられる。だからその中から、たやすいだけを読誦し、礼拝を守り、定めの喜捨をし、アッラーに良い貸し付けをしなさい。あなたがたが、自分自身のために先に送るどんな良いものも、あなたがたは、アッラーのもとでそれを見いだす。それは、より良く、報奨において

より大きい。アッラーの赦しを請いなさい。アッラーはよく赦し、慈愛深い御方である。 (20)

74. 外衣に包まる者 (Al-Muddaththir)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

外衣に身を包んだ者よ、立ち上がって警告しなさい。あなたの主を―かれの偉大さをたたえなさい。あなたの衣を―それを清めなさい。すべての汚れを―それを避けなさい。より多くを得ようとして、与えてはならない。あなたの主のために、耐え忍びなさい。 (1-7)

ラッパが吹き鳴らされるとき、その日は厳しい日となる。真理を否定する者たちにとって、決して易しくない日である。わたしがただ独りで創った者のことは、わたしに任せておきなさい。わたしは、その者に豊かな富を授け、そばにいる息子たちを授け、その者のために道を平らにした―それでもその者は、さらに多くを欲しがる。決してそうはならない。その者は、われらのしるしに対してかたくなであった。わたしは、その者を険しい坂道に追い上げる。その者は考え、計った―その者は滅びよ。何という計り方をしたことか。重ねて、その者は滅びよ。何という計り方をしたことか。それからその者は、辺りを見回した。それから顔をしかめ、眉をひそめた。それから背を向けて高ぶり、こう言った。「これは、言い伝えられた魔術にすぎない。これは、人間の言葉にすぎない。」 (8-25)

わたしは、その者をサカルに投げ込む。サカルが何であるかを、何があなたに分からせるであろうか。それは、何も残さず、何も見逃さない。人間の皮膚を焼き焦がす。その上には、十九の者がいる。われらは、天使たちのほかは、業火の番人としなかった。またわれらは、その数を、真理を否定する者たちへの試練としてのみ定めた。啓典を授けられた者たちが確信し、信仰する者たちがその信仰を増し、啓典を授けられた者たちも信者たちも疑いを抱かないためである。また心に病のある者たちと、真理を否定する者たちが、こう言うためである。「アッラーは、このたとえによって何を意味しておられるのか。」このようにアッラーは、望まれる者を迷うに任せ、望まれる者を導かれる。あなたの主の軍勢を知る者は、かれのほかにはない。これは、人間への訓戒にほかならない。決してそうではない。月にかけて。退いて行く夜にかけて。明るくなる夜明けにかけて。まことにそれは、最も大きなものの一つであり、人間への警告である。あなたがたの中で、前に進もうと望む者にも、後ろにとどまろうと望む者にも。 (26-37)

どの魂も、自分の稼いだことの質となっている。ただし右手の仲間たちは別である。かれらは、楽園の中にいて、罪を犯した者たちについて尋ね合う。「何が、あなたがたをサカルに入れたのか。」その者たちは言う。「わたしたちは、礼拝する者の中にいませんでした。困窮する者に食べさせもしませんでした。むだ話にふける者たちと共に、むだ話にふけっていました。そして審判の日を偽りとしていました。やがて確かなものが、わたしたちに臨みました。」だから、とりなす者たちのとりなしは、かれらの役に立たない。 (38-48)

かれらはどうしたのか。訓戒から背き去るとは。まるで、ライオンから逃げる、おびえたろばのようである。かれらの一人一人は、天から広げられた書巻を授けられることを望んでいる。決してそうはならない。実のところ、かれらは来世を恐れていないのである。決してそうではない。まことにこれは訓戒である。だから望む者は、それを心に留めるがよい。だがアッラーが望まれない限り、かれらは心に留めない。かれこそは、畏れられるにふさわしく、赦すにふさわしい御方である。 (49-56)

75. 復活 (Al-Qiyāma)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

わたしは、復活の日にかけて誓う。また自らを責める魂にかけて誓う。人間は、われらがその骨を集めないと思うのか。いや、われらには、その指先さえも元どおりに整えることができる。それでも人間は、自分の前にある時の中で、罪を犯し続けたいと望む。かれは尋ねる。「その復活の日はいつなのか。」 (1-6)

目がくらみ、月が光を失い、太陽と月が一つに合わされるとき―その日、人間は言う。「逃げ場はどこにあるのか。」決してない。避け所はない。その日、落ち着く所は、ただあなたの主のもとにある。その日、人間は、自分が先に送ったものと、後に残したものを告げられる。まことに人間は、自分自身に対する明らかな証人となる。たとえ言い訳を並べ立ててもである。 (7-15)

（預言者よ）それを急いで覚えようとして、あなたの舌を動かしてはならない。それを集め、読誦させることは、われらの務めである。だからわれらがそれを読誦したなら、その読誦に従いなさい。それから、それを解き明かすことも、われらの務めである。 (16-19)

決してそうではない。あなたがたは、過ぎ去る現世を愛し、来世をなおざりにしている。その日、ある顔は輝き、自分の主を仰ぎ見る。またその日、ある顔は暗く曇り、背骨を砕くような打撃が自分に下るのを予期している。 (20-25)

決してそうではない。それが鎖骨にまで達し、「だれか治せる者はいないか」と言われ、その者がこれは別れであると悟り、すねとすねが絡み合うとき―その日、追い立てられて行く先は、あなたの主のもとである。その者は、真理を認めもせず、礼拝もしなかった。否定して、背き去った。それから、ふんぞり返って家族のもとに帰って行った。 (26-33)

あなたに災いあれ、災いあれ。重ねて、あなたに災いあれ、災いあれ。人間は、自分が何の目的もなく放っておかれると思うのか。かれは、注がれた一滴の液ではなかったか。それから付着するものとなり、かれがそれを創って形を整え、そこから男と女の二つの性を造られたのではなかったか。そのような御方に、死者を生き返らせることができないであろうか。 (34-40)

76. 人間 (Al-Insān)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

人間の上には、かれが語られることさえないものであった、長い時が過ぎたのではなかったか。われらは、人間を試みるために、混ざり合った一滴の液からかれを創った。そしてかれを、聞く者、見る者とした。われらは、かれに道を示した。かれが感謝する者となるにせよ、恩を忘れる者となるにせよである。 (1-3)

真理を否定する者たちのために、われらは、鎖と、鉄の首かせと、烈火を用意した。正しい者たちは、樟脳を混ぜた杯から飲む。それは、アッラーのしもべたちが飲む泉であり、かれらは、それを思いのままにわき出させる。かれらは、自分の誓いを果たし、その災いが遠く広く及ぶ日を恐れる。またかれへの愛のために、困窮する者と、孤児と、捕虜に食べ物を与える。「わたしたちは、ただアッラーのために、あなたがたに食べさせるのです。あなたがたからの報酬も感謝も求めません。わたしたちは、自分の主からの、顔をしかめるような苦難の日を恐れています。」そこでアッラーは、その日の災いからかれらを守り、輝きと喜びをかれらに授け、かれらが耐え忍んだことのために、楽園と絹によって報いられる。そこでかれらは、寝いすに身を横たえ、焼けつく太陽も厳しい寒さも見ない。その木陰はかれらの上に近く垂れ、その果実の房は、手の届く所まで低く下げられる。銀の器と水晶の杯が、かれらの間に回される―水晶のように澄んでいながら銀でできており、かれらは、それを望むままに量って注ぐ。そこでかれらは、しょうがを混ぜた杯を飲まされる。そこにあるサルサビールという名の泉からである。いつまでも若々しい若者たちが、かれらに仕える。あなたがかれらを見れば、まき散らされた真珠だと思うであろう。あなたがそこを見れば、至福と広大な王国を見るであろう。かれらは、緑の薄絹と厚い錦の衣をまとい、銀の腕輪で飾られる。かれらの主は、清らかな飲み物をかれらに飲ませられる。「これは、あなたがたへの報奨である。あなたがたの努力は、よく報いられた。」 (4-22)

（預言者よ）まことにわれらは、段階を追ってクルアーンをあなたに下した。だから、あなたの主の裁きを耐え忍んで待ちなさい。かれらの中の罪人にも、否定する者にも従ってはならない。朝に夕に、あなたの主の御名を思い起こしなさい。夜の間にも、かれの前にひれ伏し、長い夜を通してかれを讃えなさい。 (23-26)

この者たちは、過ぎ去る現世を愛し、重苦しい日を背後に打ち捨てている。われらこそ、かれらを創り、その関節を強くした。われらが望むときには、かれらと同じような者たちを、すっかり代わりに置くことができる。 (27-28)

まことにこれは訓戒である。だから望む者は、自分の主への道を取るがよい。だがアッラーが望まれない限り、あなたがたが望むことはない。アッラーはすべてを知り、英知に満ちた御方である。かれは、望まれる者をご自分の慈悲の中に入れられる。不正を行う者たちのためには、痛ましい懲罰を用意された。 (29-31)

77. 送り出されるもの (Al-Mursalāt)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

次々に送り出されるものたちにかけて。あらしの勢いで吹きすさぶものたちにかけて。遠く広くまき散らすものたちにかけて。分け隔てるものたちにかけて。そして言い訳を断つものとして、あるいは警告として、訓戒を届けるものたちにかけて。あなたがたに約束されていることは、必ず起こる。星々が光を消されるとき、空が裂かれるとき、山々が吹き飛ばされてちりとなるとき、そして使徒たちが定められた時に集められるとき―これらすべては、どの日まで延ばされているのか。裁決の日までである。裁決の日が何であるかを、何があなたに分からせるであろうか。その日、真理を否定する者たちに災いあれ。われらは、昔の人々を滅ぼさなかったか。それからわれらは、後の者たちにその後を追わせる。われらは、罪を犯す者たちをそのように扱う。その日、真理を否定する者たちに災いあれ。 (1-19)

われらは、卑しい液からあなたがたを創り、定められた期限まで、それを堅固な宿りの場所に置いたのではなかったか。こうしてわれらは量り定めた―われらは、何と優れた量り定める者であることか。その日、真理を否定する者たちに災いあれ。われらは、大地を、生きている者と死んだ者を収める所とし、その上に、揺るぎなくそびえ立つ山々を置き、あなたがたに甘い水を飲ませたのではなかったか。その日、真理を否定する者たちに災いあれ。 (20-28)

「あなたがたが偽りとしていたもののところへ行きなさい。三つの柱に分かれた陰のところへ行きなさい。それは涼しい陰を作らず、炎から守ることもない。」それは、城のように大きな火花を噴き上げる。まるで黄褐色のらくだのようである。その日、真理を否定する者たちに災いあれ。これは、かれらが口をきけない日であり、言い訳をすることも許されない。その日、真理を否定する者たちに災いあれ。「これは裁決の日である。われらは、あなたがたを昔の人々と一緒に集めた。もしあなたがたに策略があるなら、わたしに対して策略を巡らしてみなさい。」その日、真理を否定する者たちに災いあれ。アッラーを畏れる者たちは、木陰と泉の中にいて、望みのままの果実の中にいる。「あなたがたが行っていたことのために、心ゆくまで食べ、飲みなさい。」このようにわれらは、善を行う者たちに報いる。その日、真理を否定する者たちに災いあれ。 (29-45)

「しばらくの間、食べて楽しむがよい。あなたがたは、罪を犯す者である。」その日、真理を否定する者たちに災いあれ。かれらは、「身をかがめなさい」と言われても、身をかがめない。その日、真理を否定する者たちに災いあれ。それでは、この後で、かれらはどんな言葉を信じるのか。 (46-50)

78. 知らせ (Al-Naba’)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

かれらは、互いに何について尋ね合っているのか。あの重大な知らせについてである。かれらは、それについて意見が食い違っている。決してそうではない。かれらは、やがて知るであろう。重ねて、決してそうではない。かれらは、やがて知るであろう。 (1-5)

われらは、大地を揺りかごとし、山々を杭としたのではなかったか。われらは、あなたがたを対として創り、あなたがたの眠りを休息とし、夜を覆いとし、昼を暮らしの糧を得る時とした。われらは、あなたがたの上に七つの堅固な天を築き、そこに燃え輝くともしびを置いた。また雨雲から、激しく降り注ぐ水を降らせた。それによって、穀物と草木と、茂った園を出すためである。 (6-16)

まことに裁決の日は、定められた時である。その日、ラッパが吹かれ、あなたがたは群れをなしてやって来る。空は開かれて、いくつもの門となる。山々は動かされて、蜃気楼となる。まことに地獄は、待ち伏せている。あらゆる限度を越える者たちの帰る所であり、かれらは、幾時代もそこにとどまる。そこでかれらは、涼しさも、どんな飲み物も味わわない。ただ煮えたぎる湯と、うみだけである―ふさわしい報いである。かれらは、清算があるとは決して思わず、われらのしるしをまったくの偽りとしていたからである。だがわれらは、すべてのことを書に書き留めている。「だから味わいなさい。われらは、懲罰のほかは、あなたがたに何も増し加えない。」 (17-30)

アッラーを畏れる者たちには、勝利がある。園とぶどう畑、よく釣り合った若々しい伴侶たち、そして満ちあふれる杯である。そこでかれらは、むだ話も偽りも聞かない。あなたの主からの報奨であり、十分に数えられた贈り物である。天と地と、その間にあるすべてのものの主、慈悲あまねき御方からのものである。だれも、かれに語りかける力を持たない―その日、霊と天使たちは、列をなして立つ。慈悲あまねき御方がお許しになり、正しいことを語る者のほかは、だれも語らない。それが、真実の日である。だから望む者は、自分の主のもとへ帰る道を取るがよい。われらは、近い懲罰をあなたがたに警告した。その日、人は、自分の手が先に送った

ものを見る。そして真理を否定した者は言う。「ああ、わたしが土であったならよかったのに。」[53] (31-40)

[53] 知らせ章（アン・ナバア章）：重大な知らせ
知らせ章（アン・ナバア章）：創造、神の帳簿、そして最後にすべてが明かされる日

79. 引き抜くものたち (Al-Nāziʿāt)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

荒々しく引き抜くものたちにかけて。やさしく引き出すものたちにかけて。滑るように速く進むものたちにかけて。先を争って進むものたちにかけて。そして事を取り計らうものたちにかけて。最初の震動がすべてのものを揺るがし、二度目がそれに続く日、その日、心は激しくおののき、目は伏せられる。かれらは言う。「わたしたちは、朽ちた骨となった後でさえ、本当に元の状態に戻されるのか。」かれらは言う。「それなら、それは損な帰還だ。」だがそれは、ただ一度の叫びにすぎない。するとたちまち、かれらは広々とした地の上に出ている。 (1-14)

ムーサーの話は、あなたに届いたか。かれの主が、聖なる谷トゥワーでかれに呼びかけられたとき。「フィルアウンのもとに行きなさい。かれは、あらゆる限度を越えた。そして言いなさい。『あなたには、自分を清めたいという望みがありますか。またわたしが、あなたをあなたの主へと導き、あなたがかれを畏れ敬うようになることを望みますか。』」それからムーサーは、かれに大きなしるしを見せた。だがかれは、それを偽りとし、背いた。それから背を向けて、急いで立ち去った。そして自分の民を集めて布告し、こう言った。「わたしは、おまえたちの最も高い主である。」そこでアッラーは、来世でも現世でも、見せしめとなる懲罰でかれを捕らえられた。まことにこの中には、アッラーを畏れ敬う者への教訓がある。 (15-26)

創るのがより難しいのは、あなたがたか。それとも、かれが築かれた天か。かれは、その天蓋を高く上げて、それを整え、その夜を暗くし、その昼の光を現された。その後で、大地を広げ、そこからその水と牧草を出し、山々を堅く据えられた―あなたがたと、あなたがたの家畜のための糧としてである。やがて、あの大いなる災厄が訪れるとき、その日、人は、自分が努めたすべてのことを思い起こす。そして燃えさかる業火が、見るすべての者の前に現される。そのとき、あらゆる限度を越え、現世の生活を選んだ者については、燃えさかる業火がその住まいとなる。だが自分の主の前に立つことを恐れ、卑しい欲望から魂を抑えた者については、楽園がその住まいとなる。 (27-41)

（預言者よ）かれらは、その時についてあなたに尋ねる。「それは、いつ到来するのか。」だがあなたは、それを語ることと何のかかわりがあろうか。その行き着く果ては、あなたの主のもとにある。あなたは、それを畏れる者への警告者にすぎな

い。かれらがそれを見る日、かれらはまるで、この世に一夕か、その翌朝ほどしかとどまらなかったかのようである。 (42-46)

80. 顔をしかめた (‘Abasa)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

かれは、顔をしかめて背を向けた。目の見えない人が、かれのもとに来たからである。あなたに、どうして分かろうか。その人は、清められたかもしれない。あるいは心に留めて、その訓戒がその人の役に立ったかもしれない。自分は満ち足りていると思う者には、あなたは十分に注意を向ける。その者が清められなくても、それはあなたの責任ではないのに。だが熱心に努めてあなたのもとに来て、アッラーを畏れ敬っている者―その人からは、あなたは気をそらしている。決してそうであってはならない。これは一つの訓戒である。だから望む者は、それを心に留めるがよい。それは、尊ばれた書巻に記されている。高められ、清く保たれ、気高く徳のある書記たちの手によるものである。 (1-16)

人間は滅びよ。かれは、何と真理を否定することか。かれは、何からかれを創られたのか。一滴から、かれを創り、その量を定められた。それから、かれのために道を易しくされた。それから、かれを死なせて墓に納められる。それから、お望みのときに、かれを再びよみがえらせられる。決してそうではない。かれは、命じられたことをまだ果たしていない。人間は、自分の食べ物を見るがよい。われらは、水を豊かに注ぎ、それから大地を幾筋にも裂き、そこに穀物を生い育てた。ぶどうと青草を、オリーブとなつめやしを、木々の茂った園を、果実と牧草を―あなたがたと、あなたがたの家畜のための糧としてである。 (17-32)

やがて、耳をつんざく轟音が訪れるとき、その日、人は自分の兄弟から逃げる。母からも父からも、妻からも子供たちからも逃げる。その日、かれらの一人一人には、自分のことだけで手いっぱいの事がある。その日、ある顔は晴れやかに輝き、笑い、喜んでいる。またその日、ある顔はちりにまみれ、暗闇に覆われている。それらは、真理を否定した、放縦な者たちである。 (33-42)

81. 包み隠す (Al-Takwīr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

太陽が暗闇に包まれるとき。星々が落ちて、その光を失うとき。山々が動かされるとき。身ごもった雌らくだが、世話もされずに放っておかれるとき。野の獣が集められるとき。海が燃え立たされるとき。魂が、その同類と組み合わされるとき。生き埋めにされた女の赤子が、どんな罪のために殺されたのかと尋ねられるとき。書巻が広げられるとき。空がはぎ取られるとき。地獄が燃え上がらされるとき。そして楽園が近づけられるとき―そのとき、どの魂も、自分が何を持って来たかを知る。(1-14)

わたしは、退いて行く惑星にかけて誓う。その道を走り、それから隠れるものにかけて。迫り来る夜にかけて。息づく夜明けにかけて。まことにこれは、気高い使いの言葉である。かれは力を備え、玉座の主のもとで確かな位を持ち、そこで従われ、信頼されている。あなたがたの仲間は、狂ってはいない。かれは確かに、明るい地平にその者を見た。かれは、目に見えないものについて、出し惜しみする者ではない。またこれは、追い払われた悪魔の言葉でもない。(15-25)

それなのに、あなたがたはどこへ行くのか。これは、万有への訓戒にほかならない。あなたがたの中で、まっすぐに歩もうと望む者のためのものである―だが万有の主アッラーが望まれない限り、あなたがたが望むことはない。(26-29)

82. 裂ける (Al-Infiṭār)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

空が引き裂かれるとき。星々が散らされるとき。海があふれ出すとき。墓が掘り返されるとき。そのとき、それぞれの魂は、自分が先に送ったものと、後に残したものを知る。人間よ、何があなたを、寛大なあなたの主について欺いたのか。かれは、あなたを創り、形を整え、釣り合いよく造り、お望みのどんな姿にでもあなたを組み立てられた。決してそうではない。むしろあなたがたは、審判を偽りとしている。だがあなたがたの上には、見張る者たちがいる。気高い書記たちであり、あなたがたの行うことを何でも知っている。本当に善い者たちは、至福の中にいる。放縦な者たちは、燃えさかる火の中にいる。かれらは、審判の日にその中に入り、決してそこから離れることがない。審判の日が何であるかを、何があなたに分からせるであろうか。重ねて、審判の日が何であるかを、何があなたに分からせるであろうか。それは、どの魂も、ほかの魂のために何の力も持たない日である。その日、すべての命令はアッラーのものである。 (1-19)

83. 量りをごまかす者たち (Al-Muṭaffifīn)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

量りをごまかす者たちに災いあれ。かれらは、ほかの人々から量って受け取るときには、十分に求める。だが人々に量って渡し、あるいは計って渡すときには、少なくする。そのような者たちは、自分たちが重大な日のためによみがえらされるとは思わないのか。その日、人々は、万有の主の前に立つのである。 (1-6)

決してそうではない。放縦な者たちの書は、スィッジーンの中にある―スィッジーンが何であるかを、何があなたに分からせるであろうか―それは、書き記された書である。その日、偽りとする者たちに災いあれ。審判の日を偽りとする者たちに。それを偽りとするのは、罪深く、限度を越えるすべての者だけである。その者は、われらのしるしが読み聞かされると、こう言う。「昔の人々の作り話だ。」決してそうではない。むしろ、かれらが稼いできたものが、その心をさびつかせたのである。決してそうではない。その日、かれらは、自分の主から隔てられる。それから、地獄で焼かれる。それからこう言われる。「これが、あなたがたが偽りとしていたものである。」 (7-17)

決してそうではない。本当に善い者たちの書は、イッリッイーンの中にある―イッリッイーンが何であるかを、何があなたに分からせるであろうか―それは、書き記された書であり、アッラーのそば近くに寄せられた者たちが、それに立ち会う。本当に善い者たちは、至福の中にいる。寝いすの上にいて、辺りを眺めている。あなたは、かれらの顔に、至福の輝きを見て取る。かれらは、封をされた清らかな酒を飲まされる。その封は、じゃ香である―競い求める者たちは、そのために競い求めるがよい―それには、タスニームが混ぜられている。そば近くに寄せられた者たちが飲む泉である。 (18-28)

罪を犯した者たちは、信仰した者たちを笑っていた。かれらのそばを通り過ぎるときには、互いに目くばせをした。自分の仲間のもとに帰るときには、ふざけ合いながら帰った。かれらを見ると、こう言った。「この者たちは、確かに迷っている。」―だがその者たちは、かれらの見張り人として遣わされたのではなかった。だから今日は、信仰する者たちが、真理を否定した者たちを笑う。寝いすの上にいて、辺りを眺めながら。真理を否定した者たちは、自分が行っていたことで報いられたであろうか。 (29-36)

84. 割れる (Al-Inshiqāq)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

空が裂けて、その主に聞き従うとき―そうするのが当然である。大地が平らに伸ばされ、その中にあるものを投げ出して空になり、その主に聞き従うとき―そうするのが当然である。人間よ、あなたは、あなたの主に向かって、苦労を重ねて努めている。そしてあなたは、かれに出会う。そのとき、自分の書を右手に渡される者は、易しい清算を受け、喜んで自分の仲間のもとに帰る。だが自分の書を背後から渡される者は、滅びを求めて叫び、燃えさかる火で焼かれる。その者は、自分の仲間の間で、楽しく暮らしていた。そしてアッラーのもとに帰ることは、決してないと思っていた。だがかれの主は、常にかれを見ておられた。わたしは、夕焼けの輝きにかけて誓う。夜と、それが包み込むすべてのものにかけて。満ちて行く月にかけて。あなたがたは必ず、一つの段階から次の段階へと移って行く。 (1-19)

それなのに、かれらはどうしたのか。信じないとは。またクルアーンが読み聞かされても、ひれ伏して崇めないとは。いや、真理を否定する者たちは、それを偽りと呼ぶ。だがアッラーは、かれらが内にため込んでいるものを最もよく知っておられる。だからかれらに、痛ましい懲罰の知らせを伝えなさい―ただし信仰して善行に励む者たちは別である。かれらには、決して尽きることのない報奨がある。 (20-25)

85. 星座 (Al-Burūj)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

そびえ立つ星座を持つ空にかけて。約束された日にかけて。証人と、証言されるものにかけて。あの堀を掘った者たちは滅びよ。燃料を積み上げた火の堀である。かれらは、その周りに座り、自分たちが信者たちにしていることを眺めていた。かれらが信者たちを憎んだのは、ただ、信者たちが、偉力ならびなく、讃えられるべきアッラーを信じたからにすぎない。天と地の支配は、かれのものである。アッラーはすべてのことの証人である。 (1-9)

信仰する男たちと女たちを迫害し、それから悔い改めない者たちには、地獄の懲罰があり、焼かれる懲罰がある。だが信仰して善行に励む者たちには、川が下を流れる楽園がある。それこそ大きな勝利である。まことに、あなたの主の捕らえ方は厳しい。かれこそは、創造を始め、また繰り返される御方である。かれは、よく赦し、愛情深い御方であり、玉座の主、栄光に満ちた御方であり、お望みのことを何でも行われる御方である。軍勢の話は、あなたに届いたか。フィルアウンとサムードの話は。それでも真理を否定する者たちは、それを偽りと呼び続けている。だがアッラーは、背後からかれらを取り囲んでおられる。 (10-20)

いや、これは栄光に満ちたクルアーンであり、守られた板の中に保たれている。[54] (21-22)

[54] クルアーンはなぜ、一つの章に星座の名をつけているのか

86. 夜に訪れるもの (Al-Ṭāriq)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

空と、夜に訪れるものにかけて―夜に訪れるものが何であるかを、何があなたに分からせるであろうか―それは、貫くように輝く星である。その上に見守る者が置かれていない魂は、一つもない。 (1-4)

だから人間は、自分が何から創られたのかを考えるがよい。かれは、ほとばしり出る液から創られた。それは、背骨と肋骨の間から出る。まことにかれには、その者を元に戻すことができる。その日、秘密はあばかれ、その者には、何の力も援助者もない。 (5-10)

繰り返し雨をもたらす空にかけて。草木の芽生えで裂ける大地にかけて。まことにこれは、物事を決する言葉であり、戯れではない。かれらは、たくらみを巡らしている。わたしもまた、計画を巡らしている。だから、真理を否定する者たちに猶予を与えなさい。しばらくの間、かれらをそのままにしておきなさい。 (11-17)

87. 至高の御方 (Al-Aʿlā)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

至高であられるあなたの主の御名を讃えなさい。かれは、創って形を整え、量を定めて導かれた御方である。また牧草を生い出させ、それからそれを、黒ずんだ枯れ草とされる御方である。われらは、あなたに読誦させる。それであなたは、忘れることがない—ただしアッラーが望まれるものは別である。かれは、あらわなものも、隠されたものも知っておられる。われらは、あなたを易しい道へと、たやすく進ませる。だから思い起こさせなさい。思い起こさせることが役に立つなら。アッラーを畏れ敬う者は、心に留める。だが最も不幸な者は、それを避ける—その者は、最も大きな火で焼かれ、そこで死ぬことも生きることもない。自分を清め、自分の主の御名を思い起こして礼拝する者は、確かに成功する。それなのにあなたがたは、現世の生活を選ぶ。来世のほうが、より良く、より長く続くのに。まことにこれは、昔の書巻の中にある。イブラーヒームとムーサーの書巻の中にである。 (1-19)

88. 覆い尽くす出来事 (Al-Ghāshiya)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

すべてを覆い尽くす出来事の話は、あなたに届いたか。その日、ある顔はうなだれ、苦労して疲れ果て、焼けつく火で焼かれ、煮えたぎる泉から飲まされる。かれらには、とげのある苦い草のほかに食べ物がない。それは、身を養うことも、飢えを満たすこともない。またその日、ある顔は輝き、自分の努めに満足して、高い楽園の中にいる。そこでかれらは、むだ話を聞かない。そこには、流れる泉がある。そこには、高く上げられた寝いすがあり、用意して並べられた杯があり、列をなして整えられたしとねがあり、敷き広げられた豊かなじゅうたんがある。かれらは、らくだを見ないのか。それがどのように創られたかを。また空を、それがどのように高く上げられたかを。また山々を、それがどのように堅く据えられたかを。また大地を、それがどのように広げられたかを。 (1-20)

だからかれらに思い起こさせなさい。あなたは、思い起こさせる者にすぎない。あなたは、かれらの見張り人ではない。だが背き去って真理を否定する者を、アッラーは、最も大きな懲罰で罰される。まことに、かれらの帰り着く先は、われらのもとである。それから、かれらの清算は、確かにわれらのもとにある。 (21-26)

89. 夜明け (Al-Fajr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

夜明けにかけて。十の夜にかけて。偶数のものと奇数のものにかけて。過ぎ去って行く夜にかけて―この中には、理解力のある者のための誓いがあるではないか。 (1-5)

あなたは見なかったか。あなたの主が、アードをどのように扱われたかを。高い柱のイラムの人々である。その地のどこにも、それと同じようなものが創られたことはなかった。また谷で岩を切り出したサムードを。また杭の主フィルアウンを。かれらはみな、その地で限度を越え、そこに多くの腐敗を広めた。そこであなたの主は、懲罰のむちをかれらの上に下された。まことにあなたの主は、常に見張っておられる。 (6-14)

人間は、その主がかれを試みて、かれに誉れを与え、恵みを授けられると、こう言う。「わたしの主は、わたしに誉れを与えられた。」だがかれを試みて、その糧を切り詰められると、こう言う。「わたしの主は、わたしを辱められた。」決してそうではない。むしろあなたがたは、孤児を大切にせず、困窮する者に食べさせることを互いに勧めもしない。あなたがたは、遺産をむさぼるように食い尽くし、激しい愛で富を愛している。決してそうではない。大地が打ち砕かれ、さらに打ち砕かれてちりとなるとき、あなたの主が来られ、天使たちが列また列をなして来るとき、そしてその日、地獄が近づけられるとき―その日、人間は思い起こす。だがそのとき、思い起こすことが、かれに何の役に立つであろうか。かれは言う。「ああ、自分の命のために、何か良いものを先に送っておけばよかったのに。」その日、かれが罰されるように罰する者は、だれもいない。かれが縛られるように縛る者も、だれもいない。「安らぎを得た魂よ、あなたの主のもとに帰りなさい。喜び、また喜ばれる者として。わたしのしもべたちの中に入り、わたしの楽園に入りなさい。」 (15-30)

90. 町 (Al-Balad)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

わたしは、この町にかけて誓う―（預言者よ）あなたは、この町で何の束縛も受けない者である―また生む者と、かれが生んだすべての者にかけて。われらは、人間を苦労の中に創った。かれは、だれも自分に対して力を持つことはないと思うのか。かれは言う。「わたしは、莫大な富を使い果たした。」かれは、だれも自分を見なかったと思うのか。われらは、かれのために二つの目と、舌と、二つの唇を造り、二つの大きな道をかれに示したではないか。だがかれは、険しい坂道に挑もうとしなかった。険しい坂道が何であるかを、何があなたに分からせるであろうか。それは、奴隷を解放することである。あるいは飢えの日に、近親の孤児か、土にまみれて横たわる困窮する者に食べさせることである。そのうえで、信仰し、互いに忍耐を勧め合い、互いに思いやりを勧め合う者の一人となることである。これらの者こそ、右手の仲間たちである。だがわれらのしるしを偽りとする者たちは、左手の仲間たちである。かれらの上には、閉じ込める火がある。 (1-20)

91. 太陽 (Al-Shams)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

太陽と、その朝の輝きにかけて。それに続く月にかけて。それを現す昼にかけて。それを覆う夜にかけて。天と、それを築かれた御方にかけて。大地と、それを広げられた御方にかけて。魂と、それに形を与え、その悪行と、アッラーを畏れる心とをそれに示された御方にかけて。それを清める者は、確かに成功する。それを腐敗の中に埋もれさせる者は、確かに失敗する。サムードは、その反逆のゆえに真理を偽りとした。かれらの中で最も不幸な者が、立ち上がったときである。アッラーの使徒は、かれらに言った。「アッラーの雌らくだである―その水を飲む番を守りなさい。」だがかれらは、かれをうそつきと呼び、その足の腱を切った。そこでかれらの主は、その罪のためにかれらを打ち砕き、すべてを平らにされた。かれは、その結果を何も恐れられない。 (1-15)

92. 夜 (Al-Layl)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

覆い隠す夜にかけて。輝き出る昼にかけて。男と女を創られた御方にかけて。まことにあなたがたの努めは、さまざまである。施しをし、アッラーを畏れ、最も良い報奨を真実と認める者については、われらは、その者を易しい道へと、たやすく進ませる。だが物惜しみし、自分は満ち足りていると思い、最も良い報奨を偽りとする者については、われらは、その者を苦しい道へと、たやすく進ませる。その者が落ちて行くとき、その富は何の役にも立たない。 (1-11)

まことに、導きを授けることは、われらの務めである。まことに、来世も現世も、われらのものである。だからわたしは、燃え上がる火をあなたがたに警告する。最も不幸な者のほかは、だれもその中で焼かれない。それは、偽りとして背き去った者である。だがアッラーを最も畏れる者は、そこから遠ざけられる―その者は、自分を清めるために、その富を与える。だれかから受けた恩に報いるためではない。ただ至高であられる自分の主の御顔を求めてのことである。その者は、必ず満足するであろう。 (12-21)

93. 朝の輝き (Al-Ḍuḥā)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

朝の輝きにかけて。静まり返る夜にかけて。あなたの主は、あなたを見捨てられたのではなく、あなたを憎んでおられるのでもない。後に来るものは、あなたにとって、先のものよりも良い。あなたの主は、必ずあなたに授けられ、あなたは満足するであろう。かれは、孤児であったあなたを見いだして、かくまわれたではないか。道を探していたあなたを見いだして、導かれたではないか。乏しかったあなたを見いだして、豊かにされたではないか。 (1-8)

だから孤児については、虐げてはならない。乞う者については、追い払ってはならない。あなたの主の恵みについては、それを語り伝えなさい。 (9-11)

94. 胸を開く (Al-Sharḥ)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

われらは、あなたのために、あなたの胸を開いたではないか。またあなたの背に重くのしかかっていた重荷を、あなたから下ろしたではないか。またあなたの名声を高く上げたではないか。まことに、困難と共に安楽がある。まことに、困難と共に安楽がある。だから手が空いたなら、さらに努め、慕い求めてあなたの主に向かいなさい。 (1-8)

95. いちじく (Al-Tīn)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

いちじくとオリーブにかけて。シナイ山にかけて。この安全な町にかけて。われらは、人間を最も美しい姿に創った。それからわれらは、かれを低い者の中でも最も低い者に引き下げる―ただし信仰して善行に励む者たちは別である。かれらには、決して尽きることのない報奨がある。それでは、この後で、何があなたに審判を偽りとさせるのか。アッラーは、裁く者の中で最も公正な御方ではないか。 (1-8)

96. 付着するもの (Al-ʿAlaq)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

読みなさい。創造されたあなたの主の御名において―かれは、付着するものから人間を創られた。読みなさい。あなたの主は、最も寛大な御方であり、筆によって教えられた御方、人間に、その知らなかったことを教えられた御方である。 (1-5)

それでも人間は、自分が満ち足りていると見るや、たちまちあらゆる限度を越える。まことに、帰り着く先は、あなたの主のもとである。あなたは見たか。アッラーのしもべが礼拝するとき、それを妨げる者を。あなたは考えてみたか。その者が導きの上にいるのか、あるいはアッラーを畏れることを勧めているのかを。あなたは考えてみたか。その者が偽りとして背き去っているのかを。その者は、アッラーが見ておられることを知らないのか。決してそうはならない。もしその者がやめないなら、われらは、その前髪をつかんで引きずる―偽りを語り、罪を犯すその前髪を。それなら、その者に自分の仲間を呼ばせるがよい。われらは、地獄の番人たちを呼ぶ。決してそうではない。その者に従ってはならない。ひれ伏して崇め、近づきなさい。 (6-19)

97. 栄光の夜 (Al-Qadr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

われらは、栄光の夜にこれを下した。栄光の夜が何であるかを、何があなたに分からせるであろうか。栄光の夜は、千の月にもまさる。その夜、天使たちと霊は、かれらの主のお許しによって、すべての命令を携えて下る。夜明けの訪れまで、それは平安である。 (1-5)

98. 明らかな証拠 (Al-Bayyina)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

啓典の民と多神教徒の中で真理を否定した者たちは、明らかな証拠が自分たちのもとに来るまで、やめようとはしなかった。アッラーからの使徒であり、清く保たれた書巻を読誦する者である。その中には、正しく真実な定めがある。啓典を授けられた者たちが分裂したのは、明らかな証拠が自分たちのもとに来た後のことにほかならない。だがかれらは、ただ、純正な信仰の人として、信仰をひたすらアッラーにささげてかれを崇め、礼拝を守り、定めの喜捨をするよう命じられただけである。それこそ、まことに正しい宗教である。啓典の民と多神教徒の中で真理を否定する者たちは、地獄の火の中にいて、そこにとどまる。かれらこそ、すべての被造物の中で最も悪い者である。 (1-6)

信仰して善行に励む者たち―かれらこそ、すべての被造物の中で最も優れた者である。かれらの主のもとでのその報奨は、川が下を流れる、尽きることのない至福の楽園であり、かれらは永遠にそこに住む。アッラーはかれらを喜ばれ、かれらもかれを喜ぶ。これは、自分の主を畏れ敬う者のためのものである。 (7-8)

99. 地震 (Al-Zalzala)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

大地が、その最後の震動で揺り動かされるとき。大地が、その重荷を投げ出すとき。そして人間が、「大地はどうしたのか」と言うとき―その日、大地は、自分の知らせを語る。あなたの主が、それに啓示されたからである。その日、人々は、ばらばらの群れとなって出て来る。自分の行いを見せられるためである。ちり一粒の重さの善を行った者は、それを見る。ちり一粒の重さの悪を行った者も、それを見る。(1-8)

100. 駆ける馬 (Al-ʿĀdiyāt)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

あえぎながら駆ける馬たちにかけて。ひづめで火花を散らすものたちにかけて。夜明けに襲いかかるものたちにかけて。砂ぼこりを巻き上げ、敵の真っただ中に突き入るものたちにかけて。まことに人間は、自分の主に対して恩知らずである。まことにかれ自身が、そのことの証人である。まことにかれは、富を愛することにおいて激しい。 (1-8)

かれは知らないのか。墓の中にあるものが掘り出され、胸の中にあるものが明るみに出されるとき、その日、かれらの主が、かれらのことをすべて知り尽くしておられることを。 (9-11)

101. 打ち砕く災い (Al-Qāriʿa)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

打ち砕く災い。打ち砕く災いとは何か。打ち砕く災いが何であるかを、何があなたに分からせるであろうか。その日、人々は飛び散る蛾のようになり、山々は、梳かれた羊毛の房のようになる。そのとき、そのはかりの重い者は、満ち足りた生活の中にいる。だがそのはかりの軽い者は、深い淵がその母となる―それが何であるかを、何があなたに分からせるであろうか―それは、焼けつく火である。 (1-11)

102. 多さの競い合い (Al-Takāthur)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

もっと多くを得ようと競い合うことが、あなたがたの気をそらしている。あなたがたが墓を訪れるまでである。決してそうではない。あなたがたは、やがて知るであろう。重ねて、決してそうではない。あなたがたは、やがて知るであろう。決してそうではない。あなたがたが、確かな知識によって知っていたなら。あなたがたは必ず、地獄を見る。それから必ず、確かな目でそれを見る。それからその日、あなたがたは必ず、自分が楽しんだ恵みについて問われる。 (1-8)

103. 傾く日 (Al-ʿAṣr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

傾いて行く日にかけて。まことに人間は、損失の中にいる―ただし信仰して善行に励み、互いに真理を勧め合い、互いに忍耐を勧め合う者たちは別である。 (1-3)

104. 中傷する者 (Al-Humaza)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

陰口を言って人を中傷するすべての者に、災いあれ。その者は、富を集めて、それを何度も数える。自分の富が、自分を永遠に生かすと思っている。決してそうはならない。その者は必ず、打ち砕くものの中に投げ込まれる―打ち砕くものが何であるかを、何があなたに分からせるであろうか―それは、たきつけられたアッラーの火であり、心の上にまで立ち昇る。それは、長く伸びた柱の中で、かれらの上に閉ざされる。 (1-9)

105. 象 (Al-Fīl)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

あなたは見なかったか。あなたの主が、象の人々をどのように扱われたかを。かれは、かれらのたくらみを迷わせ、鳥の群れをかれらに送られたではないか。鳥たちは、焼いた粘土の石をかれらに投げつけた。こうしてかれは、かれらを食い荒らされたわらのようにされた。[55] (1-5)

[55] 1517 年のジェッダ包囲戦：ポルトガル、紅海、そして聖なる二都市の防衛
「主よ、この町を安全にしてください」：クルアーン 14:35-41 についての歴史的・神学的注釈―イブラーヒームから 2026 年のマッカ防衛同盟に至る、世紀ごとのマッカ安全史を添えて

106. クライシュ (Quraysh)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

クライシュの安全のために。冬と夏の旅におけるかれらの安全のために―かれらは、この館の主を崇めるがよい。かれは、飢えに対してかれらに食べ物を授け、恐れからかれらを安全にされた御方である。 (1-4)

107. ささやかな親切 (Al-Māʿūn)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

あなたは見たか。審判を偽りとする者を。それは、孤児を突き放し、困窮する者に食べさせることを勧めない者である。だから、礼拝しながら、自分の礼拝に無頓着な者たちに災いあれ。かれらは、人に見せるためにそれを行い、ささやかな親切さえ拒む者たちである。[56] (1-7)

[56] ささやかな親切章（アル・マーウーン章）

108. 豊かさ (Al-Kawthar)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

まことにわれらは、あなたに豊かなものを授けた。だからあなたの主に礼拝し、犠牲をささげなさい。跡を絶たれるのは、あなたを憎む者のほうである。 (1-3)

109. 真理を否定する者たち (Al-Kāfirūn)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

言え、「真理を否定する者たちよ、わたしは、あなたがたが崇めるものを崇めない。あなたがたも、わたしが崇めるものを崇める者ではない。わたしは、あなたがたが崇めてきたものを、決して崇めない。あなたがたも、わたしが崇めるものを、決して崇めない。あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教がある。」[57] (1-6)

[57] クルアーンの二十三年にわたる一点の乱れもない証言：「言え」と神の声

110. 助け (Al-Naṣr)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アッラーの助けと勝利が訪れ、人々が群れをなしてアッラーの宗教に入るのを、あなたが見るとき、あなたの主を讃美して讃え、かれの赦しを請いなさい。かれは、悔悟をよく受け入れられる御方である。 (1-3)

111. なつめやしの繊維 (Al-Masad)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

アブー・ラハブの両手は滅びよ。かれも滅びよ。かれの富も、かれが稼いだすべてのものも、かれの役に立たない。かれは、炎の燃え立つ火で焼かれる。かれの妻もまた、たきぎを運ぶ者であり、その首には、なつめやしの繊維の縄がかかっている。(1-5)

112. 純正な信仰 (Al-Ikhlāṣ)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

言え、「かれはアッラー、唯一の御方である。アッラーは、すべてのものがより頼む、永遠の御方である。かれは生まず、生まれたのでもない。かれに比べられるものは、何もない。」[58] (1-4)

[58] クルアーンの二十三年にわたる一点の乱れもない証言：「言え」と神の声

113. 黎明 (Al-Falaq)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

言え、「わたしは、夜明けの主に守りを求める。かれが創られたものの悪から。深まり行く闇の悪から。結び目に息を吹きかける者たちの悪から。またねたむ者がねたむときの悪から。」[59] (1-5)

[59] クルアーンの二十三年にわたる一点の乱れもない証言：「言え」と神の声

114. 人々 (Al-Nās)

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

言え、「わたしは、人間の主に守りを求める。人間の王、人間の神に。こっそりと退いては、またささやく者の悪から。人間の心の中にささやく者の悪から――ジンであれ、人間であれ。」[60] (1-6)

[60] クルアーンの二十三年にわたる一点の乱れもない証言：「言え」と神の声